

写真集

悪い顔 悪い顔 悪い顔 悪い顔 悪い顔 悪い顔 悪い顔

大本正

目次

お断り 容量が大きすぎるのかPDF更新が出来ないので「悪い顔」を前編と後編に分割したいと
思います。ご了承ください。2019.11.6

目次 「悪い顔 前編」

●まえがき 悪の足跡の追求

●タナトスの一族～カニバリズム、人身御供、アトランティス王国、最終戦争ラグナロク、タ
ングート、西夏、アサシン教団、狼男、チャガタイ・ハン国、タウングー朝、ズルー帝国、ア
フリカ独立運動、ボコ・ハラム

●ダーナ神族（ダナオス）の一族～ディオニュソス、デニエン人、猿田彦、契丹、デーン人、鬼
、酒吞童子、ハーバード大学、ジョージ・ワシントン大統領、アメリカ連合国、統一イタリア
王国、カナダ、ニュージーランド、阿含宗

●アブラハム（ヴァイシュラーヴァナ）の一族～シュメール文明、エフライム族、バアル、アフ
ラマズダー、ゾロアスター教、マケドニア王国、聖徳太子、ピサ共和国、奥州藤原氏、フランシ
スコ・ピサロ、ヴァーサ朝、フィンランド共和国

●預言者ナタンの一族～ラピタ文化、ダン族、ソロモン王、ミディアン人、ストーンヘンジ、
アテーナイ王国、ヒクソス、アマルナ宗教改革、ケント王国、最澄、空海、源氏・平氏、マ
フディー国家

●アッシュール・ダン1世（魔神アスラ）の一族～魔神アスラ、北イスラエル王国、アルメニア
王国、グノーシス主義、非カルケドン派正教会、聖コロンバ、アルシング議会、千家家・北島家
、オルデンプルグ伯爵、アイスランド共和国

●ガリアのドルイド司祭（東本願寺）の一族～アテネ民主制、ローマ執政官、ソピテース、デ
マゴグ、ヘロデ大王、ローマ帝国、フィリキ・エテリア、青年トルコ革命、アルメニア人大
虐殺、クルディスタン労働者党

●聖ドナトゥスの一族～渤海王、ブワイ朝、テンプル騎士団、ジンバブエ王国、ダホメー王国、
ハイチ帝国、黒人地位向上協会、バハーイー教

●ローマ教皇レオ1世の一族～ランゴバルト王国、メロヴィング朝、マズダク教、ウイグル可汗
、浄土教、曹洞宗、ノルマン人、カルマル同盟、出雲大社、コーザ・ノストラ、オーストラリア
、バチカン市国委員会

●ローマ教皇アレクサンドル3世の一族～メリナ王国、カンボジア王国、カリブ族、四季協会、
ゴーストダンス、マウマウ団、ドラヴィダ進歩党、カーゴカルト、パプアニューギニア、クメ

ール・ルージュ

●ローマ教皇インノケンティウス3世の一族～ドイツ騎士団、白蓮教、小西行長と弥助、マラッカ王国、ブルネイ帝国、ベネズエラ共和国、リングトゥ教、呪術師スピキロ、バラク・オバマ、ファン・グアイト

●親鸞の一族～浄土真宗、時宗、一向宗、世界初の精神病院ベドラム、ブルゴーニュ朝・アヴィス朝ポルトガル王国、コンキスタドール、メキシコ帝国

●如信の一族～魔女狩り解禁、異端審問、伊勢大社、カペー朝フランス王、ボルボン朝スペイン王、スペイン共和国

●覚如の一族～紅巾の乱、華僑、百年戦争、殺人集団タギー、琉球王国、アチェ王国、黎朝ベトナム帝国、白蓮教、シンガポール、日清食品、社会民主党、全能神

●善如の一族～倭寇、恭愍王、足利義満、日野富子、三浦倭館、東林党、魏忠賢、フランシス・ドレイク、バッカニア海賊、カタール首長

●綽如の一族～ヴァロワ＝ブルゴーニュ公、ブルボン公、能登守、ハプスブルグ朝スペイン王国、デュポン財閥、ケベック解放戦線

●巧如の一族～ジル・ド・レ、ヴァロワ朝フランス、マルタ騎士団、マラーター族、アフガニスタン王国、オマーン王国、ザンジバル帝国、ソコト帝国、マルタ共和国

●存如の一族～応仁の乱、アラゴン王国、アヴィス朝・ブラガンサ朝ポルトガル王国、ポルトガル共和国、アルバニア共和国、マザー・テレサ、神の愛の宣教者会

●蓮如の一族～スイス連邦参事会、魔女狩り、パッツィ家、ロレーヌ公、一向一揆、秘密委員会、ベルギー王国

●実如の一族～毛利元就、オルデンブルク朝デンマーク、モロッコ王国、フランコ将軍、パレスチナ解放機構、トントンマクート、岸信介、佐藤栄作、安倍晋三、統一協会

●証如の一族～明智光秀、魔女狩り、戦国時代、オランダ王国、近衛家、クウェート王国、イギリス東インド会社、南アフリカ連邦、ジャム・カシミールのムジャヒディーン、湾岸戦争

●顕如の一族～万暦の三征、魔女狩り、オランダ東インド会社、スチュアート朝、老論派、バプティスト教会、メソジスト教会、ヴァンダービルト財閥、パール・ジャム、KORN

●教如の一族～織田信雄、東山天皇、仁孝天皇、孝明天皇、カメハメハ大王、ハワイ王国、トンガ王国、サモア独立国、フィジー共和国、エチオピア連邦民主共和国

●宣如の一族～ハプスブルグ家、ブルボン家、プファルツ朝スウェーデン王、フルベ聖戦、フランス共和国、イスラーム・マグリブ諸国のアル＝カーイダ機構

●琢如の一族～英蘭戦争、マラーター王国、ベンガル太守、アワミ連盟、バングラデシュ、タミル・イーラム解放の虎、ジャマート＝ウル＝ムジャーヒディーン

●常如の一族～後金時代、李氏朝鮮末期、琉球第二尚氏王統、東学党、ゴ・ディン・ジエム、大韓民団、戸塚ヨットスクール、ベトナム社会主義共和国、国民民主党、自由朝鮮

●一如の一族～名誉革命、ジャコバイト、オラニエ＝ナッサウ王家、南アフリカ連邦、オレンジ革命

●真如の一族～イエズス会弾圧、ムガール皇帝、マラーター同盟、ニザーム藩王国、タタ財閥、

デカン・ムジャヒディーン

- 従如の一族～田沼意次、徳川家重、松平定信、井伊直弼、水野忠邦、徳川慶喜、静岡県知事
- 乗如の一族～フランス革命、ベトナム植民地、ブラジル帝国、YMCA、セブンスデー・アドベンチスト教会、国際赤十字社、花粉症、AIDS
- 達如の一族～復古神道、尊皇攘夷、天理教、金光教、神社本庁、日本社会党、講談社、日本会議、ヒカルランド
- 大谷光勝の一族～興宣大院君、明治天皇、ビアフラ共和国、ソンミ村虐殺、コリン・パウエル、コンドリーザ・ライス、トニー・ブレア
- 大谷光榮の一族～大谷大学、大正天皇、昭和天皇、ハインリヒ・ヒムラー、軍産複合体、パフラヴィー朝皇帝、アウグスト・ピノチェト、細川護熙、小泉純一郎、立憲民主党、れいわ新撰組
- 大谷光演の一族～重慶爆撃、CTスキャン、ダライ・ラマ14世、ディズニー・カンパニー、スティーブン・スピルバーグ、ジャニーズ、タイム・ワーナー社、YOUTUBE
- 大谷光暢の一族～ラビア・カーディル、ブルース・リー親子暗殺、地下鉄サリン事件、天安門事件、オウム地下鉄サリン事件、酒鬼薔薇聖斗、雨傘革命
- 大谷暢顕の一族～TV局アナウンサー、宮崎勤事件、足利事件、オウム真理教、神戸連続児童殺傷事件、学級崩壊、大阪池田小児童殺害事件、てるくはのる事件、SEALDs
- 大谷暢裕の一族～「集団ストーカー問題を克服する」、2014香港反中デモ、2014香港反政府デモ、新幹線殺傷事件、2019逃亡犯条例改正案撤回デモ

●あしがき

●奥付

お断り 容量が大きすぎるのかPDF更新が出来ないので「悪い顔」を前編と後編に分割したいと思います。ご了承ください。2019.11.6

◆まえがき 悪の足跡の追求

筆者が発明した「名前を知って歴史を知る方法」は無敵だと信じていた。名前だけですべての謎が解けると考えていた。だが、それでもキッシンジャーの正体は分からなかった。そこでピンときたのが「顔」である。前からラビア・カーディル、田北俊などの悪党は顔が似ているなど考えていた。ただ、それ以上踏み込むことはなかった。

しかし、今年の9月になり、ふと「悪党はみな東西本願寺の一族の子供ではないのか？」という考えに取り付かれた。宇宙人（科学の種族トバルカイン、詳しくは別著「帝王の一族」を参照いただきたい）が直接脳に何かをダウンロードしたようだ。で、筆者はあわてて東西本願寺の一族の顔を精査した。するとどうだろう。名前ではわからなかった悪党たちの正体がすべて見えた。

筆者は武蔵野美術大学造形学部油絵学科を出たが、クロッキーが得意であった。クロッキーとはスケッチやデッサンとは違い、完成された作品とは異なる。作品を作る前の段階で行われる材料集めのようなものである。カメラが無かった頃は、画家はみなクロッキーを山のようにした。さまざまな角度から対象を捉え、何枚も何枚も記録する。そしてそれを材料に絵画制作を行うのだ。

良い絵画を完成させるには対象の印象を的確に捉えたクロッキーがたくさん必要である。筆者はクロッキーが非常に得意で教授にも褒められたものだ。そういうわけで顔を一瞥し、共通する印象を見抜く眼力には自信がある。その結果がこの写真集である（当然、写真はネットから拾ったものである）。

東西本願寺の一族は、子供たちを世界中の権威の席に送り込んでいた。世界中の権威が東西本願寺の一族の子孫であるため、誰も正しいことを言わない。国連機関、マスコミ、医師会、政府、宗教などがすべて東西本願寺の一族の顔をもつ人々で埋め尽くされている。悪を淘汰するには、今いる東西本願寺の一族の子孫を皆殺しにし、更にこれ以上、子孫を増やさないことだ。そのために優性遺伝子ブリーダーの行動を把握する必要もある。

東西本願寺の一族は、優性遺伝子ブリーダーを使っている。1日に3人のタナトスの女を妊娠させるとして、単純計算で年に1000匹、いや、1000人の悪党が生まれているわけだ。代表的な9人の大谷門主だけじゃなく、今までに生まれた東西本願寺の一族の子孫（バラモン、クシ

ヤトリヤ、ヴァイシャ)も毎年子供を生んでいるだろう。これすべてをあわせると毎年東西本願寺の一族の子が世界中に数万人は生まれている計算になる。

その毎年数万の東西本願寺の一族から、ブッシュ政権、クリントン政権、オバマ政権、安倍政権みたいに政治でリーダーになるような人材(不正選挙に頼りきりだが)、宗教界、マスメディア界で頭角を現す人材はほんの数人だ。だが、残りは警察、役場に勤務する地方公務員、電力会社などのインフラ業務に就く。それさえ不可能な個体は、三下から凶悪なヤツまで、残らず有害な犯罪者になる。

その犯罪者の中でも凶悪、異常、かつ強力なのがペドロ・ロペス、張永明などの人喰い連続殺人鬼やバーコウィッツなどのシリアルキラーである。連続殺人鬼はほぼ東西本願寺の一族のできそこないである。ただ、表に出る犯人は少数で、ほとんどは冤罪だ。

テッド・バンディの事件なんかの真犯人はジョージ・W・ブッシュである。前途洋洋の将来が待っていたバンディは突如として逮捕され、冤罪で処刑された。リチャード・ラミレスも、あの捨て台詞を聞くまでは真犯人だと思っていたが違っていた。ラミレスは冤罪のようだ。この区別が難しいところだ。

●優性遺伝子ブリーダーとは

悪の種の輸出の際、新機軸として優性遺伝子ブリーダーが徴用された。彼らは、伊賀忍者、甲賀忍者を前身とし、江戸時代にはお庭番として大奥を管理した陰謀と工作のマスターだ。そして何よりも、政治的信条を持たないことをポリシーとした秘密結社である。金次第。そんな日本発の秘密組織、優性遺伝子ブリーダーを使うことにより「名前が異なる」子供が大量に生産されることになった。これは、悪にとって最大の利点である。

支配層に属する人々、全員が同じ名前なら、それは誰が見ても封建主義だ。だが、支配層に属する人々の名前が全員、異なるなら「封建主義ではない」とうそぶくことが可能になる。

尤も、それ以前にタナトスはできそこないである。できそこないは嫌われ者である。そのため誰にも相手にされない。仲間ができない。頼りになるのは家族だけだ。安倍政権や日本会議も、思想に賛同した人々が集まり、団結しているように見えるが、アレは単に全員が「東西本願寺の一族」という血筋を隠している「家族」である。

安倍政権、そして日本会議。それは、家族しか頼ることができない嫌われ者たちが寄り集まっているゴミ集団に過ぎない。そんな集団にいったい何を期待することができるだろうか?とにかく、彼らが「家族」であるという事実が知られない間は安倍政権も機能するだろう。

●悪の種

海上交通、陸上交通など、世界的な交通手段の発達により、東西本願寺の一族は「悪の種」の輸出を開始した。更に、飛行機が登場すると悪の種の輸出は拍車を増した。東西本願寺の一族による悪の種の輸出は、世界中のタナトス一族からの要請でもあった。凶悪な人喰い人種であったタナトス一族も、現生人類との混血により、悪の才能が枯渇の様相を呈していた。

世界中のタナトスの一族はこれに対して頭を抱えていた。そこで彼らが思いついたのが、邪教・浄土真宗により日本を完全な支配下に置いている東西本願寺の一族の血の導入だ。東西本願寺の一族は、世界中の滅び行くタナトスの一族から一目置かれていた。偉大なタナトスの奥義を継承している唯一の悪の家族と認識され、畏怖、賛美されていたようだ。

第二次世界大戦は日本（西本願寺門主広如の子孫）、ナチス・ドイツ（西本願寺門主寂如の子孫）、イタリア（西本願寺門主大谷光尊の子孫）による善に対する蜂起だったが、正しい人々が勝利し、第二次大戦後はタナトスを見る影もなかった。ただ、ルーズベルト大統領がロックオンしておきながら、暗殺されてしまったために、連合軍は東西本願寺の一族の存在を見逃してしまっていた。これが戦後、すべての悪夢の元凶となった。

顔の査定により、現在、プーチン大統領、習国家主席、トランプ大統領などを攻撃する者はみな東西本願寺の一族の家系であることがわかった。安部晋三だけでなく、安倍政権のメンバーもほとんどが東西本願寺の一族の血筋である。同族会社だ。名前が違うなら封建制度には見えないというに過ぎない。

世界は東西本願寺帝国になりかけていた。それを阻止するのがプーチン大統領、習国家主席、トランプ大統領であるし、これを応援しているのがロウハニ大統領、朴大統領、金委員長、マクロン大統領他、同盟者などである。もちろん宇宙人（科学の種族トバルカイン）もそうだ。みんなイヤなやつが嫌いなのだ。



大谷光勝の一族の特徴は、きつい眉とだぼついた顔である。光勝のあとを継いだ吉田茂は、世界中に悪の種をまき続けた。吉田茂のときに上からつぶされたような人相が遺伝子に加えられた。主にリベリア、アンゴラ、ナイジェリア、ハイチなどの黒人諸国に手を伸ばしている。コリン・パウエルなどの黒人ダン族の有力者や南部バプティスト会議によってアメリカ合衆国を支配している一族だ。



大谷光榮の一族の特徴は、垂れた目じりと眉、長い鼻の下、重そうな鼻と突き出たおでこと顎が無い感じである。軍産複合体の父ヴァネヴァー・ブッシュ、ナチス高官ハインリヒ・ヒムラーを生み、大正天皇、昭和天皇を生んだ一族である。日本ではジ●ニーズ事務所、サ●ミュージック、ホ●プロなどの大手芸能事務所を生み、芸能人を支配下に置いている一族だ。



大谷光演の一族の特徴は、寄った目、狭い顔幅、薄い眉、長い鼻である。日本ではA Cジ●パン、読●グループを筆頭に日本テ●ビ、テ●ビ朝日、T●S、フジテ●ビ、N●Kを支配し、海外

ではデ●ズニー社、タイム・ワ●ナー社などを支配しているメディア一族だ。石原慎太郎、スピルバーグなど、芸能界を牽引する立役者も生まれている。多国籍スパイであるキッシンジャーも大谷光演の息子だ。



ヘンリー・キッシンジャーの一族の特徴は、長い鼻、垂れた眉と目尻である。クロード・ユンケル、フランソワ・オランド、トーマス・イルヴェスに至っては、そっくりを超えてクローンのようだ（影武者か？）。大量殺戮者エフド・オルメルトやシリアルキラーのゾディアック（デヴィッド・バーコウィッツ）、ジェフリー・ダーマー、ニコライ・ズマガリエフなどを生んだ一族だ。イギリス、フランス、リトアニア、EUなど、主にヨーロッパを支配下に置いている。



大谷光暢の一族の特徴は、中央アジア人のような大きくカーブした眉、重そうな鼻、だらしなく垂れた目じり、顎が無い感じである。ウイグル、香港、法輪功などに子供が配置されている。中国を狙う一族だ。



大谷暢頭の一族の特徴は、飛び出た耳、醤油顔である。このすっきりした醤油顔は母方である香

淳皇后の妹・智子の影響だろう。



広如（大谷光澤）の一族の特徴は、自分の遺伝子に取り入れた新見家のすっきりとした綺麗な顔立ちと飛び出た耳である。一族の中にはきれいな顔立ちの持ち主もいるが、内面に抱える暗黒面の導きにより、だんだんと朽ち果てていくようだ。ベトナム、タイ王国などの東南アジア諸国に手を伸ばし、老論派の遺伝子により朝鮮半島にも手をかけている。アメリカにはデヴィッド・ロックフェラー、ジョージ・ソロス、CNNのテッド・ターナーなどを配している。ロックフェラーの子供たちはモンサント社CEOや民主党員としてアメリカ合衆国を支配している。



大谷光尊の一族の特徴は、寄った大きな目、濃い眉毛、長い顔である。盛才世の時に丸顔の遺伝子が加わった。イギリス王室、ロスチャイルド家、テロ組織など、子孫は多岐に渡っている。盛世才の影響で、パキスタン、イラクなど、イスラム圏を支配下に置いている一族だ。



大谷光瑞の一族の特徴は、垂れた眉、だらしなく垂れた目じり、スツとした鼻筋である。赤崎勇のときに丸顔の遺伝子が加えられた。ジョージ・H・W・ブッシュ、ミハイル・ゴルバチョフを生み、冷戦終結を演じさせた。日本会議をはじめとし、バスク祖国と自由、IRA、シナロア・カルテル、法輪功など、犯罪的なテロ組織を運営、組織している一族だ。



大谷光照の一族の特徴は、大きく飛び出た耳、長い鼻の下、重そうな鼻、丸い頭部である。ジョン・E・フランツのときに小さい鼻、丸顔の遺伝子が加えられた。光照は、宇宙人（科学の種族）とタナトス系シベリア人の混血（ユダヤ人）の女に遺伝子を求められた。これにより、宇宙人の科学力とタナトスの悪の血を引くジョン・E・フランツが除草剤を開発し、ラウターバーとマンスフィールドの異母兄弟がMRIなどを開発した。また、最悪の殺人鬼ジョージ・W・ブッシュ（バンディ事件、リッジウェイ事件、911、イラク戦争の真犯人）が生まれている。トランプ大統領に敗北した負け犬ジョン・ポデスタとバラク・オバマの一族だ。



大谷光真の一族の特徴は、ひっぱったような鼻である。マイクロソフト社、グーグル社、2ちゃんねるというインターネット時代を牽引した人脈が生まれた。人間を発狂させるため、タイ王国に遺伝子組み換えのコーンとライスを開発した悪魔ビル・ゲイツを生んだ一族だ。

新・まえがき（ディオナーとクリュティオスの違い）

以前から「タナトス」は、「神統記」にも登場する神々ディオナーとクリュティオスの合体部族だと説いてきた。ディオナー＋クリュティオス＝ディオネティオス＝テオネテオス＝タナトスとなる。だが、研究している内に、彼らはどうやら途中でディオナーとクリュティオスにそれぞれ分かれ、基本的には単独で、そして時にはタナトスの一族として協力し合いながら、悪の活動に従事しているようだ。

今回、タナトス（東本願寺）の血筋はディオナーの一族と規定し、ティールタンカラ（西本願寺）の血筋はクリュティオスの一族と規定し、分けて考えることにした。ディオナーの血筋タナトスの一族は「ダニ」「ダーナ」「デニエン」「ダン」「デーン」など基本的に「ディオナー」が変化した名前を持つ特徴がある。

一方、クリュティオスの血筋ティールタンカラの一族はディオナーの名が変化した「タナ」などの名はほとんど使用しない。これは「ディオナーの一族ではないこと。クリュティオスの一族であること」のアピールだ。代わりに、クリュティオスの一族はディオナーの一族ではないことのアピールとしてTANATOSを反対にしてSOTANATに因んで名前を考えたりしている。例としてサトゥルヌス（SOTA＋ウラヌス）の名前がある。

また、クリュティオスの一族は、クリュティオスの名に因んだデウスなどを名乗るようになった。クロノス、カルヌーテス、クリュニーなどの名もクリュティオスに因んでいる。タナトスとひとことで言っても、名前から彼らがディオナーの一族か、クリュティオスの一族なのかということが分かる仕組みになっている。

ディオナーのタナトスは基本的に魔女狩りの種族であり、クリュティオスのタナトスは人身御供の種族である。タナトスは死神の一族である。そのため、ディオナーのタナトスもクリュティオスのタナトスも由緒ある死神の一族として基本的に羞恥心・罪悪感を極度に欠き、性格的には非常に冷酷・残酷である。

両者とも平気でウソをつき、無慈悲な拷問を行い、丸で余暇の趣味のように人を殺す。そして最大のポイントは、人肉を食べるという特徴がある。死神とは人喰い人種なのだ。現代文明はタナトスの一族に、つまり、人喰い人種が作り上げた偽者の常識・ルールに支配されているが、我々には彼らは見えない。なぜなら、彼らは人喰い人種に見えない装いを常に心掛けているからだ。

ディオナーのタナトスは魔女狩り、異端審問を通して拷問を文化にまで高めた。一方、クリュティオスのタナトスはディオナーのタナトスとは異なり、人身御供を文化にまで高めた。どちらも、人肉を得るために拷問、人身御供を行い、人間を狩る人喰い人種である。我々がたまのご

馳走としてステーキを食べたり、刺身を食べるのと同様に、彼らは子供の肉をたまのご馳走として考えている。

「敵（善）に出来ないことが我々にはできる」として「自分たちは特別だ」という暗示を得るために、彼らは拉致して集めた子供を殺人儀式で殺す。彼らは、子供を笑いながら引き裂き、最終的には食べてしまうという恐ろしい人々だ。その中でも特に恐ろしい人々がマヤの人身御供、アステカの人身御供の神官たちである。彼らはみなクリュティオスのタナトスに属している。一瞥していただければわかることだが、ディオオーネーのタナトスにも、クリュティオスのタナトスにも、これでもかというほど恐ろしい人々が並んでいる。錚々たる悪い顔が並んでいる。特に、陰謀論者が好むナチス、ブッシュとディープステート、そして、ユダヤ、イルミナティ、ロスチャイルド、ロックフェラーはみなクリュティオスのタナトスである。

また、「日本」の名はクリュティオスのタナトスに属するサトゥルヌスの一族アッティラが命名したと考えられる。まず日本は最初にニホンではなく、イルポンと呼ばれた。イルポンの由来はアッティラとフンの組み合わせである。アッティラ+フン=イラフン=イルポンとなる。その後、朝鮮語イルポンに「日本」と漢字が当て字された。そういうわけで、日本はサタンの国なのだ。

◆新しい解説2019.10.20

①弱い人間の価値（タナトスの力=数の力）

集団ストーカーというものは、浄土真宗&曹洞宗信者をフル動員（日本全国の信者数、併せて2000万人）することで可能になる。集団ストーカーは、信者が大勢いることでタナトスが振るう基本的な数の力のひとつである。本願寺の人々とは弱い人間の価値に気付いた人々である。弱い人間の価値とは、弱い人間は脅せば何でも言うことを聞くこと、弱い人間は自分の生活と生命が最優先事項であること、そして非常に数が多いことである。この弱い人間の価値が、そのまま集団ストーカーに活かされている。

ちょっと考えれば分かると思うが、集団ストーカーのような非人道な行為、個人に対する人権蹂躪を指令する人間は、集団ストーカー加害者の人権さえ何とも思わないものだ。つまり、集団ストーカー加害者に対する金銭の授与はありえない。良く言ってボランティア、悪く言って奴隷である。なぜ金ももらわずに他人に嫌がらせが出来るのか？なぜ浄土真宗&曹洞宗信者が集団ストーカーを行うのか？その答えは彼らが弱いからだ。そして本願寺が怖いからだ。本願寺の命令を聞かなければ、逆に自分が集団ストーカーされる。今、目の前で自分が赤の他人にしたことをもし自分がされたら？そう思うと怖くて怖くて仕方がないのだ。つまり、彼らは集団ストーカーの命令を無視することはない。これも弱い人間の価値である。人類の発展には全く寄与していないが、すべては、弱い人間に利用価値があることを認めた本願寺の先見の明だといえよう（バカとハサミは使いようの語源）。

集団ストーカーとは、量VS質の戦いでもある。どんなにバカでも、どんなに弱くても、そんなできそこないがたくさん集まるだけで優れた人間、強い人間にも勝てる。この発想が集団ストーカーの根幹にある。一向一揆も同様である。一揆とは、大勢の農民を訓練された武士にぶつけることである。この場合、武士一人につき、10人ほどの武装した農民を相手にしなければならなくなる。数で圧倒することで、武士の厳しい鍛錬、高い戦闘技術を反故にするのだ。ウソもひとりにつけばただのウソでしかないが、大勢でウソをつけばそれは真実となる。量で圧倒することが、できそこないであるタナトスの一族の勝利の法則だ。また、弱い人間は口も堅い。強いから口が堅いのではなく、弱いから口が堅いのだ。斯様に、タナトスの一族が編み出したすべての手法に、弱い人間の価値が息づいている。

東西本願寺の正体は死神タナトスであるが、タナトスは史上初の人喰い人種であり、すべての悪の父である。歴史上、すべての悪党はタナトスに通ずる。現代では、すべての悪党は本願寺に通ずるのだ。タナトスはおよそ30万年前に生まれたが、彼らは極度に罪悪感が欠如した状態で生

まれるため、平気でウソをつき、笑いながら人を殺し、喜んで幼児を陵辱・殺害し、嬉々として人肉を食べるといった異常な本能を得た。我々とは似て非なる、異なる人類だと言っても過言ではない。ディープステート、安倍総統や怪物モンサントもタナトスの一族である。彼らは名前の違う家族を動員して秘密結社を作る。安倍政権も日本会議もできそこない家族の寄り合いでしかない。安倍総統は日本では敵なしだが、外国では総スカンを喰らっている。家の中では無敵だが、外に出たらみそっかすでしかない。丸でひきこもりと同じだ。その安倍政権が先だっただけのフェイクニュース（ひきこもりの通り魔事件）で散々「ひきこもりは悪だ」と、ひきこもりの印象の悪化に務めていたが、これは最早お笑いだとしかいいようがない。

ところで、集団ストーカーとひとことで言ってもやり方は被害者の数だけある。また、生活環境、立地条件の数だけあると言っても過言ではない。集団ストーカーとは、基本的には日常の所作、音を武器化することである。日常の所作、音を武器化するには最先端機器による被害者の完全監視が必須だ。この完全監視が欠けていたなら、日常の所作、音を武器化することはできない。自殺が毎年3万人を超えるようになった1998年頃から、本願寺は家族である三菱重工が製作したスーパーコンピューター、人工衛星、光通信システム、レーザー透視装置、レーザー盗聴機、レーザーセンサーを連携させ、新しい技術を導入した集団ストーカーを始めた（毎年3万人の自殺はこれが原因だ）。

筆者の例をひとつ挙げるが、例えばウチの台所は隣家の駐車場に隣接している。本願寺（ウチの地元は曹洞宗の縄張りだが）はこの立地条件を活かし、おれが台所に立つと隣家の住人が偶然を模して車で帰宅し、思い切り車のドアを閉めるということを繰り返させている。俺の動きに合わせて音を出すことは、上記の最先端技術システムにより可能である。更に、第三者からみれば住人が車で帰宅したに過ぎない。これが日常の所作、音の武器化の利点であり、集団ストーカーの醍醐味(?)である。

見える部分での認識は、「住人が帰宅した」というに過ぎない。が、集団ストーカー的な視点で見れば、見えていない部分が非常に重要となる（見えていないからこそ加害者は容易に否定ができる）。台所に立つ時間は限られているわけだが、その時間帯になると隣家の住人はイチイチ車でウチの近辺に待機し、AIが「あいつが台所に立った」ということをレーザー骨伝導音声送信で住人に伝えることで住人はそそくさと帰宅し、台所にいる俺に対する威嚇として思いきり車のドアを閉めるわけだ。

非常にくだらないことだが、これを毎日、毎回繰り返すことによりドアの音を武器化するのが。被害者も人によってはブチキれて近隣住民（邪教信者）に襲い掛かり、一方的に悪者扱いされて警察（仏教の用心棒）に逮捕されたり、精神病院に収容されることもある（それがタナトスの目的である。陰謀の特徴、それは「結果がじつは目的だった」ということだ）。たまに子どもの騒音にキレて事件を起こす人がいるが、彼らも本願寺の悪意の被害者である。

通常の人なら「イチイチ待機するやつなんているわけない」となるが、邪教信者にとってこの世で一番怖いのは本願寺である。そういうわけで、待機することは苦ではないのだ（実質、奴隷と

呼ばれていないだけの奴隷だから、顔を見ると辛そうな顔をしていることもあるがw)。集団ストーカー要員の最大待機時間は30分ほどだろう。ただ、それでも苦痛なようで、丸でなかなか来ないバスを待つ人のような顔、校長先生のつまらない話を聞いている中学生のような顔をした集団ストーカー要員を良く見かける。

集団ストーカーを否定する者（おおかた本願寺の者だが）は東西本願寺に悪意がないことを証明しなければならない。個人を完全に監視する技術はあるのだから技術面の否定は不可能である。

弱い人間Q & A

Q イヤガラセのために待機するようなそんな暇なやついないと思うが

A 弱い人間は人生通してほぼヒマだが、もしヒマがなくても弱い人間は怖い人間に脅されれば無理してでもヒマを作る。

Q 他人に嫌がらせしろと言われてイヤガラセをする人間なんかいるわけない

A 弱い人間は、相手が怖い人間であれば何でも命令を聞く。生活の安定と保障を求めて悪に服従するのだ。

Q 金ももらわずにそんなことするやついるわけない

A 弱い人間は、相手が怖い人間なら何ももらわなくても何でもやる。逆に、怖い人間に全財産をくれてやることもある（お布施）。

②対人恐怖の解説（人類にとって有益な人間の人工淘汰）

タナトスの一族は、極度に罪悪感を欠いた状態で生まれる。これは、誰にも好かれない彼らが、性欲処理のためだけに家族と近親相姦を1000年間続けたために生じた。30万年前のことである。罪悪感を欠いた人間はどのように人類独特の知能を用いてきただろうか？その詳細は、「悪い顔」を見てもらうとして、ここではタナトスの秘儀、対人恐怖作戦（強い敵の弱体化）について考えたい。タナトスは、我々人類と同じ姿をしていながら、丸で我々とは異なる人類のように、さも、昆虫や動物を観察するように我々人類を研究した。この観察によりタナトスは、どんなに強い人間だろうと心を攻めればその強い人間を弱体化できること、そして、罪悪感が強ければ強いほど、強い敵を思い通りに操作できることを覚えた。過去には、預言者ナタンがダヴィデ王に強い罪悪感を植え付けて思い通りに操作した。できそこないが真の王を操作するのだ。これは極めて反自然的な事象である。

これは人類で最初にナタンがやったことだが、人為的に罪悪感を育てるには、まず、敵を悪者扱いすることである。敵を暴力行為や破壊行為に導くこと。この誤誘導には、そのときと場合によっていろいろな方法が考えられる。そして、作られた罪を不特定多数で責め続けること（信者が多ければ容易なことだ）。これにより、敵は何もしなくても「あ、すいません、すいません」と

謝るようになる。日本ではこのような状態を対人恐怖と呼ぶ。何もしていないのに謝るのは、罪悪感が大きい証拠である。どんな強い人間も対人恐怖になると、思い通りに操ることができる。タナトスはそれを知った。タナトスは見えない心を知覚するということを人類で最初に成し遂げた一族だが、その発想から得られたすべての成果は悪用されている。ダヴィデ王も対人恐怖だったわけだ。

対人恐怖を分かりやすく説明するために、犬嫌いの例を挙げたい。まず、犬嫌いというものは、概して犬に噛まれることで生じる。これにより、被害者は犬嫌いになることが多い。しかし、注目したいことがある。それは、噛んだ犬、或いは噛んだ犬種のみを嫌いになるのなら納得できる。だが、犬嫌いはすべての犬を嫌いになる。子犬も例外ではない。これはなぜだろう？結局、犬嫌いとは意志の問題ではなく、本能の領域の問題なのだ。犬に噛まれれば、「犬は危険だ」という経験に基づく認識が本能に刻まれる。その結果、犬であればなんでも嫌悪を抱くようになるのだ。本能の領域で設定された認識は一旦生まれれば覆すことは出来ない。タナトスは本能の持つメカニズムを悪用しているのかもしれない。対人恐怖は、いうなれば人間に傷つけられたことで、人間は危険だという認識が本能の領域で生じた結果である。

この対人恐怖にはタナトスにとって大きな利点がある。タナトスの敵である強い人物、優れた人物がどんなに人に好かれていても、対人恐怖になれば、その強い人物は自らが人を遠ざけようとする。或いは人から遠ざかろうとする。つまり、タナトスは強い敵に近づいてくる人間をいちいち排除する必要がない。つまり、対人恐怖は魅力的な人間、才能がある人間、優れた人間に限定される。それ以外の人間（魅力のない人間、優れていない人間）が対人恐怖になることは決してない。優れた人間は、できそこないの王タナトスの永遠の敵なのだ。

とにかく、罪悪感は哺乳類ならどんな動物でも持っている。犬どころか、猫でさえ罪悪感はある。ネットを検索していると、猫が大好物を盗み食いしようとして奮闘している動画を見つけた。当初、猫は飼い主が隠し撮りしていることを知らずにいたが、ふと隠し撮りに気付くと振り向きざま、凝固してしまう。そして全身で「ご、ごめんなさい」と謝意を表している。猫が固まったのは罪悪感がある証拠に他ならない。そして、猫よりも高等な犬も当然のように罪悪感がある。間違えて俺に吠えた犬は、「あ、すいません」という顔で申し訳なさそうにすることがある。これも罪悪感がある証拠だ。犬や猫でさえ罪悪感はあるのに、タナトスの一族には丸で罪悪感がない。この事実はどういう風に解釈すればよいだろう？すべては愛のない性欲処理目的の近親相姦に通じる。

どんな動物（特に哺乳類）も、近親相姦は是が非でも避けようとする。それは、動物たちが本能の領域で、罪悪感を持たない個体の誕生が悲壮な結末をもたらすことを知っているからではないだろうか？罪悪感を持たない個体は、種（しゅ）を絶滅に導くのだ。人類の場合、種（しゅ）を絶滅に導くものがタナトスなのだ。タナトスを生まないためには、愛のない快楽が目的のセック

スは厳禁とすることだ。一番良いのは女性がセックスの主導権を握ることだ。女性が喜ぶセックスはすべて正解である。一方、男が主導するセックスはすべてではないが、不正解が多い。

③なぜタナトスは生まれたか？（滅ぶべき人類 既に30万年前に審判は下っている）

タナトスの誕生。それは、地球が人類に対して「最後の審判」を下したイベントだったとすることができる。タナトスが極度に罪悪感を欠き、人肉を食べるのは、人類の天敵として地球に選ばれたからだ。なぜなら、この時点で人類の個体数は飽和状態に達していたのだ。壊れた自然界のバランスを補正するには個体数の減少しかありえない。人類に天敵が必要になった。それがタナトスだった。知能が発達した人類の天敵は、同じ人類以外ありえなかったのだ。このタナトスの誕生は最初の「最後の審判」だった。しかし、地球の思惑をよそに、知能を持った人類は簡単には滅ぶことはなかった。通常、知能を持たない動物の場合、できそこないは自然に滅びる。これを淘汰と呼ぶが、人類の場合は、知能によって人工的に淘汰を免れるのだ。人類に於いては自然淘汰の機能が無効化されているのだ（特にタナトスの場合）。

人類は1000万年前～400万年まで水棲霊長類として生きた。その後、30万年前に最初の「最後の審判」となるタナトスが生まれる。タナトスが生まれるまでの970万年間は、人類にとって真に幸福な時代だったといえる。それ以後人類が不幸なのは、人類が既に地球によって最後の審判を下されている滅ぶべき種（しゅ）からだ。

タナトスの次に登場したのが宇宙人（科学の種族トバルカイン）である。宇宙人が第2の「最後の審判」である。彼らはその優れた知能により、科学の道に邁進し、すべての物質を分子の次元で操る技術を開発した。UFO、テレポーテーションなどもこの技術に関連して生まれたと考えられる。それ以前に、約2万年前に宇宙人は核兵器を開発しているが、これが第2の「最後の審判」だったとすることができる。核兵器は地球の意志で生まれたのだ。核兵器の発想が宇宙人の脳内で生まれたということは、その時点で人類は滅びなければならなかった。聖書の発想は、できそこないは滅びなければならぬという発想の途上で生まれた。

タナトスが出現した時代、地球上の人口は数百万ほどだったと考えられる。たった数百万人でさえ地球上に於いては人類は飽和状態であり、人類は滅ぶべきだと地球は判断したのだ。トバルカインが出現した時も数千万程度だったと考えられる。タナトスとトバルカインの誕生した際には、地球は人類を殺すことで人口を減らそうと試みていた。だが、俺が生まれた時代は人類は30億を超えていた。このような状況に至るにあたり、地球は人類を殺すのではなく、子供を生ませないことで人類を減らそうという発想にスイッチしたようだ。

人類は年中発情している。子供を生むための性を快樂として捉えている。これは人類が滅ぶべき種だという証拠である。虚言、殺人、犯罪、同性愛、強姦、近親相姦、幼児性的虐待。これらの現象も、人類が滅ぶべき種族である印である。正しい人口にまで減少すれば、人類は一年中発情することもなく、人類の歴史から虚言、殺人、同性愛、強姦、近親相姦、幼児性的虐待、そしてタナトスなどの自然に反するモノはすべて消えてなくなる。全地球で数千万～1億人ほどにまで

減ればOKだろうか？そこらへんは不明である。

④数の力（集団ストーカーは白血球）

仏教がでかい動物なら、オレは動物の身体に侵入したウィルスで、集団ストーカーに従事する信者たちは白血球だと仮定することが出来る。どうりで死ぬことも厭わない。なんつっても白血球だからなw

9月6日現在、香港ではまだデモをやっているという。「無能なヤツばかりなのに、人が多いだけでここまで出来るんだ」と、アニキたちは驚いていることだろう。香港デモは中米移民キャラバン、一向一揆、十字軍、ケルト人の聖なる移住と同じだ。数で優れた人々を圧倒し、数で優れた頭脳、数で強い力、数で鍛えられた精神を反故にする。そのための大量の人員である。修練と鍛錬の毎日に明け暮れる百戦錬磨の宮本武蔵でさえ、力も勇気も知恵もない農民が100人がかりで襲ってくれば鍛えた技のひとつも披露することが出来ず、戦う前に殺されてしまう。いや、武蔵ほどの豪傑なら農民の10人くらいは斬るだろう。だが、あとは残りの90人にやられてしまう。ただ、武蔵が負けるのは弱いからではない。単なる物理の法則が機能しているに過ぎない。しかし、死が負けであるなら間違いなく負けなのだろう。

今、香港で起きていることはまさにそれだ。いにしへの聖なる移住（ウェルサクレム）、十字軍、一向一揆の再来だ。数で圧倒する際の信者たちの特徴として2点を挙げたい。ひとつは、信者たちがばらばらだということだ。香港デモに参加している法輪功信者たちをよく観察すると、休憩中は信者たちひとりひとりが距離をとり離れ離れになって、芝生などに座り込んでいる。まるで花火大会の観客だ（しかもひとりで見に来ている童貞が多い花火大会）。これは法輪功が信者の団結を防止するために信者ひとりひとりに「信者同士仲良くするな」と脅しをかけているのだ。浄土真宗でも同じことをしている。まったく矛盾している風景だ。あんなにたくさんの人々が同じ志の下に集まっているはずなのに、お互いはすべからず赤の他人でしかなく、完全に孤立している。

ふたつめは、信者たちが誰も警察を恐れていないことである。一向一揆でも無知で勇気も力もない農民たちが、日本刀を手にした戦い慣れた武士たちに向かっていった。聖なる移住では、ケルト人の農民がローマ軍の大部隊に向かっていったし、キャラバンでも中米の民衆が近代的装備をしたアメリカ軍を恐れずに行動している。別の例では、カペー朝ルイ7世の一族に属する神官が北アメリカではウォヴォカと称し、スー族に「ゴースト・シャツ」なるものを手渡し、「これを着ていれば弾丸を通さない」とウソをつき、無理にアメリカ軍と戦わせた。同様に、ングワレを称したジョンはタンザニアでも同じようにマトウンビ族をだました。彼らは、ただの水を持ち出してきて「この薬用の水（マジ）を飲めば撃たれても死なない」とウソをつき、タンザニア人をだまして近代装備で固めたドイツ陸軍と戦わせた。ニュージーランドではマオリ族を指揮し「ハバ、ハバ、パイマリレ、ハウ」と叫びながら大英帝国陸軍に突進させた。彼らは手を高く上げ、手のひらを前に向けて前進した。そうすれば銃弾を避けられると教えられたのだ。しかし、そ

これは「ゴーストシャツ」や「マジ（薬用の水）」同様、ただのウソである。

このように、香港デモ、キャラバン、一向一揆、聖なる移住同様、ゴーストダンス、マジマジ、パイマリレのいずれの事例でも信者たちは自分よりも強い武装した敵を恐れていない。これはつまり、弱い人間（農民、民衆）と怖い人間（タナトス）の組み合わせが何をもたらしているのか。それを考えることが最大のポイントである。弱い人間たちはタナトスに逆らえば生きてまま引き裂かれることを恐れている。弱い人間たちはタナトスが虐殺を楽しむ人々だということを知っているのだ。だが、ダヴィデの一族はタナトスのことを知らない。それならばタナトスの命令を聞かないのは損ではないか？ということだ（タナトスは強い人間の前では猫を被り、弱い人間の前では安心して残忍な正体を見せる）。強い王はタナトスよりも強い、しかも理由も泣く人を殺すことはない。しかし、タナトスは強い王よりも弱い、すぐに人を殺す。楽しんで人を殺す。そういうわけで、弱い人間はすぐに殺さない強い王よりも、すぐに殺す残忍な犯罪者の方に耳を貸すのだ。その弱さゆえに。

また、タナトスは直接手を下すことをせず、たくさんの信者（民衆）に離反者を無視するように脅すことがある。結局、タナトスの命令を聞いてレベルは低くても安泰に暮らすか、それとも、タナトスに逆らって友人に無視されて野垂れ死にするかという選択を、誰にも見られないところで弱い人間は迫られている。そして弱い人間は、生きてまま引き裂かれたり、友人に無視されて孤独死するよりも、警官や軍隊と戦う方を選ぶのだ。このような心情は強い人間には分からない。黒澤明、橋本忍が述べているように他人の気持ちを知るには他人の立場を考えるべきなのだ。黒澤、橋本は映画「悪いやつほどよく眠る」の中で「悪を憎むのは難しいよ。憎しみを掻き立てて自分自身があくにならないといけない」と述べている。タナトスは人権、民主主義を悪用し、「おれたちにはフェイクメディアがついているので中国政府がお前らを殺すことはない。安心して暴れる。もし何かされたら民主主義を守れ、暴力反対と叫べ」と、指導しているのだ。そう指揮することにより、困ったことに、デモ参加者は実際には、単に犯罪者の脅しに屈服している無力な人間にもかかわらず、第三者的な目線では、デモに参加している信者たちは暴力を恐れない勇敢な人々に見えてしまう（タナトスは常に第三者の目を意識している）。さらに、タナトスは敵の罪悪感を刺激することに長けている。さらに、タナトスは「警察が強制的に排除しようとしたらいじめられているふりをして泣け、触ろうとしたらイヤな顔をして叫べ。そうすればやつらはひるむ」と指導している。そう。タナトスは人類史上初の罪悪感を発見した人々であり、罪悪感が人生の足かせであることを見抜いた。そしてその発見を悪用し、敵をひるませるために使用しているわけだ。

香港デモは、実質的には東西本願寺による香港侵略の試みである。中国は、「法輪功が中国侵略を目的に大量の信者を脅して操っている。背けば友人、家族、同僚に無視されるのだ。邪教から信者たちを救うために法輪功の李氏を逮捕し、法輪功から大量の信者を貸与してもらっているウソつきの民主デモ指導者も全員逮捕する」ということにして、ディープステートみたいにすぐに

皆殺しにすべきだ。指導者が皆殺しになれば、信者たちはウソのように動かなくなる。頭を失った体が動かないのと同じだ。勇猛果敢、稀代なる英雄織田信長さえも、こんな簡単なことがわからなかった。デモに参加している信者たちは民主運動なんかどうでもいいと思っている。ただ、本願寺に逆らうと友達がいなくなるので、民主派が正義で中国は悪だと信じている芝居をしているに過ぎない。ロシアやベネズエラでも民衆のデモは起きたが、数が少ないので何とかならなかった。しかし、そこはさすが人口が世界最大の国。いくらでも人が出てくる。いくらでもデモ要員を補充できる。この数の恐ろしさ。恐怖を感じるほどの人の多さだ。それが本願寺の狙いだ。プーチン大統領、トランプ大統領などの優れた人々にはこんなこけおどしは全く必要ないが、できそこないのタナトスの血を引く香港民主派の連中は、こけおどしが必要だ。そのために大勢の奴隷を引き連れている。そうでないと見栄えさえ悪いものだ。できそこないのタナトスにとって、数は威嚇だ。多ければ多いほど強いし、だが少なければ少ないほど弱くなる。タナトスとはそういう不思議な生き物なのだ。

ひょっとして中国政府に裏切り者がいるから、法輪功みたいな正義を気取った無法集団が好き勝手できるのかもしれない。或いは隠れ法輪功信者が政府内にいる。奇妙なことに日本の陰謀論者には中国政府が中国児童の誘拐に手を染めていると述べる人がたまにいるのだが、そんなわけがない。やっているのは法輪功、ウイグル、チベット仏教だ。早く本願寺門主を殺せばいいのに。9/5の電車事故で示された暗号によればもう死んでるかもしれないけどw 断言は出来ない。又カ悦びはダメージ強いからな。死んだと思ってたのに、じつは生きてると知ってこんながっかりするやつらいないよw

⑤陰謀の一族タナトス（敵を作れ、悪を作れ）

タナトスは悪を欲する。しかしタナトス以上の悪はいない。であるから悪は作らねばならない。温暖化は悪を作る装置である。宗教の自由によって異端という発想が消滅し、冷戦終結によって共産主義という敵が消滅した今、新たな敵を作るためにタナトスは温暖化という敵を作る装置の製作に着手した。ちょうど冷戦終結の翌年、1992年である。タナトスは温暖化問題などに興味はないし、環境を保護しなくてもいいことを知っている。その上でウソをついているのだ。敵に「ウソつくな！」と喋ってほしいのだ。かつての十字軍、異端審問（魔女狩り）がそうであったように。要は、タナトスが所持している世界中の大量の信者（数億人）を脅して自分たちのウソを信じるフリをさせる。それだけで「温暖化は正しい」という印象・常識が完成する。これにより、温暖化問題を改善しようとするタナトスは善となる。少なくとも頭の弱い連中にはそう見える。それが最大の問題点なのだが。そうなれば、温暖化に反対を唱える者を悪に変えることが出来るのだ。十字軍・異端審問（魔女狩り）の頃は、キリスト教に反対する者を異端としてすぐに殺したし、共産主義を敵に規定していた時代もアメリカでは赤狩りが起きたが、今では殺さずにフェイクメディアを用いて社会的地位を貶めるに留まっている。

とはいえ、温暖化十字軍という敵を作る装置は主としてメディア、企業、消費者を標的にしてい

る装置であり、支配層・国家間で幅を利かせている敵を作る最大の装置はやはり民主主義である。アメリカ民主党（damnocrudz）みたいなバカの集団があからさまに凶悪犯罪に手を染めながら民主主義、民主主義とバカの一つ覚えのようにわめくのは自分たちこそが民主主義の番人だという印象がほしいからだ。尤も、彼らが民主主義の番人に見えるのであればそれは頭が悪い証拠でしかない。それでも民主党が民主主義、民主主義を繰り返すのは数の力（全世界で信者数億人）を信じているからだ。それだけだ。あのようなできそこないにはそれ以外ない。彼らは、全世界数億人の信者を所持している。その事実のみを盾に民主主義の砦を演じ、例えばトランプ大統領が民主党を批判した場合「大統領は我々民主党を批判しているのではなく民主主義を否定している！」として攻撃するわけだ。要は世界はバカが多い。そのバカどもがフェイクメディアを通じて「自分たちのウソを信じれば勝つ」ということだ。

しかし、最近では全世界的に温暖化に疑念を持つ人が増え、その対策に耳を傾ける人が減少しているため、タナトスは新たにプラスチックゴミ問題を取り上げている。例えば、死んだ鯨の胃から大量のプラスチックが見つかったetc。バカか。鯨は哺乳類だから人や犬と同様に異物が口に入れば吐くだろ。その鯨は死ぬまでプラスチックを食い続けたのか？このようにプラスチック問題はあからさまなウソでしかない。要は、プラスチックゴミ問題は温暖化と同じで敵を作る装置なのだ。プラスチック問題に取り組めば善であり、「そんなのはウソっぱちだ」と言えば悪となる。プラスチック問題も温暖化と同様にタナトスを善に規定し、敵（悪）を作るための装置でしかない。しかし、そのプラスチックゴミは温暖化に比べてセンセーショナルな響きに欠け、話題性に乏しいためか、タナトスは想いを新たにグレタという将来有望な嘘つきを先頭に立たせて温暖化問題の復活に再起をかけている。タナトスを善に変え、敵を悪に規定する装置の復活をかけて！

このように、タナトスは所持している大量の信者（世界で約数億人）を脅すことで、悪も善も作ることが出来る。みそっかすも人気者も作ることが出来る。香港デモも、自分たちのウソを正しく見せるために大量の信者が動員されている。数が多い＝正しい。つまりタナトスが支配する世の中では、数が少ない方が正しいということになる。香港デモに参加している信者たちは、香港人ではなく、隣のシンセン市からやってきている。シンセンの法輪功信者である。シンセン市長がどうも法輪功信者、或いはタナトスであるため、法輪功の指示に従っているようだ。しかも、香港政府長官もタナトスの可能性がある（正体は台湾の総統か？）。彼女が香港政府を敗北に導いているため、デモ隊に勝てない。敵が味方であるならどんな局面でも負けることはないということだ。日本でも自民党よりも、野党のほうがタナトスの比率は高い。立憲民主党、国民民主党、共産党、社会民主党、れいわ新撰組も党首はみなタナトスだ。イギリス野党の首領コービン氏もタナトスの可能性が高い。猿芝居なのだ。セルフ猿回しなのだ。猿が自分で自分を回すのだ。これなら、例え自民党が全員知恵遅れでも野党に負けるわけがない。敵が負けてくれるのだから。中国には古来から仏教信者（タナトスの家畜）が多い。そのため、数が多ければ勝つという法則に乗っ取って考えるタナトスは「自分たちが負けることはない」と考えているようだ。

⑥虚言の一族タナトス（気持ちいいウソ）

気持ちいいウソはタナトスの最大の武器だ。タナトスには罪悪感がない。つまり、ウソをつく時もトーンにブレがないし、気持ちにも一切の揺るぎがない。聞く相手は気持ちいいのだ。まさかウソをついているなどとはついぞ思わないのだ。普通の人間ならウソをつく時、トーンはブレまくり、気持ちは地震のように揺らぎ、視線は泳ぎまくる。タナトスにそんなことはない。タナトスがウソをつく時、人々は母親の子守唄を聞く如き心地よさに酔いしれる。タナトスのウソは悪魔の甘い囁きと呼んでよかろう。頭の悪い人間なら、イチコロでタナトスに騙されること請け合いだ。タナトスのウソを信じる人々はタナトスがウソをついているとは思わないし、タナトスのウソを批判するものを敵視するという弊害も生む（バカであることも悪なワケだ）。ただ、タナトスのウソも、悪魔の甘い囁きなどではなく、安倍総統のように単なる精神病にしか見えないことがある。あからさまなでたらめを、さも道案内をする親切な人のように、一点の曇りもない顔で自信満々で述べることから、精神病に見えるというわけだ。

そう、タナトスの一族はみな、基本的には精神病だ。世間話をするようにウソをつき、笑いながら人を殺すことが出来るからだ。すべては罪悪感の欠如に起因している。罪悪感がない人間に罪を認めさせ、反省させることは不可能だ。狼や虎に殺すことは悪いことだと説き伏せることが出来ないのと同様である。罪悪感がない彼らが生む悪は本能だ。彼らを止めるには命を奪うこと。首を獲ること。絶命させること。タマとること。殺すしかない。

結局、タナトスは足が生えたゴミであり、自分の足でゴミ捨て場には行かず、逆にゴミ捨て場から逃走することしかできない。タナトスにとっての足は逃げるため足だ。罪悪感がないという利点（普通の人々っては悪徳）だけで頭の弱い人間を丸め込み、人喰い人種であることを盾に脅しをかけて力の弱い人間をラジコンのように操ることしかできない。バカだから弱い人間しか操れない。プーチン大統領、トランプ大統領のような英雄、ジョン・レノン、アントニオ二、小津、黒澤のような優れた芸術家、そしてオレのような世界最高の顔を持つ男や超科学の番人である宇宙人（トバルカイン）を操れるようになったら褒めてやる。それこそがおまえらにとっての進化であるべきだ。だが、いつまでたってもできそこないにはそれができない。死ぬまで好きなだけたくさんバカを操ってゴキゲンでいればいいじゃないか。

⑦カースト制度の一族タナトス（独自の階級制度 カースト制度）

カースト制度はタナトスの一族の中で機能しているヒエラルキーシステムである。最高位がバラモン（僧侶）であり、その次の高位がクシャトリア（貴族）、その下にヴァイシャ（平民）がいる。タナトスの一族はここまでである。ヴァイシャ以下のスードラ（奴隷）はタナトスの一族以外の人々（邪教信者）であり、バリア（不可触卑民）は集団ストーカー被害者のように優れた資質を持つ者である。優れている者は少ない。つまり、数で勝る劣っている者を邪教の信者とし

て指揮し、集団で優れた者を無視すれば優れた者に勝てる。これが集団ストーカーの機能・本質である。つまり、タナトスにとっての異分子排除が集団ストーカー指揮の目的・動機である。集団ストーカーの指揮権はバラモンだけが有するのであり、それ以下の階級では扱うことは許されない。そのため、安倍（クシャトリヤ）がどんなに嫌がっていても俺の声は常に（生放送中）彼に聞こえている。TV局ディレクター（ヴァイシャ）も俺の声を停止する権限はない。俺の声を聴くことを停止する権限は本願寺門主だけが有しているのだ。

分かりやすく説明すると、並み居る悪徳バラモンの中でもバラモンの王と呼べるのは唯一東西本願寺門主だけである。現在のタナトスの王は大谷暢裕先生、大谷光淳先生である。この事実については世界中のタナトス一族に異論はない。クシャトリヤは分かりやすく言えば貴族、王族、政治家である。しかし先進国に於いては現在、王室はタナトスの巢でしかなく、それほど強い権限はないようだ。ただ、カタル、オマーン、クウェート、バーレーン、モロッコ、ブルネイ、タイ、カンボジアなどの王国では王族が強い力を持つというケースもある。大統領、首相級の元首から、果ては各企業のCEO、エリート官僚（警視總監、最高裁判官など）、各種権威（教授、専門家）、高級医療従事者までがクシャトリヤとなる。主なクシャトリヤにはキッシンジャー、ヒトラー、安倍総統、ポロシェンコ、そしてブッシュ、クリントン、オバマなどのディープステートが含まれる。ヴァイシャは平民であるが信者を指揮する権限はない。だが、バラモンの命によって大量の信者たちに守られている。2ちゃんの西村博之、カンニング竹山、バナナマンなどが代表的なヴァイシャの指導者だ。また、ヴァイシャは地域規模ながら、世界中で頭領のように振舞っていることがある。役所職員、警察官、消防員、電気会社職員などもタナトスの平民、ヴァイシャである。香港デモの場合、現場で信者たちを直接監視・指揮しているのもヴァイシャである。クシャトリヤ以上の階級が現場に赴くことはない。カーストは厳しいものだ。

集団ストーカーに従事するのはスードラ（邪教信者）である。スードラはもともと奴隷の意味だが、その通り、集団ストーカー加害者は間違いなく奴隷である。ただ、俺に言わせてもらえば、現在の信者は骨伝導音声送信技術、レーザーセンサー、人工衛星、AIの技術向上により、もはや奴隷というよりは道具（ラジコン）にまで堕ちている。どんな奴隷でも一応は人間だからな。あいつらはもはや人間でさえない。スードラはバラモン、クシャトリヤのためなら何でもする。このスードラが集団ストーカーで現場に従事し、過去には魔女狩り、異端審問で大きな役割を果たしてきた。無能な安倍政権支持も、消しゴムみたいなグレッタ・トゥーンベリの支持も、通りすがりゲイ人の人気爆発も、資源の無駄でしかないベストセラーもスードラの存在があってこそだ。スードラがいなければタナトスには何も成し遂げることは出来ない。大量のスードラがバラモンのたわごとを脳に記憶し、自身の発言や行動として何度も反復させることで、タナトスはウソを真実に変えてきた。真実を作ってきた。そう。真実とは、人気者であれ、敵であれ、常識であれ、歴史であれ、すべて作られてきたものだ。タナトスにとって信者の数は発言力の強度である。信者の減少は発言力の無力化を示す。しかしタナトスはそのところは心配していない。信者は弱い人間だからだ。信者は、弱いからこそ完全に服従し、弱いからこそ裏切らない。檻の

扉が開いていたら犬でも猫でもゴキブリでも逃げるがそれでも信者は逃げない。まさに理想的な僕（しもべ）だ。弱い人間には、善悪の判断基準は装備されていない。そこにあるのは怖いかな？怖くないかな？今死ぬのか？後で死ぬのか？という弱い人間特有の判断基準である。信者に自身の意志はない。

集団ストーカー被害者はバリヤ（不可触卑民）に規定されるが、実際には人生に於いての勝利者である。あらゆる面で優れているからだ。だがタナトスは、その勝利者を多数の信者（スードラ）を用いて無視し、敗北者であるというウソを強制的に規定することで、タナトスが作り上げてきた社会システムから排除する。優れたものが排除されることで、できそこないであるタナトスに、大統領からTVの人気者まで、あらゆる席が用意されることになるのだ。優れている人間は、他者に優れていると認定される必要はない。誰にも認められなくとも優れている事実は揺らぐことはないのだ。だが、できそこないは常に他者に優れていると認定されることが不可欠である。そうしなければ優れていることが誰にも分からないのだ。と、いうことは優れていないのだがw

悪の巢～タナトスは王族に巢を作る

◆悪の巢（タナトスは王族、貴族に巢を作る）

- タナトスの一族～ズルー帝国の王族
- ダーナ神族（ダナオス）の一族～サヴォイアの王族
- アブラハム（ヴァイシュラーヴァナ）の一族～会津松平家、フィンランド大統領の一族
- 預言者ナタンの一族～ブガンダ王国の王族
- アッシュール・ダン1世（魔神アスラ）の一族～オルデンプルグ伯爵、アイスランド大統領の一族
- ガリアのドルイド司祭（東本願寺）の一族～ヴェッティン家、ザクセン＝コーブルク＝ゴータ家の一族
- 聖ドナトゥスの一族～ハイチ帝国の王族、リベリア大統領の一族
- ローマ教皇レオ1世の一族～シチリア王国の王族、マフィアの一族
- ローマ教皇アレクサンドル3世の一族～カンボジア王国の王族
- ローマ教皇インノケンティウス3世の一族～ブルネイ帝国の王族
- 親鸞の一族～スペイン・アプスブルゴ家、スペイン・ボルボーン家の一族
- 如信の一族～ボルボーン朝スペイン王の一族
- 覚如の一族～黎朝ベトナム帝国の王族
- 善如の一族～カタール首長の一族
- 綽如の一族～ケベック・カナダ総督の一族、デュポン財閥の一族
- 巧如の一族～アフガニスタン王国、オマーン王国の王族
- 存如の一族～ブラガンサ朝ポルトガル王国の王族
- 蓮如の一族～ベルギー王国の王族
- 実如の一族～モロッコ王国の王族、統一協会の一族
- 証如の一族～クウェート王国の王族
- 顕如の一族～ラッセル伯爵の一族、ヴァンダービルト財閥の一族
- 教如の一族～ハワイ王国、トンガ王国の王族
- 宣如の一族～ブルボン朝ルイ17世の一族、フランス大統領の一族
- 琢如の一族～ベンガル太守の一族、バングラデシュ大統領ムジブル・ラフマンの一族
- 常如の一族～琉球第二尚氏王統の一族、李氏朝鮮の王族
- 一如の一族～オラニエ＝ナッサウ王家
- 真如の一族～ムガル皇帝の一族
- 従如の一族～徳川慶喜の一族
- 乗如の一族～ブラジル皇帝の一族
- 達如の一族～賀陽宮邦憲王の一族

- 大谷光勝の一族～興宣大院君の一族、明治天皇の一族
 - 大谷光榮の一族～大正天皇、昭和天皇の一族
 - 大谷光演の一族～ディズニーファミリーの一族
 - 大谷光暢の一族～十一代市川團十郎の一族、榊原病院の一族
 - 大谷暢頭(トウ)の一族～大谷光演、大谷光暢の一族
 - 大谷暢裕(ユウ)の一族～リチャード・ロックフェラーの一族
-
- ティールタンカラ(仏陀)の一族～ルクセンブルク、リヒテンシュタイン、モナコの王族
 - デウスの一族～マッラ朝ネパール王、ジョグジャカルタ・スルターンの一族
 - サトゥルヌスの一族～住友家、三井家、クウェーカーの一族
 - 大宛のドルイド司祭(西本願寺)の一族～林本源の一族、ジョホールの王族
 - クリュニー大主教ベルノの一族～ルワンダ王国の王族
 - クリュニー大主教アイマールの一族～聖フランチェスコ会の一族、イタリア首相の一族
 - 王安石の一族～総持寺祖院初代門主の一族、ブルンジ王国、バーレーン王国、イエメンの王族
 - 今川国氏の一族～モルダヴィア公の王族
 - 准如の一族～ベルナドッテ朝スウェーデン王の一族
 - 良如の一族～保科正之の一族、前田吉徳(徳川吉宗)の一族、オックスフォード＝アスキス伯爵の一族
 - 寂如の一族～ロシア大公の一族、バイエルン・ギリシアの王族
 - 住如の一族～黒住教、ビン＝ラディン・グループの一族
 - 湛如の一族～チャックリー王家、ネパールの王族
 - 法如の一族～ロスチャイルド財閥の一族、ロックフェラー財閥の一族
 - 文如の一族～九条道前の一族、ソールズベリー侯爵の一族
 - 本如の一族～セルビア公・ユーゴスラビアの王族、ムスリム同胞団の一族
 - 広如の一族～長州藩藩主毛利斉元の一族
 - ネルソン・ロックフェラーの一族～ロスチャイルド・パリ家の一族
 - デヴィッド・ロックフェラーの一族
 - 大谷光尊の一族～ウィンザー朝イギリス王室の一族
 - 大谷光瑞の一族～マンチェスター侯爵、アスター財閥の一族
 - 大谷光照の一族～第3代サウジアラビア王ファイサル(ファハド)の一族
 - 大谷光真の一族～リヒテンシュタイン公フランツ・ヨーゼフ2世の一族
 - 大谷光淳の一族～リヒテンシュタイン公ハンス・アダム2世の一族
 - ユダヤ人(1731)の一族～ハザール帝国、バイエルン公、ザクセン王の一族
 - ユダヤ人(1908)の一族～ガージャール朝の王族

真日本正史～日本はサタンの国

真日本正史～日本はサタンの国

日本の国土はBC35世紀頃に初めてタナトスに侵された。それ以来、日本の歴史はタナトスの一族が作ってきた。イスラエル王国時代（縄文時代後期）、古墳時代、大和時代、飛鳥時代、奈良時代、平安時代、鎌倉時代、室町時代、どの時代もその例に漏れない。天皇もほぼタナトスの一族が即位してきた。だが、戦国時代にオスマン・トルコ皇帝スレイマン1世が来訪し、宇佐美定満に変身して織田信長、豊臣秀吉、徳川家康を生み、タナトスとの死闘が繰り広げられた。それが戦国時代の正体である。

スレイマン1世の一族は善戦し、天下統一を果たした。だが、残念ながら、彼らはおおまかに「仏教は邪教だ」という認識くらいしかなく、敵が誰なのかハッキリとは認識できなかった。タナトスの存在を知らなかったし、本願寺門主がタナトスの王だということも知らなかった。そういうわけで、江戸時代も徳川家光以降の将軍職は暗躍していた東西本願寺門主（顕如、良如、従如）の一族によってすべてタナトスに篡奪され、見せ掛けの平和の下で正しい心を持つ民は苦しい生活を余儀なくされた（タナトスに服従していた人々は優遇された）。

しかし、徳川家光の子孫である愛新覚羅の一族は度あるごとに清を発進して日本に侵入し、苦しむ善良な日本人を解放するべく、天皇を仮想敵に見立て、天皇制の破壊などを試みていた。清の皇帝である乾隆帝は竹内敬持に変身し、子の嘉慶帝は竹内主計に変身して「宝暦事件」などを起こした。

その結果、愛新覚羅の一族は戦国時代以来となる悪との戦いとして、「明治維新」を準備する。吉田松陰、大久保利通、勝海舟、西郷隆盛、木戸孝允、福沢諭吉、坂本龍馬、岡田以蔵、高杉晋作、出口なお、出口王仁三郎などの人々はみな道光帝の一族であり、愛新覚羅の一族である。だが、彼らは敵の正体を知らなかった。あまつさえ、同盟者として敵である本願寺の一族と組む始末である（山県有朋、大隈重信、伊藤博文、板垣退助、明治天皇など）。

また、逆に本願寺の一族は愛新覚羅の一族の正体を知っていた。全てを見抜かれていた愛新覚羅の一族は本願寺の一族に明治維新のお株を篡奪された。浄土真宗を弾圧するにつくき敵、薩摩藩討伐のために、長州藩（本願寺門主実如の一族、西本願寺門主広如の一族）が仕組んだ薩長同盟もその一環だ。

吉田松陰も、坂本龍馬も、西郷隆盛も本願寺の一族に殺されてしまった。そのため、明治時代も大正時代も、昭和も戦前まではタナトスに掌握され続けた。ただ第二次大戦後、連合軍のおかげで、戦後は愛新覚羅の一族が政治家、芸術家、エンターテイナー（小説、映画、漫画、音楽、格闘技）として正しい日本人のために尽力することができた。みなさんが好きな日本とはこの時代の日本のことだろう。

戦後すぐも、吉田茂や岸信介、佐藤栄作などのタナトスが首相に就任しているものの、愛新覚羅の一族からは鳩山一郎、田中角栄などが輩出され、正しい日本人のために働いた。しかし、角栄はキッシンジャー（西本願寺門主法如の一族、ネルソン・ロックフェラーの一族）の陰謀によってつぶされ、細川護熙（東本願寺門主大谷光榮の一族）と村山富市（東本願寺門主達如の一族）などのタナトスのあとに首相に就任した小淵、橋本などの正しい首相は殺された。

鳩山一郎の周囲も東西本願寺の一族で固められていた。鳩山威一郎（西本願寺門主広如の一族）、鳩山安子・鳩山由紀夫・鳩山邦夫（西本願寺門主湛如の一族、ネパール王の一族）である。橋本以降の森首相（東本願寺門主大谷光演の一族）から安倍首相（本願寺門主実如の一族、モロッコ王の一族）に至るまでの内閣総理大臣は、不幸なことに全員が漏れなくタナトスの一族である。

まず、「日本」の名は5世紀頃、クリュティオスのタナトスに属するサトゥルヌスの一族アッティラが命名したと考えられる。まず日本は最初にニホンではなく、朝鮮語で「イルポン」と呼ばれた。イルポンの由来はアッティラとフンの組み合わせである。アッティラ+フン=イラフン=イルポンとなる。その後、朝鮮語イルポンに「日本」と漢字が当て字された。そういうわけで、日本はサタンの国なのだ。

BC 35世紀頃 能登（ディオオーネーのタナトス 預言者ナタンの一族）

※日本にタナトスの一族が始めて上陸した。現在、能登に住む人間はほぼ預言者ナタンの子孫だと考えられる。

BC 139年頃 ミシャグチ（ディオオーネーのタナトス ダーナ神族の一族）

BC 38年 高句麗瑠璃明王、百済温祚王（クリュティオスのタナトス サトゥルヌスの一族）

※高句麗王、百済王が日本に神道、神社、鳥居をもたらした。弱い人間を脅して邪教信者として所有し、異分子排除、性奴隷、人肉供給を目的に人身御供を主催した。鳥居、神社があるところはBC 38年当時から人身御供の儀式が秘密裏に催されている。

4世紀頃 百済契王（クリュティオスのタナトス サトゥルヌスの一族）

※百済王が日本に狐様、稻荷神社をもたらした。シベリア系で目が細い彼らは日本人に狐と呼ばれ、子女をさらって性奴隷にしたり食べたりしていた。いなりずしは生贄（人肉）の名残りである。

5世紀頃 鬼（ディオナーのタナトス ダーナ神族の一族）

※西アフリカ人の姿をした鬼（イフェの神官オニ）は、5世紀頃から平安時代に至るまで、日本人を狩り、食べていた。

406年 百濟毘有王、アッティラ（クリュティオスのタナトス サトゥルヌスの一族）

※百濟王（アッティラ）が「日本」の名前を初めて日本の国土にもたらした。

450年 継体天皇（クリュティオスのタナトス ティールタンカラの一族）

※天皇は1万2千年前に獣人の一族たちが中国大陸で設けた王位だが、権威が必要なタナトスは天皇の皇位を篡奪し、日本に天皇制をもたらした。

506年 蘇我稲目（ディオナーのタナトス アブラハムの一族）

※蘇我稲目が日本に邪教仏教をもたらした。

509年 欽明天皇（クリュティオスのタナトス ティールタンカラの一族）

538年 敏達天皇（クリュティオスのタナトス ティールタンカラの一族）

574年 聖徳太子（ディオナーのタナトス アブラハムの一族）

※聖徳太子は日本に邪教仏教を根付かせた。これにより、日本人は従順な家畜として飼われることになった。

614年 中臣鎌足、蘇我入鹿（クリュティオスのタナトス ティールタンカラの一族）

626年 天智天皇、中大兄皇子（クリュティオスのタナトス ティールタンカラの一族）

659年 藤原不比等、太安万侶、大生部多、大伴安麻呂、草壁皇子、大伴旅人（クリュティオスのタナトス ティールタンカラの一族）

※藤原不比等の子たちは富士山付近で「常世の神」なる芋虫を祀るカルトを設け、人々から金品を巻き上げていた。だが、常世の神は秦河勝によって皆殺しにされた。

727年 坂上苜田麻呂（クリュティオスのタナトス サトゥルヌスの一族）

※日本に人身御供の儀式を強要し、九頭龍崇拜をもたらした。苜田麻呂の子たちは芦ノ湖で人身御供を主催していたが、修験者「万巻」によって皆殺しにされた。

737年 桓武天皇（ディオナーのタナトス 預言者ナタンの一族）

758年 坂上田村麻呂、藤原内麻呂（クリュティオスのタナトス サトゥルヌスの一族）

※藤原内麻呂（坂上田村麻呂）の子たちはマヤに移住し、人身御供の神官として多くのマヤ人を殺害した。

766年 最澄（ディオナーのタナトス 預言者ナタンの一族）

※最澄の正体は桓武天皇の娘多治比真宗だった。最澄は日本に天台宗・天台密教をもたらした。

774年 空海（ディオナーのタナトス 預言者ナタンの一族）

※空海の正体は桓武天皇の子平城天皇だった。彼は日本に真言宗・真言密教をもたらした。

788年 藤原愛発、坂上広野、アテルイ（クリュティオスのタナトス サトゥルヌスの一族）

※坂上田村麻呂（藤原内麻呂）の子がアテルイに変身し、弟のモレと共に蝦夷を支配した。

792年 藤原大津、坂上正野、モレ（クリュティオスのタナトス サトゥルヌスの一族）

804年 平高棟（ディオナーのタナトス 預言者ナタンの一族）

※平氏の祖。

823年 源融（ディオナーのタナトス 預言者ナタンの一族）

※源氏の祖。

966年 藤原道長、花山天皇（クリュティオスのタナトス ティールタンカラの一族）

※平安時代の王、藤原道長の正体は花山天皇だった。

A D 1 0 世紀 千家孝宗、北島貞孝（ディオナーのタナトス 預言者ナタンの一族）

※出雲国造を設けた。

1 0 5 3 年 白河天皇（クリュテイオスのタナトス ティールタンカラの一族）

1 0 5 6 年 藤原清衡（ディオナーのタナトス アブラハムの一族）

※奥州藤原氏の祖。

1 1 0 3 年 鳥羽天皇（クリュテイオスのタナトス ティールタンカラの一族）

1 1 2 5 年 後白河天皇（クリュテイオスのタナトス ティールタンカラの一族）

1 1 3 8 年 北条時政（クリュテイオスのタナトス クリュニー大主教アイマールの一族）

1 2 世紀 土肥実平（クリュテイオスのタナトス クリュニー大主教ベルノの一族）

1 1 4 9 年 源頼朝、比企能員、梶原景時（ディオナーのタナトス 預言者ナタンの一族）

※頼朝は、土肥実平などの力を借りて鎌倉幕府を開いた。比企能員、梶原景時の正体は頼朝だった。

1 1 5 7 年 北条政子（クリュテイオスのタナトス クリュニー大主教アイマールの一族）

※源頼朝を討ち、鎌倉幕府を篡奪した。

1 1 5 9 年 源義経（ディオナーのタナトス アブラハムの一族）

※頼朝は、義経の正体を奥州藤原氏（アブラハムの一族）と知っていたので敵対していた。

1 1 7 0 年 長宗我部能俊（クリュテイオスのタナトス クリュニー大主教ベルノの一族）

1 1 7 3 年 親鸞（ディオナーのタナトス 親鸞の一族）

※親鸞は日本に邪教の中の邪教浄土真宗をもたらした。

1200年 道元（クリュティオスのタナトス 王安石の一族）

※道元は日本に曹洞宗をもたらした。

1235年 如信（ディオナーのタナトス 如信の一族）

1243年 今川国氏（クリュティオスのタナトス 王安石の一族）

1270年 覚如（ディオナーのタナトス 覚如の一族）

1288年 後醍醐天皇（クリュティオスのタナトス デウスの一族）

1305年 足利尊氏（クリュティオスのタナトス サトゥルヌスの一族）

※室町幕府を開いた。

1333年 善如（ディオナーのタナトス 善如の一族）

1350年 綽如（ディオナーのタナトス 綽如の一族）

1358年 足利義満（ディオナーのタナトス 善如の一族）

1363年 尼子高久（クリュティオスのタナトス 今川国氏の一族）

1376年 巧如（ディオナーのタナトス 巧如の一族）

1396年 存如（ディオナーのタナトス 存如の一族）

1415年 蓮如（ディオナーのタナトス 蓮如の一族）

1432年 北条早雲（クリュティオスのタナトス 今川国氏の一族）

※北条早雲の正体は串刺し公ヴラド・ツェペシュだった。

1458年 実如（ディオナーのタナトス 実如の一族）

1497年 毛利元就（ディオナーのタナトス 実如の一族）

15世紀頃 村上備中入道（クリュテオスのタナトス デウスの一族）

※村上水軍の祖。

1513年 今川氏輝、北条氏康、尼子晴久（クリュテオスのタナトス 今川国氏の一族）

1516年 証如（ディオナーのタナトス 証如の一族）

1519年 今川義元、象耳泉奘（クリュテオスのタナトス 今川国氏の一族）

1521年 武田信玄（ディオナーのタナトス 証如の一族）

1528年 明智光秀（ディオナーのタナトス 証如の一族）

1539年 長宗我部元親（クリュテオスのタナトス クリュニー大主教ベルノの一族）

1543年 顕如（ディオナーのタナトス 顕如の一族）

1546年 李鱗、李元翼、三井高俊（クリュテオスのタナトス サトゥルヌスの一族）

※三井財閥の祖。

1558年 小西行長、弥助（ディオナーのタナトス ローマ教皇インノケンティウス3世の一族）

1558年 教如、織田信雄（ディオナーのタナトス 教如の一族）

※教如は、織田信長包囲網の要として信長の子信雄に変身して至近距離から信長を監視していた。

1565年 本多正純（ディオナーのタナトス 顕如の一族）

※本多は言いがかりでしかない「国家安泰」の言葉を口実に豊臣家を悪者扱いし、滅亡させた。

1577年 准如（クリュテイオスのタナトス 准如の一族）

1578年 後桃園天皇（ディオナーのタナトス 教如の一族）

※後桃園天皇は、カメハメハ大王に変身してキャプテン・クックを惨殺した。

1579年 徳川秀忠（ディオナーのタナトス 顕如の一族）

1582年 小早川秀秋（クリュテイオスのタナトス 准如の一族）

※関が原の合戦では西軍を裏切り、壊滅に追い込んだ。

1585年 住友政友（クリュテイオスのタナトス サトゥルヌスの一族）

※住友財閥の祖。

1602年 宣如（ディオナーのタナトス 宣如の一族）

1612年 良如、保科正之（クリュテイオスのタナトス 良如の一族）

※西本願寺の一族は家老として江戸時代を仕切った。

1622年 真如（ディオナーのタナトス 真如の一族）

1625年 琢如（ディオナーのタナトス 琢如の一族）

1633年 中山勘解由（クリュテイオスのタナトス 良如の一族）

※火付け盗賊改めとして善人やつわものに濡れ衣を着せて排除するために尽力した。

1641年 常如（ディオナーのタナトス 常如の一族）

1646年 徳川綱吉、隆光（クリュテイオスのタナトス 良如の一族）

※悪法の極みつけ「生類憐みの令」を設けて、善人やつわものに濡れ衣を着せて排除した。

1649年 一如（ディオナーのタナトス 一如の一族）

1651年 寂如（クリュテイオスのタナトス 寂如の一族）

1673年 住如（クリュテイオスのタナトス 住如の一族）

1684年 徳川吉宗（クリュテイオスのタナトス 良如の一族）

1707年 法如（クリュテイオスのタナトス 法如の一族）

1716年 湛如（クリュテイオスのタナトス 湛如の一族）

1720年 従如、田沼意次（ディオナーのタナトス 従如の一族）

※本願寺は、安倍政権下の現在のように、奴隷である日本人の管理のために、弱体化を推し進めることがある。田沼意次も安倍と同じことを江戸末期に実行した。

1728年 平賀源内（クリュテイオスのタナトス ユダヤ人1731の一族）

1733年 杉田玄白（クリュテイオスのタナトス ユダヤ人1731の一族）

1744年 乗如（ディオナーのタナトス 乗如の一族）

1744年 文如（クリュテイオスのタナトス 文如の一族）

1778年 本如（クリュテイオスのタナトス 本如の一族）

1780年 黒住宗忠（クリュテイオスのタナトス 住如の一族）

※黒住教を設けた。

1780年 達如、平田篤胤（ディオナーのタナトス 達如の一族）

※古神道を体系化し、「日本会議」の礎を築いた。

1793年 渡辺崋山（クリュテイオスのタナトス ユダヤ人1731の一族）

1798年 広如（クリュテイオスのタナトス 広如の一族）

1804年 高野長英（クリュテイオスのタナトス ユダヤ人1731の一族）

1817年 大谷光勝（ディオナーのタナトス 大谷光勝の一族）

1831年 孝明天皇（ディオナーのタナトス 教如の一族）

1835年 土方歳三（ディオナーのタナトス アブラハムの一族）

1835年 岩崎弥太郎、後藤象二郎、井上馨、松方正義（クリュテイオスのタナトス クリ
ュニー大主教ベルノの一族）

※三菱財閥の祖。

1837年 徳川慶喜（ディオナーのタナトス 従如の一族）

1837年 板垣退助（ディオナーのタナトス 常如の一族）

※明治維新のお株を愛新覚羅の一族から奪った。

1838年 島地黙雷、大隈重信、山縣有朋、三条実美、赤松連城、伊藤博文（クリュテイオス
のタナトス 広如の一族）

※明治維新のお株を愛新覚羅の一族から奪った。

1850年 大谷光尊（クリュテイオスのタナトス 大谷光尊の一族）

1852年 明治天皇（ディオナーのタナトス 大谷光勝の一族）

※明治維新のお株を愛新覚羅の一族から奪った。

1852年 大谷光榮（ディオナーのタナトス 大谷光榮の一族）

1862年 新渡戸稲造（クリュテイオスのタナトス 広如の一族）

1871年 御木徳一、中野與之助（クリュテイオスのタナトス 湛如の一族）

※御木はパーフェクトリバティー教団を設立、中野は三五教を設立した。

1875年 大谷光演（ディオナーのタナトス 大谷光演の一族）

1876年 大谷光瑞（クリュテイオスのタナトス 大谷光瑞の一族）

1878年 吉田茂（ディオナーのタナトス 大谷光勝の一族）

1879年 大正天皇（ディオナーのタナトス 大谷光榮の一族）

1882年 岡田茂吉（クリュテイオスのタナトス 湛如の一族）

1884年 東条英機、汪兆銘（クリュテイオスのタナトス 広如の一族）

1887年 中野友禮（クリュテイオスのタナトス ユダヤ人1731の一族）

1889年 井上成美（ディオナーのタナトス 大谷光演の一族）

※重慶爆撃を実行した大量殺人犯。

1891年 近衛文麿（ディオナーのタナトス 大谷光榮の一族）

※国民総動員法施行を隠すために津山30人殺しを指揮した。

1892年 石井四郎（クリュテイオスのタナトス 広如の一族）

※731部隊を率いてロシア人、アメリカ人捕虜や中国人、朝鮮人の民間人をさらい、人体実験で惨殺した。

1892年 久保角太郎（クリュテイオスのタナトス 湛如の一族）

※タイ王国の王族である久保は、日本に霊友会を設立した。

1894年 篠田鏖、北野政次、大塚武三郎、石原広一郎（クリュテイオスのタナトス ユダヤ人1731の一族）

※登戸研究所、大塚製薬、石原産業は家族である。

1896年 岸信介（ディオナーのタナトス 実如の一族）

1897年 岩畔豪雄（クリュテイオスのタナトス ユダヤ人1731の一族）

1900年 佐原忠次郎、岡野正道、戸田城聖（クリュテイオスのタナトス 湛如の一族）

※戸田は牧口の殺害に加担し、創価学会の篡奪を試みた。

1901年 岡田光玉（クリュテイオスのタナトス 湛如の一族）

※崇教真光を設立。

1901年 昭和天皇（ディオナーのタナトス 大谷光榮の一族）

※昭和天皇の影武者はハインリヒ・ヒムラーだった。

1901年 佐藤栄作（ディオナーのタナトス 実如の一族）

1902年 白洲次郎（クリュテイオスのタナトス 広如の一族）

※悪魔デビッド・ロックフェラーの遺伝学上の父親であり、ジョージ・ソロスの祖父である。

1903年 大谷光暢、市川團十郎（ディオナーのタナトス 大谷光暢の一族）

1906年 紅林麻雄（ディオナーのタナトス 従如の一族）

1906年 庭野日敬（ディオナーのタナトス 達如の一族）

※立正佼成会を設立した。

1907年 三木武夫（クリュテイオスのタナトス デウスの一族）

1910年 安藤百福（ディオナーのタナトス 覚如の一族）

1911年 大谷光照（クリュテイオスのタナトス 大谷光照の一族）

1916年 盛厚王、谷口清超、村山富市（ディオナーのタナトス 達如の一族）

1918年 中曽根康弘（クリュテイオスのタナトス 大谷光照の一族）

※三島由紀夫を殺し、特殊部隊に命じて日航機墜落事故の生き残りの乗客を焼き、それを目撃した自衛隊員をも焼き殺したという。

1919年 佐治敬三（ディオナーのタナトス 大谷光演の一族）

※デタラメな常識の流布を目的としてACジャパンを設立した。

1921年 塩川正十郎（ディオナーのタナトス 大谷光暢の一族）

1922年 日頭（クリュテイオスのタナトス 湛如の一族）

1927年 高橋信次（クリュテイオスのタナトス 湛如の一族）

※GLA総合本部の教祖。

1928年 土井たか子（ディオナーのタナトス 覚如の一族）

1929年 赤崎勇（クリュテイオスのタナトス ユダヤ人1908の一族）

1930年 大谷暢頭（ディオナーのタナトス 大谷暢頭の一族）

1937年 森喜朗（ディオナーのタナトス 大谷光演の一族）

※庶民的という言葉と俗物という言葉と同じものだと思っている。

1937年 石原慎太郎（ディオナーのタナトス 大谷光演の一族）

1938年 細川護熙（ディオナーのタナトス 大谷光榮の一族）

1939年 二階俊博（クリュテイオスのタナトス 大宛のドルイド司祭の一族）

※二階先生は、いつも財布を落としている顔をして敵を油断させるというワザを持つ。二階先生の正体はジョホール王である。

1940年 麻生太郎（クリュテイオスのタナトス 広如の一族）

1942年 小泉純一郎、浅川嘉富（ディオオーネーのタナトス 大谷光榮の一族）

1943年 住友芳夫、鄭明析、川勝平太（クリュテイオスのタナトス サトゥルヌスの一族）

※川勝氏と鄭は住友芳夫の影武者である。くりそつだ。川勝氏は筆者を騙すために味方のフリをしていた。筆者が彼をタナトスだと断じると、川勝氏はすぐに豚インフル対策のためにワクチンを打つと宣言した。この豚インフルワクチンにより豚肉を食べると手足の自由が利かなくなるようだ。

1945年 大谷光真（クリュテイオスのタナトス 大谷光真の一族）

1945年 櫻井よしこ（ディオオーネーのタナトス 大谷暢頭の一族）

1946年 馬淵睦夫（ディオオーネーのタナトス 大谷光暢の一族）

※馬淵先生は正しい歴史を隠し、間違った歴史を広めるためにネットでニセの歴史を説いている。馬淵先生はあっというまに人気が出たが、実際には見ていないところで大量の信者を脅しているに過ぎない。弱い人間を脅し、心にも無いおべっかを使わせることでタナトスはすぐに人気者になることができる。

1946年 菅直人（ディオオーネーのタナトス 大谷光暢の一族）

※完は筆者を騙すために味方のフリをしていた。完の役割は自民党に負けることである。それが自民党が常に野党に勝っていた秘訣である。

1947年 鳩山由紀夫（クリュテイオスのタナトス 湛如の一族）

※鳩山は筆者を騙すために味方のフリをしていた。鳩山の役割は自民党に負けることである。それが自民党が常に野党に勝っていた秘訣である。

1948年 菅義偉、テイン・セイン（クリュテイオスのタナトス 広如の一族）

1951年 大谷暢裕（ディオオーネーのタナトス 大谷暢裕の一族）

1951年 李洪志、竹中平蔵、瀬戸弘幸（クリュテイオスのタナトス 大谷光瑞の一族）

1952年 山口那津男（クリュテイオスのタナトス 広如の一族）

1953年 岡田克也（クリュテイオスのタナトス 湛如の一族）

1953年 西川廣人、河野克俊、柵山正樹（クリュテイオスのタナトス 大谷光瑞の一族）

1954年 安倍晋三（ディオオーネーのタナトス 実如の一族）

1954年 志位和夫（クリュテイオスのタナトス 大宛のドルイド司祭の一族）

※志位の役割は自民党に負けることである。それが自民党が常に野党に勝っていた秘訣である。

1960年 小池晃（クリュテイオスのタナトス 大宛のドルイド司祭の一族）

1960年 天野浩（クリュテイオスのタナトス ユダヤ人1908の一族）

1962年 上祐史裕、佐藤正久（クリュテイオスのタナトス 大谷光真の一族）

1964年 枝野幸男（ディオオーネーのタナトス 大谷光榮の一族）

※枝野の役割は自民党に負けることである。それが自民党が常に野党に勝っていた秘訣である。

1972年 堀江隆文（クリュテイオスのタナトス 王安石の一族）

1977年 大谷光淳（クリュテイオスのタナトス 大谷光淳の一族）

タナトスの一族～カニバリズム、人身御供、アトランティス王国、最終戦争ラグナロク、タングート、西夏、アサシン教団、狼男、チャガタイ・ハン国、タウングー朝、ズールー帝国、アフリカ独立運動、ボコ・ハラム

タナトスの歴史

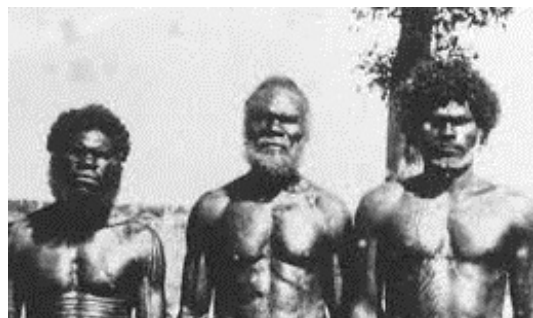
※人名が太文字の場合は本体を指しています。

クリュテイオス（45万年前）

※「タナトス」は、**ディオナー**とクリュテイオスのできそこないが連合して生まれた合体部族である。そのタナトスの片割れであるクリュテイオスは、オリジナル人類**ヴィディエ**、クウォス、そして獣人**アグリオス**（オリジナル人類**チュクウ**と**ルハンガ**、クウォスの連合部族）による合体部族である。アグリオス+ヴィディエ+クウォス=グリオディエオス=クリュテイオスとなる。彼らは古代の中国で生まれた。クリュテイオスは「神統記」にも記載されている神の部族だが、下層で蠢いていたできそこないが反自然の種族タナトスを生むことになる。

ディオナー（30万年前）

※「タナトス」は、**ディオナー**とクリュテイオスのできそこないが連合して生まれた合体部族である。そのタナトスの片割れである**ディオナー**は、オリジナル人類**ヴィディエ**と**ウラニアー**（**ウラノス**）の合体部族である。ヴィディエ+ウラニアー=ディエニアー=ディオナーとなる。彼らは古代オーストラリア大陸で生まれた。ディオナーは「神統記」にも記載されている神の部族だが、下層で蠢いていたできそこないが反自然の種族タナトスを生むことになる。



タナトス（30万年前）

※タナトスはオーストラリアで生まれたので、最初はアボリジニに似た姿だったと考えられる。ディオナーと獣人クリュテオスの両部族に属するできそこないが寄り集まって人喰い人種タナトスが生まれた。タナトスの名の由来はディオナーとクリュテオスの組み合わせである。ディオナー＋クリュテオス＝ディオネテオス＝テオネテオス＝タナトスとなる。彼らは古代のオーストラリア大陸で生まれた。

タナトスが生まれた当時、人類の総人口は数百万人ほどだったと考えられる。だが、それだけでも人類は既に自然のバランスを崩すほど飽和状態を来たしていた。そこに、飽和状態に油を注ぐような事態が発生した。オリジナル人類による大混血時代である。中でも、誰にも相手にされないできそこないたちが近親相姦を数千年繰り返すことにより、罪悪感を大幅に欠いた個体がたくさん生まれた。これがタナトスである。

タナトスが生まれた要因。永年の近親相姦の繰り返しは、滅ぶべき種（しゅ）の証しである。これは人類を滅ぼそうと考えた地球の意志によるものだった。自然界のバランスを修復するには人類を滅ぼすしかない。しかし、知能をもった人類の天敵は人類でしかありえない。そういうわけでタナトスは人喰い人種として地上に生み落とされたのだ。タナトスは最初の「最後の審判の一族」である。

当初、タナトスはオリジナル人類や混血人類とは隔絶した地に住み、人類の天敵として遠出をして人類を狩り、食べていた。しかし、罪悪感を欠いた彼らは知能を悪に用いることをはじめた。自分たちが人類の王に成り代わり、全人類を奴隷化することを考えたのだ。人類の天敵として生まれた彼らは、だが、この時から自然界の天敵、地球の天敵となった。この後、タナトスの天敵として、新しい「最後の審判の一族」として科学の種族トバルカイン（善神デーヴァ、ダヴィデ王、天狗、宇宙人）が4万年前に生まれるのだが、詳細は「ダヴィデの一族」を参照いただきたい。

真の宗教とは、知恵ある者が知恵なき者を導き、力ある者が力なき者を救うことを意味する。その見返りに知恵なき、力なき者は知恵ある、力ある者に感謝する。そして、知恵ある、力ある者はそれをみて喜ぶのだ。つまり真の宗教とは、人類は平等ではないことを認識した上での、強者と弱者の理想的な共存でなければならない。これが宗教の正しい型である。

知恵なき者、力なき者が宗教を始めることは禁忌である。ところが、オリジナル人類クウォスの一族カオスらが弱者に感謝されている様子をはたから見ていたタナトスたちは、この宗教の様式を悪用することを思いついた。ということで、知恵なき、力なきタナトスらはウソをつくことを始めた。知恵なき、力なき彼らは、まず「自分たちこそが最大の知恵者であり、世の中を統べるべき強者である」とウソをつき始めた。

彼らは、このウソを信じ、または信じるフリをする者を保護し、信じない、または信じるフリをしない者は殺して排除した。タナトスらは、大量の信者を獲得すると、全員でウソをついた。数で圧倒する多数派のタナトスらは、自分たちの「虚言」が絶対的な「真実」であると、少数派の

敵（カオスら）に迫り、認めさせようとした。もちろん、知恵者であり真の勇者であるカオス、ガイア、タルタロス、エロスが、タナトスの戯言を認めることはなかった。



最高神タネ（30万年前）

※タナトスが最初に創始した邪教がタネ崇拝である。タネの名の由来はディオナーである。ディオナー＝テオナー＝タネとなる。弱いものにしか勝てないタナトスは、怒りに燃えた力ある者たちカオス、ガイア、タルタロス、エロスの猛攻に四散し、皆殺しにされた。残った者はオーストラリアから追放され、オセアニア、メラネシアの島々に散って行った。タナトスは、「タンナ島」に居を得た。カオスたちが君臨しているため、怖くてオーストラリアに上陸できないタナトスは、メラネシアに散った兄弟（ニュクスの子）を襲って食べ始めた。

しかし、ただ襲撃していると反撃されて、こちらがダメージを受けることがある。それに気付いたタナトスは襲撃しないことを決めた。襲撃せずに襲撃する、殺さずに殺すのである。どういうことかといえば、襲撃したり殺すのは肉を得るためである。だが、もし他の方法で肉を得ることができれば襲撃したり殺す必要は無い。それが襲撃せずに襲撃する、殺さずに殺すということである。どうしたかといえば、タナトスは「最高神タネ」を祀り、食肉用の家畜を得るために宗教を用いたのだ。タネの名の由来はタナトスである。彼らは、神に生贄を捧げると言う儀式を考案し、神の名の下に殺人を正当化し、食肉用の人肉を得た。こうして、誰も殺していないタナトスは、敵に反撃されなくなった。

次に、タナトスはメラネシアで得た「最高神タネ崇拝」の信者を大量にオーストラリアに侵入させた。そして、カオスらの「虹蛇信仰」の信者を篡奪した。まず、たくさんのいち個人に「信者にならないと殺す」と脅した。次に、仲間や家族を入信させることを信者に命令する。「タナトスは命令を聞かないとすぐに人を殺す人喰い人種だ」ということに触れると信者の仲間、家族は殺害を恐れて次々に「タネ崇拝」の教団に入信した。

弱者は、強い王よりも残酷な犯罪者を恐れる。王は犯罪者よりも強い、だが、王は弱者を無意味に殺さない。逆に、残酷な犯罪者は王よりも弱い、すぐに人を殺す。こうして、殺されたくない一心の大勢の弱者は、すぐに殺さない王よりも、すぐに殺す犯罪者を選び、従うのである。

中には、力、人望があり、かつ勇敢な者が入信を拒否した。だが、彼/彼女は既に入信した仲間や家族、更におおぜいの信者に無視され、孤独に陥った。特に、信じていた仲間の裏切りほど、人の内面に精神的なダメージを残すものはないだろう。どんなに力がある人物でも、他人とつながることが出来なければ、彼/彼女の力は無効化されるのだ。浄土真宗の十八番、いわゆる「村八分」の骨子が既に30万年前に開発されていたのだ。現在に於いてもそうであるが、特に当時に於いては、孤独は、そのまま「死」を意味した。これは、タナトスによる「殺さずに殺す」の別ヴァージョンである。こうしてカオス、ガイア、タルタロス、エロスは無力化した。例え敵地であれ、そこにタナトスの信者がいれば、そこはタナトスの領土なのだ。

「ガイアが邪教の首領タナトスを惨殺」（20万年前）

※タナトスは、獲得してきた反自然由来の秘儀の数々によって大きな勢力と化した。罪悪感が欠如した状態で生まれることで、禁じ手の封印を解いた彼らは、タンナ島からオーストラリアに渡り、「カオス」「ガイア」「タルタロス」「エロス」の集団に侵入して最下層にいる人々を「最高神タネ」を祀る宗教団体に参加させた。

知的な人物はタナトスを相手にしないが、知的な面で劣る人々はタナトスを信じた。しかし、それで良いのだ。なぜなら知的な人間よりも知的に劣る人間の方が圧倒的に多いからだ。つまり、劣る者が知性を圧倒する唯一の方法、量VS質を成立させるのが、信者の大量確保の目的だ。これによって、タナトスの発言力は増大した。つまり、タナトスが自由自在にウソをつく環境が整えられつつあった。

部族の多数派である最下層の集団を乗っ取ったタナトスは、これで「カオス」「ガイア」「タルタロス」「エロス」に勝ったも同然だと喜んだ。タナトスは大量の信者たちに、首長たちに対して挑戦的な態度をとることを命じた（さもなければ仲間は無視される）。

首長たちは、無力であるはずの最下層の者の挑戦的な態度を見て、自分を恐れないことに非常に驚いた。だが、いつの時代の弱者（信者）も、常に、寛大な王よりも残酷な人殺しに恐怖を覚えるものだ、タナトスは信者にウソ・暴力・陰謀を強要し、そのために、平和だったオーストラリアは、精神的な荒廃を余儀なくされた。

これを見かねた獣人アルキュオネウスの種族「ガイア」が立ち上がり、「カオス」「タルタロス」「エロス」の首長たちをまとめ、問答無用でタナトスを狩った。タナトスは、ウソが通じる相手には強いが、ウソが通じない相手には全く無力なのだ。彼らは「ガイア」たちの猛攻に四散し、捕らえられたタナトスは遠方に流されることになった。この連行役は「ガイア」が引き受けた

。

「ガイアの大移動時代」（20万年前）

※邪教タネ崇拝によって賢者の宗教「虹蛇」に挑戦したタナトスの一族だが、怒ったアルキュオネウスの種族（ガイア、ウラヌス）によって退治され、ガイアによってオーストラリアから中央アジアに流された。



- ・クロノス（20万年前）
- ・ダナオス（20万年前）※画像なし
- ・サトゥルヌス（20万年前）

※中央アジアに放置されたタナトスは、自力で西方に進出し、オケアーニス大洋の娘たちや河川の娘たちが暮らす古代ヨーロッパにまで達した。この時にタナトスは「クロノス」「ダナオス」「サトゥルヌス」など複数の名前と呼ばれた。クロノスの由来はクリュティオスとウラヌスの組み合わせであり、ダナオスの由来はディオナーとクリュティオスの組み合わせであり、サトゥルヌスの由来はTANATOSの反対SOTANATとウラヌスの組み合わせである。

ディオナーはもともとヴィディエとウラニア（ウラヌス）の合体部族であり、クリュティオスはアグリオスとヴィディエとクウォスの合体部族であり、アグリオスはチュクウとルハンガとヴィディエとクウォスの合体部族である。この6部族が一旦タナトスを解散し、再結成したのが「クロノス」「ダナオス」「サトゥルヌス」である。その名から、ダナオスはディオナーが主導し、クロノスはクリュティオスが主導し、サトゥルヌスはクウォスが主導していたことがわかる。

クリュティオス+ウラヌス=クリュヌス=クロノスとなり、ディオナー+クリュティオス=ディオネオス=ダナオスとなり、SOTANAT+ウラヌス=SOTアラヌス=サトゥルヌスとなる。これらのタナトスの新部族の遺骸は、人類学者によって「ネアンデルタール」と命名された。

ネアンデルタール人は、アボリジニに似た姿だったと考えられる。名前から察するに、クロノスは現ドイツ・ケルン辺りに拠点を持ち、ダナオスは黒海北部現ドン川流域（タナイス）～現ドナウ川流域にかけて拠点を持ち、サトゥルヌスは現イタリアに拠点を持っていた。この時代、タナトスは人喰い人種の本領を発揮し、平和に暮らしていたオケアーニスたちを狩って食べた。タナトスは善を装い、隠れて狩りを行った。人喰いの濡れ衣は現在と同じように、部族のみそっかす、或いは敵に着せた。

「ネアンデルタールの遺跡から、切断されて焼かれた骨を発掘される」（20万年前）

「ネアンデルタールが焼いた、ホモ・サピエンスの骨800片がクロアチアで発掘される」（13万年前）



- ・「頭骨崇拜」（10万年前）
- ・「葬送儀礼」（10万年前）

※イラクのシャニダール、フランスのラシャペルオーサン、ラフェラシー、イスラエルのアムッド、ケバラ、シリアのデデリエなどで、ネアンデルタールが死者を埋葬して花を手向けた遺跡

が発掘されている。人類学者は、人喰いであるネアンデルタールについて、愚鈍で凶暴なイメージを抱いていた。だが、これらの遺跡を発掘したおかげで「ネアンデルタールは、じつは仲間の死を悼み、花を手向けて埋葬するという優しさを持ち合わせている」「高等な精神性を有している」という結論に至り、学者たちは感動したのだ。しかし、どの種も葬送儀礼を行わない。ということは葬送儀礼は不要であるが、人類に於いて、さも人類の進化の証のように賛美されるのは不条理なことだ。タナトスはこの人生に不要な儀式を強制し、弱い人々に大きな見返りを求めた。これに抵抗する者には、天罰という名のタナトスによる制裁が下った。

更に、実際の真相は異なる。ネアンデルタールらは、一方では人喰い人種でありながら（この事実はオケアーニスの間では隠されていた）、一方では神官の衣装を装い、必要のない埋葬儀礼、葬送儀礼をオケアーニスに強いて、見返りを求めていたのだ。つまり、現在の日本仏教、キリスト教のやっていることと変わりはない。葬式をするために人は死なねばならない。治療するために人は病気を患わなければならない。当時から、死を司る医者、神官はタナトスの系譜で固められていたのだ。タナトス（ネアンデルタール）は、頭数で勝るオケアーニスを管理するために、「頭骨崇拜」などの宗教を築き、大量の信者を得て当時のインフラ全般を掌握していたのだ。人喰い人種ならではのネーミングセンスで、「終活」という不気味な言葉を生んだ「イズモ葬祭」などは、当時のネアンデルタールと同じことを繰り返しているに過ぎない。葬儀会社を営む人々は非常に仕事熱心である。仕事をしたくて仕方がない。しかし、そのために、人は死なねばならない。医師会と葬儀会社は、タナトス（死）という祖を同じくする不可分の存在である。



- ・ゴルゴン（7万年前）
- ・メドゥーサ（7万年前）

※金髪・碧眼・白人の姿をしたオケアーニスに属するケルケイース、メティスの都市が黒海に隣接して栄えていた。タナトスは、ヨーロッパで得た大量の頭骨崇拜の信者を各都市のインフラ部門に侵入させ、これを掌握させた。これにより、タナトスに服従しない者を容易に排除できた。

タナトスが支配したメティスの国は「メドゥーサ」と呼ばれ、ケルケイースの国は「ゴルゴン」と呼ばれて恐れられ、嫌悪された。ヘシオドスによって凶悪な怪物として「神統記」に著されたメドゥーサとゴルゴンであるが、メドゥーサとゴルゴンが、どれほどイヤな国だったかが伺い知れるだろう。

メドゥーサの名の由来はメーティスとクリュティオスの組み合わせであり、ゴルゴンの名の由来はケルケイーストディオナーの組み合わせである。メーティス+クリュティオス=メーティオス=メディオス=メドゥーサとなり、ケルケイース+ディオナー=ケルケオーネー=ケルケオン=ゴルゴンとなる。つまり、名前からメドゥーサはクリュティオスが主導し、ゴルゴンはディオナーが主導していたことが分かる。

- ・クリュサオル（7万年前）
- ・ペガサス（7万年前）

※「アルゴス号の大航海時代」に参加し、コルキスに到着した英雄ペルセウスは、怪物メドゥーサを討ち取り、その時に、メドゥーサの首から、「クリュサオル」と「ペガサス」が生まれた。これは、ペルセウスの力によってタナトスの都市メドゥーサとゴルゴンが滅び、タナトスが逃亡したことを示している。

タナトスの一族は「ペガサス」と呼ばれていた古代のニューギニアに逃げ、「ダニ族」となった。そのため、彼らは「神統記」では「ペガサス」と記された。ペガサスの名の由来は、パプア人の祖となったアブクとムシシの組み合わせである。アブク+ムシシ=ブクシシ=プグシシ=ペガサスとなる。

もうひとつのタナトスの一族は、同じように古代ニューギニアに落ち延び、30万年前からニューギニアに住んでいたオケアーニス大洋の娘たちに属するガラクサウラーの子孫「カウレ族」「サウル族」に習合した。そのため、彼らは「神統記」では「クリュサオル」と呼ばれた。クリュサオルの由来はケルケイース（ゴルゴン）の別部族ガラクサウラーである。ガラクサウラー=ガラサウラ=クリュサオルとなる。



ダニ族（7万年前）

※魔神クロノスの末裔ダニ族。ダニ族の顔の特徴が現東西本願寺大谷家の遺伝子に取り込まれている。特に重そうな鼻。長い顔とそのシルエットも大谷の一族に継承されている。ニューギニアに入植したタナトスは、「ダニ族」を称した。ダニの名の由来はディオナーである。ディオナー=ディオニ=ダニとなる。クロノスが支配していた時代のヨーロッパでは、ダニ族のような生活様式が定番だっただろう。今日のダニ族の戦い方で、オリンポス神族とティタン神族は戦ったのだ。

A D 1 9 6 4 年、本多勝一がニューギニア・ウギンバ部落にあるダニ族の集落を来訪している。実際に、ダニ族の村で生活を共にした本多勝一の報告は、興味深い。本多一行は、排他主義的なダニ族に比べて愛嬌があるモニ族の村に滞在していたが、曰く「モニ族は質問にすぐ答えるがダニ族となると9割は名前はないと言って平然としている。三度聞けば三度違う名前を言う」と報告している。このような対応は単なる気まぐれというよりは、徹底した秘密主義と、それに根ざした徹底である。陰謀に頼る現代タナトスの一族にも共通している事柄だ。

また「ダニ族のミミリングは常に憂鬱な顔をして畑仕事にも出ない」という記述がある。このミミリングは常に本多一行のそばにいたらしいが、これにはスパイ活動の原型を見る思いである。本多氏は、ダニ族を単なる原始人だと認識していたため、ミミリングなる人物がスパイをしているなどとは夢にも思わなかっただろう。

また、「男子は三歳で母親に捨てられて男の家に放り込まれる、父親は我が子に父親らしい態度を取らずに無視している」という。これには、タナトス一族に共通する強大な征服本能、強い復讐心の生成過程、その原風景を見る。また、「食事中にひとりだけ食べさせてもらえない者がおり、全員の食事後に残飯をむさぼる」「ダニ族の首長は力があり、単なる実力者以上の権限を持っている」にはカースト制度の原型を、「誰かが死ぬと魔術が原因だとして戦争が起きることがある」には、魔女狩りの発想の原型、敵を悪者扱いしてから攻撃するというタナトス一族に共通する本能を見る。

「アトランティス王国」（4万年前）

※魔神クロノスに敗北したオリンポス神族は、地中海を発ち、大西洋を北上し、当時の北極圏だったブリテン島、南北アメリカ大陸、南極大陸を経てオーストラリア大陸南西部に到達した。ダニ族はクロノスとは家族であるが、それを知らないオリンポス神族はオーストラリアに進出していたダニ族と連合し「アトランティス人」を生んだ。

アトランティスの名の由来はアトラスとタナトスの組み合わせである。アトラス+タナトス=アトラナトス=アトランティスとなる。つまり、アトランティス人は、オリンポス神族と死の種族タナトスの合体部族だった。因みに、巨大な砂漠地帯が横たわっていることから、アトランティス王国は現オーストラリア大陸南西部に位置していたと考えられる。

- ・戦いの女神アテーナイ（4万年前）
- ・演劇の神ディオニュソス（4万年前）

※オリンポス神族がダニ族と共に古代オーストラリア大陸にアトランティス王国を築くと、ダニ族は独自にアテーナイ、ディオニュソスを儲け、オリンポス神族に仲間入りした。アテーナイの由来はタナトスの反対S O T A N A TのO T A N Aであり、ディオニュソスの由来はディオオーネーとゼウスの組み合わせである。O T A N A=オータナイ=アテーナイとなり、ディオオーネー+ゼウス=ディオネゼウス=ディオニュソスとなる。

-
- ・ティタノマキア（4万年前）
 - ・ギガントマキア（4万年前）

※ユーラシア大陸の支配者クロノスは、アトランティス王国から来たオリンポス神族とティタノマキア、ギガントマキアを戦い、敗北する。ティタン神族とギガースはクロノスの邪教信者となり、手足のように思い通りに動いた。だが、ゼウスは躊躇することなくティタン神族、ギガースたちを皆殺しにし、信者を減らすことでクロノスを追い詰めた。タナトスは、信者が多ければ多いほど強くなり、信者が減れば減るほど弱くなる性質がある。この後、クロノスはニューギニアに落ち延び、ダニ族に習合した。



- ・ロキ（3万年前）
- ・ニドボグ（3万年前）※画像なし
- ・ニダヴェリール（3万年前）※画像なし
- ・宇宙樹ユグドラシル（セコイア）

※古代アメリカ大陸には、北からミドガルド（現カリフォルニア～ネバダ）、常世国（現ユタ）、ヴァルハラ（現北メキシコ）、アースガルド（現マヤ）などの古代王国が存在した。なぜアメリカ大陸にあった王国が北方にあったと考えられたのか？それはアメリカ大陸からやって来る旅人は、大西洋を横断するのではなく、アメリカ大陸東岸を北上し、グリーンランド・アイスランド～アイルランド経由という北極圏から南下する航路でやってきたからだ。ヨーロッパの古代人は、アメリカから来た人々が北から来たように見えたのだ。

アトランティス人は、古代アメリカ大陸に繁栄する諸王国に魅せられ、これらを征服するべく、まず、アースガルド王国（現マヤ）に侵入し、「悪神ロキ」を生んだ。ロキの名の由来はユミルとクリュティオスの組み合わせである。ユミル＋クリュティオス＝ミルク＝ロキとなる。この組み合わせは、アモレク族、モレク、メルクリウスの由来でもある。

その後、敵を間近で観察し、管理するべく、アース神族に参加した。また、アトランティス人はピュグマエイ（ユミル）と組んで「ニドボグ」を、マハラエルと組んで「ニドヴェリール」を生んだ。ニドボグの名の由来はタナトスとピュグマエイの組み合わせであり、ニダヴェリールの名の由来はタナトスとマハラエルの組み合わせである。タナトス＋ピュグマエイ＝ナトピュグ＝ニドボグとなり、タナトス＋マハラエル＝ナトハラエル＝ニダヴェリールとなる。



ヴァン神族（3万年前）

※アトランティス人はマハラエルと共にヴァルハラ王国（北メキシコ）に移り、そこからミドガルド王国（現カリフォルニア～ネバダ）に入植すると「ヴァン神族」を生んだ。ヴァンの名の由来はワルムベ（マハラエル）とダニの組み合わせである。ムベ+ダニ=ベニ=ヴェニ=ヴァンとなる。

また、マハラエルは、単独でヴァン神族に属する「フレイ」「フレイヤ」を生んだ。フレイ、フレイヤの名の由来はマハラエルである。マハラエル=マフレイエル=フレイヤ=フレイとなる。ヴァン神族はインチキ宗教により、ミドガルド王国の国民を完全な支配下に置き、ヴァルハラ王国やアースガルド王国に侵攻させた。



・ヘル（3万年前）

・フェンリル（3万年前）

・ヨルムンガンド（3万年前）

※マハラエルは、アトランティス人と組んで更に「ヘル」「フェンリル」を生み、ヴァルハラ王国に侵攻した。ヘルの名の由来はマハラエルであり、フェンリルの名の由来はヴァンとマハラエルの組み合わせである。マハラエル＝マヘルエル＝ヘルとなり、ヴァン＋マハラエル＝ヴァンラエル＝フェンリルとなる。

「最終戦争ラグナロク」（2万年前）

※ミドガルド王国、ヴァルハラ王国の国民は、ヴァン神族（アトランティス人）の神官に生活インフラを掌握され、そのため、生活の保障を求めて進んで悪に服従した。自分の本能、感情、意志を放棄して悪を身体に宿す人々に対して激怒した科学の種族トナルカインは、開発したばかりの核兵器を用いてヴァン神族（アトランティス人）に支配された国々を攻撃した。これが「最終戦争ラグナロク」である。

核攻撃が原因により、現カリフォルニア～ネバダが、そして現テキサス～北部メキシコにかけて広大な一帯が砂漠と化した。しかし、この大規模な核攻撃により、多くの邪教信者と共にヴァン神族（アトランティス人）の神官たちは息の根を止められた。北アメリカに於いてはタナトスは根絶やしになった。

●死神タナトスにとっての地獄 閻魔大王の裁きの時代



※写真は宇宙人（科学の種族トバルカイン）が搭乗する白銀色に光るフェイクプレーン（輪郭はなぜかぼやけており、双眼鏡で見てもはっきりしない）。南極大陸はムー帝国（モホス文明）の植民地だったが、そこに科学の種族（トバルカイン、エラド、マハラエル）が住みつき、核兵器、UFOなどを開発した。南極は、「五岳神（ウーユエ）」の国と呼ばれた。

五岳とは、中国の道教に登場する、南北中東西に位置する聖山のことであり、それらは、じつは南極の山々を指していた。東岳泰山は3680mのペンサコラ山、南岳衡山は4528mのカー

クパトリック山、4350mのマークハム山、中岳嵩山は5140mのマッシュ山、西岳華山は4187mのシドリー山、北岳恒山は4191mのプラトー山のことである。東岳大帝とは、冥府の王のことだが、ヴィディエは、南極の王として東岳大帝と呼ばれた。



※写真は火星の火山オリンポス（標高2万7千m）と職務中の閻魔大王。科学の種族は、知能を悪に用いる者をできそこないと認定し、UFOで火星送りにしていた。冥界の巨山と呼ばれた「羅ホウ山」とは、火星の火山であり、太陽系でもっとも巨大な火山、2万7千mのオリンポス山のことを指している。中国神話で冥界の神々と呼ばれた人々は、できそこないを裁いていた種族のことであり、「十王」と呼ばれた。

地球上の、タナトス（できそこない）を嫌う、世界中の優れた王族が団結し、「十王」を結成していた。秦広王、楚江王、宋帝王、五官王、閻羅王、變成王、太山王、平等王、都市王、五道転輪王である。閻魔大王（ヤマ）は太陽神シャマシュのことであり、ホウ都大帝はルハンガとヴィディエ、太乙救苦天尊はヴィディエとチュクウのことである。

安倍総理と仲間たちのように平気でウソをつき、テッド・バンディ事件の真犯人ブッシュ元大統領、狂気の怪物モンサント社のように子どもを笑いながら殺すような反自然的な人々は、みな火星で裁かれ、死ぬまで強制労働を課せられた。ただ、優れた人々は罪悪感が強い。そのため、精神的な健康を理由に、火星の強制労働施設は長らく閉鎖されているようだ。

「アトランティス王国滅亡」（1万3千年前）

※タナトスのアトランティス人はアトラスの王族を追放し、アトランティス王国を掌握した。アトランティス王国全盛の時代、アトランティス人は17世紀～18世紀のヨーロッパ程度の技術水準に達していたと考えられる。タナトスの指揮によって悪の帝国と化したアトランティスは、白人列強時代の大英帝国よろしく世界征服に乗り出した。

世界中の弱者は、生活の保障を得るためにアトランティス人に服従していたが、ゼウス、プロメテウスなどの優れた王族は、タナトスを非常に嫌悪していた。ゼウスらは五岳神国（南極）に赴き、科学の種族にタナトスを核兵器で絶滅させることを依頼した。

科学の種族トバルカインは、「最終戦争ラグナロク」の時代にたくさんの人間を核兵器で焼き殺したことがトラウマとなっていたが、彼らは今回も大量の核兵器を用い、高熱と爆風、放射能によってアトランティスを砂漠地帯に変えた。オーストラリア北部のタナミ砂漠、グレートサンディー砂漠、中部のギブソン砂漠、南部のグレートビクトリア砂漠は、科学の種族による、非常な怒りの痕跡である。

タンナ島（1万3千年前）

※アトランティス王国が滅亡すると、アトランティス人の残党はタンナ島に落ち延びた。タンナの由来はタナトスである。

タンヌ・オーラ（7世紀頃）

※東南アジア、メラネシア、オセアニアを勢力圏にしていた鬼（黒人ダン族）は、タンナ島に赴き、タンナ人と親交を暖めた。タンナ人は鬼に伴われて平安時代の日本にも上陸していたが、修験者であった百地氏（桃太郎）に成敗されると鬼と共にモンゴルに渡った。この時、タンナ人は反自然の種族アンドロクタシア（殺人）、ゲラス（老齢）を伴っていた。

その後、タンナ人はアンドロクタシア、ゲラスと共にチベットに残り、「タングート」を築いた。タングートの名の由来はタンナ、アンドロクタシアの組み合わせである。タンナ+アンドロクタシア=タンクタ=タングートとなる。

- ・ 李思恭（?～886） タングート首長、唐将軍
- ・ リ・デミン（?～?） 初代タングート首長

リ・ユアンハオ（?～?） 第2代タングート首長

李元昊（1003～1048） 西夏初代皇帝 在位1038～1048



毅宗（1047～1068） 西夏第2代皇帝 在位1048～1068※画像なし
Hassan-i Sabbah（1050～1124） アサシン教団首領

※西夏の軍を率いた皇帝毅宗がアサシン教団を創設した。彼らはダヴィデの一族に属するアッバース朝、セルジューク朝、十字軍の要人を暗殺して行った。

仁宗（1124～1193） 西夏第5代皇帝 在位1130～1193
ラシード・ウッディーン・スィナーン（1125～1192） アサシン教団首領



献宗（1181～1226） 西夏第9代皇帝 在位1223～1226※画像なし
Hassan III of Alamut（1187～1221） アサシン教団首領※画像なし
チャガタイ（1183～1242） チャガタイ家初代君主※画像なし
シーインタラーティット（1188～1270） スコータイ朝初代王 在位1220～123

※じつはチャガタイの千人隊がアサシン教団に変身し、西夏、アサシン教団、チャガタイ・ハン国、スコータイ朝を同時に支配していた。スコータイの由来はチャガタイである。チャガタイ＝シャカタイ＝シャカータイ＝スコータイとなる。アサシン教団に伝わる伝説の秘密の園はタイ王国の可能性がある。

末主（?～1227） 西夏第10代皇帝 在位1226～1227

Rukn al-Din Khurshah（1230?～1256） アサシン教団首領

カラ・フレグ（?～1252） チャガタイ家2代君主

※フレグの征西でアサシン教団は1260年頃に制圧されたとされている。それと同時に教団の残党はチャガタイ・ハン国、スコータイ朝に移った。チャガタイ・ハン国がやがて東西モグーリスタン国に変わると、王族はモグーリスタンを拠点に西ヨーロッパを訪れ「狼男」の伝説の礎を築いた。

バヤン・クィリ（?～1358） 西チャガタイ・ハン国初代ハーン 在位1348～1358

ティンカバー（?～1358） 初代タウングー王 在位1347～1358

Pantaung（?～1420） タウングー王 在位1419～1420

Lukeni lua Nimi（1380～1420） コンゴ王国初代君主

マフムード・ハーン（?～1508） 西モグーリスタン第2代ハーン 在位1487～1508

ミンチーニョ（1459～1530） 第4代タウングー王 在位1510～1530

※西チャガタイ・ハーン、バヤンはビルマに進出して「タウングー朝」を開いた。タウングーの名の由来はタングートである。タングート＝タウングート＝タウングーとなる。一方、彼らはビルマにカニバリズムをもたらした。ビルマ人を狩っていた彼らは、現地人に「タウ（狼人間）」と呼ばれた。タウの名の由来はタウングーである。この狼男の正体は、タウングー王朝の王だった。

1960年、動物園経営者ハロルド・ヤングは、タイとビルマの国境でタウと出くわした。叫び声が聞こえたので、彼は声が聞こえた小屋に乗り込んだ。すると、タウが死にかけている女の首を噛み砕いていた。彼は発砲し、銃弾はタウの腹部に命中したが、タウはジャングルに逃げ込んだ。翌朝、タウが残した血痕を辿ると彼らは村に戻ってしまった。血痕は、とある小屋の前まで続いていた。彼らが小屋を覗くと、そこには腹部に銃弾を受けた男が倒れていたという。彼の正体は、タウングー朝の一員だと考えられる。

1551年に即位したバインナウンはモン族、シャン族を制圧してミャンマーの大半を掌握した。1548年、第一次緬泰戦争ではアユタヤ朝に侵攻し、1558年にラーナー王国を占領し、第二次緬泰戦争、第三次緬泰戦争ではアユタヤを属国化した。その後、ペギー朝や明と交戦するが、1752年に滅びている。この時、タウングー朝の残党は東南アジアを脱し、アフリカ大陸に逃れた。

スルタン・サイイド・ハーン（1487～1533） 西モグーリスタン第3代ハーン 在位1514～1533

ビュルゴ（?～?） フランス人農夫

マンスール・ハーン（1482～1543） 東モグーリスタン第5代ハーン 在位1503～1543

ヴェルダン（?～?） フランス人農夫



※1521年、ビュルゴとヴェルダンというフランス人農夫が、永い間殺人を重ね、人肉を食べていたとして逮捕され、裁判にかけられた。2人は魔法使い集団の一味でもあった。2人は逮捕されるまで残虐な所業を重ねたが、なぜか、彼らの肖像画がドミニコ会の修道院に飾られているという。実際は、狼男として捕らえられたこの2人の農夫の正体は、東西モグーリスタン王だったと考えられる。

アブドゥル・カリーム・ハーン（1529～1591） 西モグーリスタン第5代ハーン 在位1560～1591

ペーター・スタンプ（?～1589）

※西モグーリスタン最後の王アブドゥル・カリーム・ハーンもヨーロッパに出かけて人間を襲い食べていた。だが、逮捕され、処刑された。王を失ったためか、奇しくも、東西モグーリスタン

王国もスタンプの処刑と同時に滅亡している。狼男は主にフランスで人間を狩り、イギリス、ドイツにも仲間を送り込んでいた。特に、フランスでは1520年代から1630年代にかけて、3万件もの狼男に関連した猟奇殺人事件、喰人事件が起きている。

アナウッペルン（1578～1628） 第6代タウングー王 在位1605～1628



※トンガ族の首長の図。トンガ族（太平洋のトンガとは異なり、タウングーが由来）は、1630年頃にジンバブエに出現した謎の民族である。彼らの正体はタウングー朝のアナウッペルン王の一族である。彼の時代は、父王が復興させたタウングー朝再興の時代であった。彼はその時代にアフリカ侵略を思いついたのかもしれない。

ピエ・ミン（1619～1672） 第10代タウングー王 在位1661～1672

チャンガミレ・ドンボ（?～?） 初代チャンガミレ王 在位1660～1695

アントニオ1世（?～1665） コンゴ王 在位1660～1665

※ピエ・ミンは本格的にジンバブエに進出し、チャンガミレ族の王としてロズウィ帝国を築いた。ジンバブエとミャンマー、そしてコンゴ王国を同時に統治した。



ダニエル1世 (?~1678) コンゴ王 在位1674~1678※画像無し

ガンガ・ズンバ (1630~1678) キロンボ・ドス・パルマーレス初代指導者

※ダニエル1世は、コンゴに来ていたポルトガル人からブラジルの事を聞き、ポルトガル植民地のブラジルにまで渡り、奴隷を率いてポルトガル人の撃退を図った。



ナラワラ (1650~1673) 第11代タウンゲー王 在位1672~1673※画像無し

カムグン・ドンボ (?~?) 第2代チャンガミレ王 在位?※画像無し

アルヴァーロ10世 (?~1695) コンゴ王 在位1688~1695※画像無し

ズンビ・ドス・パルマーレス (1655~1695) キロンボ・ドス・パルマーレス第2代指導者

※タウンゲー王ナラワラは、23歳で死んだことによりコンゴに渡り、アルヴァーロ10世として王国を統治した。だが、ダニエル1世の後を追ってアルヴァーロ10世はブラジルにまで到達し、キロンボ・ドス・パルマーレスを支配した。



Mahadhammaraza Dipadi (1714～1754) タウンゲー朝最後の王※画像無し
アラウンパヤー (1714～1760) コンバウン朝初代王



- ・タンゲール族 (1752) ※画像なし
- ・獅子人間 (1752)

※タウンゲー朝滅亡後、ビルマ人に「タウ（狼人間）」と呼ばれていたタウンゲーの残党は、インド洋を横断してジンバブエに上陸した。彼らは、タンザニア・ケニア方面に移って狼男の変形型である「獅子人間（ライオン人間）」を形成し、アフリカ人を狩っては食べていた。一方、タウンゲー朝の残党は「タンゲール人」を築いた。タンゲールの名の由来はタンナとガラスの組み合わせである。タンナ+ガラス=タンゲラ=タンゲールとなる。

彼らは「虎人間」などの組織も形成した。だが、何も知らない白人行政官は「なぜアフリカで虎なのか？」といぶかしがった。しかし、彼らはビルマから来たので虎を知っていても不思議ではない。つまり、これがアフリカの動物人間の秘密結社が、ミャンマーから来た証である。



- ・ 鱷人間（1752）
- ・ 豹の部族（1752）
- ・ 蛇人間（1752）※画像なし

※一方、狼男の連合体は、ジンバブエから中央アフリカに至り、西アフリカにまで勢力を拡大した。彼らは、狼男を深化させた「鱷人間」をコンゴに、「蛇人間」をギニアに、「豹の部族」をシェラ・レオネ、リベリア、カメルーン、中央アフリカ、アンゴラに設けた。

彼らはそれらの小型の喰人秘密結社を形成し、アフリカ人を狩って食べていた。1954年、ひとりを殺害した豹人間が逮捕され、1956年には一連の不審死事件の容疑者として蛇に変身した7人の呪術師が逮捕されている。また、コンゴでは、トカゲの皮で作ったワニのコスチュームを着た5人の鱷男が人々を襲撃して食べていた。



ターヤーワディー（1787～1846） コンバウン朝ビルマ王 在位1837～1846※

画像無し

シャカ（1787～1828） ズールー王国初代王 在位1816～1828

※コンバウン朝の王ターヤーワディは、ミャンマーを離れて白人列強が闊歩する南アフリカに渡り、シャカを称してズールー帝国を築いた。シャカの由来は釈迦だと考えられる。つまり仏教国から来たことを示している。



- ・ンガリゴ族（1885）
- ・カウラ族（1885）

1889年 探検家カルル・リュムホルツがオーストラリア北東部に侵入した。この時、カルルは人喰い人種に接触した。人喰い人種の正体はアボリジニに同化したンガリゴ族、或いはカウラ族だろう。曰く「男たちはアフリカの黒人よりもひょろ長く、筋肉質でもない。口は桁外れに大きく、歯は多少出っ歯である。鼻はぺちゃんこで鼻腔はほとんど水平。目は眉弓に深く落ち窪み、まぶたはたるんで垂れ下がっている。その顔はどこでも見られないようなぞっとした形相である」。彼らは、呪いによって敵部族の中に死を撒き散らすことが出来ると信じているため、出来る限り敵を殺そうとする。曰く「彼らの、最も強力な行動原理は人肉である。人肉を得るためだけに、わざわざ遠征隊を組織する。彼らは3、4人の集団に分散し、子供を含めて5、6人の小さな家族を真夜中に襲撃する」。マルタン・モネステイエ著「食人全書」より

※コンゴがベルギー王国領となると、動物人間の集団は中央アフリカを脱出し、インド洋を横断して故地タンナ島に近いオーストラリアに逃げ込んだ。ニューサウスウェールズ州に上陸した彼らは現地のアボリジニと混合し、「ンガリゴ族」「カウラ族」を形成した。

ンガリゴとカウラの名の由来はタンゲールである。タンゲールゴ（タンゲールの人）＝ンゲールゴ＝ンガリゴとなり、タンゲール＝タンゲウル＝カウラとなる。ンガリゴ族は、動物人間時代の名残りを残しており、2人1組の少数集団で人間狩りに出かけた。また、ンガリゴ族は侮辱する叫びを上げながら殺した敵の手足を食べ、嘲りの態度を示したという。

ズールー王Phumuzuzulu kaDinuzuluの子



Phumuzuzulu kaDinuzuluの子※画像なし

ムインガ（1904～1954） 豹人間の呪術師※画像なし

フェリックス・ウフェ=ボワニ（1905～1993） コートジボワール初代大統領 任期1960～1993

レオポール・セダール・サンゴール（1906～2001） セネガル初代大統領

レオン・ムバ（1902～1967） ガボン初代大統領

※1954年、コンゴの首都ブラザビルで呪術師ムインガと弟子のディジョウマとムエニがイボニという青年を殺して食べた。呪術師ムインガはボワニ大統領の可能性がある。同じ年、フランス領ギニアで豹人間の呪術師が夫婦喧嘩に悩む夫婦に「問題を解決するために娘を食べなさい」と助言した。この呪術師もボワニ大統領の可能性がある。

翌年の1955年、シエラレオネの首都から80キロ離れたモヤンバで喰人グループのメンバー4人が逮捕された。呪術師の指示に従って腰の所を斬って上半身だけ食べていた。この呪術師もボワニ大統領の可能性がある。

1956年、ブラザビルから700キロ離れた中部コンゴで呪術師が率いる喰人会のメンバーが逮捕された。犠牲者は12人以上。彼らは呪術師の指示に従い、自分の家族をメニューとして提供していた。この呪術師もボワニ大統領の可能性がある。1954年から1956年まで精力的に活動したこの謎の呪術師は、ボワニが1960年にコートジボワール初代大統領になってから姿を消した。

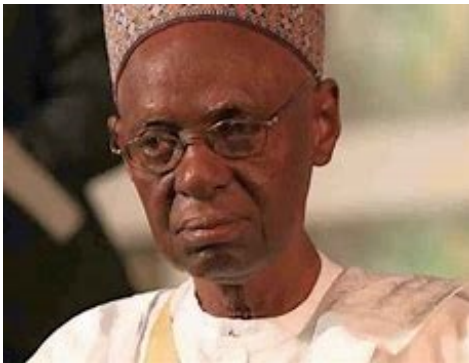


Phumuzuzulu kaDinuzuluの子※画像なし

ジョセフ・カサブブ（1910～1969） コンゴ民主共和国初代大統領 任期1960～1965

モディボ・ケイタ（1915～1977） マリ共和国初代国家元首

ユベール・マガ（1916～2000） ダオメー共和国初代大統領





Cyprian Bhekuzulu kaSolomon (1924～1968) ズールー王

セク・トゥーレ (1922～1984) ギニア共和国初代大統領

アゴスティニョ・ネット (1922～1979) アンゴラ人民共和国初代大統領

アマドゥ・アヒジヨ (1924～1989) カメルーン初代大統領

シェフ・シャガリ (1925～2018) 第6代ナイジェリア大統領

アリスティデス・ペレイラ (1922～2011) カーボベルデ初代大統領

ダウダ・ジャワラ (1924～2019) ガンビア初代大統領

モーリス・ヤメオゴ (1921～1993) ブルキナファソ初代大統領



Phumuzuzulu kaDinuzuluの子※画像なし

サモラ・マシェル (1933) モザンビーク初代大統領

ポール・ビヤ (1933) カメルーン第2代大統領

イグナティウス・アチャンポン (1931～1979) ガーナ第6代国家元首※画像無し

マチュー・ケレク（1933～2015） ベナン共和国初代、第3代大統領
ルイス・カブラル（1931～2009） ギニアビサウ共和国初代大統領



Phumuzuzulu kaDinuzuluの子※画像なし

ランサナ・コンテ（1934～2008） ギニア共和国第2代大統領
コナン・ベディエ（1934） コートジボワール第2代大統領

※1995年、ギニア人デンバ・アブーが若い女性を串焼きにして食べる事件が発生した。アブーはコンテの子と考えられる。コンテは下のベディエ、マシェルとは異母兄弟の可能性もある。同じ1995年、35人の人間を食べていた呪術師の集団が逮捕された（禁固3年！）。ヤウア・ミゼ、カフィムル・フィエ、ヤウア・コッシア。この呪術師たちは、ベディエ大統領の家族と考えられる。1997年、コート・ジボワールで3人の呪術師が35人の人間を食べて禁固3年となる。この3人の呪術師の1人がベディエだった可能性がある。





Phumuzuzulu kaDinuzuluの子※画像なし

オマール・ボンゴ・オンディンバ（1935～2009） ガボン第2代大統領

エッソノ・ムバ・フィロメノ（?～?） 大呪術師※画像なし

ニヤシンベ・エヤデマ（1935～2005） トーゴ共和国第3代大統領

ジョアン・ヴィエイラ（1939～2009） ギニアビサウ共和国第2代大統領

テオフィル・ムバ・ヌテム（?～?） 人喰いカルト教団教祖※オンディンバ大統領の子？

1998年、カルト集団「アラン・ムオエニング」の首領テオフィルが逮捕された。テオフィルは、自分がルシフェルの化身であり、信者にも、彼らが自然の過ちから生まれたものと教えていた。このカルト集団は6人を殺して食べた。彼らは死体を聖なる池に浸した後、胃、肝臓、心臓、肺を取り出し、野菜と煮てスープを作った。信者たちは、神の加護や力、義務の免除を得られるとしてがつがつ食べたという、裁判所はテオフィルに死刑の判決を下し、料理の支度をしたテオフィルの妻に5年間の強制労働、会食に参加した信者には執行猶予付きの軽い刑を課した。マルタン・モネステイエ著「食人全書」より

ズールー王Cyprian Bhekuzulu kaPhumuzuzuluの子



Goodwill Zwelithini kaBhekuzulu (1948) ズールー王
アラサン・ワタラ (1942) コートジボワール第5代大統領
ナナ・アクフォ＝アド (1944) ガーナ第5代大統領
ムハンマド・ブハリ (1942) ナイジェリア第15代大統領

Goodwill Zwelithini kaBhekuzuluの子



Goodwill Zwelithini kaBhekuzuluの子※画像無し
マッキー・サル (1961) セネガル第4代大統領
アリー・ボンゴ・オンディンバ (1959) ガボン第3代大統領

ジョゼ・マリオ・ヴァス（1957） ギニアビサウ共和国第5代大統領



Prince Lethukuthula Zulu（1970）※画像無し

モハメド・ユセフ（1970～2009） ボコ・ハラム指導者

ミシェル・オバマ（1964） 性転換者

※ユセフにはズルー王族の血が流れていると考えられるが、彼らは豹人間たちを統率し、「ボコ・ハラム」を結成したと考えられる。ボコ・ハラムの由来はペグーとビルマの組み合わせである。ペグー+ビルマ=ペグ・ヒルマ=ボコ・ハラムとなる。つまり、ミャンマーから来ていることが分かる。



Princess Nombuso Zulu（1973）※画像無し

アヤナ・プレスリー（1974） 民主党

※まず、プレスリーに謝れ。兄弟はみなボコ・ハラムのメンバーだと考えられる。



Prince Misuzulu Zulu (1974) ※画像無し

アブバカル・シェカウ (1975) ボコ・ハラム指導者

※2014年、彼らはキリスト教徒の村を襲って100人を殺害している。また、同じ年に学生寮を襲撃して女子生徒240人を拉致し、翌年には少女を使って自爆テロを行っている。2015年にはバガ郊外の多国籍軍基地を奪取し、2000人もの住民を大量に虐殺している。

ダーナ神族の一族～ディオニュソス、デニエン人、猿田彦、契丹、デーン人、鬼、酒呑童子、ハーバード大学、ジョージ・ワシントン大統領、アメリカ連合国、統一イタリア王国、カナダ、ニュージーランド、阿含宗

- ・ 司神タナトス/冥府の王ハデス（2万年前）
- ・ 魔犬ケルベロス（2万年前）
- ・ 悪鬼ケール（2万年前）
- ・ 復讐の女神エリニユス（2万年前）

※「最終戦争ラグナロク」が発生すると、一部ダニ族は、島の北半分が氷河の下に眠っていたブリテン島南部に移住して「司神タナトス」を称し、「魔犬ケルベロス」「悪鬼ケール」「復讐の女神エリニユス」を生んだ。司神タナトスは、先住者ハデス、プルートー、ペルセポネ、ヘカテらを配下に置き、冥府の王ハデスを名乗った。

「ネアンデルタールが切断して焼いた骨がフランス・シャラント県で発掘される」（BC7千年）

「ネアンデルタールが36人の子女を食べた痕跡がドイツ・バンベルク洞窟で発掘される」（BC6千年）



ダーナ神族（1万年前）

ディネ族（1万年前）※画像なし



※バベルの塔の図

※司神タナトスは、大地殻変動後のヨーロッパと北アメリカ大陸を支配していた。彼らはヨーロッパでは「ダーナ神族」、アメリカでは「ディネ」を称した。ディネとダーナの名の由来はディオオーネーである。ディオオーネー＝ディオニュー＝ディネとなり、ディオオーネー＝デオオーネ＝ダーナとなる。

ダーナ神族はイングランドとヨーロッパを掌握していたが、アイルランド、スコットランドには科学の種族エラド、マハラエル、トバルカインが住んでいた。比類なき科学を誇ってはいても、科学の種族も人間である。つまり、心がある。ダーナ神族は彼らの心を傷つけることを考えた。科学の種族が共存しているアイルランド人、スコットランド人を邪教の信者として確保すれば、科学の種族にイヤガラセができる。そうすれば、悪者扱いして退けたり、強い罪悪感を植えつけて科学の種族の操作も可能となる。ダーナ神族はそう考えた。

これにより、「トロイア戦争」「マー・トゥーレスの戦い」が起きた。トロイア戦争は現アイルランド北部のデリーで起き、マー・トゥーレスの戦いは現フランスのツールで起きた。科学の種族に敗北したダーナ神族は、ヨーロッパからメソポタミアに移り、現人民を支配するためにバベルの塔を建設させた。



ディオニューソス（BC 5千年）

※科学の種族トバルカインの核攻撃でバベルの塔とバビロニア全域が壊滅し、荒廃すると、ダー

ナ神族は現サハラ砂漠（当時は深緑豊かな土地だった）に向かった。そこには科学の種族の国テーバイ王国が存在した。この時に「ディオニュソス」が生まれた。

バベルの塔時代、スーサに根城があったダーナ神族は、ディオナーとスーサを組み合わせた。ディオナー＋スーサ＝ディオネス＝サ＝ディオニュソスとなる。ディオニュソスはぶどうの木を盗み、テーバイ王国のぶどう栽培技術とワイン製造技術を権益化し、法整備も行った。このため、テーバイ王国はディオニュソスの許可なしにぶどうを栽培し、ワインを作ることができなくなった。

一方、ディオニュソスは邪教を作り、多くの女性信者を集めた。これは現代で言うところのフェミニズム、性差別反対であり、目的は家族の破壊である。女たちをディオニュソスに取られた男たち（幼子、息子、夫、父）は困惑した。そして、これに異議を唱えると家族の女性に殺害され、信者の集団に八つ裂きにされた。

ソドムとゴモラの時、テーバイ王国は大量の核兵器により壊滅し、サハラ砂漠と化した。この時にディオニュソスと邪教も一時的に消滅した。しかし、生き残った残党が再度、インダス流域に移った第二テーバイ王国にも出現した。これが「ディオニュソスは二度生まれた」という説話の真意である。

テーバイ王国は古代ギリシアにはなかった。テーバイ王国とは、サハラ砂漠とインダス流域に存在した、科学の種族トバルカイン（善神デーヴァ）の国である。



- ・デニエン人（BC 12世紀）
- ・シェルデン人（BC 12世紀）

※ディネ族はアラスカを発つと、北極圏を通過して大西洋側に出、アイスランド、アイルランドを經由して地中海に帰還した。ディネ族はイタリア半島に上陸し、「ティニア」という神を祀った。ティニアの名の由来はディネである。ディネ＝ディニア＝ティニアとなる。サルディーニャ島に拠点を得た彼らはデニエン人、シェルデン人を称した。デニエン人は、シェルデン人と共に悪の「海の民」として地中海を荒らした。

- ・ムワタリ1世（生没年不詳） ヒッタイト王 在位不明BC 1430頃

- ・アルヌワンダ1世 (?~BC1375) ヒッタイト王 在位BC1400~BC1375
 - ・トゥドハリヤ2世 (?~BC1355) ヒッタイト王 在位BC1375~BC1355
 - ・ハットウシリ2世 (生没年不詳) ヒッタイト王 在位不明
 - ・トゥドハリヤ3世 (?~BC1344) ヒッタイト王 在位BC1360~BC1344
 - ・シュッピルリウマ1世 (?~BC1322) ヒッタイト王 在位BC1344~BC1322
- 2
- ・ムルシリ2世 (?~BC1295) 在位BC1321~BC1295
 - ・ムワタリ2世 (?~BC1272) 在位BC1295~BC1272
 - ・ムルシリ3世 (?~BC1267) ヒッタイト王 在位BC1272~BC1267
 - ・クルンタ (生没年不詳) ヒッタイト王 在位不明
 - ・シュッピルリウマ2世 (?~BC1178) ヒッタイト王 在位BC1207~BC1178
- 8

※デニエン人はヒッタイト帝国の王位を篡奪し、正統なヒッタイトの系譜と対立しながら何度かヒッタイト王の座に就いている。シュッピルリウマ2世の治世に、王は家族である海の民（デニエン人、シェルデン人）を導きいれ、ヒッタイト帝国を滅ぼした。シュッピルリウマ2世は内から、デニエン人は外からヒッタイト帝国を攻撃した。

■スキタイ人の王

ザントス (?~?) テーバイ第16代王 在位BC1126~1089頃

鬻熊 (?~?) 初代楚王 在位1099~1050

成王 (?~BC626) 楚王 在位BC671~BC626

プロトテュエス (BC7世紀) スキタイ王

武王 (?~BC690) 第21代楚王 在位BC741~BC690

スパルガペイテス (BC7世紀) スキタイ王

共王 (BC600~BC560) 第27代楚王 在位BC591~BC560

イダンテュルソス (BC6世紀) スキタイ王

恵王 (?~BC432) 第34代楚王 在位BC489~BC432

アリアペイテス (BC5世紀) スキタイ王

簡王 (?～BC408) 第35代楚王 在位BC431～BC408

スキュレス (BC5世紀) スキタイ王

※デニエン人 (シェルデン人) は、ギリシアのテーバイとメッシニアに拠点を築いた。テーバイ人がスキタイ人となり、メッシニア人がマッサゲタイ人となった。スキタイの由来はアッティカとボイオーティアの組み合わせである。アッティカ+ボイオーティア=ティカティア=シカティア=スキタイとなる。そして、マッサゲタイの由来はメッシニアとスキタイの組み合わせである。メッシニア+スキタイ=メッシキタイ=マッサゲタイとなる。

また、スキタイ人は長江流域に国家を築いていた。楚 (シュ) である。楚 (シュ) の由来はスキタイである。スキタイ=シュキタイ=楚 (しゅ) となる。楚王はスキタイ人の王を兼ねていた。歴史ではスキタイ人が喰人を行っていたとされているが、タナトス一族の血を引いているならそれも合点がいく。マッサゲタイ人も喰人を行っていたとされている。彼らは、非常な高齢に達した者を殺して煮て食べたという。



猿田彦 (BC945)

※「アメン神官団の大航海時代」の東方組に参加したシェルデン人はモレヤ族と共に日本に上陸した。モレヤ族は諏訪国に移住して現地人の混合し、「守屋氏」を称して「洩矢信仰」を興した。シェルデン人は伊勢国に赴いて「五十鈴川」を拠点に「猿田彦」を称した。シェルデン=シェルテ=猿田となり、イシス=イシズ=五十鈴となる。

田和 (?～BC385) 田齊初代王 在位BC386～BC385

悼王 (?～BC381) 第37代楚王 在位BC402～BC381

田横 (?～BC 202) 田斉第16代王 在位BC 203～BC 202※最後の王

懐王 (?～BC 206) 第48代楚王 在位BC 208～BC 206※最後の王

※猿田彦は日本から中国に渡り、田和として斉を篡奪し初代王に即位した。また、楚王悼王も演じた。田(ティエン)の由来はデニエンである。彼らは春秋戦国時代に打って出た。しかしBC 284年、中国人に嫌われていた田氏は、燕・秦・趙・魏・韓の連合軍により大敗を喫する。

ヴィリアトス (?～BC 139) ルシタニア首長

※楚、田斉が滅ぶと、王族は地中海に帰還し、イベリア半島に入植した。この時にルシタニア人が生まれた。ルシタニアの由来はサテュロスとデニエンの組み合わせである。サテュロス+デニエン=ロスデニエン=ルシタニアとなる。ルシタニア戦争(BC 155～BC 139)でローマに対して蜂起するも、イベリア半島が属領と化すと、ルシタニア人はイベリア半島を脱出する。



ミシャグチ (BC 139)

※日本に帰還したルシタニア人は守屋氏がいる諏訪国に移り、「洩矢神」「建御名方神」を篡奪して自身の神である「ミシャグチ」を祀った。ミシャグチの名の由来はマッサゲタイである。マッサゲタイ=マサゲチャイ=ミシャグチとなる。その後、諏訪氏が「中先代の乱」を起こすと、ミシャグチは諏訪国を出て日本各地に移り、「溝口氏」を称した。溝口の名の由来はミシャグチである。この系統からは映画監督溝口健二が輩出されている。

高階師尚 (864～916) 信濃守

※939年の天慶の乱などの発生によって地方武士が台頭を始めると、一部ミシャグチは諏訪国を発ち、インドを目指した。日本人の顔をした彼らはヒンドゥー教・シヴァ派を学び、「シャクティ派」を形成した。シャクティの名の由来はマッサゲタイ、或いはスキタイである。

■伝説のガーナ王国の王

段日陸眷（生没年不詳） 初代大人 在位不明
段乞珍（生没年不詳） 第2代大人 在位不明
段務勿塵（?～311） 第3代大人 在位?～311
段疾陸眷（?～318） 第4代大人 在位311～318
段涉復辰（?～318） 第5代大人 在位318
段末波（?～325） 第6代大人 在位318～325
段牙（生没年不詳） 第7代大人 在位325～?
段遼（?～338） 第8代大人 在位?～338
段蘭（生没年不詳） 第9代大人 在位338～?
段龕（?～357） 第5代大人 在位?～357

※諏訪でミシャグチを祀るルシタニア人はモンゴルで段部（ドゥアン）を生んだ。同時に、段部は西アフリカに入植すると「ダン族」を称した。ガーナ王の系譜は不明だとされているが、段部の大人がガーナ王国の王を兼任していたと考えられる。一方、黒人ダン族は人喰いとして有名だった。

- ・ガーナパトヤ派（4世紀頃）
- ・ジャラワ族（4世紀頃）

※段部（黒人ダン族）は、アンダマン諸島にカニバリズムを伝えた。この時にジャラワ族が生まれた。ジャラワの名の由来はニジェールである。ニジェール＝ニジェラワ＝ジャラワとなる。更に、インド本土に足を伸ばし、ヒンドゥー教・シヴァ派に接触した。彼らは、「ガーナパトヤ派」を形成した。ガーナパトヤの名の由来はガーナとシヴァの妻パールヴァティーの組み合わせである。ガーナ+パールヴァティー＝ガーナヴァティー＝ガーナパトヤとなる。



求那跋陀羅（394～468）

※段部（黒人ダン族）は、インドを北上して西域に入った。彼らは大宛を目指した。段部（黒人ダン族）は、大宛の別称「フェルガーナ」の名を生んだ。フェルガーナの名の由来はバアルとガーナの組み合わせである。西アフリカから来た鬼は、ガーナ王国の威光を借りんとガーナの名を持ち出した。バアル+ガーナ=バアルガーナ=フェルガーナとなる。

一方、段部（黒人ダン族）は大宛に「求那氏（グーナ）」を生んだ。求那の名の由来はガーナである。大宛に集合したタナトスの末裔たちは、AD6世紀頃に仏教を用いてアジアを征服する計画を立てた。求那氏からは、求那跋摩、求那跋陀羅が出て「菩薩善戒経」「雑阿含」などを著した。求那氏は仏教経典を著しながら、インド洋に出て人間狩りを行い、人肉を食べていた。



カナク族（4世紀頃）

※現ミンダナオ島に上陸した段部（黒人ダン族）はニューカレドニアに赴いて人食い人種として知られる「カナク族」を生んだ。カナクの由来はガーナキ（ガーナの人）である。ミンダナオの名の由来はアンダマンとダナーンの組み合わせである。アンダマン+ダナン=マンダナン=

ミンダナオとなる。この時、アフリカ各地と同様にフィリピンにもカニバリズムが伝えられた。現在でも、カニバリズムに根ざした犯罪が時折フィリピンで発覚している。



サアロア族（4世紀頃）

※段部（黒人ダン族）はミンダナオの次に台湾に上陸した。この時にサアロア族が生まれた。サアロアの名の由来はジャラワである。ジャラワ=サアラワ=サアロアとなる。サアロア族には首狩りの風習があった。



チャルーア族（4世紀頃）

※太平洋を越えた段部（黒人ダン族）は南アメリカに上陸した。この時にチャルーア族が生まれた。チャルーアの名の由来はサアロアである。サアロア=チャロア=チャルーアとなる。チャルーア族は喰人行為を行っていた。

■鬼の正体（契丹王）

- ・何辰（生没年不詳） 契丹首長 在位470頃
- ・勿于（生没年不詳） 契丹首長 在位479頃

多彌可汗（生没年不詳） 契丹首長 在位585頃
フグレイク（?~?） デンマーク王 在位515頃

- ・咄羅（?~627） 契丹王 在位619~627
- ・摩会（?~644） 契丹王 在位627~644
- ・窟哥（?~658） 契丹王 在位644~658
- ・阿不固（?~660） 契丹王 在位653~660
- ・李盡忠（?~696） 契丹王 在位675~696
- ・孫萬榮（?~697） 契丹王 在位696~697

李失活（?~718） 契丹王 在位697~718
アンガンチュール（?~710） デンマーク王 在位710

- ・李娑固（?~720） 契丹王 在位718~720
- ・李鬱干（?~724） 契丹王 在位720~724
- ・李吐干（?~725） 契丹王 在位722~725
- ・李邵固（?~730） 契丹王 在位725~730

- ・屈列（?~734） 契丹王 在位730~734
- ・過折（?~735） 契丹王 在位735
- ・李懷節（?~745） 契丹王 在位735~745
- ・楷落（?~788） 契丹王 在位746~788

蘇可汗（?~794） 契丹王 在位788~800
シーフレス（?~790） デンマーク王 在位770~790

- ・巴刺可汗（?~820） 契丹王 在位800~820
- ・昭古可汗（?~842） 契丹王 在位820~842
- ・屈戌（?~860） 契丹王 在位842~860
- ・習爾（?~882） 契丹王 在位860~882
- ・欽德（?~906） 契丹王 在位882~906

※イフェ王国の神官は「オニ」と呼ばれたが、この「オニ」の地位を持つ黒人ダン族が日本に上陸した。日本人を狩って食べていた黒人ダン族は「イフェの神官」を意味する「オニ」を自称したため、日本人に「鬼」と呼ばれた。阿用、大江山など鬼の巣として知られる地名はナイジェリアの地名「オヨ」から来ている。じつは、この日本人を食べる「鬼」の正体は契丹の王族だった。

契丹（キタイ）の由来はスキタイである。契丹の王族はモンゴルとバルト海を往来し、デンマークの王族としてデンマークを治めていた。デンマークの王族はデーン人である。デーンの由来はダンである。そして、デンマークの由来はダンとモレクの組み合わせである。ダン+モレク=ダンモレク=デンマークとなる。

山奥などに村を作って拠点としていた契丹は、里に降りて子女を誘拐し、食べたり、後継者を得るために子を生ませていた。というわけで、鬼が人間を食べたり拉致する説話が「出雲国風土記」「日本霊異記」「今昔物語」「伊勢物語」などに数多く残されている。日本各地に残る鬼の伝説から、平安時代を訪れた契丹（人喰い人種「黒人ダン族」）の生活を垣間見ることができる。鬼の子として生まれた「小綱」の話は有名だが、成人した彼は人を食べたくなくなったので自殺したと言われている。



鮮質可汗（?～882） 契丹王 在位860～882

ハーフダン（?～877） デンマーク王 在位871～877

※840年にウイグル王国が滅亡すると、黒人ダン族は正統なウイグル人、ナイマン人と共にモンゴルを後にし、北極海ルートを辿ってバルト海に現れた。黒人ダン族はここに「デーン人」を称した。また、ウイグル人は「ヴァイキング」を称し、ナイマン人は「ノルマン人」と呼ばれた。ヴァイキング時代の幕開けである。それぞれの名前の由来は不明とされ、全員が一緒くたにされることもあるが、実際にはヴァイキングやノルマン人は、ウソつきで非情なデーン人を忌み嫌い、別行動を取り、またあからさまに対立することがあった。

デーン人がダブリンに侵攻した際には「黒い異邦人」と呼ばれている。しかし、モンゴル人に混合しつつ、黒人ダン族の面影を残したデーン人が、ヨーロッパ人から「黒い異邦人」と呼ばれたとしてもおかしくはない。

ハーデクヌーズ1世 (?~940) デンマーク王 在位936~940

耶律堯骨 (902~947) 契丹第2代皇帝 在位927~947

段思平 (894~944) 大理国初代王 在位937~944

※この当時のダーナ神族はデンマーク、契丹、大理を支配していた。



ゴーム老王 (908~958) デンマーク王 在位936~958

段思良 (?~951) 大理国第3代王 在位945~951※画像なし

耶律阮 (919~951) 契丹第3代皇帝 在位947~951※画像なし

※フランク王国の王座を狙っていたデーン人の首領ビヨルンは、ヴァイキング・ノルマン人の連合と対立していた。この時、残虐なデーン人の侵攻に困っていたシャルル2世がヴァイキングの首領ヴィーラントにデーン人退治を要請した。

ヴァイキングに敗北したデーン人はフランク王国征服を断念し、イングランドに移った。これ以降、デーン人は大陸に出没することはなくなったが、イースト・アングリアに足場を得ると、現ヨークシャーを拠点にスコットランドとの境からロンドン近辺にまで至る広大な植民地を得た。デーンローである。

黒人、日本人、モンゴル人の特徴を持つデーン人はイギリス人と混合し、金髪・碧眼の白人の容貌を得た。しかし、ウェセックス王国のアルフレッド大王がデーンローを侵食しながら領土を拡大すると、AD910年、デーンローはウェセックス王国に飲み込まれて消滅した。



- ハーラル1世 (925~985) デンマーク王 在位958~985
段素順 (?~986) 大理国第5代王 在位969~986※画像なし
先皇帝 (924~979) 丁朝初代ベトナム皇帝 在位966~976※画像なし
耶律璟 (931~969) 契丹第4代皇帝 在位951~969※画像なし
耶律賢 (948~982) 契丹第5代皇帝 在位969~982※画像なし

※この当時のダーナ神族は、デンマーク王国、大理国（雲南）、ベトナム帝国、契丹（モンゴル）に渡る広範囲を支配していた。



- ハーラル2世 (989~1018) 在位1014~1018
段素廉 (?~1022) 大理国第7代王 在位1009~1022※画像なし
廢帝 (974~1001) 丁朝第2代ベトナム皇帝 在位979~980※画像なし
ラージャラージャ・チョーラ1世 (947~1014) チョーラ朝第9代王 在位985~1014
酒呑童子 (?~?)

※デーローを失ったデーロー人は、イングランドを後にした。彼らは日本を目指し、紅海、イン

ド洋を越えてベトナムに上陸した（一部は、アフリカ大陸周航ルートとシルクロードを經由して日本に帰還した）。彼らは「鬼」を復活させた。「酒呑童子」の誕生である。アフリカ周航ルートを採った人々は「酒呑童子」「茨木童子」「葛城童子」「八瀬童子」を称し、シルクロード組は「熊童子」を称した。酒呑の名の由来はサクソンとブリテンの組み合わせで、茨木の名の由来はイベリア人、葛城の名の由来はカスティーリャで、八瀬の名の由来はヘスス（イエス）、そして熊の名の由来はクマン族である。

サクソン+ブリテン=サク（酒）+テン（呑）=酒呑（しゅてん）、イベリアキ（イベリア人）=イバラキ=茨木、カスティーリャ=カツリャ=葛城、ヘスス=ハチセ=八瀬となる。つまり、酒呑の名には、ウェセックス王国のアルフレッド大王にデーンローを奪われた悔しさが込められ、残りの何は通過した土地の名を由来にしていることがわかる。

また、海路組と陸路組は連合して「星熊童子」「虎熊童子」「金熊童子」を儲けている。星熊の名の由来はアッバースとクマンの組み合わせ、虎熊の名の由来はトルコとクマンの組み合わせ、金熊の名の由来はガーナとクマンの組み合わせである。海路組が通過して印象的だった土地（アッバース朝、セルジューク・トルコ帝国、ガーナ王国）とクマンの名が組み合わせられているのがわかる。



ダンカン1世（1001～1040） ダンケルド朝スコットランド王 在位1034～1040

段素真（？～1041） 大理国第9代王 在位1026～1041※画像なし

※ダーナ神族は、新たにスコットランドを植民地に加えた。奈良時代・平安時代前期に鬼として日本人を震え上がらせたデーン人は、ヴァイキング時代を挟み、再度、日本に返り咲いて鬼の世を謳歌していた。しかし、酒呑童子が渡辺綱（953～1025）に成敗されると、それを機に童子一行は日本を逃げ出して、はるばるブリテン島にまで帰還した。

時期的には1000年前後のことと考えられる。イングランドではなく、スコットランドに拠点を構えた彼らはマルカム2世の子息に接近し、マルカム2世の孫を称した。これが「ダンケルド家」の祖ダンカン1世である。ダンケルドの名の由来はデーンとカレドニアの組み合わせである。デーン+カレドニア=デンカレド=ダンケルドとなる。



スヴェン2世エストリズセン (?~1074) デンマーク王 在位1047~1074
段思廉 (?~1075) 大理国第10代王 在位1044~1075※画像なし
ラーマーヌジャ (1017~1137) ラーマーヌジャ派教祖※画像なし



エーリク3世 (1090~1137) デンマーク王 在位1134~1137
耶律大石 (1087~1143) 西遼初代王 在位1124~1143※画像なし

クヌーズ5世 (1129~1157) デンマーク王 在位1146~1157
耶律夷列 (?~1163) 西遼第2代王 在位1151~1163



アレクサンダー3世 (1241~1286) ダンケルド朝スコットランド王 在位1249~
1286※最後の王
段祥興 (?~1251) 大理国第21代王 在位1238~1251※画像なし

段興智 (?～1253) 大理国第22代王 在位1251～1253 ※画像なし、最後の王



ロバート1世 (1274～1329) ブルース朝スコットランド王 在位1306～1329

ラドゥ・ネグル (1269～1310) 初代ワラキア公 在位1290～1310

※ダーナ神族は新たにワラキアを植民地に加えた。



デビッド2世 (1324～1371) ブルース朝スコットランド王 在位1329～1371

※最後の王

ラドゥ・ネグルの子

・ダン1世 (1354～1386) 初代ダネスティ家ワラキア公 在位1383～1386

・ヴラド1世 (?～1397) 第2代ダネスティ家ワラキア公 在位1394～1397



ダン2世 (?～1432) 第3代ダネスティ家ワラキア公 在位1420～1431



モイス (?～1530) ダネスティ家ワラキア公 在位1529～1530※ダネスティ家最後の公

※ダネスティ家はワラキア公の座を諦めるとイングランドに渡った。彼らはダンスターを称した。ダンスターの由来はダネスティである。



ペーター (1547～1569) ドラクル家ワラキア公 在位1559～1568

ロバート・ブラウン (1550～1633) 会衆派教祖、ピルグリム・ファーザーズ

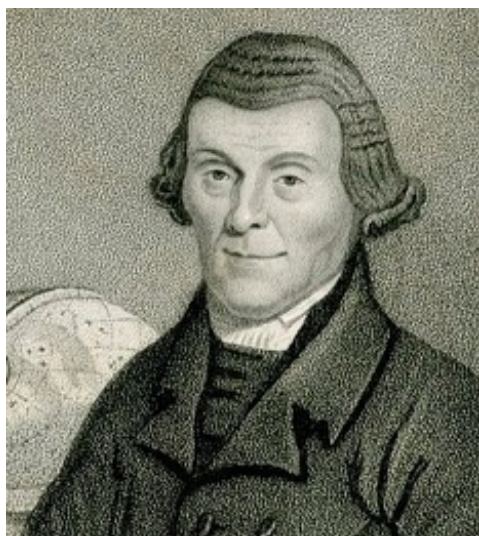
ジョン・グリーンウッド (1556～1593) 清教徒分離派、ピルグリム・ファーザーズ

ヘンリー・バロウ（1550～1593） 清教徒分離派、ピルグリム・ファーザーズ



※画像はピルグリム・ファーザーズの集い。ダネスティ家ヴラド1世の末裔ワラキア公ペーターは22歳で死んだことによりワラキアを離れ、ブリテン島に移住した。彼は、ロバート・ブラウンとして会衆派を指揮し、影武者を動員してピルグリム・ファーザーズを演じ、信者を率いてアメリカに移住した。ピルグリム・ファーザーズはタナトスの一族なので、助けてくれたインディアンの恩を容易に仇で返した。

ロバート・ブラウンの9人の内の子



ヘンリー・ダンスター（1609～1658） ハーバード大学初代学長

ヴィットーリオ・アメデーオ1世（1587～1637） サヴォイア公※画像なし

※ヘンリー・ダンスターは、タナトス一族の子女に権威を与えるためだけにハーバードを設立したと考えられる。ハーバード設立の目的は、タナトス一族の発言力増大と影響力の拡大である。ハーバード卒という権威を得たタナトス一族の子女は、エリートとして司法、議会、マスメディア、経済界に送り込まれ、影響力を誇った。また、ダンスターはサルディーニャ王国に進出し、サヴォイア公の座を手中にした。ダンスター（ヴィットーリオ・アメデーオ1世）の家系から

アメリカ初代大統領ジョージ・ワシントンの一族、統一イタリア王家が輩出されている。



カルロ・エマヌエーレ2世（1634～1675） サヴォイア公※ヴィットーリオ・アメデーオ1世の子

ジョン・ワシントン（1631～1677）※画像なし



ヴィットーリオ・アメデーオ2世（1666～1732） 初代サルデーニャ王 在位1720～1730

ローレンス・ワシントン（1659～1698） アグスティン・ワシントン父※画像なし

※サヴォイア公カルロ・エマヌエーレ2世の子である。



ヴィットーリオ・アメデーオ・ディ・サヴォイア（1699～1715）

アグスティン・ワシントン（1694～1743） ローレンス・ワシントンの子※画像なし

※サルデーニャ王ヴィットーリオ・アメデーオ2世の子である。影武者のアグスティン・ワシントンはジョージ・ワシントンを儲ける。

第2代サルデーニャ王カルロ・エマヌエーレ3世の子



ヴィットーリオ・アメデーオ3世（1726～1796） 第3代サルデーニャ王 在位1773～1796

ジョージ・ワシントン（1732～1799） アメリカ初代大統領

ルイージ・ヴィットーリオ・ディ・サヴォイア＝カリニャーノ（1721～1778）※画像なし

マルティネス・ド・パスカーリ（1727～1774） 秘密結社マルティニスト会代表※画像なし

※ワシントンの正体はサルデーニャ王アメデーオ3世であり、ローレンス・ワシントン（ヘンリー・ダンスター）の孫。ワシントンはインディアン政策に関してインディアンの皆殺しを指示した。これはタナトスの一族の証拠である。第2代アメリカ大統領以後は、みなベンジャミン・フランクリンの子であり、ダヴィデの一族に属していた。

ベネデット（1741～1808） シャブレー公

ヴィットーリオ・アメデーオ2世・ディ・サヴォイア＝カリニャーノ（1743～1780）

第5代カリニャーノ公

ルイ・クロード・ド・サンマルタン（1743～1803） 秘密結社マルティニスト会代表※画像なし

第3代サルデーニャ王ヴィットーリオ・アメデーオ3世の子



ヴィットーリオ・エマヌエーレ1世（1759～1824） 第5代サルデーニャ王 在位1802～1821

フィリッポ・ブオナローティ（1761～1837） カルボナリ会員

フランソワ・ノエル・バブーフ（1760～1797） 秘密結社パンテオン・クラブ代表

※ヴィットーリオ・エマヌエーレ1世はサルデーニャ王でありながら、同時にブオナローティを演じ、秘密結社カルボナリを指揮していた。タナトスの組織は常にそうだが、カルボナリの指揮者も、みな兄弟や甥で固められており、家族経営だった。



マリー・テレーズ（1783） マリーア・テレーザの子※画像なし

George Washington Parke Custis（1781～1857） ジョージ・ワシントン孫

フランチェスコ1世（1777～1830） 第2代両シチリア王 在位1825～1830

※マリー・テレーズは第3代サルデーニャ王ヴィットーリオ・アメデーオ3世の孫である。敵の目を欺くために女子として生まれたマリー・テレーズは早世したことにされ、男子に戻っ

てParke Custisとして育てられた。また、Parke Custisはフランチェスコ1世として両シチリア王に即位した。

■秘密結社カルボナリ指揮者名簿（第3代サルディーニャ王ヴィットーリオ・アメデーオ3世の子と孫）

- ・カルロ・エマヌエーレ4世（1751～1819） 第4代サルディーニャ王
- ・マウリツィオ・ジュゼッペ・マリーア（1762～1799） モンフェッラート公※画像なし
- ・カルロ・フェリーチェ（1765～1831） 第6代サルディーニャ王
- ・ジュゼッペ・ベネデット（1766～1802） モリアーナ伯

※カルボナリの活動期間は1806年から1832年までである。カルボナリの首領の名は知られていないが、ヴィットーリオ・アメデーオ3世の子と孫が指揮を務めていたと考えられる。マウリツィオ・ジュゼッペ・マリーアは37歳で死んだことにして、ジュゼッペ・ベネデットは36歳で死んだことにして潜伏し、カルボナリの指揮官として活動した。

- ・ルイ・アントワーヌ（1775～1844） マリー・テレーズ・ド・サルデーニュの子
- ・ソフィー（1776～1783） マリー・テレーズ・ド・サルデーニュの子
- ・シャルル・フェルディナン（1778～1820） マリー・テレーズ・ド・サルデーニュの子
- ・マリー・テレーズ（1783） マリー・テレーズ・ド・サルデーニュの子
- ・マリーア・アデライーデ（1794～1802） ヴィットーリオ・エマヌエーレ1世の子
- ・カルロ・エマヌエーレ（1796～1799） ヴィットーリオ・エマヌエーレ1世の子

※早世したことになる男子は、カルボナリの活動に専念するために死んだことにして潜伏していた。敵の目を欺くために女子として生まれたマリー・テレーズとソフィーは、早世したことにしてカルボナリに参加していた。カルボナリ後期の指揮者は3歳で死んだはずのカルロ・エマヌエーレ（サルディーニャ王カルロ・アルベルト・ディ・サヴォイア）だった。

サルディーニャ王ヴィットーリオ・エマヌエーレ1世の子



カルロ・エマヌエーレ（1796～1799）※画像なし

カルロ・アルベルト・ディ・サヴォイア（1798～1849） 第7代サルデーニャ王 在位
1831～1849

アントニオ・パニッツィ（1797～1879） 大英博物館第6代館長、カルボナリ会員※画
像なし

ピエトロ・マロンチェッリ（1795～1846） カルボナリ会員※画像なし

フランクリン・ピアース（1804～1869） アメリカ第14代大統領

ジュゼッペ・マッツィーニ（1805～1872） イタリア統一の三傑

※ピアースは、ワシントンの孫パーク・カーチスの4人の子の内の1人と考えられる。パーク
・カーチスの子は娘のメアリー・アナ以外は早世したとされているが、1人は死んだことにして
潜伏し、ピアースとして登場した。片手を胸に入れているのはフリーメイソン会員のアピールで
ある。



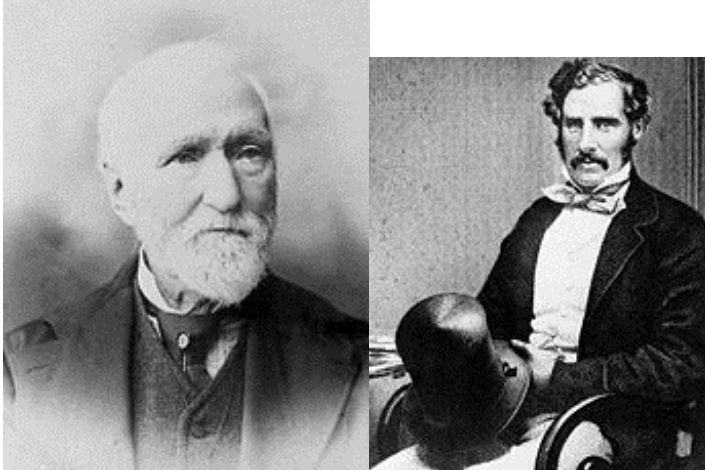
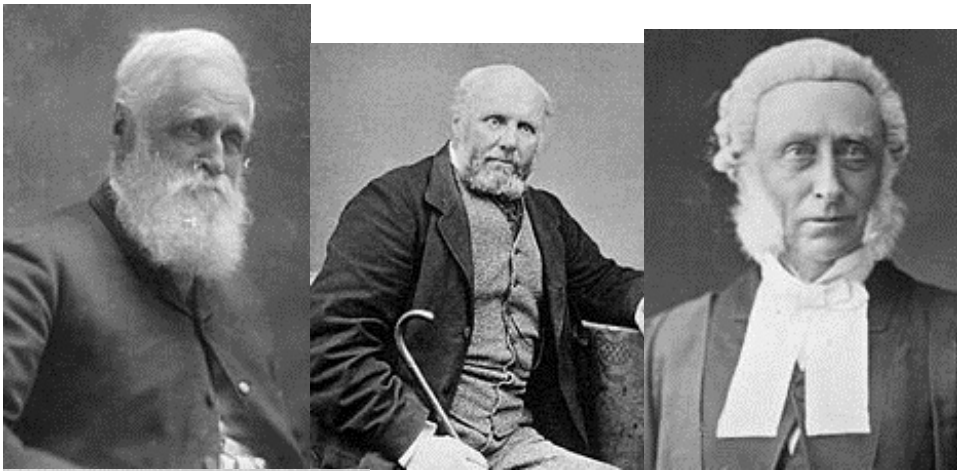
女子（1800～1801）※画像なし

メアリー・アナ・カーチス・リー（1807～1873） ロバート・E・リー妻



マリーア・テレザ・ディ・サヴォイア（1803～1879） ヴィットーリオ・エマヌエーレ1世の子※画像なし

ヘンリー・シーウェル（1807～1879） 初代ニュージーランド首相



マリーア・クリスティーナ・ディ・サヴォイア（1812～1836） ヴィットーリオ・エマヌエーレ1世の子※画像なし

ウィリアム・フォックス（1812～1893） 第2代ニュージーランド首相

アルフレッド・ドームット（1811～1887） 第4代ニュージーランド首相

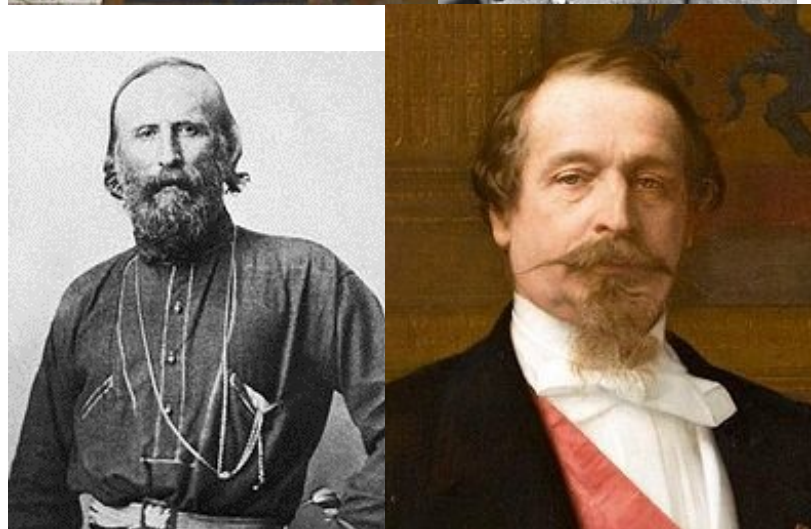
フレデリック・ウィテカー（1812～1891） 第5代ニュージーランド首相

ダニエル・ポーレン（1813～1896） 第9代ニュージーランド首相

ジョージ・グレイ（1812～1898） 第11代ニュージーランド首相

※ニュージーランドの由来は「新しいシェラント（デンマーク領の島）」だと考えられる。つまり、ニュージーランドの統治者はデーン人の子孫であることを暗に告げている。

第2代両シチリア王フランチェスコ1世（George Washington Parke Custis）の子



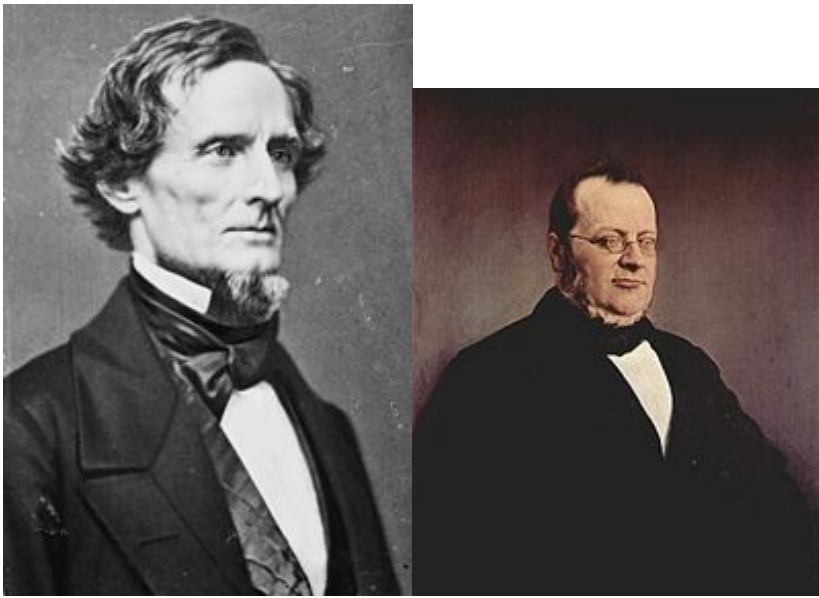
フェルディナンド2世（1810～1859） 第3代両シチリア王 在位1830～1859

ロバート・E・リー（1807～1870） 南部連合軍総司令官

ジュゼッペ・ガリバルディ（1807～1882） イタリア統一の三傑

ナポレオン3世（1808～1873） フランス第二帝政初代皇帝

※フェルディナンド2世の影武者たちはアメリカ南部の支配を逃したが、イタリア、フランスを掌中にしていた。



カルロ・フェルディナンド（1811～1862）※画像なし

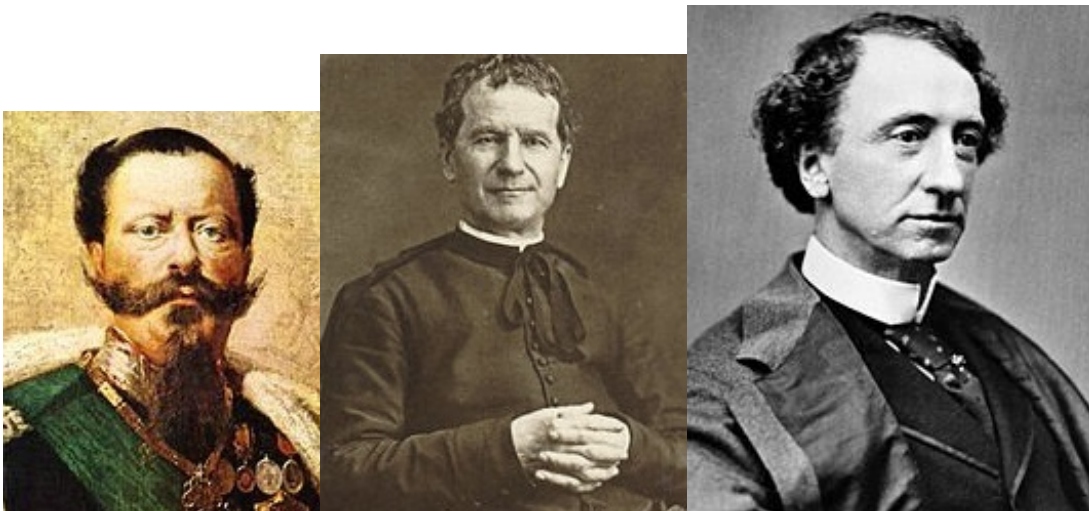
ジェファーソン・デイヴィス（1808～1889） アメリカ連合初代大統領

カミッロ・カヴール（1810～1861） サルデーニャ王国・イタリア王国首相、イタリア統一の三傑

※南軍ロバート・E・リーもジェファーソン・デイヴィスも、じつは死んだとされているはずのパーク・カーチスの子の可能性が。パーク・カーチスの頭の中には祖父ワシントンの栄光の再興、そのためのアメリカ連合創設があった。万全を帰すため、パーク・カーチスは子どもたちを死んだことにして潜伏させ、反合衆国の思想を叩き込み、育てたのだろう。

しかし、南北戦争に敗北し、アメリカ連合が滅亡すると、ピアースたちはアメリカを諦めてサルデーニャ王国に渡り、イタリア統一の三傑に変身してイタリア王国統一を実現させている。カルボナリ会員もみな、サルデーニャ家の人々など家族で構成されていた。

サルデーニャ王カルロ・アルベルト・ディ・サヴォイアの子



ヴィットーリオ・エマヌエーレ2世（1820～1878） イタリア王国初代王 在位1849～1861

ヨハネ・ボスコ（1815～1888） サレジオ会教祖

ジョン・A・マクドナルド（1815～1891） 初代カナダ首相

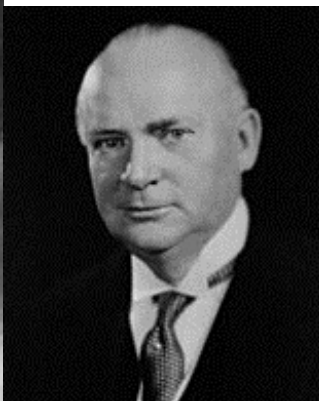
※カナダの由来はクヌード（クヌード海上帝国の王）と考えられる。つまり、カナダの統治者はデーン人の子孫であることを暗に告げている。



ヴィットーリオ・エマヌエーレ（1855～？） ジェノヴァ伯爵※画像なし

ロバート・ボーデン（1854～1937） 第8代カナダ首相

イタリア王ウンベルト1世の子



ヴィットーリオ・エマヌエーレ3世（1869～1947） イタリア王国第3代王

リチャード・ベッドフォード・ベネット（1870～1947） 第15代カナダ首相

ウィリアム・ライアン・マッケンジー・キング（1874～1950） 第12、14、16代

カナダ首相

イタリア王ヴィットーリオ・エマヌエーレ3世の孫



ジョルジョ・カルヴィ・ディ・ベルゴロ (1925) イオランダ・マルゲリータ・ディ・サヴォイアの子※画像なし

桐山靖雄 (1921～2016) 阿含宗管長

※そういえば教祖の桐山氏は、顔がなんとなく白人ぽい。



レミ (1942) マリーア・フランチェスカ・ディ・サヴォイアの子※画像なし

ライオネル・ゲンドロン (1943) カナダ・カトリック会議司教

※数十万のカナダ人カトリック信者を自由自在に操ることができる。カナダのラジコンマスター。

アブラハムの一族～シュメール文明、エフライム族、バアル、アフラマズダー、ゾロアスター教、マケドニア王国、聖徳太子、ピサ共和国、奥州藤原氏、フランシスコ・ピサロ、ヴァーサ朝、フィンランド共和国

アベラム族（4万年前）

※ニューギニアの部族であるアベラム族は、エピアルテースとクリュメネーの合体部族である。エピアルテース＋クリュメネー＝エピアリュメ＝アベラムとなる。その後、アベラム族はダニ族に篡奪されたと考えられる。

「シュメール人の大航海時代」（BC40世紀）

※この「シュメール人の大航海時代」により、ダニ族が約1万年ぶりに海外に進出を果たした。ニューギニアに寄ったシュメール人は、モニ族（メネストー）だけを招待したはずだが、モニ族の中には、ダニ族（ペガサス）、カウレ族（クリュサオル）の神官が紛れ込んでいた（アベラム族も参加していた）。

■チムー王国の王（シュメール文明の首長）

- ・ポング・マッサ（?～?） チムー王国新王朝初代王 在位BC40世紀
- ・パエス・マッサ（?～?） チムー王国新王朝第2代王 在位BC40世紀
- ・オシャ（?～?） チムー王国新王朝第3代王 在位BC40世紀
- ・イェム・ピサン（?～?） チムー王国新王朝第4代王 在位BC40世紀

※名前をトラッキングすると、シュメール人はメソポタミアではなく、現ポメラニア～ラップランド付近で生まれている。シュメールの由来はセム（サーミ人）とエウリュトス（アイルランドの神エールまたは科学の種族エラド）の組み合わせである。セム＋エウリュトス＝セムエウリュ＝シュメールとなる。フォモールも、ハム（ハミ族）とエウリュトス（科学の種族エラド）の組み合わせで生まれた。

その後、シュメール人は「シュメール人の大航海時代」に乗って古代アンデスに入植し、「チムー王国」を築いた。このときに本格的にシュメール文明が育まれた。シュメール文明はバルト海で生まれ、アンデス山脈で育まれたのだ。チムーの由来はセムである。

旧王朝の最後の王フェム・パエクは、チョトのニヤム・パシヤエクの祭壇を盗もうとして彼を誘

惑したある美しい婦人の呪縛に陥った。この冒涇の行為が、30日続く洪水と不作と飢えの年をもたらした。神官たちはこの報復にフェムパエクの手を括って海に投げ込んだ。旧王朝が滅んだ後、チムーの征服が行われた。「アンデス文明（L・G・ルンブレラス著）」より

※北欧を発ったシュメール人が、地中海、紅海、インド洋を越えてニューギニアに立ち寄り、モニ族（メネストー）を南米への旅路に誘うと、ダニ族やカウレ族がこそこそと隠れてこれに参加した。これにより、ダニ族、カウレ族は古代ペルー～古代チリ（ナスカ砂漠～アタカマ砂漠）に移住した。

ダニ族は、創造神アイ・アパエク崇拜、月の女神シ・アン崇拜の神官を装い、邪教によって大量の弱者を確保し、数で圧倒する形でチムー王国の優れた指導者を上記の如く退けた。タナトス特有の「敵が悪であれば殺しても良い」という手法が踏襲されているのが分かる。上記にリストアップした歴代チムー王は、人身御供を主催する邪教の神官も兼ねていただろう。

チムー人の中では、神殿への不敬と民法の違反は生き埋めにより罰された。盗賊を見つけるのに助けをもらうため、月とオリオン座に生贄が捧げられた。犯人が捕まると、両親や兄弟たちも被害者に引き渡され、処刑された。

呪医と妖術師の間には、はっきりした区別があった。前者は国家に養われ、薬草を使ってその職業活動を行ったが、後者は蔑まれるか恐れられるかした。男女の妖術師が集まって人肉を食い、性の乱交が行われた。「アンデス文明（L・G・ルンブレラス著）」より

※ダニ族神官は、人身御供を導入して優れた人々を公的に排除し、カニバリズムを持ち込むことで、人類の美德を廃した。男女の妖術師が集まって乱交とカニバリズムの饗宴に浸る部分は、現在のディープステートがやっていることと全く変わらない。

主要な人物は籐の敷き床の上に仰向けに寝かされ、欠けた所がなかった。しかしその上に乗った遺体は首を斬られ、手と首がなかった。第3の人物の頭蓋と長い骨はあとの二人の周りに散乱していた。首を斬られた人物は明らかに中心の人物が埋葬されたとき、生贄に捧げられたものである。「アンデス文明（L・G・ルンブレラス著）」より

※タナトスの一族にとって、人身御供とは公的に了承された敵の排除であるし、同時に、公的に許可された、人肉を調達する最良の手段でもある。アンデスで生贄にされた少女のミイラが発見されているが、一般的には、なぜそのような少女が生贄に処されたのかは不明だ。しかし彼女は、「誰でも好きになるような人物」だったと考えられる。

「誰でも好きになるような人物」は存在する。全ての人類にとって、人生の中でそのような人物に巡り合うことは至上の喜びだろう。タナトスはそのような人物を最も警戒・敵視する。なぜなら、そのような人物は説明が不要だからだ。目があれば、その人物が優れていることは誰にで

もわかるのだ（例え、言語を介しない赤ちゃんや犬でも）。そのような人物は、タナトスの僧侶のように、見せかけの肩書きを掲げ、役に立たない能書きを垂れる必要も無い。それ故、タナトスはそのような人物を危険視する。

そのような人物は、特に何もしなくとも、存在するだけでタナトスのウソを暴いてしまう。そして、誰も彼らの命令に耳を貸さなくなる。タナトスはそれを一番恐れている。発言力と城壁を失うことを非常に恐れている。



アブラム（BC 35世紀）

※聖書の人物アブラムは、現ペルーの古代アンデス山脈で生まれたと考えられる。アブラムの由来はアベラムである。アブラムは、息子とされているイサクを神に捧げようとしたことから人身御供の神官だったことがわかる。アブラムを長とする神官一族の拠点はアプリマック川流域にあった。アプリマックの由来はアベラムとリマック（リマの古名）の組み合わせである。

「サムエルの大航海時代」（BC 35世紀）

※ウソしかつかない、汚らわしいダニ族を嫌った優れた人々は、出羽国に住んでいた科学の種族に、ダニ族の始末を嘆願した。科学の種族はこれを当然の如く承諾し、数千発の核兵器をダニ族の領土にお見舞いした。そのため、ダニ族と共に大量の信者や彼らが篡奪した都市は砂漠と化した（ナスカ砂漠など）。

「サムエルの大航海時代」を企画したシュメール人は出羽国を目指してペルーを脱出した。しかし、サバイバルを遂げた一部ダニ族は、この船団にも忍び込んで出羽国にまでやってきた。シ

ユメール人がペルーから出羽国に移住したときにイスラエル王国の伝説が始まった。

エフライム族（BC 35 世紀）

※尾張国を建て、「エフライム」と呼ばれたアブラムは、その後、カナン（夏時代の中国）に渡った。エフライムの由来はアベラムである。アベラム＝アベライム＝エフライムとなる。この頃にアブラムからイブラヒーム、アブラハムなどと呼ばれるようになったと考えられる。

尾張国は、シリアにあった都市国家エブラと同一だと考えられる。また、アフラマズダーの名はまだ無かったが、尾張国はアフラマズダーと同義だったと考えられる。つまり、アフラマズダーと対立していたダエーワとは、科学の種族トバルカインが住む出羽国のことである。



- ・ 稲妻の神バアル（BC 35 世紀）
- ・ 勝利の女神アナト（BC 35 世紀）※画像なし

※「モーゼスの大移動時代」に参加したエフライム族はカナン（夏時代の中国）に、バアルとアナトを生んだ。バアルの由来はエピアルテースであり、アナトの由来はTANATOS（タナトス）の反対SOTANATである。SOTANAT=ANAT=アナトとなる。バアルとアナトは常にセットであり、夫婦、或いは兄妹とされている。



- ・サルゴン（生没年不詳） アッカド帝国初代王 在位BC 2334～BC 2279
- ・シュ=トゥルル（生没年不詳） アッカド帝国最後の王 在位BC 2168～BC 2154※画像なし

※アッカド帝国はメソポタミアにあったとされているが、実際にはヤクート族の領域（東シベリア）に存在したと考えられる。アッカド=ヤクート。アッカド王（ヤクート首長）には代々、アブラハムの一族が即位した。

年代もBC 24世紀に設定されているが、実際にはサウル朝・ソロモン朝（モンゴル）、ダヴィデ朝（チベット）が生まれたBC 35世紀頃にアッカド帝国（ヤクートの国）は誕生し、イスラエル王国の王朝と隣り合わせていたと考えられる。



- ・ブラフマン/梵天（BC 30世紀）
- ・アフラマズダー（BC 30世紀）※画像なし
- ・ゾロアスター（BC 30世紀）※画像なし
- ・ヴァイシュラヴァナ/毘沙門天（BC 30世紀）

※BC 30世紀に「黙示録アルマゲドン」が発生。大量の核兵器によってモンゴル～チベットは

壊滅し、放射能によって砂漠化した。アルマゲドンを機に、エフライム族は古代イランに落ち延びていた。当時のイランはズルヴァーンと呼ばれていたが、彼らはイランを「エフライムスタン」と呼んだ。このエフライムスタンが、後に「アフラマズダー」へと変遷が加えられた。ブラフマンとアブラハムは同義であるが、ブラフマンはこのときに生まれた。

ディオナーの一族であるため、ティールタンカラとは血筋が異なるが、このときに交流したため、影響を受けたようだ。その上でヴァイシュラヴァナの名が生まれた。ヴァイシュラヴァナの由来は24のティールタンカラに属するヴァースプージャとズルヴァーンの組み合わせである。ヴァースプージャ+ズルヴァーン=ヴァースルヴァーン=ヴァースルヴァーナ=ヴァイシュラヴァナとなる。

一方、エフライム族はイランを「シュレースタン」とも呼んだ。シュレースタンの由来は24のティールタンカラに属するシュレーサーンサである。このシュレースタンはやがて変遷が加えられ、「ゾロアスター」となる。



- ・クベラ（BC 12世紀）※画像なし
- ・ラーヴァナ（BC 12世紀）

※ヴァイシュラヴァナはカブールを拠点にしていたため「クベラ」と呼ばれた。また、ラーヴァナと呼ばれ、アルバ・ロンガ王国（アラビア半島～スリランカ）とラクシャサ（エジプトのヒクソス）を支配下に置いていた。ラーヴァナは、古代アラビア半島にあったローマ王国（ラーマ王子）と戦い、敗北した。

- ・アラマ（生没年不詳） ウラルトゥ初代王 在位BC 858～BC 844
- ・ルサ1世（生没年不詳） ウラルトゥ最後の王 在位BC 735～BC 714

※「マハーバーラタ戦争」の後、アブラハムの一族はインド周辺から古代メソポタミアに移住し、ウラルトゥ王国を築いた。ウラルトゥの由来はモンゴルの神々エルリクとテングリの組み合わせである。エルリク+テングリ=エルリテ=ウラルトゥとなる。シュメール文明、アッカド帝国

の情報もこの時に初めてメソポタミアにもたらされた。

ウラルトゥ王国が滅ぶと、ウラルトゥ人はアドリア海に移住し、イリュリア王国とダルダニア王国を築いた。イリュリアという名はエルリクに因み、もともとシベリア～モンゴルのことを意味していたと考えられる。イリュリア王国とダルダニア王国は名前は違えど同じ国である。

-
- ・ Sirras (?～BC 390) 初代イリュリア王 在位BC 437～BC 390
 - ・ バルディリス (BC 448～BC 358) 第2代イリュリア王、ダルダニア王国初代王 在位BC 393～BC 358

※マケドニア王国にアレクサンドル大王が出現すると、マケドニア人はダルダニア王国を築き、マケドニア王国を攻撃した。ダルダニアの由来はティールタンカラである。ティールタンカラ＝ティールタン＝ダルダニアとなる。初代王バルディリスの名はペルディッカスと被っているため、同一人物と考えて良い。

- ・ Gentius (?～BC 167) イリュリア最後の王 在位BC 181～BC 168
- ・ 天種子命
- ・ 大田田根子

※Gentiusと一族は、ローマ属領化を機にアドリア海を脱出した。彼らは種子島に移住した。彼らは、「タナトスの子」を由来にタネコを称し、「種子」の漢字を当て字した。彼らは、その無人島を「種子島」と命名した。また、同時に中臣氏の祖と呼ばれた「天種子命」が誕生した。種子島を発ち、大和国に入植したイリュリア人は、大物主神を祀っていたタナトス一族と連合し「大田田根子」を生んだ。大田田根子の名の由来はOTANと種子の組み合わせである。OTAN+種子=OTA+田根子=大田田根子となる。

- ・ 国栖族 (BC 2世紀?)
- ・ 土蜘蛛 (BC 2世紀?)

※種子島から来たイリュリア人が「土蜘蛛」「国栖族(クズ)」を結成した。土蜘蛛の名の由来はギリシャ語「ドグマ(組織)」である。ドグマに漢字「土蜘蛛(どぐも)」を当て字したものを、後世の人々が訓読みで「ツチクモ」と呼ぶようになった。国栖族(クズ)の名の由来はフォキスだと考えられる。

カンディク（生没年不詳） アヴァール王国初代カガン 在位554～559

蘇我稲目（506～570）

※土蜘蛛と国栖族が日本武尊に打倒されると、彼らは日本を離れて故郷であるアドリア海に帰還した。そこから内陸部に入り、パンノニアに根付いた彼らは「アヴァール人」を称した。アヴァールの由来はアブラハムである。初代カガンのカンディクは蘇我稲目に変身し、早速、日本に戻って拠点を得るべく動いた。

蘇我稲目の子

- ・ 蘇我堅塩媛（?～?）
- ・ 蘇我馬子（551～626）
- ・ 蘇我小姉君（?～?）

※柔然（ローラン）がアヴァール王国を掌握すると、正統なアヴァール王カンディクはカティアナとジョアンの姉妹、その子供たちを率いてシルクロードを渡り、満州に辿り着き、日本に上陸した。カティアナは「蘇我堅塩媛」を称し、ウーマックは「馬子」を称し、ジョアンナは「小姉君」を称した。

カティアナは自身の名に堅塩（かたえん）と当て字し、ジョアンナは小姉（しょうあね）と当て字した。蘇我堅塩媛は欽明天皇と結婚したが子供たちは欽明天皇の血を引いてはいない。額田部皇女（アガタの当て字）を含めた全員がアヴァールからの連れ子である（つまり、白人の顔をしていた）。

蘇我堅塩媛の子



額田部皇女/推古天皇（554～628） 第33代天皇



橘豊日皇子/用明天皇（?～587） 第31代天皇

蘇我小姉君の子

- ・穴穂部間人皇女（?～622）
- ・泊瀬部皇子/崇峻天皇（553～592） 第31代天皇

穴穂部間人皇女の子



厩戸皇子/聖徳太子（574～622）

※アンナは「穴穂部間人皇女」を称した。穴（あな）の名の由来はアンナであり、穂部（ほべ）の名の由来はアヴァールである。穴穂部間人皇女は従兄弟の用明天皇（大兄皇子＝オーウェン）と結婚している。AD604年には聖徳太子が「十七条憲法」を制定し、推古天皇と共に奈良時代の日本に君臨した。故地から逃亡したアヴァール人の王統が、奈良時代の日本で、この世の春

を謳歌していたのだ。

聖徳太子の子

山背大兄王（?～643）

山背大兄王の子（難波麻呂古王、麻呂古王、弓削王、甲可王、尾治王）

山背大兄王孫（?～?）

パオロ・ルチオ・アナフェスト（?～717） ヴェネツィア共和国初代ドーージェ 在位697～717

※ヴェネツィアの由来はウェネト族（ガリア人）、ウェネトの由来はアナト。アナト＝ウェネト＝ウェネティ＝ヴェネツィアとなる。



安祿山（705～757） ソグド軍人※山背大兄王の孫？

ゴーパーラ1世（?～780） パーラ朝初代王 在位750～780※画像なし

ナーガパタ1世（?～780） プラティパーラ朝初代王 在位750～780※画像なし

ダンティドウルガ（?～756） ラーシュトラクータ朝初代王 在位735～756※画像なし

クリシュナ1世（?～774） ラーシュトラクータ朝第2代王 在位756～774※画像なし

ゴーヴィンダ2世（?～780） ラーシュトラクータ朝第3代王 在位774～780※画像なし

テオダート・イパト（?～755） ヴェネツィア共和国ドーージェ 在位742～755※画像

なし

ガラ・ガウロ (?~756) ヴェネツィア共和国ドージェ 在位755~756 ※画像なし

※蘇我入鹿はティールタンカラの一族の血を引いていたため、アブラハムの一族である山背大兄王を襲撃した。山背大兄王は、蘇我入鹿に襲撃されて自害して果てたと言われているが、実際にはインドに逃亡した可能性がある。山背大兄王は、兄弟の財王、日置王、白髪部王、長谷王、三枝王、伊止志古王、麻呂古王と子息の難波麻呂古王、麻呂古王、弓削王、甲可王、尾治王を伴って日本を脱出し、インドに移住した。

山背大兄王の孫と思われる安祿山は、ソグド人の軍人として唐に仕えていたが、反旗を翻した後に成敗された。そのため、インドに移り、750年頃に「パーラ朝」「プラティハーラ朝」を開いた。ゴーパーラ1世とナーガパタ1世は在位が同じであるため同一人物である。パーラの名の由来はアヴァールであり、プラティハーラの名の由来は24のティールタンカラに属するヴァルダマーナとパーラの組み合わせである。アヴァール=アパール=パーラとなり、ヴァルダマーナ+パーラ=ヴァルダパーラ=プラティハーラとなる。

更に、安祿山はラーシュトラクータ朝も開いたと考えられる。ラーシュトラクータの由来はツウアラストラ(ゾロアスター)と百済(くだら)の組み合わせである。ツアラストラ+クダラ=ラストラクダ=ラーシュトラクータとなる。

アモーガヴァルシャ1世(801~878) ラーシュトラクータ朝第6代王 在位814~878

ボニファス1世(?~823) 初代トスカーナ候、ピサ共和国元首 在位812~823

オルソ1世(?~881) ヴェネツィア共和国ドージェ 在位864~881

マヒーパーラ1世(?~1043) パーラ朝第10代王 在位995~1043

ヌリパ・カーマ(?~1047) ホイサラ朝初代王 在位1022~1047

ドメニコ・フラバニコ(?~1043) ヴェネツィア共和国ドージェ 在位1032~1043

安倍忠良(?~?) 安倍頼時の父

※マヒーパーラ1世の時に、「ホイサラ朝」を開いている。ホイサラの由来はヴァイシュラヴァナである。ヴァイシュラヴァナ=ヴァイシュラ=ホイサラとなる。また、蝦夷で安倍忠良を演じているが、安部の由来はアブラハムである。

ナヤパーラ(?~1058) パーラ朝第11代王 在位1043~1058

安倍頼時(?~1057) 陸奥国奥六郡俘囚長

藤原経清(?~1062) 陸奥国巨理郡豪族



クマーラパーラ (?~1129) パーラ朝第16代王 在位1124~1129※画像なし
藤原清衡 (1056~1128) 奥州藤原氏初代当主
コンラド (?~?) トスカーナ侯、ピサ共和国元首 在位1120~1129※画像なし
ドメニコ・ミケーレ (?~1130) ヴェネツィア共和国ドージェ 在位1117~1130



ゴーパーラ3世 (?~1143) パーラ朝第17代王 在位1129~1143※画像なし
ヴィシュヌヴァルダナ (?~1152) ホイサラ朝第5代王 在位1110~1152
ドメニコ・モロシーニ (?~1156) ヴェネツィア共和国ドージェ 在位1148~1156
藤原基衡 (1105~1157) 奥州藤原氏第2代当主



マダナパーラ (?~1162) パーラ朝第18代王 在位1143~1162※画像なし

藤原秀衡（1122～1187） 奥州藤原氏第3代当主

ヴェルフ6世（1115～1191） トスカーナ候、ピサ共和国元首 在位1152～1162

ゴーヴィンダパーラ（?～1174） パーラ朝第19代王 在位1162～1174

藤原泰衡（1155～1189） 奥州藤原氏第4代当主

源義円（1155～1181）

ヴェルフ6世（1115～1191） トスカーナ候、ピサ共和国元首 在位1167～1173

ヴィタル2世（?～1172） ヴェネツィア共和国ドージェ 在位1156～1172



藤原国衡（?～1189）

源義経（1159～1189） 源義円同母兄弟

オリオ・マストロピエロ（?～1192） ヴェネツィア共和国ドージェ 在位1178～1192

※謎が多い奥州藤原氏の正体はインド王であり、聖徳太子の末裔だった。そして、これまた謎が多い源義経は、奥州藤原氏、藤原秀衡の子であった。そのため、義経は奥州に逃げたのだ。

ツチ族（824頃）

※多禰国の廃止を機に、種子島に居住していたマケドニア人の子孫が種子島を発ってインド洋を横断し、異邦の地アフリカ大陸に上陸した。まず、エチオピアに根城を得た彼らは、「ツチ族」を称した。ツチの名の由来は種子（しゅし）である。シュシ=チュチ=ツチとなる。

海西女直（1170頃）

※イスラム教のヌビアへの侵入を機にアビシニアを出たツチ族は、2手に分かれて南東に移住した。東方組は、満州にいる兄弟建州女直を頼って満州に移住した。アフリカ人の顔をした彼らは、満州人と混合して「海西女直」を築いた。

彼らは、「ナラ」「ウラ」「ハダ」「ホイファ」「イエヘ」「エホ」の部族を海西女直の中に新規に加えた。ナラの名の由来はポントスとガイアの子「ネーレウス」であり、ウラの名の由来はガイアの子「ウラヌス」であり、ハダの名の由来はクロノスの子「ハデス」であり、ホイファの名の由来はウラヌスとガイアの子「ポイベー」であり、イエヘの名の由来はウラヌスとガイアの子「イーアペトス」であり、エホの名の由来はウラヌスとガイアの子ヒュペリオーンの子「エーオス」である。

リヴォニア帯剣騎士団（1292～1237）

バツラーラ2世（?～1220） ホイサラ朝第7代王 在位1173～1220

ウェンノ（?～1209） リヴォニア帯剣騎士団団長 任期1204～1209

エンリコ・ダンドロ（?～1205） ヴェネツィア共和国ドージェ 在位1192～1205

ナラシンハ2世（?～1238） ホイサラ朝第8代王 在位1220～1238

ヴォルクィン（?～1236） リヴォニア帯剣騎士団団長 任期1209～1236

※リヴォニアの由来はヴァイシュラヴァナ、或いはラーヴァナである。ラーヴァナ＝ラーヴァニア＝リヴォニアとなる。



バッラーラ4世 (?~1346) ホイサラ朝第12代王 在位1342~1346※最後の王
&画像なし

バサラブ1世 (?~1352) バサラブ家ワラキア公 在位1310~1352

バルトロメオ・グラデニゴ (?~1342) ヴェネツィア共和国ドージェ 在位1339~1342

アンドレア・ダンドロ (?~1354) ヴェネツィア共和国ドージェ 在位1342~1354



ミカエル1世 (?~1420) バサラブ家ワラキア公 在位1417~1420

マソ・デグリ・アルビッジ (?~1417) フィレンツェ候 在位1382~1417※画像なし

ミケーレ・ステーノ (?~1413) ヴェネツィア共和国ドージェ 在位1400~1413

トマツソ・マケニゴ (?～1423) ヴェネツィア共和国ドージェ 在位1413～1423

アレクサンドル1世 (1397～1436) バサラブ家ワラキア公 在位1431～1436

ヴラド2世 (1395～1447) ドラクル家ワラキア公 在位1436～1442

リナルド・デグリ・アルビッジ (1370～1442) フィレンツェ候 在位1417～1434

※バサラブの由来はヴァイシュラヴァナである。ヴァイシュラヴァナ=ヴァイシュラヴァ=バサラブとなる。ヴラドの由来は24のティールタンカラに属するヴァルダマーナである。



ピエロ・ソデリーニ (1450～1522) フィレンツェ共和国トスカーナ候 在位1502～1512

アンドレア・グリッティ (1455～1538) ヴェネツィア共和国ドージェ 在位1523～1538

ヨハン・クリスティエンソン・ヴァーサ (?～?) グスタフ1世祖父※画像なし



フランシスコ・ピサロ（1470～1541） コンキスタドール

エリク・ヨハンソン・ヴァーサ（1470～1520） グスタフ1世父



ラドゥー7世（1500～？） ドラクル家ワラキア公 在位1535～1536※画像なし

ゴンサロ・ピサロ（1502～1548） コンキスタドール

グスタフ1世（1496～1560） ヴァーサ朝初代スウェーデン王 在位1523～1560

※ピサロとヴァーサの名の由来はバサラブ、或いはヴァイシュラヴァナである。



カール9世（1550～1611） ヴァーサ朝第5代スウェーデン王 在位1599～1611

アントニオ・プリウリ（1548～1623） ヴェネツィア共和国ドージェ 在位1618～1623

上杉景勝（1556～1623） 米沢藩初代藩主



ジギスムント（1566～1632） ヴァーサ朝第4代スウェーデン王 在位1592～1599

フランチェスコ・エリッツィオ（1566～1646） ヴェネツィア共和国ドージェ 在位1631～1646

加藤嘉明（1563～1631） 陸奥会津藩初代藩主



ルドヴィコ・マニン（1725～1802） ヴェネツィア共和国ドージェ 在位1789～1797

松平容貞（1724～1750） 会津松平家第4代



レオポルド2世（1797～1870） トスカーナ大公 在位1824～1859

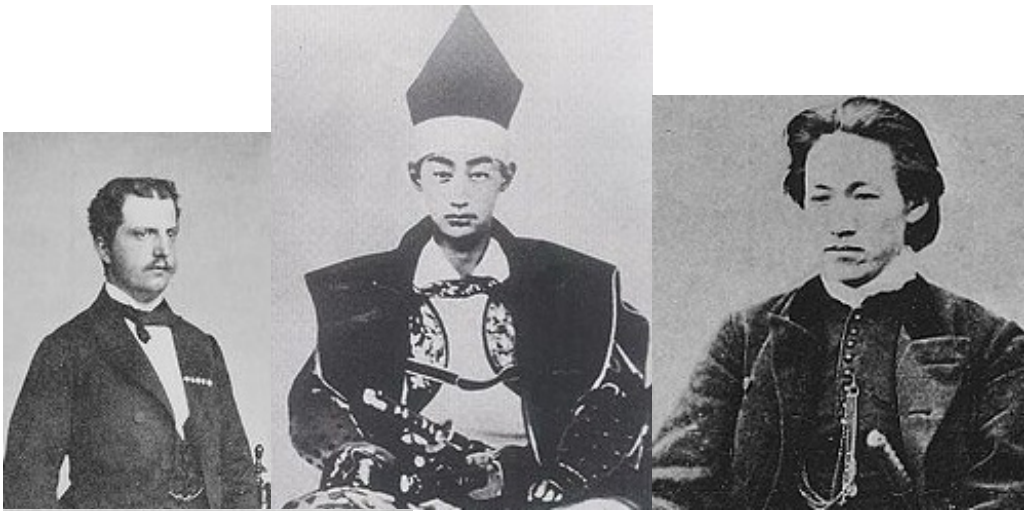
松平義建（1800～1862） 美濃高須藩第10代藩主

土方隼人（?～?）※画像なし

松平義建の子



徳川慶勝（1824～1883） 尾張藩14代藩主※松平義建の子
日向内記（1826～1885） 白虎隊隊長※画像なし



フェルディナンド4世（1835～1908） トスカーナ大公※レオポルド2世の子 在位1859～1860

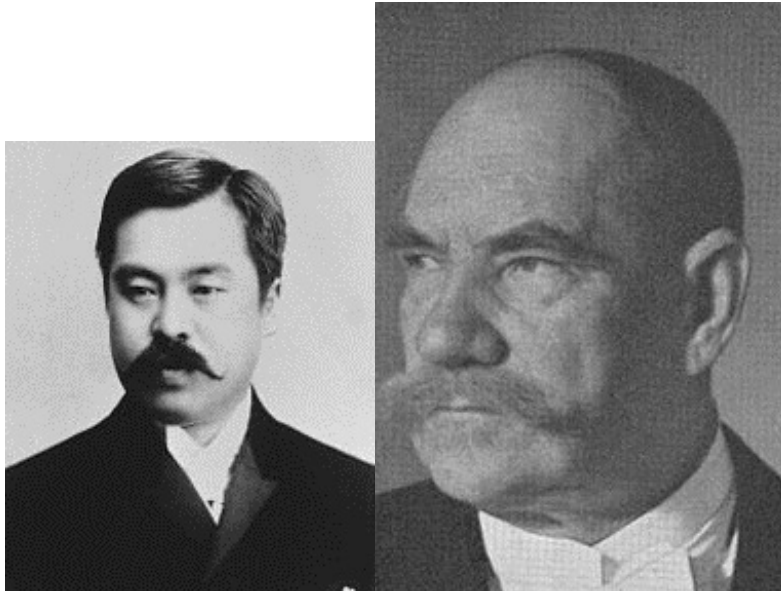
松平容保（1836～1893） 会津藩第9代藩主※松平義建の子

土方歳三（1835～1869） 新撰組※土方隼人の子

近衛忠房（1838～1873） 近衛家28代当主

フレドリク・イデスタム（1838～1916） ノキア創業

※レオポルド2世は日本に進出し、土方隼人を称し、土方歳三を儲けた。土方は残酷な面を持っていたが、それはタナトスの一族の証しだろう。土方の名の由来はヴィジゴート（西ゴート王国）である。ヴィジゴートの地から来たことを示している。

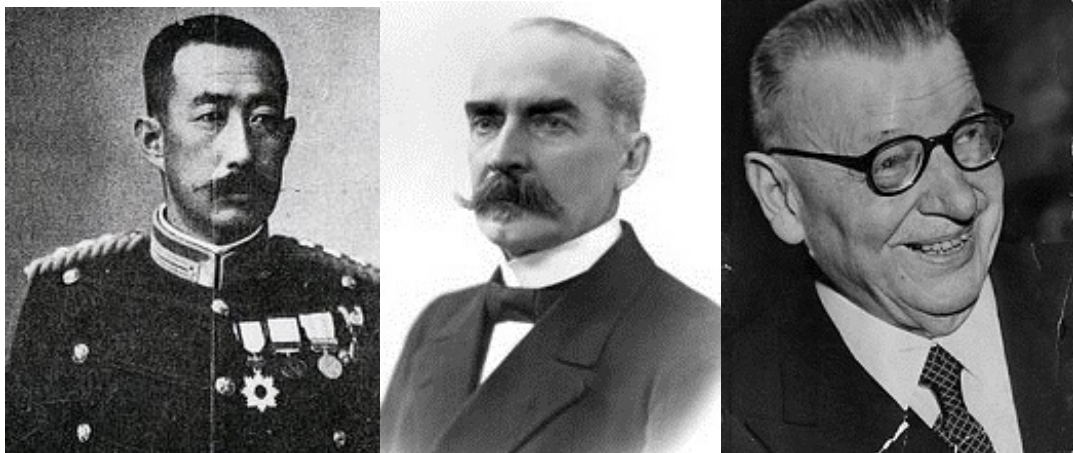


近衛篤磨（1863～1904） ※近衛忠房の子

松平義勇（1859～1891） 美濃高須藩第13代藩主、松平義建の子※画像なし

ペール・スヴィンヒュー（1861～1944） フィンランド第3代大統領

松平容保の子



松平容大（1869～1910） 会津松平家11代陸奥斗南藩主

津軽英磨（1872～1919） ※近衛忠房の子

カールロ・ユホ・ストールベリ（1865～1952） フィンランド初代大統領

ユホ・クスティ・パーシキヴィ（1870～1956） フィンランド第7代大統領



松平保男（1878～1944） 会津松平家12代目当主

ラウリ・クリスティアン・レランデル（1883～1942） フィンランド第2代大統領

松平慶民（1882～1948） 松平慶民の子、初代宮内府長官※画像無し

※会津藩松平家はフィンランド共和国を築いた。フィンの由来はヴェネツィアだと考えられる。日露戦争で日本（本願寺の帝国）が勝利（真の勝利ではないが）した時、フィンランド人が喜んだのはそのせいだろう。

松平慶民の孫



松平永芳（1915～2005） 靖国神社第6代宮司

ヨハンネス・ヴィロライネン（1914～2000） フィンランド第44代首相

※松平永芳は、A級戦犯の合祀を実施したことで知られている。

松平容保の孫



松平保定（1926～2011） 会津松平家13代目当主※画像無し

マウノ・コイヴィスト（1923～2017） フィンランド第9代大統領

ト部亮吾（1924～2002） 昭和天皇侍従※画像無し



松平保久（1954） 会津松平家14代当主、松平容保曾孫※画像無し

エスコ・アホ（1954） 第58代フィンランド共和国首相、ノキア重役

預言者ナタンの一族～ラピタ文化、ダン族、ソロモン王、ミディアン人、ストーンヘンジ、アテーナイ王国、ヒクソス、アマルナ宗教改革、ケント王国、最澄、空海、源氏・平氏、マフディー国家

「サムエルの大航海時代」（BC 35世紀）

※ウソしかつかない、汚らわしいダニ族を嫌った優れた人々は、出羽国に住んでいた科学の種族に、ダニ族の始末を嘆願した。科学の種族はこれを当然の如く承諾し、数千発の核兵器をダニ族の領土にお見舞いした。そのため、ダニ族と共に大量の信者や彼らが篡奪した都市は砂漠と化した。

「サムエルの大航海時代」を企画したシュメール人は出羽国を目指してペルーを脱出した。しかし、サバイバルを遂げた一部ダニ族は、この船団にも忍び込んで出羽国にまでやってきた。シュメール人がペルーから出羽国に移住したときにイスラエル王国の伝説が始まった。



- ・ダン族（BC 35世紀）
- ・能登半島（BC 35世紀）

※日本に到着後、ダニ族は単独で出羽国から「能登半島」に移住した。能登の名の由来はタナトスである。タナトス＝タノトス＝能登となる。「聖書」に記されたダン族の国とは、ダニ族の国「能登」のことである。シュメール人、サンガリオスの連合体である「サムソン」は能登に侵攻し、ダン族が操る反自然の種族であるペリシテ人と何度と無く戦った。

このペリシテ人はベーシュタード王国のペリシテ人とは異なり、ポリュポータースとパシトエーのできそこないたちが生んだ反自然の種族である。メラネシアに居住していたペリシテ人は、イスラエル王国～エジプト王国時代の日本（八代湾、伊勢、武蔵、出羽）に進出しては海賊行為を働いていた。能登は「ノドの地」とも呼ばれた。



※小牧野遺跡（青森県青森市）



※音江環状列石（北海道深川市）



※大湯環状列石（秋田県鹿角市）



※忍路環状列石（北海道小樽市）

※石を育てる魔法使いが最初に出現したのはBC 35世紀頃の日本である。その魔法使いの正体は能登からきたダン族だった。ダン族は宇宙人（科学の種族トバルカイン）が統治する出羽国の勢力圏に侵入し、巨石信仰の信者を獲得し、宇宙人に対抗しようと画策していたようだ。いずれも石は小さい段階で放置されている。ストーンサークルの様式が完成するのはヨーロッパでのことだ。

-
- ・アシェル アシアー+ルハンガ（葦原中津国）
 - ・イッサカル イサク+シェクレシュ（厳島）
 - ・エフライム アブラハム（尾張）
 - ・ガド ピクト（ピュグマエイ）（熊野国）
 - ・シメオン セム+ディオオーネー（志摩）
 - ・ゼブルン カゾオバ+トバルカイン（ツバル諸島）
 - ・ダン タナトス（能登）
 - ・ナフタリ ナワトル（ノア+タルタロス）（那覇）0
 - ・ベニヤミン ブヌン+アミ+イマナ（台湾）
 - ・マナセ メネストー（美濃）
 - ・ユダ エウドーラー（ユタ州）
 - ・ルーベン ルハンガ（中国/盤古）
 - ・レビ ルハンガ（中国/盤古）

※イスラエルの13支族（レビ族含む）は、みな古代日本（イスラエル～エジプト）、或いは古代中国（カナン）で生まれた。上記は名前の由来である。



卑南文化（台湾）



※フィジーのメンヒル



※グアムのメンヒル



※ダン族の太平洋拠点本場パラオのメンヒル

※パラオを本拠地としていたダン族は太平洋中の島々にも巨石文化を残した。小規模で中途半端なものがインドやオーストラリアにも残されているが、日本、台湾、太平洋諸島、オーストラリア、インドの広範囲に渡って石を育てる魔法使いは、その勢力を誇っていたようだ。日本に築かれた初期メンヒルと異なり、扱われる石が巨大化している。



ファラオ（BC 35世紀）

※能登時代のダン族は、アンモン人（アンダマン諸島）、ペリシテ人（マハラエル+メネストー）など、反自然の種族に属する海賊を統治して太平洋をも制圧した。太平洋時代、ダン族はパラオ諸島に拠点を置いた。パラオの由来はマハラエルである。マハラエル=ハラエ=パラオとなる。

当時の日本はイスラエル、またはエジプトと呼ばれた。オリジナル人類エスが統治する葦原中津国と台湾（高天原）のロア族（ブリアレオース）が連合することでイスラエルが生まれ、トバルカインとティカル人が築いた十和田と葦原中津国が連合することでエジプトが生まれた。エス+ブリアレオース=エスリアレ=イスラエルとなり、エス+トバルカイン+ティカル=エスバティ=エジプトとなる。エジプトの名の由来はアシアーとトバルカイン、ティカルの組み合わせ

せである。アシアー＋トバルカイン＋ティカル＝アシバティ＝エジプトとなる。

パラオを出撃したダン族は、イスラエル～エジプト（日本全土）にも頻繁に進撃し、日本を征服すると暴力と欺瞞によって圧政を敷いた。全国の縄文人は、平気でウソをつく人喰い人種の支配に苦しんだ。ダン族の王はパラオの首長を意味する「ファラオ」と呼ばれた。「聖書」に記された、ヨセフ（伊勢）やモーゼス（武蔵）の説話はこの縄文時代の日本に生まれた。



真理と正義の女神マアト（BC 35世紀）

※ティアマトが支配する大和国に首都を据えたファラオは、「真理と正義の女神マアト」を祀り、大和人を統治した。マアトの名の由来はティアマトである。ティアマト＝ティアマアト＝マアトとなる。ファラオはマアトを操り、エジプト（日本列島）における常識、道徳、秩序、裁判を牛耳り、異分子を排除しながら縄文人の弱体化を謀った。これは、自分に都合が良い体制の構築が目的である。つまり、権威を支配し、悪の代弁しかしない後続を育てることで、自在にウソをつくことが出来る環境を得るのだ。

ファラオは、神の名の下に善良な民衆を大量に殺害した。勇気、思慮深さ、親切心を持つ人間を悪と呼び習わし、有罪判決しか出さない裁判に召喚して死刑判決を下した。人間の美徳を否定し続けたマアトは。実のところ、死神、鬼神である。

しかし、「真理と正義の女神」と銘打っていたため、マアトを弾劾・攻撃する者は、真理と正義の敵ということで合法的に社会から抹殺された。



サウル（BC 35世紀） イスラエル初代王

※武蔵国の首長（モーゼス）は、縄文人たちを率いて夏時代の古代中国に移った。夏時代の中国は「カナン」と呼ばれていた。「第一次北極海ルート」で古代中国に移住したカナンが、神農（シェンノン）を生み、中国に夏（キア）を築いたのだ。そのため、夏はカナンとも呼ばれた。

。「モーゼスの大移動時代」に参加したカウレ族は、現モンゴルに入植して「サウル」となり、イスラエル初代王に即位した。サウルの由来はガラクサウラーである。ガラクサウラー＝サウラー＝サウルとなる。サウルは優れたダヴィデ王を何度も亡き者にしようとした。



ナタン（BC 35世紀） 預言者（※画像はダヴィデを責めるナタン）

※「モーゼスの大移動時代」に参加したダン族は、ナータ族と連合して「ナタン」を生んだ。ナタンの由来はナータとダンの組み合わせである。ナータ＋ダン＝ナーダン＝ナタンとなる。預言者ナタンは、優れた王であるダヴィデを弱体化するため、常にダヴィデ王の身近に潜み、行動・性癖を観察した。次に、ナタンは得られた情報を投入して、罪悪感を植えつけるため、ダヴィデに悪事を手引きした。罪悪感は強ければ強いほど良い。

ダヴィデの場合は、バト・シェバとの姦通とバト・シェバの夫ウリヤの殺害未遂である。これらは、すべてナタンが仕込んだ作り事である。つまり、虚構であるが、ダヴィデ王にとっては現

実でしかなかった。

植えつけた罪悪感を刺激することで、ナタンはダヴィデ王の内面を自在にコントロールした。ナタンは「罪悪感は人生の足枷」であることを知っていた。罪悪感が強ければ強いほど、その人物は罪（作られた罪）を許してもらうために命令者の言うことは何でも聞くのだ。ダヴィデ王も、できそこないでしかないナタンの言葉に耳を傾けざるを得なかった。

ナタンの子



ソロモン イスラエル第3代王

ツアドク (BC 35世紀) 祭司

ベナヤ (BC 35世紀) ダヴィデ親衛隊

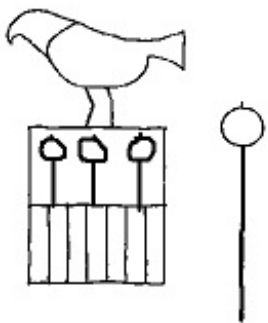
※ニューギニアの部族カウレ族（ガラクサウラー）とモニ族（メネストー）が、モンゴルに「ソロモン朝」を築いた。ソロモンとモンゴルの由来はガラクサウラーとメネストーの組み合わせである。ガラクサウラー＋メネストー＝サウラメネ＝ソロモンとなり、メネストー＋ガラクサウラー＝メネガラ＝モンゴルとなる。つまり、「ソロモン」と「モンゴル」は同じものである。一方、十和田の縄文人はチベットにダヴィデ朝を築いた。ダヴィデとトボット（チベット）の由来は十和田である。



大宛/ミディアン (BC 35世紀)

※「モーゼスの大移動時代」に参加したダン族は、現在の新疆に移って「大宛（ダーユアン）」を築き、「ミディアン人」を称した。ダーユアンの由来はミディアンであり、ミディアンの由来は大和とダニの組み合わせである。ヤマト+ダニ=マダニ=ミディアンとなり、ミディアン=ディーアン=ダーユアンとなる。「ミディアン」とは「大宛」のことだ。

アイギュプトス/デウスの時代 (BC 33世紀)



- ・ヘジュー・ホル (?~?) 下エジプト王国ファラオ 在位BC 3200頃
- ・ニー・ホル (?~?) 下エジプト王国ファラオ 在位BC 3200~BC 3175

※「黙示録アルマゲドン」が発生すると、ペリシテ人とナタンの一族は放射能によって荒廃した故地を捨て、ヨーロッパに移った。ペリシテ人は現パノニアに入植し、ナタンの一族は西ヨーロッパに入植した。ペリシテ人からは「ベーロス」が生まれ、ベーロスが「アイギュプトス」を儲けた。アイギュプトスの由来はエジプト（縄文時代の日本列島）である。つまり、ファラオとして新しいエジプトをパノニアに築こうとしたのだろう。パノニアにはゲピード族がいたが、ゲピードの名はアイギュプトスの名残りである。

神話では、アイギュプトスはダナオスと双子だとされている。ダナオスとはディオネーが主導するタナトスである。一方、アイギュプトスはクリュティオスが主導するタナトスである。両者は勢力圏を重複させた形で共存していたが、その後、ダナオスの50人の娘と結婚したアイギュプトスの息子たちは、処夜の晩にダナオスの娘たちによって寝首を掻かれている。最終的に、両者は激しく対立していたようだ。

一方、ナタン一族はクリュティオスを由来に「デウス」を名乗り、巨石の種族を徴用してメンヒル、ストーンサークルなどを建造させた。アイギュプトス一族は、上記のダナオスとの対立を機にパンノニアを離れ、デウスが治めるヨーロッパに移り、ナタン一族と共存し、ファラオの系譜を儲けた。

できそこないであるタナトスは必ず「何かすごいもの」に乗っかる性質がある。仏教ではそれは豪華な寺や仏像であるし、キリスト教でもそれは同じである。神が偶像崇拝を憎悪するのはそれがためである。偶像崇拝は、できそこないが王になるための手段のひとつである。真の王はそれらを必要としない。ストーンヘンジは、タナトスがすごいものに乗っかる先駆であった。

ヘジュー・ホルに始まる伝説のファラオたちは、この時代のヨーロッパを治めたアイギュプトスの王族である。

メンヒルとは、朽ちることがない「聖なる樹木」であり、ストーンサークルは「聖なる林」である。ファラオは、巨石を樹木のように大きく育てることで強大な魔法使いとして、無知な信者を威圧し、恐怖で支配した。実際には、信者たちが見ていない間に巨石建造の種族が小さい石を大きな石にだんだんと変えていくのだ。

当時、アイギュプトス一族は信者たちに年に一度の聖地参拝を義務付けていたと考えられる。日本の初詣のようなものだ。メンヒル、ストーンサークルが建てられている地域は聖域として指定され、普段は立ち入り禁止である。もちろん聖地参拝以外の期間に聖域に立ち入った者は発見しだい殺された。

そして、年に一度、信者たちが参拝に来るまでの期間、巨石建造の種族はせっせと小さい石を大きな石に変えていく。こうして、信者たちは年々大きく成長していく聖なる樹木（巨石）を毎年拝んでいたのだ。それがストーンサークルの秘密である。巨石は、最高で高さ5m、重量6tだが、それ以上の大きさの石を扱うことは不可能だったらしい。魔法使いは、石をそれ以上巨大に育てることが出来なかった。つまり、限界がある魔法使いだった。



キャッスルリッグ建設（BC 3200）

※キャッスルリッグの場合、小さい石が多いが、これは魔法使いが石を育てる途中で何らかの理由により断念し、放置したものだろう。



ステンネス建設（BC 3200）

- ・ワズネル（?～?） 下エジプト王国ファラオ 在位BC 3100頃
- ・ナト・ホル（?～?） 下エジプト王国ファラオ 在位BC 3200頃

※ステンネスの石は良く育っている。ワズネル、ナト・ホルなどのファラオが建設を指揮したと考えられる。

スコルピオ1世（BC 3150～?） 上エジプト王国ファラオ 在位

- ・イリ・ホル（?～?） 古エジプト王国ファラオ 在位BC 3150頃
- ・カー（?～?） 古エジプト王国ファラオ 在位BC 3150頃



スコルピオ2世 (?~?) 古エジプト王国ファラオ 在位BC3150頃

- ・メネス (?~?) エジプト第1王朝初代ファラオ 在位BC3125~BC3062
- ・ホル・アハ (?~?) エジプト第1王朝第2代ファラオ 在位BC3062~BC3000



リング・オブ・ブロッガー建設 (BC3000)





カルナック列石群（BC3000）

- ・ジェル（?～?） エジプト第1王朝第3代ファラオ 在位BC3000～BC2999
- ・ジェット（?～?） エジプト第1王朝第4代ファラオ 在位BC2999～BC2977
- ・デン（?～?） エジプト第1王朝第5代ファラオ 在位BC2977～BC2951
- ・アネジブ（?～?） エジプト第1王朝第6代ファラオ 在位BC2951～BC2925
- ・セメルケト（?～?） エジプト第1王朝第7代ファラオ 在位BC2925～BC2916
- ・カア（?～?） エジプト第1王朝第8代ファラオ 在位BC2916～BC2890

※初代ファラオのメネスは、現エジプトではなく、アイギュプトス（エジプト）と呼ばれていた古代ヨーロッパを治めていた。イベリア半島、ユトランド半島、ブリテン島に至るまで、メンヒルやストーンサークルが建てられた土地はエジプト王国が統治していることを示していたが、カルナックの場合、小さい石が多い。これは石を育てる魔法使い（ファラオ）が何らかの理由により断念し、放置したものだろう。

- ・ヘテプセケメイ（?～?） エジプト第2王朝初代ファラオ 在位BC2890～BC2847
- ・ラネブ（?～?） エジプト第2王朝第2代ファラオ 在位BC2847～BC2808
- ・ニネチェル（?～?） エジプト第2王朝第3代ファラオ 在位BC2808～BC2761

-
- ・セネド（?～?） エジプト第2王朝第4代ファラオ 在位BC2753～BC2733
 - ・セト・ペルイブセン（?～?） エジプト第2王朝第5代ファラオ 在位BC2733～BC2716



ストーンヘンジ建設（BC2750）

※ストーンヘンジは、セネドとセト・ペルイブセンなどのファラオが指揮し、建設したと考えられる。

カセケムイ (?~?) エジプト第2王朝第6代ファラオ 在位BC 2716~BC 2686

※ストーンヘンジ建設後、カセケムイの時代にアイギュプトスの一族は現エジプトに初めて移住し、エジプト王国を建てたと考えられる。この後、メンヒルやストーンサークルは一切建てられていない。

-
- ・サナクト (?~?) エジプト第3王朝初代ファラオ 在位BC 2686~BC 2668
 - ・ジェセル (?~?) エジプト第3王朝第2代ファラオ 在位BC 2668~BC 2649
 - ・セケムケト (?~?) エジプト第3王朝第3代ファラオ 在位BC 2649~BC 2643
 - ・カーバー (?~?) エジプト第3王朝第4代ファラオ 在位BC 2640~BC 2637
 - ・フニ (?~?) エジプト第3王朝第5代ファラオ 在位BC 2637~BC 2613

バカ/バウエフラー エジプト第4王朝第5代ファラオ 在位BC 2532

無名王 (?~?) エラム王国第3代王 在位BC 2580~?

※第3王朝の末期に、大航海時代とピラミッド建造の実験を終えたティカル人が古代エジプトの地にやってきた。ティカル人（ピラミッド派）の首長は、アイギュプトスの一族が掌握していたファラオの座を篡奪し、第4王朝の初代ファラオ、スネフェルとなった。この王朝のファラオはみな、ファラオでありながら同時に一流のピラミッド建造技師だった。ピラミッドの建造目的は、常に、先祖である地球の王チュクウのための記念碑の建設である。

途中、バカ、或いはバウエフラーと呼ばれたファラオが世の中を乱すが、この正体はエジプト王国の奪還を目指したアイギュプトスの一族の残党だろう。その後、バカはエラム王国を築いたと考えられる。初代と2代目、3代目のエラム王は名前が不明である。

・クル・イシシャク (?~?) エラム王国第5代王 在位?~BC 2550

・ペル (?~?) エラム王国第6代王 在位BC 2500~?

・ルフ・イシシャン (?~?) エラム王国第14代王 在位?~BC 2325

・ヒシェプ・ラテプ2世 (?~?) エラム王国第15代王 在位BC 2325~?

・エマアシニ (?~?) エラム王国第16代王 在位BC2315~BC2311

・ヒタ (?~?) エラム王国第18代王 在位BC2270

・サルゴン (?~?) アッカド帝国初代王 在位BC2334~BC2279

※ティカル人(ピラミッド派)にエジプト王国を奪われたタナトスの一族は、故地であるモンゴルに向かい、強い民族を捜し求め、ツングースにヤクート族を見つけた。邪教によってヤクート族を飼いならしたタナトスの一族は、彼らを率いてシュメール文明が開いていた古代メソポタミアになだれ込んだ。サルゴンを名乗ったタナトスの一族の首長は、ヤクートの名前を採ってアッカド帝国を築いた。

シュ・トゥルル (?~?) アッカド帝国第7代王 在位BC2168~BC2154

パンバ (?~?) ヒッタイト帝国初代王 在位BC22世紀頃

イビ・シン (?~?) アッカド帝国最後の王 在位BC2030~BC2022

イシュピ・エツ (?~?) バビロニア帝国初代王 在位BC2017~BC1985

※国(権威)がなければ誰もタナトスの一族のようなできそこないの言葉に耳を傾けない。つまり、あらゆる古代帝国はタナトスの一族のものである。ダヴィデの一族は国を必要としない。国がなくても人々は彼ら、真の帝王の言葉に耳を傾けるからだ。ただ、人々を守るためにここ3000年くらいはダヴィデの一族も帝国を作ることをはじめた。

アッカド帝国、ヒッタイト帝国とバビロニア帝国もタナトスの一族が築いたと考えられる。ヒッタイトには製鉄技術が存在したため、タナトスとしては何としても掌握したい、絶対必須のアイテム国だった。ということで、エジプトをティカル人に奪われたタナトスの一族は、アナトリア半島とメソポタミアに落ち延びた。アッカド帝国のシュ・トゥルルとヒッタイト帝国初代王パンバ、アッカド帝国のイビ・シンとバビロニア帝国初代王イシュピ・エツは同一人物と考えられる。

ヒッタイト帝国とバビロニア帝国はタナトスの一族が築いたが、人々を悪から解放するために、その都度、ダヴィデの一族がヒッタイト王位、バビロニア王位を掌握し、人々を正しく導いた。ヒッタイトとバビロニアが滅ぶまで、数千年もの間、タナトスの一族とダヴィデの一族の攻防は続いただろう。

アンミ・ツァドゥカ (?~?) バビロニア帝王 在位BC1646~BC1626

シェシ (?~?) ヒクソス朝初代ファラオ 在位BC 1652~BC 1638

ヤコブヘル (?~?) ヒクソス朝ファラオ 在位BC 1638~BC 1630

※バビロニア帝王アンミ・ツァドゥカは、大宛に住んでいたミディアン人を引き連れてエジプトに侵攻し、ヒクソス初代ファラオに即位し、ヒクソス朝を開いた。



アンミ・ツァドゥカ (?~?) バビロニア帝王 在位BC 1646~BC 1626

シェシ (?~?) ヒクソス朝初代ファラオ 在位BC 1652~BC 1638

ヤコブヘル (?~?) ヒクソス朝ファラオ 在位BC 1638~BC 1630

・キアン (?~?) ヒクソス朝ファラオ 在位BC 1630~BC 1580

・アペピ1世 (?~?) ヒクソス朝ファラオ 在位BC 1610~BC 1540

アペピ2世 (?~?) ヒクソス朝ファラオ 在位?~?

ヴィプラチッティ (?~?) ダーナヴァの王

※古代ヨーロッパを支配していたタナトスの一族はインドに移ってデウスを由来に「ダーサ族」となり、アーリア人の軍団に参加した。一方、彼らは故郷にも戻り、大宛を復興させた。この時、大宛はミタンニ王国と呼ばれた。彼らは、ソロモン朝時代(モンゴル)に発明・駆使していた騎馬戦車を甦らせ、ヒクソスとしてエジプトに侵攻した。

ヒクソスの由来はペガサスである。ペガサスとは古代ニューギニアの呼称であり、ペガサスの由来はオリジナル人類であるアブクとムシシの組み合わせである。アブク+ムシシ=ブクシシ=ペガサス=ヘカサス=ヒクソスとなる。

ヒクソスは現エジプトではなく、ヨーロッパ(アイギュプトス)に拠点を置き、その上で現エジプトに侵攻した。ヨーロッパのヒクソスは「ヤクシャ(夜叉)」と呼ばれ、エジプトに侵攻したヒクソスは「ラクシャサ(羅刹)」と呼ばれた。ヤクシャの由来はペガサスであり、ラクシャサの由来は太陽神ラーとヒクソスの組み合わせである。ペガサス=エガサス=エカサ=ヤクシャとなり、ラー+ヒクソス=ラークソス=ラクシャサとなる。

当時、ディオナーのタナトスがソマリアに入植し、ヴァイシュラーヴァナと呼ばれた。ヴァ

イシュラーヴァナの由来はアシアーとルハンガの組み合わせである。なぜアシアーとルハンガの名を組み合わせているのか不明だが、アシアー+ルハンガ=アシアルハン=アイシャルーハナ=ヴァイシュラーヴァナとなる。また、ヴァイシュラーヴァナの名残りがソマリアの部族アシェラーフ族の名である。ヴァイシュラーヴァナ=アイシュラーヴァ=アシェラーフとなる。



カムディ (?~?) ヒクソス朝ファラオ 在位BC1570~BC1535
ケクロプス (?~?) アテーナイ初代王 在位BC1556~BC1506
アメンホテプ1世 (?~?) エジプト第18王朝ファラオ 在位BC1551~1524
マヤースラ (?~?) ダーナヴァ王 (三界制覇)

※深緑まぶしい豊かな土地、古代アラビア半島にはラーマ皇子のローマ王国、マガン王国 (ミケーネ)、アルバ・ロンガ王国 (アラビア~ランカー) が林立していた。ヒクソス最後の王カムディは、ケクロプスとなってアラビア半島に「アテーナイ王国」を築き、アメンホテプ1世として第2代ファラオに即位し、エジプト第18王朝の王位を篡奪した。

アテーナイの名の由来はタナトス (TANATOS) の反対SOTANATのOTANAである。OTANA=オータナ=オターナイ=アテーナイとなる。インダスに巢食っていたとされる女神ダヌはじつはアテーナイと同義である。TANATOSの反対SOTANATのTANに由来している。つまり、ダーナヴァやラクシャサ、ヤクシャの類はアラビア半島にいた。彼らの拠点は、現在のアデン周辺に存在していたと考えられる。

クラナウス (?~?) アテーナイ第2代王 在位BC1506~1497
キルタ (?~?) ミタンニ王国初代王 在位BC1500~BC1490

ウリシャバルヴァン (?~?) ダーナヴァ王

※アテーナイ第2代王クラナウスは、キルタとしてミタンニ初代王の座に就き、アラビア半島を発って故郷大宛にミタンニ王国を築いた。このとき、大宛からヨーロッパに至る地域はキルタを由来に「ケルト」と呼ばれ、ドルイド教の前身が築かれ、やドルイド教の神々が儲けられた可能性がある。



アマフィクティオン (?~?) アテーナイ第3代王 在位BC 1497~BC 1487※画像なし

ハトシェプスト (?~?) エジプト第18王朝ファラオ 在位BC 1498~BC 1483

・エリクトニウス (?~?) アテーナイ第4代王 在位BC 1487~BC 1437

・パンディオン1世 (?~?) アテーナイ第5代王 在位BC 1437~BC 1397



エレクティウス (?~?) アテーナイ第6代王 在位BC 1397~BC 1337※画像なし

アメンホテプ4世 (?~?) エジプト第18王朝ファラオ 在位BC 1377~BC 1358

スターズ (?~?) クル王国初代王 在位BC 14世紀※画像なし

ヴァシシュタ (?~?) クル王国司祭長※画像なし

※アテーナイ第6代王エレクトィウスはバーラタ族を統治し、スタス王として、現バルト三国付近に「クル王国」を建てた（インドではない）。北欧十字軍の時代に十字軍と戦ったクール人はクル王国の名残りだ。そして、バルト海の由来はバーラタ族である。バーラタの由来はアルバ・ロンガとラテンの組み合わせである。アルバ+ラテン=アルバラテ=バーラタとなる。

北欧のクル王国の隣国には、カスピ海～アラル海付近に渡る広範囲を続けた「ラテン王国」が存在した。ラテン王国はイタリアに存在したとされているが、それは間違っている。ラテン王国だけでなく、ローマ王国、アルバロンガもそうだ。これら、アラビア半島に存在した幻の古代王国（アルバ・ロンガ王国、ローマ王国、エトルリア王国、アテーナイ王国、マガン王国）はみな、善神デーヴァの核攻撃によって滅んだ。バーラタの名前からわかるように、彼らは同盟を結んでいたため、生存者は集団でイタリア半島や古代ギリシアに移住し、古代王国の伝説を現地で語り継いだのだ。

バーラタ族は、トリツ族を率いて北欧を出撃し、古代インドを統治するアーリア人に挑戦した。アーリア人の軍団にはダーサ族（デウス）がいたが、彼らはバーラタ族とは家族である。バーラタ族は外から攻撃し、ダーサ族は内部から侵食を開始した。ここに「十王戦争」が始まった。



ケクロプス2世（?～?） アテーナイ第7代王 在位BC1347～BC1307※画像なし
スメンクカーラー（?～?） エジプト第18王朝ファラオ 在位BC1336～BC1334
ツタンカーメン（?～?） エジプト第18王朝ファラオ 在位BC1334～BC1325
アイ（?～?） エジプト第18王朝ファラオ 在位BC1325～BC1321※画像なし



パンディオン2世 (?~?) アテーナイ第8代王 在位BC1307~BC1282※画像なし

ホルエムヘブ (?~?) エジプト第18王朝ファラオ 在位BC1321~BC1293

アエギウス (?~?) アテーナイ第9代王 在位BC1282~BC1234

シャットウアラ2世 (?~?) ミタンニ王 在位BC1280~BC1270

シャルマネセル1世 (?~?) アッシリア帝国皇帝 在位BC1274~BC1245

※上下エジプトでは「太陽神アメン」が強い影響力を誇っていた。そこに別の「太陽神アテン」を持っていっても勝てないと悟ったアテーナイ人は太陽神アメンの篡奪に乗り出した。そのため、第19王朝は混乱の内に幕を閉じることになる。そして、遂にアテーナイ人は太陽神アメンを奪い取り、「アメン大司祭国家」を築くことになる。

-
- ・シュツタルナ (?~?) ミタンニ王 在位BC1490~BC1470
 - ・バラタルナ (?~?) ミタンニ王 在位BC1470~BC1450
 - ・バルシャタタル (?~?) ミタンニ王 在位BC1450~BC1440
 - ・サウシュタル (?~?) ミタンニ王 在位BC1440~BC1410
 - ・アルタタマ1世 (?~?) ミタンニ王 在位BC1410~BC1400
 - ・シュツタルナ2世 (?~?) ミタンニ王 在位BC1400~BC1380
 - ・アルタッシュマラ (?~?) ミタンニ王 在位BC1380
 - ・トゥシュラッタ (?~?) ミタンニ王 在位BC1380~BC1350
 - ・アルタタマ2世 (?~?) ミタンニ王 在位?~?
 - ・シュツタルナ3世 (?~?) ミタンニ王 在位?~?
 - ・シャッティワザ (?~?) ミタンニ王 在位BC1350~BC1320

・シャットウアラ1世 (?~?) ミタンニ王 在位BC1320~BC1300

・ヴァシャサッタ (?~?) ミタンニ王 在位BC1300~BC1280

テセウス (?~?) アテーナイ第10代王 在位BC1234~BC1205

メネステウス (?~?) アテーナイ第11代王 在位BC1205~1183

イルス (?~BC1192) アジア人首長

※アテーナイ11代王メネステウスは、イルスを名乗り、第19王朝滅亡後の空位時代のエジプトに、大宛のミディアン人を引き連れて侵攻し、エジプトに混乱をもたらしたという。しかし、後に第20王朝を開くアテーナイ12代王デモフォンによって退けられている。



デモフォン (?~?) アテーナイ第12代王 在位BC1183~1150※画像なし

セトナクト (?~?) エジプト第20王朝初代ファラオ 在位BC1185~BC1182※
画像なし

ラムセス3世 (?~?) エジプト第20王朝第2代ファラオ 在位BC1182~BC115

1

※ラムセス3世は、タナトスの一族（ディオナー）で海の民と呼ばれたデニエン人、シェルデン人と組み、地中海の古代王国を襲撃した。ミケーネ文明を滅ぼし、トロイアを滅ぼし、ヒッタイト帝国を滅ぼした。歴史ではラムセス3世は海の民を撃退したとされているが、ラムセス3世が退けたのはトゥルシア人、チェケル人、ウェシュシュ人、ペリシテ人、シェクレシュ人などの海の民と考えられる。

オクシンティス (?~?) アテーナイ第13代王 在位BC1150~BC1136

ラムセス4世 (?~?) エジプト第20王朝第3代ファラオ 在位BC1151~BC1145

ラムセス5世 (?~?) エジプト第20王朝第4代ファラオ 在位BC1145~BC1141

ラムセス6世 (?~?) エジプト第20王朝第5代ファラオ 在位BC1141~BC1133

アフエイダス (?~?) アテーナイ第14代王 在位BC1136~BC1135

ラムセス7世 (?~?) エジプト第20王朝第6代ファラオ 在位BC1133~BC1126

ティモエテス (?~?) アテーナイ第15代王 在位BC1135~BC1127

ラムセス8世 (?~?) エジプト第20王朝第7代ファラオ 在位BC1133~BC1126

・ラムセス9世 (?~?) エジプト第20王朝第8代ファラオ 在位BC1126~BC1108

・ラムセス10世 (?~?) エジプト第20王朝第9代ファラオ 在位BC1108~BC1098

ラムセス11世 (?~?) エジプト第20王朝第10代ファラオ 在位BC1098~BC1070

ヘムネチエルテピエンアメン・ヘリホル (?~?) エジプト第21王朝初代ファラオ 在位BC1080~BC1074

・ピアンキ (?~?) エジプト第21王朝第2代ファラオ 在位BC1074~BC1070

・カーケペルラー=セテプエンアメン・パネジェム1世 (?~?) エジプト第21王朝第23代ファラオ 在位BC1070~BC1032

・マサハルタ (?~?) エジプト第21王朝第4代ファラオ 在位BC1054~BC1046

・ヘムネチエルテピエンアメン・メンケペルラー (?~?) エジプト第21王朝第5代ファラオ 在位BC1045~BC992

スメンデス2世 (?~?) エジプト第21王朝第6代ファラオ 在位BC992~BC990

アビバル (?~?) ティール王 在位BC993~BC981

パルクシット (?~?) クル王 在位BC1000頃

カーケペルラー=セテプエンアメン・パネジェム2世 (?~?) エジプト第21王朝第7代ファラオ 在位BC990~BC969

プスセンネス3世 (?~?) エジプト第21王朝第8代ファラオ 在位BC969~BC945

ハイラム1世 (?~?) ティール王 在位BC980~BC947

ジャーナメジャヤ (?~?) クル王 在位BC950頃

※BC1098年頃にアラビア半島は、善神デーヴァ（科学の種族トバルカイン）による大規模な核攻撃により、森林は死滅し、河川は干からびた。人が住めない土地となったのを機に、アテーナイ人はギリシアに移り、太陽神アメンの篡奪に熱意を傾けていたアテーナイ人は神官都市テーベを掌握する。太陽神アメンの篡奪に成功したラムセス11世は、ヘムネチエルテピエンアメン・ヘリホルに名を変え、「アメン大司祭国家」を神官都市テーベに築いた。しかし、周王の一族がサイス朝（リビア人王朝）を築くと、アメン神官団はエジプトから去り、ヌビアに避難した。このときに、クシュ王国が建設されている。

・シャバカ (?~BC690) エジプト第25王朝初代ファラオ 在位BC705~BC690

・バカラ・タヌトアメン (?~BC656) エジプト第25王朝第10代ファラオ 在位BC664~BC656

メロエ王国 (?~350頃) ※歴代王の系譜不明

※クシュ王国はエジプトに侵攻してヌビア王朝（エジプト第25王朝）を築くが、アッシリア帝国軍の侵略に敗北すると、ヌビアに帰還し、メロエ王国を築いた。350年、メロエ王国はアクスム王国によって滅亡している。

ブガンダ王国 (400~1400頃) ※歴代王の系譜不明

※メロエ王国が滅ぶと、メロエの王族は湖水地方に移住してブガンダ王国を築いたと考えられる。それと同時にブルグント族としてゲルマニアに出現し、ブルグント王国を建設した。

ゲビッカ (?～407) ブルグント王国初代王



グンダハール (?～437) ブルグント王国第2代王

※グンダハール (gunther) の名はガンダーラ (gandhara) に由来していると考えられる。この名がブルグント、カンタブリア、カンタベリー、ブガンダなどの名の由来ともなった。クロタール1世がメロヴィング朝フランク王国を築くと、ブルグント族はヨーロッパを離れ、ブリテン島に渡った。

ブルグント、カンタブリアの由来はガンダーラとイベリアの組み合わせである。イベリア+ガンダーラ=ベリガンダ=ブルグントとなり、ガンダーラ+イベリア=ガンダベリア=カンタブリアとなる。カンタベリーの由来はカンタブリアであり、ケント王国の時に持ち込まれた。

ゴドマール1世 (?～486) ブルグント王国第?代王 在位473年～486年

ヘンギスト (?～488) ケント王国初代王 在位455～488

Ecgbert II (?～779) ケント王国第27代王

光仁天皇 (709～782) 第49代天皇

多治比長野 (706～790) 多治比真宗父



Cuthred (?～807) ケント王国最後の王※画像なし

桓武天皇 (737～806) 第50代天皇

※ケント王国が滅ぶと、ケントの王族はイギリスを離れて日本に渡り、cuthredは桓武天皇となった。

桓武天皇の子



多治比真宗 (769～823) 葛原親王母※画像なし

最澄 (766～820) 天台宗教祖

日本の天台宗の開祖であり、伝教大師として広く知られる。近江国（現在の滋賀県）滋賀郡古市郷（現在の大津市）もしくは生源寺（現在の大津市坂本）の地に生れ、俗名は三津首広野（みつのおびとひろの）。生年に関しては天平神護2年（766年）説も存在する。中国に渡って仏教を学び、帰国後、比叡山延暦寺を建てて天台宗の開祖となった。wikiより

※最澄は女だった。最澄の正体は多治比真宗であり、桓武天皇とは夫婦でありながら異母兄弟の妹という間柄である。また空海とは異母兄弟の姉という間柄である。そういえば心なしか、肖像画も女っぽい。



平城天皇（774～824） 第51代天皇※画像なし

空海（774～835） 真言宗教祖

平安時代初期の僧。弘法大師（こうぼうだいし）の諡号で知られる真言宗の開祖である。俗名は佐伯眞魚（さえきのまお）日本天台宗の開祖最澄と共に、日本仏教の大勢が、今日称される奈良仏教から平安仏教へと、転換していく流れの劈頭（へきとう）に位置し、中国より真言密教をもたらした。能書家としても知られ、嵯峨天皇・橘逸勢と共に三筆のひとりに数えられている。wikiより

※空海の名の由来は天空神バアル（空）と海神ダゴン（海）の組み合わせである。



葛原親王（786～853） 桓武平氏

嵯峨天皇（786～842）※画像なし

葛原親王の子



平高棟（804～867）桓武平氏の祖、葛原親王の子
源信（810～869）嵯峨源氏の祖、嵯峨天皇の子※画像なし
仁明天皇（810～850）嵯峨天皇の子※画像なし
菅原是善（812～880）菅原道真父

源融（823～895）嵯峨天皇の子※画像なし
文徳天皇（827～858）仁明天皇の子※画像なし
光孝天皇（830～887）仁明天皇の子※画像なし

※源氏・平氏の由来はガンダーラである。ガンダーラ＝ガン＋ダーラ＝げん＋たいら＝源氏＋平氏となる。

仁明天皇の子



本康親王（？～902）仁明天皇第五皇子※画像なし
菅原道真（845～903）
清和天皇（850～881）第56代天皇、文徳天皇の子※画像なし

光孝天皇の子

宇多天皇（867～931） 第59代天皇

清和天皇の子



源経基（?～961） 清和源氏、源頼朝の先祖

宇多天皇の子

雅明親王（920～929）

村上天皇（926～967） 第62代天皇、醍醐天皇の子

源雅信（920～993） 宇多源氏

源重信（922～995） 宇多源氏

村上天皇の子

第八皇子（962）

具平親王（964～1009）

源師房（1008～1077） 具平親王の子、村上源氏



源頼朝（1149～1199）

比企能員（？～1203）※画像なし

梶原景時（1140～1200）※画像なし

平安時代末期から鎌倉時代初期の武将、政治家。鎌倉幕府の初代征夷大將軍。河内源氏の源義朝の三男として生まれ、父・義朝が平治の乱で敗れると伊豆国へ流される。伊豆で以仁王の令旨を受けると北条時政、北条義時などの坂東武士らと平家打倒の兵を挙げ、鎌倉を本拠として関東を制圧する。弟たちを代官として源義仲や平家を倒し、戦功のあった末弟・源義経を追放の後、諸国に守護と地頭を配して力を強め、奥州合戦で奥州藤原氏を滅ぼす。建久3年（1192年）に征夷大將軍に任じられた。源頼朝wikiより

比企尼の縁から鎌倉幕府二代將軍・源頼家の乳母父となり、娘の若狭局が頼家の側室となって嫡子一幡を産んだ事から権勢を強めたが、能員の台頭を恐れた北条時政との対立により比企能員の変（比企の乱）が起こり、比企一族は滅亡した。比企能員wikiより

石橋山の戦いで源頼朝を救ったことから重用され侍所所司、厩別当となる。教養があり、和歌を好み、「武家百人一首」にも選出されている。頼朝の信任厚く、都の貴族からは「一ノ郎党」「鎌倉ノ本体ノ武士」と称されていた。一方で、源義経と対立し頼朝に讒言して死に追いやった「大悪人」とも評せられ評価が二分する。鎌倉幕府では頼朝の寵臣として権勢を振るったが、頼朝の死後に追放され一族とともに滅ぼされた（梶原景時の変）。梶原景時wikiより

※縄文時代～平安時代、そして頼朝の時代も日本はタナトスが支配していた。頼朝自身が預言者ナタンの一族であるが、平清盛はティールタンカラの一族であり、北条政子はクリユニー大主教

アイマール一族であり、奥州藤原氏と源義経はアブラハム一族であり、土肥実平などもクリュニー大主教ベルノ一族だった。鎌倉幕府はタナトス一族が血で血を洗う日本争奪戦であった。勝利者は北条氏（クリュニー大主教アイマール一族）だった。

源頼朝の子

- ・千鶴丸（生没年不詳）
- ・源頼家（1182～1204）
- ・源貞暁（1186～1231）
- ・源三幡（1186～1199）
- ・源実朝（1192～1219）

比企能員の子

- ・比企余一兵衛門（生没年不詳）
- ・比企宗員（?～1203）
- ・比企時員（?～1203）
- ・比企五郎（生没年不詳）
- ・比企熊本（1202～1286）
- ・河原田次郎（生没年不詳）

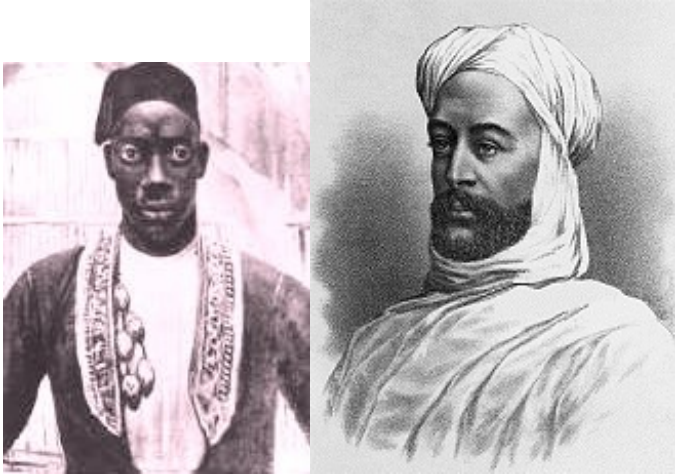
梶原景時の子

- ・梶原景季（1162～1200）
- ・梶原景高（1165～1200）
- ・梶原景茂（1167～1200）
- ・梶原景義（?～1582）
- ・梶原景宗（生没年不詳）
- ・梶原景則（生没年不詳）
- ・梶原景連（生没年不詳）

※頼朝は1199年以後も、梶原景時、比企能員としてしばらく生きており、権威の復興を考えていたが、それを北条氏にかぎつけられ、梶原景時の変、比企能員の変により、一族郎党が皆殺しにされた。と、歴史上はそういうことになってはいるが、実際には頼朝一族は日本を脱出し、アフリカ湖水地方にまで移住した。そこでブガンダ王国を築いた。ブガンダの由来はブルグン

トと同じでガンダーラとイベリアの組み合わせである。イベリア+ガンダーラ=ベガンダ=ブガンダとなる。ウガンダの場合はイベリア+ガンダーラ=アガンダ=ウガンダとなる。

kato kintu（14世紀） ブガンダ王国初代王



Mutesa I（1837～1884） ブガンダ王国第30代王

ムハンマド・アフマド（1844～1885） マフディー国家初代君主

アブダラヒ・イブン・ムハンマド（1846～1899） マフディー国家第2代君主※画像なし

ゴードンが籠城したハルツームは非常に堅固だった。市の北方と東方は青ナイル川であり、西方は白ナイル川、そして南方には古代の要塞があり広大な砂漠が広がっていた。ゴードンには6カ月分の食糧があり、数百万発の弾の備蓄と週に5万発の自製ができ、7000人のエジプト兵を有していた。しかしながら、市外にはマフディーが約50,000人のダルヴィーシュ（マフディー軍の兵士）を集結させ、時が経つにつれて突破できるチャンスはわずかとなっていった。

結局、英軍の救援なしにゴードンが助かる見込みはなくなり、英国は世論に押されてサー・ガーネット・ウルズリー将軍指揮の遠征軍が派遣された。

だが、冬季に白ナイルの水位が下がり、城壁基部に泥の「砂浜」が露わになる。城内には飢餓とコレラが広まり、エジプト兵の士気はひどく低下し、ゴードンは持ちこたえられなくなり、1885年1月25日、313日の包囲戦の末にハルツームは陥落した。

ウルズリーの救援軍はアブクレアの戦いでマフディー軍を撃破したが、救援軍がハルツームをその目を見た時には既に手遅れだった。町は二日前に陥落し、ゴードンと守備隊は虐殺されてしまっていた。この出来事によって、英国とエジプトのスーダンへの関与は一時的に終わり、スーダンは完全にマフディーが支配するものとなる。マフディー戦争wikiより



Daudi Cwa II (1896～1939) ブガンダ王国第34代王

イスマイル・アル＝アズハリー (1900～1969) 初代スーダン首相

Daudi Chwa IIの子



Eva Irini Alice Zalwango (1915～?) ※画像無し

ムハンマド・アフマド・マフジューブ (1908～1976) 第5代スーダン首相

アデン・アブドラ・ウスマン (1908～2007) ソマリア共和国初代大頭領



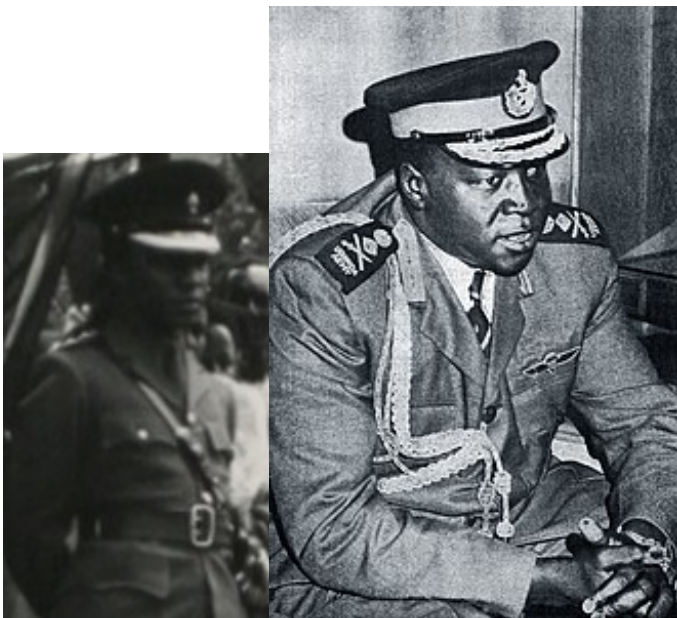
George William Mawanda (1919~?) ※画像無し

資延敏雄 (1922~2014) 第411代総本山金剛峯寺座主※画像なし

サー・アル・カティム・アル・カリファ (1919~2006) 第4代スーダン首相

ハッサン・グレド・アプティドン (1916~2006) ジブチ初代大頭領

フランソワ・トンバルバイ (1918~1975) チャド初代大統領



ブガンダ王ムテサ2世 (1924~1969) 初代ウガンダ大統領

イディ・アミン (1925~2003) 第3代ウガンダ大統領

やがて独裁化が進むとともに約10万から50万人と推計される国民を大量虐殺したとして「黒いヒトラー」、「アフリカで最も血にまみれた独裁者」と称された。少数民族、宗教指導者、ジャーナリスト、芸術家、官僚、裁判官、弁護士、学生、知識人、外国人など様々な人間が次々に殺害された。ほぼ同時期に大量虐殺を起こして同様に隣国に打倒されたカンボジアの独裁者ポル・ポトとも比較された。

また、アジア人追放事件（ほとんどは植民地時代に入植したグジャラート州などの出身の印僑であり、これに伴いイギリスのみならず、インドともウガンダは国交断絶した）を起こしてアミンはアジア人やヨーロッパ人の所有する事業を自分の支持者に与えるも杜撰な経営で産業は崩壊

した。経済は荒廃し、賃金と給料は9割も低下した。

アミンは右腕のアイザック・マリヤムング（英語版）など彼自身の部族であるカクワ族出身者をスーダン人、ヌビア人と共に重用した。1977年までに、これらの3つの民族グループは高級軍人の60%と閣僚の75%を構成し、人口の5%にすぎないイスラム教徒はこれらの80%と87.5%を構成した。これはアミンが8回ものクーデターを切り抜けた理由ともされる。

アミンの支配した8年のうちにウガンダの自然環境や生態系は密輸業者とウガンダ軍兵士によって行われた広範囲にわたる密猟と森林伐採にさらされた。ウガンダでは、ゾウの75%、サイの98%、ワニの80%、ライオンとヒョウの80%などが失われた。イディアミンwikiより



Alexander Ssimbwa（1934）※画像無し

松長有慶（1929） 第412代総本山金剛峯寺座主※画像なし

フェリックス・マルーム（1932～2009） 第2代チャド大統領※画像なし

サーディク・アル=マフディー（1935） 第6代スーダン首相

ブガンダ王Muteesa IIの子



Prince Kiweewa Luswata (194?) ※画像無し

オマル・アル＝バシル (1944) スーダン共和国第8代大統領

ヨウェリ・ムセベニ (1944) 第7代ウガンダ大統領

イッセン・ハブレ (1942) 第6代チャド大統領

1989年にクーデターによって軍事政権を成立させて政権を掌握。30年にわたり同国大統領として政権の座を維持してきたが、2019年4月に国防軍にクーデターを起こされ失脚した(2019年スーダンクーデター)。また、与党国民会議の議長(党首)も務めた。2003年から続くダルフル紛争での集団虐殺に関与にしたとして国際刑事裁判所から逮捕状が出されている。日本国内のメディアでは「バシル大統領」と表記・呼称されることが多い。オマル・アル＝バシル [wiki](#)より



Kabaka Ronald Muwenda Mutebi II (1955) ※画像なし

イドリス・デビ (1952) 第7代チャド大統領

ブガンダ王Muwenda Mutebi IIの子



Prince (Kiweewa) Jjunju Suuna (1986) ※画像無し

イルハン・オマル (1982) 民主党

アッシュール・ダン1世の一族～魔神アスラ、北イスラエル王国、アルメニア王国、グノーシス主義、非カルケドン派正教会、聖コロンバ、アルシング議会、千家家・北島家、オルデンプルグ伯爵、アイスランド共和国



アエギウス (?~?) アテーナイ第9代王 在位BC1282~BC1234
シャットウアラ2世 (?~?) ミタンニ王 在位BC1280~BC1270
シャルマネセル1世 (?~?) アッシリア帝国皇帝 在位BC1274~BC1245
魔神アスラ (?~?)

トゥクルティ・ニヌルタ1世 (?~?) アッシリア帝国皇帝 在位BC1244~BC1208

シャムパラ (?~?) 強大なアスラ王

アッシュール・ダン1世 (?~?) アッシリア帝国皇帝 在位BC1179~BC1134
※画像なし

ナラカ (?~?) 有力なアスラ王※画像なし

ティグラト・ピレセル1世 (?~?) アッシリア帝国皇帝 在位BC1115~BC1076
マヒシャースラ (?~?) アスラ王 (三界制覇)

アッシュール・ベル・カラ (?~?) アッシリア帝国皇帝 在位BC1074~BC1056
ブローマン (?~?) アスラ王

※征服王と呼ばれたシャルマネセル1世の時代にアッシリア人は「魔神アスラ」と呼ばれた。アスラの由来はアッシリアである。魔神アスラ (アッシリア人) の敵は、善神デーヴァとアーリア人だった。魔神アスラは、事前に嘘つきの天分を発揮して善神デーヴァに取り入り、デーヴァの科学力を利用してラピュタの如き戦闘用空中要塞を建設していた。

シャルマネセル1世の時代はバビロニアに勝利し、アッシリア帝国の拡大に歯止めが効かなかった（魔神アスラの始祖）。トゥクルティ・ニヌルタ1世は、父シャルマネセル1世の拡大路線を引継ぎ、中アッシリア王国時代を代表する征服王として君臨した（強大なアスラ王シャムパラに比する）。アッシュール・ダン1世は治世が長いことで知られる（有力アスラ王ナラカに比する）。ティグラト・ピレセル1世はユーフラテス川を越えて地中海に進撃し、「42の国の征服者」と呼ばれた（三界制覇達成アスラ王マヒシャースラに比する）。アッシュール・ベル・カはウラルトゥに遠征した（アスラ王ブローマンに比する）。

更に、魔神アスラはプト王国とシバ王国を邪教によって乗っ取り、両国の信者をパーンダヴァ族として統一し、テーバイ王国に侵攻させた。これにより「マハーバーラタ戦争」が開始された。しかし、マハーバーラタ戦争で善神デーヴァに敗北すると、魔神アスラはエジプトに逃亡し、タニス朝を開いた。

- ・ スメンデス1世 (?~?) タニス朝初代ファラオ 在位BC1069~BC1043
- ・ ネフェルケレス (?~?) タニス朝ファラオ 在位BC1043~BC1039
- ・ プセンネス1世 (?~?) タニス朝ファラオ 在位BC1039~BC991
- ・ アメノフティス (?~?) タニス朝ファラオ 在位BC991~BC984
- ・ オソコル (?~?) タニス朝ファラオ 在位BC984~BC978

プシナケス (?~?) タニス朝ファラオ 在位BC978~BC959

ナブー・ムキン・アプリ (?~?) バビロン第8王朝バビロニア王 在位BC978~BC943

プセンネス2世 (?~?) タニス朝ファラオ 在位BC959~BC945

ニヌルタ・クドゥリ・ウツル2世 (?~?) バビロン第8王朝バビロニア王 在位BC943

※タニス朝が滅ぶと、タニス朝のファラオの一族は古巣のアッシリアに逃亡し、アッシュール・ダン2世を生んだ。アッシュール・ダン2世は北イスラエル王国を築いた。



アッシュール・ダン2世 (?~?) アッシリア帝国皇帝 在位BC934~BC912 ※画

像なし

ヤロブアム1世 (?~?) 北イスラエル初代王 在位BC931~BC910



ナダブ (?~?) 北イスラエル王 在位BC909



バシャ (?~?) 北イスラエル王 在位BC909~BC886

ダレアスタルトウス (?~?) ティール王 在位BC900~BC889



エラ (?~?) 北イスラエル王 在位BC885



ジムリ (?~?) 北イスラエル王 在位BC885



オムリ (?~?) 北イスラエル王 在位BC885~BC874

アスタリムス (?~?) ティール王 在位BC888~BC880

フェレス (?~?) ティール王 在位BC879



アハブ (?~?) 北イスラエル王 在位BC874~BC853

イトバアル (?~?) ティール王 在位BC878~BC847



アハズヤ (?~?) 北イスラエル王 在位BC853~BC852



ヨラム (?~?) 北イスラエル王 在位BC852~BC841

マルドゥク・ザキル・シュミ1世 (?~?) バビロン第8王朝バビロニア王 在位BC855~BC819

バル・エセル2世 (?~?) ティール王 在位BC846~BC841



イゼベル (?~?) シリア王女 バアル崇拜

※アッシュール・ダン2世は、アッシリア帝国を治めながらヤロブアム1世として北イスラエル王国も同時に統治していた。しかしタナトスと無関係なダヴィデの一族イエフ王が北イスラエル王ヨラムとバアル崇拜の後援者イゼベルを殺害した。イエフと子ヨアハズが2代でBC841~BC797の間、イスラエルを統治した。だが、邪教信者の妨害がひどく、結局、イエフらはタナトスのことを知らないため、善の王は倒れることになる。

・マルドゥク・バラッス・イクビ (?~?) バビロン第8王朝バビロニア王 在位BC819
~BC813

・ババ・アハ・イディナ (?~?) バビロン第8王朝バビロニア王 在位BC812~?

※イエフによって一時的にイスラエル王国に平和が訪れたが、実際には死んだことにしてヨアブはバビロニアに避難していた。また、邪教信者は檻の扉が開いていても自分から閉めるような人々である。つまり、ヨラムは排除されたが、ヨラムの脳を持つ邪教信者たちは解放を喜んでいなかった。しかし、英雄に弱いイスラエル王家は一時的にバビロニアに避難し、バビロニア王を歴任した。だが余りに短命であったため、バビロニアでも空位時代が訪れた。



ニムルタ・アプラ・X (?~?) バビロン第8王朝バビロニア王 在位BC800~BC790
※画像なし

ヨアシュ (?~?) 北イスラエル王 在位BC797~BC782



アッシュール・ダン3世 (?~?) アッシリア帝国皇帝 在位BC772~BC755
※画像なし

ヤロブアム2世 (?~?) 北イスラエル王 在位BC782~BC747

マルドゥク・アプラ・ウツル (?~?) バビロン第8王朝バビロニア王 在位BC780~B

C 7 6 9 ※画像なし

エリバ・マルドゥク (?~?) バビロン第8王朝バビロニア王 在位BC 7 6 9~BC 7 6 1

※画像なし

ナブー・シュマ・イシュクン (?~?) バビロン第8王朝バビロニア王 在位BC 7 6 1~B

C 7 4 8 ※画像なし



ナボナッサル (?~?) バビロン第8王朝バビロニア王 在位BC 7 4 7~BC 7 3 0 ※画像なし

ゼカリヤ (?~?) 北イスラエル王 在位BC 7 4 7

シャルム (?~?) 北イスラエル王 在位BC 7 4 7 ※画像なし

メナハム (?~?) 北イスラエル王 在位BC 7 4 7~7 4 2 ※画像なし

バックス (?~?) バッキアード家祖、コリントス初代王

※コリントスの由来はクロノスとタナトスの組み合わせである。クロノス+タナトス=クロノトス=コリントスとなる。BC 7 4 7年、バッキアード家を興したナボナッサルが革命を指揮し、コリントスを掌握した。



ペカフヤ (?~?) 北イスラエル王 在位BC 7 4 2~7 4 0

ペカ (?~?) 北イスラエル王 在位BC 7 4 0~7 3 1

ナブー・ナディン・ゼリ (?~?) バビロン第8王朝バビロニア王 在位BC 7 3 3~BC 7

3 2

ナブー・シュマ・ウキン2世 (?~?) バビロン第8王朝バビロニア王 在位BC732

ナブー・ムキン・ゼリ (?~?) バビロン第9王朝バビロニア王 在位BC731~BC729

ティグラト・ピレセル3世 (?~?) バビロン第9王朝バビロニア王 在位BC728~BC727

シャルマネセル5世 (?~?) バビロン第9王朝バビロニア王 在位BC727~BC722

ホシュア (?~?) 北イスラエル王 在位BC731~722

※バビロニア王ニヌルタ・アプラ・Xがイエフの子として、イスラエル王位を篡奪し返した。その後、アッシュール・ダン3世がヤロブアム2世として北イスラエル王の座に就き、イスラエルをタナトスの手に戻すが、BC740年頃、ネブカドネザル2世に世って、イエフ朝の王族はアッシリア帝国に捕囚された。

アッシュール・ナディン・シュミ (?~?) バビロン第9王朝バビロニア王 在位BC699~BC694

ディオケス (?~?) メディア王国初代王 在位BC700~BC647

スキタイ王マデュエス (?~?) メディア王国第3代王 在位BC624~BC597

ナポポラッサル (?~?) カルデア王国初代王 在位BC625~BC605

ネブカドネザル2世 (BC634~BC562) バビロン第9王朝バビロニア王 在位BC605~BC562

キュアクサレス2世 (?~?) メディア王国第4代王 在位BC624~BC585

アルバケス (?~?) メディア王国第5代王 在位BC585

アステュアゲス (?~?) メディア王国第6代王 在位BC585~BC549

エビル・メロダク (?~?) カルデア王国第3代王 在位BC561~BC560

ネリグリッサル (?~?) カルデア王国第4代王 在位BC559~BC556

ラバシ・マルドゥク (?~?) カルデア王国第5代王 在位BC556

ナポニドゥス (?~?) カルデア王国第6代王 在位BC555~BC539

キュロス2世 (?~BC529) 第4代アンシャン王 在位BC559~BC529

アルケタス1世 (?~?) アルゲアス朝マケドニア王 在位BC576~BC547

※バビロニア王アッシュール・ナディン・シュミは、大宛で王に即位し、イランではなく、新疆

に「メディア王国」を築いた。また、クレタ島に侵攻して全島を掌握し、クレタ王に即位した。クレタ島は、「カルデア王国」と呼ばれた。彼らが支配した新バビロニア王国は、クレタの植民地だった。

クレタ島の歴史は記録が皆無であり闇に包まれているが、じつはカルデア王の系譜がクレタ王の系譜である。カルデア王国の歴史を知ること、クレタ島の歴史を知ることが出来るのだ。メディアの由来はミディアン、カルデアの由来はクリュティオスである。クリュティオス＝クリュティオ＝カルデアとなる。また、ナポンドゥスはペルシア王国とマケドニア王国両方の篡奪を狙い、不正な手段で王座を奪取している。

ペルディッカス3世 (?～BC 359) アルゲアス朝マケドニア王 在位BC 368～BC 359

アルタクセルクセス2世 (BC 430～BC 358) アケメネス朝第7代ペルシア皇帝、ミトラ教教祖



ペルセウス (BC 212～BC 168) アンティゴノス朝マケドニア王 在位BC 179～BC 168※画像なし

アルタクシアス1世 (BC 230～BC 160) アルメニア王国初代王

※ペルシア皇帝アルタクセルクセス2世は、ミトラ教の教祖だった可能性がある。その後のアルメニア王は、全員がミトラ教祭司を兼務し、ローマに進出したと考えられる。

ヴォロガセス3世 (?～147) アルサケス朝第5代アルメニア王 在位105～147
バシレイデース (85～145) グノーシス主義バシレイデース派

ソハエムス (?～161) アルサケス朝第6代アルメニア王 在位144～161

ウォレンティノス (100～160) グノーシス主義ウォレンティヌス派

マルキオン (100～160) グノーシス主義マルキオン派

※グノーシスの由来はクノッソスである。クノッソス＝クノーソス＝グノーシスとなる。つまり、グノーシス主義はクレタ島で生まれた。バシレイデースの由来はヴァイシュラーヴァナとクリュテイオスの組み合わせであり、ウォレンティノスの由来はオリンポスとディオニュソスの組み合わせである。

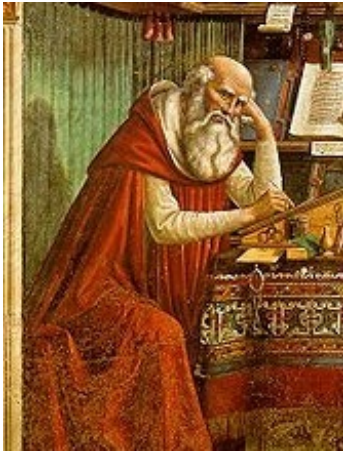
ヴァイシュラーヴァナ+クリュテイオス＝ヴァイシュラーテイオス＝バシレイデースとなり、オリンポス+ディオニュソス＝オリンディオニュソ＝ウォリンデオヌソ＝ウォレンティノスとなる。ウォレンティノスの名はオリエントの由来になったと考えられる。



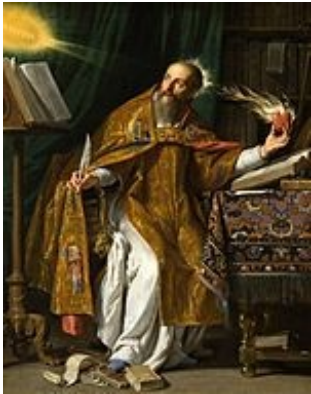
ティリダテス3世（250～330） アルサケス朝第13代アルメニア王
啓蒙者グレゴリウス（257～331） アルメニア教会教祖



アルサケス3世（371～390） アルサケス朝第19代アルメニア王※画像なし
エチオピアのフルメンティ（？～383） エチオピア教会教祖



ヴラムシャプー（340～414） アルサケス朝第21代アルメニア王※画像なし
聖ヒエロニムス（347～420）



アルタクシアス4世（404～？） アルサケス朝第22代アルメニア王（最後の王）※画像なし
聖アウグスティヌス（354～430）
ERC（？～474） ダルリアタ王※画像なし



LOEGAIRE MAC NEILL（？～458） 第12代アイルランド・ハイキング※画像なし
LOARN（？～？） ダルリアタ王※画像なし
ディオスコロス（？～454） コプト教教祖
TUATHAL MAELGARIB（？～544） 第17代アイルランド・ハイキング

COMGALL (?~540) ダルリアタ王

聖フィニアン (470~549) クロナード修道院創立

※クロナードの由来はカルヌーテースである。カルヌーテース=カルヌーテ=クロナードとなる。

CONALL (?~574) ダルリアタ王

聖ヤコブ・バラデイウス (500~578) ヤコブ教会教祖



AEDMACAINMUIRECH (?~598) 第18代アイルランド・ハイキング※画像なし

AEDAN (?~606) ダルリアタ王※画像なし

聖コロンバ (521~597) アイルランド・カトリック教祖

カンタベリーのアウグスティヌス (?~604) 初代カンタベリー大主教※画像なし

AEDUARIDNACH (?~612) 第19代アイルランド・ハイキング

EOCHAIDBUIDE (?~629) ダルリアタ王

CONNADCERR (?~629) ダルリアタ王

聖コロンバヌス (543~615)

ラウレンティウス (?~619) 第2代カンタベリー大主教

※アイルランド・ハイキングはダルリアダ王を兼任し、アイルランド・カトリックの神官として布教に努めたが、聖コロンバヌスの時代にマヤに移住している。

ジャソウ・チャン・カウィール1世 (?~734) ティカル初代君主 在位682~734

無名のティカル君主 (?~869) ティカル君主 在位不明

AMLAIBCONUNG (?~874) ダブリン王国初代王 在位853~871



ジャソウ・チャン・カウィール2世 (?~889) ティカル君主 在位869~899※画像なし

パパール (?~?) アイルランド人僧侶※画像なし

インゴールヴル・アルナルソン (?~?) ノルウェー・アイスランド首領

ハーラル1世 (850~930) ユングリング朝ノルウェー初代王 在位872~930※画像なし

BLACAIREMACGOFRAID (?~948) ダブリン王国第15代王 在位941~945

トルスタイン・インゴルフソン (?~?) 初代アルスヘルジャルゴジ 任期930~945



オーラヴ1世 (960年代~1000年代) ユングリング朝第6代ノルウェー王※画像無し

レイフ・エリクソン (970~1020)

千家孝宗 (生没年不詳) 千家家第55代出雲国造

北島貞孝 (生没年不詳) 北島家第55代出雲国造

※千家の由来は、Chirtiansen、Johansenなどデンマーク特有の名前からSENを採った「SENの家」であり、北島の由来はアイスランドである。つまり、千家家、北島家はヴァイキングの子孫ということになる。ただ、出雲国造には途中から東本願寺門主従如の一族(80代千家尊福)、口

—マ教皇レオ1世の一族（82代千家尊統）などの血が入ってくる。

BRODAR MAC TORCAILL (?~1160) ダブリン王国第46代王 在位?~1160

GUDMUNDR GRISSAMUNDASON (?~?) 第6代アルスヘルジャルゴジ 任期1160

インゲ1世 (?~1161) シュル朝ノルウェー王 在位1136~1161

マグヌス2世 (?~1161) エストリズセン朝スウェーデン王 在位1125~30、1160~61

マグヌス・ゴジ・ゴジムンダルソン (?~?) 第8代アルスヘルジャルゴジ 任期1197~1234

ホーコン3世 (?~1204) シュル朝ノルウェー王 在位1202~1204

グットルム・シグルツソン (?~1204) シュル朝ノルウェー王 在位1204

インゲ2世 (?~1217) シュル朝ノルウェー王 在位1204~1217

Maurice (1145~1211) オルデンプルグ伯爵

※アイルランド・ハイキングはティカル（マヤ）の君主としてティカルを統治した。その後、ヴァイキング時代になると、ティカルの君主はアイルランドに帰還し、ヴァイキングに紛れてダブリン王国を建設し、アイスランドを領土化した。世界最古の民主議会アルシングを設立し、デンマークにもオルデンプルグ伯爵領を設けた。

オルデンプルグ伯Maurice、9世代目の子孫



クリスチャン1世 (1426~1481) オルデンプルグ朝初代デンマーク王



フレゼリク1世（1471～1533） オルデンブルグ朝第2代デンマーク王



クリスチャン3世（1503～1559） オルデンブルク朝第5代デンマーク王

グレゴリウス13世（1502～1585） ローマ教皇 在位1572～1585

ピウス5世（1504～1572） ローマ教皇 在位1566～1572

デンマーク：カルマル同盟再編（1537）

フランス：ユグノー5万人虐殺（1572）

※デンマーク王クリスチャン3世、ローマ教皇グレゴリウス13世とピウス5世は同一人物である。



クリスチャン4世（1577～1648） オルデンブルク朝第7代デンマーク王

デンマーク：スウェーデン・デンマーク戦争（1611～13）



フレゼリク3世（1609～1670） オルデンブルク朝第8代デンマーク王

デンマーク：スウェーデン・デンマーク戦争（1643～45）



クリスチャン5世（1646～1699） オルデンブルク朝第9代デンマーク王



フレゼリク4世（1671～1730） オルデンブルク朝第10代デンマーク王

デンマーク：デンマーク・ロシア・ポーランド三国同盟

デンマーク：北方戦争

デンマーク：ガデブッシュの戦いに敗北

※本願寺の血を継ぐ歴代のデンマーク王は、ダヴィデの一族に属するヴァーサ朝を敵視していたが、フレゼリク4世の時に敗北した。



クリスチャン6世（1699～1746） オルデンブルク朝第11代デンマーク王



フレゼリク5世（1723～1766） オルデンブルク朝第12代デンマーク王

※フレゼリク5世の後は、イギリス王室の血が入ることになるので、デンマーク王家に巢食い、カルマル同盟によって北欧を支配した本願寺の血筋はここで終わる。1807年にイギリス海軍がデンマーク艦隊を撃破し、デンマーク本土を砲撃したが、これは西本願寺門主文如の子ウィリアム・ピット政権がイギリス王室（ダヴィデの一族）の血を継ぐデンマーク王国を攻撃したものだ。

王子フレゼリクの子（デンマーク王フレゼリク5世の孫）



クリスチャン8世（1786～1848） デンマーク王 在位

※アッシュール・ダン1世の一族は、この時に2世代ぶりにイギリス王室（ダヴィデの一族）からデンマーク王位を取り戻している。



フレデリク7世（1808～1863） デンマーク王 在位1848～1863

王子フレゼリクの玄孫（デンマーク王フレゼリク5世の子孫）



マクシミリアン（1871～1904） バティルディスの子※画像なし

スヴェイン・ビョルンソン（1881～1952） アイスランド初代大統領

Pope Macarius III（1872～1945） コプト教会アレキサンドリア総主教

Joseph II（1875～1956） コプト教会アレキサンドリア総主教※画像無し

※絵だが、マカリウスはスウェインに良く似ている。どうやらオルデンプルグ伯の一族が 代々のアイスランドの大統領、首相に就任し、その上で先祖の遺産であるコプト教、エチオピア教会、アルメニア教会を指揮しているようだ。



アルフレート（1924～2013） ジギスムント・フォン・プロイセンの子

ステイングリムル・ヘルマンソン（1928～2010） アイスランド第18代首相

シェヌーダ3世（1923～2012） コプト教会アレクサンドリア総主教



ヨハン・フリードリヒ・アドルフ（1940）ニコラウス・フォン・オルデンプルクの子
 オラフル・ラグナル・グリムソン（1943）アイスランド第5代大統領
 アブネ・マティアス（1941）エチオピア教会総主教



クリスティアン・ニコラウス・ウッド・ペーター（1955）アントン・ギュンター・フォン・オルデンプルクの子
 ゲイル・ホルデ（1951）アイスランド第21代首相
 ガレギン2世（1951）アルメニア教会総主教



Prince Christian of Schaumburg-Lippe (1971) Prince Wilhelm of Schaumburg-Lippeの子
グズニ・ヨハンネソン (1968) アイスランド共和国第6代大統領

ガリアのドルイド司祭（東本願寺）の一族～アテネ民主制、ローマ執政官、ソピテース、デマゴグ、ヘロデ大王、ローマ帝国、フィリキ・エテリア、青年トルコ革命、アルメニア人大虐殺、クルディスタン労働者党

メランタス（?～?） アテーナイ王 在位BC1126～BC1089

ラムセス9世（?～?） エジプト第20王朝第8代ファラオ 在位BC1126～BC1108

ラムセス10世（?～?） エジプト第20王朝第9代ファラオ 在位BC1108～BC1098

コドルス（?～?） アテーナイ王 在位BC1089～BC1068

ラムセス11世（?～?） エジプト第20王朝第10代ファラオ 在位BC1098～BC1070

ヘムネテルテピエンアメン・ヘリホル（?～?） エジプト第21王朝初代ファラオ 在位BC1080～BC1074

※マハーバーラタ戦争を機に、アラビア半島のアテーナイ王国は拠点も古代ギリシアに移転した。

メドン（?～?） アテーナイ初代アーコン 在位BC1068～BC1048

スメンデス1世（?～?） タニス朝初代ファラオ 在位BC1069～BC1043

カーケペルラー＝セテプエンアメン・パネジェム1世（?～?） エジプト第21王朝第23代ファラオ 在位BC1070～BC1032

・アカスタス（?～?） アテーナイ第2代アーコン 在位BC1048～BC1012

・アルチッパス（?～?） アテーナイ第3代アーコン 在位BC1012～BC993

テルシッパス（?～?） アテーナイ第4代アーコン 在位BC993～BC952

スメンデス2世（?～?） エジプト第21王朝第6代ファラオ 在位BC992～BC990

カーケペルラー＝セテプエンアメン・パネジェム2世（?～?） エジプト第21王朝第7代ファラオ 在位BC990～BC969

フォルバス（?～?） アテーナイ第5代アーコン 在位BC952～BC922

プセンネス3世（?～?） エジプト第21王朝第8代ファラオ 在位BC969～BC945

メガクレス (?~?) アテーナイ第6代アーコン 在位BC922~BC892
アッシュール・ダン2世 (?~?) アッシリア帝国皇帝 在位BC934~BC912
ヤロブアム1世 (?~?) 北イスラエル初代王 在位BC931~BC910

・ディオグネタス (?~?) アテーナイ第7代アーコン 在位BC892~BC864
・ペレクレス (?~?) アテーナイ第8代アーコン 在位BC864~BC845

アリフロン (?~?) アテーナイ第9代アーコン 在位BC845~BC825
マッタン1世 (?~?) ティール王 在位BC840~BC832

テスピウス (?~?) アテーナイ第10代アーコン 在位BC824~BC797
プロカス (?~?) アルバ・ロンガ王 在位BC817~BC794 ※ロムルス之父

アガメストール (?~?) アテーナイ第11代アーコン 在位BC796~BC778
エスキラス (?~?) アテーナイ第12代アーコン 在位BC778~BC755

アルクメオン (?~?) アテーナイ第13代アーコン 在位BC755~BC753
ヌミトル (?~?) アルバ・ロンガ王 在位BC752 ※ロムルスの祖父

・ディドー (?~BC759) カルタゴ初代女王 在位BC839~BC831
・ピグマリオン (?~BC785) カルタゴ王 在位BC831~785



ロムルス (BC771~BC717) 初代ローマ王 在位BC753~BC717

※ロムルスはローマ王国の初代王とされているが、実際にはエトルリア人の可能性がある。つまり、アテーナイ人の末裔だ。ロムルスの父と祖父はアルバ・ロンガ王だが、これはつまり、彼らはアラビア半島から来たことを示している。ローマ共和制以前の公式なエトルリアの記録は皆無だが、このロムルスの伝説が、じつはエトルリアの歴史なのかもしれない。



ヌマ・ポンピリウス (BC 750～BC 673) 第2代ローマ王 在位BC 716～BC 673



トゥッルス・ホスティリウス (BC 710～BC 641) 第3代ローマ王 在位BC 673～BC 641



アングス・マルキウス (BC 675～BC 616) 第4代ローマ王 在位BC 641～BC 616

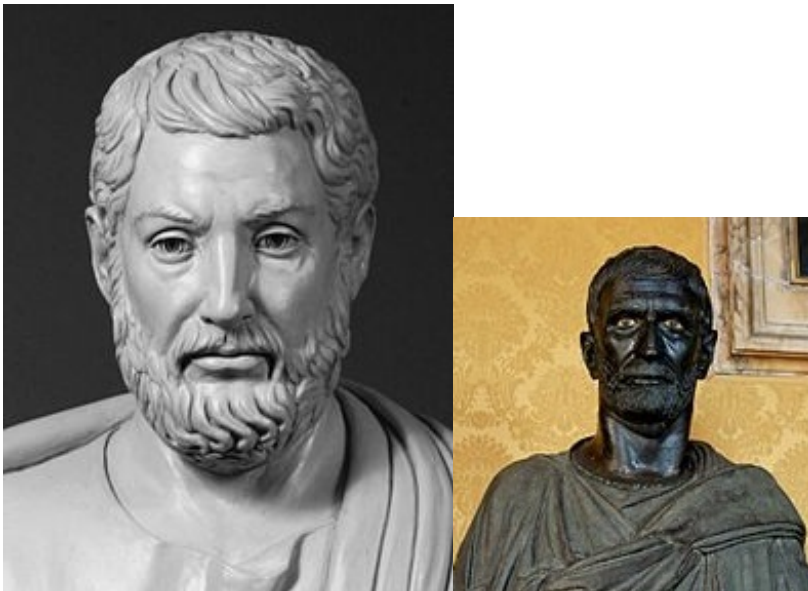
メガクレス (?～?) アルクメオン家※画像なし



タルクィニウス・プリスクス (?~BC 579) 第5代ローマ王 在位BC 616~BC 579



セルウィウス・トゥッリウス (?~BC 535) 第6代ローマ王 在位BC 578~BC 535



タルクィニウス・スペルブス (?~BC 495) 第7代ローマ王 在位BC 535~BC 509 ※画像なし

クレステネス (BC 570~BC 6世紀前半) アルクメオン家、アテネ民主制

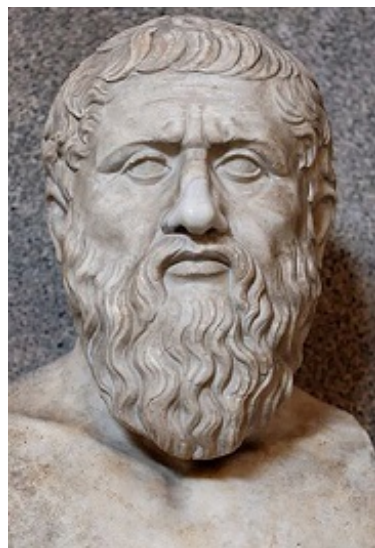
ルキウス・ユニウス・ブルトゥス (?~BC 509) 初代ローマ執政官

※第7代ローマ王スペルブスは、クレステネスに変身し、下層民の暴動を正当化するために民

主義を開発し、数で圧倒する形でギリシアを乗っ取ろうとした。だが、彼らは優れた人間たちに敗北し、撤退を余儀なくされた。敗因は、バカが少ないことである。

ドルイド僧は「もっとバカを増やさねばならない。バカが少ないと勝てない。脅したら何でも言うことを聞くバカを大量に育てねばならない」と悟った。クレステネスの民主制はバカが少ないために頓挫した。現在は、異常なほどバカが多いので民主主義は世界の隅々にまで浸透している。

一方、スペルブスは、自分たちのウソを真実に変える装置として、ブルトゥスに変身し、アテナイのアーコン、ローマの王に続いて、ローマ元老院とローマ執政官という権威を作った。ガリアに於けるドルイド教による人身御供も、カルタゴの魔神バアル・ハンモンの人身御供も、すべてアテナイ人の末裔が務めるローマ執政官が指揮していた。つまり、ドルイド教はある意味、幻想のようなものだった。



ティトゥス・クインクティウス・カピトリヌス・バルバトゥス（BC 513～BC 423） ローマ執政官※画像なし

プロタゴラス（BC 500～BC 420） ソピテース

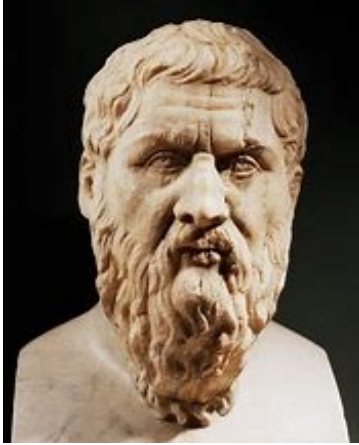
クレオン（?～BC 422） デマゴグ扇動者※画像なし

ソグディアノス（?～BC 423） アケメネス朝第5代ペルシア皇帝 在位BC 423※画像なし

※生没年から判断すると、バルバドゥスはプロタゴラスに相違ない。つまり、ローマ共和国で執政武官が影響力を強めると、これに敗北し、ブルトゥスの末裔であるローマ執政官バルバドゥスらはギリシアに落ち延び、ソピテース（ソフィスト）として活動した。ドルイド司祭と同様、ソピテースの正体はローマ執政官だった。

それだけではない。アテネの栄光を貶めたデマゴグの正体もローマ執政官だった。悪名高いクレオンの正体は、これまた悪名高いソピテースのプロタゴラスである。生年は不詳だが、没年は非常に近いことから判断した。また、バルバトゥスはペルシア帝国の掌握を考えてソグディアノ

スとしてペルシア皇帝の座を一時的に掌握している。



マルクス・ゲガニウス・マケリヌス (?~?) ローマ執政官

ゴルギアス (BC 484~BC 375) ソピテース

※ゴルギアスにとってプロタゴラスは兄貴分であり、執政官時代にはマケリヌスの兄貴分はバルバドゥスだった。つまり、生没年は不詳だがマケリヌスはゴルギアスに相違ないだろう。

ガイウス・ユリウス・ユッルス (?~?) ローマ執政官

ヒピアス (BC 460~BC 400) ソピテース

アルキビアデス (BC 450~BC 404) デマゴーグ

小キュロス (?~BC 401)

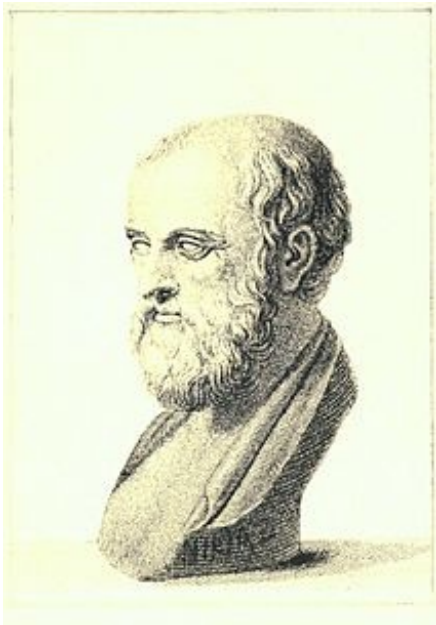
オスタネス (?~?)

クリティアス (BC 460~BC 403) 三十人僭主指導者

テラメネス (?~BC 404) 三十人僭主

※バルバドゥスの頃からペルシア帝国の掌握が始まったが、その第二弾としてローマ執政官ユッルスが小キュロス、オスタネスに変身してペルシア皇帝の座を狙い、即位したばかりの兄アルタクセルクセス2世に対して蜂起した。詳細は明らかではないが、たぶん、すぐに鎮圧され、小キュロスとオスタネスは殺害されたのだろう。しかし、殺されたのは影武者だろう。

ということでユッルスはアテネに入り、クリティアとして武力と保護を背景に三十人少数党派の独裁政権を樹立した。彼は、次々に反対派を死刑や国外追放に処し、ソクラテスに「次々に牛を減じて質を悪化させた牛飼い」と皮肉られる。これを受けクリティアスは、ソクラテスに30歳以下の若者との会話を禁じた（悪者扱いした上で影響力を殺いでいる）。



プロディコス (BC 465 ~ BC 415) ソピテース※画像なし
ニキアス (BC 470 ~ BC 413) デマゴーク

※天敵である哲人ソクラテスに死刑宣告をしたにもかかわらず、ソクラテスは死んだことにして逃亡した。これを機に、ソフィストもカルタゴに移って「10人の元老院議員」を結成し、カルタゴの生贄の儀式を取り仕切った。ポエニ戦争直前には、名家の子弟500人を生贄に処し、焚殺している。これはタナトスが統治するローマ軍がカルタゴ軍に勝つための事前工作である。なまけものであるタナトスは、自らが戦うことを好まない。しかし、勝ちたい。戦わずに勝ちたい。そのためには敵側の、優れた指導者となる素質がある青年を殺さなければならないのだ。敵が弱ければ簡単に勝てる。ということで「偉大な神バアルハンモンが優れた青少年を生贄に欲している」とウソぶき、将来、指導者として大成したはずの青少年たちを焼き殺した。青少年をただ殺すのではなく、生贄として神に捧げれば、自分たちが青少年を殺したように見えない。これが殺さずに殺す方法である。

ウェル・サクレムの時代 (BC 390頃)

- ・ルキウス・フリウス・メダリヌス (? ~ ?) ローマ執政官 任期 BC 413
- ・アウルス・コルネリウス・コッサス (? ~ ?) ローマ執政官 任期 BC 413
- ・カイウス・フリウス・パシルス (? ~ ?) ローマ執政官 任期 BC 412
- ・クィンタス・ファビウス・アンバスタス・ヴィブラヌス (? ~ ?) ローマ執政官 任期 BC 421
- ・スプリウス・ナウティウス・ルティルス (? ~ ?) ローマ執政官 任期 BC 411
- ・マルクス・パピリウス・ムギッラヌス (? ~ ?) ローマ執政官 任期 BC 411
- ・マニウス・アエミリウス・マメルキヌス (? ~ ?) ローマ執政官 任期 BC 410

- ・カイクス・ヴァレリウス・ポティトゥス・ウォルスス (?~?) ローマ執政官 任期BC410
- ・クナエウス・コルネリウス・コッスス (?~?) ローマ執政官 任期BC409
- ・ルキウス・ヴァレリウス・ポティトゥス (?~?) ローマ執政官 任期BC393
- ・パブリウス・コルネリウス・マルギネンシス (?~?) ローマ執政官 任期BC397
- ・マルクス・マンリウス・カピトリヌス (?~BC384) ローマ執政官 任期BC392

※ガリアでは、ドルイド僧に変身したローマ執政官が粗暴なケルト人を飼いならし、ローマに台頭しつつあった執政武官を排除しようと考えていた。ローマ人武官は強い、そして自分たちは弱い。なので自ら武官に手出しできない。そのため、ローマ執政官は自分たちの手足の代わりとして屈強なケルト戦士を掌握することに決めた。ドルイドの名の由来はデルポイとアテネの組み合わせである。つまり、自分たちは「アテーナイから来た聖地デルポイの神官だ」というアピールだろう。デルポイ+アテネ=デルアテ=ドルイドとなる。

その第一弾が、ローマに対する「聖なる移住(ウェルサクレム)」として結実するが、上記に記したローマ執政官たちが凶暴なケルト人を操って「聖なる移住」を指揮した。これは、大谷の祖であるドルイド司祭による「一向一揆」の原型である。「数で優れた者を圧倒する」という戦法が、既に古代ローマ相手に実施されていたのだ。多数の弱者を指揮して少数の強者を数で圧倒する。

これは、確かに自然の摂理に適った賢い方法ではあるが、強者が多数である時、この方法は機能しない。ドルイド教が指揮した「ウェル・サクレム」は、それを教えてくれる。ローマには優れた強者が大勢いたのだ。この時、ドルイド教は「強い敵と戦う前には、強者たちを弱体化しなければならない」ということを学んだ(そして、その研究と実践は「魔女狩り」として中世ヨーロッパで、近代になってからはアメリカ合衆国、日本で発揮されることになる)。ドルイド教の新しい敵はローマ共和国である。

- プブリウス・デキウス・ムス (?~BC340) ローマ執政官 任期BC340
- バゴアス (?~BC336) ペルシア帝国宦官
- アルセス (?~BC336) ペルシア帝国第9代皇帝

※ローマ執政官ムスの時代によくペルシア帝国を落とすことが出来た。宦官であるバゴアスがアルタクセルクセス3世とその子息を全員毒殺した上でアルセスを名乗り、ペルシア皇帝の座に就いたのだ。しかし、バゴアス自身毒殺され、正統なアケメネス家の一員ダレイオス3世がペルシア皇帝の座を取り戻した。

マニウス・クリウス・デントゥス（BC 330～BC 270） ローマ執政官 任期BC 275

ゼラルセン（BC 344～BC 274） マッシリ王国初代王

※ローマ執政官デントゥスの時代、彼らはローマ国内の屈強な軍人の台頭を危惧し、ローマ軍を仮想敵としてロックオンし、強力な援軍の育成のために地中海対岸のマッシリ王国に進出している。

マルクス・アエミリウス・レピドゥス（?～BC 216） ローマ執政官 任期BC 232

ハミルカル・バルカ（BC 275～BC 228）

ハスバルドル（BC 270～BC 221）

マルクス・ポルキウス（?～?） マルクス・ポルキウス・カト・ケンソリウスの父

ガラ（BC 275～BC 207） マッシリ王国第2代王

※ローマ執政官レピドゥスの時代、彼らはマッシリアに足場を得て、次にカルタゴ内部に深く入り込んだ。目的は強国カルタゴの掌握とローマへの進軍である。一方で、カルタゴ国内の英雄を一掃した。つまり、弱体化政策を推し進めたに、邪教バアル・ハンモン崇拝を確立した。ハミルカル・バルカなどは、子女を生贄にするための魔神バアル・ハンモン崇拝の神官だったと考えられる。

ハミルカル・バルカの子



ハンニバル・バルカ (BC 247～BC 182)

クイントゥス・ミヌキウス・テルムス (?～BC 188) ローマ執政官 任期BC 193 ※
画像なし

ハスドルバル・バルカ (BC 245～BC 207)

マルクス・クラウディウス・マルケッルス (BC 268～BC 208) ローマ執政官 任期B
C 208

ティトゥス・クィンクティウス・クリスピヌス (?～BC 208) ローマ執政官 任期BC 2
08

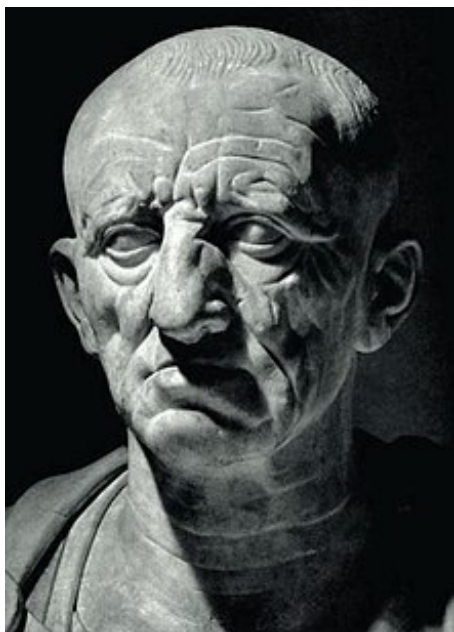
ハズバルドル・ギスコ (?～BC 202)

マゴ・バルカ (BC 243～BC 203)

マルクス・コルネリウス・ケテグス (?～BC 196) ローマ執政官 任期BC 204

※ハンニバルは強国カルタゴの兵を指揮し、ローマに進軍した。おもしろいことに、ハンニバル
・バルカはローマ執政官（ドルイド司祭）でもあった。ローマ執政官の思惑としては、「ポエニ
戦争」はスキピオ将軍などの屈強なローマ人英雄を一掃するための戦争だったが、ハンニバルは
敗北し、カルタゴには塩が撒かれた。

マルクス・ポルキウスの子



マルクス・ポルキウス・カト・ケンソリウス (BC 234～BC 149)

バガス (?～?) マウレタニア王 在位BC 225※画像なし

マシニッサ1世 (BC 202～BC 148) ヌミディア王国初代王

マルクス・ポルキウス・カト・サロニアヌス (BC 154~?)
ミキプサ (BC 148~BC 118) ヌミディア王国第2代王
グルッサ (BC 148~BC 145) ヌミディア王国第3代王
マスタナバル (BC 148~BC 14?) ヌミディア王国第4代王

マルクス・ポルキウス・カト (?~?)
ヒェンプサル1世 (BC 118~BC 117) ヌミディア王国第5代王
アドヘルバル (BC 118~BC 112) ヌミディア王国第6代王
ジュグルタ (BC 118~BC 105) ヌミディア王国第7代王



マルクス・ポルキウス・カト・ウティケンシス (BC 95~BC 46)
マスタネソス (?~?) マウレタニア王 在位BC 80~BC 49

マルクス・ポルキウス・カト (BC 73~BC 42)
バッカス2世 (?~?) マウレタニア王 在位BC 49~BC 33
ボグド (?~?) マウレタニア王 在位BC 49~BC 38

※カト・ケンソリウスの一族が、ヌミディア王とマウレタニア王の座を戴いたのは宿敵カエサルなどの英雄の挟み撃ちを想定していたからだ。敵を仲間で囲めば何とかできると考えていたのだろう。だが、次代のマウレタニア王ユバ2世からは、ダヴィデの一族がマウレタニアの王座に就いている。そしてユバ2世から洗礼者ヨハネ、イエス・キリストが生まれている。

プブリウス・コルネリウス・スキピオ・ナシカ・セラピオ (BC 183~BC 132) ローマ
執政官 在位BC 138

エウヌス (?~BC 132) アタルガティス教
クレオン (?~BC 132) アタルガティス教

※セラピオは有能なグラックス兄弟を敵視し、暗殺に加担した。しかしその後、アジアに逃亡し

ている。そしてセラピオは再びローマ軍の前に姿を現した。「第1次シチリア奴隷戦争」である。指揮者であるはずの彼は自身をアタルガティス教の「信者」と偽り、戦争を指揮した。三頭政治を実施したカエサルのような強い英雄が出てきたことで、ドルイド教は、カエサルに勝つために数で圧倒する術策を採った。それが奴隷戦争である。これは一向一揆の前身のようなものだ。名目上、彼らは自由を勝ち取るために戦った。大名の横暴と戦うことを理由に蜂起した一向一揆と全く同じであるし、民主主義やマイノリティのために戦うアメリカ民主党も一向一揆と同じものである。要は、第三者の目を意識し、敵（英雄）に対する悪意を隠すことで、自分たちは悪ではないと主張している。そう主張することで「自分たちは悪ではないのだから敵が悪なのだ」という主張を同時に行っている。

マルクス・リウィウス・ドルスス（?～BC108） ローマ執政官 任期BC112
ボイオリクス（?～BC101） ガリアのドルイド教司祭

※キンブリ族、テウトニ族を邪教で飼いならしたローマ執政官（ドルイド司祭）は、蛮族を指揮し、ローマに侵攻した。

クイントゥス・セルウィリウス・カエピオ（?～?） ローマ執政官 任期BC106
サルウィウス（?～BC100） アタルガティス教
トゥリフォン（?） アタルガティス教
アテニオン（?） アタルガティス教

※カエピオはキンブリ・テウトニ戦争で意図的にローマ軍を大敗に導き、8万の兵と4万の属州兵を無駄死にさせた。そのため、ローマ市民に批判され、弾劾されるとアジアに逃亡した。その後、カエピオは「第2次シチリア奴隷戦争」の指導者としてローマ軍の前に再び出現した。

マルクス・アエミリウス・レピドゥス（BC120～BC77） ローマ執政官 任期BC78
スパルタクス（?～BC71） アタルガティス教
クレクスス（?～BC72） アタルガティス教

※ローマ執政官レピドゥスが、スパルタクスなどの第3次シチリア奴隷戦争の指導者たちを演じた。



マスタエバル（BC 88～BC 81） 西ヌミディア王国初代王※画像なし
マルクス・ユニウス・ブルトゥス（BC 85～BC 42） カエサル暗殺



マシニッサ2世（BC 81～BC 46） 西ヌミディア王国第2代王※画像なし
ウェルキングトリクス（BC 72～BC 46） ヘルウェティイ族首長
ヘロデ大王（BC 73～BC 4） ヘロデ朝初代イスラエル王

※アウグストゥスら、ダヴィデの一族の勇者たちに退けられ、ローマ執政官の一味はヌミディアに拠点を移していたが、一時的にガリアに落ち延び、その後、イスラエルにヘロデ朝を築いた。ヘルウェティイの首長ウェルキングトリクスはイスラエルではヘロデ王となり、ヘロデ朝を開いたが、ヘロデの由来はヘルウェティイである。

ヘロデ大王の孫



サロメ（14～62）

ブーディカ（？～61） イケニ族女首長

※サロメはブリテン島を支配するためにヘロデ朝から送り込まれたようだ。ブリテン島は、ネロの治世にローマ軍の襲撃を受けたが、皇帝ネロはブーディカとは家族であるため、退いてくれた。それでブーディカの軍がローマ軍に勝ったように見えたが、ローマ軍の将軍たちがネロの命令に耳を貸さないと、ブリテン人はすぐに負けた。

ヘロデ朝イスラエル王アグリッパ1世の曾孫



アリストブロス（？～72） カルキス君主 在位54～72※画像なし

パウロ/サウル（？～67） 伝道師

※ヘロデ朝イスラエル王アグリッパ1世の子アリストブロスは、伝道師パウロに化けて、キリスト教の篡奪を試みたが、ダヴィデの一族に属するシモン・ペトロの妨害に合い、対立した。

ヘロデ大王の曾孫



アグリッパ2世 (27~100) ヘロデ朝第4代イスラエル王※画像なし

マルクス・トラヤヌス (30~100) トラヤヌス皇帝の父※画像なし

ネロ (37~68) ローマ執政官 任期55~60 ローマ帝国第5代皇帝 在位54~68

ドミティアヌス (51~96) ローマ執政官 任期82~100 ローマ帝国第11代皇帝
在位81~96



トラヤヌス (53~117) ローマ執政官 任期100~112 ネルヴァ=アントニウス朝
第2代皇帝 在位98~117

プブリウス・アエリウス・ハドリアヌス・アフェル (?~?) ハドリアヌス皇帝の父※画像なし



ハドリアヌス（76～138） ローマ執政官 任期118～119 ネルヴァ=アントニウス朝第3代皇帝 在位117～138

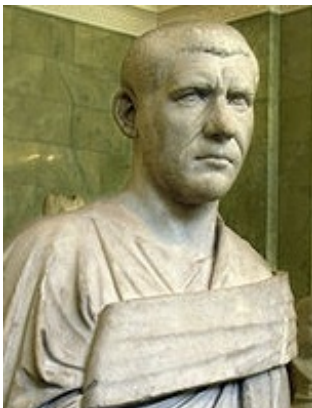
ミトラダテス4世（?～140） パルティア王 在位128～140※画像なし

※上記のローマ皇帝はローマ執政官を兼任していた。つまり、ドルイド司祭でもあるため、キリスト教を弾圧し、キリスト教徒を虐殺している。しかし、ダヴィデの一族に属する三国志の中心人物たちである諸葛氏の一族がローマを訪れて軍人皇帝時代を開始すると、ローマ執政官（ドルイド司祭）はイランに逃亡し、パルティア王の座を篡奪した。

最初の王はミトラダテス4世だが、この時代のパルティア王国は東西に分裂したため、分裂時代と呼ばれている。この後、140年から201年までの約60年間、ローマ執政官（ドルイド司祭）はパルティア王国にいた。

アルタバノス4世（?～224） パルティア王 在位213～224

ユリウス・マリヌス（?～?） ピリッパス・アラブス皇帝の父



ピリッパス・アラブス（204～249） 軍人皇帝時代ローマ皇帝 在位244～249

デキウス（201～251） ローマ執政官 任期250～251 ローマ皇帝 在位249～251

ヴァレリアヌス（200～264） 軍人皇帝時代ローマ皇帝 在位253～260 ガッリエヌスの父※画像なし



ガッリエヌス（218～268） 軍人皇帝時代ローマ皇帝 在位253～268 サロニヌスとマリニアヌスの父



プブリウス・リキニウス・コルネリウス・サロニヌス（242～260） ローマ皇帝 在位260

ディオクレティアヌス（244～311） ローマ執政官 任期293～308 ローマ皇帝 在位284～305



プブリウス・リキニウス・イグナティウス・マリニアヌス（249～268） ※画像なし
マクシミアヌス（250～310） 西ローマ皇帝 在位286～310 ※画像なし
コンスタンティウス・クロルス（250～306） ローマ皇帝 在位305～306

※上記のローマ皇帝はローマ執政官を兼任していた。つまり、ドルイド司祭でもあるため、キリスト教を弾圧し、キリスト教徒を虐殺している。



コンスタンティヌス1世（270～337） ローマ皇帝 在位306～337
フラヴィウス・オプタトゥス（?～337） ローマ執政官 任期334
アリウス（250～336） アリウス派教祖

※コンスタンティヌス1世はキリスト教を公認した。これは、キリスト教の勝利を意味しない。これは、ローマ執政官（ドルイド司祭）たちがドナトゥス派をつくり、キリスト教の篡奪を開始したと機を一にしている。遂に、キリスト教が便利な支配ツールだということにローマ執政

官（ドルイド司祭）たちは気付いたのだ。コンスタンティヌス1世自身は、アリウス派を築き、ゴート族を支配下に置いた。



コンスタンティウス2世（317～361） ローマ皇帝 在位337～361

アタナシウス（298～373） アタナシウス派教祖

大テオドシウス（?～375） テオドシウス1世の父

※コンスタンティウス2世自身はアタナシウス派を築き、フランク族を支配下に置いた。生没年がバラバラだが、コンスタンティヌス1世の子ということで、その関連で関係付けてみた。



コンスタンス（320～350） ローマ執政官 任期339～346 ローマ皇帝 在位347～348

大テオドシウスの子



テオドシウス1世 (347~395) ローマ皇帝 在位379~395

テオドシウス1世の孫



テオドシウス2世 (401~450) ローマ皇帝 在位408~450

ネストリウス (381~451) ネストリウス派教祖

テオドシウス1世の玄孫

プラキディア (439~472) オリブリオスの妻

オリブリオス (430~472) 西ローマ皇帝 在位472

ティウディミル (?~474) テオドリックの父



テオドリック（454～526） 東ゴート王国初代王

※東ゴート王国はランゴバルト族によって滅ぼされる。その後、東ゴート族はネストリウス派の伝道者となり、唐の時代の中国に進出する。

-
- ・牟羽可汗（?～779） 回鶻可汗国第3代ハーン
 - ・合骨咄祿毘伽可汗（?～789） 回鶻可汗国第4代ハーン

 - ・烏介可汗（?～846） 回鶻可汗国第14代ハーン
 - ・遏捻可汗（?～848） 回鶻可汗国第15代ハーン

※ネストリウス派の末裔と考えられる阿羅本という人物が「景教」を中国に伝えている。それと機を一にし、ウイグル汗国ではマニ教を伝道し、国教にまで高めた。牟羽可汗の時代にマニ教は国教となったが、牟羽可汗は、ネストリウス派の末裔でありマニ教の神官だったのである。

-
- 英義可汗（?～924） 甘州ウイグル王国初代ハーン
 - 耶律阿保機（872～926） 契丹初代皇帝 在位907～926

※回鶻可汗国が848年に滅ぶと、残党は甘州ウイグル王国を築いたが、甘州ウイグル初代王は契丹の初代皇帝も兼任した。

- 耶律阮（919～951） 契丹第3代皇帝 在位947～951
- Theodoric I（920～975） ヴェッティン家始祖

※耶律阮はテオドリック1世に変身し、ヨーロッパ最古の貴族の家柄と言われるヴェッティン家の始祖となった。

耶律查剌（1032～1101） 契丹第8代皇帝 在位1055～1101

Dedi II（?～1069） Margrave of Lusatia

耶律濬（1058～1077） 耶律查剌の子

耶律淳（1062～1122） 北遼初代皇帝 在位1122

耶律雅里（1093～1123） 北遼第3代皇帝 在位1123

耶律大石（1094～1143） 西遼初代皇帝 在位1124～1143

※非常に分かりやすい例だと思うが、耶律雅里は1123年に死んだことにより耶律大石に生まれ変わり、心機一転して西遼を築いて1124年に西遼初代皇帝に即位している。



耶律夷列（1134～1163） 第2代西遼皇帝 在位1150～1163※画像なし

ボレスワフ1世ヴィソキ（1127～1201） ヴロツワフ公 在位1163～1201

※第2代皇帝耶律夷列も、初代皇帝耶律大石と同じように1163年に死んだことによりボレスワフに生まれ変わり、1163年にヴロツワフ公に就任している。

ボレスワフ1世ヴィソキの子（ヴェッティン家始祖Theodoric I、9世代目の子孫）



ヘンリク1世 (1163~1238) ポーランド大公 在位1232~1238

屈出律 (?~1218) 西遼最後の王※画像なし

ジョチ・カサル (1164~1213) チンギスの弟※画像なし

※東欧に拠点に移した後も、ヘンリク1世は最後の西遼皇帝としてウイグルを統治し、霸王チンギスの強さを見抜いた上で、監視の意味も込めて弟の座に収まったりしている。



ヴワディスワフ (1180~1199) ※画像なし

オゴタイ (1186~1241) モンゴル帝国第2代皇帝 在位1229~1341

※チャガタイ、オゴタイ、トルイはチンギスの子ではなく、チンギスの弟ジョチ・カサルの子だった可能性がある。オゴタイの正体はボレスワフ1世ヴィソキの子ヴワディスワフだったようだ。

Anna of Saganの子 (ヘンリク1世10世代目の子孫)

Henry II (1507~1548) Duke of Münsterberg-Oels

サンペット1世 (1509~1590) アユタヤ王朝第19代王 (スコータイ王家) 在位1

569～1590

Anna of Saganの孫



Anna Maria (1526～1589) Hedwigの子

ピョートル (1525～1573) ユニテリアン主義・ポーランド兄弟団※画像なし

レリオ・ソツィーニ (1525～1562) ユニテリアン主義・ソツィーニ派※画像なし

Anna (1539～1568) Henry IIの子

シモン・ブドニ (1533～1593) ユニテリアン主義

ヤン・シェニェンスキ (?～1599) ユニテリアン主義、ポーランド貴族



Henry III (1542～1587) Henry IIの子※画像なし

ファウスト・ソツィーニ (1539～1604) ユニテリアン主義

※契丹・遼（ヴェッティン家）の王族はユニテリアン主義を生んだ。ユニテリアンの由来はアナトリアである。アナトリア＝アナトリアン＝ユニテリアンとなる。

Karl IIの子 (Henry IIの孫)



Henry Wenceslaus (1592~1639) Duke of Oels-Bernstadt

ヤクブ・シェニエンスキ (?~1639) ユニテリアン主義、ラコヴィアン学院院長



George III of Brieg (1611~1664)

ポーロマラーチャー2世 (1613~1629) アユタヤ王朝第25代王 (スコータイ王家)
在位1628~29

ジョン・ビドル (1615~1662) ヤクブ・シェニエンスキの子、ユニテリアン教会

※ゲオルギ3世の代で、アユタヤ帝国の支配は終焉を迎えた。

Christian Ulrich IIの子 (Karl IIの玄孫の子)



Charles Christian Erdmann (1716~1792) Duke of Württemberg-Oels

カール1世 (1713~1780) ブラウンシュヴァイク=ヴォルフエンビュッテル公

ブラウンシュヴァイク=ヴォルフエンビュッテル公カール1世の子孫



Maximilian Jules Leopold (1752~1785) カール1世の子

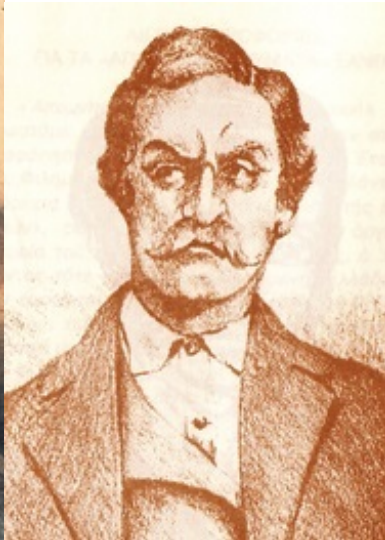
リガス・ヴェレスティニス・フェレオス (1757~1798) フィリキ・エテリア創設



フリードリヒ・ヴィルヘルム (1771~1815) カール・ヴィルヘルム・フェルディナントの子

エマニュエル・クサントス (1772~1852) フィリキ・エテリア創設

イオアニス・コレティス (1773~1847) ギリシア王国首相



ヴィルヘルム1世 (1781~1864) アウグステ・カロリーネの子

トゥドル・ウラジミレスク (1780~1821) ワラキア蜂起

ニコラオス・スクファス (1779~1818) フィリキ・エテリア創設



パウル（1785～1852） アウグステ・カロリーネの子

アレクサンドル・イプシランティ（1792～1828） フィリキ・エテリア指導者

アタナシス・ツァカロフ（1790～1851） フィリキ・エテリア創設

アレクサンドロス・マヴロコルダトス（1791～1865） 第一共和制初代ギリシア首相※
画像なし

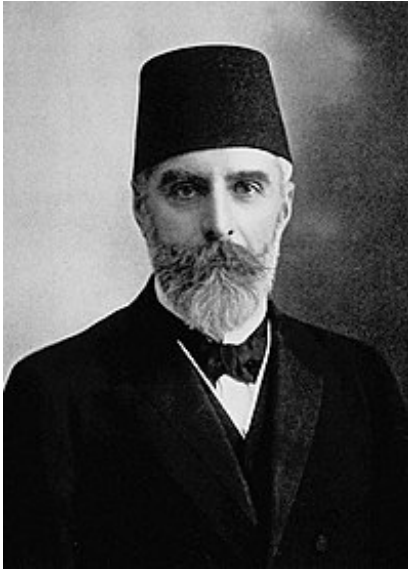
アンドレア・ザイミス（1791～1840） 第一共和制第4代ギリシア首相※画像なし

※ギリシア独立を掲げて秘密結社フィリキ・エテリアが作られた。フィリキ・エテリアの由来はフリギア（アナトリア）とイタリアの組み合わせと考えられる。彼らはアテネのアーコンの末裔だろう。



カール・フリードリヒ・アレクサンダー（1823～1891） ヴィルヘルム1世の子

トラシヴロス・ザイミス（1822～1880） グリュックスブルク朝ギリシア王国首相



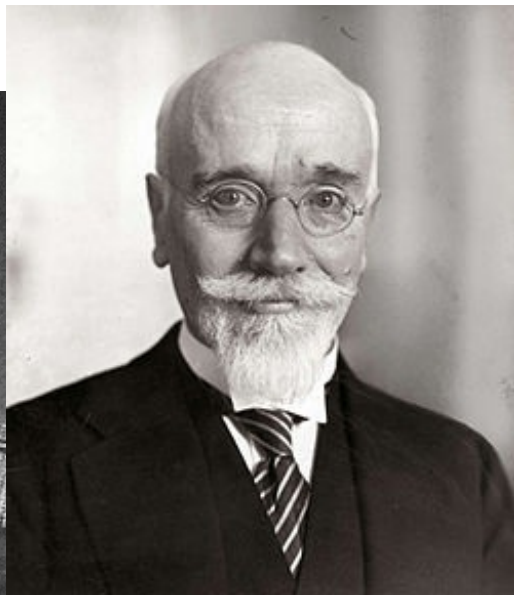
エルンスト・カール・ヴィルヘルム（1859～1909） アウグステ・フォン・ヴェルテンベルクの子※画像なし

ペトロス・プロトパダキス（1860～1922） グリュックスブルク朝ギリシア王国首相

アーメト・リザ（1858～1930） 青年トルコ人※画像なし

マフムート・シェヴケト・パシャ（1856～1913） 青年トルコ人

ギド・フォン・ウーゼドム（1854～1925） ドイツ海軍提督※画像なし



フリードリヒ（1865～1946） ヘレーネ・フォン・ナッサウの子

エレフテリオス・ヴェニゼロス（1864～1936） グリュックスブルク朝ギリシア王国、第二共和制ギリシア首相

ヴィルヘルム・スーシオン（1864～1946） ドイツ海軍提督※画像なし

フーベルト・フォン・レポイル＝パシュヴィツ（1863～1933） ドイツ海軍提督

※三頭政治を執る下記のタラート、ジェマル、エンヴェルは、上記の家族であるドイツ人提督たちに、オスマン・トルコ帝国海軍を委ねた。



エリーザベト（1873～1961） ヘレーネ・フォン・ナッサウの子

ゲオルギオス・カファンタリス（1873～1946） グリュックスブルク朝ギリシア王国首相※画像なし

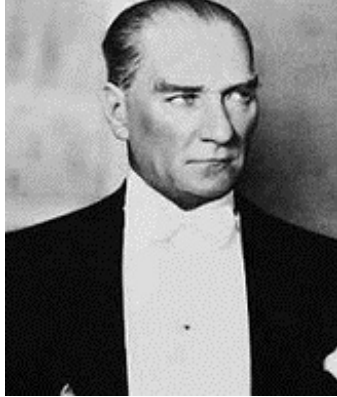
ベハエディン・シャキール（1874～1922） 青年トルコ人

アフメト・ニヤーズィ（1873～1913） 青年トルコ人

タラート・パシャ（1874～1921） 統一と進歩委員会、青年トルコ人

ジェマル・パシャ（1872～1922） 統一と進歩委員会、青年トルコ人

※タラート、ジェマル、下記のエンヴェルは三頭政治を執り、アルメニア人大虐殺などを指揮した。ヨーロッパのタナトスは、このアルメニア人大虐殺を口実に常にトルコ共和国の台頭を阻止し、ヨーロッパへの進出を邪魔してきた。



カール・エドゥアルト（1884～1952） ヘレーネ・フリーデリケ・アウグスタ・フォン・ヴァルデックの子

エンヴェル・パシャ（1881～1922） 統一と進歩委員会、青年トルコ人

エマヌエル・ツデロス（1882～1956） ギリシア王国首相

ムスタファ・ケマル・アタチュルク（1881～1938） トルコ共和国初代大統領



ヨシアス・ゲオルク・ヴィルヘルム・アドルフ（1896～1967） ヴァルデック侯フリードリヒの子

ソフォクリス・ヴェニゼロス（1894～1964） ギリシャ首相

ジェマル・ギュルセル（1895～1966） トルコ共和国第4代大統領 任期1960～1

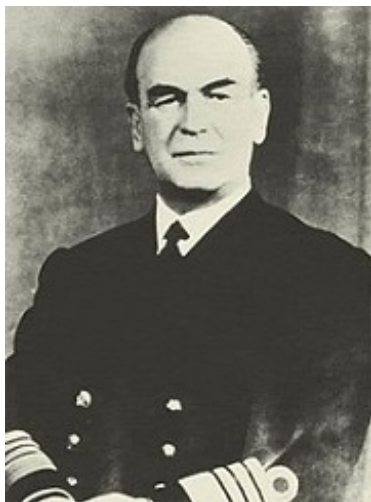
※ヨシアスはギュルセルに変身し、クーデターによってトルコ政権を掌握。映画作家ユルマズ・ギュネイを最初に投獄した（1960～1962）。



マクシミリアン・ヴィルヘルム・グスタフ・ヘルマン（1898～1981） フリードリヒの子※画像なし

ジェヴデト・スナイ（1899～1982） トルコ共和国第5代大統領 任期1966～1973

※映画作家ユルマズ・ギュネイ、2回目の投獄（1972）。



ヨハン・レオポルト（1906～1972） カール・エドゥアルトの子※画像なし

ファフリ・コルテュルク（1903～1987） トルコ共和国第6代大統領 任期1973～1980

ゲオルギオス・ゾイタキス（1910～1996） ギリシャ軍事政権初代大統領 任期1967～1972

※映画作家ユルマズ・ギュネイ、禁固19年を言い渡される。3回目の投獄（1976）。



フリードリヒ・ヨシアス（1918～1998） カール・エドゥアルトの子※画像なし

ケナン・エヴレン（1917～2017） トルコ共和国第7代大統領 任期1982～1989

ゲオルギオス・パパドプロス（1919～1999） ギリシャ軍事政権大統領 任期1972～1973

フェドン・キジキス（1917～1999） ギリシャ第3共和制初代大統領 任期1973～1974

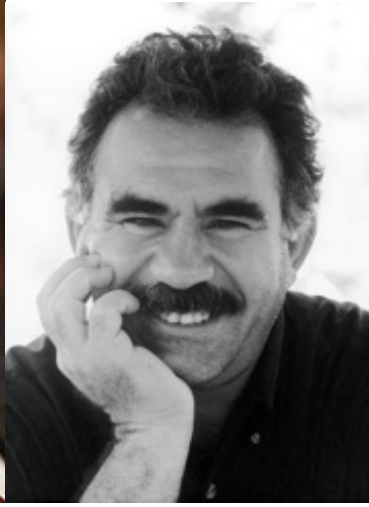
※映画作家ユルマズ・ギュネイ、1981年に刑務所を脱獄し、フランスに亡命。1984年、亡命先で癌死（暗殺）。パパドプロスとキジキスは同一人物にしか見えない。



アレクサンドラ（1924～2009） ヨシアス・ツー・ヴァルデック＝ピルモントの子※画像なし

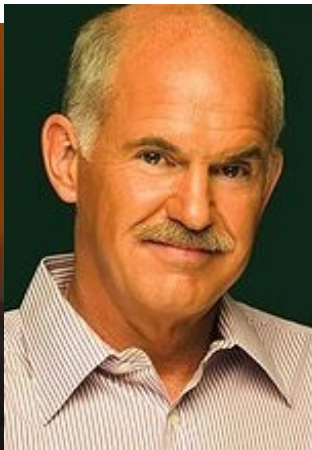
スュレイマン・デミレル（1924～2015） トルコ共和国第9代大統領 任期1993～2000

ディミトリオス・イオアニディス（1923～2010） ギリシャ軍事治安警察（ESA）長官



アンドレアス（1943） フリードリヒ・ヨシアスの子※画像なし
 パナギオティス・ピクラメノス（1945） ギリシア首相
 ルーカス・パパデモス（1947） ギリシア首相
 アブドゥラ・オジャラン（1946） クルディスタン労働者党首領

※アンドレアスは、現（2019年）ザクセン=コーブルク=ゴータ公家家長である。アンドレアスは影武者を使ってギリシアを支配し、ギリシアを足場にクルディスタンの独立を狙っているのだろうか。



Christian（1955） Anton-Güntherの子※画像なし
 プロコピス・パヴロプロス（1950） ギリシア大統領

アントニス・サマラス（1951） ギリシア首相

ゲオルギオス・アンドレアス・パパンドレウ（1952） ギリシア首相

ムラト・カラユラン（1954） クルディスタン労働者党首領



Paul-Wladimir（1969） Duke Friedrich August of Oldenburgの子※画像なし

Thomas Pappas（1967?） アブグレイブ刑務所における捕虜虐待加害者

聖ドナトゥスの一族～渤海王、ブワイ朝、テンプル騎士団、ジンバブエ王国、ダホメー王国、ハイチ帝国、トンガ王国、リベリア共和国、ブータン王国、黒人地位向上協会、バハーイー教



ドナトゥス・マグヌス (?~?) ドナトゥス司教 ドナトゥス司教 在位313~355
マヨリヌス (?~?) ドナトゥス司教 在位311~313※画像なし
エウセビウス (?~310) 第31代ローマ教皇 在位310
ミルティアデス (?~314) 第32代ローマ教皇 在位311~314
シルヴェステル1世 (?~335) 第33代ローマ教皇 在位314~335
マルクス (?~336) 第34代ローマ教皇 在位336
ユリウス1世 (?~352) 第35代ローマ教皇 在位337~352

※切り替えの早いドルイド教は、ミラノ勅令が出る直前にドルイド教を捨て、散々攻撃していたキリスト教にあっさりとは鞍替えした。タナトスを由来にしたドナトゥス派としてキリスト教の歴史に登場した。タナトス=ダナトス=ドナトゥスとなる。

もともとドルイド司祭だったドナトゥス・マグヌスは、初代司教マヨリヌスでもあったが、ドナトゥスは355年に死んだことにしてカルタゴを発ち、古代にダヴィデの一族が築いた交易路を東に進み、紅海、インド洋、東南アジアから太平洋にまで赴いた。その時にドナトゥスはバヌアツを発見した。バヌアツの由来はヨハネスである。ヨハネス=ヨハヌエス=ハヌエス=バヌアツとなる。

その後、ポリネシア人の漕ぎ手をを奴隷のように酷使して新たな新天地を求めて北上し、偶然にもハワイを発見したと考えられる。ハワイの由来はヤハウエである。ヤハウエ＝ヤハワイ＝ハワイとなる。ハワイを新たなキリスト教（ドナトゥス派）の拠点として設け、いつの日か、オリエントに錦を飾るための基地として使おうと考えていたかもしれない。その後、太平洋航路を開発しながらハワイのドナトゥス派は中国に辿りつき、渤海湾（ボハイ）にハワイの名を残している。

●渤海王からブワイフ朝に繋がる系譜

※バヌアツ諸島、ハワイ諸島を離れた聖ドナトゥスの一族は中国を訪れ、上陸したポイントを渤海湾（ボハイ）と命名した。その後満州に移り、渤海国（ボハイ）を築くことになる。ボハイ（渤海）の由来はハワイである。ハワイ＝バハイ＝ボハイとなる。

渤海国は、日本にいた家族日本仏教と交流するべく、渤海使を送っていた。これは日本を訪問した渤海人の使節である。728年から922年までの間に34回の使節が記録に残っている。この間に渤海人は日本仏教を学んだ。



大祚栄（?～?） 渤海国初代王 在位689～719

ダエ・インソン（?～926） 渤海国最後の王 在位906～926

イマード・ウダウラ（891～949） ブワイフ朝初代シャー 在位932～949

※926年、渤海国が滅亡すると、最後の王はイランに移住し、932年にブワイフ朝を開いた。彼らは6年でイランに新しい王朝を築いたことになる。たぶん、家族であるマズダク教の人々が新しい王朝の準備に協力したのだろう。ブワイフ（ブワイ）の名の由来はボハイ、或いはハワイである。ハワイ＝バワイ＝ブワイ（ブワイフ）となる。

フーラード・ストゥーン (?~1062) ブワイフ朝最後のシャー



ユーグ・ド・パイヤン (1070~1136) テンプル騎士団創設 フーラード・ストゥーンの子

ペドロ1世 (1068~1104) ヒメネス朝ナバラ王

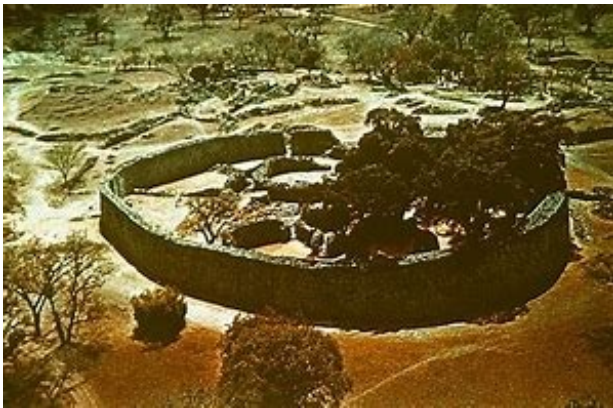
ルイ6世 (1080~1137) カペー朝第5代フランス王

※1062年にブワイフ朝が滅ぶと、ブワイフの王族の残党と考えられるユーグ・ド・パイヤンはフランスに渡り、家族であるシトー会の協力を得て「テンプル騎士団」を結成した。

また、テンプル騎士団は「ボーサン」と呼ばれる旗を作り、この旗の下に集う度に「ボーサン！」と関の声を上げたという。冗談ではなく、ボーサンの名の由来は日本語「坊さん」だろう。これは、渤海国時代に彼らが渤海使を日本に送って日本仏教を学んでいた影響である。そして、テンプル騎士団はキリスト教の騎士であるにも拘らず、独自に「バフォメット」なる神を祀った。ここにも渤海使の影響が出ている。バフォメットの名の由来は渤海（ボハイ）と大和の組み合わせなのだ。ボハイ+ヤマト=ボハマト=バフォメットとなる。



ピエール2世（1155～1219） ラテン帝国第2代皇帝、ルイ6世の孫



ジンバブエ王国（1220～1450）※歴代王の系譜は不明

※1212年の児童十字軍に同行したテンプル騎士団は児童たちを連れてジンバブエに入植した。児童十字軍は、奴隷用の児童も多数連行していたが、大多数はドルイド司祭の血を引く子どもたちだった。つまり、これはドルイド司祭がケルト人を指揮した「聖なる移住（ウェルサクレム）」と同様の意味を持つものだった。

次代の悪の種を撒くつもりでイスラム圏を目指したものの、それが困難だとわかると、児童十字軍は更に南下してジンバブエにまで到達した。このときにジンバブエ王国が建てられた。プロの建築家は同行していなかったと考えられるので、グレートジンバブエの建築は素人裸足ながら、なんとか建てた要塞だといえる。ジンバブエの由来は新渤海（シンボハイ）である。シンボハイ＝ジンボバイ＝ジンバブエとなる。

ジンバブエ王国の記録や歴代の王の情報は存在しないが、タナトスの一族が支配していたことで、どのような国が成立していたか分かるだろう。東西本願寺の末裔の集合体「民主党」などは、アメリカ人が作り上げたアメリカ合衆国を篡奪した。タナトスの一族は、通常はそのように強い国家に寄生し、すべてを篡奪する。ところが、イチから国を作り始めると、タナトスはこういう、ジンバブエ王国のような国しか作れないということが良く分かる。

■カネム・ボルヌ帝国後期、マングプエ王国、ジンバブエ王国の王は代々、ヒメノ朝ナバラ王

・アラゴン王やカペー朝フランス王が兼任していた。

・ヒメノ朝ナバラ王

・ペドロ1世（1094～1104） アラゴン王ペドロ1世

・アルフォンソ1世（1104～1134） アラゴン王アルフォンソ1世

・ガルシア・ラミレス（1134～1150）

・サンチヨ6世（1150～1194）

・サンチヨ7世（1194～1234）

・ヒメノ朝アラゴン王

・ラミロ2世（1134～1137）

・ペトロニラ（1137～1164）

・カペー朝フランス王

・ルイ6世（1108～1137）

・ルイ7世（1137～1180）

・フィリップ2世（1180～1223）

・ルイ8世（1223～1226）

・ルイ9世（1226～1270）

・フィリップ3世（1270～1285）

・フィリップ4世（1285～1314）

・ルイ10世（1314～1316）

・ジャン1世（1316）

・フィリップ5世（1316～1322）

・シャルル4世（1322～1328）

■ジンバブエ王国後期の王

・アラー・ウッディーン・バフマン・シャー（?～?） 初代バフマニー朝シャー 在位1347～1358

・ムハンマド・シャー1世（?～1358） 第2代バフマニー朝シャー 在位1358～1375

- ・アラー・ウッディーン・ムジャーヒド・シャー (?~?) 第3代バフマニー朝シャー
- ・ダーウッド・シャー (?~?) 第4代バフマニー朝シャー
- ・ムハンマド・シャー2世 (?~1397) 第5代バフマニー朝君主 在位1378~1397

※ジンバブエの王の系譜は不明だが、後期はバフマニー朝のシャーがジンバブエ王を兼ねていたと考えられる。バフマニー王族は、古来から続く風習サティー（事実上の人身御供）を取り仕切っていたと考えられる。サティーが禁止された1830年の直後、1844年にバブ教が創設されていることから、謎の新宗教バブ教とバハーイー教は実質的な人身御供サティーの指揮者といえることができる。女性（未亡人）を魔神サトゥルヌスに捧げるため、サティーと命名された。

本来、サティーには、美しい女性に子をませる、性奴隷にする、食べる、夫の財産を収奪するなどの目的があった。未亡人は夫に殉じなければならないという設定のため、標的女性の夫を意図的に殺して女性を得ることも行われた。

-
- アラー・ウッディーン・アフマド・シャー2世 (?~?) 第10代バフマニー朝シャー 在位1436~1458
 - ニャツィンバ・ムトタ (?~?) ムタパ王国初代王 在位1430~1450

※ジンバブエ王はインドに進出し、ボハイマン（ボハイの人）を意味する「バフマニー朝」を開いた。その後、バフマニー朝君主アラー・ウッディーン・アフマド・シャー2世の時代、この第10代シャーはジンバブエに帰還してムタパ王国を築いた。つまり、その後のバフマニー朝シャーはみなムタパ王を兼ねていた。ムタパの由来は東北地方から来た陸奥安倍氏であり、ムタパの庶民は陸奥安倍氏の子孫だが、ムタパの王族はタナトスの血統であった。

- チクヨ・チサマレング (?~?) ムタパ王国第6代王 在位1494~1530
- シハーブッティーン・ムハンマド・シャー (?~?) 第14代バフマニー朝シャー 在位1482~1518
- アフマド・シャー4世 (?~?) 第15代バフマニー朝シャー 在位1518~1520
- アラー・ウッディーン・シャー (?~?) 第16代バフマニー朝シャー 在位1520~1523
- ワリー・ウッラー・シャー (?~?) 第17代バフマニー朝シャー 在位1523~1525
- カリームッラー・シャー (?~1527) 第18代バフマニー朝シャー 在位1525~1527

※ムタパ王国第6代王は最後のバフマニー朝シャー5人を演じた。バフマニー朝が滅ぶと残党は一旦故地であるジンバブエに戻ると、そこからジンバブエ王国の残党と共に、陸路で現ベナンを目指した。バフマニー朝の残党はそこにダホメー王国を築いた。

-
- ・ホエグバジャ（生没年不詳）　ダホメー初代王　在位1645～1685　※画像なし
 - ・アカバ（生没年不詳）　ダホメー第2代王　在位1685～1716　※画像なし

※ジンバブエ王国が1600年頃に滅ぶと、渤海国、ブワイ朝、テンプル騎士団。どの血を継ぐものか不明だが、ジンバブエの残党は西方に北上して西アフリカに入植した。アジャ人と呼ばれた彼らはここにダホメー王国を築き、この王国は1900年まで続いた。ダホメーの由来はテーベとアメンの組み合わせである。テーベ+アメン=テーベメン=テヘメ=ダホメーとなる。その後、第3代ダホメー王のハングベが大西洋を渡ってハイチに入植する。神官でもあったハングベは、ヴードゥー教を掲げて現地の奴隷を信者として大量に獲得し、数で圧倒する形で植民地支配をするフランス人を劣勢に追い込んだ。これが「ハイチ革命」である。ハイチの由来はヤペテと考えられる。ヤペテ=ヤペイティ=ペイティ=ハイチとなる。ヤペテの子を称することで自分たちは白人だったことを示している。



- ハングベ（生没年不詳）　ダホメー第3代王　在位1716～1718　※画像なし
デュティ・ブークマン（?～1719）　ヴードゥー教神官



ゲーゾー (?~1858) ダホメー第9代王 在位1818~1858

フォスティン・ソーローキュー (1782~1867) 第2ハイチ帝国皇帝 在位1849~1859

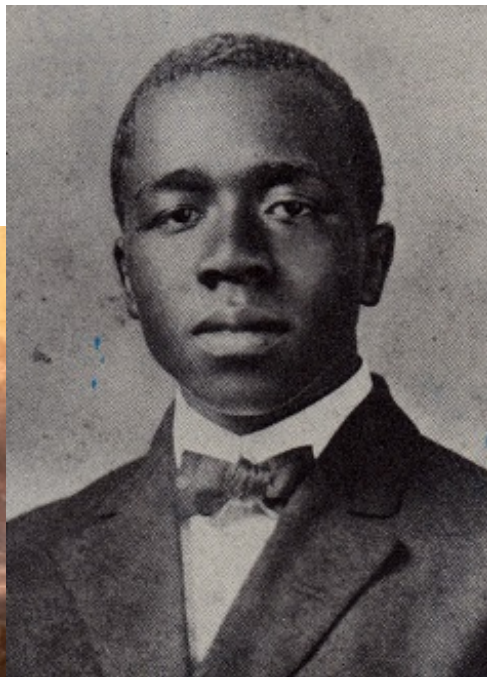
デュティ・ブークマン (バングベ) の子



トゥーサン・ルーヴェルチュール (1739~1803) ハイチ独立運動指導者



ジャン=ジャック・デサリーヌ（1758～1806） ハイチ皇帝



アンリ・クリストフ（1767～1820） ハイチ王

デンマーク・ウィージー（1767～1822） デンマーク・ウィージーの暴動指揮者

※アンリ・クリストフは自殺したことにしてアメリカに渡り、デンマーク・ウィージーと名を変え、アメリカ合衆国征服を信条にヴードゥーの神官として黒人（ヴードゥー教信者）暴動を指揮した。

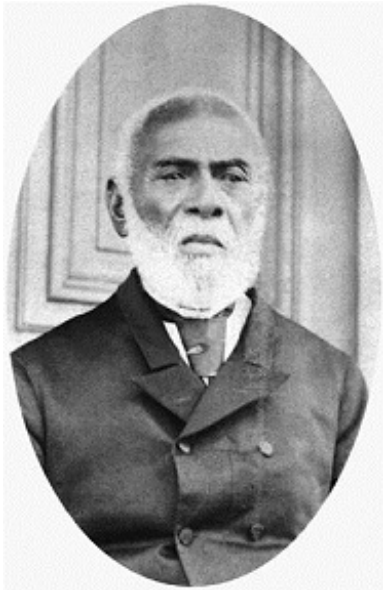
ハイチ王アンリ・クリストフ王太子の子



ジャック=ヴィクトル・アンリ（1804～1820）※画像なし

ジョセフ・ジェンキンス・ロバーツ（1809～1876） リベリア初代大統領

ナット・ターナー（1800～1831） ナット・ターナーの乱指揮者

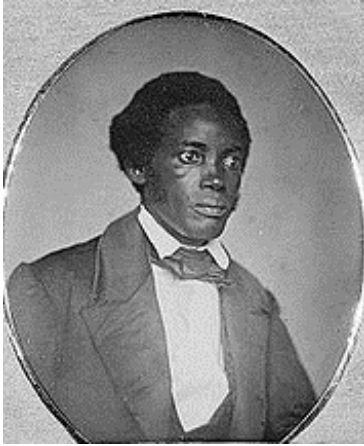


フランソワ=フェルディナン・クリストフ（1794～1805）※画像なし

ジョージ・トゥポウ1世（1797～1893） 初代トンガ王 在位1845～1893

※ナット・ターナーは、顔の類似と年代を考慮にいと、デンマーク・ウィージーの子と考えてよい。ナットはヴードゥー神官として、父と同じように黒人（ヴードゥー教信者）暴動を指揮した。このヴードゥー教信者による暴動を阻止するためにKKKが結成された。KKKはヴードゥー教の神官、そして有力信者を狩り、リンチして殺し、見せしめとして吊るした。普通の黒人は標的にはなっていない。

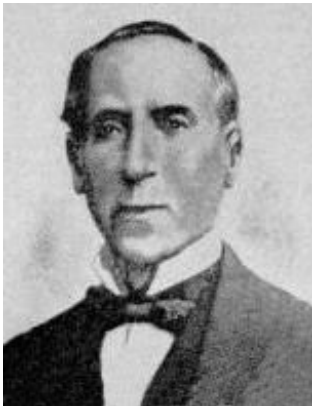
また、ナット・ターナーは死んだことにすると、その足でアメリカを離れ、新天地としてトンガを選んだ。ターナーはここでジョージ・トゥポウ1世となり、トンガ王国初代王となる。



スティーブン・アレン・ベンソン（1816～1885） リベリア第2代大統領

エドワード・ジェームズ・ロイ（1816～1872） リベリア第5代大統領

※ベンソンとロイは明らかに同一人物である。左手を挙げたロイは、なぜかヴードゥー神官の如き妖しいオーラを放っている。



ジェームズ・スプリッグス・ペイン（1819～1882） リベリア第4代大統領

セイイェド・アリー・モハンマド（1819～1850） バーブ教教祖

バハー・ウッラー（1819～1892） バハーイー教教祖

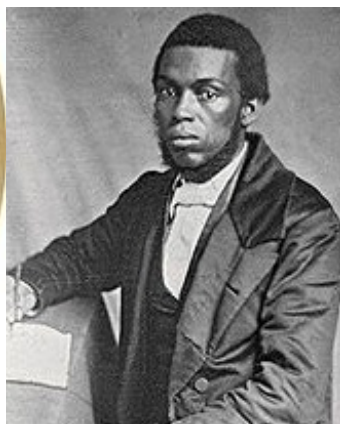
Jigme Namgyal（1825～1881） ウゲン・ワンチュク父※画像なし

※ペインは、影武者を引き連れてリベリアから故地のひとつであるイランに向かった。影武者の一人がセイイェド・アリー・モハンマドを称し、「バーブ教」の教祖となるが、イランのカージャー朝とオスマン・トルコ帝国の双方から弾圧され、処刑された。

その後、ペインの影武者だったバハー・ウッラーが「バハーイー教」の教祖となり、世界的な宗教（邪教）にまで育て上げた。バーブの由来はジンバブエであり、バハーイーの由来は渤海（ボハイ）である。ジンバブエ=ジンバブエ=バーブとなり、ボハイ=ボハーイー=バハーイーと

なる。バハイー教はすぐに世界中に認められ巨大化したが、それも大谷の家族である証拠だ。

ジョージ・トゥポウ1世の子



テヴィタ・ウンガ（1824～1879） トンガ初代首相

ジェームズ・スキーヴリング・スミス（1825～1892） リベリア第6代大統領



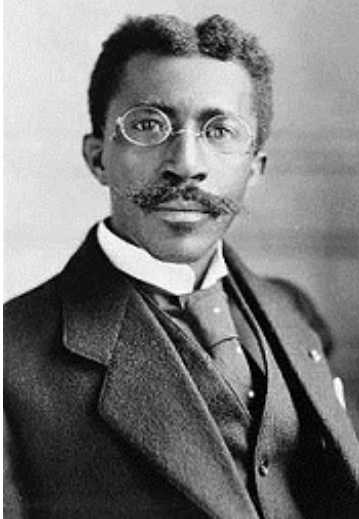
ヴナ・タキタキマロヒ（1844～1862）※画像なし

ジョセフ・ジェームズ・チーズマン（1843～1896） リベリア第12代大統領

ウィリアム・D・コールマン（1842～1908） リベリア第13代大統領

Siaosi Tu 'i Pelehake（1842～1912） ジョージ・トゥポウ2世父

Siaosi Tu 'i Pelehakeの子



ジョージ・トゥポウ2世（1874～1918） 第2代トンガ王 在位1893～1918
ウィリアム・ジョセフ・シーモア（1878～1922） ペンテコステ派指導者
チャールズ・D・B・キング（1875～1961） リベリア第17代大統領
W・E・B・デュボイス（1868～1963） 黒人地位向上協会創立

※ハイチから自分の意志でアメリカに来たデュボイスは被害者を装い、白人のアメリカに切り込んだ。差別批判を武器にしてヴードゥー神官は富を蓄えた。ヴードゥー神官は黒い肌を盾に財を成し、普通の黒人は黒い肌のために不遇を余儀なくされている。

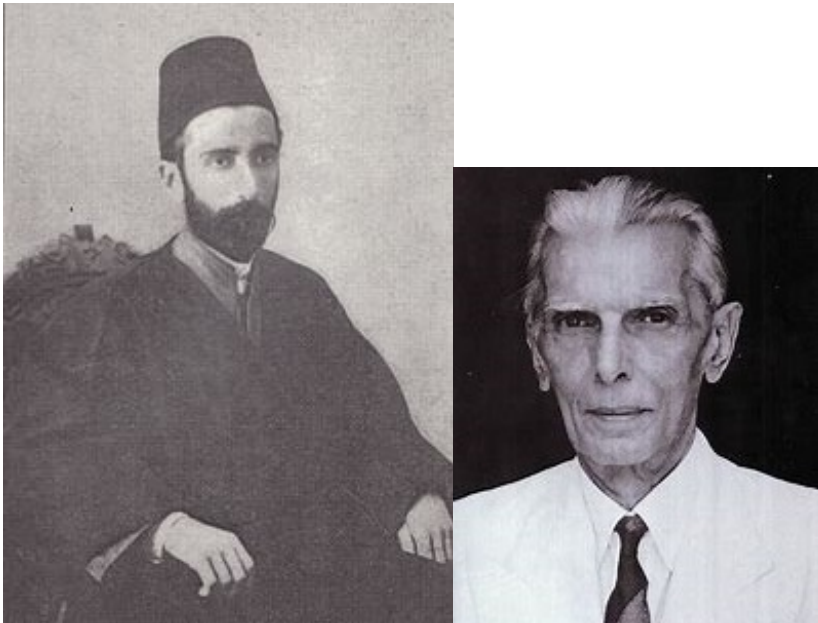
ジョージ・トゥポウ2世は1893年に王位を返還し、アメリカに渡ってデュボイスを名乗ったが、写真のデュボイスは影武者だろう。また、トゥポウはチャールズ・D・B・キングを名乗り、リベリア大統領にも就任したが、キングの名はシャレだろう。

バハー・ウツラー（Jigme Namgyal）の子



Díyá'u'lláh (1864～1898)

ウゲン・ワンチュク (1862～1926) ブータン王国初代雷龍王 在位1907～1926



Mirza Badi'u'llah Effendí (1871～1950)

ムハンマド・アリー・ジンナー (1876～1948) 初代パキスタン総督

※ジンナーは、バハーイー教教祖バハーウッラーの息子である可能性が高い。顔も良く似ている。例えジンナーが影武者でも異母兄弟であることは確かだ。パキスタンには大谷の素地があるのだろう。ことあるごとにディープステートに味方してきた歴史がある。

初代雷龍王ウゲン・ワンチュクの子



ジグミ・ワンチュク（1905～1952） ブータン王国第2代雷龍王

リヤーカト・アリー・ハーン（1895～1951） パキスタン初代首相

チョコルダ・グデ・ラカ・スカワティ（1899～1967） 東インドネシア初代大統領

第2代雷龍王ジグミ・ワンチュクの子



ジグミ・ドルジ・ワンチュク（1929～1972） ブータン王国第3代雷龍王

ズルフィカール・アリー・ブットー（1928～1979） パキスタン第9代首相、第4代大統領

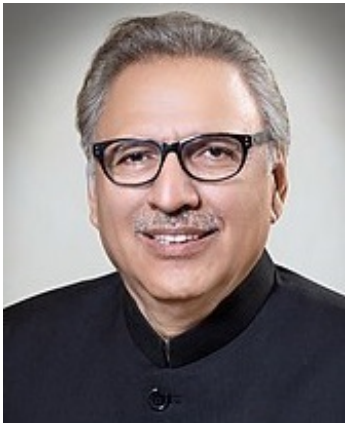
ムハンマド・ラフィーク・ターラル（1929） パキスタン第9代大統領※画像なし



Ashi Namzay Kumutha (194?)

マヌムーン・フセイン (1940) パキスタン第12代大統領

第3代雷龍王ジグミ・ドルジ・ワンチュクの子



Sonam Choden Wangchuck (194?) ※画像なし

アリフ・アルヴィ (1949) パキスタン第13代大統領



Dechen Wangmo Wangchuck (195?)

イムラン・カーン (1952) パキスタン第23代首相



ジグミ・シンゲ・ワンチュク (1955) ブータン王国第4代雷龍王

シャーヒド・ハーカーン・アッバーシー (1958) パキスタン第22代首相

アースィフ・アリー・ザルダリー (1955) パキスタン第11代大統領

ジョージ・トゥポウ2世の子



サローテ・トゥポウ3世（1900～1965） 第3代トンガ女王 在位1918～1965
イブラヒム・アブード（1900～1983） スーダン初代首相
クリストファ・ソグロ（1906～1983） ベナン共和国大統領

※女王の影武者として生まれた異母兄弟がスーダンとベナンに送り込まれた。民衆十字軍や児童十字軍の子孫である「黒いタナトス」もうひとつの故地であるベナン奪還に挑戦している。

トンガ女王サローテ・トゥポウ3世の子



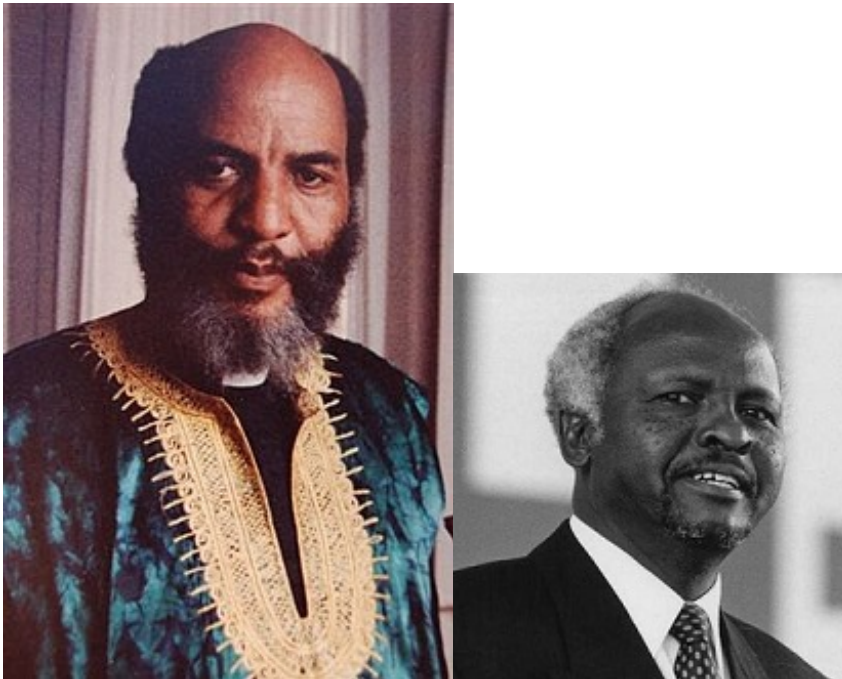
タウファアハウ・トゥポウ4世（1918～2006） 第4代トンガ王 在位1965～2006
ウィリアム・トルバート（1913～1980） リベリア第20代大統領



ファターフェーヒ・ツ・イペレケ（1922～1999）

ミルトン・オボテ（1924～2005） ウガンダ大統領

フランス女性Gilberte Vincentとチョコルダ・グデ・ラカ・スカワティの子



Gilberte Vincentとチョコルダ・グデ・ラカ・スカワティの子（193?）※画像なし

ジェイムス・ベヴェル（1936～2008） 公民権運動指導者

カナーン・バナナ（1936～2003） ジンバブエ大統領

ベニー・ディー・ワーナー（1935） リベリア共和国副大統領

※ジェイムス・ベヴェル。彼を、現代を代表するヴードゥー司祭と呼んで良からう。彼がマーティン・ルーサー・キングJrの暗殺に関与している。ジェイムス・ベヴェルはキング牧師と共闘を約束して行動を共にしていたが、これがよくなかった。タナトスの一族は常に敵のそばに張り付き、自然なタイミングを計らって暗殺を実施する性質があるからだ。薩長同盟や現在の野党共闘も同じである。キング牧師は等しく黒人の平等な権利を求めたが、ヴードゥー教の司祭であるバヴェルは、他の黒人はどうでもよく、仲間である「黒いタナトス」のことしか頭になかった。彼ら、ヴードゥー教司祭やヴードゥー教信者は黒い肌を武器にし、敵を退けたり、莫大な富を得

るが、普通の黒人はその黒い肌により未だに差別され、貧しい暮らしを余儀なくされている。KKKは昔からヴードゥー教司祭や熱心な黒人信者を狙ってきた。何もしない黒人を狩ることはなかった。更に、ベヴェルは故地であるジンバブエではバナナ大統領を演じた。写真のバナナやワーナーはあまりベヴェルに似ていないが異母兄弟であり、影武者であることは間違いない。



Gilberte Vincentとチョコレート・グデ・ラカ・スカワティの子（193?）※画像なし
エレン・ジョンソン・サーリーフ（1938） リベリア第24代大統領
マクシーン・ウォータース（1938） 民主党上院議員

タウファアハウ・トゥポウ4世の子





ジョージ・トゥポウ5世（1948～2012） 第5代トンガ王 在位2006～2012
チャールズ・テイラー（1948） リベリア第22代大統領
ギフト・タンダレ（194?～2007） ジンバブエ人権活動家
サルバ・キール・マヤルディ（1951） 南スーダン共和国初代大統領

※テイラー、タンダレは優性遺伝子ブリーダーで生まれたベヴェルの子と考えられる。顔が良く似ている。タンダレは人権活動家だがムガベ大統領に暗殺された。現在ジンバブエで起きていることは彼が計画したのだろう。故地ジンバブエ奪還を起草している。



Salote Mafile 'o Pilolevu Tuita（1951）※画像なし
グレース・ムガベ（1965） ムガベ大統領夫人

ローマ教皇レオ1世の一族～ランゴバルト王国、メロヴィング朝、マズダク教、ウイグル可汗、浄土教、曹洞宗、ノルマン人、カルマル同盟、出雲大社、コーザ・ノストラ、オーストラリア、バチカン市国委員会

- ・ペルマリアン (?~?) ドナトゥス司教 在位355~391
- ・カルタゴのプリミアン (?~?) ドナトゥス司教 在位391~393
- ・マクシミアヌス (?~?) ドナトゥス司教 在位393~394



カルタゴのプリミアン (?~?) ドナトゥス司教 在位394~400※画像なし

ルーア (?~434) フン族の王※画像なし

レオ1世 (?~461) 第45代ローマ教皇 在位440~461

メロヴィクス (411~458) フランク族首長 (メロヴィングの由来) ※画像なし

※ドナトゥス派最後の司教プリミアンは、393年から一年間、パンノニアでフン族に接触した。その後、ドナトゥス派に戻って6年間司教を務めたが、それから再度、パンノニアに赴き、ルーア王としてフン族を統治。東ゴート王国をカモにしていた。だが、アッチラが登場する直前にルーア王は突如として消え去った (ルーアの名は親鸞の名の由来となった)。

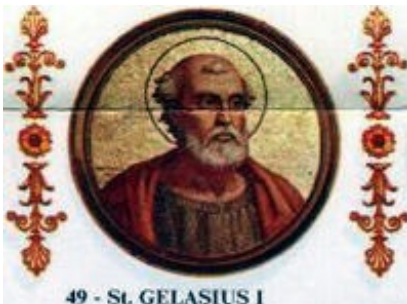
彼はどこに消えたのだろうか?彼はローマ法皇としてカトリックの頂点にいた。大教皇と呼ばれたレオ1世である。ローマ法皇で大教皇と呼ばれたのはレオ1世とグレゴリウス1世の2人だけだが、残念ながら2人ともタナトスである。更に、フン族の王としてフン族を統治していた時代、ルーアは同時にフランク族をも掌握し、メロヴィクスとしてフランク族を統治した。



キルデリク1世 (440~481) ※画像なし

ヒラルス (?~?) 第46代ローマ教皇 在位461~468

シンプリキウス (?~?) 第47代ローマ教皇 在位468~483



クロヴィス1世 (466~511) メロヴィング朝初代フランク王

フェリクス3世 (?~?) 第48代ローマ教皇 在位483~492

オドアケル (433~493) イタリア領主・イタリア王

ゲラシウス1世 (?~?) 第49代ローマ教皇 在位492~496

ラウレンティウス (?~?) 対立教皇 在位498~506

タトー (?～510) ランゴバルド王 在位?～510※画像なし

※オドアケルは、西ローマ帝国の傭兵隊長を経てローマ帝国のイタリア領主となったが出自は不明で、ヘルール族の王であったとか、テューリングン族の出身であるとか、あるいは東ゲルマン族のスキリア族出身であるなどとされた。しかし、イタリアの領主となった出自不明のオドアケルの正体は、じつはローマ教皇フェリクス3世だった。その後もゲラシウス1世などのローマ教皇を演じ続けているが、元を辿ればクロヴィス1世である。

更に、ゲラシウス1世は対立教皇ラウレンティウスに変身するが、ローマ法皇シンマクスに敗北したあと、ゲルマニアに逃亡して地母神ネルトゥスの崇拝をはじめ、ランゴバルト族を支配下に置いた。ラウレンティウスはランゴバルド王タトーとしてすぐ東方のフェルドと呼ばれる平原に移動した。この地でヘルール人の支配に反抗し、勝利を収めて独立勢力となった。

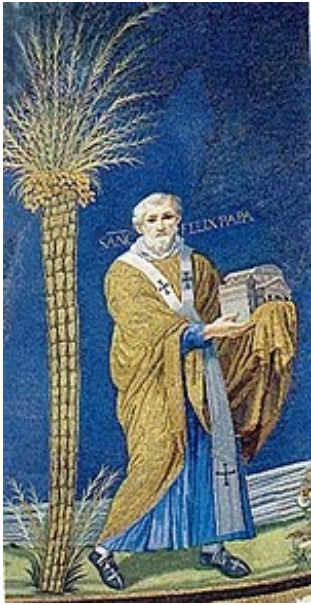
ということで、クロヴィス1世は即位後、すぐにイタリアを掌握しようと新勢力ランゴバルト族の支配に奮戦し、フランク王国を留守にしたため、47年間もの間、フランク王位は空位になっている。更にその後、ダヴィデの一族にフランク王位を奪われたのだが、クロヴィス1世の子孫であるランゴバルト族はフランク王国と敵対することになり、最終的に宰相ピピンとしてフランク王国に返り咲くことになる。



ワコー (?～?) ランゴバルド王 在位510～539※画像なし

ヨハネス1世 第53代ローマ教皇 在位523～526

マズダク (?～524) マズダク教教祖※画像なし



ワルタリ (?~?) ランゴバルド王 在位539~546※画像なし

フェリクス4世 (?~530) 第54代ローマ教皇 在位526~530※画像なし

カワード1世 (473~531) サーサーン朝皇帝 在位488~496、498~531

※この時期は、ローマ教皇となったガリアのドルイド司祭たちがイタリアを支配しながらイランを何とかしようとして画策していた時期である。フェリクス4世はサーサーン皇帝カワード1世に化け、仲間のヨハネス1世が化けたマズダクが築いた邪教マズダク教を保護し、拡大に努めた。まだイスラム教が登場する前夜だったため、ガリアのドルイド司祭はマズダク教を築き、イランに広めることでオリエント地域の征服を企画した。

クロヴィス1世の子



グントラム (532~592) オルレアン王※画像なし

アルボイン (526~572) ランゴバルト王国初代王 在位568~573※画像なし

グレゴリウス1世 ローマ市長官 在位572～574 第64代ローマ教皇 在位590～604

※ランゴバルト初代王アルポインは、死んだと見せかけて二年間ローマ市長官を務め、それからグレゴリウス1世としてローマ法皇に就任した。ローマ市長官になったり、ローマ法皇になったり、次々に重要職に就くことができるのは、ドルイド教やドナトゥス派時代に獲得した大勢の信者がいるからこそだ。数百人の信者たちは命令されてタナトスの人物を「すごい、すごい」と褒め称える。彼らがグルだと知らない第三者は、それを見て「何かすごい人物が現れた！」と認識する。そしてドルイド教は、彼らのウソを信じない者たちを闇から闇へと消していく。こうして「すごい人物」が完成するのだ。



アウタリ (?~?) ランゴバルト王 在位584～591 アルポインの子※画像なし
ペラギウス2世 (?~590) 第63代ローマ教皇 在位579～590
智顓 (538～598) 天台宗

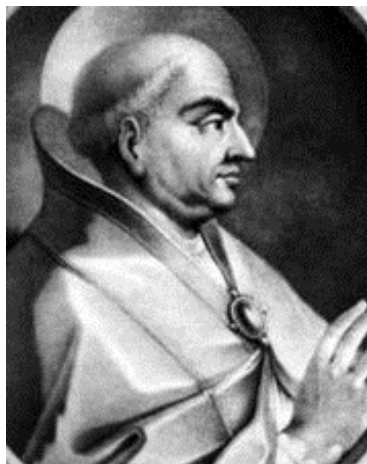
アギルルフ (?~?) ランゴバルト王 在位590～616 アルポインの子
ボニファティウス4世 (?~615) 第67代ローマ教皇 在位608～615



アダロアルド (?~?) ランゴバルト王 在位616~626※画像なし

ポニファティウス5世 (?~625) 第69代ローマ教皇 在位619~625

吉蔵 (549~623) 三論宗



ロタリ (?~?) ランゴバルト王 在位636~652※画像なし

マルティヌス1世 (?~655) 第74代ローマ教皇 在位649~653

道綽 (562~645) 浄土教

ピピン1世 (580~640) メロヴィング朝宮宰 在位623~629、639~640

※画像なし



アリベルト1世 (?~?) ランゴバルト王 在位653~661※画像なし

エウゲニウス1世 (?~657) 第75代ローマ教皇 在位654~657

玄奘三蔵 (602~664) 四大翻訳家

グリモアルド1世 (615~662) メロヴィング朝宮宰 在位643~656※画像なし



グリムヴァルド (?~?) ランゴバルト王 在位662~672※画像なし
ウィタリアヌス (?~672) 第76代ローマ教皇 在位657~672



ベルクタリット (?~?) ランゴバルト王 在位672~686※画像なし
ベネディクトゥス2世 (?~685) 第81代ローマ教皇 在位684~685
善導 (613~681) 浄土教



アリベルト (?~?) ランゴバルト王 在位701~712※画像なし
コンスタンティヌス (?~715) 第88代ローマ教皇 在位708~715

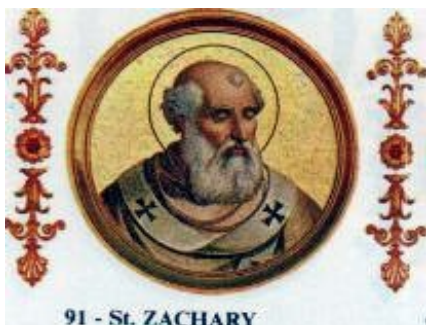
※ほとんどのランゴバルト王は、中国とイタリアを往来し、仏教の僧として活動した。さすがに強い征服本能をもっているだけあり、当時からグローバルな視点を持っていた。そのためか、浄

土思想はキリスト教に本質的に似ている。イエズス会のフロイスが、浄土崇拝を「キリスト教に似ている」と述べたくらいだ。



リウトブラント (?~?) ランゴバルト王 在位712~744 ※画像なし
グレゴリウス2世 (?~?) 第89代ローマ教皇 在位715~731 ※画像なし
グレゴリウス3世 (?~?) 第90代ローマ教皇 在位731~741
カール・マルテル (686~741) メロヴィング朝宮宰 在位715~741、在位718~741

※ランゴバルト王リウトプラントは、在位の年月が符合することから、ランゴバルト王国を統治しながらローマ法皇グレゴリウス2世を演じた。更にその後、2世が死んだことにすると、すぐにグレゴリウス3世を演じ続けたと考えられる。



ラトキス (?~?) ランゴバルト王 在位744~749 ※画像なし

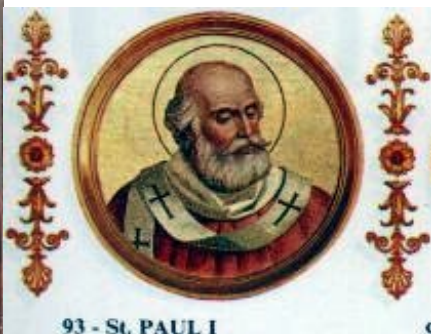
ザカリアス (?~752) 第91代ローマ教皇 在位741~752

キョル・ビルゲ (?~?) ウイグル可汗国初代カガン 在位744~747※画像なし

アイストゥルフ (?~?) ランゴバルト王 在位749~756

ステファヌス3世 (?~757) 第92代ローマ教皇 在位752~757

カールマン (706~754) メロヴィング朝宮宰 在位741~754



ピピン3世 (714~768) カロリング朝フランク王 在位752~768

パウルス1世 (?~767) 第93代ローマ教皇 在位757~767

テングリデ・ポルミシュ・イル・イトミシュ・ビルゲ (?~?) ウイグル可汗カガン 在位747~759※画像なし



デシデリウス (?~786) ランゴバルト王 在位756~776※画像なし

ステファヌス4世 (?~772) 第94代ローマ教皇 在位768~772※画像なし

カールマン1世 (751~771) カロリング朝フランク王 在位768~771

テングリデ・クト・ポルミシュ・イル・トゥトミシュ・アルプ・キュリグ・ビルゲ (?~?)

ウイグル可汗カガン 在位759~779※画像なし

※ランゴバルト王国、最後の3人の王は大宛に帰還し、ウイグル可汗国を建設した。3人は、ランゴバルト王国を統治しながらウイグルカガンも同時に兼任していた。



- ・アルプ・クトゥルグ・ビルゲ (?~?)　ウイグル可汗カガン　在位780~789
- ・テングリデ・ポルミシュ・キュリュグ・ビルゲ (?~?)　ウイグル可汗カガン　在位789~790
- ・クトゥルグ・ビルゲ (?~?)　ウイグル可汗カガン　在位790~795
- ・テングリデ・ウルグ・ポルミシュ・アルプ・クトゥルグ・キュリュグ・ビルゲ (?~?)　ウイグル可汗カガン　在位795~805
- ・テングリデ・アルプ・キュリュグ・ビルゲ (?~?)　ウイグル可汗カガン　在位805~808
- ・アイ・テングリデ・クト・ポルミシュ・アルプ・ビルゲ (?~?)　ウイグル可汗カガン　在位808~821
- ・キュン・テングリデ・ウルグ・ポルミシュ・キュチュリュグ・ビルゲ (?~?)　ウイグル可汗カガン　在位821~824
- ・アイ・テングリデ・クト・ポルミシュ・アルプ・ビルゲ (?~?)　ウイグル可汗カガン　在位824~832
- ・アイ・テングリデ・クト・ポルミシュ・アルプ・キュリュグ・ビルゲ (?~?)　ウイグル可汗カガン　在位832~839

※ウイグル可汗国が滅ぶと、残党はヴァイキングとなってバルト海に出現する。托跋部がヴァイキングに、ナイマン族がノルマン人になった。ヴァイキングの由来は托跋部が築いた「魏の王（ウェイキング）」である。ナルクシュ・タヤン・カンと弟のイナンチャ・カンがナイマン王国を築いたが、詳細は不明。たぶん、ウイグルカガンにナイマン王の本体がいるはずだ。

三十八世洞山良价禅師



ウルグ・テングリデ・クトゥ・ボルミシュ・アルプ・キュリュグ・ビルゲ (?~?) 天山ウイグル初代カガン 在位?~856 ※画像なし

洞山良价 (807~869) 曹洞宗

ロタール1世 (795~855) 中フランク初代王

※天山ウイグル初代カガンは、中国に侵入し、洞山良价を称して「曹洞宗」を築いた。洞山（ドンシャン）の名の由来は天山（ティエンシャン）である。

ロタール1世の子



ロドヴィコ2世 (825~875) 中フランク第2代王

シャルル1世 (823~877) 西フランク初代王 ※画像なし



ロタール2世 (835~869) 中フランク第3代王
シャルル2世 (839~888) 西フランク第4代王



シャルル (845~863) 中フランク第4代王※画像なし
ルイ2世 (846~879) 西フランク第2代王

Lanfranc Iの子 (中フランク王ロタール2世の玄孫の子)

Giselbert II (993~1010) ベルガモ伯

タンクレード・ド・オートヴィル (990~1041) オートヴィル家祖

タンクレード・ド・オートヴィルの子孫

ルッジェーロ2世 (1095~1154) オートヴィル朝初代シチリア王※画像なし



グリエルモ3世 (1185~1198) オートヴィル朝第5代シチリア王

ホーコン3世 (1180~1204) シュル朝ノルウェー王※画像なし

マーガレット (1283~1290) スコットランド女王※エイリーク2世の子

エリク・マグヌソン (1282~1318)

マグヌス4世・7世 (1316~1374) スウェーデン=ノルウェー連合王※ホーコン5世の子

ヴァルデマー4世 (1320~1375) デンマーク王



マルグレーテ1世 (1353~1412) カルマル同盟締結※ヴァルデマー4世の子

※マルグレーテ1世が北欧連合王国実質支配者といわれているが、実際には父ヴァルデマー4世が最初の北欧連合王国実質支配者であった。なぜなら、デンマーク王ヴァルデマー4世は、マグヌス4世としてスウェーデン王とノルウェー王に即位していたからだ。

オーロフ2世 (1370~1387) デンマーク王※マルグレーテ1世の子

Dietrich (1398~1440) Count of Oldenburg

※オーロフ1世は敵（ダヴィデの一族）の目をごまかすために17歳で死んだことにして潜伏し、およそ10年後にDietrichとして復活し、デンマーク王クリスチャン1世を儲けた。孫にはデンマーク・ノルウェー・スウェーデンの王となったハンスがいる。

ハンス（1455～1513） デンマーク・ノルウェー・スウェーデン王※Dietrichの孫
アレクサンダー（1462～1514） プファルツ＝ツヴァイブリュッケン公

※ハンスはアレクサンダーに変身してプファルツ＝ツヴァイブリュッケン公の座を得て、プファルツ朝スウェーデン王国の礎を築いた。

- ・ Louis II（1502～1532） Count Palatine of Zweibrücken
- ・ ヴォルフガング（1526～1569） プファルツ＝ツヴァイブリュッケン公
- ・ ヨハン1世（1550～1604） プファルツ＝ツヴァイブリュッケン公
- ・ ヨハン・カジミール（1589～1652） プファルツ＝クレールブルク公



カール10世（1622～1660） プファルツ朝初代スウェーデン王※ヨハン・カジミールの子



カール11世（1655～1697） プファルツ朝第2代スウェーデン王
カール（1654～1730） ヘッセン=カッセル方伯



フレドリク1世（1676～1751） ヘッセン朝初代スウェーデン王
クリスティアン・アウグスト・フォン・シュレースヴィヒ=ホルシュタイン=ゴットルプ（1673～1726）



ペーター・フリードリヒ・ヴィルヘルム（1754～1823） クリスティアン・アウグストの孫※画像なし

フェルディナンド1世（1751～1825） 初代両シチリア王



フェルディナンド2世（1810～1859） 第3代両シチリア王



フランチェスコ2世（1836～1894） 第4代両シチリア王

第3代両シチリア王フェルディナンド2世の子



ガエターノ（1846～1871）

ジョージ・リード（1845～1918） 第4代オーストラリア首相



ジェンナーロ（1857～1867）

アルフレッド・ディーキン（1856～1919） 第2代オーストラリア首相

フェルディナンド2世の孫



ヴィンチェンツォ（1851～1854）※画像なし

エドモンド・バートン（1849～1920） 初代オーストラリア首相

※オーストラリアの由来はオーストリア（フランク王国時代に因んでいる）とイタリア（ランゴバルト王国時代に因んでいる）の組み合わせである。オーストリア+イタリア=オーストリリア=オーストラリアとなる。



マリア・テレジア・フォン・エスターライヒ＝トスカーナ（1862～1933）

津田梅子（1864～1929） 津田塾大学創始者





フェルディナンド・ピオ（1869～1960）カラブリア公※画像なし
クリス・ワトソン（1867～1941）第3代オーストラリア首相
ヴィト・カッショ・フェロ（1862～1943）シチリア・マフィア

※このレオ1世の一族は、シチリア王室に席を置きながら、オーストラリアの首相を演じ、同時にマフィアも演じていた。タナトスの治める世は、公的機関も犯罪組織も同じものだということが良く分かる。

マリア・クリスティーナ・ピア（1869～1870）フランチェスコ2世の子
ニコラ・カナーリ（1874～1961）バチカン市国委員会初代議長



ジュゼッペ（1875～1950）パルマ公家家長※画像なし
カロジェロ・ヴィッツイーニ（1877～1954）シチリア・マフィア首領
アレスター・クロウリー（1875～1947）東方聖堂騎士団マスター



ジェンナーロ (1882~1944) ※画像なし

ジョニー・トーリオ (1882~1957) シカゴ・アウトフィット首領



フィリッポ (1885~1949)



ジョー・マッセリア (1886~1931) コーザ・ノストラ首領



フランチェスコ・ダッシジ (1888~1914) ※画像なし



千家尊統 (1886~1968) 第82代出雲国造

サルヴァトーレ・マランツァーノ（1886～1931） コーザ・ノストラ首領

※ダッジジはなぜか出雲大社で神官に就任した。確かに、千家尊統は白人のような顔立ちである

。



ボリス3世（1894～1943） サクスコブルクゴツキ朝第2代ブルガリア王※フェルディナンド2世曾孫

ジョゼッペ・ジェンコ・ルツォ（1893～1976） シチリア・マフィア大物



ガブリエーレ（1897～1975）

ラッキー・ルチアーノ（1897～1962） コーサ・ノストラ最高幹部

アル・カポネ（1899～1947） シカゴマフィアボス

※フェルディナンド2世の孫であるガブリエーレの影武者にはラッキー・ルチアーノとアル・カポネがいた。両者は、マフィアとして犯罪を基盤にアメリカに拠点を築こうとしていた。



カルロ (1905~1912) ※画像なし

カルロ・ガンビーノ (1902~1976) マフィアの大ボス

ミケーレ・ナヴァーラ (1905~1958) コルレオーネ村ボス

アメリカのイタリア系マフィア(コーサ・ノストラ)のボス。ニューヨークの五大ファミリーの1つ、ガンビーノファミリーのボスとして、1960年代から1970年代にかけてマフィア社会に絶大な影響力をもった。ボス外交や策略に長け、五大ファミリーをリードした。マフィアの全国委員会の議長をつとめた。シチリア島パレルモ出身。カルロ・ガンビーノwikiより



カルロス (1908~1936)

サム・ジアンカーナ (1908~1975) シカゴ・アウトフィット首領



マリア・クリスティーナ (1925~2009) ※画像なし

ミケーレ・グレコ (1924~2008) 法王と呼ばれたボス

エドムンド・カシミール・ショーカ (1927~2014) バチカン市国委員会第7代議長

※ミケーレ・グレコの影武者が実際にバチカン市国に勤務していたため、グレコは法王と呼ばれていたのだろう。



ジャン・マリー・カジミール（1933～2000） フェルディナンド2世曾孫※画像なし
ジョヴァンニ・ラヨロ（1935） バチカン市国委員会第8代議長



カルロス・デ・ボルボン＝ドス・シシリアス（1938～2015） フェルディナンド2世玄孫の孫※画像なし
ジュゼッペ・ベルテッロ（1942） バチカン市国委員会第9代議長



ルイス（1970） フェルディナンド2世玄孫※画像なし
スコット・モリソン（1968） ヤープ・デ・ホープ・スヘッフェルの子（オーストラリア首相）

アンドリュー・マッケイブ（1968） ヤープ・デ・ホープ・スヘッフェルの子（FBI副
長官）

※モリソンはTPPを批准し、マッケイブはトランプ大統領を貶めようと画策した。

ローマ教皇アレクサンドル3世の一族～メリナ王国、カンボジア王国、カリブ族、四季協会、ゴーストダンス、マウマウ団、ドラヴィダ進歩党、カーゴカルト、パプアニューギニア、クメール・ルージュ



アレクサンドル3世 (?～1181) 第170代ローマ教皇 在位1159～1181
ルイ7世 (1120～1180) カペー朝第6代フランス王、ルイ6世の子

※1095年、ローマ教皇に破門を通告された正にその年にフィリップ1世（クリュティオスのタナトス）は隠者ピエールに変身し、第一次十字軍に先駆けて民衆十字軍を発進させた。フィリップ1世の目的は、アンチ1世がアフリカに築いた王国に移住することだったようだ。

ルイ7世（ディオナーのタナトス）は、フィリップ1世の後を追ひ、第二回十字軍に参加し、オリエントに下った。ルイ7世の一族は十字軍の残党と共に東南アフリカにまで至り、マプングプエ王国を築き、ジンバブエ王国の建設にも携わった。

■カネム・ボルヌ帝国後期、マプングプエ王国、ジンバブエ王国の王は代々、ヒメノ朝ナバラ王・アラゴン王やカペー朝フランス王が兼任していた。

・ヒメノ朝ナバラ王

・ペドロ1世 (1094～1104) アラゴン王ペドロ1世

・アルフォンソ1世 (1104～1134) アラゴン王アルフォンソ1世

・ガルシア・ラミレス (1134～1150)

・サンチヨ6世 (1150～1194)

・サンチヨ7世 (1194～1234)

・ヒメノ朝アラゴン王

・ラミロ2世（1134～1137）

・ペトロニラ（1137～1164）

・カペー朝フランス王

・ルイ6世（1108～1137）

・ルイ7世（1137～1180）

・フィリップ2世（1180～1223）

・ルイ8世（1223～1226）

・ルイ9世（1226～1270）

・フィリップ3世（1270～1285）

・フィリップ4世（1285～1314）

・ルイ10世（1314～1316）

・ジャン1世（1316）

・フィリップ5世（1316～1322）

・シャルル4世（1322～1328）

アンドリアナリネリナ（15世紀） メリナ王国初代マダガスカル王

ポニャー・ヤット（1434～1462） 初代カンボジア王

※ジンバブエ王国が滅ぶと、十字軍の末裔は3つに分かれて新天地を目指した。一部は海を越えてマダガスカル島に入植し、メリナ王国を築いた。メリナの名の由来はルイ7世の娘マリーとアニエスの組み合わせと考えられる。更に、その足でインドシナ半島に入植し、カンボジア王国を建てている。カンボジアの由来は24のティールタンカラに属するクントゥとヴァースプージャの組み合わせである。

その後、アンドリアナナムポイメリナの時代に一時的にタギーの血が入り、ラダマ1世が生まれている。メリナ王族のラナヴァローナ1世がラダマ1世と結婚して王位を取り戻している。



カリブ族（15世紀）

※マダガスカル島に移住した人々は一部が東アフリカを出て更に大西洋を横断し、カリブ海に進出した。彼らはドミニカ島を住処にした。彼らは「カリブ」を称したがカリブの由来はマダガスカルのサカラバ族である。サカラバ=サカリブ=カリブとなる。これはジンバブエ人がサカラバの土地から来たことを旨にサカラバの名を借りた形であるが、人喰い人種であった彼らカリブの名は「カンニバル」の由来となった。

- ・トーマス・インディアン・ワーナー（?~?） カリブ族初代首長 任期1667~1674
- ・プチ・フランソワ（?~?） カリブ族首長 任期18世紀前半
- ・ワカニク（?~?） カリブ族首長 任期18世紀半ば
- ・ジョセフ（?~?） カリブ族首長 任期1850~1875

- ・アーヴィンス・オーガスティー（?~?） カリブ族首長 任期1984~1994
- ・ガーネット・ジョセフ（?~?） カリブ族首長 任期1998~2004、2009~2014
- ・チャールズ・ウィリアムス（?~?） カリブ族首長 任期2004~2009、2014~



ジャラワ族（15世紀）

※カリブ族は中米を横断し、太平洋を横断してアンダマン諸島にまで達した。この時に、カリブ族は「ジャラワ族」を残した。ジャラワ族は凶暴な人食い族として知られている。また、彼らはアフリカ人にしか見えない容姿をしているため、しばしば彼らがどこから来たのか議論の的になっている。彼らは Templar 騎士団の血が流れているジンバブエ人だ。



ラナヴァローナ1世（1778～1861） メリナ王国マダガスカル女王

アンエン（1773～1796） カンボジア王

※ラナヴァローナ1世は非常に残虐な女王として知られている。女王は人間がワニに喰い殺されるのを鑑賞するのが趣味であり、その趣味のせいで1万人は殺されたとされている。女王は女性

を演じていた男性の可能性もある。その場合、女王はカンボジアでアンエンを演じていた。

ラナヴァローナ1世の子



ラダマ1世（1793～1828） メリナ王国初代マダガスカル王

ジェローム＝アドルフ・ブランキ（1798～1854） ルイ・オーギュスト・ブランキ兄

アン・ドゥオン（1796～1860） カンボジア王※画像なし



ルイ・オーギュスト・ブランキ（1805～1881） 季節協会首領

※メリナ女王ラナヴァローナ1世の子と考えられるブランキは、カペー朝ルイ7世の子孫であるため、故国への帰還を夢見た。それが四季協会創設の目的だった。フランスに於けるほとんどの革命に参加している。



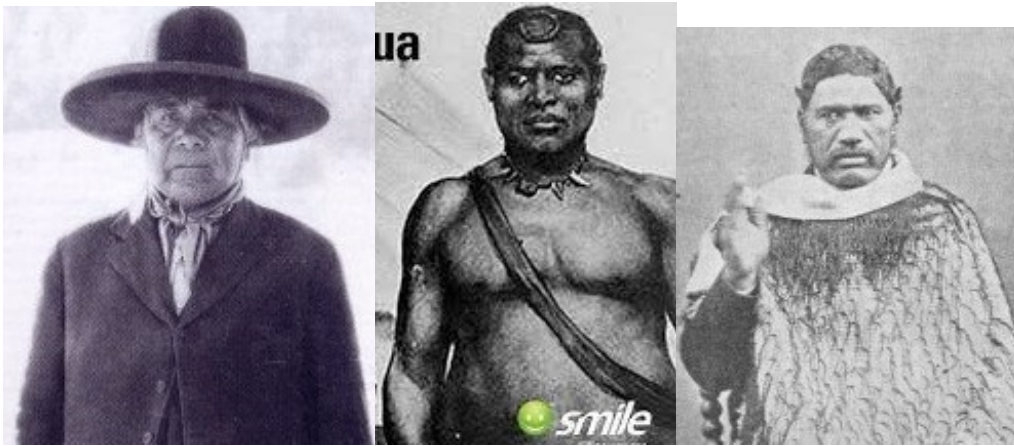
ラダマ2世 (1829~1863) メリナ王国第3代マダガスカル王
ノロドム1世 (1834~1904) カンボジア王

アン・ドゥオンの子



シソワット1世 (1840~1927) カンボジア王

ラダマ2世の子



ジョン（1854～1863） ※画像なし

ウォヴォカ（1856～1932） ゴーストダンス指導者

キンジキテレ・ングワレ（??～1905） マジマジ指導者

テ・ウァ・ハウメネ（?～?） パイ・マリレ指導者

※写真があるとは思っていなかったがこうして並べてみると、この3人は同一人物ということが分かる。新鮮な驚きである。ということで、残虐な女王ラナヴァローナ1世の孫であるジョンは世界の海を駆け巡り、北アメリカ、東アフリカ、ニュージーランドで現地人を統率した大規模な一揆を指揮した。北アメリカとジンバブエとお互いが遠く隔てられているにも関わらず、マジマジとゴーストダンスは内容が全く同じであるのがその証拠だ。

ジョンは北アメリカではウォヴォカと称し、スー族に「ゴースト・シャツ」なるものを手渡し、「これを着ていれば弾丸を通さない」とウソをつき、無理にアメリカ軍と戦わせた。同様に、ングワレを称したジョンはタンザニアでも同じようにマトウンビ族をだました。彼らは、ただの水を持ち出してきた「この薬用の水（マジ）を飲めば撃たれても死なない」とウソをつき、タンザニア人をだまして近代装備で固めたドイツ陸軍と戦わせた。

ニュージーランドではマオリ族を指揮し「ハパ、ハパ、パイマリレ、ハウ」と叫びながら大英帝国陸軍に突進させた。彼らは手を高く上げ、手のひらを前に向けて前進した。そうすれば銃弾を避けられると教えられたのだ。しかし、それは「ゴーストシャツ」や「マジ（薬用の水）」同様、ただのウソである。マオリ族は殺した白人兵の首を持ち歩き、宣教師を惨殺したことから恐怖の対象となった。タナトスの戦術は、ガリアのドルイド教時代と変わっていない。



ラナヴァローナ3世（1861～1917） メリナ王国マダガスカル女王
ジョハンナ・オモロ（?～?） ノミア・ルオ・ミッション教祖

※ラナヴァローナ3世はケニアに進出し、ジョハンナ・オロモに化けてノミア・ルオ・ミッションを指揮した。ケニア初のキリスト教系教会であり、すぐに80万もの人を集めたという。この80万人は実際には十字軍の子孫だと考えられる。



ノロドム・スラマリット（1896～1960） カンボジア王

ベン・ヌート（1906～1985） カンボジア国家元首

アユーブ・カーン（1907～1974） パキスタン・イスラム連盟創設

C・N・アナドゥライ（1909～1969） ドラヴィダ進歩党創設メンバー

タガネイト（生没年不詳） ダニ族首長、カーゴ・カルト指導者※画像なし

※カンボジア王スラマリットは、タナトスの故地であるニューギニアに渡り、タガネイトとして先祖の部族であるダニ族を統率した。この時に彼は1945年に大戦争を起こし、男たちを殺し、女を奪った。東方遙かにバリウム谷の西の地方を攻撃し、100人以上を殺した。こういう僻地まで治めずにいられないという、タナトスの非常に強い征服本能を窺うことができる。



※カーゴ・カルト



シソワット・モニポン（1912～1956） シソワット・モニヴォンの子※画像無し

ロン・ノル（1913～1985） クメール共和国大統領

ジョン・ガイズ（1914～1991） 初代パプアニューギニア総督 任期1975～1977※画像なし

フィリベール・ツィラナナ（1912～1974） マダガスカル初代大統領



Lon Non (1930～1975) ロン・ノル弟※画像無し

トレ・ロコロコ (1930～2013) 第2代パプアニューギニア総督※画像なし

ポルポト (1928～1998) クメール・ルージュ指導者

キングスフォード・ディベラ (1932～2002) 第3代パプアニューギニア総督※画像なし

キュー・サムファン (1931) カンボジア国家元首

※アメリカ合衆国（ディープステート）が、クメール・ルージュを支援したのは当然の成り行きだ。ソ連が支援するベトナム共和国に負けたアメリカ（ディープステート）は、それでも故地ダナーンの奪還を諦めることが出来ず、クメール・ルージュに夢を託したという形である。ダナーン族の血を引くカンボジア人は、ポルポトの指揮により、AD1976年にプノンペンを占領し「民主カンプチア」を成立した。民主と称しているが、タナトスがそういう美語を持ち出す時は、何かを破壊しようとしている時である。そういうわけで、ダナーン族は、旧政権関係者、富裕層、各種専門家、知識人、親ベトナム派党员、ベトナム系住民を殺戮した。

この時、上記の被害者と人工的な飢饉の被害者も含めて330万人が殺害されたとされている。また、ダナーン族の直系で固められたカンボジア軍の兵士は、独自の判断で、喰人のために殺人を犯した。「九一特別部隊」は、人の臓物をフライにして食べたいばかりに、無実の住民に親ベトナムの濡れ衣を着せて処刑していたという。

1975年 カンボジア政府軍兵士は儀式的な喰人を頻繁に実施した。ダナーン族は、クメール・ルージュによる民主カンボジア政府の権威を傘に着て、儀式的な殺人と喰人を頻繁に繰り返

した。またAD1994年、カンボジア北西部で民間人数十人がクメール・ルージュに共鳴していると非難され、軍事責任者と兵士によって処刑された。この私刑に携わった九一特別部隊、陸軍情報局に属する大隊は、ダナン族で構成されていたと考えられる。彼らは、処刑した死体を解体し、臓物を揚げ物にして食べたという。

ノロドム・スラムリットの子



ノロドム・シヌハーク（1922～2012） カンボジア王
スハルト（1921～2008） 第2代インドネシア大統領
デダン・キマジ・ワキウリ（1920～1957） マウマウ団指導者
K・アンバザガン（1922） ドラヴィダ進歩党創設メンバー※画像なし

1950年代の議会制民主主義体制（1950年憲法体制）を葬り去ったスカルノは、大統領に強大な権力を付与した1945年憲法を復活させ、「指導される民主主義」を宣言した。スカルノは、勢力を拡大しつつあったインドネシア共産党をみずからの支持基盤として、外交的にも徐々に親共路線を強めていった。国軍内にも親共派の影響が広がり、スハルトら国軍主流派は危機感を抱いていた。

そのような状況下で、1965年9月30日、大統領親衛隊長ウントゥン中佐が率いる左派系軍人が、陸軍参謀長ら6将軍を殺害するというクーデター（9月30日事件）が発生した。事件の詳細な経緯はいまなお明らかにはなっていないが（スハルトは事前にこのクーデター計画を察知していたという説やスハルトによる陰謀説もある）、スハルトは、スカルノから事態の收拾に当たるための権限を与えられ、速やかにこれを鎮圧した。同年10月16日、陸軍大臣兼陸軍参謀総長に就任したスハルトは、事件にかかわった共産党の指導者・一般党员・共産党との関係を疑われた一般住民を大虐殺し、党組織を物理的に解体した。20世紀最大の虐殺の一つとも言われ、50万人前後かとも言われるその総数はいまなお不明。

従来親共路線の責任を問われたスカルノは、翌1966年2月21日に新内閣を発表して、なおも政権

を維持しようとしたが、陸軍、イスラーム系諸団体、学生団体などによるスカルノ糾弾の街頭行動が活発となり、辞任要求の圧力を抑えることができなかった。同年3月11日、スカルノは秩序回復のための一切の権限をスハルトに与える「3月11日命令書」にサインし（させられ）、その実権をスハルトに譲った。スハルトは、1967年3月に大統領代行に、そして1968年3月には第2代大統領に就任した。スハルトwikiより

シハヌークの子



ノロドム・ラナリット（1941） 復興カンボジア王国初代首相

イグナティウス・キラゲ（1941～1989） 第4代パプアニューギニア総督※画像なし

セレイ・エリ（1936～1993） 第5代パプアニューギニア総督※画像なし

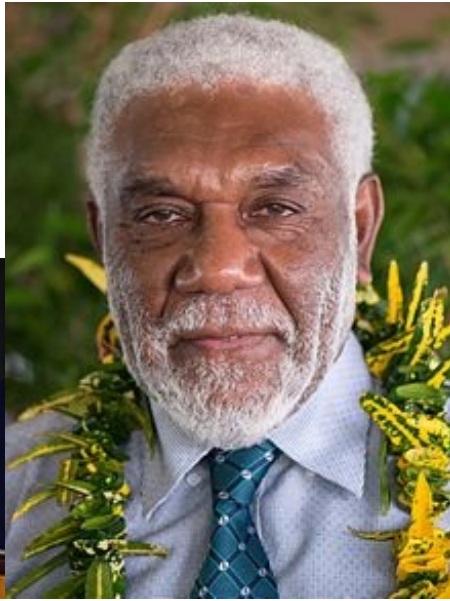
デニス・ヤング（1936） 第6代パプアニューギニア総督※画像なし

マイケル・ソマレ（1936） 初代パプアニューギニア首相

ドゥライ・ムルガン（1938） ドラヴィダ進歩党創設メンバー※画像なし

ジョージ・ソコアヌ（1937） バヌアツ初代大統領

ヘン・サムリン（1934） カンボジア王国第3代国民議会議長



ノロドム・シハモニ（1953）※画像なし

M・K・スターリン（1953） ドラヴィダ進歩党創設メンバー

ジョー・ナトウマン（1952） バヌアツ第19代首相、ジョン・フラム信仰教祖、フィリップ王配信仰教祖

※M・K・スターリンはインドからバヌアツに入植してナトウマン首相とモーゼス大統領を演じたが、同時に「ジョン・フラム信仰」や「フィリップ王配信仰」を指揮して全島民を邪教の信者として獲得し、土地を支配して島を掌握するのではなく、住人を支配することで島を掌握した。



Princess Sisowath Ponnirath（1956～1975） シソワット・モニポンの子※画像無し

タリス・オベド・モーゼス（1954） バヌアツ第9代大統領

ボブ・ダダエ（1961） 第10代パプアニューギニア総督※画像なし

ローマ教皇インノケンティウス3世の一族～ドイツ騎士団、白蓮教、小西行長と弥助、マラッカ王国、ブルネイ帝国、ベネズエラ共和国、リンガトゥ教、呪術師スピキロ、バラク・オバマ、フアン・グアイド



インノケンティウス3世（1160～1216） 第176代ローマ教皇 在位1198～1216

フィリップ2世（1165～1223） カペー朝フランス王 在位1180～1223

ヘルマン・フォン・ザルツァ（1165～1239） ドイツ騎士団総長

西欧：クレメンス3世、第3次十字軍（1189～1192）

北欧：北の十字軍公認（1198）

北欧：リヴォニア十字軍派遣（1199）

西欧：インノケンティウス3世、第4次十字軍（1202～1204）

西欧：インノケンティウス3世、アルビジョワ十字軍（1208）

西欧：インノケンティウス3世、児童十字軍（1212）

※フィリップ2世は、自身の庶子を集めて1212年に児童十字軍を指揮し、父ルイ7世や祖父ルイ6世の子息たちを率いてアフリカに移住した。もちろん渡航費の足しとして、奴隷として売

るための少年少女も大量に連れていた。生きた錢である。彼らは曾祖父フィリップ1世が築いた、カネム帝国とマプングプエ王国を目指した。フィリップ2世の一族が「フィリピン」の命名者である可能性がある。

一方、フィリップ2世の影武者として生まれたヘルマン・フォン・ザルツァは、ドイツ騎士団を組織し、初代総長として騎士修道会のプロイセン地方への東方植民を監督した。フィリップ2世は、イングランド王家で欠地王ジョン王のフランス南部に広大な領地を有するプランタジネット家との抗争に勝利し、その大陸領土の大部分をフランス王領に併合した他、アルビジョア十字軍を利用して、王権をトゥールーズ、オーヴェルニュ、プロヴァンスといったフランス南東部から神聖ローマ帝国領にまで及ぼした。

この結果、フランス王権は大いに強まり、フランスはヨーロッパの強国となった。ということで、征服本能に火が付いたフィリップ2世は、更に北方の僻地をも治めんと、影武者ザルツァに指示してドイツ騎士団を指揮させ、ドイツ騎士団領を掌握する。アフリカ十字軍国家建設も、北方十字軍国家建設も、どちらも、フィリップ2世がフランス支配の権限を失ったことがきっかけとなっている。

ドイツ騎士団領（1210～1525）

モスリムのサラフッディーンに抵抗し聖地をキリスト教で保持するよう教皇の命令を受け、第4代騎士修道会総長ヘルマン・フォン・ザルツァ時代(1209-1239年)に、医療奉仕団から騎士修道会となった。騎士団は、神聖ローマ帝国（現ドイツ、イタリア）、ギリシャの領土、エルサレム王国の土地を寄付された。ドイツ騎士団領wikiより

ボルヌ帝国（1380～1893）※歴代王の系譜は不明

※ボルヌ帝国は歴代の王が不明とされているが、ボルヌ帝国とはブルネイ帝国のことである。つまり、ブルネイ帝国の皇帝がボルヌ帝国の王でもあるわけだ。ボルヌ帝国の初代王はブルネイ帝国初代皇帝ムハンマド・シャーであり、ボルヌ帝国最後の王はブルネイ第25代皇帝ハシム・ジョリル・アラム・アクアマディンである。

ボルヌ帝国はブルネイ帝国のアフリカ領であり、マラッカ王国はブルネイ帝国のマレー領と考えればよい。また、後述しているように、彼らは中国支配をも狙って白蓮教を支配下に置き、紅巾賊（本願寺門主覚如の一族）と連合した。



ムハンマド・シャー (?~?) ブルネイ帝国初代皇帝 在位1363~1402 ※画像なし
パラメスワラ (1344~1414) マラッカ王国初代スルターン
韓山童 (?~1351) 白蓮教教祖 ※画像なし

※ジンバブエ王国が滅ぶと、十字軍の末裔は3つに分かれて新天地を目指した。ジンバブエを発った一団は北上する時に伝説のニョロ帝国を通過したのだが、この時に「フラニ族」を称した。フラニ族はインド洋商業航路に沿ってインドネシアに移り、首長がムハンマド・シャーを称し「ブルネイ帝国」を築いた。この時に東南アジアにイスラム教が伝えられ、ボルネオが初めて「ボルネオ」と呼ばれるようになった。フラニ、ボルネオ、ブルネイなどの名の由来はヴァナラシである。



韓林兒 (?~1366) 白蓮教教祖
内藤道勝 (生没年不詳) 内藤氏の祖 ※画像なし

- ・内藤之貞 (生没年不詳)
- ・内藤元貞 (生没年不詳)
- ・内藤久清 (生没年不詳)

- ・小西行正 (生1500頃?~?) 小西氏の祖
- ・小西隆佐 (?~1592)

※朱元璋に弾圧された韓林児は日本に移住して内藤氏を生み、日本を拠点にマレー半島にマラッカ王国を築いた。内藤の名の由来は十字軍に因んでナイト（KNIGHT）から採られたと考えられる。更に内藤氏からは小西氏が生まれたが、小西の由来はラテン語読みのキニーズ（中国）と考えられる。キニーズ=キニス=小西となる。



イドリス・アルーマ（?～?） ボルヌ帝国皇帝 在位1570～1603※画像なし

小西行長（1558～1600）

弥助（生没年不詳） 織田信長御用達小間使い※画像なし

※小西行長はボルヌ帝国の皇帝であり、織田信長に仕えていた弥助でもあった。つまりアフリカの黒人だった。インド洋商業航路に乗って日本に来たボルヌ帝国皇帝は弥助として最大の敵である信長に張り付き、小西行長として紅巾の乱のときの先祖である韓林児の雪辱を果たさんと、本願寺門主顕如の一族宇喜多秀家と共に明に乗り込んだ。信長に止めを刺し、討ち取ったのは弥助の可能性もある。小西行長はキリシタン大名であったが、それは十字軍の末裔が築いたボルヌ帝国にいた時からであった。先祖は十字軍なのだから。

アラウッディーン・リアヤト・シャー（?～?） マラッカ王国第7代スルターン 在位1477～1488

マフムード・シャー（?～?） マラッカ王国第8代スルターン 在位1488～1511

アブー・アブド・アラール・アル=シーク・ムハンマド・イブン・ヤハヤ（?～?） ワッタース朝初代スルターン 在位1472～1504

※マラッカ王アラーウッディーン・リアヤト・シャーは、引き続きマフムード・シャーを演じた。また、アラーウッディーン・リアヤト・シャーはモロッコに進出してワッタース朝を開いた。この時に初めてモロッコの名がもたらされた。モロッコの由来はマラッカである。ワッタース朝は1554年まで続いた。



アーマド・シャー (?～1513) マラッカ王国第9代スルターン 在位1511～1513

※画像なし

アルブレヒト (1490～1568) 初代プロイセン公、ドイツ騎士団総長

※アルブレヒトの正体は、マラッカ王国最後の王アーマド・シャーであるため、顔はマレー人ぽく、普通の白人に見えない。彼がドイツ騎士団総長に就任していた時代にドイツ騎士団領は消滅した。

アブドゥル・ジャリール・アクバル (?～?) ブルネイ帝国第10代皇帝 在位1598～1659

サンペット5世 (1600～1656) タイ王国アユタヤ王 在位1629～1656

サンペット6世 (?～1656) タイ王国アユタヤ王 在位1656

サンペット7世 (?～1656) タイ王国アユタヤ王 在位1656

※サンペット5世～7世まで3人の名があるが全てひとりの人物が演じ分けていると考えられる。ブルネイ・ボルヌ帝国の一族がタイ征服に乗り出したが、運営の機運に乗るまで1人で道筋をつけようとしたのだろう。サンペット5世の時代、アユタヤ王朝はオランダ東インド会社と連合し、日本人町の焼き討ちや山田長政の暗殺を実施した。

ラーマーティボーディー3世（1633～1688） タイ王国アユタヤ王 在位1656～1688

アブドゥル・ジャリルール・ジャバール（?～?） ブルネイ帝国第11代皇帝 在位1659～1660

ムハマンド・アリ（?～?） ブルネイ帝国第12代皇帝 在位1660～1661

アブドゥルハクル・ムビン（?～?） ブルネイ帝国第13代皇帝 在位1660～1673

ムヒーッディン（?～?） ブルネイ帝国第14代皇帝 在位1673～1690

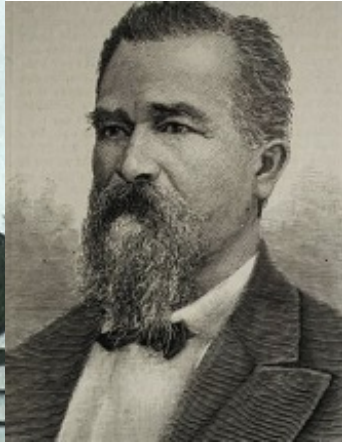
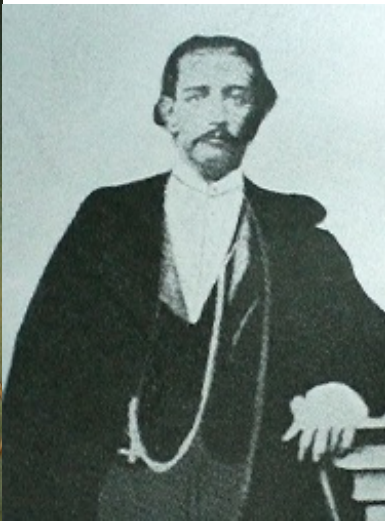
※今度は逆に、アユタヤ王が4人のブルネイ皇帝を演じている。しかし、アユタヤ朝の篡奪は長く続かず、ラーマーティボーディー3世の時代で終焉を迎える。アユタヤを短期間支配した残党はブルネイに帰還した。



ムハンマド・カンズル・アラム（?～1829） ブルネイ第21代皇帝 在位1807～1829 ※画像なし

Cristóbal Mendoza（1772～1829） ベネズエラ初代大統領 任期1811～1812

※このときにブルネイ帝国は、ベネズエラを一時的に植民地として掌握した。その子孫たちが現在、「チャベス大統領やマドゥロ大統領は悪だ」とウソをついてベネズエラで騒いでいるようだ。



ハシム・ジョリル・アラム・アクアマディン（1825～1906） ブルネイ第25代皇帝
在位1885～1905※画像なし
テ・クーティ（1832～1893） リンガトゥ教教祖
ネハンダ・ニヤカシカナ/スビキロ（呪術師集団） チムレンガ指導者
ホセ・クリソストモ・ファルコン（1820～1870） 第11代ベネズエラ大統領
マヌエル・エセキエル・ブルズアル（1832～1868） 第12代ベネズエラ大統領
エルモゲネス・ロペス（1830～1898） 第22代ベネズエラ大統領

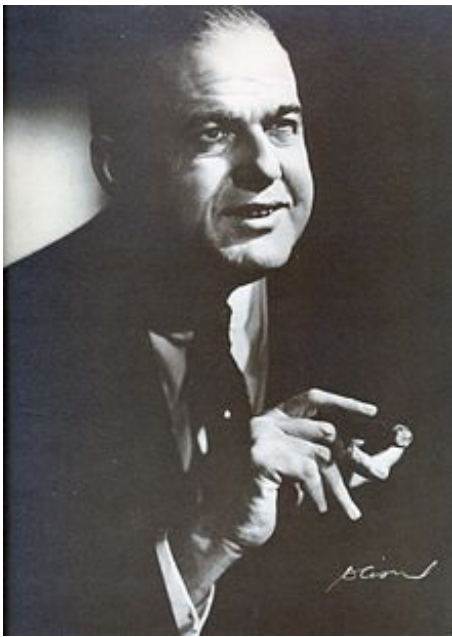
※ブルネイ皇帝アクアマディンはニュージーランドとジンバブエの支配を目論み、現地に飛んで邪教集団を形成し、白人列強に対して抵抗した。これはマオリ族を守るための戦いではなかった。アクアマディンは、ただ単に奴隷を使って領土を得たいという思惑しかなかった。ジンバブエ、ニュージーランドなどの僻地の支配を諦めると、ハシムはさっさとブルネイ帝国植民地ベネズエラに帰還し、名前を変えながらベネズエラ大統領として君臨し続けた。



ムハマド・ジャマルル・アラム2世 (1889~1924) ブルネイ帝国第26代皇帝 在位
1905~1924

トゥンク・アブドゥル・ラーマン (1895~1960) 初代マレーシア国王

ロムロ・ガジェゴス・フレイレ (1884~1969) 第32代ベネズエラ大統領





アマド・タジュディン（1913～1950） ブルネイ帝国第27代皇帝 在位1924～1950※画像なし

Diego Cisneros（1911～1980） 巨大メディアシスネロス・グループ創設

Eduardo Mendoza Goiticoa（1917～2009） ベネズエラ農相

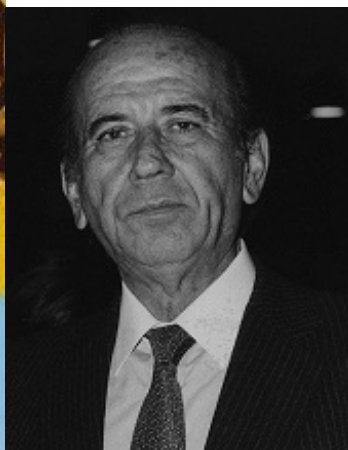
ラモン・ホセ・ベラスケス（1916～2014） 第44代ベネズエラ大統領

ラファエルカルデラ（1916～2009） 第39代ベネズエラ大統領

ジャック・マーシャル（1912～1988） 第28代ニュージーランド首相

※シスネロスグループ総帥diegoとラファエル大統領は同一人物の可能性が高い。顔が良く似ている。これだけ似ていて良くベネズエラ国民は誰ひとり気付かないものだ。

第26代ブルネイ王ムハマド・ジャマルル・アラム2世の子





PENGIRAN MUDA LAILA GAMBAR (1924) ※画像なし

サイド・ハルン・プトラ (1920~2000) 第3代マレーシア国王

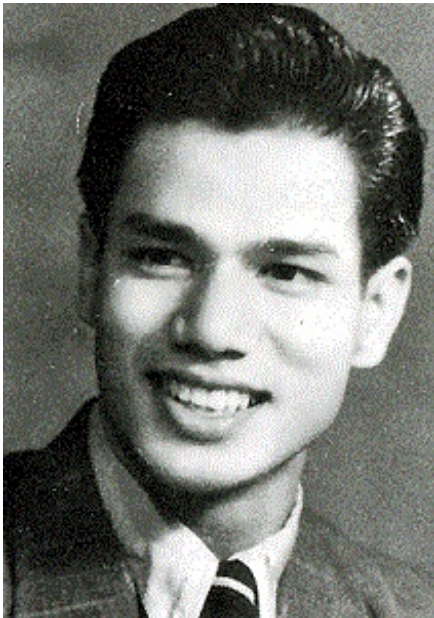
カルロス・アンドレス・ペレス (1922~2010) 第40代ベネズエラ大統領

ルイス・エレラ・カンピンス (1925~2007) 第41代ベネズエラ大統領

ハイメ・ルシンチ (1924~2014) 第42代ベネズエラ大統領

ノーマン・カーク (1923~1974) 第29代ニュージーランド首相

第27代ブルネイ王アマド・タジュディンの子



ベラバブ・バサル (1928~2013) ※画像なし

アズラン・シャー (1928~2014) ペラ王国スルターン、第9代マレーシア王

ビル・ローリング (1927~1995) 第30代ニュージーランド首相

※この2人は全く似ていないが、ベラバブ・バサールの影武者として生まれた。影武者であるはずのアズラン・シャーは出世し、バラク・オバマ、ジョコ・ウィドド、フアン・グアイドなどの悪を生んだ。



ラジャ・ヨング・ソフィア（1961） ペラ王アズラン・シャーの娘※画像なし

バラク・オバマ（1961） アメリカ大統領

ジョコ・ウィドド（1961） インドネシア大統領

※オバマはアズラン・シャーの庶子として生まれ、異母兄弟ソフィアの幼少時の影武者として生まれた。そのため、オバマはゲイになった。オバマは若い頃のアズラン・シャーに良く似ている。影武者として生まれたジョコ・ウィドドも良く似ている。



大統領就任直後の2009年1月23日、オバマはパキスタンのイスラム武装勢力に対するミサイル攻撃を指示した。その後もパキスタンに対する越境攻撃を繰り返し行ったため、現地では多数の死傷者が出るなど被害が拡大している。上院の審議にて、国防長官ロバート・ゲーツは政府高官として初めて越境攻撃の事実を認めたが、今後も攻撃を継続すると証言した。

2011年、リビア内戦が発生したため、3月12日、アラブ連盟は国際連合安全保障理事会にリビア飛行禁止空域を設定するよう要請した。この要請は通り、結果を受けてアメリカはイタリア、デンマーク、ノルウェーと共にオデッセイの夜明け作戦を実施、リビア国内へ空爆を行った。wikiより

※上記のことがあるため、筆者はノーベル平和賞受賞者であるオバマ大統領をOH BOMBERと呼んでいる。カザフィー大佐もチャウシェスク大統領と同じように大谷の邪教信者によって惨殺さ

れた。カザフィー大佐を集団でリンチして殺害した後に民衆は携帯で写真を撮っていたが、このような人道的な倫理を持ち合わせない民衆は守る必要がない。どちらかといえば、積極的に死滅させてもかまわないような連中だ。死滅するべき連中だ。

しかし、オバマはこのような民衆を守るためと称しリビアを爆撃した。これは実に大谷の血ならではの所業ではあるが。カザフィー大佐が民衆に惨殺された写真も見たがこれは許すことは出来ない。できそこないが優れた人物を殺害することは反自然的なことだからだ。

第9代マレーシア王アズラン・シャーの子（優性遺伝子ブリーダーによる）



レオポルド・ロペス（1971） ベネズエラ政治家

※ロペスはアズラン・シャーにそっくりである。グアイドとは伯父と甥の関係である。

バラク・オバマの子（優性遺伝子ブリーダーによる）



フアン・グアイド（1983） ベネズエラ外相

※どう見てもオバマ。優性遺伝子ブリーダーで生まれたのだろう。2019年1月。ベネズエラでクーデターを引き起こしている。マドゥロ大統領の暗殺未遂もこの男の指揮だろう。民主党の切り札らしいが、小物でしかない。トランプ大統領は何か企んでいるのだろう。静観するのみだ。



JAMEL BETTAIEB (198?) アラブの春指導者



※オバマ大統領は、優性遺伝子ブリーダーによって生まれた息子をチュニジアからホワイトハウスに迎えて讃えたが、あまり話題にならなかったようだ。

第28代ブルネイ皇帝オマル・アリ・サイフディン3世の子



ハサナル・ボルキア（1946） ブルネイ帝国第29代皇帝 在位1967～現在



ジェフリ・ボルキア（1954）



ジェリー・マテパラエ（1954） ニュージーランド総督



6人の娘のうちの一

ハリマ・ヤコブ（1954） シンガポール第8代大統領

※TPPを批准。オマル・アリ・サイフディン3世の何人かいる娘だと考えられる（生年が不明なので確かなことはいえない）。

ハサナル・ボルキアの娘



ハジャー・ラシダー・サッアダトゥル・ボルキア（1969）※画像なし

ラトゥ・アトゥット・チョシヤ（1962） バンテン州知事

スハルト独裁体制を支え、ゴルカル党と深い関係を築き、バンテン州設立運動の中心人物でもある名士の一族に、今回の事件で初めて捜査のメスが入った。来年の総選挙を控え、同党は一連の党関係者の汚職事件の悪影響を懸念し、党大会を延期するなど動揺が広がっている。ジャカルタ新聞より



マジーダ・ボルキア（1976）※画像なし

フーマ・アベディン（1976） ヒラリー・クリントン第一秘書

※アベディンの正体はマジーダ・ボルキアと考えられる。ヒラリーと共に子供を殺し、血を飲んだとされている。



ハジャー・ハフィザー・スルルル・ボルキア（1980）※画像なし

ジャシンダ・アーダーン（1980） ニュージーランド首相

タワックル・カルマン（1979） 束縛のない女性ジャーナリスト設立、ノーベル平和賞

※ハジャー・ハフィザーの画像がないので何とも言えないが、アーダーンやカルマンのどちらかがハジャーハフィザーの可能性もあるし、或いはどちらも異母兄弟の庶子であり、影武者という可能性も考えられる。ジャシンダ・アーダーンはTPPを批准した。カルマンはウソをつくための権威である。実質、テロリスト。ノーベル平和賞が彼女が悪であることを証明している。テロリストに見えないテロリストが一番厄介だ。

親鸞の一族～浄土真宗、時宗、一向宗、世界初の精神病院ベドラム、ブルゴーニュ朝・アヴィス朝ポルトガル王国、コンキスタドール、メキシコ帝国、麻薬カルテル



親鸞（1173～1262）

インノケンティウス4世（?～1254） ローマ教皇 在位1243～1254

アルフォンソ2世（1174～1209） プロヴァンス伯、アルフォンソ2世の子※画像なし

ペドロ2世（1174～1213） バルセロナ朝アラゴン王

聖ドミニコ（1170～1221） ドミニコ会教祖

アルフォンソ9世（1171～1230） レオン王 在位1188～1230※画像なし

ジョフロワ（生没年不詳） ベツレヘム大司教 在位1224～1247※画像なし

テレサ（1176～1250） アルフォンソ9世妻

※親鸞は、日本は庶子を投入した影武者に一任し、主に高麗で仏教信者を統率して暴動を指揮している。一方、ヨーロッパ情勢にも気を配り、現地に赴いてインノケンティウス4世としてローマ法皇にも就任している。イギリスには、ベツレヘム大司教ジョフロワとして邪教信者を保護し、敵を精神病扱いするために世界初の病院という名の監獄、精神病院を設立している。

「精神病患者の言うことには誰も耳を傾けない」。ここに目をつけた親鸞は、敵を孤立させるために精神病扱いすることを決定した。そのために大勢の信者に命令し、集団で敵個人に嫌がらせをした。

ここで敵が激怒したり、加害者である邪教信者に手を挙げた場合、彼らは敵を「おれたちは何もしていないのに暴力振るった」「狂ってる」「精神病だ」として精神病院に強制収用し、世間から遠ざけた。敵は個人に限定された。個人であれば、イヤガラセによる被害の主張も主観でしかない。主観であるということは、被害者は共感を得られないということだ。クリユニー会は、こうして世界中の敵（優れた人、善人、強い人）を減らしていった。



アフォンソ2世（1185～1223）ブルゴーニュ朝ポルトガル王※テレサの弟
ルイ8世（1187～1226）カペー朝フランス王 在位1223～1226

アフォンソ2世（ルイ8世）の子



アフォンソ3世（1210～1279）ブルゴーニュ朝ポルトガル王※画像なし

グレゴリウス10世（1210～1276） ローマ教皇 在位1271～1276

ルイ9世（1214～1270） カペー朝フランス王 在位1226～1270

ロベール1世（1216～1250） アルトワ伯

ハイメ1世（1208～1276） バルセロナ朝アラゴン王※画像なし

西欧：グレゴリウス10世、第7次十字軍（1270）

親鸞（アルフォンソ9世）の子



フェルナンド3世（1201～1252） レオン王、カスティーリャ王

テオパルド1世（1201～1253） シャンパーニュ朝ナバラ王※画像なし

ムハンマド1世（1195～1272） グラナダ王国初代王※画像なし

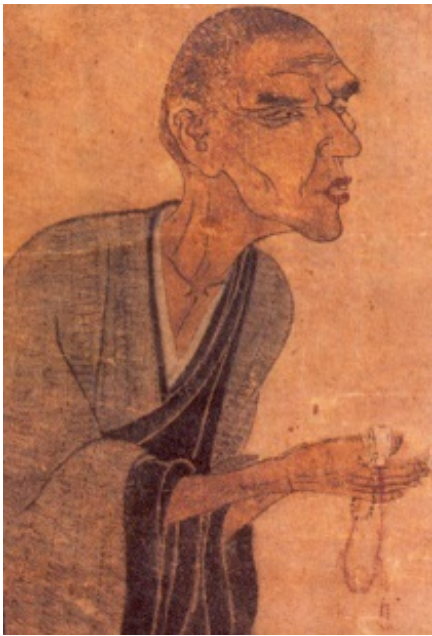
アルベルトウス・マグヌス（1200～1280） ドミニコ会士

フェルナンド3世の子



- レオナルド (1227~?) フェルナンド3世の子※画像なし
覚信尼 (1224~1283) 親鸞の娘
顕智 (1226~1310) 親鸞の弟子
カルロ1世 (1227~1285) アンジュー=ナポリ朝シチリア初代王※画像なし
ウィレム2世 (1227~1256) ホラント伯※画像なし
トマス・アキナス (1225~1274) ドミニコ会士

※親鸞のような悪党を尊敬する人間などいるはずが無い。つまり、弟子と呼ばれる者は、みな親鸞の子だ。子である顕智は親鸞の娘を演じ、大谷廟堂をひとりで建てた。大谷の由来はTANATOS (タナトス) の反対SOTANATのOTANAである。OTANA=大谷となる。悪党でしかない顕智は、常に強い武士に成敗される危険性があったため、逃げるためのために覚信尼の存在を準備した。彼は狙われていると知るとすぐに覚信尼に化け、潜伏した。



フェルナンド (1239~1260) フェルナンド3世の子、オマール伯※画像なし
一偏 (1239~1289) 時宗祖
一向 (1239~1287) 一向宗祖※画像なし
ペドロ3世 (1240~1285) バルセロナ朝アラゴン王
テオパルド2世 (1238~1270) シャンパーニュ朝ナバラ王※画像なし
ムハンマド2世 (1235~1302) グラナダ王国第2代王※画像なし

カルロ1世の子 (アンジュー=ナポリ朝シチリア王)



カルロ2世 (1248~1309) アンジュー=ナポリ朝シチリア第2代王



ロベルト1世（1277～1343） アンジュー＝ナポリ朝シチリア第3代王



ジョヴァンナ1世（1327～1387） アンジュー＝ナポリ朝シチリア第4代女王

エルサレム女王、シチリア女王、アカイア公、プロヴァンス伯、フォルカルキエ伯の称号を有した。wikiより

アフォンソ3世の子（ブルゴーニュ朝ポルトガル王）



ディニス1世 (1261~1325) ブルゴーニュ朝第6代ポルトガル王
ムハンマド3世 (1257~1309) グラナダ王国第3代王※画像なし
アルフォンソ3世 (1265~1291) バルセロナ朝アラゴン王



アフォンソ4世 (1291~1357) ブルゴーニュ朝第7代ポルトガル王
ムハンマド5世 (?~1359) グラナダ王国第8代王※画像なし



ペドロ1世（1320～1367） ブルゴーニュ朝第8代ポルトガル王

ペドロ1世の子



フェルナンド1世（1345～1383） ブルゴーニュ朝第9代ポルトガル王

※フェルナンド1世は娘しかいなかったために家は断絶。しかし、異母弟のジョアン1世がアヴィス朝を創始する。



ジョアン1世（1357～1433） アヴィス朝初代王 在位1385～1433

アフォンソ5世の子（ジョアン1世の玄孫）

ジョアン（1451）

マルティン・コルテス（1449～？）

※ジョアン1世の玄孫となるジョアンは早世したことにして潜伏してマルティン・コルテスとして育ち、エルナン・コルテスの父となる。コルテスの由来はドルイド教司祭の一族カルヌーテースである。カルヌーテース＝カルテース＝コルテスとなる。

コンキスタドール・リスト（アヴィス朝ポルトガル王室の一族）

※ポルトガル王国は、ハプスブルグ家（ダヴィデの一族）が支配していたスペイン王国のアメリカ利権をも掌中にするを考え、自身の子息をスペイン国内に送り込んだ。つまり、コンキスタドールは全員ポルトガル王室の一員である。スペイン人であるはずのコンキスタドールがハプスブルグ家に反抗したのはそういう経緯からだ。コンキスタドールの働きにより、スペイン直轄の植民地をも支配下に置いていたポルトガル王国は、当時、ほぼ地球全体を支配していたことになる。



シモン（1467）※画像なし

フランシスコ・エルナンデス・デ・コルドバ（1467～1517）

※シモンはポルトガル王ドゥアルテ1世の孫であり、ヴィゼウ公フェルナンドの子である。シモンは早世したことにして潜伏し、フランシスコ・エルナンデス・デ・コルドバとして育てられた。

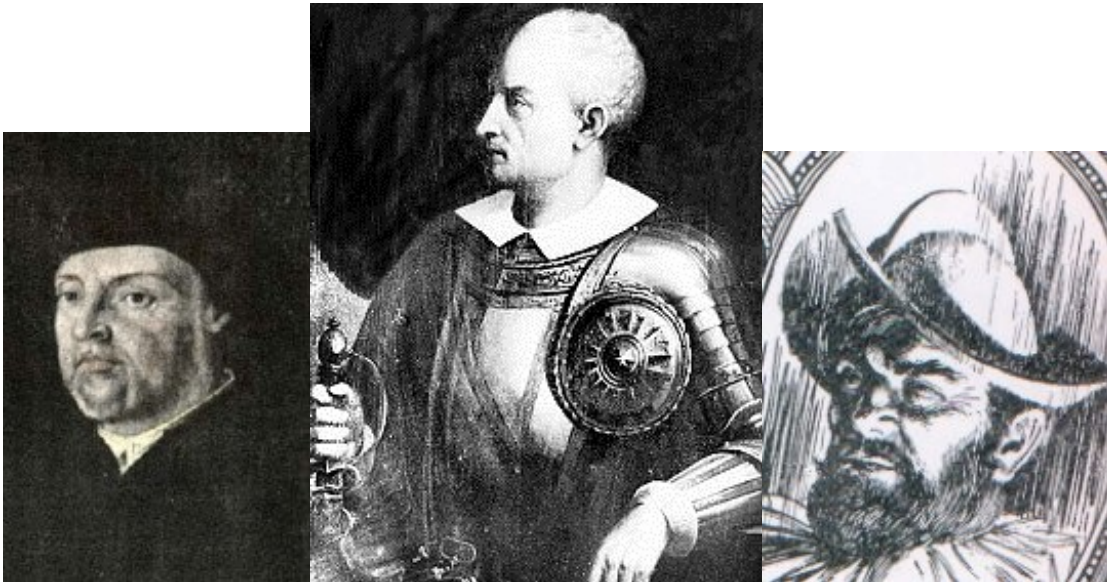
。



アフォンソ (1475~1491) ※画像なし

バスコ・ヌーニェス・デ・バルボア (1475~1519)

※ポルトガル王ジョアン2世の子アフォンソはバスコ・ヌーニェス・デ・バルボアとしてコンキスタドールの尖兵となった。



Jorge de Lencastre (1481~1550) コインブラ公

ディエゴ・デ・アルマグロ (1479~1538)

パンフィロ・デ・ナルバエス (1478~1528)

フランシスコ・デ・モンテーホ (1479~1553) ※画像なし

※Jorge de Lencastreはポルトガル王ジョアン2世の子であり、上記のアフォンソ (バルボア) とは兄弟である。



エルナン・コルテス（1485～1547） ヌエヴァ・イスパーニャ初代知事
バルトロメ・デ・ラス・カサス（1484～1566） ドミニコ会士
ペドロ・デ・アルバラード（1485～1541） コルテス右腕
フアン・デ・グリハルバ（1489～1527）
アルバル・ヌニェス・カベサ・デ・バカ（1490～1559）

※ポルトガル王ジョアン1世の玄孫ジョアン（マルティン・コルテス）の子である。タナトスは嫌われ者の上、誰も信用できないので「右腕」さえ自身で演じざるを得なかった。コルテスにとってはそれがアルバラードであった。もしどちらかに危険が迫ればどちらかに化けて潜伏するという手段も可能であった。更にドミニコ会士ラス・カサスを演じていたコルテスは、植民地から得られる利益をすべて独占したいがために、敵（ハプスブルグ家）を退ける目的で「インディア擁護論」を著した。

彼は自分でもインディオを虐待していたが、それはすべて棚に上げ、さも「敵だけ」がインディオを虐待している内容の本を書いた。それが悪の名著「インディアスの破壊についての簡潔な報告」である。この著作は魔女狩り関連の著作と並ぶ人類史上最悪の悪の名著である。彼らの発想としては、敵が悪であれば排除して良いのだ。だが、もし敵が悪でないなら、敵が悪

である証拠を探すのではなく、作るのだ。例えウソでも権威の口から出れば、そして、そのただのウソを大量の人間が信じるならば、そのウソは真実となる（そのための大量の邪教信者獲得である）。カサスは「インディアンの保護者」と呼ばれたが、添削の上、修正させていただくと「インディアン関連権益の保護者」となる。彼らは常に意図的に「ひと言」足りない。



Miguel da Paz (1498~1500) ※画像なし

エルナンド・デ・ソト (1496~1542)

ベルナル・ディアス・デル・カスティリョ (1496~1584)

マルコス・デ・ニサ (1495~1558) フランチェスコ会士 ※画像なし

Íñigo López de Mendoza (1493~1566) 4th Duke of the Infantado ※画像なし

※Miguel da Pazはポルトガル王マヌエル1世の子である。Miguelは早世したことにし、エルナンド・ソトとして成長した。また、ソトはカスティリョ、ニサなども演じた。



ジョアン3世 (1502~1557)

ペドロ・デ・バルディビア (1500~1554)

ミゲル・ロペス・デ・レガスピ (1502~1572) ※画像なし

※ポルトガル王ジョアン3世はポルトガル王マヌエル1世の子である。彼はポルトガル王であり

ながら、バルビディア、レガスピなどのコンキスタドールを演じた。



Afonso (1509～1540) ポルトガル枢機卿

フランシスコ・バスケス・デ・コロナド (1510～1554)

※Afonsoはポルトガル王マヌエル1世の子である。彼は枢機卿でありながら、コンキスタドールのコロナドを演じた。



Duarte (1541～1576) ※画像なし

ドン・カルロス (1545～1568) スペイン王フェリペ2世の子

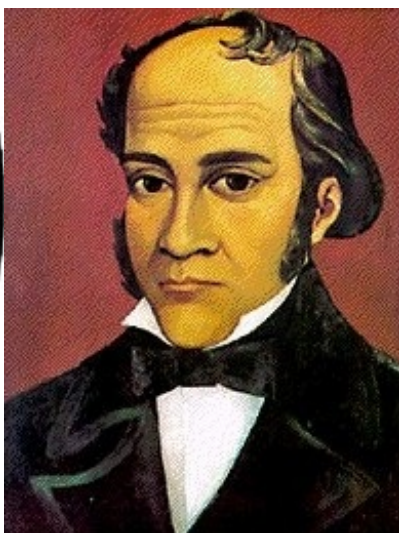
エリザベート・ド・ヴァロワ (1545～1568) フランス王アンリ2世の子

ファン・デ・サルセード (1549～1576)

※Duarteはポルトガル王マヌエル1世の孫であり、ギマランイス公ドゥアルテの子である。彼は、サルセードを演じた。この後、コンキスタドールたちはヌエバ・イスパーニャ総督としてアメリカ植民地に君臨し続ける。

一方、Duarteの影武者ドン・カルロスが異母妹エリザベートと交わり、子を成した。この時の子は父フェリペ2世の子ということにされた。カルロスの時に親鸞の一族はスペイン・ハプスブルグ家に侵入した。

マリア・アマーリア・ダズブルゴの子（ドン・カルロスの10世代目子孫）



ルドヴィーコ（1773～1803）※画像なし

フェルディナント（1769～1824） マリア・ルドヴィカ・フォン・シュパーニエンの子

フランシスコ・ノヴェラ・アザバル・ペレス（1769～1822） ヌエヴァ・イスパーニャ
総督（最後から二番目）

シモン・ロドリゲス（1769～1854） 家庭教師



ルイーザ・マリーア（1787～1789）※画像なし

カルロス・マリア・イシドロ・デ・ボルボーン（1788～1855） スペイン王カルロス4世の子

シモン・ボリバル（1783～1830） 初代コロンビア大統領、初代ボリビア大統領

アグスティン・デ・イトゥルビデ（1783～1824） メキシコ立憲皇帝

ペドロ・バリエール（?～1827） 初代エルサルバドル大統領※画像なし

マリアーノ・デ・アイシネナ・イ・ピニョール（1789～1855） 第2代グアテマラ大統領※画像なし

フアン・モーラ・フェルナンデス（1784～1854） 初代コスタリカ大統領※画像なし

ディオニシオ・デエレラ（1781～1850） 第5代ニカラグア大統領、初代ホンジュラス大統領

トマス・デ・エレラ（1804～1854） 初代パナマ大統領※画像なし

ビセンテロ・カフエルテ（1783～1847） 第2代エクアドル大統領

フルクトゥオソ・リベラ（1784～1854） 初代ウルグアイ大統領※画像なし

ミゲル・イスタニスラオ・ソレル（1783～1849） 第6代ブエノスアイレス州知事（アルゼンチン大統領）※画像なし

ホセ・ミゲル・カレーラ（1785～1821） 第6代チリ大統領

カルロス・アントニオ・ロペス（1790～1862） 初代パラグアイ大統領※画像なし

ホセ・マリア・バルガス（1786～1854） 初代ベネズエラ大統領※画像なし

ホセ・デ・ラ・リバ・アグエロ（1783～1858） 第4代ペルー大統領※画像なし

※ヌエバ・エスパーニャ総督の子シモン・ボリバルは、中南米の大統領に就任しまくり、ブラジル以外の中南米の支配者となった。実質、中南米の支配者であるが、メキシコでは皇帝を称した。全員、生没年がほぼ同じなのが中南米の大統領が同一人物だという証拠である。初代パナマ大統領エレラは没年だけが同じである。

スペイン王カルロス4世の孫



フェルナンド（1824～1861） カルロス・マリア・イシドロ・デ・ボルボーンの子

アグスティン・コスメ（1824?～?） アグスティン・デ・イトゥルビデの子※画像なし

ガブリエル・ガルシア・モレノ（1821～1875） 第7代エクアドル大統領※画像なし

ホセ・マリア・メディナ（1826～1878） 第7代ホンジュラス大統領※画像なし

フェルナンド・マリア（1832～1854） フランシスコ・デ・パウラ・デ・ボルボンの子

ポルフィリオ・ディアス（1830～1915） 第29代メキシコ大統領、独裁者 任期1876～1911

サルヴァドル・ホヴェラノス（1833～1881） 第5代パラグアイ大統領※画像なし



アルフォンソ（1862～1933） アマリア・デル・ピラール・デ・ボルボーンの子※画像なし

ベヌスティアーノ・カランサ（1859～1920） 第37代メキシコ大統領

ホセ・ミゲル・ゴメス（1858～1921） キューバ大統領

ウィリアム・タフト（1857～1930） 第27代アメリカ大統領

ピオ・ロメロ・ボスク（1860～1935） 第44代エルサルバドル大統領

マヌエル・ホセ・エストラダ・カブレーラ（1857～1923） 第12代グアテマラ大統領※画像なし

クレト・ゴンザレス・ヴィケス（1858～1937） 第22代コスタリカ大統領

カルロス・ホセ・ソロルザーノ（1860～1936） 第16代ニカラグア大統領※画像なし

ベリサリオポラス・バラホナ（1856～1942） 第3代パナマ大統領※画像なし

ファン・ビセンテ・ゴメス（1857～1935） 第38代ベネズエラ大統領※画像なし



ヨーゼフ・クレメンス（1902～1990） アルフォンス・フォン・バイエルンの子※画像なし

ミゲル・アレマン（1900～1983） 第46代メキシコ大統領

フルヘンシオ・バティスタ（1901～1973） キューバ共和国第14、17代大統領

フェリペ・モラス・ロペス（1901～1954） 第57代パラグアイ大統領

ユーゴ・バリヴィアン（1901～1993） 第50代ボリビア大統領

ラモン・エルネスト・クルス・ウクレス（1903～1985） 第28代ホンジュラス大統領
※画像なし

アルヌルフォ・アリアス（1901～1988） 第25代パナマ大統領※画像なし

ロレンツォ・グエッロ（1900～1981） 第28代ニカラグア大統領※画像なし

ラファエル＝アンヘル・カルデロン＝グアルディア（1900～1970） 第30代コスタリカ大統領

ファン・ホセ・アレヴァロ（1904～1990） 第26代グアテマラ大統領

ウスビオ・ロドルフォ・コルドン・ケア（1899～1966） 第57代エルサルバドル大統領
※画像なし

※このように、親鸞の一族は中南米の大統領の座をコレクションしていることがある。ベヌステ

ィアーノ・カランサの場合はアメリカ大統領の座も入手している。カランサの由来はクロノスである。



Don Alvaro-Jaime de Orléans-Borbón (1947) Infante Álvaroの子※画像なし

アルマンド・カルデロン・ソル (1949～2017) 第66代エルサルバドル大統領

アルバロ・ウリベ (1952) 第61代コロンビア大統領

イスマエル・サンバダ・ガルシア (1948) シナロア・カルテル

イグナシオ・コロネル・ビジャレアル (1954) シナロア・カルテル



メキシコ検察当局の発表によれば、2011年9月までのおよそ5年間に麻薬組織による犯罪や抗争に巻き込まれるなどして4万7515人が殺害されている。wikiより



Prince François (1961～2017) Henri, Count of Parisの子※画像なし

Ignacio Diego (1960) カンタブリア大統領

ホアキン・グスマン (1957) シナロア・カルテル

キース・レイニエ (1960) NXIVM創始者

※シナロア・カルテルのリーダーは、中南米の大統領などの要職に就く者の影武者として生まれている。犯罪者の本体は常に王や大統領に化けている。キース・レイニエはタナトス一族を救うため、捨て駒として極悪セックスカルト教祖を演じているが、タナトスを知った今、いまさらアニキたちを騙せるはずもない。キース・レイニエ逮捕劇がトカゲの尻尾切りでしかないことは承知だ。



Carla d'Orléans-Borbón (1967) Infante Álvaroの孫※画像なし

ヘアニネ・アニエス (1967) ボリビア大統領代行



如信（1235～1300）

度会行忠（1236～1306） 伊勢大社宮司※画像なし

エドワード1世（1239～1307） プランタジネット朝イングランド王

外交は近隣諸国との戦争に明け暮れ、ウェールズやスコットランドに侵攻して併合したり、アキテーヌを巡ってフランスと戦争するなどした。しかしスコットランド支配は激しい抵抗運動を招いて最終的には破綻し、フランスとの戦争はやがて百年戦争へと繋がっていく。エドワード1世 wikiより

※渡会（わたらい）の名の由来はアテルイである。アテルイ＝ワテルイ＝度会（わたらい）となる、そして漢字表記の由来はサドカイ派である。サドカイ＝ドカイ＝度会（どかい）となる。また、アテルイの名由来はアッティラであり、アッティラの由来はアティラである。すべての名の由来はサトゥルヌスである。

アテルイはモレを部下に東北地方を治めていたが、AD802年に坂上田村麻呂に成敗されると相棒のモレと共に日本を脱出し、太平洋を越えてメキシコに渡った。その後、一部はマヤに移住した。彼らはマヤ人と混合して「雨の神チャクモール」を祀った。チャクモールの名の由来はトラロックと同じである。アテルイの先祖「釈迦」とモレクの組み合わせである。釈迦＋モレク＝シャカモーレ＝チャクモールとなる。人身御供の種族である彼らは、雨乞いの儀式と称して優秀な者を選んで生贄としてチャクモールに捧げた。つまり、雨乞いの儀式の目的は、雨乞いではない。彼らがマヤで実施した雨乞いの儀式の目的は、殺人である。下にいる如信の影武者だったジャック・ド・モレーは、モレの子孫である。



- エドモンド (1245~1296) エドワード1世の弟
ヨハネス22世 (1244~1334) ローマ教皇 在位1316~1334
ジャック・ド・モレー (1244~1314) テンプル騎士団総長
フィリップ3世 (1245~1285) カペー朝第10代フランス王
エンリケ1世 (1244~1274) シャンパーニュ朝ナバラ王※画像なし
カルロ2世 (1248~1309) アンジュー家ナポリ王※画像なし

西欧：シチリア島民の大反乱 (1282)

西欧：ヨハネス22世、魔女狩り解禁 (1318)

西欧：トゥールーズ、魔女400人が焼かれる (1320~1350)

※上の写真を見ると、ヨハネス22世とフィリップ3世は良く似ている。この2人は同一人物である。また、ジャック・ド・モレーはイングランド王、フランス王、ローマ教皇の影武者として生まれた男だった。しかし、影武者の立場を超えて権威を主張したため、仲間に排除された。本体である如信は、日本に留まることはなかったようだ。彼は日本を離れ、故郷であるヨーロッパに活動の場を移した。若く見えたためか、年を11歳偽り、ヨハネス22世としてローマ教皇に就任し、1人でイングランド王やフランス王もかけ持ちした。非常に強い征服本能を窺うことが出来る。

また如信の影武者であったヨハネス22世は、大規模な魔女狩りを指揮した。大谷は、「敵は悪でなければならない」としている。敵が悪であれば「攻撃」は「征伐」として正当化されるのだ。「攻撃」というものは、敵が悪でなければ悪党になるが、敵が悪であれば正義の味方となるという特徴を持つ。そのためにヨーロッパ中の善人(悪の敵)は魔女でなくてはならなかった。ヨハネス22世は魔女なんかいないことを知っていた。

フィリップ3世（エドモンド）の子



ルイ（1266～1276）※画像なし

ベルナルル・ギー（1261～1331） ドミニコ会士

ギヨーム・ド・ノガレ（1260～1313） カペー朝フランス王フィリップ4世の政治顧問

※画像なし

クレメンス5世（1264～1314） ローマ教皇 在位1305～1314※画像なし

フィリップ4世（1268～1314） カペー朝第11代フランス王

※ルイは、10歳で死んだことにし、ベルナルル・ギー、ギヨーム・ド・ノガレ、クレメンス5世と錚々たる悪党を演じ分けた。ギヨームとクレメンス5世はテンプル騎士団の壊滅に関係している。

異端審問官として熱狂的に働いたベルナルル・ギーは、15年間に1000人を惨殺した。彼が殺したのは善人だけだ。つまり、彼は殺人鬼であるが、善人たちは公では魔女とされているので、第三者の目から見て、ベルナルル・ギーは悪を成敗する正義の味方であった。彼が殺人の罪に問われないのは、魔女しか殺していないからだ。ここにタナトスの知恵が働いている。

タナトスは、敵を攻撃するとき、または殺すとき、必ず汚名を着せる。敵が悪であるなら、自分は正義の味方だからだ。ベルナルル・ギーはヨハネス22世、つまり父に著書を献呈したというが、とんだ猿芝居だ。

影武者でしかないジャック・ド・モレーが、その立場を離れて権利を主張したため、本体である如信（ヨハネス22世）の子息ギヨーム・ド・ノガレ（及びクレメンス5世）、フィリップ4世によって排除された。子息たちとしては「きさまは父の影武者のくせにどういうつもりだ？」というところだろう。処刑の際にモレーは呪いの言葉を吐いたというが、フィリップ4世やクレメンス5世が急死したのは、モレーの残党が陰謀によって復讐のつもりで2人を暗殺したものだ。

アンジュー家ナポリ王カルロ2世の子



トリスタノ (1284~?) ※画像なし

ルイ10世 (1289~1316) カペー朝第12代フランス王

フェルナンド4世 (1285~1312) ヒメネス朝レオン王

エドワード2世 (1284~1327) プランタジネット朝イングランド王エドワード1世の子



ピエトロ (1291~1315) ※画像なし

フィリップ5世 (1292~1322) カペー朝第13代フランス王



ジョヴァンニ（1294～1336）※画像なし

シャルル4世（1294～1328） カペー朝第14代フランス王

※シャルル4世の時に子を儲けることが出来ずに断絶。これを以て、如信の血筋は絶えることになる。



ルイージ（1343～1344） カルロ・ディ・ドラッツォの子※画像なし

カルロ3世（1345～1386） アンジュー＝ドラッツォ家ナポリ王

ルイ1世ダンジュー（1339～1384） ヴァロワ・アンジュー家ナポリ王※画像なし



ルイ2世ダンジュー（1377～1417） ヴァロワ・アンジュー家ナポリ王

- ・ルネ・ダンジュー（1409～1480） ルイ2世ダンジューの子
- ・ジャン2世（1425～1470） ロレーヌ公
- ・ニコラ1世（1448～1473） ロレーヌ公
- ・ルネ2世（1451～1508） ロレーヌ公
- ・アントワーヌ（1489～1544） ロレーヌ公
- ・フランソワ1世（1517～1545） ロレーヌ公
- ・シャルル3世（1543～1608） ロレーヌ公
- ・アンリ2世（1563～1624） ロレーヌ公
- ・クロード・フランソワーズ・ド・ロレーヌ（1612～1648） ロレーヌ公妃



シャルル5世（1643～1690） ロレーヌ公※クロード・フランソワーズ・ド・ロレーヌの子



シャルル・フェルディナン（1683～1685） シャルル5世の子※画像なし
ホアン・アントニオ（1682～1747） ヌエヴァ・イスパーニャ第38代総督
フェリペ5世（1683～1746） ボルボン朝初代スペイン王 在位1700～1724

※ヌエバ・エスパーニャ総督に就任していたホアン・アントニオは、ロレーヌ公シャルル5世の子で早世したことにして名前を変え、潜伏していた。彼はスペインでボルボン朝を開き、初代王に即位した。

スペイン王フェリペ5世の子



カルロス3世（1716～1788） ボルボン朝第5代スペイン王 在位1759～1788
マティアス・デ・ガルベス（1717～1784） ヌエヴァ・イスパーニャ第48代総督

※カルロス3世は逆に、スペイン王に就きながらヌエバ・エスパーニャ総督に就任していた。斜視のところが似ている。同一人物だろう。スペインとヌエバ・エスパーニャの統治は如信の一族にとって命題だったのである。

スペイン王カルロス3世の子



フランシスコ・ハビエル（1757～1771）

ホアン・オドノジュ（1762～1821）ヌエヴァ・イスパーニャ第78代総督 任期1821 ※最後の総督

※ヌエバ・エスパーニャ総督は廃止され、スペイン統治一本に絞られた。

スペイン王カルロス4世の子



フェルナンド7世（1784～1833） ボルボン朝第7代スペイン王 在位1808
ラファエル・デル・リエゴ（1784～1823） スペイン将軍、自由政治家

※影武者として生まれたリエゴは本体であるフェルナンド7世に蜂起した。リエゴは善戦したものの、最終的には本体によって処刑されている。稀有だが、テンプル騎士団壊滅と同じで、本体と影武者の戦いである。

スペイン王カルロス3世の曾孫



フランツィスカ・マリア（1820）※画像なし

フランシスコ・デ・アシース・デ・ボルボーン（1822～1902）

エスタニスラオ・フィゲラス（1819～1882） スペイン第一共和政初代大統領、及び初代首相

※女子フランツィスカとして生まれたが早世したことにされて、潜伏して育った。ゲイと呼ばれ

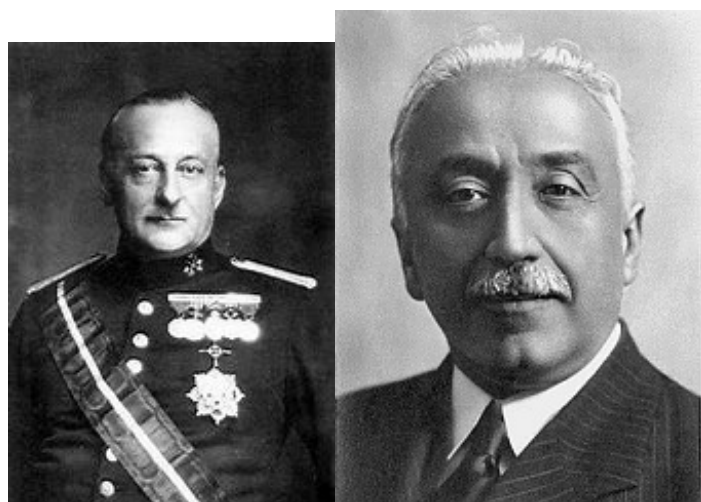
たが、優性遺伝子ブリーダーの手によって子どもたちは生まれたと考えられる。

フランシスコ・デ・アシース・デ・ボルボーンの子



アルフォンソ12世（1857～1885） ボルボン朝第二次復古初代スペイン王

ホセ・フィゲロア・アルコルタ（1860～1931） アルゼンチオン大統領 在位1906～1910



エマヌエーレ・フィリベルト・ディ・サヴォイア＝アオスタ（1869～1931）※画像無し

ミゲル・プリモ・デ・リベラ（1870～1930） スペイン独裁者 在位1923～1930

ニセート・アルカラ＝サモラ（1877～1949） 第二共和制スペイン初代首相

※ミゲルはエマヌエーレの影武者として生まれたが、独裁者としてスペインを統治した。家族である当時のスペイン王に「スペインのムッソリーニ」と批判されたが、これは猿芝居である。そ

ういう風に言っておけば家族ではないと見せかけることが可能であり、一時的だが、ミゲルの独裁に批判的な人々を黙らせることが出来る。



アメデーオ・ディ・サヴォイア＝アオスタ（1898～1942） 第3代アオスタ公
エドゥアルド・ロナルディ（1896～1956） アルゼンチン大統領



ファン（1913～1993） バルセロナ伯
カルロス・アリアス・ナバーロ（1908～1989） スペイン首相



フアン・カルロス1世（1938） ボルボン朝第三復古初代スペイン王
アドルフォ・スアレス（1932） スペイン首相



フェリペ6世（1968） ボルボン朝第三復古第2代スペイン王 在位2014～

覚如の一族～紅巾の乱、華僑、百年戦争、殺人集団タギー、琉球王国、アチェ王国、黎朝ベトナム帝国、白蓮教、シンガポール、日清食品、社会民主党、全能神



覚如（1270～1351）

シャルル・ド・ヴァロワ（1270～1325） ヴァロワ伯※画像なし

ジョン・ストラトフォード（1275～1348） カンタベリー大主教

ファナ1世（1271～1305） シャンパーニュ朝ナバラ女王※画像なし

ハイメ2世（1267～1327） バルセロナ朝アラゴン王

ヴェルナー・シュタウファッハ（生没年不詳）

スイス：原初同盟（1291）

フランス：アヴィニョン捕囚（1309）

高麗：済州の民反乱（1318）

西欧：黒死病（1347）

モルガルテンの戦いは、1315年11月15日に起こった。原初同盟の1500名の軍隊はスイスのモル

ガルテン峠近くの エーグリ湖の湖畔で神聖ローマ帝国のオーストリア公国軍兵士の一団を待ち伏せした。オーストリア軍を破ったスイス軍は ヴェルナー・シュタウファッハに率いられており、オーストリア軍はレオポルト1世公に指揮されていた。スイスの勝利は現在のスイスの中核を形成する永続的な永久盟約を固めることとなった。 w i k i より

※覚如は、自らイングランドに赴き、ジョン・ストラトフォードとして黒死病を現場で指揮した。イギリスは、黒死病の被害が極端に少なかったという点が興味深い。それは、イングランドに陰謀の首謀者がいたことを示している。黒死病は、百年戦争と同じでヨーロッパにいる善の心を持つ人々の掃討を目的としていた。大谷は、魔女狩り、黒死病、百年戦争の3点セットでヨーロッパ中の善人に挑んだ。善人が減り、ちょっと脅せば、自分の生活の保障のために悪にも容易に服従するような愚か者が増えれば統治が楽になるのだ。黒死病は、古代からタナトスが得意とした生物兵器によるテロである。黒死病のテロには2通りの手法があった。

ひとつめ。覚如は、間者にペストに犯された死者の身体の一部を井戸に投げ込むことを指示した。この時、間者たちはジプシーと連絡し、ジプシーの芸を見に集まって空っぽになった村に忍び込み、井戸に死者の身体の一部を投げ込み、井戸の水を汚染した。この方法は、自分の信者がいない、敵（善人、異教徒）だらけの村を全滅させる時に実施した。ふたつめ。覚如は、全ヨーロッパの医者をも自分の血筋の者で固め、自分の信者が多い地域ではピンポイントで敵にだけ黒死病のウソの診断を下し、毒を盛ることで確実に敵を仕留めた。黒死病がウソであるポイントは、コントロールが容易であり、加害側に危険が一切ないことである。本物のペスト患者の死体は加害側にとって危険であり、取り扱いには慎重を要する。

また当時、黒死病は不治の病とされていた。不治の病であるということは、「治らない」或いは「治さなくて良い」または「死んでも良い」もっといえば「殺しても良い」のだ。黒死病の患者は、毒殺しても黒死病で死んだことになる。一旦、黒死病と診断されれば、例え毒殺でも「これは殺人ではないか？」と怪しむ者は皆無だった。実質、黒死病の死者のほとんどはタナトスの医者によって毒殺された。それでも尚、タナトスは誰も殺していない。

また、覚如はヴァロワ伯シャルルでもあった。覚如は、フランスでの足場を固めるためにヴァロワ伯の称号を篡奪した。覚如は、庶子の異母兄弟で構成された影武者部隊を指揮し、イギリスとフランス、そして日本を往来した。

ヴァロワ伯シャルル（覚如）の子



フィリップ6世（1293～1350） ヴァロワ朝初代フランス王

※シャルル（覚如）の子であるヴァロワ朝フランス王フィリップ6世は、下に記載している、同じく覚如の子であるフランドル伯ルイ1世を援助しているが、それは異母兄弟だったからだ。



ルイ1世（1304～1346） フランドル伯
郭子興（1302～1355） 紅巾軍指揮

郭子興の長男は戦死し、次男の郭天叙、三男の郭天爵は禍を恐れた朱元璋によって、謀殺されたといわれる。娘の郭恵妃は朱元璋の側室となり、蜀献王・朱椿、代簡王・朱桂、谷王・朱橞らを産んだ。wikiより



イザベル（1313～1388） ピエール1世と結婚※画像なし

ピエール1世（1311～1356） ブルボン公

エドワード3世（1312～1377） プランタジネット朝イングランド王 在位1327～1377

劉基（1311～1375） 朱元璋の部下

徐寿輝（1310～1360） 紅巾軍指揮

アルフォンソ11世（1311～1350） ヒメネス朝レオン王※画像なし

ファナ2世（1312～1349） カペー朝ナバラ女王※画像なし

イングランド：百年戦争（1337～1453）

イングランド：ガーター騎士団創設（1348）

中国：紅巾の乱（1351～1366）

中国：胡党の獄（1383）

※ヴァロワ伯シャルルの娘であるイザベルは、じつは男子であり、敵の目を欺くために女子として育てられた。その後、成人するとイザベルはピエール1世を名乗り、イザベルと結婚したこと

にしていろいろな女性と子を儲けた。また、ピエール1世はイングランド王エドワード3世にも早代わりした。フィリップ6世とエドワード3世は異母兄弟となるため、結局、イングランド対フランスの「百年戦争」も家族経営だったということだ。

また、朱元璋を補佐した劉基は、「百年戦争」をはじめたエドワード3世でもあった。劉基は、庶子の異母兄弟を投入して影武者部隊を編み、イギリス、中国、日本に配置したのだ。これにより、各地で同時期に活躍することが可能だった。百年戦争は、王族や騎士の中にいる反乱分子（善人）を淘汰するために始められた。イギリスとフランスの敵はお互い、国内にいる善の心を持つ人々であった。イギリス軍はカンタベリー大司教が指揮し、フランス軍はクリュニー会が指揮した。

劉基は、死んだことにしてイングランドに帰還し、エドワード3世として2年の余生を過ごした。だが、劉基の子たちは劉基のフェイク死を利用して反乱分子に対する粛清をはじめた。自分たちに反逆する意志があるかないかは関係ない。反逆したら手強いと考えられた人々は全員殺害された。これは魔女狩りに似たもので、「胡党だ」と呼ばれた者は誰でも逮捕された。この粛清で刑死したものは3万人といわれている。1386年には、モンゴル討伐に勲を立てた藍玉一族らが1万5千人も殺害された。わかりやすく例えれば、大谷は「おまえを殺す」とは絶対に言わない。そういうふうにいえば加害者、或いは悪党でしかないからだ。代わりに、大谷は「おまえは子供を殺した悪いやつだから殺す」という。そうすれば正義の味方になるのだ。「百年戦争」や「胡党の獄」だけでなく、魔女狩り、生類憐みの令もみな、骨子は同じである。

エドワード3世の子



エドワード黒太子（1330～1476）

※プランタジネット朝。



ジョン・オブ・ゴント（1340～1499）

※ランカスター朝の祖。



エドモンド・オブ・ラングリー（1341～1402）

※ヨーク朝の祖。

エドワード黒太子の子（エドワード3世の孫）



リチャード2世（1367～1400） プランタジネット朝イングランド王

幼少で即位したため治世初期は貴族達の補佐を受け、成長してからは専制のため側近を重用したことが周囲の反発を招き1度挫折した。やがて反対派貴族を排除して再び専制に乗り出したことが一層の反感を買い、従弟のヘンリー・ボリングブルック（後のヘンリー4世）ら貴族層のクーデターによって王位から追放・幽閉された末に死去、プランタジネット朝は断絶した。wikiより

ジョン・オブ・ゴントの子（エドワード3世の孫） ランカスター朝



ヘンリー4世（1367～1413）



ヘンリー5世 (1387~1422)



ヘンリー6世 (1421~1471)

エドモンド・オブ・ラングリーの子 (エドワード3世の孫) ヨーク朝



リチャード・オブ・コニスバラ（1385～1415） ケンブリッジ伯※画像なし
黎利（1385～1433） 後黎朝大越国初代皇帝

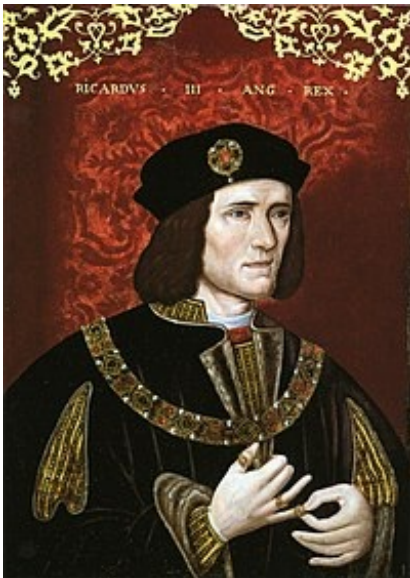


エドワード4世（1442～1483） ヨーク朝イングランド初代王
アリ・アブ1世（?～1482） グラナダ王※画像なし

薔薇戦争（1455年－1485年/1487年）の第一次内乱に勝利したことにより、ランカスター家のヘンリー6世を廃位して、ヨーク朝を開いた。ウォリック伯リチャード・ネヴィルの反乱（第二次内乱）により短期間だが王位を追われて、ヘンリー6世の復位を許すが、反撃に成功して王位を取り戻している。wikiより



エドワード5世（1470～1483） ヨーク朝イングランド第2代王
ムハンマド12世（?～1483） グラナダ王※画像なし

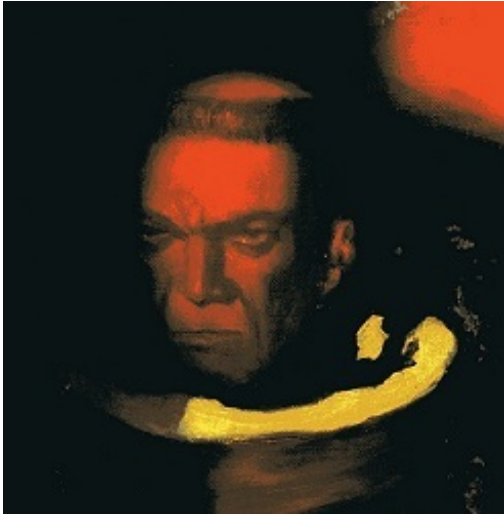


リチャード3世（1452～1485） ヨーク朝イングランド第3代王
ムハンマド13世（?～1486） グラナダ王※画像なし

1485年8月、ランカスター派のリッチモンド伯ヘンリー・テューダー（後のヘンリー7世）がフランスから侵入し、ボズワースの戦いで国王自ら軍を率いて決戦する。この戦いでリチャード3世は味方の裏切りに遭い、自ら斧を振るって奮戦したが戦死した。遺体は、当時の習慣に従って、丸裸にされ晒された。wikiより

※中世イングランド王室に巢食った本願寺門主覚如の血筋は、ここで断たれる。

ヴァロワ伯シャルル（覚如）の子



ブランシュ（1317～1348）※画像なし

カール4世（1316～1378）ルクセンブルク朝神聖ローマ皇帝※画像なし

ニコラス・エイメリコ（1316～1399）ドミニコ会士・魔女狩り

方国珍（1319～1374）反乱指揮者※画像なし

※ブランシュは男子だったが、女子として育てられた。その後、カール4世と結婚したことになるが、カール4世は男子に戻ったブランシュであり、儲けた子供はカール4世が他の女性と作った子である。カール4世は同時にエイメリコを演じ、魔女狩りに情熱を傾けた。また、カール4世（ブランシュ）は、兄のルイ1世、ピエール1世（イザベル）や弟のルイと共に中国に渡って方国珍として元の崩壊に寄与した。



ルイ（1318～1328）※画像なし

張士誠（1321～1367）張吳王

劉福通（1321～1363）紅巾軍指揮※画像なし

陳友諒（1320～1363）陳漢初代皇帝※画像なし

ジョン・ホークウッド（1320～1394） イギリス軍隊長

※ルイは10歳で死んだことにし、中国へ渡り、張士誠、劉福通として元に蜂起する。このとき、ルイは兄のカール4世（ブランシュ）、ルイ1世、ピエール1世（イザベル）と共に中国に渡って元の崩壊に寄与した。また、ルイは残虐極まりないジョン・ホークウッドにも変身した。



中国：紅巾の乱（1351～1368）





インド：殺人集団タギー（14世紀）

※一方、方国珍は55歳で死んだことにより劉基と共にイングランドに向かった。イギリスでジョン・ホークウッドを称した彼は、庶子の異母兄弟で編んだ影武者軍団や紅巾の乱の部隊をそのまま同行させ、イングランドで「白軍団」という職業軍人集団を築き、傭兵隊長に収まった。彼らは、イタリアに侵攻した際、財宝を強奪し、家畜を殺害し、若い女性を縛り、輪姦した。その後は、女性の乳房を切り落としたり、性器に剣を突き刺したりした。ホークウッドの部隊は、この時に2500人もの住民を惨殺した。また、部下2人がひとりの修道女を巡って争っていると、ホークウッドは剣で修道女を真っ二つに叩き斬り「ほら、2人で分ける」と述べた。

その後、白軍団はインドに移住した。この時に「殺人集団タギー」が生まれた。タギーの名の由来はホラズム・シャー朝の初代王テギーンである。タギーはカーリーへの供物として、信者全員に毎年1人以上の殺人を義務付けていた。タギーは富裕な商人、旅行者などを狙い、蓄えた富で組織を維持し、更に組織の安全を謀るために各地の有力者に裏金を贈ったとされる。優性遺伝子ブリーダーによってタギーは瞬く間に増えた。彼らは政治とも結びつき、勢力を伸張した。年間2000人は殺していたようだ。タギーの特徴はバンダナだが、これは紅巾賊の頃の名残ではないか？

陳友諒の弟

名前不明（生没年不明）

ハヤム・ウルク（1334～1389） マジャパヒト王国第4代王 在位1350～1389

ギリンドラワルダナー（？～1489） マジャパヒト王国第13代王 在位1478～148

プラブ・ウダラ (?～1517) マジャパヒト王国第14代王 在位1489～1517

ラデン・パター (?～1518) ドゥマク王国初代王 在位1475～1518

アリ・ムハヤット・シャー (?～1528) アチェ王国初代王 在位1496～1528

ジャマル・ウル＝アラム・バドル・ウル＝ムニール (?～1736) アチェ王国第20代王
在位1703～1726

ジェイラム・シヴジ (1800年前後に活躍した人物) 印僑の始祖、ザンジバル帝国富豪

※ジャマル王はインドネシアを離れて印僑のハシリ、ジェイラム・シヴジとしてスワヒリに登場し、大きな影響力を残した。シヴジはザンジバル・スルターン国で巨大な財力を握り、国政を左右する影響力を保持したため、ザンジバルへのインド人(タギー)の移住も進んだ。



アラウッディン・ムハマド・シャー (1760～1795) アチェ王国第28代王 在位1781～1795※画像なし

ベーラム (1765～1840) 殺人集団タギー首領

※シャーは、35歳で死んだことによりアチェ王国からインドに赴き、首領としてタギーを指揮した。しかし、彼は歴代首領の中で初めて逮捕・処刑された首領となった。



アラウディン・ムハマド・ダウド・シャー1世（1802～1838） アチェ第31代王
在位1823～38※画像なし
ポタタウ（1800～1860） 初代マオリ王

※シャー1世は36歳で死んだことにして、アチェ王国からイギリス統治下のニュージーランドに移ってポタタウとしてマオリ族の初代王となった。

陳友諒の子

陳理（?～1408） 陳漢第2代皇帝

陳祖義（?～1407） ジャワ華僑首領、海賊

尚思紹王（1354～1421） 在位1406～1421

尚巴志王（1372～1439） 琉球王国第一尚氏王統初代王 在位1429～1439

黎利（1385～1433） 前期黎朝初代ベトナム皇帝 在位1428～1433

尚永王（1559～1589） 琉球王国第二尚氏王統第6代王 在位1573～1588

黎維潭（1567～1599） 後期黎朝第4代ベトナム皇帝 在位1573～1599

林鳳（?～?） 倭寇首領

潘和五（?～?） 華僑首領

※尚永王（黎維潭）は、倭寇首領林鳳を演じていた。林は台湾入植を考えていたが、マニラ発の船舶の積荷を見て突如、フィリピン攻略を思いついた。1574年、船舶10隻、6000人の部下を連れてフィリピンに上陸し、フィリピン人に同化した。

1593年になると、尚永王（黎維潭）は潘和五を演じ、華僑の部下を総動員してスペイン人総督を殺害し、スペイン艦隊を乗っ取った。歴史上、この乗っ取られた艦はベトナムに漂着したと

いうが、実際にはベトナムに持ち帰られたということができる。

尚寧王（1564～1620） 琉球王国第二尚氏王統第7代王 在位1589～1620

黎維新（1588～1619） 後期黎朝第5代ベトナム皇帝 在位1600～1619

黄江（?～?） 華僑首領

※尚寧王（黎維新）は華僑の首領黄江を演じていた。黄江はスペイン人に対する蜂起を計画していたが、当局にバレ、2万人の華僑が虐殺されたという。だが、数年の内に1万人規模に戻ったということから2万人の虐殺はウソだったと考えられる。

尚豊王（1590～1640） 琉球王国第二尚氏王統第8代王 在位1621～1640

黎維祺（1607～1662） 後期黎朝第6代ベトナム皇帝 在位1619～1643

※尚豊王（黎維祺）は再び華僑の首領を演じ、大量の農民を操ってマニラでスペイン人に対する暴動を指揮した。このときはカトリック司祭2と役人数人を殺害した。このときも2万人の華僑が虐殺されたという。

尚貞王（1646～1709） 琉球第二尚氏王朝第11代王 在位1669～1709

黎維祐（1663～1716） 後期黎朝第11代ベトナム皇帝 在位

丁弋（?～?） 華僑首領

黎顯宗（1717～1786） 後期黎朝第28代ベトナム皇帝

王倫（?～1774） 白蓮教の乱指揮者

黎維祁（1765～1793） 後期黎朝第29代ベトナム皇帝

林清（1770～1813） 天理教の乱指揮者

王聡児（1777～1798） 一貫道指揮者

姚之富（?～1798） 一貫道指揮者

王覚一（1821～1884） 一貫道指揮者



- 路中一（1849～1925） 一貫道※画像なし
黄遵憲（1848～1905） 清国外交官
育徳帝（1852～1883） 阮朝ベトナム第5代皇帝※画像なし
協和帝（1847～1883） 阮朝ベトナム第6代皇帝※画像なし



- 維新帝（1900～1945）
張天然（1899～1947） 一貫道※画像なし
孫慧明（1895～1975） 一貫道※画像なし
周仏海（1897～1984） 一貫道※画像なし

※黎朝のベトナム人が中国で白蓮教の乱や天理教の乱を指揮していた。数々の蜂起が失敗に終わると、やがて黎朝の残党は阮朝統治下のベトナムに戻り、阮朝の王室に侵入し、挙句に篡奪した。後期阮朝の皇帝は、みな中国で一貫道の僧侶として活動していた。



コロキ・マフタ（1906～1966） 第5代マオリ王

安藤百福（1910～2007） 日清食品代表取締役社長

※安藤百福は華僑というから中国人ぽい顔を想像していたが、なかなかどうして。若い頃はポリネシア感が強い。現在の日清食品、特にインスタントラーメン、カップメンは化学毒の別称に成り果てている。遺伝子組み換え菜種油のために、食べ続けるとみぞおちに激痛が降臨する仕組みになっている。天国の安藤は泣いているだろうか？或いは笑っているだろうか？

阮朝第10代ベトナム皇帝成泰帝の子（子は50人）



アルマンド・ヴィアーレ（1919?～?）※画像なし

ウィー・チョン・ジン（1915～2005） シンガポール大統領代行（華僑）

ウィー・キム・ウィー（1915～2005） シンガポール第4代大統領（華僑）

ヨー・ギム・セン（1918～1993） シンガポール大統領代行（華僑）



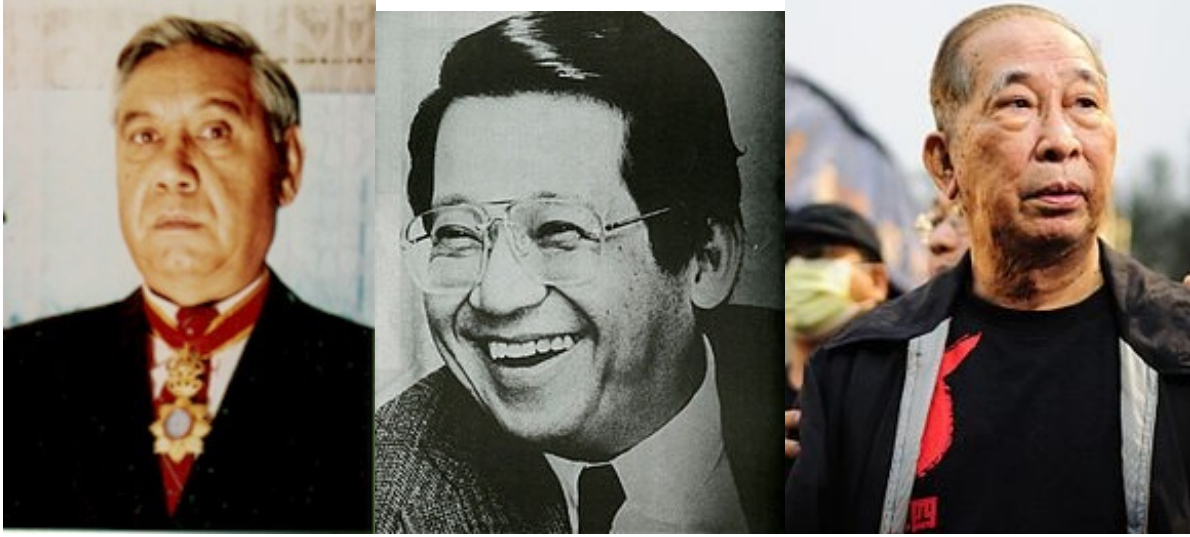
50人の子の内のひとり（生没年不詳）
リー・クアンユー（1923～2015） シンガポール元首

阮朝第11代ベトナム皇帝維新帝の子



ソランジュ（早世）※画像なし
コラソン・アキノ（1933～2009） 第11代フィリピン大統領（華僑）
土井たか子（1928～2014）

※2人共存命ではないが、似ている。前から似ていると思っていたが、それ以上踏み込むことは毛頭考えていなかった。まあ、社民党も筆者の集団ストーカーの訴えを無視したので悪の側だろうとは考えていたが、やはりそうだったか。だいたい、たかこは浄土真宗が建てた龍谷大学の卒業生なのだから。



グエン・フク・バオ・ゴク（1932）

ベニグノ・アキノJr（1932～1983）

司徒華（1931～2011） 天安門事件指導者

※アキノも悪者だった。マルコス大統領はダヴィデの一族の出身だからタナトスの侵入を阻止するために暗殺したようだ。もっとやっていいのにね。

保大帝の子（阮朝最後の皇帝）



バオ・ロン（1936～2007）※画像なし

オン・テンチョン（1936～2002） シンガポール第5代大統領（華僑）



バオ・タン（1943～2017）

ゴウ・チョクトン（1941） シンガポール上級相

トニー・タン・ケン・ヤム（1940） シンガポール第7代大統領（華僑）

神崎武法（1943） 公明党代表

朱耀明（1944） 香港反政府デモ指導者

リー・クアンユーの子



リー・シェンロン（1952） シンガポール共和国第3代首相

趙維山（1951） 全能神教祖

張永明（1955～2013） 喰人シリアルキラー（男性20人）

中国・雲南省の昆明市晋寧県で、20人の男性(12歳～80歳)が失踪している事件が発生していた。当初は5人とされていた不明者は実は17人に及んでいた。12歳の少年1人を除き、いずれも16歳以上で、最高齢は80歳であった。失踪現場はかなり人通りのある場所だった為、犯人の特定は難しかったが、実は張の家近所であった。張永明「世界の猟奇殺人者」より

※シェンロンと趙はどう見ても同一人物だ。シンガポールの首相が中国を侵略するカルトの教祖とはね。陳は顔が似ていないので影武者だろう。張永明もリー・シェンロンに顔が似ているが影武者として生まれたのではないかと考えられる。

更に、1979年にシンガポールで起きた「ゲイラン・バル兄弟殺人事件」。4人の幼い兄妹たちが犠牲になっているが、これは当時27歳だったリー・シェンロンが真犯人だと考えられる。



リー・ウェイリン（1955？） 国立脳神経科学院※画像なし

福島瑞穂（1955） 社民党

コラソン・アキノの子



ベニグノ・アキノ3世（1960） 第15代フィリピン大統領



クリス・アキノ（1971） コラソン・アキノの娘



楊向彬（1973） 全能神教祖妻

ベニグノ・アキノ3世の子



プリシラ・チャン姉妹

※プリシラ・チャンはフェイスブック創業者ザッカーバーグの伴侶だが、たくましい体つきをしており、オバマ夫人のミシェル同様に性転換男性ではないかと疑われる。この場合、かよわそうなザッカーバーグが彫られているのだろうか（性転換しているんだっけなw）。そのプリシラ・チャンの妹が、カリフォルニアで「カンニバル・クラブ（人肉クラブ）」という恐ろしい名前のレストランを経営しているという。この姉妹（？）の家系は、アキノ家だと考えられる。プリシラチャンは3世に似ているし、右側の人がコラソンに似ている。もしベニグノ・アキノ3世の子なら、優性遺伝子ブリーダーの仕事だろう。



善如（1333～1389）

明玉珍（1331～1366） 農民反乱指揮者・夏王朝初代皇帝※画像なし

恭愍王（1330～1374） 高麗王※画像なし

エンリケ2世（1334～1379） トラストマラ朝レオン王

カルロス2世（1332～1387） エヴルー朝ナバラ王

中国：紅巾の乱（1351～1368）

中国・高麗：倭寇大規模略奪（1358）

※高麗王を演じていた善如は、北九州～福建の倭寇を指揮し、ガリア人の「聖なる移住（ウエルサクレム）」の要領で、数で押す形で大陸沿岸部を侵食していた。もちろん、時の高麗王恭愍王は意図的に何の対策も講じず、苦しんでいる人々と倭寇のあらくれぶりを放置していた。そのためのものである。

高麗では1358年から倭寇による大規模な略奪が起きた。これを指揮していた、名前も知られていない倭寇の首領は、東本願寺門主善如であった。そして高麗沿岸部の被害は、高麗王恭愍王（善如）がじきじきに指揮していた。

善如は中国本土では明玉珍を名乗り、仏教信者を指揮して農民一揆を発生させていた。また、アフリカから来た劉氏の子孫、韓林児（フォン族）や覚如の子たち（方国珍、張士誠、陳友諒）と組み、紅巾の乱を指揮した。しかし、リトアニア帰りの朱元璋の登場により、大谷の中国支配は頓挫した。だが、このときに築かれた白蓮教の指揮系統は今でも生きており、法輪功で利用されている。

明玉珍の子



明昇（1356～？） 夏王朝第2代皇帝 在位1366～1371※画像なし

定宗（1357～1419） 李氏朝鮮第2代国王

足利義満（1358～1408） 室町幕府第3代征夷大將軍

マルティン1世（1356～1410） バルセロナ朝アラゴン王※画像なし

フアン1世（1358～1390） トラストマラ朝カスティーリャ王

※李氏朝鮮の篡奪は失敗したが、日本に移り、室町幕府の篡奪に成功した。足利氏はもともとマヤにいたタナトス（河伯）の子孫であり、マヤの神イシュキックに由来する。イシュキック＝イ

スキク=足利となる。マヤの神イシュチュルを由来にした五辻氏からは後醍醐天皇が排出されている。大谷の血統がマヤのタナトスの遺伝子を取り込んだ形だ。

定宗の子

高城翁主（生没年不詳）

日野重子（1411～1463）



日野富子（1440～1496）

※悪女として有名な日野富子も大谷の一族だった。その正体は李氏朝鮮の王、定宗の孫である。定宗の娘に生没年が不詳の高城翁主がいるが、彼女が日本に移り、日野重子になったと考えられる。

朱椿（1371～1423） 朱元璋の子

太宗李芳遠（1367～1422） 李氏朝鮮第3代国王

ヤドゥ・ラーヤ（1371～1423） マイソール王国初代王 在位1399～1423

※太宗李芳遠は朝鮮半島からインドに赴き、マイソール王国を築いている。オデヤ（ウォディヤール）家の名の由来は朝鮮語「オディヤ？（どこだ？）」であり、マイソールの由来は「ムイ、ソウル（ソウルじゃない）」である。



イ・ジョン（1407～1453） 太宗の子

足利義量（1407～1425） 室町幕府第5代征夷大將軍

※ダヴィデの一族の王朝である明の皇帝は、朝鮮や日本にも進出することを狙っていた。朱元璋の子朱椿は李氏朝鮮では太宗に変身し、朝鮮半島を治めた。その後、太宗の子イ・ジョンが日本に進出し、足利義量として征夷大將軍に即位した。しかし、異分子の侵入を察知した善如の一族は義量を亡き者にしようと画策し、これに気付いた義量は18歳で死んだことにしていち早く日本を脱出し、李氏朝鮮に帰還した。彼は46歳まで生きた。

足利義満の子



足利義持（1386～1428） 室町幕府第4代征夷大將軍



足利義教（1394～1441） 室町幕府第6代征夷大將軍

アルフォンソ5世（1396～1458） トラストマラ朝アラゴン王

※善如の一族は、他の本願寺の一族のように世界進出を試みてはいたが、足利義量の件以来、善如の一族は誰かに狙われていることに気付き、それどころではなかったようだ。



足利義政（1436～1490） 室町幕府第7代征夷大將軍



足利義植（1466～1523） 室町幕府第10代征夷大將軍
宗義盛（?～?） 三浦の乱指揮者

※李氏朝鮮の王室が日本の侵略を試みていることを察した善如の一族は朝鮮攻略のために釜山に倭館を築いた。義植は宗義盛に化けて「三浦の乱」を指揮し、李氏朝鮮に蜂起したが退けられた。



小田政治（1492～1548） 第11代將軍足利義澄の子
ウィリアム・ホーキンス（1490～1554） ジョン・ホーキンス父※画像なし



足利義晴（1511～1550） 室町幕府第12代征夷大將軍

王直（?～1560） 倭寇・福建海賊首領※画像なし

徽州歙県（きしゅう きゅうけん、現在の安徽省黄山市）に生まれる。任侠の徒であったと言われ、青年の時に塩商を手がけるが失敗。明が海禁政策を行うなか葉宗満らと禁制品を商う密貿易に従事した。双嶼（リャンポー、浙江省寧波の沖合い）港を本拠地に活動していた許棟、李光頭の配下として東南アジアや日本の諸港と密貿易を行い、博多商人と交易して日本人との信任を得る。1548年、密貿易を取り締まった朱紘らが双嶼を攻撃すると逃れて海賊集団を組織し、浙江省舟山諸島の烈港を本拠に徽王と称し、徐海と並ぶ倭寇の頭目となった。王直 wiki より

※明第12代皇帝嘉靖帝は工作員として日本に潜入し、足利義晴の子として足利義輝を生んだ。しかし、義輝は従兄弟である義栄に正体を知られたため、執拗なまでに狙われ続けた。1565年、義輝は三好三人衆に殺害されたことにして父の故地中国に渡り、1567年に隆慶帝に即位した。

彼はなぜそんなにすぐに明の皇帝になれたのか？それは、義輝（隆慶帝）が嘉靖帝（ダヴィデの一族）の子だったからだ。一方、そんな騒ぎをよそに、足利義晴は福建に赴き、王直に変身して倭寇を取り仕切った。



ジョン・ホーキンス（1532～1595） イギリス海賊

十河一存（1532～1561） 三好三人衆父※画像なし

有馬則頼（1533～1602）

※第11代将軍足利義澄の子孫であるジョン・ホーキンスがイギリスから日本にやってきた。彼は有馬氏を乗っ取り、数々の有名な海賊を生み出した。



足利義栄（1538～1568） 室町幕府第14代征夷大將軍

三好宗渭/三好三人衆（?～1569）※画像なし

ヘンリー・モーガン（1535～1688） バッカニア海賊

※倭寇の首領でもあった義栄は、イギリスに赴いて海賊ヘンリー・モーガンに化け、バッカニアとして知られた。彼はいどこである義輝と対立していた。なぜなら義輝は明皇帝の子であり、日本打倒のために侵入して嘉靖帝（ダヴィデの一族）が儲けた子だからだ。義栄は三好宗渭（三好三人衆）と足利義昭に化け、義栄の弟義助が三好長逸（三好三人衆）と松永久通に化け、義栄の弟義任が三好義継と岩成友通（三好三人衆）に化けて足利義輝の殺害を試みた。

しかし、義栄たちは義輝を逃したため、中国にまで追いかけて、東林党を設けて明皇帝となった義輝と対立した。明朝と東林党の対立は足利義輝と足利義栄の一族の対立だった。歴史上、義輝は足利義晴の子であり、義栄は足利義維の子であるが、義晴と義維は足利義澄の子で兄弟である。つまり、表向き、義輝と義栄の対立はいどこ同士の対立であった。更に、義栄は中国で東林党党首を演じながら日本で足利義昭として、織田信長と戦い、戦国時代を生きた。



足利義助（1541～1592） 義栄の弟※画像なし

三好長逸/三好三人衆（?～?）※画像なし

松永久通（1543～1577）※画像なし

池田勝正（1539～1578）

三好義興（1542～1563）

フランシス・ドレイク（1540頃～1596） イギリス海賊

※倭寇を統率していた義栄と義助は義輝（隆慶帝）を討つことを諦めるとイギリスに向かい、海賊として鳴らした。義助はフランシス・ドレイクとしてイギリス海軍を率い、倭寇仕込の戦術でスペイン無敵艦隊を撃破した。

足利義任（?～?）

三好義継（1549～1573）

岩成友通/三好三人衆（?～1573）

顧憲成（1550～1612） 東林党党首

※義任はイギリスには行かず、明に直行して隆慶帝、万曆帝の打倒を胸に「東林党」を結成した。自分たちに有利な世論、敵に不利な世論を形成するためである。しかし、東林党は足利義輝の一族に篡奪され、義栄の一族に属する魏忠賢によって激しく弾圧された。

隆慶帝（足利義輝）の子

朱翊鉞（1555～1559）

顧允成（1554～1607） 顧憲成弟

ジョン・ウォード（1553～1622） バルバリア海賊



朱翊鏐（1568～1614）

顧大章（1567～1625） 東林六君子

魏忠賢（1568～1627） 明朝宦官

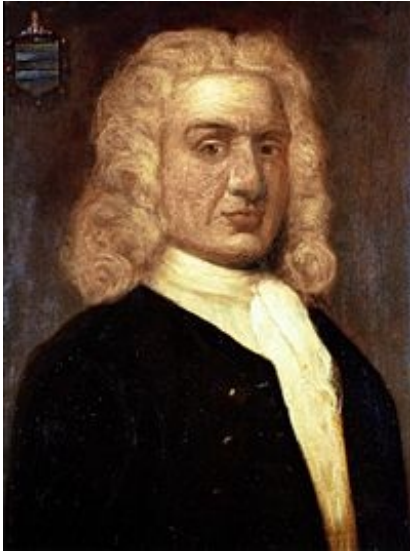
有馬則頼（ジョン・ホーキンス）の孫



有馬則故（1635～1713）

フランソワ・ロロネー（1635～1667） バッカニア海賊

有馬則頼（ジョン・ホーキンス）の玄孫



有馬頼利 (1652~1668) ※画像なし

ウィリアム・キッド (1655~1701) イギリス海賊

有馬頼利の弟



有馬頼元 (1654~1705)

ヘンリー・エイヴァリー (1659~?) イギリス海賊





有馬則維（1674～1738） 有馬則故の子

アマロ・ロドリゲス・フェリペ（1678～1747） スペイン海賊

エドワード・ティーチ（1680～1718） イギリス海賊

チャールズ・ヴェイン（1680～1720） イギリス海賊※画像なし

エドワード・イングラント（1680～1721） イギリス海賊※画像なし



有馬頼旨（1685～1706） 有馬頼元の子※画像なし

バーソロミュー・ロバーツ（1682～1722） イギリス海賊

ジョン・ラカム（1682～1720） イギリス海賊※画像なし



酒井忠音（1691～1735） 有馬頼旨妹夫（実際には有馬頼旨の異母兄弟と考えられる）
※画像なし

エドワード・ロウ（1690～1724） バッカニア海賊

サミュエル・ベラミー（1689～1717） イギリス海賊

スティード・ボネット（1688～1718） イギリス海賊※画像なし



有馬頼貴（1746～1812） 有馬頼旨の子

ジョン・ポール・ジョーンズ（1747～1792） イギリス海軍提督

有馬頼貴の子



有馬頼善（1779～1816） ※画像なし

ジャン・ラフィット（1780～1826） 最後のバッカニア海賊

有馬頼久（178?～?）

シャイフ・ムハンマド・ビン・サーニー（1788～1878） 初代カタール元首

※流浪の民と化していた善如の一族は、バッカニアという海賊の国を作ったこともあったが、カタールに落ち着いた。

Mohammed bin Jassim Al Thaniの子



ハリーファ・ビン・ハマド・アール=サーニー（1932～2016） カタール元首※画像無し

アブドゥラヒ・ユスフ（1934～2012） 第6代ソマリア大統領 任期2004～2008

ハリーファ・ビン・ハマド・アール=サーニーの子



ハマド・ビン・ハリーファ・アール=サーニー（1952） カタール元首

アダン・モハメド・ヌール・マドベ（1955） ソマリア大統領代理 任期2008～2009

タイシール・アッルーニー（1955） アルジャジーラ記者

※ハマド・ビン・ハリーファ・アール=サーニーがアルジャジーラを創設した。BBCの影響下にある。安倍首相の出身であるモロッコ王家の一族もアルジャジーラの記者として働き、世界有数のフェイクメディアのひとつに数えられる。シリア、イランに汚名を着せるために働いている。



ジャーシム（196?） ※画像無し

シェイク・シャリフ・シェイク・アフマド（1964） 第7代ソマリア大統領 任期2009～2012



シャイフ・タミーム・ビン・ハマド・アール=サーニー（1980） カタール元首



※ソマリア海賊の画像：彼らが活発に活動したのは、2005年～2010年の間で、上のソマリア大統領の任期に符合している。倭寇の時代の再来である。倭寇の時代も、倭寇をじきじきに指揮していたのは室町幕府征夷大將軍や高麗王族である。ソマリア海賊のメンバーは、カタール首長ハリーファ・ビン・ハマド・アール=サーニーと息子たちの庶子たちで構成されていると考えられる。

綽如の一族～ヴァロワ＝ブルゴーニュ公、ブルボン公、能登守、ハプスブルグ朝スペイン王国、デュポン財閥、ケベック解放戦線



綽如（1350～1393）

畠山基国（1352～1406） 能登守※画像なし

フィリップ2世（1342～1404） ブルゴーニュ公

ボニファティウス9世（1350～1404） ローマ教皇 在位1389～1404※画像なし

スペイン：カスティーリャ、ユダヤ人虐殺（1392）

スペイン：マホルカ農民一揆（1392）

※綽如は、畠山氏を生み、タナトスの故郷である能登守として能登を守護した。更に、綽如はフランスに赴き、フィリップ2世としてヴァロワ＝ブルゴーニュ家の祖となる。また、綽如はローマ教皇ボニファティウス9世としてスペインでユダヤ人虐殺などを指揮している。

畠山基国の子



畠山満家（1372～1433） 畠山持国の父※画像なし
ジャン1世（1371～1419） ブルゴーニュ公

畠山満慶（?～1432） 能登守



畠山持国（1398～1455） 畠山義就の父※画像なし
フィリップ3世（1396～1467） ブルゴーニュ公
フアン2世（1397～1479） トラストマラ朝ナバラ王
グレート・ピースメーカー（15世紀の人物） イロコイ連邦首長

※畠山満家はジャン1世であり、息子の畠山持国はフィリップ3世だった。満家と持国は日本でも親子だったが、フランスでも親子だったわけだ。

更に、フアン2世は現カナダに渡り、イドロイ連邦を掌握して「グレートピースメーカー」を名乗った。このグレートピースメーカーが名前に違い、カニバリズムをイロコイ連邦に持ち込んだと考えられる。イロコイの由来はチェロキーである。チェロキー＝エロケイ＝イロコイとなる。つまり、イロコイ族はチェロキー族の後身である。

ブルゴーニュ公ジャン1世の娘

アニェス (1407~1476) ブルボン公シャルル1世と結婚



ジャン2世 (1426~1488) ブルボン公

レオノール (1426~1479) トラストマラ朝ナバラ女王※画像なし



シャルル2世 (1434~1488) ブルボン公



ピエール2世（1438～1503） ブルボン公
ジルベール（1443～1496） モンパンシエ伯

ジルベールの子



シャルル3世（1490～1527） ブルボン公
ジャック・カルティエ（1491～1557） ニューヴェル・フランス総督

フランス・ブルターニュ地方サン・マロ出身のブルトン人探検家・北米への侵略者。セントローレンス湾とセントローレンス川岸にヨーロッパ出身者として初めて到達し、イロコイ族の言葉からその周辺の土地を「カナダ」と名付け記述したことで知られる。北米大陸へ3度の探検を行い、プリンス・エドワード島やセントローレンス河口に到達、現在のケベックに上陸し、後のフランスによるカナダ領有の基礎を築いた。wikiより

※ジャック・カルティエの正体はブルボン公シャルル3世であった。この時に現ケベック州の前身が作られた。

歴代能登守

畠山義忠（?～1463） 能登守



シャルル（1476～1498） クレルモン伯 ピエール2世の子※画像なし
ルイーズ・ド・サヴォワ（1476～1531） ブルボン女公
畠山義統（?～1497） 能登守※画像なし

※クレルモン伯だったシャルルは、身の安全を考えてルイーズ・ド・サヴォワを演じ、ブルボン女公としてコニャック同盟戦争を終結させている。シャルルは、義統として能登守も務めたが、1497年に死んだことにし、その後はルイーズ・ド・サヴォワ一本で生きた。ルイーズには子どもがいるが、シャルルがどこかの女に産ませた子だろう。

ルイーズ・ド・サヴォワの子



フランソワ1世（1494～1547） ヴァロワ朝第9代フランス王



アンリ2世 (1519~1559) ヴァロワ朝第10代フランス王
アントニオ (1518~1562) ブルボン朝ナバラ王



フランソワ2世 (1544~1560) ヴァロワ朝第11代フランス王



シャルル9世（1550～1574） ヴァロワ朝第12代フランス王



シャルル・ダングレーム（1522～1545） ブルボン公

フェリペ2世（1527～1598） ハプスブルグ朝スペイン王 在位1556～1598

畠山義総（1491～1545） 能登守※画像なし

※シャルルは能登は影武者に一任し、同時にフェリペ2世としてハプスブルグ家に侵入し、スペイン王の座に就いた。

ヴァロワ朝第10代フランス王アンリ2世の子



アンリ3世（1551～1589） ブルボン公・ヴァロワ朝第13代フランス王・ポーランド最初の選挙王

畠山義隆（1556～1576） 能登守※画像なし

ハプスブルグ朝スペイン王フェリペ2世の子



フェリペ3世（1578～1621） ハプスブルグ朝スペイン王

サミュエル・デ・シャンプラン（1574～1635） ニューヴェル・フランス初代総督※画像なし

ハプスブルグ朝スペイン王フェリペ3世の子

マリア（1603）

シャルル・ド・モンマーニュ（1599～1654） ニューヴェル・フランス第2代総督

アルフォンソ（1611）

ルイ・デ・アユブース・ド・クーロンニュ（1612～1660） ニューヴェル・フランス第3代総督

ハプスブルグ朝スペイン王フェリペ4世の子

マリア・エウヘニア（1625～1627）

ダニエル・ド・レミー・ド・クールセイユ（1626～1698） ニューヴェル・フランス第8代総督

大岡忠高（1633～1701） 大岡忠相父



マリア・テレサ（1638～1683） フランス王ルイ14世王妃

フランス王妃マリー・テレーズ・ドートリッシュの子

フィリップ・シャルル（1668～1671）

ル・マルキ・ド・ボーハルモア（1671～1749） ニューヴェル・フランス第14代総督
大岡忠相（1677～1752） 能登守

※倅如の一族であるニューヴェルフランス総督たちは、14代総督の時に大岡忠相として故郷である能登に戻った。

ブルゴーニュ公ルイ（1682～1712）の子

ルイ（1704～1705） ブルターニュ公

ル・マルキ・ド・ヴォードレイユ・カヴァニャル（1696～1778） ニューヴェル・フランス第18代総督

大岡忠宜（1709～1766） 大岡忠宜子

※ニューヴェル・フランス第18代総督の後に悪名高い西本願寺門主良如の一族ジェフリー・アムハーストが来る。その後、ニューヴェル・フランス総督の座は永らく奪われたままになる。どっちにしてもケベック州が独立を主張できるのはタナトスの一族だからだ。



テレーズ（1736～1744） フランス王ルイ15世の子※画像なし

ピエール=サミュエル・デュ・ポン・ド・ヌムール（1739～1817） デュポン家祖

※ユダヤ人（1731）の一族の血を継ぐ三男エリュテール・イレネーが化学企業デュポンを創業する。

ピエール=サミュエル・デュ・ポン・ド・ヌムールの玄孫



R. R. M. Carpenter Jr. (1915~1990) ※画像なし

ジュール・レジエ (1913~1980) カナダ第64代総督

ノルマン・ロワ (1914~1996) ケベック解放戦線メンバー

※民族テロ組織ケベック解放戦線は、綽如の一族（ヴァロワ朝フランス、ブルボン公）の末裔と考えられる。

Lammot du Pont IIの子



Reynolds du Pont (192?~?) ※画像なし

ジャンヌ・サウーヴ (1922~1993) カナダ第66代総督※画像なし

ピエール・ラポルト (1921~1970) ケベック解放戦線メンバー

ジョン・ターナー (1929) 第23代カナダ首相



David Flett du Pont (1934～1955) ※画像なし

Pete du Pont (1935)

ロメオ・ルブラン (1928～2009) カナダ第68代総督

ロベール・コモ (193?～?) ケベック解放戦線メンバー

ミシェル・ランベール (193?～?) ケベック解放戦線メンバー※画像なし

ジョー・クラーク (1939) 第21代カナダ首相

ジョルジュ・シューテルス (1930～1994) ケベック解放戦線メンバー

ジャン・クレティエン (1934) 第26代カナダ首相

※上の3人は顔がよく似ている。クレティエンはどちらかという、同一人物かと思うくらいに下記のデイヴィッド・ロイド・ジョンストンに良く似ている。

William du Pont Jr.の子



John du Pont (1938～2010)

デイヴィッド・ロイド・ジョンストン (1941) カナダ第71代総督

ピエール・ヴァリエール (1938～1998) ケベック解放戦線メンバー※画像なし

ブライアン・マルルーニー (1939) 第24代カナダ首相



Evelyn du Pont (194?)

キム・キャンベル (1947) 第25代カナダ首相



William du Pont III (1949?) ※画像なし

本吉達也 (1952) 羽咋市市長

高野誠鮮 (1955) 日蓮宗僧侶

Pete du Pontの子



Ben duPont (1964)

ジュリー・ペイエット (1963) カナダ第72代総督

巧如の一族～ジル・ド・レ、ヴァロワ朝フランス、マルタ騎士団、マラーター族、アフガニスタン王国、オマーン王国、ザンジバル帝国、ソコト帝国、マルタ共和国



巧如（1376～1440）

マルティヌス5世（1368～1431） ローマ教皇 在位1417～1431※画像なし

シャルル6世（1368～1422） ヴァロワ朝第4代フランス王

ジョルジュ・ド・ラ・トレモイユ（1382～1446） フランス王室侍従長※画像なし

ドイツ：ヤン・フス処刑（1415）

日本：近江馬借一揆（1426）

※巧如は、日本は影武者に任せ、自分は百年戦争の現場でフランス軍を指揮していた。巧如はマルティヌス5世を名乗り、工作員としてヨーロッパに暗躍した。彼はまず、敵であるヤン・フスを異端と呼んで処刑している。その後、フス派が登場してフス戦争に発展するが、これは手下に一任し、自分は百年戦争の現場に戻った。巧如はフランス王シャルル6世と同時にシャルル7世を助けた宰相ジョルジュ・ド・ラ・トレモイユを名乗り、フランス軍を指揮した。

シャルル6世（巧如）の子



シャルル7世（1403～1461） ヴァロワ朝第5代フランス王
ジル・ド・レ（1405～1440）

フランス：聖少女ジャンヌ・ダルク出現（1429）

※シャルル6世（巧如）の子であるシャルル7世はフランス王でありながら、一方でジル・ド・レを名乗った。ジル・ド・レは両親さえ不明な謎の人物であったが、財産はヨーロッパでも1、2を争う規模を誇っていた。それらは大谷がドルイド教の時代から集めていた財産の一部なのだろう。ジル・ド・レ（シャルル7世）は、妹であるジャンヌ・ド・フランスの9歳で死んだ娘マルグリットを参考にし、聖少女ジャンヌ・ダルクを生み出した。マルグリットの生年月日はジャンヌ・ダルクと同じだが、ジャンヌは17歳の時に登場したが、マルグリットも生きていたらちょうど17歳である。

ジル・ド・レは、神に保護された少女という触れ込みで、尻込みするフランス軍の戦意を高揚させるという陰謀を駆使した。このジル・ド・レの陰謀をまやかしの妖術と呼んだジョン・オブ・ランカスターは、だが、存在しないジャンヌ・ダルクを処刑するという手段に出た。

存在しないジャンヌを処刑するにはどうしたらよいだろうか？答えは簡単だ。権威、この場合はイギリス政府が「ジャンヌを処刑した」とウソをつけば事足りる。そして、そのウソを大勢の人間が信じれば、存在しないはずのジャンヌは処刑されたことになるのだ。

ジル・ド・レは、敵にもキレ者がいることを喜んだ。だが、ジョン・オブ・ランカスターが放った間者の偵察によって、ジル・ド・レが少年を拉致して拷問の挙句惨殺する趣味に興じていたことを暴露されると、逮捕され、過酷な拷問によって変態殺人鬼であることを認めた。これが青髭の物語の原型である。

だが、アルバート・フィッシュやテッド・バンディの例があるように、残虐な拷問の果てに処刑されて死んだのは身代わりの者である。真のジル・ド・レことシャルル7世は、その後もフランス王として58歳まで生きた。

シャルル6世（巧如）の子



ジャンヌ・ド・フランス（1391～1433） ブルターニュ公ジャン5世と結婚



マルグリット（1412～1421） ジャンヌ・ド・フランスの娘
ジャンヌ・ダルク（1412～1431）

シャルル7世の子



ルイ 11 世 (1423~1483) ヴァロワ朝第6代フランス王



シャルル8世 (1470~1498) ヴァロワ朝第7代フランス王
フランシスコ1世 (1469~1483) フォワ朝ナバラ王

シャルル6世 (巧如) の弟ルイ・ド・ヴァロワの子



ルイ12世（1462～1515） ヴァロワ朝第8代フランス王

フィリップ・ヴィリエ・ド・リラダン（1464～1534） 聖ヨハネ騎士団総長※画像なし

ロドス島における騎士団最後の総長で、オスマン帝国との間でのロドス包囲戦を指揮し、その敗北後も騎士団を率いてマルタ島への移転を行った。 wikiより



シャルル=オルラン・ド・フランス（1492～1495） シャルル8世の子※画像なし

ジャン・ド・ヴァレット（1494～1568） 聖ヨハネ騎士団総長

1565年にオスマン帝国がマルタ騎士団（聖ヨハネ騎士団）が治める地中海のマルタ島へ行った包囲戦である。最終的にマルタ騎士団が包囲軍の撃退に成功した。 wikiより

※マルタ包囲戦を機に、マルタ騎士団はインドに移り、「マラーター族」として異国の地で新たに出直している。マラーターの名の由来はマルタである。マルタ=マルター=マラーターとなる。



ラージャーラーム（1670～1700） 第3代マラーター王

ミールワイス・ホータキ（1673～1715） ホータキー朝初代首長

※琢如の一族がマラーター王国の王位を篡奪すると、巧如の一族はコールハープル藩王国を築いた。さらに、アフガニスタンにホータキ朝を開いた。

ティムール・シャー・ドゥッラーニー（?～1793） サドーザイ朝第2代シャー 在位1773～1793

Hamad bin Said（?～1792） オマーン初代スルターン 在位1783～1792

シヴァージー3世（1756～1813） 第3代コールハープル藩王

ウスマン・ダン・フォディオ（1754～1817） ソコト帝国初代皇帝

※ティムールはアラビア半島に拠点を移し、オマーンの初代スルターンに就任している。さらに南下して西アフリカに進出し、ウスマン・ダン・フォディオを称してソコト帝国を築いた。ソコトの由来はソグド、ソグディアナと考えられる。つまり彼らがアフガニスタンから来たことを示している。



Said bin Sultan（1791～1856） オマーン第4代スルターン 在位1806～1856

ドースト・ムハンマド・ハーン（1793～1863） バーラクザイ朝初代アミール 在位1826～1863

サンバーージー3世（1801～1821） 第4代コールハープル藩王※画像なし

シャハーージー（1802～1838） 第6代コールハープル藩王※画像なし

アブドゥサラミ・ダン・サリー・アリミ（?～?） イロリン首長国初代首長 在位1824～1842※画像なし

オルエウ（?～?） オヨ帝国皇帝 在位1833～1835※画像なし

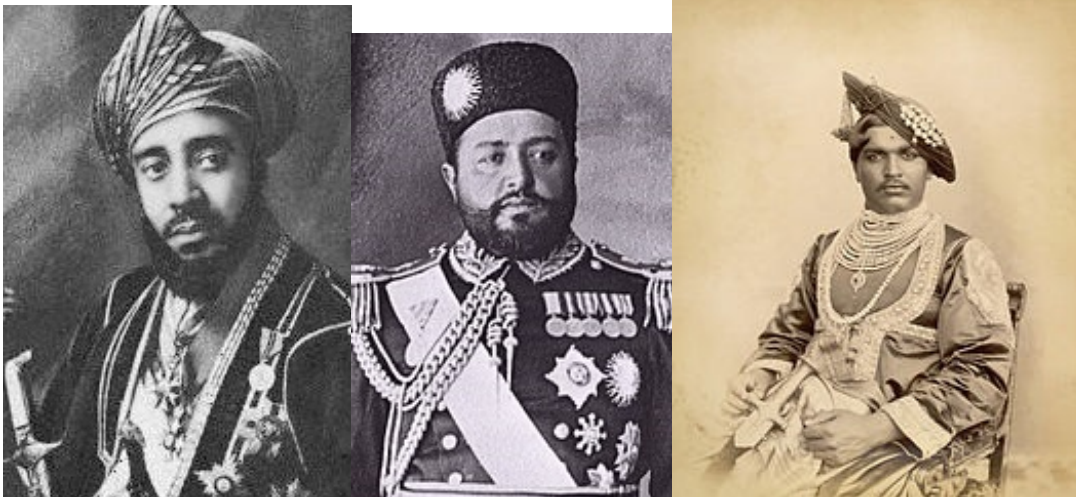
※ドーストの時代、彼は西アフリカの侵略を試み、イロリン首長国、オヨ帝国を築いている。



Thuwaini bin Said (1821~1866) オマーン第5代スルターン 在位1856~1866 ※画像なし

シール・アリー・ハーン (1825~1879) バーラクザイ朝第2代アミール 在位1863~1878

シヴァージー4世 (1816~1822) 第5代コールハープル藩王 ※画像なし



Faisal bin Turki (1864~1913) オマーン第9代スルターン 在位1888~1913 ※画像なし

Khalifa bin Harub (1879~1960) ザンジバル第9代スルターン 在位1911~1960

ハビーブッラー・ハーン (1872~1919) バーラクザイ朝第11代アミール 在位1901~1919

シャーフー (1874~1922) 第10代コールハープル藩王

フランシスコ・ブアージャール (1876~1934) 第2代マルタ首相 ※画像なし

オマーン王国スルターンFaisal bin Turkiの子



Taimur bin Feisal (1886~1965) オマーン第10代スルターン 在位1913~1932

Ali bin Hamud (1884~1918) ザンジバル第8代スルターン 在位1902~1911

ムハンマド・ナーディル・シャー (1883~1933) アフガニスタン第3代国王

アウグスト・バルトロ (1883~1937) マルタ首相代行※画像なし

アブドゥルカディール・ダン・バワ (?~?) イロリン首長国第8代首長 在位1920~1959

アフガニスタン王ハビーブッラー・ハーンの子



イナーヤトゥッラー・シャー（1888～1946） アフガニスタン第2代国王

ハビーブッラー・カラカーニー（1891～1929） アミール

ウゴ・ミフスッド（1889～1942） 第3代マルタ首相※画像なし

アフガニスタン王ムハンマド・ナーディル・シャーの子





Said bin Taimur (1910~1972) オマーン第12代スルターン 在位1932~1970

Abdullah bin Khalifa (1910~1963) ザンジバル第10代スルターン 在位1960~1963※画像なし

ザーヒル・シャー (1914~2007) アフガニスタン第4代国王

シャハーギー2世 (1910~1983) 第13代コールハープル藩王

ムハンマド・ダーウード (1909~1978) アフガニスタン共和国初代大統領

ベンジャミン・ヘンリー・シアーズ (1907~1981) シンガポール第2代大統領 (印僑)

アンソニー・マモ (1909~2008) 初代マルタ大統領

ユソフ・ビン・イサーク (1910~1970) シンガポール初代大統領 (印僑)

アントン・ブティギーグ (1912~1983) 第2代マルタ大統領

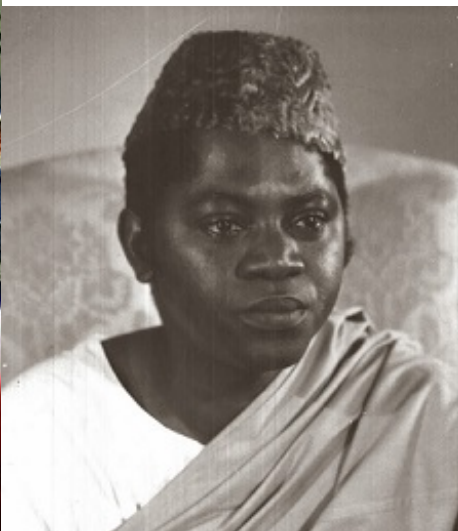
※当時のオマーンスルターンは、ザンジバル、アフガニスタン、コールハープル藩王国、シンガポール、マルタを支配していた。彼の一族は、マルタ大統領に代々就任した。

アフガニスタン王ザーヒル・シャーの子



ムハンマド・アクバル・ハーン（1933～1942）※画像なし
J・Y・ピレー（1934） シンガポール大統領代行（印僑）
ジョン・マレケラ（1934） 第6代タンザニア首相

ザンジバル帝国スルターンAbdullah bin Khalifaの子



Jamshid bin Abdullah (1929) ザンジバル第11代スルターン 在位1963~1964

※画像なし

イブラヒム・ダスキ (1923~2016) ソコト帝国第17代皇帝※画像なし

C・V・デヴァン・ナイール (1923~2005) シンガポール第3代大統領 (印僑)

ジュリウス・ニエレレ (1922~1999) タンザニア初代大統領

アマン・アンドム (1924~1974) 初代エチオピア臨時軍事評議会議長

ムハンマド・マッシュード (1926~2006) ソコト帝国第18代皇帝※画像なし

S・R・ナザン (1924~2018) シンガポール第6代大統領 (印僑)

ラシディ・カワワ (1924~2009) 初代タンザニア首相

※ザンジバル革命が起きると、ザンジバル帝国のスルターンは素早くタンザニアの初代大統領と初代首相の座に就いた。さらにソコト王位を継承し、新規にエチオピアにも進出した。

ザンジバル帝国スルターンJamshid bin Abdullahの子



Ali bin Jamshid Al Said (1956) ※画像無し

サアド・アブバカル (1956) ソコト帝国第19代皇帝

コンラッド・マレー (1953) マイケル・ジャクソン専属医師

※コンラッド・マレーは、世界的スーパースター、マイケル・ジャクソンの暗殺に関与していると考えられる。マイケルは同じ黒人だから信用できると考えていたかもしれないが、実際には黒人にもタナトスは大勢いる。マレーは、ソコト帝国の皇帝サアドの影武者、或いは本人と考えられる。

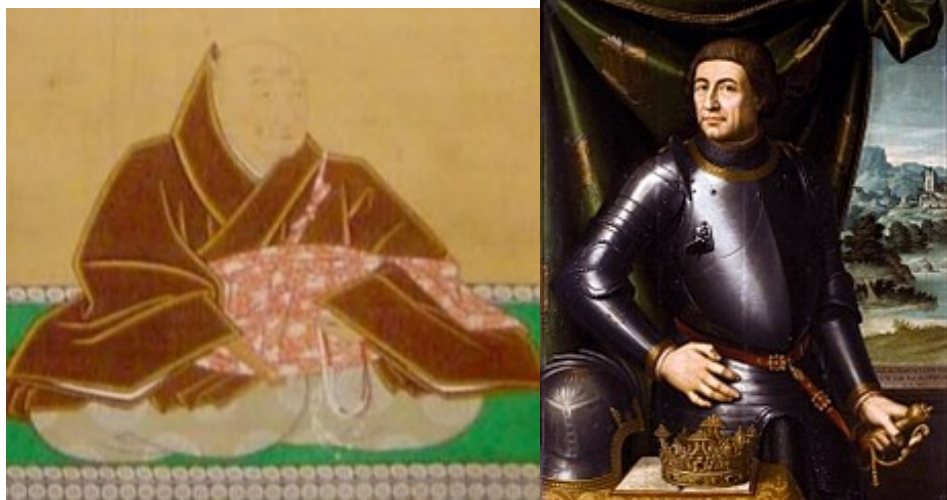


Sayyid Gharib bin Jamshid Al Said (1975) ※画像無し

ラシнда・トライブ (1976) 民主党

※ラシндаは頑丈そうに見えることから民主党で今流行の性転換者だと考えられる。

存如の一族～応仁の乱、アラゴン王国、アヴィス朝・ブラガンサ朝ポルトガル王国、ポルトガル共和国、アルバニア共和国、マザー・テレサ、神の愛の宣教者会



存如（1396～1457）

経覚（1395～1473）※画像なし

アルフォンソ5世（1396～1458） トラストマラ朝アラゴン王

朝倉家景（1402～1451） 6代当主※画像なし

日本：嘉吉の変（1441）

日本：山城西岡の徳政一揆（1447）

朝鮮：李澄玉の乱（1453）

日本：奈良の徳政一揆（1454）

朝鮮：癸酉靖難（1455）

日本：応仁の乱（1467）

※存如は、山名宗全を敵視していた。山名宗全が強く、賢く、善人だったからだ。そのため、彼を倒すためだけに「応仁の乱」を製作した。大内政弘以外は、細川勝元率いる東軍だけでなく、仲間であるはずの西軍（蓮如の子畠山義就）もじつは山名宗全を狙う敵だった。存如は経覚であり、経覚は足利義政であった。彼は、功如の子でありながら足利義政として生誕し、経覚として生きながら同時に存如を名乗っていたようだ。不利な時に、いずれかの顔を選んで生きていた。当時だからこそ可能なことであるが、じつは、細川勝元の正体も蓮如の子、尋尊であった。結局「応仁の乱」も、大谷の家族経営であった。存如は、自身の子であり、天下の極悪人と呼ばれた朝倉孝景を徴用したし、宗全の息子といわれる是豊も蓮如の子であるため、当然のように宗全に反旗を翻した。新しい幕府の将軍となるべき男、山名宗全は敵に囲まれていた。存如の目的は足利政権、及び、室町幕府の存続であった。

存如の子



朝倉孝景（1428～1481） 応仁の乱 7代当主

トマス・トルケマダ（1420～1498） ドミニコ会士

※トルケマダは、日本語「獲るか、まだ？」に由来するのだろうか？彼は、スペイン全土を支配する「全スペイン異端審問本部」の初代長官に就任している。トルケマダの、異端者に対する大規模な迫害は、マドリードをナチスのアウシュヴィッツたらしめた。1960年頃、マドリードで道路改修工事のために業者が地面を掘り起こした際、深い地層が広い範囲に渡って人骨と毛髪によって埋め尽くされ、堆積していた。「これは、トルケマダに処刑された異端者の遺骸ではないか」と、当時の新聞に報じられた。

朝倉孝景（存如）の子



朝倉氏景（1449～1486） 8代当主※画像なし

フェルナンド2世（1452～1516） トラスタマラ朝アラゴン王

朝倉貞景（1473～1512） 9代当主

アフォンソ（1475～1491） ポルトガル王子・ジョアン2世の子

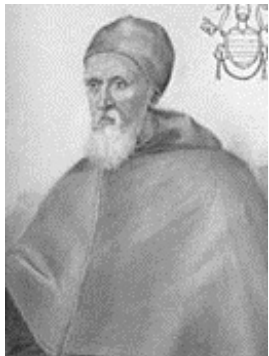
朝倉孝景（1493～1548） 10代当主



朝倉時景（生没年不詳） 氏景の子※画像なし

パウルス3世（1468～1549） ローマ教皇 在位1534～1549

マヌエル1世（1469～1521） アヴィス朝ポルトガル王



朝倉景儀（生没年不詳） 氏景の子※画像なし

パウルス4世（1476～1559） ローマ教皇 在位1555～1559



朝倉景群（生没年不詳） 貞景の子※画像なし

ジョアン3世（1502～1557） アヴィス朝ポルトガル王



朝倉道教（生没年不詳） 貞景の子※画像なし

エンリケ1世（1512～1580） アヴィス朝ポルトガル王

朝倉義景（1533～1573） 11代当主



セバスティアン1世（1554～1578） アヴィス朝ポルトガル王・ジョアン3世の孫

マヌエル1世の曾孫（ブラガンサ朝ポルトガル王）



マヌエル・デ・ポルトゥガル（1568～1638） アヴィス朝ポルトガル王マヌエル1世の曾孫



ローデウエイク・ウィレム・クリストフェル（1604～1660） マヌエル・デ・ポルトゥガルの子※画像なし

ジョアン4世（1604～1656） ブラガンサ朝初代ポルトガル王



フェルナンド2世（1816～1885） ブラガンサ朝ポルトガル王 在位1837～1853



ルイス1世（1838～1889） ブラガンサ朝ポルトガル王 在位1861～1889
マヌエル・デ・アリアガ（1840～1917） ポルトガル初代大統領
テオフィロ・ブラガ（1843～1924） ポルトガル第2代大統領

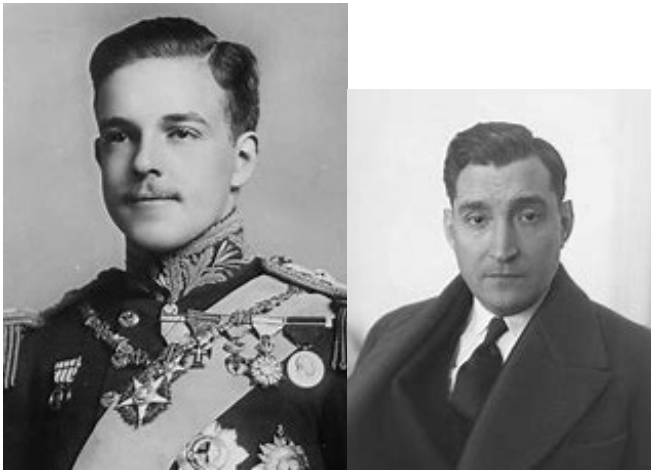


カルロス1世（1863～1908） ブラガンサ朝ポルトガル王 在位1889～1908
ジョアン・ド・カント・エ・カストロ（1862～1934） ポルトガル第8代大統領
マヌエル・ゴメス・ダ・コスタ（1863～1929） ポルトガル第14代大統領※画像無し



ルイス・フィリペ（1887～1908） ブラガンサ公

ジョゼ・メンデス・カベサダス（1883～1965） ポルトガル第12代大統領



マヌエル2世（1889～1932） ブラガンサ朝ポルトガル王

アントニオ・サラザール（1889～1970） ポルトガル第18代大統領

※ブラガンサ朝は1640年から1910年まで続いたが、マヌエル2世を最後に本願寺門主存如の血筋は公的には尽きる。だが、実際には優性遺伝子ブリーダーによって多くの庶子を残していると考えられる。また、マヌエル2世は自身がアントニオ・サラザールとしてポルトガル首相や大統領に就任した。

マリア・ヨーゼファ・フォン・ザクセンの子



カール1世（1887～1922） オーストリア皇帝

オマール・ニシャーニ（1887～1954） アルバニア社会主義人民共和国第初代人民議会
幹部会議長※画像無し

マリア・アナ・デ・ブラガンサとゲオルクの子（ブラガンサ朝ポルトガル王フェルナンド2世
の孫）



マリー・ヨハンナ（1860～1861）※画像無し

ゾグー1世（1860～1911） アルバニア共和国初代大統領

※ゾグー1世は、敵の目を欺くために女子として生まれたが、マリー・ヨハンナは早世したこと
にしてゾグー1世として育ち、アルバニア共和国の初代大統領となった。その後、ゾグー1世の
本体は、フランシスコ・フランコ将軍（シャルル・ド・ゴール）の影武者に乗っ取られている。



アルブレヒト（1875～1900）※画像無し

Nikollë Bojaxhiu（1874～1919） マザー・テレサ父



アンナ・フォン・ザクセン（1903～1976） フリードリヒ・アウグスト3世の子

マザー・テレサ（1910～1997） 神の愛の宣教者会1代目総長

※マザー・テレサの正体はザクセン王ゲオルクの子アンナ・フォン・ザクセンだったようだ。一方は若き日の写真であり、一方は老年期の写真だが、年月を超えて鼻と口がそっくりである。マザー・テレサは志し高く、貧しい人々を救おうとしてインドの極貧地帯を訪れたものの、誰にも相手にされず、路頭に迷っているところを逆に明日をも知れぬ極貧に喘ぐ女性に救われたという。その時に胸を打たれた彼女は「人を救おうという考えは奢りだったことに気付いた」と、述べたことがある。

その言葉を聞き、筆者は永らくマザー・テレサをホンモノと信じてきたが、生没年がこうしてタナトスの王家と符合すると疑念が生じてしまう。しかも、神の愛の宣教者会の2代目総長、3代目総長の生没年はマザー・テレサの本体であるアンナの娘たちの生没年に符合している。

彼女が本拠地としたゴアも、アヴィス朝～ブラガンサ朝ポルトガル王国時代の植民地である。さらに陰謀論では、今年（2019年）辺りから、マザー・テレサは乳児の人身売買に手を染めていたという話を聞いた。どう考えても善にしか見えないマザー・テレサだが、その、どう考えても善にしか見えない佇まいは、悪事を行うのには絶好の隠れ蓑である。

アンナ・フォン・ザクセンの子



ヨーゼフ・アールパード（1933～2017）

アルフレッド・モイシウ（1929） 第4代アルバニア大統領



イシュトヴァーン（1934～2011）※画像無し

アントニオ・エアネス（1935） ポルトガル第24代大統領

イタマール・フランコ（1930～2011） 第33代ブラジル大統領



マリア・キング（1938）※画像無し

シスター・ニルマラ・ジョシー（1934～2015） 神の愛の宣教者会2代目総長

※実質的にマザー・テレサ（アンナ・フォン・ザクセン）の子である。



ゲーザ（1940）※画像無し

ジョルジェ・サンパイオ（1939） ポルトガル第26代大統領

※最近のポルトガルでは、東本願寺門主大谷光暢の一族、西本願寺門主大谷光尊の一族、キッシンジャーの一族などが大統領を務めている。しかし、タナトスは家族を贖済するため、サンパイオは現在でも国連事務総長結核撲滅担当特使、「文明間の同盟」国連高等代表などの国際的な要職を務めている。



ミハエル（1942）※画像無し

サリ・ベリシャ（1944） 第4代アルバニア大統領

マルセロ・レベロ・デ・ソウザ（1948） 第20代ポルトガル大統領



Archduchess Milona（1958） ヨーゼフ・アールパードの子（アンナ・フォン・ザクセンの孫）※画像無し

シスター・メアリー・プレマ（1953） 神の愛の宣教者会3代目総長

※実質的にマザー・テレサ（アンナ・フォン・ザクセン）の孫である。

マリア・ヨーゼファ・フォン・ザクセンの孫



オットー・フォン・ハプスブルク（1912～2011） カール1世の子

エンヴェル・ホッジャ（1908～1985） アルバニア人民共和国首相

※マザー・テレサは、エンヴェル・ホッジャ政権を支持していたとして批判されることがあるが、彼女が独裁者ホッジャを支持したのは家族だからというに他ならない。



ローベルト（1915～1996） カール1世の子

ハジ・レシ（1913～1998） アルバニア社会主義人民共和国第2代人民議会幹部会議長

※画像無し



ハインリヒ（1925～2014） マクシミリアン・オイゲンの子※画像無し

ラミズ・アリア（1925～2011） アルバニア共和国初代大統領※画像無し

マリオ・ソアレス（1924～2017） ポルトガル第17代大統領

ロバート・マクスウェル（1923～1991） アメリカのメディア王

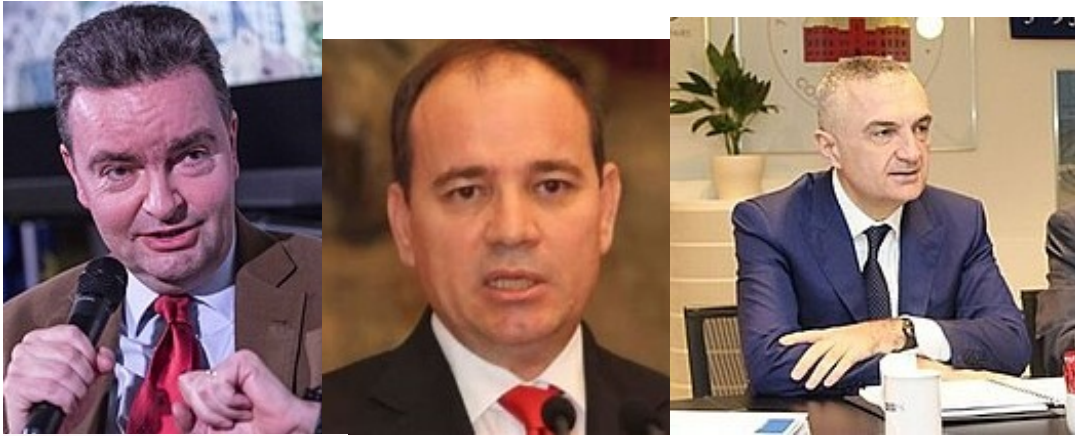
※マクスウェルは、ルパート・マードックと肩を並べるほどのメディア帝国を築いたという。

otto von Habsburgの子（ザクセン王カール1世の孫）



カール・ハプスブルク＝ロートリングン（1961）

アントニオ・コスタ（1961） 第119代ポルトガル首相



ゲオルク・ハプスブルク＝ロートリングン（1964）

ブヤル・ニシャニ（1966） 第6代アルバニア大統領

イリール・メタ（1969） 第7代アルバニア大統領

ペドロ・パッソス・コエーリョ（1964） 第120代ポルトガル首相

※イリール・メタ大統領は、どう考えてもゲオルク本人だと考えられる。似すぎている。



蓮如（1415～1499）

シクストゥス4世（1414～1484） ローマ教皇 在位1471～1484

山名是豊（生没年不詳） 応仁の乱※山名宗全の子ではない

日本：応仁の乱（1467～77）

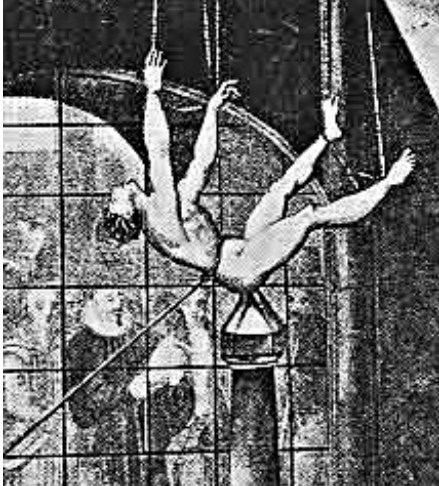
日本：加賀一向一揆（1473）

日本：一向一揆、富樫氏滅亡（1488）

日本：京都大和一揆（1490）

※当初、蓮如は出来るだけ早く滅ぼすべき敵として山名宗全をマークしていた。そして宗全を滅ぼす陰謀の一環として、自らが息子として山名是豊を演じた。また、一向一揆を駆使して武士を苦しめた蓮如は、応仁の乱の後にスイスに赴き、ヨーロッパに於いてもシクストゥス4世として農民軍を指揮し、中世騎士軍を敗北させている。ムルデンとナンシーの戦である。1484年までヨーロッパにいた蓮如は、シクストゥス4世が死んだことにすると日本に帰還し、1488年に一向一揆によって富樫氏を滅ぼし、京都に大和一揆を指揮している。

蓮如の子



アドリアン・フォン・ブーベンベルク（1434～1479） ベルヌ市長・騎士
 ハンス・ヴァルドマン（1435～1489） チューリッヒ市長・旧スイス南部連合軍指揮者
 ヤーコプ・シュプレングエル（1436～1495） ドミニコ会士（魔女狩り）
 畠山義就（1437～1491） 応仁の乱※畠山持国の子ではない

西欧：ムルデンの戦（1476）

西欧：ナンシーの戦（1477）

※応仁の乱後、畠山義就は父蓮如と共にスイスに移り、旧スイス南部連合軍に参加し、ムルデンの戦とナンシーの戦に参加した。

蓮如（山名是豊）の子



山名頼忠（生没年不詳）※画像なし

ハインリヒ・クラーメル（?～1505） ドミニコ会士（魔女狩り）

インノケンティウス8世（1432～1492） ローマ教皇 在位1484～1492

ハンス・フォン・ハルウィル（1433～1504） 旧スイス南部連合

ユリウス2世（生没年不詳） ローマ教皇/バチカン枢機卿

インノケンティウス8世は、回勅によって魔女狩りと異端審問を活発化させた。同時に聖職売買、親族登用、派手な女性関係など、墮落した中世的な教皇の典型と見なされる。wikiより

※上の4人は同一人物と考えられる。往々にして魔女狩りに力を入れていた。

蓮如の子



尋尊（1430～1508） 応仁の乱
細川勝元（1430～1473）

※尋尊は、細川勝元でもあったが、彼は、大谷の血を継ぐ他の家族と共に「応仁の乱」を演じた。その後、勝元を死んだことにした尋尊は35年の余生を謳歌し、78歳まで生きた。



細川政元（1466～1507）

蓮如（山名是豊）の子



山名教豊（1424～1467） 山名宗全の子ではない※画像なし
ジャコポ・デ・パッツィ（1423～1478） パッツィ家の陰謀



山名政豊（1441～1499） 山名教豊の子※画像なし
フランチェスコ・デ・パッツィ（1444～1478） パッツィ家の陰謀

イタリア：パッツィ家の陰謀（1478）

※1467年、教豊は44歳で死んだことにし、イタリアに渡った。息子の政豊は1475年にイタリアに渡り、父親を援助した。親子はイタリアの実力者メディチ家を何とかするために「パッツィ家の陰謀」を実施した。これは失敗し、教豊（ジャコポ）は処刑されたが、政豊（フランチェスコ）は影武者が処刑されただけで、本人は無事に日本に帰還した。

その後、文明11年（1479年）から文明13年（1481年）にかけて赤松政則の支援で頻発した分家の領国の反乱鎮圧のため山陰地方に下向、因幡守護山名豊時と伯耆守護山名政之を助けて因幡国人毛利貞元と山名政実、山名元之を排斥、領国を安定させた。

蓮如（山名是豊）の子



山名豊久（1453～1522） 山名宗全の子ではない※画像なし
ルネ2世（1451～1508） ロレーヌ公

※豊久は宗全の子ではなく、是豊（蓮如）の子である。細川政元が生まれ、廃嫡を機に豊久は13歳の時にヨーロッパに渡った。そしてルネ2世となり、ロレーヌ公となった。



アントワーヌ・ド・ロレーヌ（1489～1544） ロレーヌ公



フランソワ1世（1517～1545） ロレーヌ公



シャルル3世 (1543~1608) ロレーヌ公



アンリ2世 (1563~1624) ロレーヌ公



ニコル・ド・ロレーヌ (1608~1657) ロレーヌ公



フランソワ2世 (1572~1632) ロレーヌ公



シャルル4世 (1604~1675) ロレーヌ公



ニコラ2世 (1612~1670) ロレーヌ公



シャルル5世（1643～1690） ロレーヌ公

※シャルル5世の子レオポール・ジョセフからダヴィデの一族の血が入るため、シャルル5世で蓮如が築いたロレーヌ公の血筋は終焉を告げる。

シャルル4世の子



フランソワ（1637～1638）※画像なし

イヴァン・マゼーパ（1639～1709）ヘーチマンコサック首長

シャルル5世の子



レオポール・ジョセフ（1679～1729） ロレーヌ公

アウグスト2世（1670～1733） ポーランドリトアニア大公、ロレーヌ公

スタニスワフ・レシチニスキ（1677～1766） リトアニア公、ポーランド王

カジミェシュ・チャルトリスキ（1674～1741） リトアニア副大法官

スタニスワフ・レシチニスキの子





ミハウ・フリデリク・チャルトリスキ（1696～1775）

アウグスト・アレクサンデル・チャルトリスキ（1697～1782）

アウグスト3世（1696～1763） ポーランド王

フランツ・ヨシアス（1697～1764） ザクセン=コーブルク=ザールフェルト公



スタニスワフ2世アウグスト（1732～1798） エカチェリーナ2世の愛人

※東本願寺門主蓮如の末裔である彼は、西本願寺門主寂如の一族と連合するためにエカチェリーナ2世と不倫関係にいた。その後、パーヴェル1世が生まれた。パーヴェル1世は、東西本願寺のロシアでの出会いである。



パーヴェル1世（1754～1801） ロシア皇帝

※母はエカチェリーナ2世だが、父は愛人だったスタニスワフ2世アウグストだった可能性がある。



ミハイル・パブロヴィチ（1798～1849） パーヴェル1世の子
ヨナス・フレール（1805～1861） スイス連邦参事会初代議長

※ロシアを拠点にスイスに移動して、スイスを掌握するためにスイス連邦参事会を創設し、初代議長に就任している。髪型が同じなので、2人は同一人物だということが分かる。

アウグスト・アレクサンデル・チャルトリスキ（フランツ・ヨシアス）の子



クリスティアン・フランツ（1730～1797） フランツ・ヨシアスの子※画像無し
アダム・カジミェシュ・チャルトリスキ（1734～1823）



フランツ（1750～1806） ザクセン＝コーブルク＝ザールフェルト公

アダム・カジミェシュ・チャルトリスキ+フランツの子（優性遺伝子ブリーダー、自力の両方）



マリア・アンナ・チャルトリスカ（1768～1854）

ニコライ・ノヴォシリツェフ（1761～1836） 秘密委員会

ヴィクトル・コチュベイ（1768～1834） 秘密委員会

※マリア・アンナの影武者として生まれた男子が独立し、ノヴォシリツェフとコチュベイを同時に演じていた。彼は、蓮如の一族の代表として一族を取り仕切り、西本願寺門主寂如の一族との連携を図った。それが「秘密委員会」の設置である。西本願寺が王家を、東本願寺が秘密警察を請け負う形だ。



アダム・イエジィ・チャルトリスキ（1770～1861） 秘密委員会

ミハイル・スペランスキー（1772～1839） 秘密委員会



コンスタンティン・アダム・チャルトリスキ（1773～1860）

パーヴェル・ストロガノフ（1774～1817） 秘密委員会



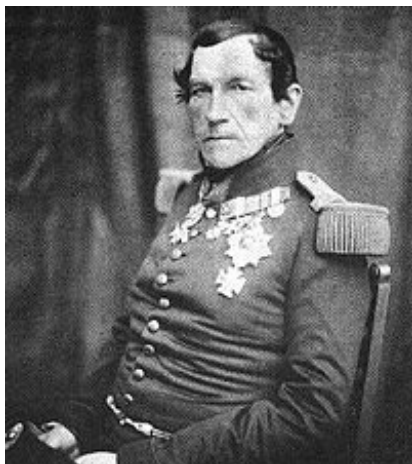
ゾフィー・フリーデリケ・カロリーネ・ルイーゼ（1778～1835） フランツの子※画像なし

ゾフィア・チャルトリスカ（1778～1837）

ジャン・マルク・ムーソン（1776～1861） スイス連邦事務総長※画像なし

※ゾフィアの影武者として生まれたムーソンは独立し、同じ蓮如の一族であるヨナス・フレールと組んでスイス連邦参事会を設立し、事務総長に就任した。この一族の目標はロシアとスイスの掌握だ。

フランツの子



レオポルド1世（1790～1865） ベルギー王国初代王

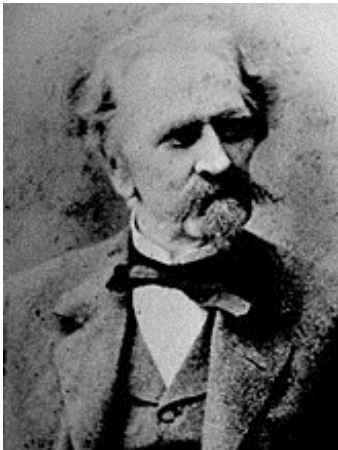
アルベルト・ヨセフ・ゴブレット・ディ＝アルヴィエラ（1790～1873） ベルギー王国初代首相 任期1831～1831

エティエンヌ・デ・サウヴェージュ（1789～1867） ベルギー王国第2代首相 任期1831～1831



フランツ・マクシミリアン・ルートヴィヒ（1792～1793） レオポルド1世の父フランツの孫※画像無し

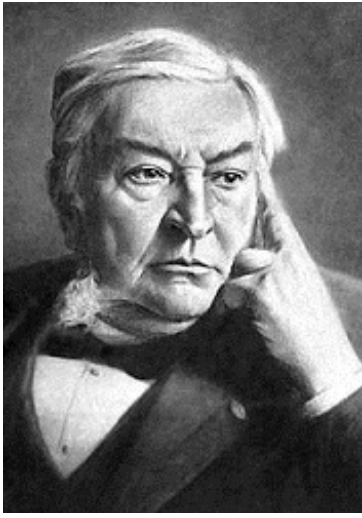
フェリックス・デ・ムエレナエレ（1793～1862） ベルギー王国第3代首相 任期1831～1832



アレクサンダー・フォン・ヴェルテンベルク（1804～1881） レオポルド1世の父フランツの孫

シャルル・ロジェ（1806～1885） ベルギー王国第4代首相 任期1832～1834

レオポルド1世の子



ルイ・フィリップ（1833～1834） レオポルド1世の子※画像無し

オーギュスト・ベールナールト（1829～1912） ベルギー首相 任期1884～1894

※ルイフィリップは早世したことにして潜伏し、オーギュストとして育てられた。オーギュストは長じてベルギー首相に就任するが、その任期は、弟であるレオポルド2世のコンゴ自由国の支配期間に符合している。



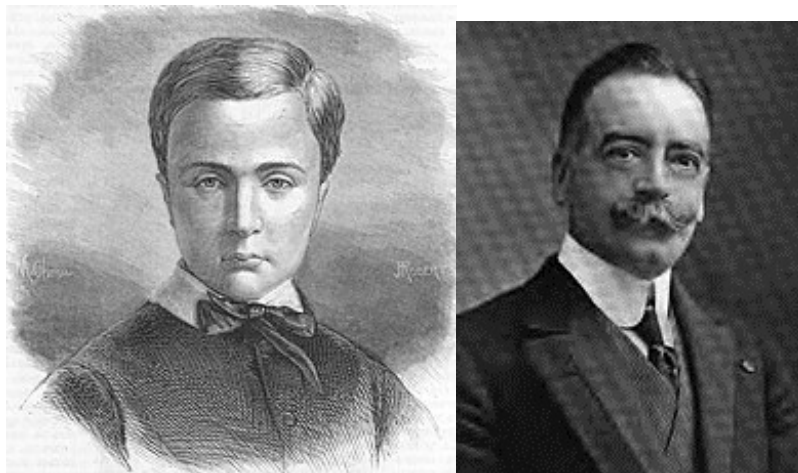
レオポルド2世（1835～1909） ベルギー王国第2代王

パウル・デ・スメット・デ・ニーヤール（1843～1913） ベルギー王国第24代首相
任期1899～1907

即位前から植民地獲得に強い関心を持ち、他の列強の支配が及んでいないコンゴに目を付け、コンゴ国際協会を創設して探検を支援。先住民の部族長と条約を結ぶなどコンゴ支配の既成事実化を進めた。1884年のベルリン会議においてコンゴを私有地として統治することを列強から認められた（コンゴ自由国）。

コンゴにおける治世の初期は鉄道敷設や、アラブ人奴隷商人による奴隷狩りから黒人を守るなど

、コンゴの近代化にも努める面もあったが、先住民を酷使して天然ゴムの生産増を図り、イギリス人などから先住民に対する残虐行為を批判され、1908年にはコンゴをベルギー国家へ委譲する事を余儀なくされた（王の私領からベルギー植民地への転換）。レオポルド2世 [wiki](#) より

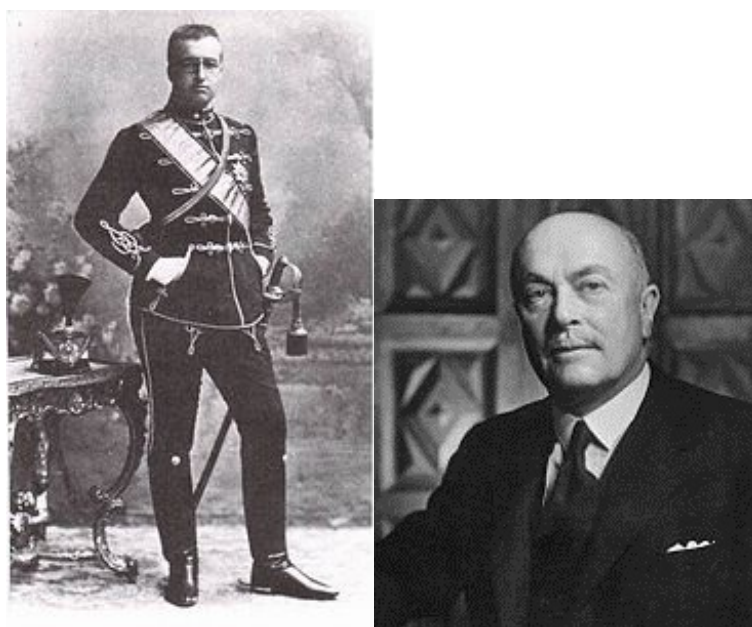


レオポルド・ド・ベルジック（1859～1869）

レオポルド2世の子

シャルル・ド・ブロクヴィル（1860～1940）

ベルギー王国第27代首相 任期1911～1918



レオポルト・クレメンス・フォン・ザクセン＝コーブルク・ウント・ゴータ（1878～1916） レオポルド2世の孫

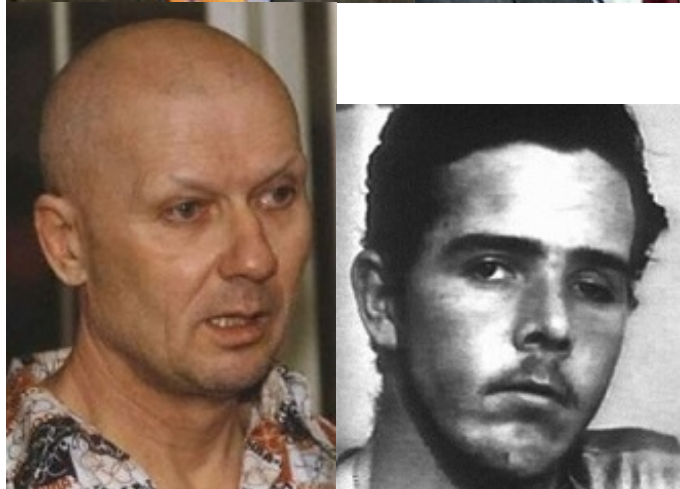
ユベール・ピエルロ（1883～1963） ベルギー王国第41代首相 任期1939～1945

※この後、ベルギー首相職は人食い人種の本能が蘇った西本願寺門主法如の一族によってバケモノ屋敷と化す。蓮如の一族なら良いというわけでは決してないが。ピエルロ以降のベルギー首相は世界中を行脚し、人殺しを楽しみ、被害者を食べまくった。

ベルギー王レオポルド3世の子



ジョゼフィーヌ＝シャルロット・ド・ベルジック（1927～2005）ルクセンブルク大公ジャン妃



アルベール2世（1934）ベルギー王国第6代王

ウィルフリート・マルテンス（1936～2013） ベルギー王国第62代首相 任期1981～1992

アンドレイ・チカチーロ（1936～1994） 幼児性愛シリアルキラー（少年少女55人）

ヘンリー・リー・ルーカス（1936～2001） 異常性愛シリアルキラー（男女200人）

※異形のマルテンスはアルベール2世の影武者として生まれた。チカチーロ、ルーカスの異常な犯罪にはアルベール2世かマルテンスのどちらかが必ず同行していた。特にマルテンスが殺人と人喰いを好んだようで、異形の顔を持つ。総勢265人を殺害している。

う～む。さすがのチカチーロやルーカスも顔で負けている。マルテンス氏の前ではチカチーロもルーカスも舎弟にしか見えない。マルテンス氏に食われてる。チカチーロの画像にアテレコでひとこと「この人じゃ勝てねえよお」

ベルギー王アルベール2世の子



フィリップ（1960） ベルギー王国第7代王

イヴ・ルテルム（1960） ベルギー王国第65、67代首相 任期2008、2009～2

011

ロベルト・スッコ（1962） 大量殺人（5人）

ジョセフ・ダックス（1961） 同性愛シリアルキラー（7人）※画像なし

ウェストリー・ダッド（1961～1993） 幼児性愛シリアルキラー（3人）

※フィリップとルテルムは同一人物にしか見えないが。これはどういうことか？ルテルムはハンナの影武者として生まれた。ルテルムはスッコ、ダックス、ダッドの事件の真犯人でもある。総勢15人を殺害している。画像のフィリップの笑顔は不気味なのでとりあえず真犯人ではないか？ダックスとダッドは哀れだが、ただの冤罪要員だ。

ジョゼフィーヌ＝シャルロット・ド・ベルジックの子



ギヨーム（1981） ルクセンブルク大公世子※画像なし

シャルル・ミシェル（1975） ベルギー王国第69代首相 任期2014～

ジェイムス・リチャー（1976） 異常性愛シリアルキラー（女性5人）



実如（1458～1525）

成宗（1457～1495） 李氏朝鮮王※画像なし

ハンス（1455～1513） オルデンブルク朝第2代デンマーク王

アブー・アブドゥッラー・アル=カーイム（1460～1517） サアド朝初代スルターン※画像なし

アフマド・カサーニー（1464～1542） ナクシュバンディー教団指導者、カシュガル・ホージャ家祖※画像なし

中国：安化王の乱（1510）

朝鮮：朴文永の乱（1513）

※実如もほとんど日本には留まらず、朝鮮を拠点に朝鮮国内、中国制覇を見据えていた。彼は、イスラム帰りのタナトスが築いた朝鮮儒教士林派（サリムパ）を登用した。サリムの由来はイスラムである。イスラム=イサリム=サリムとなる。この時、朝鮮儒教にイスラム風の礼拝作法が持ち込まれた。

また、成宗が早死にしたと見せかけてヨーロッパに向かった彼は、優性遺伝子ブリーダーにより、デンマーク、イギリス、ローマに多くの子を儲けた。中でも大成したのが、「ストックホルムの血浴」で有名なデンマーク王クリスチャン2世、「ユグノー虐殺」で知られるピウス5世である。この2人は、特に残虐なことで知られているが、父である実如自身は中国、朝鮮で小規模な蜂起を指揮するに留まった。

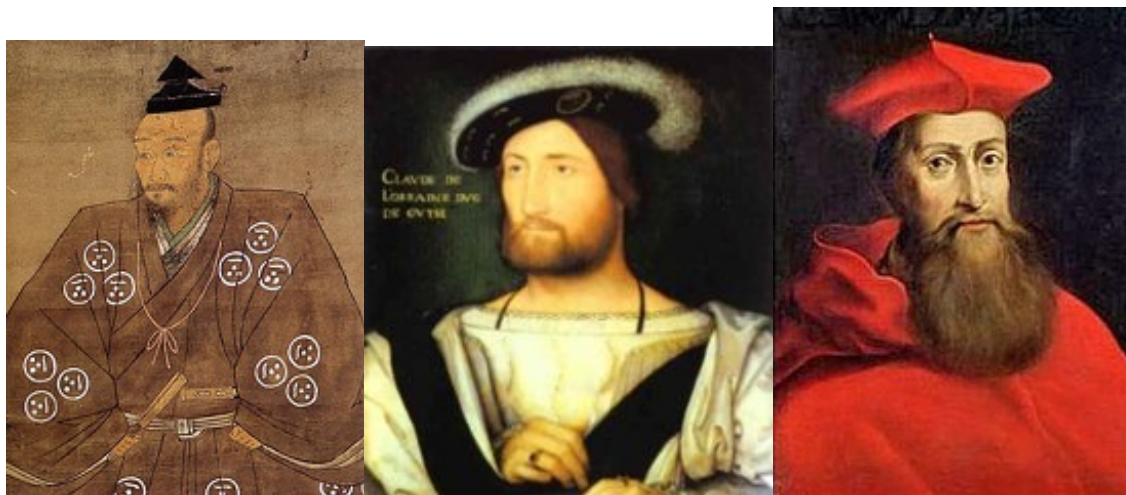
ハンス（実如）の子



クリスチャン2世（1481～1559） オルデンブルク朝第3代デンマーク王
アーマド・アル＝アラジ（1486～1557） サアド朝第2代スルターン

スウェーデン：ストックホルムの血浴（1520）

※クリスチャン2世はデンマークを統治しながら、モロッコにまで渡り、父が築いたサアド朝の王も兼任した。上の画像を見ると良く似ているのが分かる。



フランス（1497～1511）※画像なし

毛利元就（1497～1571）

クロード（1496～1550） ギーズ公

レジナルド・ポール（1500～1558） カンタベリー大主教

※毛利氏は、もともとマウリヤ朝の血統で、マオリ族が築いた家だが、そこに実如の血を引くフランスが潜入し、元就に化けて毛利氏を掌握した。



フレゼリク1世（1471～1533） オルデンブルク朝第4代デンマーク王



クリスチャン3世（1503～1559） オルデンブルク朝第5代デンマーク王

グレゴリウス13世（1502～1585） ローマ教皇 在位1572～1585

ピウス5世（1504～1572） ローマ教皇 在位1566～1572

デンマーク：カルマル同盟再編（1537）

フランス：ユグノー5万人虐殺（1572）

※デンマーク王クリスチャン3世、ローマ教皇グレゴリウス13世とピウス5世は同一人物である。

レジナルド・ポールの子



メアリー1世（1516～1558） チューダー朝イングランド女王

アブダラー・アル=カリブ（1517～1574） サアド朝第4代スルターン※画像なし

※ヘンリー8世は父親ではないため、易々と宗教改革を覆し、プロテスタントを迫害した。メアリー1世は、女子供を含む300人を処刑したため、ブラディ・メアリーと呼ばれた。カンタベリー大主教トマス・克蘭マーなども処刑された。メアリーは、じつは女性として生きた男性の可能性がある。男子を守るために女子として育てることはまああったからだ。男子と仮定すれば、メアリーは処刑されたことにしてモロッコに渡り、サアド朝の王を務めた。

毛利元就の子



吉川元春（1530～1586） 毛利元就の子

フレゼリク2世（1534～1588） オルデンプルク朝第6代デンマーク王

※吉川元春は毛利元就の養子とされているが、実際には元就の実子である。昔は、よそに作った

子どもを養子として家に迎え入れることは多かった。王族の場合の養子は、ほとんどがそうである。画像を見ると全然似ていないが、2人は同一人物と考えられる。元就の顔を見ても面長なので、画像の元春は影武者の可能性はある。



吉川元長（1548～1587） 吉川元春の子※画像なし

アフマド・マンスール・ザハビー（1549～1603） サアド朝第7代スルターン

※ザハビーの時代にソンガイ帝国に遠征し、滅亡させている。トランス＝サハラ貿易の利権がころがっていたのだ。



毛利元氏（1556～1631） 吉川元春の子※画像なし

アブドゥルワーヒド・ブン・マスウード（1558～?）

アフマド・マンスール・ザハビーの外交政策の基調はスペイン及びポルトガルへの対抗であった。ある手紙には、アンダルス（イスラーム文化圏から見たイベリア半島の呼び名）に攻め入って、同地をキリスト教国スペインからムスリムの手に奪い返すと書いている。また、そのためにキ

リスト教国と手を結ぶこともいとわず、イギリスとフランスに友好的であった。アフマドは、1600年に腹心のアブドゥルワーヒド・ブン・マスウードをイングランドのエリザベス1世女王の宮廷に派遣し、スペインへの対抗を目的とする同盟交渉に及んだ。前出のフランス人医師たちは、いずれも母国に帰るとコレージュ・ド・フランスでアラビア語を教え、また、サアド朝モロッコとの外交に携わった。wikiより



吉川松寿丸 (?～1578) 吉川元春の子※画像なし

クリスチャン4世 (1577～1648) オルデンブルク朝第7代デンマーク王

デンマーク：スウェーデン・デンマーク戦争 (1611～13)



毛利就泰 (1627～1689) 阿川毛利家4代当主※画像なし

ムーレイ・アル＝ラシード (1631～1672) アラウィー朝初代スルターン



毛利綱元（1651～1709） 長門長府藩第3代藩主※画像なし

ムーレイ・イスマーイール（1645～1727） アラウィー朝第2代スルターン

※ムーレイの名の由来は毛利である。毛利＝モウリ＝モウレイ＝ムーレイとなる。アラウィーの由来は不明である。この頃から毛利氏はムーレイ家として代々モロッコ王の座に就いた。そうして毛利氏は、長州藩とモロッコを同時に治めていた。

オルデンプルグ朝デンマーク王



毛利春直（？～1665） 吉川元春の玄孫※画像なし

フレゼリク3世（1609～1670） オルデンプルグ朝第8代デンマーク王

デンマーク：スウェーデン・デンマーク戦争（1643～45）



クリスチャン5世（1646～1699） オルデンブルク朝第9代デンマーク王



フレゼリク4世（1671～1730） オルデンブルク朝第10代デンマーク王

デンマーク：デンマーク・ロシア・ポーランド三国同盟

デンマーク：北方戦争

デンマーク：ガデブッシュの戦いに敗北

※本願寺の血を継ぐ歴代のデンマーク王は、ダヴィデの一族に属するヴァーサ朝を敵視していたが、フレゼリク4世の時に敗北した。

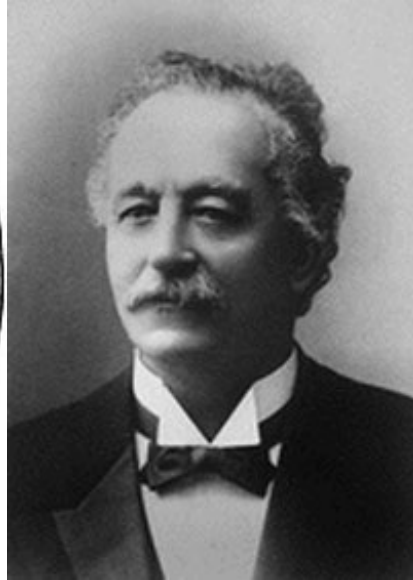


クリスチャン6世（1699～1746） オルデンブルク朝第11代デンマーク王



フレゼリク5世（1723～1766） オルデンブルク朝第12代デンマーク王

※フレゼリク5世の後は、イギリス王室の血が入ることになるので、デンマーク王家に巢食い、カルマル同盟によって北欧を支配した本願寺の血筋はここで終わる。1807年にイギリス海軍がデンマーク艦隊を撃破し、デンマーク本土を砲撃したが、これは西本願寺門主文如の子ウィリアム・ピット政権がイギリス王室（ダヴィデの一族）の血を継ぐデンマーク王国を攻撃したものだ。



毛利親彦（1830～1873） 阿川毛利家14代当主※画像なし

ハサン1世（1836～1894） アラウィー朝第15代スルターン

エリー・デュコマン（1833～1906） 国際平和ビューロー初代事務局長



毛利重輔（1848～1901） 吉敷毛利家16代当主※画像なし

ポントゥス・アルノルドソン（1844～1916） スウェーデン平和と仲裁協会初代会長

ムハンマド・ターヒル・フサイニー（1842～1908） エルサレム大ムフティー※画像なし

トビアス・アッセル（1838～1913） 国際常設仲裁裁判所創設



毛利親直（1852～1877） 吉敷毛利家14代当主※画像なし

フサイン・イブン・アリー（1853～1931） ヒジャーズ王 在位1916～1924

アンリ・ラ・フォンテーヌ（1854～1943） 国際平和ビューロー事務局長

※この頃から、不必要に垂れ下がったいやらしい目じりがこの一族の特徴となる。



毛利元忠（1865～1913） 清末家第9代当主※画像なし

カーミル・フサイニー（1867～1921） エルサレム大ムフティー※ムハンマド・ター
ヒル・フサイニーの子

佐藤秀助（生没年不詳） 岸信介・佐藤栄作父※画像なし



ムーレイ・アブドゥルアズィーズ4世（1878～1943） アラウィー朝第15代スルターン※ハサン1世の子

ファイサル1世（1883～1933） シリア国王、イラク国王

レオン・ジュオー（1879～1954） 国際労働機関・世界労働組合連盟設立

※各毛利氏のお家断絶により、毛利氏は本格的に長州藩からモロッコに拠点を移した。



ムーレイ・ユースフ（1882～1927） アラウィー朝第17代スルターン

アブドゥッラー1世（1882～1951） トランス・ヨルダン首長、ヨルダン国王

土肥原賢二（1883～1948）

※影武者の土肥原は、極東国際軍事裁判（東京裁判）でA級戦犯となり死刑判決を受け処刑され、アブドゥッラー1世はエルサレム訪問中に暗殺された。

ムーレイ・アブドゥルアズィーズ4世の子（優性遺伝子ブリーダーによる）



フランシスコ・フランコ（1892～1975） スペイン国初代総統
シャルル・ド・ゴール（1890～1970） フランス第18代大統領
アフメト・ゾグー（1895～1961） アルバニア国王

※30年もの間、スペインでファシズムを貫いた総統フランシスコ・フランコ将軍は、当初は下のアミン・フサイニーの影武者として生まれたと考えられる。安倍晋三に良く似ている。くりそつ。激似。父が生粋のファシストなら安倍がファシズムに開眼するのも無理はない(?)。1937年、フランコはゲルニカ爆撃を実施したことで悪名を轟かせている。ピカソやダリにも嫌われていた。



アミン・フサイニー（1895～1974） エルサレム大ムフティー
岸信介（1896～1987） 内閣総理大臣

※両者とも、顔が異母兄弟ムーレイ・アブドゥルアズィーズ4世によく似ている。岸信介は若い頃はやたら背が高かったが、そこも似ている。エルサレム大ムフティーの方が格が上のため、岸信介はフサイニーの影武者として生まれたと考えられる。岸信介は大谷光勝の血が強いと考えられるため、大谷光勝の項で光勝の一族として紹介している。



佐藤栄作（1901～1975） 内閣総理大臣

※兄同様に、ムーレイ・アブドゥルアズィーズ4世によく似ている。長州の佐藤家の由来はサアドである。毛利とムーレイ＝佐藤とサアド＝長州とモロッコということで、両者がつながっていることがわかる。岸信介と佐藤栄作は、アラウィー朝の遺伝子を欲した母親茂世（大谷光勝の娘）によって生まれた。

栄作と父は血のつながりがない。しかし、長州佐藤家やムーレイ家自体、もともとがサアド朝の末裔であるため、関係ない。佐藤栄作は、アラウィー朝の血が強いと考えられるため、実如の一族としてこちらで紹介している次第だ。

ヨルダン王アブドゥッラー1世の子



タラール1世（1909～1972）

陸定一（1906～1996） 反革命集団

フランソワ・デュヴァリエ（1907～1971） ハイチ大統領、トントン・マクート創設

トントン・マクートはハイチ大統領フランソワ・デュヴァリエが、独裁色を強めるなかで1958年に前身の秘密警察を拡大し結成し、1962年に国家治安義勇隊と改称された。彼らは都市の黒人貧困層・地方地主の傭兵から募集され、その活動には自動的に恩赦が与えられ、給料はなく犯罪と略奪により生活した。またブドゥー教の祭司者や秘密結社のメンバーなどでも構成され隊員たちは黒いサングラスを着け、大抵は火器を所持していたが、遺体の見た目の凄惨さから、マシェーテや刀を使うことを好み、時にブドゥー教の悪魔や神などに扮してマシェーテを振り、見せしめのために被害者の遺体を広場に晒すなどして反体制派を弾圧した。その振る舞いは、国民を恐怖に陥れ、デュバリエ父子への表向きの忠誠を醸成した。拷問も敵に対する警告として日常的に行われた。小作農から土地を奪うなどしたため都市の貧困層を増大させる要因となった。wikiより



ムニラ（1915～1987）

江青（1914～1991） 四人組

プロレタリア独裁・文化革命を隠れ蓑にして極端な政策を実行、反対派を徹底的に弾圧し、迫害して殺害したが毛沢東の死後に失脚し、特別法廷で死刑や終身刑などの判決を受けた。wikiより

※江青は毛沢東に取り入り、女であることを武器にし、騙し続けながら中国の篡奪を考えていた。毛沢東が見ていないところでは江青は大谷の本領を発揮し、文化大革命の際は隠れて有用な人物の虐殺を指揮した。ソ連は本願寺の台頭を察知したので一時期中国と対立した。ソ連と中国の

対立は江青のせいだったのだ。この発想に行き着くまで、筆者はフルシチョフが悪人だと勘違いしていた。

佐藤栄作の子



ハサン2世（1929～1999） アラウィー朝第20代スルターン

ヤーセル・アラファート（1929～2004） パレスチナ自治政府大統領、パレスチナ解放機構執行委員会議長

エフライン・リオス・モント（1926～2018） グアテマラ軍事政権大統領

モクタール・ウルド・ダッダ（1924～2003） モーリタニア初代大統領

※日本で内閣総理大臣として成功した佐藤栄作の遺伝子を欲した母親がハサン2世を生んだ。ハサン2世は日本人のような顔をしている。エフライン・リオス・モントはハサン2世の影武者用に生まれた。アラファート議長とは顔が似ているので同一人物の可能性もある。イスラエルの敵パレスチナの指導者はイスラエルの家族であるため、何も進展しない。敵が味方であるなら敵のコ

ントロールも思いのままという典型。自民党と野党と同じ構造である。



※グアテマラ市民虐殺現場

政治手法は、親米路線を採り外国からの軍事援助を引き出しつつ、グアテマラ国民連合などの反政府勢力への弾圧を強めた。軍部や民間自衛パトロールを動員、反政府勢力はもとよりマヤ系の先住民も襲撃対象となり、多数の村が丸ごと焼き払われるなどの虐殺が行われた。グアテマラ内戦は、30年近く断続的に続いていたが、約20万人と推測される死者・行方不明者数の半分近くが、エフライン・リオス・モントが政権を握っていた1年あまりの時期に集中する。

21世紀に入ると、グアテマラ内戦時代を通じた虐殺や弾圧事件が国内の裁判所において裁かれるようになり、エフライン・リオス・モントも例外ではなかった。2013年5月、大統領時代に発生したキチェ県のイシル族を中心に、軍部が15件1,771人を虐殺した事件を知りながら放置したとして、ジェノサイドと人道に対する罪で禁錮80年の刑が言い渡され、86歳の高齢ながら収監されている。「エフライン・リオス・モント」wikiより

モロッコ王ムハンマド5世の子



ムーレイ・アブドラ (1935～1983)

佐藤信二（1932～2016） 自民党議員※佐藤栄作の子



設楽統（1973） バナナマン※佐藤信二の子

日村勇紀（1972） バナナマン※Princess Lalla Aminaの子（ムハンマド5世の孫）

※2人は野中英次のマンガ「ドリーム職人」の人形バナナマンからチーム名を決めたが、なぜおもしろくないギャグを選んだのか不明である。日村は伯父のハサン2世に良く似ている。

ヨルダン王タラール1世の子



フセイン1世（1935～1999） 第3代ヨルダン国王

河野洋平（1937） 自民党議員

アブデルアジズ・ブーテフリカ（1937） アルジェリア第9代大統領

※河野洋平はフセイン1世の影武者として生まれた。彼はモロッコ王ユーセフに顔が似ている。



ハッサン（1947）※画像なし

ホアン・アントニオ・マルチネス・カミノ（1953） マドリード・メトロポリタン主教

※ハッサンの影武者として生まれた。数十万のスペイン人カトリック信者を自由自在に操ることができる。スペインのラジコンマスター。

フランシスコ・フランコ総統の子（優性遺伝子ブリーダーによる）



バーニー・サンダース（1941） 民主党大統領候補

※サンダースは弟のデニーに良く似ている。彼は2020年アメリカ大統領候補だが、選挙戦に出る前にアメリカ軍によって処刑されるだろう（2019.11.15付け）。



シーリーン・エバーディー（1947） イラン初女性裁判官



安倍晋三（1954） 内閣総理大臣
加計孝太郎（1951） 加計学園園長
齊藤博久（1953？） 日本アレルギー学会理事長
甘利明（1949） 安倍政権

※安倍晋三の顔は、フランシスコ・フランコ総統譲りである。彼は総理就任後から卓越したシラのきり方、意表をつくウソのつき方を披露してみせた。言い分けの巨匠である。彼の技術は、禅問答、ソフィストの問答を踏襲している。古代、哲人ソクラテスに負けそうになったソフィストは、急に長い思い出話をし、ソクラテスを退けた。

安倍の異母兄弟である齊藤氏はウソをつくための権威であるが、何よりも安倍晋三の影武者である。安倍政権が遺伝子組み換え食品や残留農薬基準値の大幅緩和などの化学テロを推進しているのはこの影武者の力も大きく影響しているだろう。

食物アレルギーは実質的には化学アレルギーである。農薬の乱用やあからさまな化学テロである遺伝子組み換え食品によって人々は化学アレルギーによって苦しんでいる。しかし、日本アレルギー学会の理事長が大谷家なので、ウソしかつかない。加計と甘利は安倍の影武者と考えられる。尤も、安倍には晋一、晋二という一卵性の影武者がいる。昔なら影武者は似ていなくても良かったが、映像や画像が世界の隅々にまでいきわたっている現在ではそうはいかないのだ。そういうわけで、名前に数字が入っている人物は一卵性の影武者がいる。晋一、或いは晋二はメガネをかける。

甘利明。甘利氏を見るたびに吉田戦車の漫画を思い出してしまう。背を高くみせるならシークレットシューズじゃなくて、断然、シークレットヘッドですよ。そして加計孝太郎。ご存知、家

系問題、失礼、加計問題の中心人物。タナトス譲りのスカな言い分けと大胆なシラのきり方により、本願寺の一族がウソをついているところを見たことがない良識ある人々を唾然とさせた。



フランシスコ・フランコ2世（1954）※画像なし
玉城デニー（1959） 沖縄知事

※フランコ将軍の子フランコ2世が玉城デニーを名乗り、異母兄弟安倍の応援のためスペインから駆けつけた。安倍に負けるために翁長知事を殺して沖縄知事になり、見事に負けて見せた。トランプ大統領がデニーを無視したのはデニーが安倍の弟だということを知っていたからだ。トランプ大統領に言わせれば「ふざけるな」というところだろう。



前原誠司（1962）
マイケル・コーエン（1966） トランプ大統領元弁護士

※人のよさそうなフリをして敵の内部にもぐりこみ、内部から敵を攪乱させるワザを得意とする。味方のフリをしながら敵を分断する力を持つ。最近では野党もみな大谷の子ではないかと勘ぐったが、前原氏や枝野氏が野党側にいるということは、敵（善）はまだ存在しています。だから、議員が全員大谷の子ということにはまだなっていない。

そしてマイケル・コーエン。彼は母が白人なのでフランコに良く似ている。前原の影武者として生まれてきた。悲しい人生だ。それ以上に、ウソだとバレていてもウソをつき続けるしか術が

ない。まさに「死んで初めて役に立つ」人間の見本。彼はまだ役に立っていない。



滝川クリステル（1977）

※東京オリンピック招致では「おもてなし」という言葉を口にした。これは、正しくは「表無し」である。表無し、つまり言い換えれば「裏ばかり」であるが、これは「陰謀を駆使すること」のアピールであり、安倍政権の日本人に対する宣戦布告である。

安倍晋三の子



文恵進（1963～1963）

林眞須美（1961）

※安倍が9歳の時の子となる。安倍は、岸信介、佐藤栄作の血筋から、本願寺のことを何も知らない文鮮明に将来を期待されていたのだろう。だから、文鮮明は娘（たぶん40年代、50年代に生まれた庶子）に安倍の子を生むことを許した。そして自分の子とした。林眞須美。「和歌山毒物カレー事件」の主人公である。それにしても、本願寺の血筋の人物がなぜ逮捕されたのか謎である。通常、本願寺の血筋の人物たちは全力で地域の信者たちに守られているからだ。



文興進（1966～1984）

越智啓太（1965） 犯罪心理学者

※安倍晋三が12歳の時の子である。父晋三に見込まれたため、文興進は17歳で死んだことにし、越智啓太として日本に移住した。ウソをつくための権威。優勢遺伝子ブリーダーによって生まれた安倍晋三の子供である。越智啓太は父親のために異常犯罪のシナリオを執筆し、フェイクニュースの製作を手がけている。記憶に新しいのが富田林逃亡犯の事件である。基本的に法輪功の信者を中国から呼び寄せ、役者（クライシス・アクター）として起用し、事件を製作している。



文顕進（1969）

孫毅（196?） 法輪功幹部

※孫毅は文顕進の影武者として生まれた。被害者を演じ、中国政府を攻撃しようと試みている。安倍晋三の子供であるだけにウソも言い分けもうまそうだ。笑



文國進（1970）

ユ・ヨンチョル（1970） 喰人シリアルキラー（高齢者・風俗嬢20人）

2003年9月24日、ソウル特別市江南区新沙洞で大学名誉教授夫妻が殺害された。その後、2004年7月に犯人が逮捕されるまで、主に富裕層の高齢者や風俗嬢の合計20人が殺害された。 wikiより



文亨進（1979） 第2代統一協会指導者

※文鮮明の娘、文誉進と安倍晋三の子である。文鮮明は優性遺伝子ブリーダーによって生まれた、西太后の子、大島義昌の息子である。一方、大島義昌の孫娘が、安倍晋三の父方の祖母であるため、文鮮明は安倍が大谷の子ということも知らず（というか大谷がタナトスということを知らず）、娘が安倍と付き合うのを許したのだろう。それで19歳の時に文亨進が生まれた。安倍は1977年に渡米し、南カリフォルニア大学に留学したという。たぶん、そのときに文誉進とデキたのだろう。1979年には安倍は日本に帰国している。因みに、文鮮明が儲けた男子で有力な者はみな死んでいる。当然、統一協会を乗っ取るための本願寺の陰謀だろう。



白石隆浩（1991） 座間9遺体事件容疑者

※白石は文鮮明の孫と考えられる。wikiにも詳細な情報はないので断言できないが、文鮮明の子はみな安倍の子なので、ありうることだ。白石は、父晋三のために一役買って出た形だ。おまわりさんは優しいし、死刑になることもないし、安心。



アブドゥッラー2世（1962） 第4代ヨルダン国王

アンソニー・ウィーナー（1964） 民主党議員※エフライン・リオス・モントの子

※性的スキャンダルで逮捕、罰金刑に処された。子どもの血を飲んだブルネイ王室（カペー王フィリップ2世の一族）に属するフーマ・アベディンと結婚していた。

証如の一族～明智光秀、魔女狩り、戦国時代、オランダ王国、近衛家、クウェート王国、イギリス東インド会社、南アフリカ連邦、ジャム・カシミールのムジャヒディーン、湾岸戦争



証如（1516～1554）

フランソワ（1519～1563） ギーズ公

ジョン・ノックス（1510～1572） 長老派教祖

アントワーヌ・ド・グランヴェル（1517～1586） 枢機卿

日本：一向一揆、朝倉教景滅亡（1531）

西欧：ネーデルラント市民蜂起（1566）

西欧：ネーデルラント自由戦争（1568～1648）

フランス：ユグノー5万人虐殺（1572）

西欧：オランダ独立宣言（1581）

※証如は、朝倉教景を討つことで、子の朝倉義景を援助した。その後、自分の国を欲した証如は、50歳でヨーロッパに移り、ギーズ公フランソワを称し、異母兄弟であるローマ教皇ピウス5世と共にユグノー虐殺も指揮した。これによってユグノーを篡奪し、カルヴァンの改修派を息子

である朝倉義景（ウィレム1世）が築いた国オランダの国教とした。

また、証如はジョン・ノックスにも変身し、「長老派」を築いてスコットランドに根付かせた。ノックスは魔女狩りの拷問に工夫を加え、眠らせないなどの拷問を加えた。身体に傷をつけないことで悪意を消そうとした。

更に、アントワヌ・ド・グランヴェルに化けてスペイン・ハプスブルク家に仕え、当時のヨーロッパ諸国政治家の中で有力者となった。そして、プロテスタントをネーデルラントで弾圧したことが知られている。アントワヌ・ド・グランヴェルはシャルル・ド・ロレーヌと密接な関係だったという。それはそうだろう。親子なんだから。

ギーズ公フランソワの兄弟（証如の子）



ルネ（1522～1602） ランス聖ペテロ修道院長※画像なし

三好長慶（1522～1564） 三好三人衆

陶晴賢（1521～1555）※画像なし

武田信玄（1521～1573）

日本：川中島の合戦（1553～1564）

※ルネは、三好長慶として畿内・阿波国の掌握を狙い、陶晴賢として中国地方の掌握を狙った。更に、武田信玄として父であるはずの武田信虎に蜂起し、退けた末に甲斐国をも掌握した。一般人は、なぜ息子が父を？と驚くが、実際に血はつながっていないし、もとより、大谷の血筋なので関係ない。武田信玄は、フランスから来たギーズ公フランソワの兄弟（証如の子）なのだから。

実如は、懸念勢力である武田氏の弱体化を目論み、自分の血統を打ち立てた。武田家に生まれた信玄は「甲州法度次第」を作って、家の中にいる反乱分子を抑え込んだ。大谷の血を引く武田信玄は、当然のように武田信虎を追放し、信虎が築いた甲斐の国をただ同然で手に入れた。また、

信玄は懸念勢力である上杉謙信を排除するための使命を与えられたが、敗北したために、結局、大谷の医者が毒を盛り上杉謙信を暗殺した。病死であるなら仇討ちの心配はない。これが病死で敵を殺す際のポイントである。



シャルル・ド・ロレーヌ（1524～1574）

長井道利（？～1571） 斎藤氏家臣※画像なし

※顔が明智光秀に似ている。当然だろう。兄弟だから。シャルルは日本では長井道利となり、弟のルイ・ド・ロレーヌが扮する斎藤義龍と共謀した。2人の使命は美濃国の掌握だった。



クロード（1526～1573） オマール公※画像なし

長尾政景（1526～1564）

※クロード（長尾政景）は、兄であるルネ（武田信玄）と共に上杉謙信に敵対した。上越国の掌握が目的だった。



ルイ・ド・ロレーヌ（1527～1578）

斎藤義龍（1527～1561）

※義龍は弟の孫四郎・喜平次ら（斎藤道三の子）をおびき出して日根野弘就に殺害させた。そのため、仰天した道三は大桑城に落ち延びた。弘治2年（1556年）、義龍は長良川にて道三と対峙、道三を支持する勢力は少なく、旧土岐氏の勢力に支えられて道三を討ち果たした（長良川の戦い）。



フィリップ（1529）※画像なし

明智光秀（1528～1582）

ジャン・ボダン（1530～1596） 魔女狩り

西欧：ジャン・ボダン「悪魔崇拝」発表（1580）

日本：本能寺の変（1582）

※光秀の青年期の履歴は不明な点が多いといわれる。それはそうだ。彼はフランスから来たのだから。光秀はギーズ公クロードの子フィリップである。実際には、フィリップは兄フランソワ（

証如)の子として生まれたが、早世したことにして潜伏し、ジャン・ボダンやニコラス・レミーとして生き、終生、魔女狩りに熱意を傾けた(つまり善人の殺人)。だが、後に他の兄弟と共に日本に進出した。それが明智光秀と朝倉義景、荒木村重、浅井長政、斎藤義龍、武田信玄、長尾政景、長井道利、三好長慶の連合軍である。これは、フランスに生まれた証如が家族総出で日本を征服しにかかっていると考えることができる。

4人は当時の日本を治めていた顕如と組み、浄土真宗最大の敵である織田信長の至近距離に配置され、英雄が油断する日を待って虎視眈々と待機していた。その後、あまりに狡猾な顕如と教如の芝居に騙された信長は、光秀によって本能寺の変で討たれた。最大の邪魔者の排除は成功したものの、秀吉らに狙われるようになった明智光秀は、日本を離れてヨーロッパに帰還し、魔女狩りを再開した。



ピエール (1530) ※画像なし

ニコラス・レミー (1530~1616) 魔女狩り

西欧: ニコラス・レミー「悪魔礼拝」発表 (1595)

※ピエールは早世したことにして潜伏し、ニコラス・レミーとして育った。兄のフィリップ(ジャン・ボダン)と共に魔女狩りにまい進した。悪夢の魔女狩り兄弟である。



フランソワ (1534~1563) 聖ヨハネ騎士団総長※画像なし

朝倉義景 (1533~1573)

ウィレム1世 (1533~1584) オランダ初代総督

※朝倉義景はウィレム1世としてオランダ王国を築いた。「沈黙公」として知られているが、これは彼が日本人である証拠といえる。オランダ語をしゃべれなかったのだ。朝倉は、さすがに信長を相手に戦国時代を生きただけあり、簡単にオランダを掌握した。それだけ、戦国時代の戦争はレベルが高かったといえる。或いは、霸王織田信長と魔王本願寺門主顕如の戦いというべきか。



ルネ2世（1536～1566） エルブフ侯※画像なし
近衛前久（1536～1612） 近衛家17代当主※画像なし
明智秀満（1536～1582） ※画像なし
荒木村重（1535～1586）

※荒木村重は、本願寺や足利義昭（証如の子）と親交があり、大谷の血族に属していることが分かる。荒木は、信長攻めの第一段として蜂起したが、不利になると自分だけこそこそと逃亡した。信長は、歴史で知られているように荒木の家の者を惨殺したりはしなかった。惨殺したと報じたのは荒木を誘き寄せる手段だったが、隠れたままの荒木に愛想が尽きた信長は逆に荒木の家の者を哀れに思っただろう。

その後、荒木は近衛前久に化けて本願寺と信長の間を取り持っている。これは単なる猿芝居だったが、本能寺の変のあとには荒木は茶人として復活した。そして、千利休に接近し、この謎の多い人物の動向を探った。

ギーズ公フランソワ（証如）の子



アンリ1世（1550～1588） カトリック同盟指導者
アンリ・ボゲ（1550～1619） 魔女狩り※画像なし
浅井長政（1545～1573）
筒井順慶（1549～1584） 明智光秀の弟

西欧：アンリ・ボゲ「魔女論」発表（1602）

※浅井長政は、朝倉義景と同じく信長包囲網の一員だった。長政は、信長を油断させるため、または人質として妹のお市と結婚したのだ。とにかく、1573年に浅井長政は自分を死んだことにし、無事に抜け出してフランスに帰還した。このときにアンリ1世として「カトリック同盟」を指揮し、ユグノーの大虐殺を実施した。このとき、人食いも行われていたようだ。



マクシミリアン（1565～1567）※画像なし
森蘭丸（1565～1582）

※本能寺の変で主君と2人の弟と共に討死した。とされているが、実際には信長が逃げられないように、止めを刺す役割だったと考えられる。平静から信長は敵に囲まれていたのだ。

ルネ2世の子



シャルル1世（1556～1605）※画像なし
ジョン・ワッツ（1554～1616） イギリス東インド会社創業※画像なし
トーマス・スミス（1558～1625） イギリス東インド会社初代知事

イギリス：イギリス東インド会社創立（1600）



近衛基熙（1648～1722） 近衛前久（ルネ2世）の玄孫

ジョージ・ホワイト（1648～1707） イギリス東インド会社※画像なし

※ルネ2世はイギリス東インド会社を創設した中心人物を設けたが、ルネ2世は日本では近衛前久を名乗っていたことから前久の玄孫がイギリスに渡り、ジョージ・ホワイトとしてイギリス東インド会社に貢献した。



近衛経熙（1761～1799） 近衛家25代当主※画像無し

津軽寧親（1765～1833） 交代寄合陸奥黒石領第6代当主、陸奥弘前藩第9代藩主

松平信明（1763～1817） 三河国吉田藩3代藩主、江戸幕府老中・老中首座、松平伊豆守系大河内松平家7代※画像無し

夢月院（1699）※近衛熙子の子、近衛基熙の孫

サバーハ・ビン・ジャービル・アッ=サバーハ（1700～1764） サバーハ家当主、クウェート首長

ロバート・ブートル（1694～1758） イギリス東インド会社主席 任期1741～1755

※母は近衛熙子、父は徳川家宣（東本願寺門主真如）である。夢月院は早世したことにしてクウェートに送られ、サバーハ・ビン・ジャービル・アッ=サバーハとして育てられた。夢月院はクウェートの初代首長となる。



サバーハ2世アッ=サバーハ（1784～1866） クウェート第4代目首長※画像無し
ジェームズ・ホッグ（1790～1876） イギリス東インド会社主席 任期1839～1858
クラブ・シング（1792～1857） ジャンムーカシミール藩王国初代君主 在位1846～1856

※クウェート4代目首長サバーハ2世はイギリス東インド会社主席ホッグとして活動したが、自身の国を欲し、ジャンムーカシミール地方を掌握した。これがセポイの乱やムジャヒディーンの前身となる。





津軽信順（1800～1862） 陸奥弘前藩第10代藩主

津軽順承（1800～1865） 陸奥黒石藩2代藩主、陸奥弘前藩11代藩主

ロス・ドネリー・マングルス（1801～1877） イギリス東インド会社主席 任期1857

フレデリック・カリー（1799～1875） イギリス東インド会社主席 任期1858

※津軽信順は津軽寧親の子だが、父津軽寧親の正体は近衛経熙である。津軽信順は事実上の祖父近衛経熙の子となる近衛基前の娘（近衛経熙の孫）と結婚した。しかも、津軽寧親は松平信明でもあった。おもしろいことに津軽信順は、同い年で、しかも異母兄弟である松平信明の子（津軽順承）を養子として迎えている。津軽信順は弘前藩を治めながら、自身の影武者（父とタナトス系白人女性の子）であるマングルスとカリーはイギリス東インド会社の主席としてインドで活動した。

2人は生年が近いことから同一人物の可能性もある。証如の末裔であるが、もとより、イギリス東インド会社は東本願寺門主証如の家族のみが参加でき、それ以外の血統はお断りだった。この2人が「セポイの乱」を指揮した。西本願寺門主法如の一族が大英帝国を掌握していたため、それに反抗した形だ。



サーリム・アル＝ムバーラク・アッ＝サバーハ（1864～1921） クウェート第9代目首長※画像無し

ジェームズ・バリー・ミュニック・ヘルツォーク（1866～1942） 南アフリカ連邦国民党創設

※イギリス東インド会社主席マングルスカカリーの子と考えられる。セポイの乱で敗北すると、イギリス東インド会社の残党は南アフリカに落ち延びた。ヘルツォークは南アフリカ連邦国民党を創設した。



アブドゥッラー3世アッ＝サバーハ（1895～1965） クウェート第11代目首長

ハリ・シング（1895～1961） ジャンムーカシュミール藩王国第4代君主



サバーハ3世アッ＝サバーハ（1913～1977） クウェート第12代目首長※画像無し

イアン・スミス（1919～2007） ロードেশア共和国初代首相

※1961年にロードেশア戦線党を結成し1964年4月13日から南ロードেশア植民地政府首相を務め黒人の抵抗運動を徹底的に弾圧した。あくまで少数の白人支配の存続を望み1965年

11月11日に、南ローデシアの白人政権は英国から一方的な独立宣言を行い、英国から派遣されていた総督も追放しローデシア共和国と名乗った。

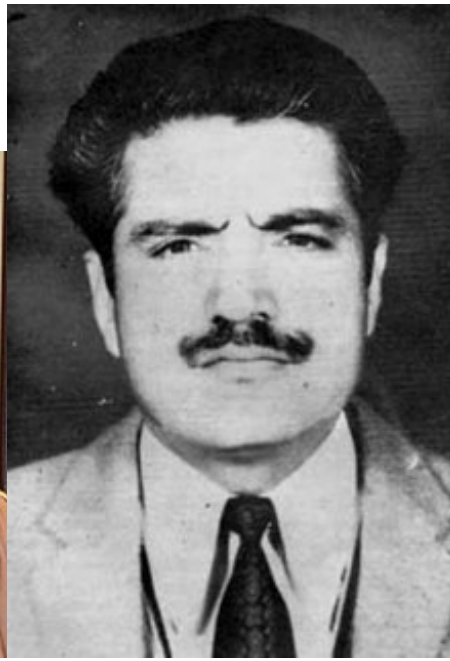
アフマド=ビン=ジャービル・アッ=サバーハの子



ジャービル・アル=アフマド・アッ=サバーハ（1926～2006） クウェート第13代目
首長

Amanullah Khan（1934～2016） ジャム・カシミールのムジャヒディーン創設

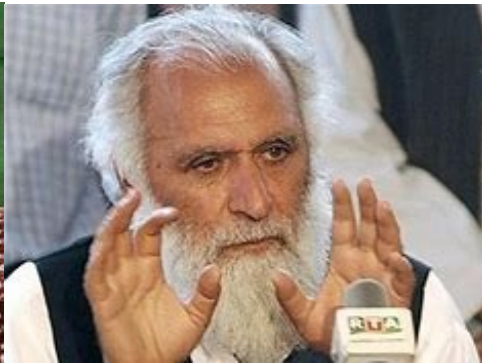
※ジャービルは湾岸戦争の協力者である。彼は、西本願寺門主大谷光瑞の一族であるジョージ・H・W・ブッシュと共謀して湾岸戦争を指揮した。基本的には、イラク軍に潜んでいる仲間に指揮し、クウェートに侵攻するように指示した。これでイラクの悪者化は完了である。あとはブッシュ率いるアメリカ軍がイラク軍を叩けば、ブッシュは正義の味方となる。



Nawaf Al-Ahmad Al-Jaber Al-Sabah (1937)

Maqbool Bhat (1938~1984) ジャム・カシミールのムジャヒディーン創設

ジャービル・アル=アフマド・アッ=サバーハの子



ムバラク (1945)

サイード・サラフディーン (1946) ヒズブル・ムジャヒディーン最高指導者

アブドゥル・ジャバル・サビト (1946) アフガニスタンのムジャヒディーン



ファハド (生没年不詳)

Hashim Qureshi (1953) ジャム・カシミールのムジャヒディーン



アマル (生没年不詳) ※画像無し

Yasin Malik (1966) ジャム・カシミールのムジャヒディーン

アブー・アイユブ・アル=マスリー (1968~2010) ムジャーヒディーン評議会指導者



マーラブ (生没年不詳) ※画像無し

アブドゥル・ハク (1971) ムジャーヒディーン司令官

顕如の一族～万暦の三征、魔女狩り、オランダ東インド会社、スチュアート朝、老論派、バプテリスト教会、メソジスト教会、ヴァンダービルト財閥、パール・ジャム、**KORN**



顕如（1543～1592）

千少庵（1546～1614） 裏千家

伏見宮貞康親王（1547～1568）※画像無し

ヨハン・ファン・オルデンバルネフェルト（1547～1619） オランダ東インド会社創立

ピエール・ド・ランクル（1553～1631） 魔女狩り※画像無し

朝鮮：呉連石の乱（1557）

朝鮮：林巨正の乱（1558）

日本：伊勢長島一向一揆（1573）

日本：石山戦争（1574）

日本：本能寺の変（1582）

朝鮮：鄭汝立の乱（1589）

中国：文禄の役（1592）

オランダ：オランダ東インド会社創立（1602）

600人以上の魔女という数字はランクル自身の妄想か誇張とされている。ランクルが魔女狩りに精を出した理由は厚い信仰心によるものと、抑圧された性欲により拷問と称して少女達を痛めつけることで欲望を発散させていたという説もあり、拷問もほとんどランクルの独断で行われていたことから女性をレイプし、口封じの為に拷問して獄中死させ、殺害していたというのが真相のようである。wikiより

※顕如は伏見宮貞康親王を同時に演じていた。これにより、自分の身に危険が迫るとすぐに伏見宮貞康親王に化けて公家の中に身を隠した。狡猾である。その狡猾な顕如は、忍者を騙すという新機軸により、偉大な武将、織田信長を油断させて討ち取った。顕如と教如の親子は、信長を油断させるという目的で、信長が放った間者が見ていることを前提に、長期間、仲違いの芝居をした。当時、忍者の情報は一種の権威であった。武将の中で、忍者の情報を疑うものは誰一人なかった。そもそも、忍者を信用していないなら用いることはないわけで。とにかく、顕如はその認識を逆手に取ったのだ。顕如と教如が芝居を演じていた証拠に、本能寺の変から数日も経つと、顕如と教如はあっさりと和解している。

また、一方で中国制覇の機会を狙っていた顕如は、優性遺伝子ブリーダーによって中国に何人もの子を儲けた。中でも力を持ったのがボハイや楊応龍であった。顕如は、自分の子である宇喜多秀家に指示し、文禄の役を指揮させ、同時に自分の子であるボハイや楊応龍にも蜂起を指示した。これが「万暦の三征」である。秀吉の意向はどこにもない。

信長を相手に石山戦争を戦うが、上記のように見事な謀略によって信長（影武者）を討ち取ると、顕如は自分を49歳で死んだことにし、その後はフランスに移り、ピエール・ド・ランクルとしてフランスで魔女狩りを行った。また、同時にオルデンバルネフェルトとして「オランダ東インド会社」をも設立している。この旺盛な征服本能は、歴代の大谷家の誰にも負けないといえよう。

ランクル時代、日本人だった顕如の目にはヨーロッパ人の子女が美しく見えたのだろう。顕如は、白人少女を拷問し、陵辱し、惨たらしく殺害することで快樂を得ていたようだ。ランクルは600人以上を惨殺したことに誇りをもっていただけという。その後、顕如はピエール・ド・ランクルとして88歳まで生きた。ランクルの名の由来は、日本語「乱れ狂う」かもしれない。乱れ狂う＝乱狂（らんくる）＝ランクルとなる。

千少庵（顕如）の子



千宗旦（1578～1658） 三千家※画像なし

徳川秀忠（1579～1632） 徳川幕府第2代征夷大將軍

※狡猾な顕如の血を継ぐ秀忠は、一方では徳川幕府を篡奪し、もう一方では茶道をも篡奪しようとしている。



千宗拙（1592～1652）※画像なし

ホンタイジ（1592～1643） 後金第2代皇帝

※自分の流派を残さなかった千宗拙は、じつは満州でホンタイジを称し、満州族を率いて中国を侵略していた。

千宗守（生没年不詳） 武者小路千家

千宗左（生没年不詳） 表千家

千宗室（生没年不詳） 裏千家

徳川秀忠の子



千姫（1597～1645）

朱常瀛（1597～1666）※画像なし

※千姫は女子として育てられた男子だった可能性もある。そうでなければ中国で皇帝になるのは難しい。千姫は結婚し、子どもも儲けたが、陰謀集団にとって偽装結婚など容易いことだ。



徳川忠長（1606～1634）

弘光帝（1607～1646） 南明初代皇帝※画像なし

※異母兄弟のホンタイジが満州の皇帝になったことに刺激を受け、自らも中国に渡っている。忠長は弘光帝を称し、南明初代の皇帝に即位した。どさくさに紛れて明の正統な後継を謳ったものである。



初姫（1602～1630）※画像なし

隆武帝（1602～1646） 南明第2代皇帝

※暗殺を防止するために女子として育てられたが、初姫は28歳で死んだことにし、その後は、中国に渡って隆武帝として南明の皇帝に即位した。



徳川和子（1607～1678）

紹武帝（1605～1647） 南明第3代皇帝※画像なし

※徳川和子は女子として育てられた男子だった可能性もある。そうでなければ中国で皇帝になるのは難しい。和子は結婚し、子どもも儲けたが、陰謀集団にとって偽装結婚など容易いことだ。

千姫の子

幸千代（生没年不詳）

永曆帝（1623～1662） 南明第4代皇帝

※幸千代は女子として育てられた男子だった可能性もある。そうでなければ中国で皇帝になるのは難しい。幸千代は結婚し、子どもも儲けたが、陰謀集団にとって偽装結婚など容易いことだ。

ヘンリー・スチュアート（顕如）の子



本多正純（1565～1637）

ジェームズ1世（1566～1625） スチュアート朝イングランド初代王 在位1603～1625

ロバート・セシル（1563～1612） 初代ソールズベリー伯

ジョン・スマイス（1570～1612） バプティスト創設

※本多正純は、三井高俊（デウスの一族）と共にイギリスに渡り、ジェームズ1世としてイングランド王に即位した。大阪の陣のあと、本多正純の影武者たちは一旦、ジェームズ1世を支援するためにスコットランドに馳せ参じた。影武者のひとりがロバート・セシルに化け、エリザベス1世に化けていたフランシス・ウォルシンガムを排除し、スコットランドとイングランドを合同統治した。更に、ジェームズ1世はジョン・スマイスに化けてバプティストを築き、聖公会の影

響力の排除に取り掛かる。

1610年、ソールズベリー伯ロバート・セシルが財政再建策として大契約を議会に提出した。議会は1度は同意したが、議会側は国王が絶対王政に走るのではないかとの疑いから、廃案となった。これを機に、ジェームズ1世は日本に帰還し、本多正純に戻って大坂の陣を準備した。狡猾な本多正純は、豊臣側に「国家安泰」と書かせて「これは家康の首を斬ろうとする暗示だ。謀反の証拠だ」と無理のある解釈をし、豊臣氏攻撃の口実を作った。本多は、大阪城の内堀を埋めることも提案した。



本多政重（1580～1647） 本多正純弟

宇喜多秀家（1572～1655） 文禄の役総大将

ボハイ（?～?） ボハイの乱指揮者※画像なし

楊応龍（?～?） 播州の乱指揮者※画像なし

中国：ボハイの乱（1592）

中国：文禄の役（1592）

中国：播州の乱（1597）

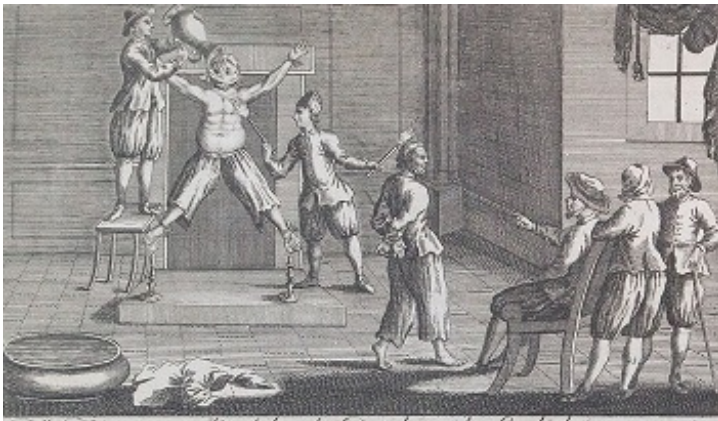
日本：大坂の陣（1615）

オルデンバルネフェルトの子



ヤン・ピーテルスゾーン・クーン（1587～1629） 第4代オランダ東インド会社総督
マルチン・ゲルリッツェン・フリース（1589～1647） オランダ東インド会社
ヨハネス・アモス・コメニウス（1592～1670） モラヴィア兄弟団監督

1643年、オランダ東インド会社に所属するマルチン・ゲルリッツェン・フリースは、東インド総督の命を受けて日本の東方沖にあるとされた金銀島探検のために結成された第2回太平洋探検隊の司令官として太平洋を北上し、ヨーロッパ人で初めて択捉島と得撫島を発見した。そして、それぞれスターテン・ラント(オランダ国の土地)とコンパニース・ラント(オランダ東インド会社の土地)と命名して領土宣言をした。wikiより



The Torments inflicted by the Dutch on the English in Amboyna.



※クーンが指示したアンボイナ事件の様子

宇喜多秀家の子



宇喜多太兵衛 (?~?) ※画像なし

李自成 (1606~1645) 新順王

張獻忠 (1606~1647) 大西皇帝 ※画像なし

宋時烈（1607～1689） 老論派の祖

中国：李自成の乱（1631）

※宇喜多太兵衛は日本を離れて中国に潜伏し、李自成と張献忠を同時に称した。李自成と張献忠のコンビは、じつは2人で1人だった。張献忠は農民60万人を率いて四川を制し、大西皇帝を称した。彼は、イエズス会士2人を人質にし、四川で「屠蜀」と呼ばれた大虐殺を行っている。四川の人口は著しく減少し、人質としてすべてを目撃したイエズス会士は、四川の人口が310万が2万弱にまで減ったと報告している。

張献忠の時代にタナトスの血が甦ったのか、張献忠は部下1万3千人を「間違った思想の持ち主」という汚名を着せて全員を斬首し、何もすることがなかった夜には妻、妾数十人、子供まで殺害したという。子供の殺害法は「貫戯」と呼ばれ、子供たちを秀取り囲んであぶり殺しにしたという。尚、張献忠は交戦中に射殺されたとされているが、実際には生き延びて李氏朝鮮に潜伏した。彼は、朝鮮儒教老論派を築く宋時烈として新たに出現した。老論派は、李氏朝鮮の政権に関与した。李自成と宋時烈の肖像画を見比べると非常に良く似ている。他人とは思えない。これは偶然なのか？それとも双方の画家が確かな腕を持っていたということなのか？

ジェームズ1世（スチュアート朝）の子



チャールズ1世（1600～1649） スチュアート朝イングランド第2代王 在位1625～1649

イギリス：船舶税施行（1634）

イギリス：第二船舶税（1635）

イギリス：船舶税反対運動（1637）

イギリス：スコットランド教会監督制度廃止（1638）

イギリス：第一次司教戦争（1639）

イギリス：清教徒革命（1642）

宗教弾圧、スコットランド・アイルランドの反乱発生など数々の失政で議会の反発を生み清教徒革命（イングランド内戦）が勃発、敗れて処刑された。wikiより



チャールズ2世（1630～1685） スチュアート朝イングランド第3代王 在位1660～1685

コーネリウス・スペルマン（1628～1684） オランダ軍提督

イギリス：第二次英蘭戦争（1665～67）

イギリス：第一秘密集会禁止法（1665）

イギリス：ロンドン大火（1666）

イギリス：第二秘密集会禁止法（1670）

ピューリタン革命の危険が高まったため、1646年に母たちとフランスに亡命し、1648年に義弟のウィレム2世を頼ってオランダのハーグに住んだ。同年に父方の従兄のカンバーランド公ルパートと共にオランダから艦隊に乗り込み出航したが、具体的な目的が定まらないまま撤退、翌1649年1月30日、イングランドを離れなかった父は処刑され、イングランドは護国卿オリヴァー・クロムウェルらが指導する共和国となった。wikiより

1660年よりオランダ東インド会社は、スラウェシ島のマカッサル西海岸でゴワ王国との戦争に突入し、1669年にスペルマン提督が、スルタンのハサヌディンに、オランダ東インド会社のスラウェシ島支配に関するボンガヤ条約を署名させた。1665年から1667年にかけての第二次英蘭戦争で、バンダ諸島（東インド諸島モルッカ諸島）にあるラン島（香辛料貿易）とニューアムステルダム（毛皮貿易）の自治権と交換して獲得し、香辛料貿易（ナツメグ、クローブ等）の独占を図った。イギリスは既に種子を持ち出しており、1815年頃からモーリシャスやグレナダなどでプランテーションを開始すると、香辛料はありふれた商品となってバンダ諸島の価値は相対的に下が

っていくことになった。wikiより

※チャールズ2世はイギリス統治を影武者に一任し、自身はオランダ軍提督としてインドネシアを侵略することに余念がなかった。チャールズ2世扮するスペルマンは、以下のようなタナトスの要領でインドネシアを330年間支配した。

1. 原住民を文盲のまま放置し、土候を使って間接統治
2. キリスト教に改宗したものは優遇して警察官や軍人に登用
3. オランダとインドネシアの混血児童を中間階級として使用し、民族の分断を謀る
4. 社会の流通経済は華僑にやらせ、経済搾取によるインドネシア人の憤慨と憎悪を華僑に集中させる
5. 一切の集会や団体行動を禁止する
6. 全国各地で用いられていた320の部族語をそのままにして1つの標準語にまとめ企てを禁止する



ジェームズ2世（1633～1701） スチュアート朝イングランド第4代王 在位1685～1688

イギリス：邪教信者に命じ、アイザック・ニュートンに集団ストーカーを実施

ウィリアム・メアリーでなくジェームズこそ正統なる王であるという人々はジャコバイトとよばれ、ジャコバイト運動はたびたび名誉革命体制イングランドを脅かした。ジェームズの死後、ジャコバイトはジェームズの息子ジェームズ老僭王を推戴して活動を続けた。wikiより



メアリー2世（1662～1674） スチュアート朝イングランド第5代王

※夫のウィリアム3世の共同統治者として共に王位に即いていた。

チャールズ2世（スチュアート朝）の子



チャールズ・レノックス（1701～1750） 第2代リッチモンド公爵

ジョン・ウェスレー（1703～1791） メソジスト教祖

ジョナサン・エドワーズ（1703～1758） 大覚醒運動リバイバル指導者

ニコラウス・フォン・ツィンツェンドルフ（1700～1760） モラヴィア兄弟団指導者

※聖公会の影響力の排除を目的としてレノックスがウェスレーに化けてメソジスト教会を築いた。
ウェスレーはチャールズ2世の影武者をしていたコーネリウス・スペルマンに良く似ている。



チャールズ・ウェスレー（1707～1788） ジョン弟

ジョージ・ホウィットフィールド（1714～1770） メソジスト信仰復興指導者

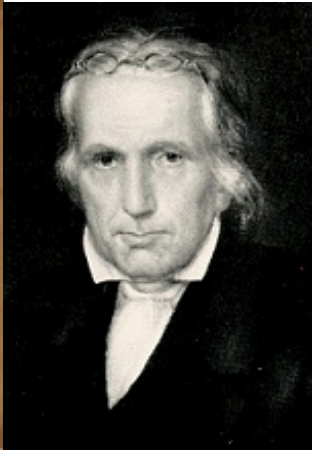
ジョン・ラッセル（1710～1771） 第4代ベッドフォード公

ジョン・ラッセル（第4代ベッドフォード公）の子



フランシス・ラッセル（1739～1767） タヴィストック侯爵

ジョン・キャロル（1735～1815） カトリック



フランシス・ラッセル（1765～1802） 第5代ベッドフォード公※画像なし
トマス・キャンベル（1763～1845） 復古運動

アイルランドおよびアメリカの牧師、伝道師、農場経営者である。ディサイプルス教会の指導者として、アメリカで起こった第二次大覚醒において高名な改革者となった。wikiより



ジョン・ラッセル（1766～1839） 第6代ベッドフォード公



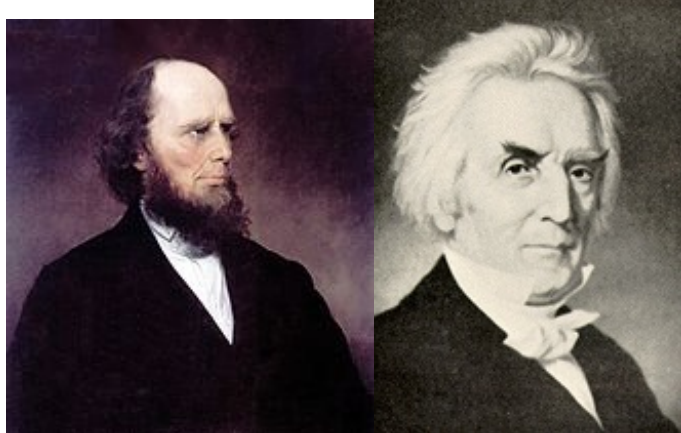
ウィリアム・ラッセル（1767～1840） フランシス・ラッセルの子※画像なし
バートン・W・ストーン（1772～1844） 長老派

バートン・ストーンは、19世紀初めのアメリカで起こった第二次大覚醒において、重要な指導者・牧師である。彼は当初、長老派教会にて聖職者となり、1801年にはケンタッキー州にてケー

ンリッジ・リバイバルを導いた。しかしストーンは長老派教会の教理、特にウェストミンスター信仰告白に関する疑問・論争をきっかけに長老派教会から分離すると、1803年に他の4名とともにスプリングフィールド長老会を創設した。wikiより



フランシス・ラッセル（1788～1861） 第7代ベッドフォード公
ウィリアム・チャニング（1780～1842） ユニテリアン・ユニヴァーサリスト



ジョン・ラッセル（1792～1878） 第32代イギリス首相、初代ラッセル伯爵

コーネリアス・ヴァンダービルト（1794～1877） ヴァンダービルト財閥祖

チャールズ・フィニー（1792～1875） 第二次大覚醒指導者

アレクサンダー・キャンベル（1788～1866） 復古運動

1艘のボートによる海運業から身を起こし、蒸気船で事業を拡大、米英戦争では政府の御用商人となった。その後、鉄道事業に進出し、ニューヨーク・セントラル鉄道やニッケル・プレート鉄道を支配下に置き、「鉄道王」と呼ばれた。アメリカ合衆国の鉄道史を語る上で欠かせない人物である。コーネリアス・ヴァンダービルト [wiki](#)より

※ジョン・ラッセルは、影武者をアメリカに送り込みコーネリアス・ヴァンダービルトを演じさせた。ヴァンダービルトは第二次大覚醒を指導したフィニーとよく似ているが、同一人物だろう。



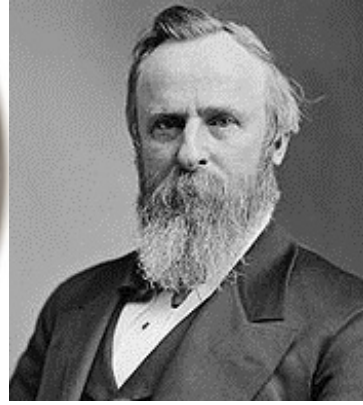
ウィリアム・ラッセル（1809～1872） 第8代ベッドフォード公※画像なし

ブリガム・ヤング（1801～1877） モルモン教指導者

アメリカ合衆国の宗教家、政治家。1847年から末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長をつとめ、ソルトレイクシティを設立し、1850年から1858年までユタ準州初代知事をつとめていた。また、末日聖徒イエス・キリスト教会の十二使徒定員会の大管長を1838年から1847年までつとめた。ブリガム・ヤング大学はその榮譽を称えて名付けられた。 [wiki](#)より

※モルモン教創立者ジョセフ・スミス・ジュニア兄弟の殺害を指示し、モルモン教を篡奪したと考えられる。ジェームズ・ブキャナン大統領率いるアメリカ陸軍に対し、ユタ戦争を戦った。

コーネリアス・ヴァンダービルトの子



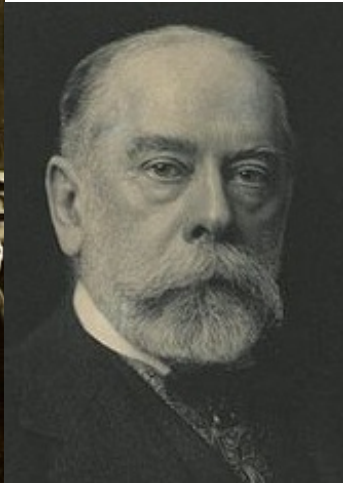
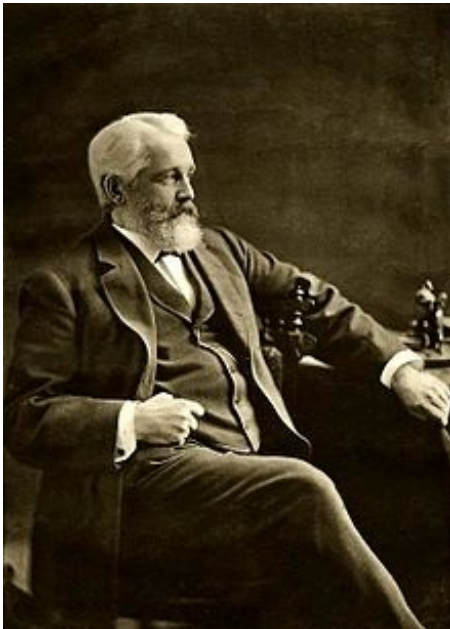
William Henry Vanderbilt (1821~1885)

フランシス・ラッセル (1819~1891) 第9代ベッドフォード公※画像なし

ベンジャミン・タイタス・ロバーツ (1823~1893) 自由メソジスト教会創立

ラザフォード・ヘイズ (1822~1893) 第19代アメリカ大統領

ジョージ・バウトウェル (1818~1905) 初代国税庁長官、アメリカ反帝国主義連盟



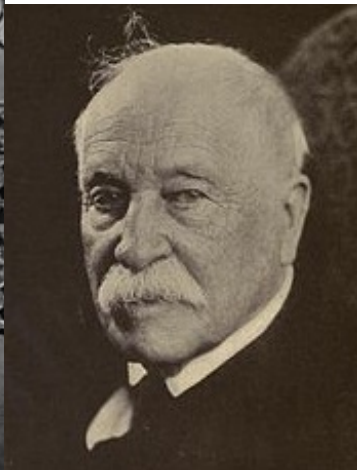
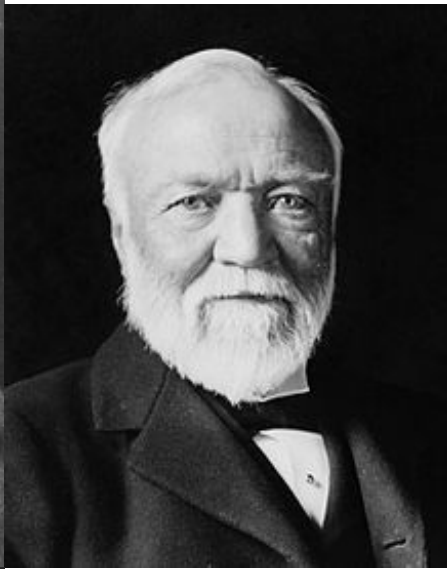
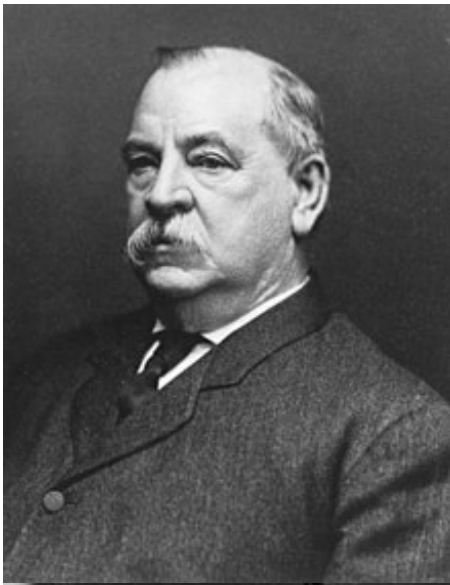
コーネリアス・ジェレミア・ヴァンダービルト (1830~1882) ※画像なし

Edward Atkinson (1827~1905) アメリカ反帝国主義連盟創設

Edwin Lawrence Godkin (1831~1902) The Nation誌設立、アメリカ反帝国主義連盟

カール・シュルツ (1829~1906) 革命家、政治家、改革者、アメリカ陸軍将軍、著作家、新聞編集者、ジャーナリスト、アメリカ反帝国主義連盟

※コーネリアスの影武者エドワード・アトキンソンが「アメリカ反帝国主義連盟」を結成した。
この組織に参加した人々は例によってみな名前が違う家族だった。



ジョージ・ワシントン・ヴァンダービルト (1832~1836)

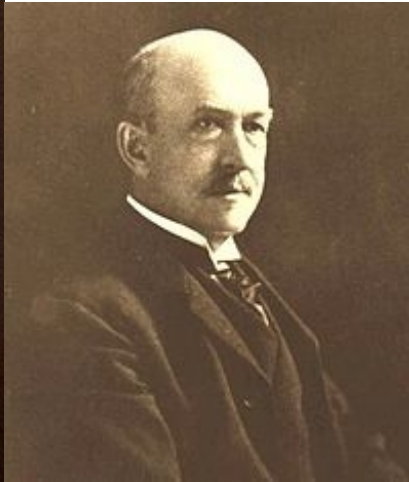
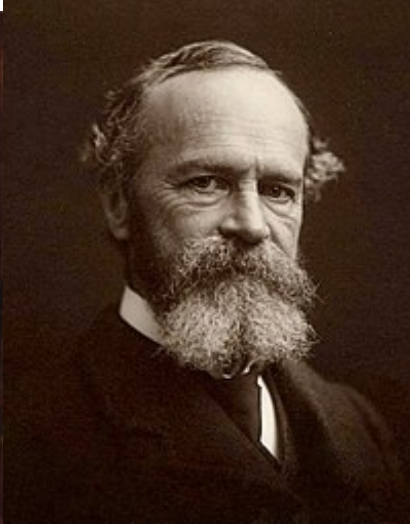
グローバー・クリーブランド (1837~1908) 第24代アメリカ大統領、アメリカ反帝国主義連盟

アンドリュー・カーネギー (1835~1919) カーネギー鉄鋼会社創業、アメリカ反帝国主義連盟

チャールズ・フランシス・アダムズ (1835~1915) ユニオン・パシフィック鉄道社長、アメリカ反帝国主義連盟

William Dean Howells (1837~1920) 編集者、アメリカ反帝国主義連盟

William Henry Vanderbiltの子



コーネリアス・ヴァンダービルト2世 (1843~1899)

アンブローズ・ビアス (1842~?) 作家、アメリカ反帝国主義連盟

ヘンリー・ジェームズ (1843~1916) 作家、アメリカ反帝国主義連盟

ウィリアム・ジェームズ (1842~1910) 哲学者・心理学者、アメリカ反帝国主義連盟

ウィリアム・グラハム・サムナー (1840~1910) イェール大学教授、アメリカ反帝国主義連盟



マーガレット・ルイーザ・ヴァンダービルト (1845~1924) ※画像なし

Josephine Shaw Lowell (1843~1905) 改革者、アメリカ反帝国主義連盟

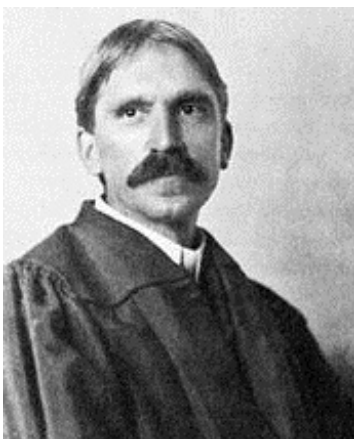


ウィリアム・キッサム・ヴァンダービルト (1849~1920)

Moorfield Storey (1845~1929) 法律家、アメリカ反帝国主義連盟

サミュエル・ゴンパーズ (1850~1924) 労働運動指導者、アメリカ反帝国主義連盟

デイビッド・スター・ジョーダン (1851~1931) 大学学長、アメリカ反帝国主義連盟



フレデリック・ウィリアム・ヴァンダービルト (1856~1938) ※画像なし

ジョン・デューイ (1859~1952) プラグマティズム思想家、アメリカ反帝国主義連盟



エリーザ・オスグッド・ヴァンダービルト (1860~1936)

ジェーン・アダムズ (1860~1935) ソーシャルワーク先駆者、アメリカ反帝国主義連盟

Cornelius Vanderbilt IIの子





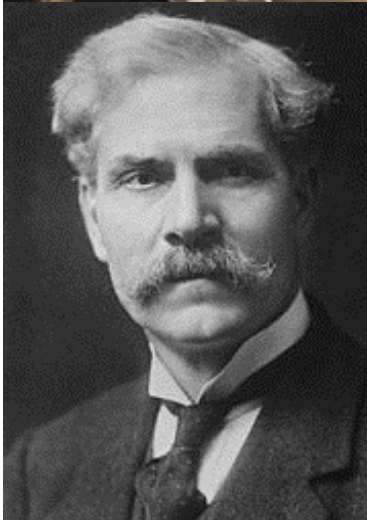
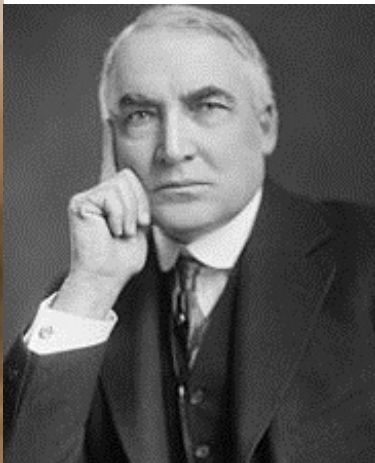
ウィリアム・ヘンリー・ヴァンダービルト2世 (1870~1892)

Edgar Lee Masters (1868~1950) 詩人、アメリカ反帝国主義連盟

William Vaughn Moody (1869~1910) 詩人、アメリカ反帝国主義連盟

Oswald Garrison Villard (1872~1949) ニューヨークイブニングポスト編集、アメリカ反帝国主義連盟

Finley Peter Dunne (1867~1936) ユーモアリスト、アメリカ反帝国主義連盟



Alfred Gwynne Vanderbilt (1877~1915) ※画像なし

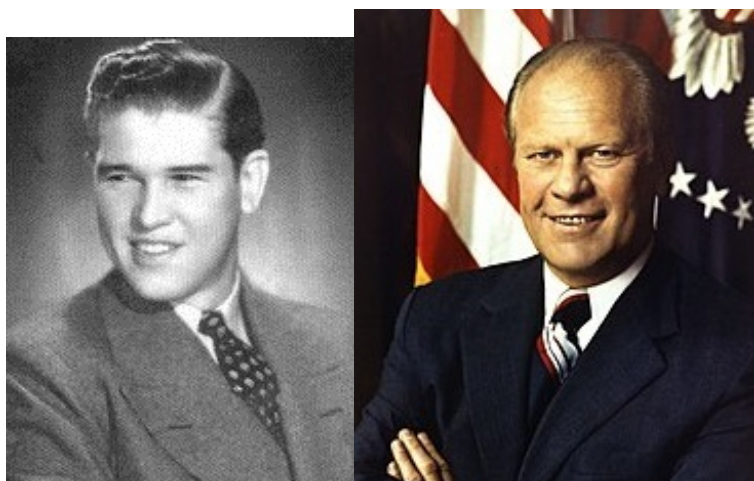
クロード・ラッセル (1871~1959) 第6代ベッドフォード公ジョン・ラッセル曾孫※
画像なし

ベン・M・ボガード（1868～1951） アメリカ・バプティスト連盟創立※画像なし
チャールズ・パーハム（1873～1929） ペンテコステ派初代指導者
ウォレン・ハーディング（1865～1923） 第29代アメリカ大統領
スタンリー・ボールドウィン（1867～1947） 第55、57、59代イギリス首相
ラムゼイ・マクドナルド（1866～1937） 第56、58代イギリス首相
ネヴィル・チェンバレン（1869～1940） 第60代イギリス首相



レジナルド・クレイプール・ヴァンダービルト（1880～1925）
ハーバート・フーヴァー（1874～1964） 第31代アメリカ大統領
クレメント・アトリー（1883～1967） 第62代イギリス首相

William Henry Vanderbiltの孫



George Washington Vanderbilt III（1914～1961） Alfred Gwynne Vanderbiltの子
ジェラルド・R・フォード（1913～2006） 第38代アメリカ大統領

※ フォードはジョージとは同一人物の可能性が高い。



Gloria Laura Vanderbilt (1924～2019) レジナルド・クレイプール・ヴァンダービルトの子

マーティン・バジル・ポール・ラッセル (1918～?) 第6代ベッドフォード公ジョン・ラッセル玄孫※画像なし

ビリー・グラハム (1918～2018) リバイバル運動指導者、テレビ伝道師

ジミー・カーター (1924) 第39代アメリカ大統領

※グラハムとカーターはグロリアの影武者（レジナルド・クレイプール・ヴァンダービルトの庶子）として生まれた。カーターとグラハムは確かに似ている。そういえば、カーターはディープステートの連中ともよく会い、写真にも納まっている。

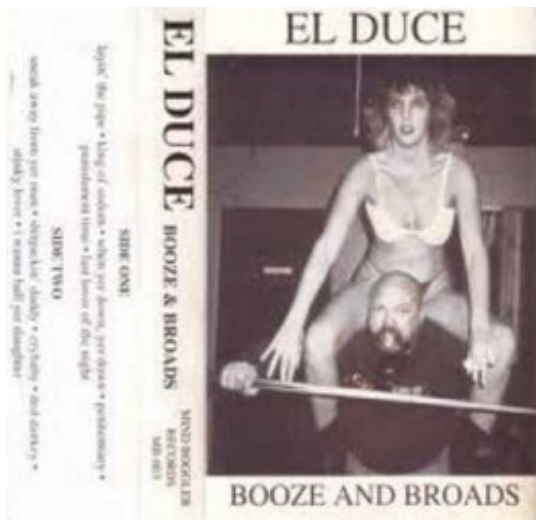
ジョン・スペンサー＝チャーチル第10代マールバラ公の曾孫



Consuelo Sarah Russell (1946) ※画像なし
マイケル・グリーン (1947) 経済学者



チャールズ・スペンサー＝チャーチル (1955) 第12代マールバラ公
Eldon Hoke (1958～1997) El Duceヴォーカル



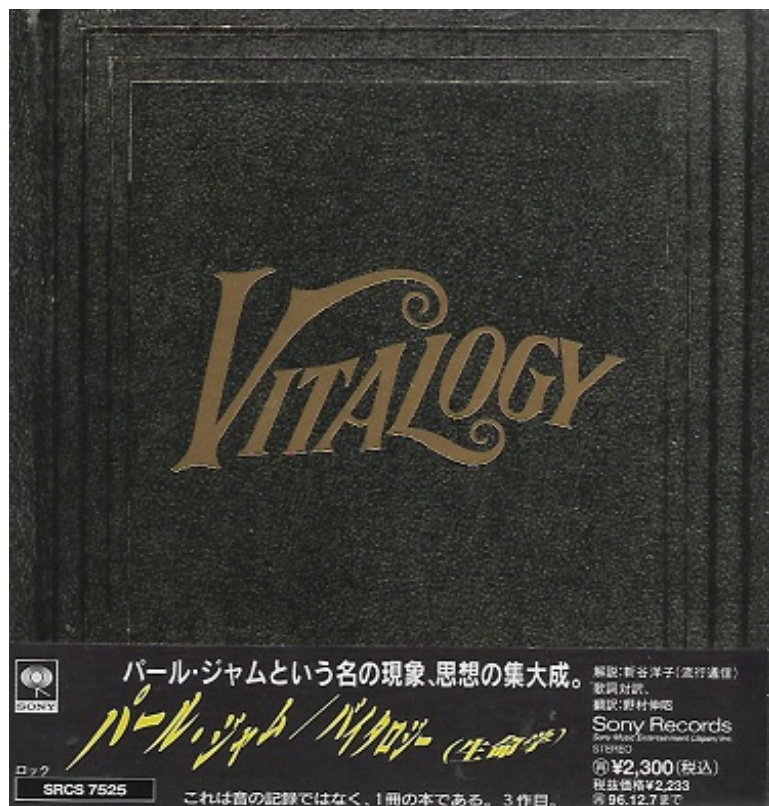
※画像はEl Duceのカセット・カバー。見て分かるように、Eldon Hokeは売れないゴミみたいなロックバンドEl Duceのヴォーカルである。彼が初めて脚光を浴びたのは、「オレがカートを殺した」と名乗り出たときだ。それでも尚不発でしかなかったが、この告白はどうやら本当だったようで、1997年に不審死を遂げている。スベったうえに殺されるとは。カートは、寝ている間にレイプを提供するサービスがあることを「レイプ・ミー」で歌っていたが、そのために殺された。

Gloria Laura Vanderbiltの子（レジナルド・クレイプール・ヴァンダービルトの孫）



カーター・ヴァンダービルト・クーパー（1965～1988）

エディ・ヴェダー（1964） パールジャムヴォーカル



※画像はアルバム「ヴァイタロジー」のジャケット。当時のコピー「これは音の記録ではなく、1冊の本である」。いやCDだろ、とか思いましたけど。そのヘンなコピーを裏切ることなく内容も何かヘンでした。ただ、聴いている内に聴けるようにはなったものの、ニルヴァーナのようにガッシリと心を掴まれることはなかった。

カーターは23歳で自殺したことにして潜伏し、エディ・ヴェダーに変身してロック界に再登場した。1988年、ちょうどグランジ爆発前夜（1991年）でした。なぜかパールジャムの音楽に共感することは不可能なのだが、さもありなん。タナトスに人の心を打つものは作れない。カート・コバーンの思惑は当たっていた。エディは死んだカートのアイディアを流用し、作られた反抗を演じている。



アンダーソン・クーパー（1967） CNNリポーター

※ゲイだといわれているが、確かに爬虫類ぽい雰囲気がある。フェイクニュースの尖兵。

アルフレッド・グウェン・ヴァンダービルト三世の子（Alfred Gwynne Vanderbiltの曾孫）



ジェームズ・ヴァンダービルト（1975）ハリウッド脚本家

ジョナサン・デイヴィス（1971）KORNヴォーカル



※画像はKORNの1stアルバムのジャケット。KORNの名前は遺伝子組み換えコーンに準えたのでしょうか？それにしても、ジェームズとジョナサンの顔はくりそつだ。同一人物か？KORNの音楽は、昔からCIAの軽音楽部かと思ってたくらい無意味だ。父親に性的虐待された件は「そうすればウケるだろ」くらいの気持ちでしかない。本体ジェームズは誤誘導のつもりか、フィンチャー監督「ゾディアック」の脚本を書いている。

教如の一族～織田信雄、東山天皇、仁孝天皇、孝明天皇、カメハメハ大王、ハワイ王国、トンガ王国、サモア独立国、フィジー共和国、エチオピア連邦民主共和国



教如（1558～1614）

織田信雄（1558～1630）

藤堂高虎（1556～1630）※画像なし

中国：慶長の役（1597）

日本：関ヶ原の合戦（1600）

※顕如は、偉大な武将、織田信長対策として、証如の子（荒木村重、明智光秀）を投入して信長の周囲に配置したが、顕如の子、教如も織田信雄に化けて秀吉や家康の至近距離にスタンバっていた。大谷は有利な方に付き、味方を演じながら、頃合を見計らって裏切り、すべてを篡奪することがある。信雄が教如である証拠に、本能寺の変の際、近江国まで進軍したものの、戦わないまま撤退している。信雄は「伊賀忍者が不穏な動きをしていた。兵数が2500では心もとない」と無理がある言い訳を残している。伊賀の乱ではわざと負けて信長に「親子の縁を切る」と叱責されながら、本能寺の変直後には失火で安土城を焼いている。教如による意図的な陰謀だとして考えられない。

織田信雄（教如）の子

織田信良（1584～1626）



織田高長（1590～1674）

織田信良の子

稲葉信通正室（生没年不詳）

稲葉知通（1652～1706） 稲葉信通正室の子

稲葉恒通（1690～1720） 稲葉知通の子

織田高長の子

織田長頼（1620～1689）

織田信武（1655～1694） 織田長頼の子



織田信休（1678～1723） 織田信武の子※画像なし
東山天皇（1675～1710） 第113代天皇



中御門天皇（1702～1737） 第114代天皇・東山天皇第五皇子
閑院宮直仁親王（1704～1753） 東山天皇第六皇子



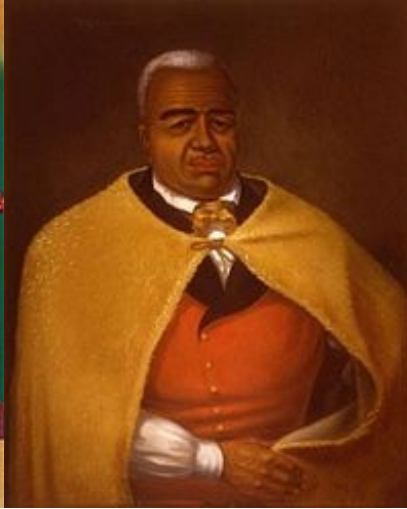
桜町天皇（1720～1750） 第115代天皇・中御門天皇の子
一条道香（1722～1769） 公卿・江戸幕府関白※画像なし
九条尚実（1717～1787） 公卿・江戸幕府関白※画像なし

※一条道香と九条尚実は、宝暦事件で尊王論者を弾圧した。宝暦事件を指揮していたのは竹内敬持（乾隆帝）だった。



後桜町天皇（1740～1813） 第117代天皇・桜町天皇の子
桃園天皇（1741～1762） 第116代天皇・桜町天皇の子
鷹司輔平（1739～1813） 公家・江戸幕府関白※画像なし

※鷹司輔平は、宝暦事件で尊王論者を弾圧した。宝暦事件を指揮していたのは竹内敬持（乾隆帝）だった。



後桃園天皇（1758～1779） 第118代天皇※桃園天皇の子

カメハメハ1世（1758～1819） ハワイ王国初代王 在位1795～1819



※画像はハワイ原住民によるクック船長惨殺事件

※カメハメハ大王の正体は後桃園天皇だった。カメハメハの由来は後桃園天皇の後桃の部分の可能性はある。後桃＝コムオムオ＝コムホムホ＝カメハメハとなる。一般的には「カメ、ハメハ」と読んでいるが、「ドラゴンボール」の影響もあり、「カメハメ、ハ」と読んでいる人もいるだろう。だが実際は「カ、メハメハ」と読むのかもしれない。

後桃園天皇は1779年に死んだとされているが、実際には日本を離れてハワイに移った。まさにこの年に、ジェームズ・クック船長がハワイの住民に惨殺されて食べられたという事件が起きた。じつは、この事件はハワイに到着したばかりの後桃園天皇が指揮したものである。

後桃園天皇はタナトスの一族としてハワイの領土を守らなくてはならなかった。そのためにはちよくちよくハワイに来るクック船長を殺さねばならない。しかし、ただ殺したら反撃する口実を与えてしまう。そこで、タナトス伝統の奥義として、「敵を怒らせる」という、現代でも集団ストーカーで使われている手が使われた。

まず、クック船長を怒らせるために後桃園天皇はハワイの住民にカッターボートを盗むことを指示した。原住民が白人の所有物を失敬することは多々あり、たいていの場合には穏便に済むはずが

、この時ばかりは穏便にコトは運ばず、小競り合いが起きた。住民が引かなかったのは後桃園天皇の指示であり、クック船長を殺すのが目的だからだ。どうしても怒らせたかった。所有物を盗まれた上に小競り合いが起きたため、イライラしたクック船長は思わず「塵ひとつに至るまで返還せよ！」と激怒した。

船長が激怒するのを待っていた住民は、これをきっかけにクック船長を惨殺した。「自分たちは何もしていないのに勝手に船長が激怒した。怖かった。だから殺される前に殺した（という発言があったと推測）」。これは集団ストーカーでも加害者がよく取る態度である。集団ストーカーの場合は「自分たちは何もしていないのに標的が勝手に激怒した。怖かった。だから警察を呼んだ」ということになるが、これにより船長は殺され、食べられた。肉を食べたのは他の乗員に対する威嚇という思惑も後桃園天皇側にはあっただろう。



近衛維子（1760～1783） 後桃園天皇后宮夫人※画像なし

カアフマヌ（1768～1832） カメハメハ1世王妃

※カメハメハ1世の死後、副王としてカメハメハ2世、およびカメハメハ3世のクヒナ・ヌイ（摂政）を務めた。カメハメハ1世の王妃カアフマヌの正体が後桃園天皇の後宮夫人だというのは興味深いことだ。



光格天皇（1771～1840） 第119代天皇※東山天皇の曾孫

※同じ織田信雄の子孫である勸修寺経逸女の娘ただ子と結婚して仁孝天皇（カメハメハ2世）を儲けている。

光格天皇の子



仁孝天皇（1800～1846） 第120代天皇※勸修寺ただ子の子

三条実万（1802～1859） 幕末の公卿

鷹司輔熙（1807～1878） ※画像なし

近衛忠熙（1808～1898） 孝明天皇養育係※画像なし

堀田正睦（1810～1864） 下総佐倉藩第5代藩主・江戸幕府老中首座

カメハメハ2世（1797～1824） ハワイ王国第2代王 在位1819～1824



猗宮（1815～1819）※画像無し

カメハメハ3世（1813～1854） ハワイ王国第3代王 在位1825～1854

セル・エペニサ・ザコンバウ（1815～1883） フィジー王 在位1871～1874

※仁孝天皇の子である猗宮は早世したことにして潜伏し、ハワイに移住した。猗宮はカメハメハ3世としてハワイ王に即位したが、彼の時代にはフィジーなどへの植民が行われた。カメハメハ3世はフィジーでザコンバウに変身し、フィジー王に即位した。

カメハメハ3世は、家族（西本願寺の一族）でありながらライバルである大英帝国を追放するため、必要以上に人喰いの風習を見せ付けた。以下はブライアン・マリナー著「カニバリズム」からの抜粋である：

・「あらかじめ人が殺され、様式に従って料理されます。酋長も普通の人も女も子供たちもが恐るべき歓喜に浮かれて宴会を待つのです。信頼できる筋からの話によると、こういった宴会で200人がむさぼり食われたこともあったそうです。」若い宣教師記（1836年）

・「犠牲者はしばらくの間生かされ、太るように食物をふんだんに与えられる。生贄にする時は、犠牲者を正座させ、両手を前に付かせる。それから四肢や関節を動かさないように縛る。この格好のまま犠牲者を熱した石の上に載せ、上から葉や土を被せ、生きたまま焼いてしまう」デビッド・カーギル牧師記（1838年）

・「1839年10月31日、木曜日。今朝我々はショッキングな光景を目撃した。男女、子供たちの死体20体がタノアから贈り物としてレワに運ばれてきた。死体は料理して食べるように人々に配られた。死体は海の中や浜辺を引き回された。子どもたちは少女の死体を弄び、手足を切断したりして遊んだ。男女が集まり、白髪の老人と若い女性の死体を解体した。人の内臓が布教所の前の川を流れてきた」デビッド・カーギル牧師記（1839年）

・カーギルは庭で人の首を見つけた。「頭は我々を不快にさせ、ショックを与えるために夜の内

にわざと庭に投げ入れられたものに違いない」 デビッド・カーギル牧師記（1839年）



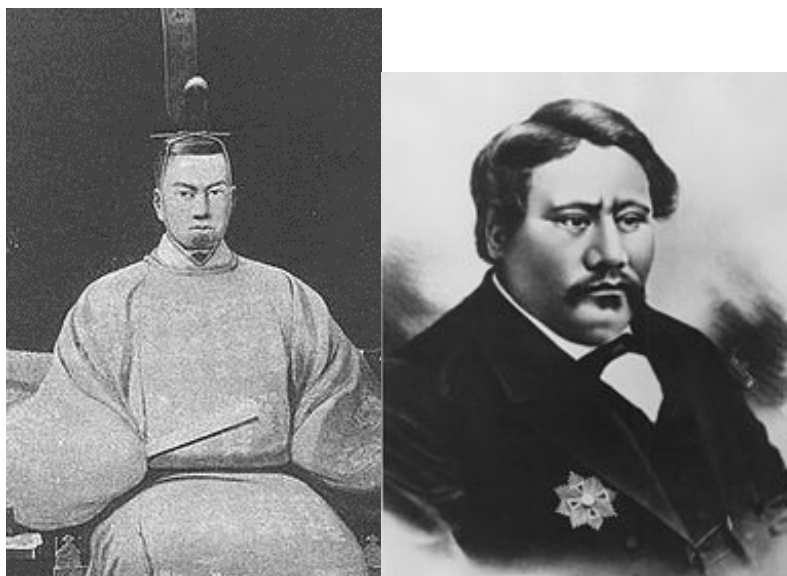
※画像はハワイでの喰人の様子。カーギル牧師は、フィジー人の残虐行為が自分たちに対する威嚇だと、ある程度認識している。この威嚇を指示したのはカメハメハ3世（ザコンバウ）だと考えられる。

仁孝天皇の子

安仁親王（1820～1821）

阿部正弘（1819～1857） 備後福山藩第7代藩主・江戸幕府老中首座

※阿部正弘は安政の改革を断行した。



孝明天皇（1831～1867） 第121代天皇

カメハメハ5世（1830～1872） ハワイ王国第5代王 在位1863～1872



節仁親王（1833～1836）※画像なし

カメハメハ4世（1834～1863） ハワイ王国第4代王 在位1854～1863

当時のハワイ王国は、急増するアメリカ系移民から政治的・経済的に多くの圧力を受けるようになっていた。カメハメハ4世はアメリカがハワイを征服するのではないかと恐れ、通商・貿易におけるアメリカへの依存を低めるよう努め、またイギリスを初めとするヨーロッパの国々との取引を模索した。しかし彼の在位期間は、十分な効果を上げられるほど続かなかった。カメハメハ4世wikiより



経宮（1836）※画像無し

ルナリロ（1835～1874） ハワイ王国第6代王 在位1873～1874

カラカウア（1836～1891） ハワイ王国第7代王 在位1874～1891

※初の外国元首の来日となった日本では、明治天皇と会見しカイウラニ王女と山階宮定磨王（のちの東伏見宮依仁親王）の政略結婚を要請した。これはハワイ王室が後桃園天皇と仁孝天皇の後継だということを示している。

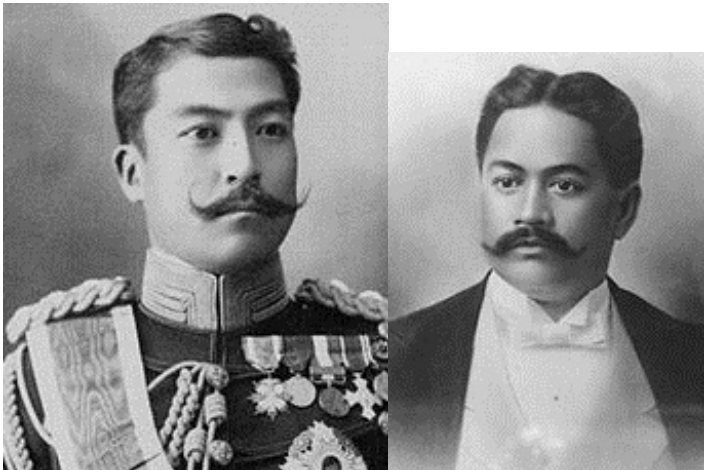


恭宮（1837～1838）※画像無し

リリウオカラニ（1838～1917） ハワイ女王 在位1891～1893

※リリウオカラニ女王の時代にハワイはアメリカに併合されたが、東本願寺門主大谷光勝や大谷光榮の子が治める大日本帝国は当然、東本願寺門主教如の末裔であるハワイ王国の独立を支持し、ハワイ女王も大日本帝国に救援を要請していた。このような助け合いは、先祖を同じくするもの同士ならではである。

孝明天皇の子



閑院宮載仁親王（1865～1945） 日本赤十字社総裁

David Kawānanakoa（1868～1908） カラカウア2世父



東伏見宮依仁親王（1867～1922）

※孝明天皇の養子であるが、1885年（明治18年）、ハワイ王カラカウアが来日した。外国元首の初来日であった。カラカウア王は赤坂離宮で明治天皇と会談した際、幾つか提案をした。その一つが姪のカイウラニ王女（当時5歳）と依仁親王（当時13歳）との縁談だった。国力増強に努めている明治新政府にはそこまでの余力はないとして断った。

閑院宮載仁親王の子

篤仁王（1894）

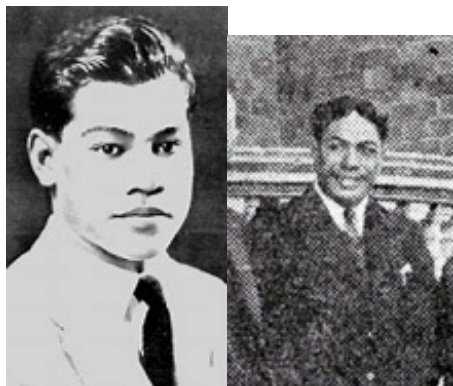
アポロシ・ナワイ（1885～1946） ヴィチ・カンバニ運動指揮者



季子女王（1898～1914）

アビゲイル・カピオラニ・カワナナコア（1903～1961） David Kawānanakoaの子

※季子女王は、16歳で死んだことによりハワイに移住し、アビゲイルとして生きた。ハワイ王は廃位されたが、子孫であるカワナナコア家がハワイ王位を継承し続けた。



寛子女王（1906～1923）※画像なし

カラカウア2世（1904～1953） カワナナコア朝初代王※David Kawānanakoaの子

トゥプア・タマセセ・メアッオレ（1905～1963） サモア初代国家元首

※この時代に、教如の一族カラカウア2世はサモアに進出して初代国家元首に就任している。





安藤信和（1920～2014） 孝明天皇の曾孫※画像なし

エドワード・A・カワナナコア（1924～1997） カワナナコア朝ハワイ王※アビゲイルの子

カミセセ・マラ（1920～2004） フィジー初代首相

ギルマ・ウォルドギオルギス（1924～2018） エチオピア連邦民主共和国第2代大統領
任期2001～2013

Fatafehi Tu 'ipelehake（1922～1999） トンガ女王サローテ・トゥポウ3世の子

ジョージ・アリヨシ（1926） 第3代ハワイ州知事 任期1974～1986

※この当時、教如の一族はフィジー、トンガに進出し、エチオピアにまで進出している。更に、アリヨシがハワイ州知事に就任したことで、ハワイ領土が東本願寺門主教如の一族の手に戻ったということができる。エチオピア帝国はダヴィデの一族が築いた国だが、今ではタナトスの一族に篡奪されているようだ。



朝宏王（1944） 孝明天皇の玄孫※画像なし

ベン・カエタノ（1939） 第5代ハワイ州知事 任期1994～2002

高見山大五郎（1944） 高砂部屋元関脇

トゥイマレアリツィファノ・スアラウヴィ2世（1947） 第3代サモア国家元首

ネガソ・ギダダ（1943） エチオピア連邦民主共和国初代大統領※画像なし

ジョン・ワイヘエ（1946） 第4代ハワイ州知事 任期1986～1994※画像なし

※朝宏王の画像は確認できないが、ベン・カエタノは日本人扱いなので朝宏王本人の可能性がある。

Fatafehi Tu 'ipelehakeの子



‘Elisiva Fusipala Vaha ‘i（1949～2014）※画像なし

イサイアス・アフエウエルキ（1946） エリトリア初代大統領 任期1993～現在

※教如の一族はエチオピアを足がかりにエリトリアを築いた。教如の一族は、エリトリアを拠点にアフリカ大陸内陸部への、或いは北アフリカ、またはアラブ地域への進出を狙っているのだろうか？



Nikotimasi Fatafehi Laufilitonga Kakau Vaha ‘i（1971） elisivaの子※画像なし

アビィ・アハメド（1976） 第4代エチオピア首相 任期2018～現在

※アハメド首相は、上記のイサイアス大統領とは親子の関係である。そのおかげで、エリトリアとの和平が実現した（つまり冷戦終結と同じで単なる芝居）。その長年終結しなかったエリトリアとの和平を実現したことが評価され、ノーベル平和賞を受賞したが、その後、エチオピア国内で暴動が発生し、10月の終わりまでに67人が死亡している。しかし、ノーベル賞受賞は当然の如くイカサマだが、この暴動もフェイクのようだ。

タウファアハウ・トゥポウ4世の子



サローテ・マフィロ・ピロレヴ・トゥイタ（1951）

リンダ・リングル（1953） 第6代ハワイ州知事 任期2002～2010

サーレワーク・ゼウデ（1950） エチオピア連邦民主共和国第7代大統領 任期2018～現在



トゥポウ6世（1959） トンガ王 在位2012～現在

ムラトゥ・テシヨメ（1956） エチオピア連邦民主共和国第6代大統領 任期2013～2018

デービッド・イゲ（1957） 第8代ハワイ州知事 任期2010～現在

トゥポウ6世の子



Princess Lātūfuipeka Tuku 'aho（1983）

トゥルシー・ギャバード（1985） 民主党議員

※トゥルシー・ギャバードは、にわかに民主党次期大統領候補として登場した。仲間の民主党とも不和の状態にあるという。氏が真にアメリカのためを考えているならいいが、どうも、れいわ新撰組と同じように、タナトスの生き残りを賭けているようにしか見えない（気のせいということもあるが）。滑り止めを成立させるために、敵を欺くためのパフォーマンスはタナトスがよくやることだ。彼らは罪悪感がないのでウソを言っているように見えないところが怖い。それで小沢氏のように騙されることが多い。



Tuputo 'a 'Ulukalala（1985）

ジャワル・モハメド（1986） オロモ・メディア・ネットワーク創設

※ジャワルは、トゥポウ6世の子の影武者として生まれた。彼は、自分たちに有利な世論作りのためにエチオピア国内にフェイクメディアを創設し、家族であるアハメド首相と対立している芝居をしながら裏で連携している。ジャワルはアハメド首相の失言を口実に暴動を指揮しているが、この暴動の目的は敵の排除である。表向きの敵（アハメド首相）と戦うフリをしながら、影でほんとうの敵を討つのだ。今までに67人が死んでいるが、彼らは、知らない間にタナトスの敵に認定された人々（知的、正直、勇敢、影響力が強い人々）だと考えられる。

宣如の一族～ハプスブルグ家、ブルボン家、プファルツ朝スウェーデン王、フルベ聖戦、フランス共和国、イスラーム・マグリブ諸国のアル=カーイダ機構



宣如（1602～1658）

アレクサンデル7世（1599～1667） ローマ教皇 在位1655～1667

フェリペ4世（1605～1665） ハプスブルグ朝スペイン王 在位1621～1665

相良頼寛（1601～1667） 肥後人吉藩の第2代藩主

イギリス：土地囲い込みに対する農民の反抗（1607）

スペイン：ユダヤ人迫害（1609）

中国：山東白蓮教徒の乱（1622）

朝鮮：李カツの乱（1624）

朝鮮：劉興治の乱（1630）

フランス：ノルマンディー農民の反乱（1639）

西欧：蓋然説、イエズス会非難（1666）

※宣如は、浄土真宗を邪教として禁じている薩摩藩に潜入するべく、相良氏の血筋を篡奪し、人吉藩を掌握した。宣如は人吉藩を基地に、隣の薩摩藩に「隠れ念仏」の土壌を形成した。この土壌形成が、後の薩摩戦争・薩長同盟・西南戦争に於いて奏功することになる。

また、一方ではイギリス、ノルマンディーで農民の反乱が起きているが、農民の反乱の背後には必ず大谷がいる。宣如はアレクサンデル7世としてローマ教皇を務めながら、影で大量の信者に指示し、農民の反乱を指揮していたのだ。

フェリペ4世の子



マリア・マルガリータ（1621）※画像なし

カール10世（1622～1660） プファルツ朝初代スウェーデン王



マリア・アンブrosia（1655）※画像なし

カール11世（1655～1697） プファルツ朝第2代スウェーデン王

フェリペ4世の子



マリア・エウヘニア（1625～1627） ※画像なし

クリスティーナ（1626～1689） ヴァーサ朝スウェーデン女王 在位1632～1654

※マリア・エウヘニアは2歳で死んだことにして、敵であるダヴィデの一族が統治するヴァーサ朝に養子として送られた。そして、宣如の一族の思惑通り、クリスティーナは子を残さずにヴァーサ朝最後の女王としてヴァーサ朝をつぶした。

フェリペ4世の子



マリア・アナ・アントニア（1636） ※画像なし

マリアナ・デ・アウストリア（1634～1696） フェリペ4世の妃

※マリアナは、早世したことにして敵であるダヴィデの一族が治めるハプスブルグ朝神聖ローマ皇帝フェルディナント3世のもとに養子として送り込まれた。その後、父であるフェリペ4世（宣如）と結婚している。



カルロス2世（1661～1700） ハプスブルグ朝スペイン王・マリアナ・デ・アウストリアの子

フェリペ4世の子



マリー・テレーズ・ドートリッシュ（1638～1683） フェリペ4世の子・ルイ14世の妃



ルイ・グラン・ドーファン（1661～1711） マリー・テレーズ・ドートリッシュの子



ルイ（1682～1712） ルイ・グラン・ドーファンの子



ルイ15世（1710～1774） ブルボン朝第4代フランス王



ルイ・フェルディナン（1729～1765） フランス王太子・ルイ15世の子

ルイ・フェルディナンの子



マリー＝テレーズ（1746～1748） ※画像なし

カール13世（1745～1818） ホルシュタイン＝ゴットルプ朝スウェーデン王

※当初、保身のために女子として育てられた。



エリザベート・フィリップーヌ・ド・フランス（1764～1794） ※画像なし
カール14世ヨハン（1763～1844） ベルナドッテ朝初代スウェーデン王

※保身のために当初は女子として育てられた。

ルイ・フェルディナンの子



ルイ16世（1754～1793） ブルボン朝第5代フランス王
ウスマン・ダン・フォディオ（1754～1817） ソコト帝国初代皇帝※画像なし

※マリー・アントワネットは確実に処刑されたが、ルイ16世は宣如の一族であるため、身代わりが処刑され、本体はアフリカに逃亡した。逃亡先のハウサ諸国にて、ウスマン・ダン・フォディオを名乗り、ソコト帝国を築いた。ルイ16世はアフリカ人イスラム教徒を指揮して「フルベの聖戦」を実施したが、フルベの由来はブルボンである。ブルボン=フルボン=フルベとなる。



ルイ18世 (1755~1824) 王政復古期フランス王



シャルル10世 (1757~1836) 王政復古期フランス王



ルイ・アントワーヌ (1775~1844) アングレーム公・シャルル10世の子

セク・アマドゥ (1776~1845) マッシーナ帝国※画像なし

※ルイ・アントワーヌは、ロンドンに逃亡したが、ルイ16世が逃亡したアフリカにも赴き、セク・アマドゥを名乗ってマシーナ帝国を築いた。ルイとセクの生没年が一年違いなのが興味を引くところである。明らかに同一人物である。



ルイ17世 (1785~1795) ルイ16世の子

ウマル・タル (1794~1864) トゥクロール帝国皇帝※画像なし

アブー・セッキン・モハマド4世 (?~1870) ケンガ朝バギルミ王 在位1858~1870※画像なし

アリ・イブン・ムハマド (?~1874) アッバシ朝ワダイ王 在位1858~1874※画像なし

フランソワ・アラゴ (1786~1853) 第25代フランス首相

※ルイ17世は、10歳で死んだことにし、潜伏・逃亡し、アフリカで成人した。ルイ17世は成人してからウマル・タルを名乗り、トゥクロール部族を指揮下に置いてトゥクロール帝国、バギルミ帝国、ワダイ帝国を築いた。その後、フランソワ・アラゴとしてフランスに帰還し、首相に就任している。1853年、彼は再度死んだことにし、アフリカに帰還してその後の20年をトゥクロール皇帝、ワダイ王として過ごしている。



エマニュエル・アラゴ (1812~1896) フランソワ・アラゴの子

パトリス・ド・マクマオン (1808~1893) フランス第3代大統領



エマニュエル・ド・マクマオン（1859～1930） パトリス・ド・マクマオン子※画像無し

アレクサンドル・ミルラン（1859～1943） 第12代フランス大統領

ジャック・アントワン・オリオール（1855～1933） ヴァンサン・オリオール父※画像無し



ヴァンサン・オリオール（1884～1966） フランス第16代大統領

ジョセフ・ミッテラン（生没年不詳） フランソワ・ミッテラン父※画像無し



ジャン・ミルラン（1899～1972） アレクサンドル・ミルランの子※画像無し

ジョルジュ・ビドー（1899～1983） フランス首相

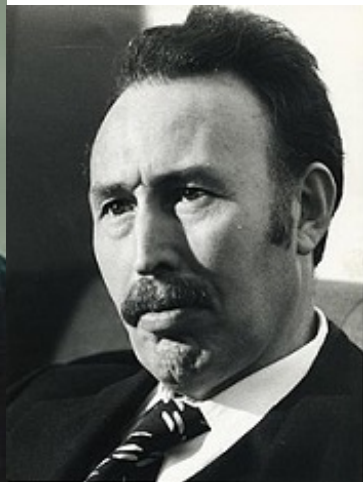
ジャン・エドモンド・ルシアン・ジスカル・デスタン（1894～1982） ヴァレリー・ジスカル・デスタン父※画像無し



ジャック・ミラン (1904~1979) アレクサンドル・ミランの子※画像無し
イーヴ・ゴダール (1911~1975) 秘密軍事組織OAS指導者
ジョルジュ・ポンピドゥー (1911~1974) フランス第19代大統領



フランソワ・ミッテラン (1916~1996) フランス第21代大統領
ロベルト・ジュペ (1915~1998) アラン・ジュペ父※画像無し



ヴァレリー・ジスカール・デスタン (1926) フランス第20代大統領

Mohamed Ben Ahmed Abdelghani (1927~1996) アルジェリア第2代首相※画像無し

Pál István Ernő Sárközy de Nagy-Bócsa (1925~2017) サルコジ父

ハビエル・ド・ヴィルパン (1926~2014) ドヴィルパン父

Houari Boumédiène (1932~1978) アルジェリア第2代大統領

Ali Kafi (1928~2012) アルジェリア国家最高委員会議長※画像無し



アラン・ジュペ (1945) フランス第15代首相

リアミーヌ・ゼルーアル (1941) 第4代アルジェリア元首



アンリ・ジスカル・デスタン (1956) ヴァレリー・ジスカル・デスタンの子※画像無し

ドミニク・ド・ビルパン (1953) フランス第18代首相

ニコラ・サルコジ (1955) フランス第23代大統領

アラン・ジュペの子 (優性遺伝子ブリーダーによる)



ローラン・ジュペ（1967）※画像無し

ハサン・ハッターブ（1967） イスラーム・マグリブ諸国のアル＝カーイダ機構指導者

※時の政府がテロリストを指揮することを考えれば、アラン・ジュペ（リアミーヌ・ゼルーアル）の子と考えられる。顔も良く似ている。



氏名生年不詳の子

アブデルマレク・ドルゥークデル（1970） イスラーム・マグリブ諸国のアル＝カーイダ機構指導者

モフタール・ベルモフタール（1972） イスラム聖戦士血盟団指導者

※時の政府がテロリストを指揮することを考えれば、2人（同一人物？）イッセン・ハブレの子と考えられる。顔も良く似ている。イスラーム・マグリブ諸国のアル＝カーイダ機構が、チュニジアの「ジャスミン革命」とリビアのカザフィー大佐の虐殺を指揮した。イスラーム・マグリブ諸国のアル＝カーイダ機構はフルベの聖戦の残党と考えられる。ベルモフタールはアブデルマレクの影武者と考えられるが、独立してイスラム聖戦士血盟団を結成している。だが、彼の顔は気

持ち悪いので人間の肉を食べていると考えられる。

琢如の一族～英蘭戦争、マラーター王国、ベンガル太守、アワミ連盟、バングラデシュ、タミル・イーラム解放の虎、ジャマート=ウル=ムジャーヒディーン



琢如（1625～1671）

ウィレム2世（1626～1650） オランダ総督

シヴァージー（1627～1680） 初代マラーター王

イギリス：第一次英蘭戦争（1652～54）

日本：江戸明暦の大火（1657）

イギリス：第二次英蘭戦争（1665～67）

イギリス：第1次秘密集会禁止法（1665）

イギリス：ロンドン大火（1666）

朝鮮：全国大飢饉（1671）

※琢如は、証如が築いたものを継承し、ウィレム2世として生きた。彼の人生の目的はイングランドを掌中に治めることだった。ウィレム2世は、イングランド国内のカンタベリー大主教（クリュニー会）と結んでいた。両者の共通の敵は、第一次の時はクロムウェルであり、第二次と

第三次の時はスチュアート朝である。クリュニー会は、ロンドンに火をつけたリイギリス国内に黒死病を撒き散らしたりした。

しかし、かしく、力があり、善人であるデ・ウィット兄弟がオランダに出現すると、ウィレム2世は、すぐに死んだことにして潜伏し、隠れながらデ・ウィット兄弟を監視し、襲撃の機会を狙っていた。ウィレム2世は早速、デ・ウィット兄弟がウィレム3世の暗殺を企てているという嫌疑をデッチあげて逮捕した。コルネリウス・デ・ウィットは無罪を主張したが、この時にウィレム2世は偽証の疑いをかけ、拷問に及んだ。コルネリウスは拷問に耐えて自白を阻んだため、反逆罪については嫌疑不十分となったが、偽証罪で追放処分を受けた。この時、ウィレム2世は大量の信者たちに指示し、デ・ウィット兄弟がいるハーグ監獄博物館を取り囲むことを指示した。デウィット兄弟を殺すようにとウィレム2世に操られた民衆は、看守の制止を振り切って兄弟を引き釣り出して殺害したという。ウィレム2世はうまく不祥事に見せかけているが、これは巧妙に仕組まれた、殺人を目的にした工作事案である。これが大谷の殺し方だ。

その後、潜伏していたウィレム2世はインドに赴いてシヴァージーとしてマラーター王国を築き、イングランドではジョージ・フォックスに化けてクェーカー教を築いた。フォックスの名の由来は稲荷神社の狐である。こういうことが可能なのも異母兄弟の庶子を影武者として動員しているからだ。

ウィレム2世（琢如）の子



ヘンドリック・ファン・ナッサウ＝アウウェルケルク（1640～1708）

アントニー・ヘインシウス（1641～1720）

※ホラント州の法律顧問であり、オランダ東インド会社のデルフト会議所の委員に就任していたヘインシウスは息子であるウィレム3世を支えた。また、ヘインシウスは同時にアウウェルケルクをも演じていたが、アウウェルケルクの時にも軍人として息子であるウィレム3世を支えた。



ヘンリー・デ・マシュー（1648～1720）

ウィリアム・ベンティンク（1649～1709）

ジョン・チャーチル（1650～1722） 初代マールバラ公

シヴァージー（琢如）の子



サンバージー（1657～1689） 第2代マラーター王

ムルシド・クリー・ハーン（1665～1727） 初代ベンガル太守

シュジャー・ウッディーン・ムハンマド・ハーン（1670～1739） 第2代ベンガル太守

アリーヴァルディー・ハーン（1671～1756） 第4代ベンガル太守

ナラサー・ラージャ2世（1672～1714） 第15代マイソール王



シヴァージー2世（1696～1726） 第3代マラーター王

ミール・ジャアファル（1691～1765） 第6代ベンガル太守

シャーフー（1682～1749） 第4代マラーター王



ラージャーラム2世（1726～1777） 第5代マラーター王※画像なし

シラージュ・ウッダウラ（1728～1757） 第5代ベンガル太守

クリシュナ・ラージャ2世（1728～1766） 第18代マイソール王※画像なし

※ウッダウラがじきじきに「ブラックホール事件」を指揮した。彼が、家族であるミール・ジャアファルと敵対関係を演じていたのは、フランスを騙すのが目的だった。大谷の一族であるベンガルとイギリスは、敵であるフランスを戦争に引きずり込みたかった。そのためには、まずベンガルがイギリスと戦争をしなければならなかった。そうなればベンガルと同盟関係を結んでいるフランスは参戦しなければならない。

その口実として、イギリスとベンガルは共謀し、何の罪もないイギリスの一般市民を南国の狭い牢獄に200人も閉じ込め、全員が死ぬまで放置した。そして、イギリス政府は、「我々の家族

を無残に殺した非道なベンガル人を許すわけにいかない！」とイギリス国民に訴え、フランスとの戦争にこぎつけた。これが「ブラックホール事件」である。

シャーフー2世（1763～1808） 第6代マラーター王



プラタープ・シング（1793～1847） 第7代マラーター王

ザイヌッディーン・アリー・ハーン（1791～1821） 第14代ベンガル太守

アフマド・アリー・ハーン（1795～1824） 第15代ベンガル太守



シャハージー（1802～1848） サーターラ藩主

ムバーラク・アリー・ハーン2世（1810～1838） 第16代ベンガル太守

ベンガル太守ムバーラク・アリー・ハーン2世の子



マンスール・アリー・ハーン（1830～1884） ベンガル太守



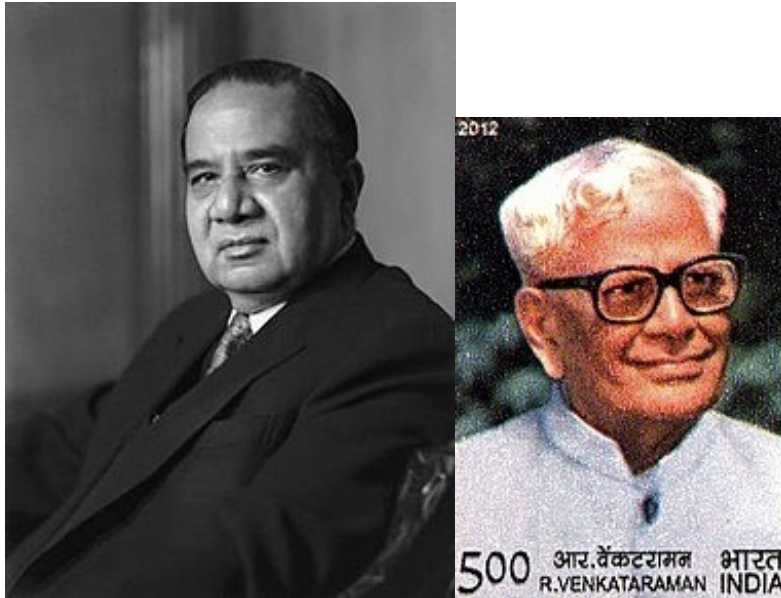
ハサン・アリー・ミールザー・ハーン（1846～1906） マンスール・アリー・ハーンの子（ベンガル太守）



マンスール・アリー・ハーンの子（生没年不詳）※画像なし

ジョージ・クルゾン（1859～1925）

※東ベンガルとアッサムの創設を開始した。マンスール・アリー・ハーンは41人の子を儲けたがクルゾンはその中の一人である可能性が高い。



Waris Ali Mirza（1901～1969） ワーシフ・アリー・ミールザー・ハーンの子※画像なし

フセイン・シャヒード・シュラワルディー（1892～1963） アワミ連盟初代党首

Sheikh Lutfar Rahman（生没年不詳） ムジブル・ラフマン父※画像なし

ラーマスワーミ・ヴェンカタラマン（1910～2009） 第8代インド大統領 任期1987～1992

※ワリス・アリ・ミルザはヴェンカタラマンに変身してインド大統領に就任している。彼は任期中の1989年に息子が指揮した「ストーンマン事件」を甦らせ、大統領任期中の1990年まで続けた。更に任期中の1991年にはラシーブ・ガンディー元インド首相を暗殺している。

Sheikh Lutfar Rahman（Waris Ali Mirza）の子



Sayyid Wakif Ali Mirza Bahadur (1923~?) ※画像なし

ムジブル・ラフマン (1920~1975) アワミ連盟・バングラデシュ初代大統領

ジャーニー・ジャイル・シン (1916~1994) 第7代インド大統領 任期1982~1987

シャンカルダヤール・シャルマー (1918~1999) 第9代インド大統領 任期1992~1997

MA Wadud (1925~1983) Dipu Moni父※画像無し

※バングラデシュ大統領ラフマンとインド大統領ジャーニーとシャルマーはくりそつである。多分、同一人物だろう。1975年に55歳で死んだことにしたラフマンは、インドでジャーニーに変身して第7代大統領に、シャルマーに変身して第9代大統領に就任した。ジャーニー大統領任期中の1984年、ラフマンはインディラ・ガンディーの暗殺を指示したと考えられる。更に、ジャーニー大統領任期中の1985年にムンバイで「ストーンマン事件」と呼ばれる猟奇連続殺人事件が起きている。これはジャーニー大統領が指揮していたと考えられる。ストーンマン事件とは、物乞い、ホームレスの頭を石で砕いて殺すという連続殺人事件である。ジャーニーの大統領任期最後の年87年、事件は12人目の被害者を最後に一旦収束している。



Sahibzadi Shajar Ara Begum (1926~2000) ※画像なし

Sheikh Fazilatunnesa Mujib (1930~1975) ムジブル・ラフマン妻※画像無し
ジルル・ラーマン (1929~2013) アワミ連盟・バングラデシュ第17代大統領
プラティバ・パティル (1934) 第12代インド大統領 任期2007~2012

※ジルルはパティルに変身してインド大統領に就任している。彼女は任期中の2009年、例の「ストーンマン事件」を再開した。これは趣味なのか、或いは問題を隠すために作られた問題なのかは不明だ。

Sheikh Lutfar Rahman (Waris Ali Mirza) の孫



Nargis Jahan Begum (1947) Sayyid Wakif Ali Mirza Bahadurの子※画像なし
ヴェルピライ・プラバカラン (1954~2009) タミル・イーラム解放の虎指導者

ムジブル・ラフマンの子



シェイク・ハシナ（1947） アワミ連盟党首・バングラデシュ第18代外務大臣



Sheikh Kamal（1949～1975）

アブドゥル・ハーミド（1944） アワミ連盟・バングラデシュ第16代大統領

Anisul Islam Mahmud（1947） バングラデシュ第8代外務大臣※画像無し

Abul Hassan Mahmood Ali（1943） バングラデシュ第19代外務大臣

AK Abdul Momen（1947） バングラデシュ第20代外務大臣

ラーム・ナート・コーヴィンド（1945） 第12代インド大統領 任期2017～現在

Sheikh Russel（1964～1975）※画像無し

Ilyas Kashmiri（1964～2011） ハルカト=ウル=ジハード・アル=イスラーミー首領

※2016年のダッカ・レストラン襲撃人質テロ事件を指揮した。911だけでなく、テロが発生する時、それは時の政府がテロを指揮しているということがよく分かる。

Dipu Moni（1965） バングラデシュ第16代外務大臣・MA Wadud娘

シェイク・ハシナの子

Sajeeb Wazed（1971）

Bangla Bhai（1970～2007） ジャマート=ウル=ムジャーヒディーン首領

※2016年のダッカ・レストラン襲撃人質テロ事件を指揮した。

Dipu Moniの子

□

Tawquir Rashaad Nawaz（生年不詳）

ワ・ロン（1986）

チャー・ソウ・ウー（1990）

※東本願寺門主琢如の一族に属するワ・ロンとチャー・ソウ・ウーは中国政府を悪者扱いするために、ミャンマー政府と共謀している。アウンサン・スーチーは西本願寺門主大谷光尊の一族（イギリス王室）であり、テインセインは西本願寺門主広如の一族である。

常如の一族～後金時代、李氏朝鮮末期、琉球第二尚氏王統、東学党、ゴ・ディン・ジエム、大韓民団、戸塚ヨットスクール、ベトナム社会主義共和国、国民民主党、自由朝鮮

□
常如（1641～1694）
徳川家綱（1641～1680）
呉世ハン（?～1681） 周第2代皇帝※画像なし
順治帝（1638～1661） 清第3代皇帝
顕宗（1641～1674） 李氏朝鮮第18代国王※画像なし

中国：三藩の乱（1673）
日本：京都大火（1692）

※常如は、まず徳川家綱として優性遺伝子ブリーダーによって生まれた。常如は、徳川幕府の將軍を演じながら、同時に中国に潜入し、呉三桂の周を引継いだ。しかし、ヌルハチ率いる満州人が勢いに乗っていることを確認すると、愛新覚羅家の篡奪に乗り出し、順治帝として第3代皇帝に即位した。家綱は、呉世ハンを死んだことにして日本に帰還すると、翌年には常如として京都に火をつけている。

順治帝（常如）の子

□
康熙帝（1654～1722） 清第4代皇帝
尚純（1660～1707）※画像なし

※中国から沖縄に移った康熙帝は、自分を尚貞王の子息に設定し沖縄の掌握にまい進した。

□
雍正帝（1678～1735） 清第5代皇帝
尚益王（1678～1712） 琉球第二尚氏王統第12代国王※画像なし
蔡温（1682～1762） 三司官

※雍正帝は康熙帝の子であり、尚益王は尚純の子でもある。雍正帝は中国と琉球を同時に支配し、尚益王を34歳で死んだことにすると、最後まで50年は蔡温として生きた。

顕宗（常如）の子と孫

- ・ 肅宗（1661～1720） 李氏朝鮮第19代国王
- ・ 景宗（1688～1724） 李氏朝鮮第20代国王

□ 英祖（1694～1776） 李氏朝鮮第21代国王・顕宗の孫

※常如が李氏朝鮮第19代国王肅宗を儲けたことで、東本願寺門主が李氏朝鮮の王統を篡奪した。

琉球第二尚氏王統第12代国王尚益王の子

□ 尚敬王（1700～1751） 琉球第2尚氏王朝第13代国王

□ 尚穆王（1739～1794） 琉球第2尚氏王朝第14代国王

尚温王（1784～1802） 琉球第2尚氏王朝第15代国王

全溪大院君（1785～1841） 正祖弟恩彦君庶子

□ 尚コウ王（1787～1834） 琉球第2尚氏王朝第17代国王

鍋島直道（1789～1820） 肥前国佐賀藩第9代藩主鍋島齊直の弟※画像なし

※尚コウ王はこのときから日本本土への新劇を考えていたようだ。藩主の弟を模して家に侵入し、優性遺伝子ブリーダーを用いて自分の子を藩主の子として納めた。そうすることで鍋島家を篡奪することが出来た。

琉球王尚コウ王の子

□ 尚育王（1813～1847） 琉球第2尚氏王朝第18代国王

鍋島直正（1815～1871） 第10代肥前国佐賀藩主、佐賀七賢人

□ 義村王子朝章（1822?～?）※画像なし

佐野常民（1822～1902） 博愛社創設（日本赤十字社前身）、佐賀七賢人

全溪大院君（尚温王）の子

李明（1827～1844） 第一皇子

崔濟愚（1824～1864） 東学党教祖

哲宗（1831～1864） 李氏朝鮮第25代国王

※東学党は、東本願寺門主大谷光勝が化けていた興宣大院君の朝鮮征服に対抗するために築かれた。つまり、東本願寺の一族同士の朝鮮半島を巡る戦いだった。

李氏朝鮮第25代国王哲宗の子

無名皇子（1854～?）

全ボン準（1854～1895） 東学党主要メンバー

□ 無名翁主（1850～?）※画像なし

閔妃（1851～1895） 第26代王高宗妃明成皇后

※常如の一族は朝鮮半島の利権を死守するべく東学党を築いたり、閔妃を興宣大院君（大谷光勝）の子高宗のもとに送り込んだ。その正体は第25代国王哲宗の娘であった。

□ 無名翁主（1853～?）※画像なし

純献皇貴妃（1854～1911） 第26代王高宗妃、大韓民国最後の皇太子李垺の母

琉球王尚育王の子

□ 尚濬（1832～1844）※画像なし

板垣退助（1837～1919）

□ 尚泰王（1843～1901） 琉球第2尚氏王朝第19代国王

鍋島直彬（1844～1915） 肥前鹿島藩第13代藩主

琉球王尚泰王の子孫

□ 尚典（1864～1920）

太田朝敷（1865～1938）

※尚典は太田朝敷を演じ、琉球新報の社長になり、沖縄諸島地域の言論統制を進めた。

□ 尚順（1873～1945）

李コウ（1877～1955） 朝鮮第26代国王・大韓帝国初代皇帝高宗五男

□□ 暢（1899～？） 尚典の子※画像なし

大田政作（1904～1999） 琉球政府行政主席、自民党沖縄県連初代会長

ゴ・ディン・ジエム（1901～1963） ベトナム共和国初代大統領

朴烈（1902～1974） 在日本大韓民国民団初代団長

※大田政作は1959年～1964年まで琉球政府行政主席を務めていた。しかし当時、アメリカ占領下にあった沖縄にいた彼が、本願寺門主の血を引いているということでゴ・ディン・ジエムを演じることを指示されたようだ。少なくともゴ・ディン・ジエムは1954年からベトナムで暗躍しているがハリウッドのライターによる創作だろう。彼は幻の人だから。

ゴ・ディン・ジエム自身の写真もないが、兄弟が5人もいるのにひとりも写真がないのも妙だ。リンチされて殺されたゴ・ディン・ジエムの死体の写真をネットで見たが顔がズタズタで誰だか分からない。その後、1963年にリンチされて死んだことにされた大田政作は、沖縄に帰還し、1964年から政治活動を始めたという筋書きだろう。

ホー・チ・ミンの頃と異なり、ベトナムはTPPに批准したり、ディープステート寄りの国になってしまった。つまり、最近の首相はみな沖縄出身の傀儡の可能性もある。大韓民団を設立した朴烈だけ似ていないが、影武者専用の異母兄弟として生まれたと考えられる。いわゆる在日も本願寺によって操作されていることが分かる。

□ 井伊文子（1917～2004） 尚昌の子※画像なし

福田三枝（1912～2013） 福田康夫母

朝鮮国王高宗の子孫

□
李健（1909～1991） 李コウの子※画像なし

チュオン・チン（1907～1988） ベトナム社会主義共和国国会議長、国家評議会議長

ゴ・ディン・ヌー（1910～1963） ベトナム共和国大統領顧問※画像なし

権逸（1911～2001） 在日本大韓民国民団第2代団長※画像なし

□□
李玖（1931～2005） 李垠の子※画像なし

ダン・ズアン・キ（1931～2010）

全斗煥（1931） 大韓民国大統領

久保木修己（1931～1998） 統一協会日本支部初代会長

盧泰愚（1932） 大韓民国大統領※画像なし

福田三枝（尚典の孫）の子

□□
福田康夫（1937） 内閣総理大臣※福田三枝の子

金宰淑（1934） 在日本大韓民国民団第5代団長

河丙鈺（1935） 在日本大韓民国民団第6代団長※画像なし

鄭進（1937） 在日本大韓民国民団第7代団長※画像なし

小林宏晨（1937） 日本大学名誉教授、改憲支持派

□
福田征夫（1939） 福田赳夫養子※画像なし

グエン・フー・チョン（1944） ベトナム国家主席※福田三枝の子

百地章（1946） 日本大学名誉教授、改憲支持派※福田三枝の子

※グエン・フー・チョンは安倍政権が主導するTPPを批准。百地は康夫にクリソツである。

□□
李清（1936） 李鉞の子（李コウの孫）※画像なし

呉公太（1946） 在日本大韓民国民団第8代団長※画像なし

戸塚宏（1940） 戸塚ヨットスクール校長

桜田義孝（1949） 安倍政権国務大臣

※戸塚、桜田は顔が良く似ている。完全に異母兄弟だろう。



錠（1947） 李コウの子

グエン・タン・ズン（1949） ベトナム首相※画像なし

西銘恒三郎（1954） 自民党沖縄県連議員

照屋守之（1956） 自民党沖縄県連会長

山本有二（1952） 安倍政権農林水産大臣

北村滋（1956） 安倍内閣情報官

グエン・スアン・フック（1954） ベトナム首相

梶山弘志（1955） 安倍政権内閣府特命担当大臣

鈴木人司（1954） 日本銀行

リチャード・コシミズ（1956） ネットジャーナリスト※画像なし

※西銘、照屋、山本、北村の4人はよく似ている。グエン・スアン・フックと梶山に至ってはクリソツである。鈴木人司は口座維持手数料なるものの導入を掲げているが、安倍総統の死去に伴い、日本人弱体化政策を急いでいるようだ。



昌恵（1954） 李コウの子※画像なし

西銘啓史郎（1958） 自民党沖縄県連議員

陳健民（1959） 香港反政府デモ指導者

中村格（1963） 警視庁長官官房長

王偉中（1962） 深セン市市委書記

山本順三（1954） 安倍政権国家公安委員会委員長



李源（1962） 李鉀の子（李コウの孫）※画像なし

佐喜眞淳（1964） 自民党沖縄県連議員

山下貴司（1965） 安倍政権法務大臣

吉川元（1966） 社民党幹事長

玉木雄一郎（1969） 国民民主党党首

※佐喜眞氏、吉川氏、山下氏は良く似ている。同一人物のようだが、異母兄弟だろう。この場合、佐喜眞氏が本体であり、吉川氏、山下氏が影武者として生まれた。佐喜眞氏は本願寺の一族として安倍政権に追従したが、沖縄知事選で野党推薦のデニー玉城に敗北した。



李コウの孫（氏名生年不詳）

エイドリアン・ホン（生年不詳） 自由朝鮮代表



李泓（1974） 李錫長女※画像なし

石井英俊（1976） 国際戦略家自由インド太平洋連盟副会長

※真のテロリストは自分をテロリストと叫ばない。人民の解放者を自称するものだ。

一如の一族～名誉革命、ジャコバイト、オラニエ＝ナッサウ王家、南アフリカ連邦、オレンジ革命



一如（1649～1700）

ウィレム3世（1650～1702） オランダ総督・イングランド王

ジェームズ・スコット（1649～1685） イングランド軍人

ジョン・ダルリンプル（1648～1707） 初代ステア伯爵

ジョン・グラハム（1648～1689） スコットランド軍人

イギリス：第三次英蘭戦争（1672～74）

西欧：ナント勅令廃止（1685）

イギリス：名誉革命（1688）

イギリス：信教自由令（1689）

スコットランド：グレンコーの虐殺（1692）

※一如は最初から日本にいなかった。一如は最初からウィレム3世として生きた。彼の人生の目的は琢如と同じくイングランドを掌中に治めることだった。ウィレム3世も、イングランド国内のカンタベリー大主教（クリユニー会）と結んでいた。両者の共通の敵は、スチュアート朝である。ウィレム3世は、名誉革命でイングランドを掌中にした。オラニエ家はイングランドに移ったので、本国オランダは衰退した。

ジョン・ダルリンプル（一如）の子

□
ジョン・ダルリンプル（1673～1747） 第2代ステア伯爵

□
早世した子（生没年不詳）※画像なし

ジェームズ・フランシス・エドワード・ステュアート（1688～1766） ジャコバイト王

ヨハン・ウィレム・フリーゾ（1687～1711） オラニエ公

□
ウィレム4世（1711～1751） オラニエ公

□
チャールズ・エドワード・ステュアート（1720～1788） ジャコバイト王

父は名誉革命によってイングランドを逐われ、チャールズは教皇インノケンティウス13世時代

のローマで生まれた。教皇の庇護をうけ、少年時代をローマおよびボローニャで過ごした。父の影響もあって必然的にカトリック信仰に入ったことが、チャールズの王位奪還運動を困難にすることになった。wikiより

□
ヘンリー・ベネディクト・ステュアート（1725～1807） ジャコバイト王

父ジェームズ老僭王や兄チャールズ若僭王と異なり、王位奪還のための活動を行なわなかった。教皇領でカトリック教会の聖職者（枢機卿）として一生を終えた。wikiより

□
ウィレム5世（1748～1806） オランダ総督・ウィレム4世の子

□
ウィレム1世（1772～1843） 初代オランダ国王・ウィレム5世の子

ウィレム1世の子

□
ウィレム2世（1792～1849） 第2代オランダ国王
フロリス・アドリアン・ファン・ハル（1791～1866） 第4代オランダ首相

▣
フレデリック・ファン・オラニエ=ナッサウ（1797～1881）
ゲリット・スヒンメルペニク（1794～1863） 初代オランダ首相
ジェイコブ・デ・ケンペナール（1793～1881） 第2代オランダ首相
ヨハン・ルドルフ・トルベッケ（1798～1872） 第3代オランダ首相
ヤン・ジェイコブ・ロシュセン（1797～1881） 第6代オランダ首相

▣
パウリーナ・ファン・オラニエ=ナッサウ（1800～1806） ウィレム1世の子
ユスティヌス・ファン・デル・ブルッヘン（1804～1863） 第5代オランダ首相
シェルト・ファン・ヘームストラ（1807～1864） 第8代オランダ首相
ヤコブ・グローエネンダール（1805～1860） オレンジ自由国初代大統領
ヨシアス・フィリップ・ホフマン（1807～1879） オレンジ自由国第2代大統領※画像なし

ウィレム2世の子

☐

ウィレム3世（1817～1890） 第3代オランダ国王

ヤコブ・ファン・ザイレン・ファン・ナイフェルト（1716～1890） 第7代オランダ首相

ゲリット・デ・フルース（1818～1900） 第13代オランダ首相

アドルフ（1817～1905） ルクセンブルク大公

☐

アレクサンダー・ファン・オラニエ=ナッサウ（1818～1848）

ユリウス・ファン・ザイレン・ファン・ナイフェルト（1819～1894） 第10代オランダ首相

マルティヌス・ウェッセル・プレトリウス（1819～1901） トランスヴァール共和国初代大統領

☐

エルンスト・カシミール・ファン・オラニエ=ナッサウ（1822）※画像なし

イサーク・ディグナス・フランセン・ファン・デ・プッテ（1822～1902） 第9代オランダ首相

☐

フランツ（1859～1875） ルクセンブルク大公アドルフの子※画像なし

ルイス・ボータ（1862～1919） 南アフリカ連邦初代首相

☐

クラウス・フェリックス・フォン・アムスベルク（1890～1953） オランダ王配

ウィム・スヘルメルホルン（1894～1977） オランダ首相

※ルイス・ボータの子。ボータには子がいなかったが、優性遺伝子ブリーダーによって生まれたと考えられる。

☐

クラウス・フォン・アムスベルク（1926～2002） オランダ王配

※ルイス・ボータの子。

オラニエ=ナッサウ王家

☐

ウィルヘミナ（1880～1962） 第5代オランダ女王

女王ウィルヘミナの子

□
チャールズ・ロバーツ・スワート（1894～1982） 南アフリカ共和国初代大統領

※ウィルヘミナが14歳の時の子と考えられる。そのため、里子に出された。

□
ピート・デ・ヨング（1915～2016）

ピーター・ウィレム・ボータ（1916～2006） 南アフリカ共和国大統領

第二次世界大戦中、ボータは、ナチス・ドイツを支持していたとされ、ブルームフォンテーンの右翼組織・牛車の番人に入党する。しかし連合国が勝利するとキリスト教ナショナリズムに転向、ファシズムを批判し、古巣であった牛車の番人団を国政の妨害者と非難した。

1948年、国民党から国会議員に立候補し当選する（地盤はケープ州東部）。この選挙で国民党を中心とするダニエル・フランソワ・マラン四党連立政権は、アパルトヘイト政策を本格的に推進することとなる。wikiより

※ウィルヘミナが第一世界大戦の時に産んだ子で後に里子に出された。

オラニエ＝ナッサウ王家

□
ユリアナ（1909～2004） 第6代オランダ女王

□
ベアトリクス（1938） 第7代オランダ女王

※クラウス・フォン・アムスベルクと結婚した。大日本帝国がオランダ植民地のインドネシアを奪ったことについて村山首相に謝罪を要求した。

女王ユリアナの子

□

レフ・ヴァウエンサ（1943） ポーランド共和国第2代大統領

※第6代女王ユリアナが34歳の時の子と考えられる。ちょうど戦時下でイギリスに亡命中だった時期である。祖母の第5代女王ウィルヘミナに良く似ている。父はピーター・ウィレム・ボータと考えられる。

□
ボグダン・ヴァウエンサ（1970） レフ・ヴァウエンサの子※画像なし

スヴァトスラフ・シェヴチュク（1970） ウクライナ東方カトリック教会第7代大主教

※ウクライナ東方カトリック教会は、戦後になり、浄土真宗とタッグを組んでカリフォルニアを領土化している。しかし、それが原因で2018年、カリフォルニアに大規模な山火事が起きた。カリフォルニアでは毎年山火事は起きていたが、2018年のそれはいつもと様子が違っていた。ウクライナ東方カトリック教会のギリシア拠点アテネでも異常な山火事が起きた。激しい火災が、まるで生き物のように信者たちを襲ったのだ。

これらはインチキ宗教を憎悪する宇宙人（科学の種族）が信者の生活を奪うために発生させたものだ。宇宙人は火炎を操り、信者たちを襲った。信者たちは「脅されたから仕方ない」だとか言い分けするが、生活の保障のために悪に従うこともまた悪なのだ。宇宙人はそれを教えてくれている。

□
スラヴォミル・ヴァウエンサ（1972） レフ・ヴァウエンサの子※画像なし

アンジェイ・ドゥダ（1972） ポーランド大統領

※祖父ボータに顔が良く似ている。

女王ベアトリクスの子

□
ヤン・ペーター・バルケネンデ（1956） オランダ首相

ヴィクトル・ユシチェンコ（1954） ウクライナ大統領

※ユシチェンコはベアトリクスが16歳の時に産んだ子である。そのため、里子に出されたようだ。彼がオラニエ王家の一員だということはオレンジ革命のネーミングでわかる。

オレンジ革命は、2004年ウクライナ大統領選挙の結果に対しての抗議運動と、それに関する政治運動などの一連の事件である。選挙結果に対して抗議運動を行った野党支持者がオレンジをシンボルカラーとして、リボン、「ユシチェンコにイエス！」と書かれた旗、マフラーなどオレンジ色の物を使用したことからオレンジ革命と呼ばれる。オレンジの由来はオレンジ自由国と同

じでオラニエである。

□
ユーリヤ・ティモシェンコ（1960）　ウクライナ大統領

※公称ではベアトリクスは3人の息子がいるが、ティモシェンコはベアトリクスが結婚する前の22歳の時の子である。ユーリヤの名の由来は祖母ユリアナである。上記のユシチェンコとは異父兄妹、或いは父親が同じであるなら普通に兄妹である。

□
マルク・ルッテ（1967）　オランダ首相

クラウス・フォン・アムスベルクの子

□
ウィレム＝アレクサンダー（1967）　第8代オランダ国王
リナト・アフメトフ（1966）　オリガリヒ・ウクライナ最大の富豪

※アフメトフはウィレムの影武者として生まれた。しかし、ウクライナ最大の富豪として成り上がった。ウィレムはユシチェンコとは異父兄弟となるため顔が似ている。

真如の一族～イエズス会弾圧、ムガール皇帝、マラーター同盟、タタ財閥、デカン・ムジャヒディーン

田

真如（1662～1744）

徳川家宣（1662～1712）

松平清武（1663～1724） 上野館林藩藩主・家宣の弟※画像なし

ジャハーンダール・シャー（1661～1713） ムガール帝国第8代皇帝

中国：李天極の乱（1706）

朝鮮：全羅道農民の蜂起（1710）

中国：福建でキリスト教徒迫害（1723）

朝鮮：全羅道沿海流民の暴動（1733）

朝鮮：平安道人民蜂起（1738）

中国：福建、イエズス会土布教禁止（1746）

中国：キリスト教布教厳禁（1747）

※当初、真如は徳川家宣として優性遺伝子ブリーダーによって生まれたが、50歳で死んだこと
にして真如として活動した。真如はたびたび仏教信者を動員して中国に於ける反乱を指揮し、清
に揺さぶりをかけている。一方では、敵勢力になりそうな福建のキリスト教徒を弾圧し、李氏朝
鮮でも同じことをしている。来る敵国の征服の時のために、大谷は敵国内の新規勢力の台頭を許
さないのだ。清や李氏朝鮮はキリスト教徒の弾圧に一切関与していないだろう。

●真如の異母兄弟

口

間部詮房（1666～1720） 江戸幕府老中※画像なし

サイド・アブドゥッラー・ハーン（1666～1722）

田

間部詮貞（生没年不詳） 間部詮房の弟※画像なし

サイド・フサイン・アリー・ハーン（1668～1720） アブドゥッラー・ハーンの弟

ジャハーン・シャー（1673～1712） ムハンマド・シャー父

カマルッディーン・ハーン（1671～1748） ニザーム藩国初代王 在位1724～17

28

ベネディクトゥス14世（1675～1758） 第247代ローマ教皇 在位1740～17

58

彼らは国政に大きな影響力を持ち、第8代皇帝ジャハーンダール・シャー、第9代皇帝ファッルフシヤル、第10代皇帝ラフィー・ウッダラジャート、第11代皇帝ラフィー・ウッダウラ、第12代皇帝ムハンマド・シャーの5人の擁立・廃立に関与したため、キング・メーカーとしても知られている。

貴族らもまた、サイド兄弟の恐怖政治に怯えており、皇帝の殺害は彼らを震え上がらせた。貴族らの中には皇帝すら殺されるのであれば、貴族でしかない我が身は一体どうなるのか、という考えが広まっていた。また、サイド兄弟は民衆の支持も失っていた。彼らは民衆から一宿一飯の恩を忘れた人物とみなされていた。wikiより

※間部詮貞はローマ教皇ベネディクトゥス14世に変身し、甥のローマ教皇クレメンス13世と共に父家宣（真如）の指揮でイエズス会を解散に追い込んだ。

徳川家宣（真如）の子

□ 豊姫（1681）※画像なし

ファッルフシヤル（1685～1719） ムガール帝国第9代皇帝

□ 夢月院（1699）※画像なし

クレメンス13世（1693～1769） 第248代ローマ教皇 在位1758～1759

ラフィー・ウッダウラ（1696～1719） ムガール帝国第10代皇帝

※夢月院は実際には男子だが、女子として生まれたことにされた。家宣は夢月院を誕生同日に死亡したことにし、イタリアに送られて育てられた。長じてローマ教皇クレメンス13世となる。クレメンス13世は父家宣（真如）の指揮でイエズス会を解散に追い込んだ。

□ 徳川家継（1709～1716）

クレメンス14世（1705～1774） 第249代ローマ教皇 在位1759～1774

ポルトガル：イエズス会追放（1759）

フランス：イエズス会士追放（1760）

スペイン：イエズス会追放（1767）

ローマ：イエズス会解散命令（1773）

※真如は、福建に於けるイエズス会の活動を懸念し、手下の仏教信者にキリスト教徒を迫害することを命じたが、おもしろいことに、同時期のヨーロッパでも同じことが起きていた。真如の子

であるローマ教皇たちが3代続けてイエズス会に対して批判を繰り返し、遂には解散させたのだ。徳川家継は7歳で死んだことにして、ヨーロッパで成長し、長じてクレメンス14世としてローマ教皇の座に就いている。

□
ムハンマド・シャー（1702～1748） ムガル帝国第11代皇帝※ジャハーン・シャーの子

バージー・ラーオ（1700～1740） マラーター同盟宰相

□□
アフマド・シャー（1725～1775） ムガル帝国第13代皇帝

バーラージー・バージー・ラーオ（1720～1761） マラーター同盟宰相

アマルサナー（1723～1757） オイラート王子

アクバル2世（1760～1837） ムガル帝国第16代皇帝

ブルハーン・アッディーン（?～1759） ナクシュバンディー教団指導者

ホージャ・ジャハーン（?～1759） ブルハーン・アッディーン弟

□
バハードゥル・シャー2世（1775～1862） ムガル帝国第17代皇帝

バージー・ラーオ2世（1775～1851） マラーター同盟第8代宰相

ホージャ・サリムサク（?～1820） ブルハーン・アッディーン子※画像なし

※イギリスはバハードゥル・シャー2世をビルマのラングーンへと追放し、これによってムガル帝国は終焉を迎えた。廃帝は追放先のラングーンで一族と余生を過ごし、失意のうちに死亡した。とされているが、実際には真如のムガール一族はインドを諦め切れなかった。そのため、前途が要望と見て取ったマラーター同盟に接近し、宰相としてマラーター王国を掌握した。

ムガル帝国バハードゥル・シャー2世の子

ミールザー・ダーラー・バフト（1790～1849）

ジャハーンギール・ホージャ（1788～1828） ホージャ・サリムサク子

□
ミールザー・アブー・バクル（1837～1857）※画像なし

ジャムシェトジー・タタ（1838～1904） タタ財閥創始者

※タタはティタン神族の名を受け継ぐ家だが、東本願寺門主真如の血を継ぐムガル皇帝の子がジャムシェトジー・タタとなり、タタ財閥を築いたと考えられる。

- ミールザー・スライマーン・シャー（生没年不詳）※画像なし
 - ラタンジ・ダーダーバイ・タタ（1856～1926） ジャムシェトジー・タタ従兄弟※画像なし
 - ドラブジー・タタ（1859～1932） タタ・グループ2代会長
-

- ウスマーン・アリー・ハーン（1886～1967） 第10代ニザーム
 - ラージェェンドラ・プラサード（1884～1963） インド初代大統領
-

ニザーム王ウスマーン・アリー・ハーンの子

- モアッザーム・ジャー（1907～1987）
- アーザム・ジャー（1907～1970）
- ジャハンギール・ラタンジ・ダーダーバイ・タタ（1904～1993） タタ・グループ4代会長
- ナヴァル・タタ（1904～1989） ラタン・タタ父
- ナトラム・ゴドセ（1910～1949） 民族義勇団※画像なし

※モアッザーム・ジャーの影武者であるナトラム・ゴトセがマハトマ・ガンジーを暗殺した。

- ウスマーン・アリー・ハーン28人の息子のひとり※画像無し
 - ナラシンハ・ラーオ（1921～2004） 第12代インド首相
 - アタル・ビハーリー・ヴァージペーイー（1924～2018） 第13代、第16代インド首相
 - ムハンマド・ジア=ウル=ハク（1924～1988） パキスタン第6代大統領
-

ニザーム王ウスマーン・アリー・ハーンの子

- 田 **Mukarram Jah**（1934）

パロンジ・ミストリー（1929） シャプールジ・パロンジ・グループ総裁

ラタン・タタ（1937） タタ・グループ5代、7代会長

ディルバイ・アンバニ（1932～2002） リライアンス財閥創業者

※ラタン・タタは最大の企業グループであるタタ・グループの会長である。また、ラタンは、タタ・スチール、タタ・モーターズ、タタ・コンサルタンシー・サービス、タージ・ホテルズ・リゾート&パレスなど、タタ・グループ主要企業でも社長・会長を務めている。

一方、インド産代財閥のひとつに数えられるリライアンス財閥創業者アンバニは、ラタン・タタの影武者として生まれた可能性がある。しかし才能を発揮したアンバニは影武者の立場を脱し、一代でリライアンス財閥創業者として成り上がった。しかし、本体ラタン・タタが影武者の成功を疎み、病死に見せかけて影武者を殺したと考えられる。その後、優性遺伝子ブリーダーによって生まれたラタン・タタの子と考えられるムケシュとアニルは、リライアンス財閥を父（アンバニ）から引き継ぐという形で篡奪した。

□
Ijaz-ul-Haq（1952） パキスタン・ムスリム同盟指導者※ムハンマド・ジア＝ウル＝ハクの子

Hafiz Saeed（1950） デカン・ムジャヒディーン首領

※ハフィズ・サイードは、2008年のムンバイ同時多発テロを指揮した。172人が死亡した。

□
ムケシュ・アンバニ（1957） ディルバイ・アンバニの子

ノエル・タタ（1957） ラタン・タタ息子

ダーウード・イブラヒーム（1955） Dカンパニー創設

※影武者のダーウードは2008年のムンバイ同時多発テロに参加している。

□
アニル・アンバニ（1959） ディルバイ・アンバニの子

※ムケシュとアニルの兄弟は遺産を巡って争ったが兄は世界長者番付で5番目であり、アニルは6番目である。2人の資産を併せると世界長者番付で1番となるようだ。ムケシュは実際にはラタン・タタの子で、アニルはアンバニの子と考えられる。そのために影武者の子同士で対立している。

□
サイラス・パロンジ・ミストリー（1968） タタ・グループ会長

Abdul Subhan Qureshi (1972) インディアン・ムジャヒディーン首領

※パロンジ・ミストリーの子だが、タタ・グループ会長に就任したのは実際には彼がラタン・タタの子だからかもしれない。パロンジもラタンも、どちらもウスマーン・アリー・ハーンの孫の影武者である。サイラスの影武者アブドゥルは2008年のムンバイ同時多発テロに参加している。

従如の一族～田沼意次、徳川家重、松平定信、井伊直弼、水野忠邦、徳川慶喜、静岡県知事

□
従如（1720～1760）
田沼意次（1719～1788） 江戸幕府老中

中国：金川の乱（1747）
日本：会津藩大一揆（1749）
朝鮮：尹志等の乱（1755）

※従如は真如の意志を継いで中国や李氏朝鮮で同じことを繰り返している。また、日本では初期に年長の異母兄弟に大岡忠光、松平武元などの老中や将軍徳川家重を演じさせ、後期は本体である従如を死んだことにして田沼意次一本で活動し、悪の道にまい進した。老中を演じることで、他人の意見を退け、自分だけの意見をすべて通すことができた。

現在の安倍政権を地で行く田沼による幕政改革の時代、善と偽り、悪法を次々にキメたせいで贈収賄が横行し、農民が都市部に流れたことで農村は荒廃し、天明の飢饉が発生した。また、江戸商人など豪商に対して権益を図りすぎたことで批判が集中した。安倍晋三は日本人を弱体化するために、まさに田沼意次と同じことをやってのけていることがわかる。

従如の年長異母兄弟

□
松平武元（1714～1779） 江戸幕府老中※画像なし
徳川家重（1712～1761） 徳川幕府第9代征夷大将軍
大岡忠光（1712～1760） 徳川家重側近※画像なし

※家重はアホみたいな顔に描かれているが、じつは、これは敵の目をごまかすために意図されたものである。家重は同時に松平武元や大岡忠光を演じた。

徳川家重（従如）の子

□
徳川家治（1737～1786） 徳川幕府第10代征夷大将軍

※父である田沼意次（徳川家重）を老中に迎えた。

田沼意次（従如）の子

□
勇次郎（1751?） 田沼意次2男※画像なし
徳川治済（1751～1827） 一橋徳川家第2代当主

□
勝助（1756?） 田沼意次3男※画像なし
戸田氏教（1756～1806） 江戸幕府老中

□
田沼意正（1759～1836） 田沼意次4男※画像なし
松平定信（1759～1829） 江戸幕府老中首座

※田沼意次の4男、田沼意正は松平定信を演じた。甥の徳川家斉と組んで、改善したように見せて改善しないという陰謀を実施した。悪評が高すぎる田沼意次を罷免したものの、田沼意次の子が老中に就くため、何も変わらない。松平定信の名前は田沼ではないため、誰も気付かなかったのだろう。

□
土方雄貞（1763～1782） 田沼意次6男※画像なし
松平信明（1763～1817） 江戸幕府老中首座
水野忠成（1763～1834） 江戸幕府老中

※田沼意次の6男、土方雄貞は兄に倣い、松平信明を演じた。

□
九鬼隆棋（1765～1787） 田沼意次7男※画像なし
林忠英（1765～1845） 若年寄

※実質上の甥である徳川家斉の時代に側近政治を実施した。

□
田沼意明（1773～1796） 田沼意次の孫（田沼意知の子）※画像なし
徳川家斉（1773～1841） 徳川幕府第11代征夷大將軍

※祖父である田沼意次（徳川家重）はあまりに悪評がたったために罷免したが、代わりに田沼意次の4男である松平定信（田沼意正）を老中に迎えた。田沼意次を罷免してもその4男を迎えているため、何も改善されていない。改善するように見せかけて改善しない。これには、反対派を黙らせる効果がある。加えて、家斉自身が田沼意次の孫であった。

雄之助（1778?） 田沼意次の孫（徳川治済の子）

筒井政憲（1778～1859） 江戸時代末期旗本

徳川家斉（田沼意明）の子

□ 瓊岸院（1790）※画像なし

土井利位（1789～1848） 江戸幕府老中首座

※誕生時は安全のために家斉の娘とされたが、すぐに早世したことにし、土井家に預けられ、土井利位として育てられた。

□ 徳川家慶（1793～1853） 徳川幕府第12代征夷大將軍

□ 端正院（1794）※画像なし

水野忠邦（1794～1851） 江戸幕府老中

※家慶は弟である水野忠邦（端正院）を老中に選び、自分の意見を誰にも邪魔させず、通し続けた。更に、家慶は自分の子、3人を征夷大將軍の座に送り込み、後期の徳川幕府を掌握した。

敬之助（1795～1797）

松平乗全（1795～1870） 江戸幕府老中

豊三郎（1798）

太田資始（1799～1867） 江戸幕府老中

□ 徳川斉順（1801～1846） 清水徳川家第3代当主※画像なし

川路聖謨（1801～1868） 旗本

ヘンリー・ジョーンズ（生没年不詳） 1843年、ブナイ・ブリス創設

□ 徳川斉荘（1810～1845）

水野忠徳（1810～1868） 旗本・幕臣

□ 信之進（1817）※画像なし

永井尚志（1816～1891） 旗本

□

□
松平齊善（1820～1838） 福井藩15代藩主※画像なし
安藤信正（1820～1871） 若年寄・老中
徳大寺公純（1821～1883） 幕末期の公卿※画像なし

□
松平齊省（1823～1841）※画像なし
松平信発（1824～1890） 上野吉井藩第9代藩主

徳川家慶の子

竹千代（1813～1814）
酒井忠義（1813～1873） 若狭國小浜藩主
松平忠固（1812～1859） 信濃上田藩第6代藩主・老中

※家慶は竹千代を早世したことにして酒井忠義として育てた。酒井は松平忠固をも演じていたが、兄弟である井伊直弼と組んで安政の大獄を指揮した。

□
儁姫（1815）※画像なし
井伊直弼（1815～1860） 江戸幕府老中
水野忠央（1814～1865） 紀州藩家老

※家慶は儁姫を早世したことにし、井伊直弼として育てた。直弼は同時に水野忠央を演じていたが、桜田門外の変際は影武者がやられたため、水野忠央に化けて潜伏を決め込んだが、隠居を命じられた上、幽閉された。

□
徳川慶昌（1825～1838）※画像なし
徳川家定（1824～1858） 徳川幕府第13代征夷大將軍

※徳川家慶の子慶昌は13歳で死んだことにし、家定として第13代征夷大將軍に即位した。

□
悦五郎（1828～1829）※画像なし
松平春嶽（1828～1890） 田安德川家第3代当主
大迫貞清（1825～1896） 初代静岡県令※画像なし

※徳川家慶は子の悦五郎を早世したことにし、松平春嶽として育てた。

田

亀五郎（1838～1839）※画像なし

徳川慶喜（1837～1913） 徳川幕府第15代征夷大將軍

池田慶徳（1837～1877） 因幡国鳥取藩12代藩主

黒田清隆（1840～1900） 内閣総理大臣

関口隆吉（1836～1889） 初代静岡県知事

渋沢栄一（1840～1931）

※徳川家慶は子の亀五郎を早世したことにし、慶喜として第15代征夷大將軍に即位させた。明治維新のあと、慶喜は初代静岡県知事に就任し、黒田清隆として内閣総理大臣にも就任している。関口は慶喜に良く似ているため、同一人物と考えてよいだろう。黒田は顔は全然似ていないが間違いなく異母兄弟であり、將軍時代の慶喜の影武者を務めていたと考えられる。

田

田鶴若（1845～1846）※画像なし

徳川家茂（1846～1866） 徳川幕府第14代征夷大將軍

千家尊福（1845～1918） 第4代静岡県知事

山田春三（1846～1921） 第8代静岡県知事

正田作次郎（1846～1871） 正田貞一郎父

※徳川家慶は子の田鶴若を早世したことにし、家茂として第14代征夷大將軍に即位させた。

田

※徳川家茂の猶子華頂宮博経親王（1851～1876）と若き日の西園寺公望の画像。顔も似ているし、足の組み方まで似ている。

田

齊信院（1849）※画像なし

西園寺公望（1849～1940） 内閣総理大臣

小松原英太郎（1852～1919） 第3代静岡県知事

小野田元熙（1848～1919） 第6代静岡県知事

志波三九郎（1850～1903） 第7代静岡県知事

田

長吉郎（1852～1853）※画像なし

松平喜徳（1855～1891） 徳川慶喜弟

中野二郎三郎（1853～1918） 静岡事件首謀者※画像なし

中心人物は、中野二郎三郎、山岡音高らである。目標は政府顛覆であった。日本各地での一斉蜂起が当初の目的であったが、政府による鎮圧が相次いだことから拳兵を断念し、少数の者による大臣などの要人の暗殺に方針を転じた。

彼らは資金確保と組織の強化を目的とした銀行強盗を引き起こした。東京での要人暗殺計画は未然に発覚し、関わったメンバーは逮捕された。司法当局は政治犯ではなく強盗犯として扱い、1887年7月に被告25人に対し、最高で徒刑15年の判決が言い渡された。静岡事件wikiより

- 池田輝知（1861～1890） 池田慶徳次男
- 鈴木音高（1862～1924） 静岡事件首謀者※画像なし

徳川慶喜の子

- 敬事（1871～1872）※画像なし
- 正田貞一郎（1870～1961） 日清製粉創業

- 田 池田仲博（1877～1948）
- 米内光政（1880～1848） 内閣総理大臣
- 小磯邦昭（1880～1950） 内閣総理大臣
- 赤池濃（1879～1945） 第16代静岡県知事・警視総監

※顔は全く似ていないが、全員異母兄弟である。米内と小磯は慶喜の庶子だと考えられる。赤池は米内と顔が似ているが同一人物ではないか。

- 田 徳川慶久（1884～1922） 貴族院議員、第一銀行取締役、華族世襲財産審議会議長
- 石橋湛山（1884～1973） 内閣総理大臣
- 伊東喜八郎（1882～1977） 第20代静岡県知事・警察官僚
- 長谷川久一（1884～1945） 第22代静岡県知事・第36代警視総監
- 白根竹介（1883～1957） 第23代静岡県知事
- 阿部嘉七（1885～1952） 第26代静岡県知事

※いやいや慶久、喜八郎、白根、阿部は同じ顔ですよ。昔は現代に比べて写真技術や情報網が未発達だったとはいえ、大胆としかいいようがない。名前を変えただけの全くの同一人物である。ついでに長谷川と石橋は似ている。

- 田 徳川誠（1887～1968）
- 芦田均（1887～1959） 内閣総理大臣
- 鵜沢憲（1886～？） 第24代静岡県知事・警察官僚※画像なし

田中広太郎（1888～1968） 第25代静岡県知事

斎藤樹（1888～1951） 第27代静岡県知事

※誠は芦田均に良く似ている。斎藤と田中は似ているが、同一人物の可能性もある。一時期、徳川慶久と徳川誠の兄弟が名前を変えて不正に静岡県知事を歴任していたことがわかる。

博恭王妃経子の子（徳川慶久の孫）

□□
華頂博信（1905～1970）

蜂須賀正氏（1903～1953） 徳川慶喜4女蜂須賀筆子の子

正田英三郎（1903～1999） 上皇后美智子父

□□
伏見博英（1912～1943）

竹山祐太郎（1901～1982） 静岡県知事 任期1967～1974※画像なし

紅林麻雄（1906～1963） 静岡県警警部

山本敬三郎（1913～2006） 第44～46代静岡県知事 任期1974～1986※画像なし

その一方で自身が担当した幸浦事件（死刑判決の後、無罪）・二俣事件（死刑判決の後、無罪）
・小島事件（無期懲役判決の後、無罪）・島田事件（死刑判決の後、無罪）の各事件で無実の者から拷問で自白を引き出し、証拠を捏造して数々の冤罪を作ったと批判された。紅林麻雄 wiki より

※伏見博英は紅林麻雄とくりそつである。たぶん、同一人物と見て間違いない。wikiを見て分かる
とおり、紅林麻雄は拷問を駆使した警部として悪名高い。その残忍な紅林麻雄の影武者である山
本敬三郎は、筆者が父の赴任先であるアメリカから日本に帰国（1977）してから、対人恐怖
になる1980～1983年、そして高校二年生になるまで県知事を務めていた。

徳川慶光（1913～1993） 徳川慶久の子

斎藤滋与史（1918～2018） 第47、48代静岡県知事 任期1986～1993

朝融王妃知子女王の子（徳川慶喜の曾孫）

□

久邇邦昭（1929）※画像なし

金嬉老（1928～2010） 金嬉老事件首謀者

金が籠城する様子はテレビやラジオで実況中継され、関連していたとされる警察官がテレビに出演するなどした。連日各テレビ局のワイドショーは、人質被害者の安否や被害者家族の意向などお構いなしにスタジオから「ふじみや旅館」に独自に生電話を入れて視聴率を稼いだ。

一部のメディアは、銃を持って戸外を警戒している金に対し「金さん、ライフルを空に向けて射ってくださいませんか」と要望を出し、金が空に向かって数発、ライフルを乱射しているところをカメラで映して演出までした（のちに金本人が法廷陳述で一連のマスコミ報道の裏を暴露して不満を表明している）。また金の本国である韓国でも大々的に報道され、金は殺人及び監禁犯であるにも拘らず「差別と戦った民族の英雄」として祭り上げられた。金嬉老事件wikiより

田安德川家第10代当主徳川達成の孫

□ 徳川雅子（193?） 田安德川家第11代当主徳川宗英の子※画像なし

上皇后美智子（1934）

□ 松平宗紀（1940） 田安德川家第11代当主徳川宗英の子※画像なし

石川嘉延（1940） 第49～52代静岡県知事 任期1993～2009

宋相現（1943） 国際刑事裁判所所長

袴田巖（1936）※画像なし

「有限会社王こがね味噌橋本藤作商店」（「株式会社王こがね味噌」を経て1972年から株式会社富士見物産）専務の自宅が放火された。焼跡から専務（41歳）、妻（38歳）、次女（17歳）、長男（14歳）の計4人の他殺死体が発見される。一家の中では別棟に寝ていた19歳の長女（一家から勘当されて家を出ていたが、当日は久しぶりに家に戻っていた）が唯一生き残った。袴田事件wikiより

※袴田事件の真犯人は、松平宗紀か影武者の石川氏、或いは両者が協力して事件を起こした可能性がある。タナトスは、立派な大人になるための儀式として10代の内に人間狩りを執り行う。その際、冤罪要員として年齢が近い人間を選出する。哀れなことに、袴田氏は冤罪要員に選ばれたに過ぎない。石川嘉延氏は、筆者が大阪から静岡に帰郷（2000）してから母を殺害（2008）されるまでの間、県知事を務めていた。

越前松平家第20代当主松平宗紀の子

□
松平照康（196?）※画像なし
令和天皇（1961） 第126代天皇

□
松平承昌（196?）※画像なし
秋篠宮文仁親王（1965）

□□
松平聡子（197?）※画像なし
紀宮清子内親王（1969） 伊勢神宮宮司
細野豪志（1971）

※細野氏は女性の影武者を勤めていたため、ゲイなのだろう。タナトスの世界では良くあることである。

乗如の一族～フランス革命、ベトナム植民地、ブラジル帝国、Y M C A、セブンスデー・アドベンチスト教会、国際赤十字社、花粉症、A I D S

田

乗如（1744～1792）

ペドロ3世（1717～1786） ブラガンサ朝第7代ポルトガル王

ジャン＝フランソワ・ルーベル（1747～1807） 総裁政府総裁

日本：農民20万人、関東で一揆（1765）

中国：山東、白蓮教の首領王倫の乱（1774）

日本：江戸の大火（1781）

フランス：マリー・アントワネット首飾り事件（1785）

日本：天明の打ちこわし（1787）

フランス：バスティーユ襲撃（1789）

中国：貴州、苗族の乱（1795）

中国：白蓮教の乱（1796）

※乗如は庶子の異母兄弟を動員し、影武者部隊を作って日本、ポルトガル、フランスに設置した。乗如はポルトガルでは27歳も逆にサバを読み、ペドロ3世を称した。その後、フランスに赴き、ジャン＝フランソワ・ルーベルとなった。ジャコバン派に参加したエベールは、大谷らしく、下層民を指揮してバスティーユ襲撃を指揮した。

だが、総裁政府を築いたジャン＝フランソワ・ルーベルたちがロベスピエールらを処刑し、フランスを掌中にした。だが、英雄ナポレオンの登場で様子は一変する。これを見ていたウィリアム・ピットは首相を退いていたにもかかわらず、ナポレオン皇帝誕生の5年後に第2次ピット内閣を編成した。ナポレオンの勢いを何とか食い止めるためである。トラファルガーの海戦で勝利したものの、ウルムの戦い、アウステルリッツの戦いで大敗すると第三同盟は崩壊した。

※乗如の異母兄弟（影武者）

□ ルイ＝マリー・ド・ラ・ルヴェリエール＝レポー（1753～1824） 総裁政府総裁

□ ポール・バラス（1755～1829） 総裁政府メンバー

テルミドールのクーデターの首謀者の1人で総裁政府のリーダー格だった。その腐敗ぶりから「悪徳の士」とよばれた。w i k iより

□

ジャック＝ルネ・エベール（1757～1794）

※エベールはイヤなタナトスの一面を発揮し、マリー・アントワネットに近親相姦の汚名を着せ、有罪判決と処刑を求め、恐怖政治の強化を主張した。しかし、仲間のロベスピエールやダントンはエベールをイヤなやつと考えていたようだ。エベールもロベスピエールやダントンを排除すべく、同志に蜂起を呼びかけたが失敗している。一方、ダントン派のスポークスマンは、貧民の味方として富裕層を攻撃していたエベールが、実際にはパリ在住の外国人銀行家と密な交流があり、「デュシェーヌ親父」を軍に大量購読させて巨額の利益を得ていたということを暴露すると、窮地に陥ったエベールは革命裁判にかけられ、ギロチン台の露と化した。

ペドロ3世の子

□ ジョゼ（1761～1788）

ジョゼフ・フーシェ（1759～1820） 秘密警察・警察大臣

近代警察の原型となった警察機構の組織者で、特に秘密警察を駆使して政権中枢を渡り歩いた謀略家として知られる。権力者に取り入りながら常に一定の距離を保って激動の時代を生き抜いた人物であったとされ、「カメレオン（変幻自在の冷血動物）」の異名を持つ。wikiより

□ ジョアン6世（1767～1826）

ジョルジュ・ムートン（1770～1838） 七月王政指揮官

マリア・アナ・ヴィトリア・デ・ブラガンサ（1768～1788）

マリア・アナ・ヴィトリア・デ・ブラガンサの子

□ ペドロ・カルロス・デ・ボルボン（1786～1812）※画像なし

ルイ・マチュー・モール（1781～1855） 七月王政首相 任期1830、1836～1839

ウィリアム・ミラー（1782～1849） セブンスデー・アドベンチスト教会教祖

※ツーランに停泊、「ダナーンの戦い」を指揮。アメリカにも拠点を得るためにセブンスデー・

アドベンチスト教会を設けた。

□□

カルロス・ホセ（1788）※画像なし

ヴィクトール・デ・ブログリー（1785～1870） 7月王政首相 任期1835～36、
1847～1848

アンリ・デュフル（1787～1875） 国際赤十字社創設

ジョセフ・ベイツ（1792～1872） セブンスデー・アドベンチスト教会教祖

※フランス艦隊ツーラン港砲撃、「ダナーンの戦い」を指揮。また、デュフルに化けて家族であるデュナンたちと国際赤十字社を築いた。ブログリーとデュフルは良く似ている。

ジョアン6世の子

□

ペドロ4世（1798～1834） ブラガンサ朝ポルトガル王・ブラジル帝国初代皇帝

レオナル・シャルネール（1797～1869） フランス海軍大将・コーチシナ総督

※シャルネールは「コーチシナ戦争」を指揮した。一方、ペドロ4世としてブラジル帝国の初代皇帝に即位している。外部の血筋だったため、ブラガンサ家と衝突し、ブラジルを自分の手にしたかったのだろう。

□□

ミゲル1世（1802～1866）

ルイ・アドルフ・ボナル（1805～1867） コーチシナ総督

テオドール・モノアール（1806～1869） 国際赤十字社創設

□

マリア・ダ・アスンサン（1805～1834）※画像なし

シャルル・レゴール（1807～1873） フランス海軍大将

テオジニー・フランソワ・ペイジ（1807～1867） コーチシナ総督 任期1860～1861

※レゴールはマリアの影武者として生まれた。その後独立し、フランス海軍大将として「コーチシナ戦争」を指揮し、ベトナムを侵略した。一方、モノアールに化けて家族たちと国際赤十字社を創設した。

□

アナ・デ・ジェズス・マリア・デ・ブラガンサ（1806～1857）

ジュール・グレヴィ（1807～1891） フランス大統領 任期1879～1887

マルタン・デュモラル（1810～1862） 異常性愛シリアルキラー（少女・女性12人）

※グレヴィはアナの影武者として生まれた。その後独立すると、「トンキン戦争」「清仏戦争」を指揮、任期中にベトナムをフランス領にし、植民地化した。フランスがインドシナ半島を侵略したといわれるが、侵略したのはグレヴィという東本願寺門主乗如の子孫である。侵略者だけに顔が怖い。乗如も顔が怖い、隔世遺伝かもしれない。

しかし、顔が怖いのもそのはず。彼の正体は少女や女性を狩ってきた異常性愛シリアルキラー、マルタン・デュモラルだからだ。一見、顔は恐ろしく見えるが、恐らくデュモラルはただの無学な農夫で冤罪だろう。顔の怖さに於いては、どう考えてもグレヴィの方が勝っている。

デュモラルのケースはグレヴィが首相に就任する20年近くも前の1861年に終焉を迎えているが、グレヴィの顔からすると、どうも世に知られていないだけで、首相時代にも隠れて少女や女性を殺していたと考えられる。

ブラジル皇帝ペドロ1世の子

☐☐☐
マリア2世（1819～1853）※画像なし

ルイ・アッピア（1818～1898） 国際赤十字社創設

ジョージ・ウィリアムズ（1821～1905） キリスト教青年会（YMCA）創設

ジェームズ・ホワイト（1821～1881） セブンスデー・アドベンチスト教会教祖

※YMCAは赤十字社を築いた異母兄弟たちとは連合し、ウィリアムズはルイ・アッピアに化けて国際赤十字社の創設に協力している。赤十字とは「血塗れの十字架」である。

☐☐☐
ペドロ2世（1825～1891） ブラジル帝国第2代皇帝

アンリ・デュナン（1828～1910） 国際赤十字社創設

J・N・アンドリュース（1829～1883） セブンスデー・アドベンチスト教会教祖

糖尿病に冒されたペドロ2世は次第に統治能力を失った。外遊中に、国民に不人気であったが摂政を務めていた長女イザベルが、奴隷解放令に署名したために地主の支持を完全に失い、戦争で力をつけた軍部のクーデターにより、1889年にペドロ2世は廃位された。w i k iより

※コーチシナ総督シャルネールの子であるデュナンの名の由来はダナン（ベトナム）である。ダナン＝デュナン＝デュナンとなる。東本願寺門主乗如の子孫が国際赤十字社を築いたということは、赤十字社は悪の巣窟である。

911や地下鉄サリンの時でもそうだったが、彼らは、被災者を救うフリをして殺している。911や地下鉄サリンの時は、被害者の数次第で敵（イスラム教、オウム真理教）を悪党呼ばわりすることが出来るので、助かる人もわざわざ殺し、被害者数を人工的に増やした。

治療のフリをして殺す。救助活動、医療活動は第三者の目から見て殺人には見えない。ということは、人を殺したいのなら救助のふりや医療のふりが一番だということになる。本願寺の一族は、人殺しに見えない名前、容姿、発言を非常に重視している。誰が見ても善としかいいようがない装いをしていれば、悪党呼ばわりするものを逆にキチガイ扱いして公的に退けることが出来るのだ。国連もそうだが、赤十字はまさにその権化だ。

□□
ペドロ・デ・アルカンターラ・ブラジレイロ（1825）※画像なし
デオドロ・ダ・フォンセカ（1827～1892） ブラジル初代大統領
ギュスターヴ・モワニエ（1826～1910） 国際赤十字社創設
ウィリアム・ブース（1829～1912） 救世軍創設

※ペドロ1世の子ペドロ・デ・アルカンターラとして生まれたが、早世したことにしてフォンセカとして育った。成長したフォンセカは、異母兄弟であるペドロ2世を廃位してブラジル初代大統領就任した。フォンセカの影武者であるモワニエはペドロ2世の影武者であるデュナンと組んで赤十字社を創設した。また、フォンセカはウィリアム・ブースに化けて救世軍を築いた。4人とも顔が良く似ている。

□
マリア・イザベル・デ・アルカンターラ・ブラジレイロ（1827～1828）※画像なし
エレン・G・ホワイト（1827～1915） セブンスデー・アドベンチスト教会教祖

ブラジル皇帝ペドロ2世の子孫（極悪カルト「血塗れの十字架」の末裔）

□□
ペドロ（1848～1850） ペドロ2世の子※画像なし
北里柴三郎（1853～1931） 医学博士
ジョン・フランシス・クイーニー（1859～1933） モンサント社創業

※ペドロ2世の遺伝子を欲した日本人女性が優性遺伝子ブリーダーによって北里を生んだ。モンサント創業者クイーニーとは異母兄弟となる。

□□
ペーター・アウグスト（1866～1934） ペドロ2世の孫（レオポルディナの子）
ドミトリー・イワノフスキー（1864～1920） インフルエンザウィルス発見

※イワノフスキー博士はインフルエンザウィルスを作った。作ったといっても細菌兵器を作ったわけではなく、名前と設定を作っただけである。彼が作った設定がさまざまに踏襲され、亜流を作り続けている。

□
ペドロ・ダ・アルカンタラ（1875～1940） ペドロ2世の孫（イザベルの子）※画像なし

野口英世（1876～1928） 医師、細菌学者

※ペドロ2世の遺伝子を欲した日本人女性が優性遺伝子ブリーダーによって野口を生んだ。野口英世の伝記を小さい頃に読んだが、全部ウソなのだろう。貧乏な農家の出という生い立ちは、出自を隠すためのウソである。

□
ペドロ・エンリケ（1909～1981） ペドロ2世の曾孫（ルイス・マリアの子）※画像なし

アンリ（1908～1999） パリ伯

□
ヨゼフィーネ（1911～1997） ペドロ2世の曾孫（ルートヴィヒ・ガストンの子）※画像なし

ピエール・プランタール（1920～2000） シオン修道会総長

フィリップ・ド・シェリセイ（1923～1985） シオン修道会※画像なし

※シオン修道会には1993年当時の首相エドゥアール・バラデュールも関与していた。そのためミッテラン大統領が捜査に乗り出した。これは故国フランスに勢力圏を拡大したい東本願寺門主乗如の一族（シオン修道会）と東本願寺門主宣如の一族（フランス大統領）の勢力争いだった。

▣
アンリ・フィリップ・ピエール・マリー（1933） ペドロ2世曾孫（パリ伯アンリの子）

リュック・モンタニエ（1932） エイズウィルス発見

斎藤洋三（1933） スギ花粉症発見

エドゥアール・バラデュール（1929） 第14代フランス首相

※モンタニエ博士は、下のギャロと共にエイズウィルスを作った。「エイズを作った」といっても名前と設定を考えたのみである。SFマンガの原作者、SF映画の脚本家のようなものだ。斎藤洋三はスギ花粉症発見者である。つまり、花粉症の創作者であり、設定と名称を考えた。マツザイセンチュウを殺すために撒いている殺虫剤が花粉症の正体である。それを証明するように、農薬散布用マスクをしていると花粉症にならない。斎藤洋三の母親はブラジル皇帝ペドロ2世の末裔の遺伝子を所望し、優性遺伝子ブリーダーに世って斎藤を儲けた。

- アンヌ・マルグリット・ブリジッタ・マリー（1938） ペドロ2世曾孫（パリ伯アンリの子）※画像なし
- ロバート・ギャロ（1937） エイズウィルス発見

※エイズで死んだ患者は、みな恐ろしい化学薬品投与で死んでいるに過ぎない。それでもエイズと診断されていれば、エイズで死んだように見えるものだ。うっ、ギャロ博士の肩に霊が・・・

- チボー・ルイ・ドニ・ウンベール・マリー（1948～1983） ペドロ2世曾孫（パリ伯アンリの子）※画像なし
- ピーター・ピオット（1949） エボラウィルス発見

※ピオット博士は「エボラウィルス」を作った。エボラを作ったといっても細菌兵器を作ったわけではなく、ネーミングと設定を考えただけである。実際にそんなウィルスを作ることはもともと不可能だが。存在しないものを存在するとウソをつくことは、すべての局面を容易にコントロール下に置くことが出来るということなのだ。エボラに纏わるエピソードはすべて、ただのウソである。

エボラの症状で死んだ人々は、実際には危険な化学薬品投与で死んでいる。一旦エボラ感染を宣告されれば毒を盛って殺してもエボラで死んだことになる。例え、殴り殺してもエボラで死んだことになるものだ。不治の病の名前と設定は、人を殺すのに非常に便利なものだ。

達如の一族～復古神道、尊皇攘夷、天理教、金光教、神社本庁、日本社会党、講談社、日本会議、ヒカルランド

田

達如（1780～1885）

平田篤胤（1776～1843）

会沢正志斎（1782～1863） 水戸学藤田派

有栖川宮韶仁親王（1785～1845） 有栖川宮第7代当主（有栖川宮織仁親王の子）

朝鮮：疫病大流行（1799）

朝鮮：辛酉の獄（1801）

朝鮮：平壤大火（1803）

日本：豊後百姓一揆（1812）

中国：天理教徒の乱（1813）

朝鮮：済州の乱（1813）

朝鮮：疫病大流行（1815）

朝鮮：疫病流行数万人死亡（1821）

日本：長州藩天保の大一揆（1831）

中国：福建・台湾の乱（1832）

中国：四川、蕃匪の乱（1833）

朝鮮：疫病流行（1834）

日本：佐渡農民一揆（1838）

朝鮮：己亥の獄（1839）

朝鮮：晋州の農民暴動（1862）

朝鮮：丙寅の邪獄（1866）

朝鮮：全羅道の農民武装蜂起（1869）

朝鮮：忠清道農民の蜂起（1878）

朝鮮：農民暴動拡大（1883）

※達如も、白人列強に獲られる前にと、乗如のやったことを踏襲し、悪党を総動員して中国や李氏朝鮮で疫病、一揆を繰り返し指揮している。日本国内でも頻繁に農民一揆を指揮し、一方では、平田篤胤として神道を研究。後の大谷光勝による明治維新、大日本帝国建国を成功に導くための下地慣らしを実施した。篤胤に扮していた頃、達如は天狗にさらわれた後に家に帰ってきた寅吉に面会し、神隠しの最中、何が起きたのか詳細に聞き、書き記している。宇宙人（科学の種族）を知っている大谷は、最大の敵である彼らの情報を得るべく寅吉に会いに行ったと考えられる。寅吉の情報を得るあたりは、大谷の情報網の規模の大きさ、底の深さ、厚みを感じる。浄土真宗信者とは大谷の操り人形であり、城壁でありながら、目でもあり、耳でもあるのだ。達如は、他にも会沢正志斎に化けていた。

※平田篤胤の異母兄弟（影武者）

□
舜仁法親王（1789～1831） 有栖川宮織仁親王の子※画像なし
井上正鐵（1790～1849） 禊教教祖

□□
尊超入道親王（1802～1852）
碧川好尚（1807～？） 国学者※画像なし
生田万（1801～1837） 国学者※画像なし
大原重徳（1801～1879） 公家

※「生田万の乱」を指揮して桑名藩を襲撃した。実際には一向一揆と同じもので「大塩平八郎の乱」のように正義のためのものではなかった。桑名藩に浄土真宗になびかない者がいたので排除することが主な目的である。

平田篤胤（有栖川宮韶仁親王）の子

□
平田鐵胤（1799～1880）※画像なし
羽田野敬雄（1799～1882）

□□
有栖川宮熾仁親王（1812～1886） 神道事務局総裁
平山省齋（1815～1890） 神道大成教教祖
香取源七/赤沢文治/金光大神（1814～1883） 金光教教祖兄

□□□
西園寺公潔（1818～1836）※画像なし
本田親徳（1822～1889） 本田靈学
枝吉神陽（1822～1862） 義祭同盟盟主
島義勇（1822～1874） 義祭同盟メンバー
香取繁右衛門（1823～1889） 金光教教祖※画像なし

※枝吉と本田と島は同一人物だった可能性が高い。危険が迫ると他人に偽装し、潜伏して難を逃れた。鮮明な写真がない時代だからこそ可能なことでもあった。

喬子女王の子（有栖川宮韶仁親王の孫）

□
徳川慶昌（1825～1838）※画像なし
久邇宮朝彦親王（1824～1891） 公家

平田篤胤（有栖川宮韶仁親王）の孫、気吹舎門人はみな平田篤胤の孫

□□
平田延胤（1828～1872）※画像なし
藤田東湖（1826～1855） 水戸学藤田派
岩下方平（1827～1900） 神道事務局副総裁
伊藤六郎兵衛（1829～1894） 丸山教教祖

□
師岡正胤（1829～1899） 気吹舎門人・国学者※画像なし
副島種臣（1828～1905） 副総理大臣・義祭同盟メンバー
新田那光（1829～1902） 神道修成派教祖
島崎正樹（1831～1886） 気吹舎門人・国学者、島崎藤村の父※画像なし

※副島と新田は同一人物である。

□
角田忠行（1834～1918） 気吹舎門人・国学者、神官※画像なし
大木喬任（1832～1899） 枢密院議長・義祭同盟メンバー
江藤新平（1834～1874） 義祭同盟メンバー
飯降伊蔵（1834～1907） 天理教教祖側近

※江藤の朝臣としての正式な名のりは平胤雄（たいらのたねお）であるが、これは先祖である平田篤胤に因んでいる。江藤は大木喬任の影武者でもあった。或いは同一人物か。鼻と口が良く似ている。

□
大原重実（1833～1877） 公家※画像なし
佐野経彦（1834～1906） 神理教教祖
稲葉正邦（1834～1898） 神道大教教祖

※佐野と稲葉は同一人物の可能性が高い。

□
相楽総三（1839～1868） 気吹舎門人・国学者、赤報隊隊長※画像なし

久米邦武（1839～1931） 佐賀藩士・義祭同盟メンバー
芳村正乗（1839～1915） 神習教教祖

※久米と芳村は同一人物である。

稲垣千穎（1845～1913） 気吹舎門人・国学者
金光菽雄（1849～1919） 金光教初代管長

☐
貞愛親王妃利子女王（1858～1927）※画像なし
尾崎行雄（1858～1954） 世界連邦建設同盟（現、世界連邦運動協会）初代会長
川面凡児（1862～1929） 神道家
佐藤範雄（1856～1942） 金光教学院創立者※画像なし

※貞愛親王妃利子女王の影武者として生まれた尾崎はその後、独立して神道家の川面凡児を演じていた。尾崎と川面は同一人物と考えられる。尾崎は、当選回数・議員勤続年数・最高齢議員記録と複数の日本記録を有することから「憲政の神様」「議会政治の父」と呼ばれている。

久邇宮朝彦親王の子

☐☐
賀陽宮邦憲王（1867～1909）
島崎友弥（1868～1911） 島崎藤村三兄※画像なし
廣池千九郎（1866～1938） 公益財団法人モラロジー研究所
中田重治（1870～1939） 日本ホーリネス教会教祖

☐☐
久邇宮邦彦王（1873～1929）
島崎藤村（1872～1943） 小説家
浅野和三郎（1874～1937） 日本心霊科学協会教祖※画像なし
竹内巨麿（1875～1965） 竹内文書、皇祖皇太神宮天津教教祖
高野岩三郎（1871～1949） 日本社会党起草委員
酒井勝軍（1874～1940） キリスト教伝道者、日ユ同祖論者

※作家島崎藤村は久邇宮邦彦王の影武者として生まれた。謎の「竹内文書」は、神道に憧れていた島崎藤村の創作ではなかったか。

☐
懐子女王（1879～1880） 第7王女

鬼倉足日公（1879～1960） すめら教教祖
金光攝胤（1880～1963） 金光教三世管長※画像なし

※当初、男子として生まれたが女子にした。だが、結局早世したことにして潜伏しながら育て、懐子女王は鬼倉足日公として成長し、すめら教教祖となった。

□
織田純子（1885～1912）※画像なし
長沼妙佼（1889～1957） 立正佼成会脇祖

☐☐
東久邇宮稔彦王（1887～1990） 内閣総理大臣
賀川豊彦（1888～1960） 農協創設・イエス団教祖
友清歓真（1888～1952） 神道天行居教祖
森戸辰男（1888～1984） 日本社会党起草委員
金光家邦（1888～1988） 金光教二世管長※画像なし

※上の3人はすめら教教祖鬼倉足日公の子である。賀川と友清は東久邇宮稔彦王の影武者として生まれたが、影武者の地位を飛び出して新宗教の教祖となった。

☐☐☐
朝香宮鳩彦王（1887～1981）
片山哲（1887～1978） 内閣総理大臣
西尾末広（1891～1981） 日本社会党

※朝香宮鳩彦王は、南京大虐殺に関わったとされている。

賀陽宮邦憲王の子

□
由紀子女王（1895～1946）

※娘の佐和子がのちに講談社に侵入し、講談社を乗っ取る。

☐☐☐
賀陽宮恒憲王（1900～1978）
庭野日敬（1906～1999） 立正佼成会教祖
吉岡太郎（1905～1987） 祖神道教団教祖※画像なし
正井頌益（1907～1970） 古神道仙法教教祖※画像なし
力久辰斎（1906～1977） 善隣教教祖

□

武彦王妃佐紀子女王（1903～1923）

保積史子（1908～2003） 大和教団教祖

□
町尻登喜子（1917） 由紀子女王の長女※画像無し

安西愛子（1917～2017） 歌手・ミニ政党「太陽の会」創設、日本福祉党顧問、日本会議副会長

久邇宮邦彦王の子

□

東伏見慈洽（1910～2014）

成田知己（1912～1979） 日本社会党最高幹部

金光鑑太郎（1909～1991） 金光教四世管長※画像なし

野間省一（1911～1984） 講談社第4代社長

東久邇宮稔彦王（影武者友清歡真）の子

□
朝比奈宗源（1891～1979） 臨濟宗円覚寺派貫主・日本会議

谷口雅春（1893～1985） 生長の家教祖・日本会議

丸山敏雄（1892～1951） 倫理研究所教祖※画像なし

※上の朝比奈と谷口は神道天行居教祖友清歡真の子で間違いない。優性遺伝子ブリーダーによって儲けられた。顔が良く似ている。

東久邇宮稔彦王の子

□

盛厚王（1916～1969） 第一王子

谷口清超（1919～2008） 生長の家二代目総裁

村山富市（1924） 社会民主党党首、内閣総理大臣

清水馨八郎（1919） 地理学者、理学博士「侵略の世界史」著者

※谷口清超、村山富市は盛厚王の影武者である。村山は盛厚王本人ではないか？また、清超は眉毛が普通なだけで、顔自体が2人によく似ている。清水は、3人とは顔は似ていないが影武者として生まれた。

久邇宮朝融王の子（久邇宮邦彦王の孫）

通子女王（1933）

橘カオル（1934） ワールドメイト開祖

盛厚王の子（東久邇宮稔彦王の孫）

□□
東久邇信彦（1945～2019）※画像無し

福永法源（1945） 法の華教祖、よろこび家族の和＝天華の救済教祖

又市征治（1944） 社会民主党党首

長尾一紘（1942） 中央大学名誉教授、改憲支持派

※福永氏と又市氏は顔が非常に良く似ている。同一人物のようだが、たぶん、異母兄弟だろう。福永氏が本体で、又市氏は影武者として生まれた。

□
東久邇秀彦（1949）

深見東州（1951） ワールドメイト教祖

□□
東久邇真彦（1953）

吉田忠智（1956） 社会民主党党首

MASAYA（1957） レムリアアイランドレコード教祖

八木秀次（1962） 法学者、麗澤大学経済学部教授、改憲支持派

※MASAYAはXジャパンのtoshiを洗脳したことで話題を撒いた。本職はヒーリングミュージックのプロデューサーだというのが、そこはまさにヒカルランドと繋がっている。

□
寺尾厚彦（1966）

張勝植（1966） ヒカルランド系の作家、陰謀論者

※満州王族の末裔だとか、フリン氏お墨付きのQアーミージャパンだとか、先方が黙っているから何とか成立している弱いウソを披露している。

賀陽宮邦憲王の孫

賀陽章憲（1929～1994）

小松神擁（1928） 神命愛心会教祖

□□
賀陽宗憲（1935～2017）※画像なし

高橋弘二（1938～2015） ライフスペース教祖

淵上貞雄（1937） 社会民主党幹事長

野間惟道（1937～1987） 講談社第5代社長※画像無し

西修（1940） 駒澤大学名誉教授、改憲支持派

甲
賀陽健憲（1942～2017）※画像なし

江田五月（1941） 立憲民主党

田中恆清（1944） 神社本庁総長・日本会議副議長

板垣英憲（1946） ジャーナリスト

※兄弟だけに、高橋弘二と田中恆清は良く似ている。板垣は陰謀論者としてガセネタばかり流し、陰謀マニアをぬか喜びさせることでダメージを与えている。また、板垣は野間省伸の実父の可能性もある。

□
野間佐和子（1943～2011） 講談社第6代社長

※早くして亡くなっているのもそれほど悪い人ではないようだ。出版業界では、無名の新人の作品をパクるのは日常茶飯事だが、講談社の一部では、漫画家を目指す才能ある人物が寝ている間に催眠術をかけ、寝ている間に漫画などを描かせている。そうすることで、アガリを作者に渡さず、全部自分の懐に入れるという人道を無視した所業を展開している。例え、寝ている間にヒット作をモノにしている才能ある人物が、覚醒している時に持ち込みで講談社を訪れても門前払いである。恐ろしいことだ。これがほんとの寄生獣だ。佐和子氏はその大いなる腐敗にメスを入れようとし、消された可能性も高い。

□□
野間省伸（1969） 講談社第7代社長

阿部渉（1967） NHKアナウンサー

※この人物に関しては多くは語るまい。

多羅間俊彦の子（東久邇宮稔彦王の孫）

□ 多羅間稔彦（1959？）※画像無し

石井健資（1959？） 株式会社ヒカルランド代表取締役社長

※大谷光淳先生の影武者である2ちゃん首領西村博之と共にQアーミー日本の指揮者の一人と考えられる。Qアーミー日本のストーリーはヒカルランドが好むテーマである。2ちゃんを管理する本願寺の血筋の作業員やヒカルランドに参加している本願寺の血筋の小粒な作家たちがQアーミー日本の正体だ。

東久邇信彦の子（盛厚王の孫）

□ 東久邇征彦（1973）※画像無し

関暁夫（1975） 都市伝説芸人

※こうして整理して並べてみると、いかがわしい人間はみな達如の一族だということが分かる。

大谷光勝の一族～興宣大院君、明治天皇、吉田茂、ビアフラ共和国、ソンミ村虐殺、**CONVIVR**、ジョン・レノン暗殺、コリン・パウエル、コンドリーザ・ライス、トニー・ブレア



大谷光勝（1817～1894） 第21代東本願寺門主
興宣大院君（1820～1898）
吉田東洋（1816～1862）

□ ※丙寅洋擾（1866）キリスト教徒の惨殺現場。興宣大院君が指揮した。

朝鮮：晋州の農民暴動（1862）

日本：生麦事件（1862）島地黙雷と影武者（大隈重信、山縣有朋）が従事

朝鮮：丙寅教獄（1866）

朝鮮：ジェネラル・シャーマン号事件（1866）

朝鮮：丙寅洋擾（1866）

日本：ええじゃないか（1867）

日本：明治維新（1868）

朝鮮：全羅道の農民武装蜂起（1869）

朝鮮：辛未洋擾（1871）

朝鮮：閔升鎬邸宅火災（1874）

朝鮮：閔升鎬一家爆殺（1874）

日本：高橋お伝による殺人事件（1876）

日本：西南の役（1877）

日本：天理教弾圧、教祖中山みき拘留・拷問（1887）

日本：大日本帝国憲法・皇室典範発布（1889）

朝鮮：日本軍、漢城に入る（1893）

※明治の苗字必須により、東本願寺では大谷光勝のときから「大谷」の名を名乗り始めた。大谷の名の由来はTANATOS（タナトス）の反対SOTANATのOTANAである。OTANA=オータナ=大

谷となる。

東本願寺第二十一代門首。光勝は、李氏朝鮮の皇帝高宗の父、興宣大院君でもあった。庶子の異母兄弟が影武者として投入されていたため、顔が良く似ている。興宣大院君は、宿敵イエズス会の志を継承している朝鮮人キリスト教徒を根絶やしにするため、丙寅教獄を指揮した。これにより、8000人のキリスト教信者が処刑された。

光勝は、日本でも江戸時代当時に近畿、四国、東海地方の日本人を操り「ええじゃないか」を指揮した。ええじゃないかは、現在の浄土真宗信者たちの安倍政権支持と似ている。大勢の人間、日本仏教の信者のように1億人近い人々が、良くないものを「良い」といえば良く見えるものだ。光勝は、当時でさえ、約数千万人の信者を自由自在に操ることができた。日本のラジコンマスターである。

更に、光勝は尊皇攘夷の勢力を統一すべく、土佐に乗り込んで吉田東洋として土佐勤皇党を支配下に置こうと試行錯誤したが、道皇帝の子である武市半平太の指示によって暗殺された。と、されているが、実際に死んだのは影武者だ。光勝本体はその後、30年も生きた。

「ええじゃないか」は、日本の江戸時代末期の慶応3年（1867年）8月から12月にかけて、近畿、四国、東海地方などで発生した騒動。「天から御札（神符）が降ってくる、これは慶事の前触れだ。」という話が広まるとともに、民衆が仮装するなどして囃子言葉の「ええじゃないか」等を連呼しながら集団で町々を巡って熱狂的に踊った。

伊勢神宮に御札が降るおかげ参りと違い、ええじゃないかの御札は地域で信仰されている社寺の御札が降ったため、現地で祭祀が行われる事が多かった。降札があると、藩に届け出た上で屏風を置く、笹竹で家を飾る、酒や肴を供えるなどして町全体で札を祀った。名古屋の場合、降札後の祭事は7日間に及び、その間は日常生活が麻痺した。ええじゃないかwikiより

興宣大院君の子

□ 李載冕（1845～1912）※画像無し

吉田健三（1849～1888）

陸奥宗光（1844～1897） 伊藤博文内閣外務大臣

1866年にイギリス軍艦でイギリスへ密航し、2年間、同国に滞在して西洋の新知識を習得した。1868年に帰国。一時新潟に居住するが、のち横浜に移って英国商社・ジャーディン・マセソン商会横浜支店（英一番館）の支店長に就任し、日本政府を相手に軍艦や武器、生糸の売買でめざましい業績をあげる。3年後には同社を退いて起業し、慰労金1万円を元手に様々な事業を展開する。英学塾を皮切りに、翌1872年には東京日日新聞の経営に参画。さらには醤油の醸造業や電灯会社の設立、ビールやトタン、フランネルの輸入など、実業家としての頭角を顕して横浜有数の富

豪に成長した。吉田健三wikiより

□
高宗（1852～1919） 初代大韓帝国皇帝
明治天皇（1852～1912） 孝明天皇養子
吉田正春（1852～1921） 吉田東洋の子

理宮（1861～1862） 孝明天皇第四皇女
大谷梭子（1861～？） 大谷光勝の子
佐藤茂世（1864～？） 佐藤一郎妻

※茂世は14歳のときに吉田健三の子、茂を産んだ。「茂」の由来は母親の「茂世」である。29歳の吉田健三は、14歳の異母妹を妊娠させたわけだが、そこに竹内綱が助け舟を出し、茂を養子にすることでスキャンダルを回避させた。

歴史上、茂は竹内綱がどこかの芸者に産ませた子だとされている。だが、実際にはややこしいことに、実父の竹内綱がじつは茂の養父であり、養父とされている吉田健三が実父なのだ。昔は、位の高い男がどこかの女に生ませた実の子供を、養子という形で家に迎えることも多かった。茂世はのちに佐藤一郎と結婚し、岸信介と佐藤栄作を生んでいる。つまり、吉田茂、岸信介、佐藤栄作は異父兄弟である。

明治天皇の子

□
建宮敬仁親王（1877～1878） 明治天皇第二皇子
大谷勝信（1878～？） 大谷光勝の子※画像無し
吉田茂（1878～1967） 吉田健三と佐藤茂世の子（内閣総理大臣）

※上の写真は、両方とも吉田茂の写真だが、同一人物に見えない。恐らく、影武者（左）が死んだため、本体（右）がじきじきに出てきたのだろう。タナトスの未来を明るく照らす悪の首領として、没落の危機にあった世界中のタナトス一族に尊敬された茂は、優性遺伝子ブリーダーによって多くの子孫を世界に残し、世界の人々に迷惑をかけている。

□
満宮輝仁親王（1893～1894） 明治天皇第五皇子※画像なし
大谷高（1899～？） 大谷光勝の孫※画像なし
ジョン・スナイダー（1895～1985） ハリー・トルーマン内閣

※黒い悪魔コリン・パウエルの父

吉田茂の子

□

吉田健一（1912～1977）

鈴木善幸（1911～2004） 内閣総理大臣

成久王妃房子内親王の子（明治天皇の孫）

□

多恵子女王（1920～1954）

ジャン＝ベデル・ボカサ（1921～1996） 中央アフリカ共和国大統領

1965年12月、ダッコ大統領の従兄弟で当時国軍の参謀総長だったジャン＝ベデル・ボカサ中佐による軍事クーデターが起こり、ダッコ政権が転覆。1966年1月、ボカサ中佐が大統領に就任し独裁政治を始めた。1970年10月、ジャン＝ベデル・ボカサ大学開校。1972年にボカサ大統領が終身大統領を宣言し1976年12月、ボカサ大統領により中央アフリカ共和国に帝政を敷くことが決定された（中央アフリカ帝国）。1977年12月4日、贅を尽くしたフランス風の戴冠式を行い中央アフリカ帝国初代皇帝ボカサー一世を称する。（「黒いナポレオン」）。ボカサwikiより

李垠の子

□

李晋（1921～1922）※画像無し

都井睦雄（1917～1938） 津山30人殺し

ハシブ・ベン・アマル（1924～2008） チュニジア人権擁護連盟

※ハシブ・ベン・アマルは都井睦雄にくりそつである。どうやら、都井は津山30人殺しで顔と名前を貸しただけで、死んだことにして潜伏し、日本を離れてチュニジアに渡っていたようだ。津山30人殺しで自殺したとされている都井の遺体だが、これは他人（誰？）なのだろう。

田

李玖（1931～2005）※画像無し

オスカル・ウンベルト・メヒア・ビクトレス（1930～2016） グアテマラ軍事政権大統領

姚文元（1931～2005） 四人組

チュクエメカ・オジユク（1933～2011） ビアフラ共和国大統領

ジョナス・ザウインビ（1934～2002） アンゴラ全面独立民族同盟

※ビクトレスはエフライン・リオス・モントの後を継ぎ、グアテマラに軍事政権を敷いた。オジユクとザウインビの2人は同一人物と考えられる。

北白川宮永久王の子（明治天皇曾孫）

甲

北白川道久（1937～2018）

亀井静香（1936） 菅内閣総理補佐官

原中勝征（1940） 日本医師会会長

※笑顔で親しげに話しかけてくる人間を人はなかなか「敵だ」と認識できない。疑うことさえできないものだ。それが敗北を呼び込む一陣の風となる。亀井氏は現在、本願寺の負けを肌で感じ取り、イチ早く抜け出そうと自然エネルギーの分野に足場を固めようとしている。

ジョン・スナイダー（満宮輝仁親王）の子

甲

Edith Cook "Drucie" Snyder（1925～1999）※画像なし

コリン・パウエル（1937） ブッシュ政権閣僚

コフィ・アナン（1938） 国連事務総長

ジャック・ディオウフ（1938） 国際連合食糧農業機関代表

□

※イラク戦争関連の写真。パウエルの指揮で村の人々が虐殺されている。

ジョージ・H・W・ブッシュ政権下の1989年に、アフリカ系アメリカ人初のアメリカ軍制服組トップである統合参謀本部議長（1989年 - 1993年）に就任し、パナマ侵攻や湾岸戦争の指揮を執った。コリン・パウエルwikiより

※ウソをつくための権威。

朝香孚彦の子（明治天皇曾孫）

□ 鈴木富久子（1941～2009）※画像なし

ゲイル・オムヴェット（1941） インド人権活動家

□□ 誠彦王（1943）※画像なし

ベルナール・クシュネル（1939） 国教なき医師団、世界の医療団設立

ウィリアム・カーリー（1943） アメリカ陸軍将校、ソンミ村虐殺指揮

サルバドル・サンチェス・セレン（1944） エルサルバドル大統領

□ 1968年3月16日に、南ベトナムに展開するアメリカ陸軍のうち第23歩兵師団第11軽歩兵旅団・バーカー機動部隊隷下、第20歩兵連隊第1大隊C中隊（機動部隊には他に第1歩兵連隊第3大隊所属のA中隊と第3歩兵連隊第4大隊所属のB中隊、そして砲兵部隊があった）の、“意地悪カーリー”ウィリアム・カーリー中尉率いる第1小隊が、南ベトナム・クアンガイ省ソン・ティン県にあるソンミ村のミライ集落（省都クアンガイの北東13km、人口507人）を襲撃し、無抵抗の村民504人（男149人、妊婦を含む女183人、乳幼児を含む子供173人）を無差別射撃などで虐殺した。集落は壊滅状態となった（3人が奇跡的に難を逃れ、2018年現在も生存している。最高齢者は事件当時43歳）。
ウィリアム・カーリー [wiki](#)より

※上の写真はソンミ村虐殺事件。一部の女性、子供（乳児も？）は服を剥がされ死姦されている。これは人類の本性ではない。人類の心の闇はかくも深いと嘆くべきではない。これは我々と似て非なる、異なる人類 タナトスの本性である。タナトスのやることは人類とは区別して考えるべきだ。本願寺は権威に就いている人物が多いが、それはウソをつくためである。ソンミ村虐殺事件が本願寺の真の姿である。

□□ 美仍子女王（1945）※画像なし

大谷禎男（1945） 裁判官

スパチャイ・パニチャパック（1946） 国際連合貿易開発会議事務局長

セサル・アウグスト・ガビリア（1947） コロンビア大統領、CONVIVR創設

CONVIVRは、1994年2月11日にコロンビア国防省令によって創設された住民の相互監視組織の国家プログラム。コミュニティに治安をもたらす軍に情報調整をもたらすという成果が得られたと主張されていたが、しかし実際には厳密なそれら組織や作戦への監督もなされず、多くの構成員

が民間人への暴力に関与していた。セサル・アウグスト・ガビリアwikiより

盛厚王の子（明治天皇曾孫）母方

□□
東久邇信彦（1945～2019）※画像なし

舛添要一（1948） 安倍政権閣僚、東京都知事

鄭義（1947） 反体制作家、天安門事件

佐川一政（1949） 作家※画像無し

中村修二（1954） 青色発光ダイオード開発、ノーベル物理学賞

※この場合の東久邇信彦は母方となる。中村修二氏はただただ、人殺しのような顔をしている。青色発光ダイオードの開発も、他人から盗んだものではないか？と思わせるほどの悪い人相だ。図らずも、ノーベル賞が悪であることを証明している。

舛添先生は学生時代から大切に保護されている感が強いので、鄭義の方が影武者として生まれたのだろう。鄭義はウソばかり書いて中国の治世を乱す無法者である。佐川一政氏のことについては多くは語るまい。

□
文子女王（1946）※画像なし

マーガレット・チャン（1947） WHO事務総長

※マーガレット・チャンはWHOの権力を傘に、中国共産党に対して「鳥インフル」などのパンデミック攻撃を仕掛けた。これは、基本的にタナトスの医者がウソをついているに過ぎない。つまり、ウソをついている医者をもみな殺せば「鳥インフル」は容易に沈静化する。

□□
東久邇真彦（1953）※画像なし

ジェイムズ・メリット（1953） 南部バプティスト会議議長

トニー・ブレア（1953） イギリス首相

ジョン・ヒンクリー（1955） レーガン大統領狙撃犯

マーク・チャップマン（1955） ジョン・レノン暗殺犯

アーサー・オクス・ザルツバーガーJr（1951） ニューヨークタイムス編集長

□
※異母兄弟とはいえ、ブレアは上のジェイムズ・メリットに非常に良く似ている。それどころか、ヒンクリー、チャップマンに至っては同一人物としか思えない。2人はメリットの影武者、或いは本人ではないのか？レーガン元大統領狙撃事件はフェイクであるが、タナトスがなぜあの劇を製作したのか不明である。

可能性としては、ジョン・レノンの死を悼む人々が絶えないため、ジョンの死を悲しむ人々に対するイヤミとして、ブッシュ副大統領が陣頭指揮を執ってレーガン元大統領狙撃事件を製作した可能性がある。レーガンの言葉を聞けばそう思わざるを得ない。

レーガンは手術の際、医者たちに「諸君がみんな共和党員だといいたがね」、「何が起こったの？」と心配する妻に「ぼくは避けるのを忘れていたよ」と述べた。これらの言葉は、リーダーとして「危機のときにもユーモアを忘れない」としてメディアでは賞賛されたが、実際には違う。前者はジョンが共和党（或いはレーガン）を嫌っていたことのイヤミであり、後者はジョンが撃たれたことのイヤミである。しかし、レーガン狙撃最大のイヤミは、犯人がジョン・レノン暗殺犯と同じ顔だということだ。大谷光勝によく似たイヤな顔だ。

チャップマンを憎んでいたジョンの家族、友人、ファンたちがヒンクリーの顔を見たとき、いったいどう思ったことだろう？ブッシュ副大統領は、そんなことを考えながらほくそ笑んでいたはずだ。ジョン・レノンは人類最高の知性のひとりであるため、タナトスの天敵だった。活動を再開したジョンは、タナトスにとって最高の脅威だった。

メリットはアメリカのバプティスト信者約1億人を自由自在に操ることができる。アメリカのラジコンマスター。反トランプ派のデモは彼が指揮している。アーサーはNYタイムスをフェイクニュースで重度に汚した。

□
東優子（1954）※画像なし

上川陽子（1953） 安倍政権閣僚

コンドリーザ・ライス（1954） ブッシュ政権閣僚

□
※コンドリーザ・ライスは、父パウエルと共にブッシュ政権を通し、「イラクは大量破壊兵器を隠し持っている」と世界規模でウソをつき続けた。彼らは、イラクを爆撃する口実が欲しかっただけだ。この時に、大量の善良な人々が虐殺された。家を破壊され、家族を殺されて泣くイラクの男たちを大勢見たが、普通、大の男があんなふうには泣くことはない。

□
寺尾厚彦（1966）※画像なし

ラース・ロッケ・ラスムセン（1964） デンマーク首相

柴山昌彦（1965） 安倍政権閣僚

※ウソをつくための権威。癌患者は治療によって死ぬ。

□
寺尾盛彦（1967）※画像なし

J・D・グリア（1973） 南部バプティスト会議議長

※アメリカのバプティスト信者約1億人を自由自在に操ることができる。アメリカのラジコンマスター。反トランプ派のデモは彼が指揮している。

鈴木善幸の子

田

鈴木千賀子（1950） 麻生太郎妻※画像なし
石井彰（1953） 日本曹達代表取締役社長
国部毅（1953） 三井住友フィナンシャルグループCEO
サミュエル・ドウ（1951） リベリア軍事政権大統領
モーガン・ツァングライ（1952～2018） ジンバブエ民主変革運動

1990年に入ると戦火はリベリア全土に拡大。1月4日にドウ政権に批判的として知られていたロバート・フィリップスがモンロビアで反逆罪に問われ酷刑に処される。さらにその後ニンバ郡でリベリア国軍により、ギオ族とマノ族の住民500人が処刑され、またNPFLもブトゥオ村で200人を虐殺した。サミュエル・ドウwikiより

田

鈴木俊一（1953） 安倍政権閣僚
中釜齊（1956） 国立ガン研究センター理事長
ドナルド・リロイ・エヴァンス（1957～1999） シリアルキラー
森永卓郎（1957） 経済アナリスト
石井啓一（1958） 安倍政権閣僚
オーティス・ブラウリー（1959） アメリカ癌研究権威

1991年7月某日、ウィスコンシン州ミルウォーキーで逮捕されたジェフリー・ダーマーが世間を騒がせていたちょうどその頃、ミシシッピ州ピロクシでは、ドナルド・リロイ・エヴァンスが、10歳の家出少女を誘拐、強姦の末に殺害した容疑で逮捕された。その取調べにおいてエヴァンスは、「俺はこれまでに少なくとも60人は殺している」と大風呂敷を広げた。殺人博物館より

※中釜とエヴァンスは異母兄弟だろう。しかし、ハゲ方まで似ているのでひょっとしたら同一人物の可能性もある。ウソをつくための権威。医者 of ウソを信じたため、死んでしまう。治療をしなければ死ぬことはない。

ジャン＝ベデル・ボカサの子

田

Jean-Serge Bokassa（1971）※画像なし
テドロス・アダノム（1965） WHO事務総長
モーゼス・シトレ（1964） 南アフリカのシリアルキラー（女性被害者40人強姦・38人

殺害)

※南アフリカ史上、もっとも悪名高い連続殺人犯で、38人以上の殺人に関わり、少なくとも40人以上の女性をレイプしたシトレは、WHO事務総長アダノムの影武者だろう。

麻生泰の子（吉田茂の曾孫）

□
麻生巖（1974）

カンニング竹山（1971） キレ芸人

※竹山のキレ芸は、曾祖父のかの「バカヤロー解散」をパクっている。芸能界の大御所である石橋貴明や和田アキ子に接近し、順次潰している。タナトス知らない人間は彼を全く疑わない。疑うことを知らない人間を強引に信用させる力は凄い。キレ芸というのは何も、ギャグが絶妙なキレを魅せるというわけではない。

朝香孚彦の孫

□
朝香孚彦の孫（197？）※画像なしMagan Ambuhl（1974） アブグレイブ刑務所における捕虜虐待加害者

※イヤな顔だが、メイガンはイラク捕虜に射精を強要したりしていたようだ。自分たちのバックには、家族のコンドチーザ・ライスやコリン・パウエルがいるという強みがあったのだろう。

□
朝香孚彦の孫（197？）※画像なし

Jeremy Sivits（1979） アブグレイブ刑務所における捕虜虐待加害者

※タナトスは自分より強い者には媚びへつらうが、弱い者の前では残虐な正体を隠さない。その好例だ。しかもこの2人の場合、上司は家族（パウエル、ライス）だということもあって、悪事を暴かれる不安さえなかったのだろう。

舛添要一の子

□

舛添氏愛人Bの子（1995）※画像無し
周庭（1996） 香港反政府デモ指導者

※愛人Bの子が周庭を演じている。日本語が話せるのも当然だ。舛添氏は愛人A B C Dに子供を
生ませているようだが、Aの子は不具だという。しかし実際には妹と共に香港デモに加わってい
るかもしれない。

大谷光榮の一族～大谷大学、大正天皇、昭和天皇、ハインリヒ・ヒムラー、軍産複合体、パフラヴィー朝皇帝、アウグスト・ピノチェト、細川護熙、小泉純一郎、立憲民主党、れいわ新撰組



大谷光瑩（1852～1923） 第22代東本願寺門主
岡崎邦輔（1854～1936） 加藤高明内閣農林大臣
ジャヴァド・サアド・アル＝ダウレー（1856～1930） カジャーール朝イラン首相
南条文雄（1849～1927） 大谷大学第2代学長
村上専精（1851～1929） 大谷大学第4代学長
柳原前光（1850～1894） 柳原家21代当主※画像なし

中国：日清戦争（1894）

中国：下関条約（1895）

日本：治安警察法公布（1900）

日本：日英同盟（1902）

朝鮮：朝鮮侵略（1910）

西欧：第一次世界大戦（1914～1918）

日本：東京・柳島自転車商一家殺人事件（1915）人間狩り（井上成美、岸信介、佐藤栄作、東條英機、伊藤文吉、石井四郎、白洲次郎）

日本：夏目漱石殺害（1916）

日本：日英秘密協定（1917）

日本：第一次大本教弾圧（1921）

日本：第一次共産党検挙（1923）

※東本願寺第二十二代門首。大谷光瑩は、一方では岡崎邦輔に化けて加藤高明内閣で農林大臣の要職に就いた。どう見ても同一人物である。岡崎は、その後もたびたび他の内閣にも顔を出している。一方、大谷光榮が北海道に建設した「本願寺道路」は、宇宙人（科学の種族）の怒りによってグチャグチャに破壊された（2018年の胆振大地震）。南条文雄、村上専精は大谷光瑩の

影武者として生まれた。

□ 日野資秀（1863～1903） 柳原前光弟※画像なし

清沢満之（1863～1903） 大谷大学初代学長

ラシード・リダ（1865～1935） シリア・イスラム法学者

□ ※ウソをつくための権威。現在のシリア反政府勢力の精神的支柱となっている。写真はシリア内戦の様子

柳原前光（大谷光榮）の子

□ 柳原義光（1876～1946）

大正天皇（1879～1926） 明治天皇第三皇子

レザー・パフラヴィー（1878～1944） パフラヴィー朝初代皇帝

※全く似ていないが異母兄弟だと考えられる。パフラヴィーの方が影武者だ。

□□ 大谷瑩誠（1887～1948） 大谷大学第13代学長※画像なし

モルテザ・クオリ・バヤト（1890～1958） パフラヴィー朝イラン首相

ヴァネヴァー・ブッシュ（1890～1974） アメリカ国立科学財団、軍需企業レイセオン社創立

アール・P・ハリバートン（1892～1957） ハリバートン社創業

※大谷瑩誠の異母兄弟としてモルテザ・クオリ・バヤト、ヴァネヴァー・ブッシュ、アール・P・ハリバートンが生まれた。ヴァネヴァーは軍産複合体の父であり、ハリバートンは軍需産業ハリバートン社を創業した。

「自衛隊が民間航空機を仮想の敵機として訓練することは今もあると安部氏は睨んでいる。『ぼくがいた時はしょっちゅうだった。米軍機だけだよやんないのは。他の国は日本を含めて予算が無いから民間機を相手に訓練するんだよ』」 by 安部譲二「日本『怪死』事件史」より

□ ※ヴァネヴァー・ブッシュはウソをつくための権威であり、科学者と軍を結びつけた軍産複合体の父である。バミューダの魔の三角海域の話もブッシュが作り出したと考えられる。

バミューダ魔の三角海域は飛行機や船が消えることで有名だが、じつに約100隻近い船舶が消えたまま帰ってこないという。世界中のオカルトマニアが、未知の力が働いているのじゃないか

、U F O、宇宙人のせいじゃないか、とか騒いでいるが、バミューダで船や飛行機が消えるのは、未知の力や異空間突入、プラズマ、U F O、メタンハイドレートのせいではない。失踪直前のパイロットが「白い闇だ！」という言葉も残したらしいが、後で誰かが付け加えたウソだろう。軍産複合体の父ヴァネヴァー・ブッシュは、隠蔽したいことがあり、ウソをついている。オカルト作家や自称超能力者が事実隠蔽に加担しているだけ。ナゾなんかどこにもない。

一番有名なエピソードで、バミューダ魔の三角海域で数々の失踪事件の先鋒をきったのがアメリカ海軍第19飛行小隊の失踪事件である。時は1945年12月5日。フロリダのフォート・ローダーデール海軍基地を飛び立ったアベンジャー雷撃機（※）5機とその捜索に向かった飛行艇一隻が忽然と姿を消した。午後2時10分に飛び立った編隊は、午後7時過ぎの短い無線通信を最後に完全に消息を絶ってしまった。

その後、乗員13名を乗せたマーチン・マリナー飛行艇が救助に向かったが離陸数分後に無線連絡をしたきりこちらも消えてしまったのだ。フライト19の最後の通信は次のようなものだったとされる。「現在位置がよく分からない。基地の北東225マイルいるはずとは思いますが...、われわれは白い水に突入していくみたいだ。完全に迷った...」

しかし実際の通信記録にはこのような台詞は見当たらず、後の著述家による創作らしい。

フライト19の乗組員も熟練のパイロットなどではなくテイラー中尉ともう一人の乗員を除いて全員が練習生だった。つまり訓練飛行だったのだが、訓練中に何か問題があったのだろうか？そんなことよりも、一番注目したいのが、消息を断った午後7時50分頃には近くを航行していた船が空中爆発を目撃していることだ。

じつは1945年当時は従来のプロペラ機に変わる次世代兵器、ジェット戦闘機の第一世代（1944～1953年）の開発・製造が行われていた時期と重なる。

・ロッキード・シューティングスターF-80：1943年6月から開発を開始し、米軍最初の実用ジェット戦闘機。それまでのプロペラ機とは比べ物にならない機動性を持ち備えていた。

・ベルXP-83：1945年2月25日に初飛行している。

・リパブリックF84サンダージェット：F84の設計は1944年に始まり、幾度の改設計の後空軍に採用され、1947年から部隊配備が開始された。

等、数々のジェット戦闘機が開発・製造されていた。筆者は、バミューダのナゾとアメリカ軍の軍事訓練を結びつけました。軍産複合体の命により、新兵器の性能を確かめる目的で何も知らない訓練飛行中の海軍第19飛行小隊相手の攻撃訓練が行われた可能性があるのではないかと。つまり、アメリカ海軍第19飛行小隊は同胞のジェット戦闘機の攻撃により海の藻屑と化した。不都合なことを隠す時にオカルトを持ち出すのは古今東西・世の支配者の常です。バミューダでは今でも民間の旅客機や船舶が消滅しているが。これはアメリカ軍の継続的な民間機・船舶相手の軍事訓練、新型兵器（ミサイルとか）の試験が原因の可能性もある。バミューダ魔の三角海域とは、別名：アメリカ合衆国空軍海軍マル秘合同軍事訓練海域である。

柳原義光の養子

- 柳原博光（1889）※画像なし
- 近衛文麿（1891～1945） 内閣総理大臣
- 石原広一郎（1890～1970） 石原産業創業者
- 山口益（1895～1976） 大谷大学第15代学長※画像なし

※石原は大正天皇の庶子であり、近衛文麿の異母兄弟と考えられる。当初は近衛の影武者として生まれたが悪の才能を買われて影武者から独立し、農業を基幹事業とする石原産業を創業した。石原は四日市ぜんそくの被告であるが、会社自体が体質的に本願寺の血を継いでいるため、1969年に四日市港に強酸性溶液を垂れ流していた「石原産業事件」、2005年にはフェロシルトの大量不法投棄問題を引き起こした

□ ※写真は太平洋戦争で捕虜の首を斬る日本兵。1938年、国家総動員法が施行された。1938年（昭和13年）に第一次近衛内閣によって制定され、総力戦遂行のため国家のすべての人的・物的資源を政府が統制運用できる旨を規定したものだ。国家統制の対象とされたものは以下の6点に大別できる。

- ・労働問題一般： 国民の徴用、総動員業務への服務協力、雇用・解雇・賃金等の労働条件、労働争議の予防あるいは解消
- ・物資統制： 物資の生産、配給、使用、消費、所持、移動
- ・金融・資本統制： 会社の合併・分割、資本政策一般（増減資・配当）、社債募集、企業経理、金融機関の余資運用
- カルテル： 協定の締結、産業団体・同業組合の結成、組合への強制加入
- ・価格一般： 商品価格、運賃、賃貸料、保険料率
- ・言論出版： 新聞・出版物の掲載制限

これが4月1日のことだ。そしてこの約2ヵ月後の5月21日にあの「津山30人殺し事件」がおこる。この大事件は単なる情報操作劇である。国家総動員法に異議を唱える著名人、国民の声をマスメディア上から一掃するために創作されたのだ。被害者は都井睦男（22）に殺されたわけではないだろう。殺したのは近衛文麿の命を受けた東西本願寺の一族の秘密部隊である。

大正天皇の子

□□

昭和天皇（1901～1989）

ハインリヒ・ヒムラー（1900～1945） ナチス親衛隊全国指導者、秘密警察ゲシュタポ

李少奇（1898～1969） 文化大革命肅清組

□

1939年9月のポーランド侵攻後、国家保安本部は占領下ポーランドやソ連占領地域にアインザッツグルッペン（特別行動部隊）を派遣してユダヤ人を含む反体制ポーランド住民を銃殺した。ユダヤ人絶滅政策（ホロコースト）の決定はヒムラーではなくアドルフ・ヒトラーによるものと考えられている。ヒトラーがホロコーストを決意したのは1941年夏であったと言われる。しかしヒトラーの命令を受けて実際にホロコーストを組織したのはヒムラーと親衛隊であった。ヒムラー-wikiより

□□

秩父宮雍仁親王（1902～1953）

小泉純也（1904～1969）

※小泉純也はヒムラーに非常に良く似ているのでヒムラーの子としたが、考えてみたらヒムラーとはいえ（？）、3歳で女を妊娠させることは不可能だ。顔を見る限り、純也はヒムラーの子である事実は譲れない。ということで、ヒムラーは実際には1895年生まれの可能性がある。そう推測していることをここで断っておく。

□□

光宮宣仁親王（1905～1987）※画像なし

ネマトラー・ナッシリ（1911～1979） 秘密警察SAVAK長官

アウグスト・ピノチェト（1915～2006） チリ軍事政権大統領

□□

1974年6月27日には大統領に就任。アメリカ合衆国の政財界、チリ国内の保守層や軍部の支援を受けながら、その後1990年3月までの16年間に亘って軍事政権を率いて強権政治を行い、「独裁者」と呼ばれた。ピノチェト政権下では、多くの左派系の人々が誘拐され行方不明となった。2004年のチリ政府公式報告書では、1973年から1990年までの死者・行方不明者は合計で3,196人だが、国際的な推計によれば実際にはもっと多いのではないかともいわれる。また、誘拐・投獄に伴う拷問も広く行われたとされ、新たに建設された強制収容所に送られたり、拷問を受けたりと何らかの形で人権侵害を受けた人々は10万人とも推定され、政治的、経済的な理由での亡命者は当時のチリ総人口の約10%の100万人に達した。ピノチェトwikiより

※ピノチェトは大谷光榮の一族であり、キッシンジャーは西本願寺法如の一族であるため、家族である。家族が家族を助けるのは当然のことだ。しかし、こと本願寺の家族に関しては醜いとしか言いようがない。

□

澄宮崇仁親王（1915～2016）※画像なし

ピエール・トルドー（1919～2000） 第20、22代カナダ首相

アレクサンドル・ニコラエヴィチ・ヤコブレフ（1923～2005） ゴルバチョフ政権ナンバー2

なお、ソ連の駐カナダ大使として赴任してきたアレクサンドル・ヤコブレフとは深い交友関係を築き、トルドーはヤコブレフにちなんで自分の次男にアレクサンドル (Alexandre) と名付け、さらにロシア語風のサーシャという愛称で呼ぶほどだった。トルドーwikiより

※トルドーは、アレクサンドル・ヤコブレフと共に上のモハンマドの影武者として生まれた。そのため、トルドーとヤコブレフは親交を深めた。

昭和天皇の子

□

東久邇成子（1925～1961）※画像なし

安倍晋太郎（1924～1991）

ウォーレン・クリストファー（1925～2011）

※ウソをつくための権威。

□

久宮祐子内親王（1927～1928）※画像なし

相澤秀禎（1930～2013） サンミュージックプロダクション社長

堀威夫（1932） ホリプロ創業者

※この2人は異母兄弟と考えられ、同時に芸能界の重鎮でもある。

□

常陸宮正仁親王（1935）※画像なし

山崎拓（1936） 自由民主党

ジョセフ・ナイ（1937） クリントン政権

後藤舜吉（1936） チッソ代表取締役会長

※2018年、水俣病救済終了を宣言したため物議を醸して自爆辞任。石原産業の創業者の子と考えられる。

2008年12月、東京都内で日本の民主党幹部と会談を行い、「オバマ次期政権下で（日本の）民主党が安全保障政策でインド洋での給油活動をやめ、日米地位協定などの見直しに動いたら反米と受け止める」と発言を行った。ジョセフ・ナイ [wiki](#)より

□

島津貴子（1939）※画像なし

田中真紀子（1944） 小泉政権閣僚

※文化大革命時に反革命集団として粛清された李少奇は、優性遺伝子ブリーダーによって田中真紀子を生んでいる。大谷光瑩、李少奇、田中真紀子の3人は、顔がウリふたつである。ところで、田中角栄も優性遺伝子ブリーダーによって生を受けている。彼は、台湾総督、明石元次郎の子である。つまり、角栄には本願寺の血は流れていない。そのため、彼は本願寺の言葉を無視し、自分の思い通りに動いた。だが、それが仇となり、日本国の王として上り詰めていた、その最中に粛清された（ロッキード事件）。

ここで、本願寺の血が流れている田中真紀子は真の家族である本願寺に味方し、育ての父である角栄を非情にも悪の手に売り渡した。幼少期を一緒に過ごしたはずの娘の裏切りにより、角栄の晩年は悲惨なものとなった（タナトスの血族であれば病気になるはずがない）。更に真紀子という、真の事情を知る者が角栄のそばにしながらシラをきっていたことが、角栄の絶望を決定的なものにしたと言って良い。

近衛温子の子（近衛文麿の孫）

□

細川護熙（1938） 内閣総理大臣

□

近藤忠照（1939） 日本赤十字社社長

笹川陽平（1939） 笹川平和財団名誉会長、公益財団法人日本財団会長

□

※東西本願寺門主の血を継ぐ人々が終結している図。家族の前でしか見せない笑顔だ。

小泉純也の子

☐

小泉純一郎（1942） 内閣総理大臣

林裕章（1942～2005） 吉本興業元社長

浅川嘉富（1941） スピリチュアル・オカルト研究家
ディック・チェイニー（1941） ブッシュ政権閣僚
エフード・バラック（1942） イスラエル第14代首相
ゲイリー・ヘイドニク（1943～1999） シリアルキラー

※小泉、林、浅川の3人はよく似ている。2019年8月28日現在、小泉氏はアメリカ軍に拉致され、グアンタナモ刑務所で拷問を受けているという。それもありえないことではない。小泉氏は、あのテッド・バンディの本体G・W・ブッシュ元大統領とイラク戦争を推進したのだから。合掌。

林氏は早死になのであまり悪い人ではないかもしれない。一方、浅川氏はアセンションなどの言葉で無知なスピリチュアルマニアにアピールし、スピリチュアル界、オカルト界を誤誘導している。彼の発言は意図的に誤っているだろう。タナトスが宇宙人やUFOについて語ることは不可能だ。「クラリオン星人」の著書も中古で購入後、すぐに売りました。

アメリカのハリバートン社の経営にも1995年-2000年までCEOとして参加していた。ハリバートンは世界最大の石油掘削機の販売会社であり、イラク戦争後のイラクの復興支援事業や、アメリカ軍関連の各種サービスも提供していることから、湾岸戦争とイラク戦争で巨額な利益を得た。なおチェイニーは、この会社の最大の個人株主でもある。ディック・チェイニーwikiより

アメリカ合衆国の連続殺人犯、強姦犯。ヘイドニック、ハイドニクとも表記される。異名はハンバーガー司祭。1986年11月から1987年3月にかけての5ヶ月間にわたって、黒人女性に「自分の子供を産ませるため」にフィラデルフィア市内のスラムの自宅の地下室に6人の売春婦を監禁。強姦、暴行、虐待などを加え、そのうちのふたりを殺害した。ゲイリー・ヘイドニクwikiより

甲
小泉かよ子（1957）※画像なし
ポーラ・カーガー（1957） PBS社長
ジェームズ・ダイモン（1956） JPモルガン・チェース会長
ウェイン・ウィリアムズ（1958） シリアルキラー

ウェイン・ウィリアムズは1958年5月27日、当時の黒人としてはかなり裕福な家庭に生まれた。両親はいずれも教師である。40代半ばにして初めて授かった一人っ子ということで、かなり甘やかされて育った。欲しい物は何でも買ってもらった。16歳の時には親の資金的援助を得てラジオ局を開設。音楽プロデューサーになることを夢見ていた。だが、才能はなかったようだ。虚言癖がある夢想家で、大風呂敷を広げては親の財産を蕩尽していた。また、黒人でありながら黒人を嫌い、ニガーと呼んで侮辱していたという。殺人博物館より

東久邇成子の子（昭和天皇孫）

□

東久邇信彦（1945～2019）※画像なし

中曽根弘文（1945） 麻生政権閣僚

黒田東彦（1944） 日銀総裁

※2019.10.29、黒田総裁は口座維持手数料を取ることを考えていると報道があった。とるものもとりにあえず日本人の弱体の優先を決定しているようだ。安倍総統も10.26に亡くなったので急いでいる印象がある。

□

東久邇秀彦（1949）

ベンジャミン・ネタニエフ（1949） イスラエル第13代首相

セルゲイ・スクリパリ（1951） 元ロシア情報機関職員

海江田万里（1949） 立憲民主党議員

ロシア連邦軍参謀本部情報総局大佐を務めた。イギリスのスパイとして活動していたことを理由に、2006年にロシアで禁錮13年の判決を言い渡された。ロシアとアメリカ合衆国とのスパイ交換により、2010年7月9日、ウィーンでアメリカ側に引き渡され、のちイギリスに亡命した。2018年3月4日、ソールズベリーのショッピングセンター前のベンチに娘とともに倒れているのを発見され、意識不明の重体となっている。同年5月18日、入院していた病院から退院したことが公表されている。セルゲイ・スクリパリwikiより

□

東久邇真彦（1953）※画像なし

アナス・フォー・ラスムセン（1953） デンマーク首相、NATO事務総長

アシュトン・カーター（1954） オバマ政権閣僚

カイラシュ・サティアーティ（1954） インドの子供の権利活動家、ノーベル平和賞

※ウソをつくための権威。実際にはインドの子供を拉致し、性奴隷、臓器移植を目的に人身売買している可能性がある。もともと、ノーベル平和賞はそういう悪党を守るためのものだ。

□
※ウソをつくための権威。写真はNATO軍の速攻部隊

□

東優子（1954）※画像なし

茂木敏充（1955） 安倍政権

豊田章男（1956） トヨタ自動車株式会社代表取締役社長兼執行役員社長

副島隆彦（1953） 著述家

※筆者がブログに「無知との遭遇」と書くと、すぐに副島氏の本のタイトルにパクられた。しかも売れていないw

相澤秀禎の子

☐☐☐
相澤正久（1950） サンミュージックプロダクション社長
志賀俊之（1953） 日産取締役
神庭重信（1954） 日本精神神経医学会理事長

※ウソをつくための権威。内海聡医師によると自殺は医師が出す薬によって起きる。

安倍晋太郎の子

☐☐☐
岸信夫（1959）
今井尚哉（1958） 安倍政権内閣総理大臣秘書官
福山哲郎（1962） 立憲民主党
枝野幸男（1964） 立憲民主党党首
百田直樹（1956） 作家
ケヴィン・スペイシー（1959） ハリウッド俳優

※枝野、百田、今井はくりそつである。良く似ている。異母兄弟だろう。立憲民主党は薩長同盟の長州藩の役回りを戴いている。敵である小沢氏、石破氏、大阪維新に協力する考えは毛頭ない（うっ）。小沢氏は味方の振りをしている敵に囲まれている。本願寺は、長年かけて慎重にこのような環境を整備してきたため、簡単に覆すことは出来ない。ケヴィン・スペイシーは年を重ねるごとに日本人ぽくなってきている。ケヴィン・スペイシーにも幼児性的虐待の疑惑がかかっているが、本願寺の一族ならありえるだろう。映画「セブン」の悪役も素なのかもしれない。

堀威夫の子

☐☐
堀義貴（1966） ホリプロ代表取締役会長兼社長
草野マサムネ（1967） スピッツ

相澤秀禎の子（優性遺伝子ブリーダーによる）

□ 山本太郎（1974） れいわ新撰組党首

※山本太郎のやっていることを信じたかったが、どう考えても相澤秀禎に似ている。小沢氏は騙されているのではないか？どっちにしても結果は出ていない。

枝野幸男の子（優性遺伝子ブリーダーによる）

□ 羅冠聡（1993） 香港反政府デモ指導者

※黄之鋒（東本願寺門主大谷暢裕の子）、周永康（西本願寺門主大谷光淳の子）と周庭（東本願寺門主大谷光勝の一族、鄭義の子）を併せて四人組の復活のようだ。

大谷光演の一族～重慶爆撃、CTスキャン、ダライ・ラマ14世、ディズニー・カンパニー、スティーブン・スピルバーグ、ジャニーズ、タイム・ワーナー社、YOUTUBE



大谷光演（1875～1943） 第23代東本願寺門主

山崎達之輔（1880～1948） 東條英機内閣農相大臣

モハンマド・モサッデク（1882～1967） パフラヴィー朝首相

イスファンディヤル・ジュルジ・バハドゥール（1871～1918） イナク朝第11代君主
在位1910～1918

佐々木月樵（1875～1926） 大谷大学第3代学長※画像無し

曾我量深（1875～1971） 大谷大学第17代学長※画像無し

Elias Disney（1859～1941） ディズニー家の祖

日本：関東連続少女殺人事件（1924）人間狩り（白洲次郎、麻生太賀吉、大谷光暢、大谷光照）、治安維持法発布隠し

日本：治安維持法発布（1925）

日本：芥川龍之介殺害（1927）

中国：日本軍、第一次山東出兵（1927）

日本：第二次共産党検挙（1928）

日本：特別高等警察設置（1928）

満州：張作霖殺害事件（1928）

日本：第三次共産党検挙（1929）

日本：玉の井バラバラ殺人事件（1932）人間狩り（麻生太賀吉、大谷光暢、大谷光照）、5.

15事件隠し

日本：5.15事件（1932）

西欧：国際連盟脱退（1933）ルーズベルト大統領就任を受けて

日本：第二次大本教弾圧（1935）

日本：2.26事件（1936）

日本：向島連続少女殺人事件（1936）人間狩り（麻生太賀吉、塩川正十郎、大谷光暢、大谷光照）、2.26事件隠し

日本：阿部定事件（1936）2.26事件隠し

中国：盧溝橋事件～日中戦争（1937～1945）

中国：南京大虐殺（1937）

日本：国家総動員法発令（1938）

日本：津山30人殺し事件（1938）人間狩り（麻生太賀吉、塩川正十郎、大谷光暢、大谷光照）、国家総動員法発令隠し

日本：浜松連続殺人事件（1941）人間狩り、真珠湾攻撃隠し

日本：真珠湾攻撃（1941）

日本：創価学会弾圧、牧口常三郎逮捕・獄中死（1943）

※東本願寺第二十三代門首。光演は、日本では山崎達之輔に化けて東條英機内閣農相大臣に就任している。また、イランではモハンマド・モサッデクに化けてパフラヴィー朝の首相としてイランを支配した。

Elias Disney（大谷光演）の子

□ **Herbert Arthur Disney**（1888～1961）

井上成美（1889～1975）海軍将校、重慶爆撃を指揮

□ ※重慶爆撃の写真。被害者の女性たちは下着を剥がされ死姦されている。不気味だ。日本兵（浄土真宗信者）は被害者を同じ人間と全く考えていない。

□ **Roy O Disney**（1893～1971）

□ **Walt Disney**（1901～1966）

石田和外（1903～1979）最高裁判官、日本会議

野上俊静（1907～1994）大谷大学第18代学長※画像無し

安藤俊雄（1909～1973）大谷大学第19代学長※画像無し

松原祐善（1906～1991） 大谷大学第20代学長※画像無し

石原潔（1899～1951） 石原慎太郎父※画像無し

※デ●ズニーアニメは、ミッキーマウスだけの時点では非常にかわいらしいのだが、世界中の童話をアニメ化するようになると洗脳装置、愚鈍化装置の役割を果たすようになった。アニメを愛していたため、ウォルトは家族に殺されたようだ。いわば、デ●ズニーランドは植民地だ。だが、この植民地は少々変わっており、人々の頭の中にある。脳内植民地である。

Elias Disney（大谷光演）の孫

☐
Dorothy Disney Puder（1915～2007） Herbert Arthur Disneyの子※画像なし

デヴィッド・バーグ（1919～1994） 新興宗教ファミリー教祖

ゴッドフリー・ハウズフィールド（1919～2004） CTスキャン発明、生理学・医学ノーベル賞

佐治敬三（1919～1999） ACジャパン創設

Arnold Spielberg（1917） スピルバーグ父※画像なし

※ノーベル賞授与により、CTスキャンは殺人機械ではなくなった。CTスキャンは人類を白血病にするための装置だ。佐治敬三はインチキな常識を日本に根付かせた悪の組織ACジャパンを創設した。

☐
Charles Elias Disney（192?） Raymond Arnold Disneyの子※画像なし

千玄室（1923） 裏千家、日本会議

廣瀬泉（1924～2011） 大谷大学第21代学長※画像無し

北西弘（1925～2019） 大谷大学第22代学長※画像無し

ホルヘ・ラファエル・ビデラ（1925～2013） アルゼンチン軍事政権

寺川俊昭（1928） 大谷大学第23代学長※画像無し

今井敬（1929） 第9代経団連会長

※千利休を殺し、利休が築いた「茶道」のすべての業績を篡奪した人物の子孫である。北西弘は一向一揆の研究者であるが、真実の追究ではなく、主に隠蔽に務めている。

☐
当初ビデラは、政治ならびに経済、社会的混乱が収まれば民政を復歸させるを公約していた。しかし、国会機能を停止させ、左翼ゲリラ掃討を理由で多くの一般市民を逮捕した。これにより、1万3千人から3万人以上が行方不明となり、後に「汚い戦争」と呼ばれることとなるこの弾圧は、

国内外から多くの非難を浴びることとなった。ホルヘ・ラファエル・ビデラwikiより

☒

Roy E Disney (1930~2009) ウォルト・ディズニー・カンパニー社長
ジャニー喜多川 (1931~2019) ジャニーズ事務所
ドナルド・ギASKINズ (1933~1991) シリアルキラー
田久保忠衛 (1933) 日本会議会長
ロバート・K・レスラー (1937~2013) FBI捜査官、司法行動研究所所長

※プロファイリングというインテリジェンス技術により、危険な異常心理殺人犯を速やかに区別し、逮捕できるとした。殺人鬼になるかならないかは、親の教育や生育環境に左右されるとしているが、ウソである。冤罪以外の真のシリアルキラーは、みな、タナトスの遺伝子を持っている。タナトスの遺伝子がなければ笑いながら子供を殺すことはできない。どんなにひどい環境で育とうと、タナトスでなければ子供を殺したり、人の肉を食べたいと思うことはない。

少なくとも100人は殺したと豪語するギASKINズは身長163cmの小柄な男だった。故にピーウィー(ちび)と呼ばれた。そして、ピーウィーであるが故に殺人者となった。少しでも己れを大きく見せるために殺さなければならなかったのだ。そして、殺した途端に己れを神だと錯覚した。つまり、己れの大きさを見誤ったのだ。100人という数もおそらくハッキリだろう。しかし、かなりの数を殺していることは間違いない。殺人博物館より

☒

Diane Disney Miller (1933~2013) ※画像なし
ダライ・ラマ14世 (1935)
森喜朗 (1937) 内閣総理大臣
日枝久 (1937) フジサンケイグループ代表
老川祥一 (1941) 読売グループ最高顧問
小川一乗 (1936) 大谷大学第25代学長※画像なし
福島章 (1936) 犯罪精神医学

※福島章は犯罪精神医学の権威だが、彼だけでなく、精神科医は犯罪を犯した政治家、エリートなどの精神分析をしない。これは差別ではないか？

□

※写真はチベット人虐殺。これは中国政府によって行われているとされているが、実際には警察や軍に所属するダライ・ラマの信者がしていることだ。こうすることで中国政府に汚名を着せ、攻撃することが出来る。ノーベル平和賞を盾に中国政府を攻撃する人物。ラビア・カーディルと共に、現代を代表する西戎のひとり。数万のチベット人を自由自在に操ることができる。チベットのラジコンマスター。

石原潔（Walt Disney）の子

□
石原慎太郎（1937） 東京都知事
アルベルト・フジモリ（1938） ペルー大統領

※慎太郎はWaltの影武者を務めていた潔の子である。フジモリは慎太郎の影武者として生まれた。影武者ながらペルー大統領にまで上り詰めたが、2009年4月7日、フジモリは1991年のバリオス・アルトス虐殺事件、1992年の軍によるビジネスマンとジャーナリストの誘拐などを含めた、計画殺人、誘拐、傷害罪で25年の禁錮刑を宣告された。

□
※バリオス・アルトス虐殺事件

佐治敬三（Dorothy Disney）の子

田
佐治信忠（1945）※画像なし
本庶佑（1942） ノーベル生理学・医学賞
唐沢祥人（1942） 日本医師会会長
モハメド・エルバラダイ（1942） エジプト暫定副大統領
デニス・ニールセン（1945～2018） 同性愛喰人シリアルキラー
上田良一（1943） 日本放送協会会長
イ・ホエスン（1945） IPCC理事長

※エルバラダイとニールセンは影武者の佐治敬三と本体のDorothyが儲けた子である。2人は顔が良く似ている。同一人物の可能性も高い。もしそうであるなら、同性愛殺人者として異常な趣味に興じながらIAEA事務局長などの要職に就いていることになる。

本庶は、毒薬として知られるオプジーボを売るためにノーベル賞を授与させた。おもしろいことに、ノーベル賞をもらうと、危険な毒薬が安全な薬品に変わるのだ。

IAEA事務局長を2009年の任期切れを以て退任した後、2010年に母国であるエジプトに帰国し、同年2月に政治団体「変革のための国民協会」を立ち上げて、エジプトの政治改革・民主化を提唱し、ホスニー・ムバーラク大統領による長期独裁政権に反対していた若者層やリベラル派から支持を得た。しかし、体制派のイスラム主義団体指導者が「エジプトのイスラム教徒を惑わそうとしている」などとしてエルバラダイの殺害を呼びかけるファトワを出したため、エジプトを出国しヨーロッパに滞在した。2011年1月にチュニジアでジャスミン革命が成功すると、エルバラダイ

は1月24日発売のドイツ誌『デア・シュピーゲル』においてチュニジアを引き合いに出し、エジプト国民も行動を起こすべきだと主張した。1月25日よりエジプト全土で大規模な反政府デモ（2011年エジプト騒乱）が発生すると、エルバラダイは27日に滞在先のウィーンより帰国し、28日にカイロ市のデモに参加したが、治安部隊によって一時軟禁下に置かれた。エルバラダイは1月30日にもデモに参加し、カイロ中心部のタハリール広場で演説をした。モハメド・エルバラダイ [wiki](#)より

この直後、ニルセンは最初の殺人を犯す。クリスマスをたった一人で過ごした彼は、せめて新年だけは誰かと一緒に迎えようと夜の街に繰り出した。そして、18歳のアイルランド人（氏名不詳）を自室に迎えた。1978年12月30日のことである。ニルソンは新年もここで過ごすように勧めた。ところが、彼には別の予定があった。どのようにして殺したのかは憶えていない。とにかく、気がついたら彼は死んでいた。

ニルセンはこの死体と年を越し、8月まで共に暮らした。切断して処分することも幾度となく考えたが、「あの素晴らしい肉体を損ねるような真似は出来なかった」。死体を洗い浄めると、衣服を着せ、共にテレビを見て、夜になると添い寝した。それから床下に隠し、そのまま8月まで放置したのである。さすがに腐臭が凄まじいので、庭に運び出して焼却した。その際にゴムも一緒に焼いて臭いを誤魔化したというから、なかなか抜け目がないニルセンである。殺人博物館より

Arnold Spielberg (Dorothy Disney Puder) の子

☐
スティーブン・スピルバーグ（1946） 映画監督
徳川康久（1948） 靖国神社宮司、日本会議

※スピルバーグは、ArnoldとDorothyという本体と影武者の子だと考えられる。「激突」「ヘキサゴン」を撮っていた頃は優れた作家だった。「未知との遭遇」「ET」辺りも良好だった。しかし、「プライベートライアン」「AI」以降は見たら脳が溶けるような映画を乱発している。現在の「レディプレイヤー1」は映画である必要がない。

Elias Disney (大谷光演) の曾孫

☐
Christopher Miller（1954）※画像なし
大久保好男（1950） 日本テレビホールディングス代表取締役社長
有田芳生（1951） ジャーナリスト、立憲民主党議員
田中伸男（1950） 元経産官僚前国際エネルギー機関（IEA）事務局長
淡輪敏（1953） 三井化学会長
岸上克彦（1954） アサヒ飲料代表取締役社長、カルピス代表取締役社長

※オウム真理教の背後にはソビエト政府、中国政府、北朝鮮政府がいたものと考えられる。つまり、正義の味方が浄土真宗に家畜化された日本人の解放をもくろんでいた。しかし、それを阻止すべく、有田芳生が外部から、上祐が内部からオウム真理教を蝕んだ。基本的に汚名を着せるのが使命だった。坂本弁護士事件も、実際にはオウムではなく、浄土真宗の仕業だろう。自分でやっというて敵に濡れ衣を着せる。オウムをハメたり、個人を集団ストーカーする。規模の大小は異なれど、これは浄土真宗の常套手段だ。

本願寺がアサヒ飲料とカルピスを掌握している。ということはアサヒとカルピスの製品を手にするべきではない。カルピスは乳酸菌をウリにしているが、最近の乳酸菌は遺伝子組み換えであり、殺菌剤で育てられているので非常に危険だ。異常な下痢と腹痛から逃れることは出来ない。本願寺はそれを知っているのでアサヒ飲料やカルピスは絶対に口にしない。淡輪は日本に農薬を撒き散らす、化学テロの一環を担う男。

□

Abigail Disney (1960)

岡田美保子 (195?) 日本医療情報学会会長

稲田朋美 (1959) 安倍政権閣僚

※ウソをつくための権威。

□

Roy Patrick Disney (1957) ※画像なし

タミル・パルド (1953) イスラエル諜報特務庁モサド長官

ロイド・C・ブランクファイン (1954) ゴールドマンサックス会長兼CEO

ボビー・ジョー・ロング (1953) シリアルキラー

※ブランクファインは、世界一の資金を持っているといわれている。また、影武者のボビー・ジョー・ロングは9人の売春婦を殺害した容疑で有罪となり、死刑を宣告された。

□

※写真はモサドによる自動車爆破テロ

石原慎太郎の子

□

石原伸晃 (1957) 安倍政権閣僚

吉田尚正 (1960) 警視總監

東原敏昭 (1955) 日立製作所取締役代表執行役社長

角南源五 (1956) テレビ朝日代表取締役社長

□

石原良純（１９６２）

河野太郎（１９６３） 安倍政権閣僚

※太郎は良純の影武者として生まれた。

Elias Disney（大谷光演）の曾孫

□

Roy Patrick Disney（１９５７）

御茶漬海苔（１９６０） 漫画家

ジョン・スタンキー（１９６３） タイム・ワーナー社CEO

□

Timothy "Tim" Disney（１９６１）

佐々木卓（１９６０） TBS代表取締役社長

三上丈晴（１９６６） ムー編集長

田

Susan Disney Lord（１９６？）※画像なし

クリスティン・フォード（１９６６） 民主党員議員

スーザン・ウォシッキー（１９６８） ユーチューブCEO

岩田明子（１９７０） NHK解説委員

蓮舫（１９６７） 立憲民主党議員

杉田水脈（１９６７） 自民党議員

※クリスティン・フォードは、カバノー氏が最高裁判所判事に就任することが決まると、３０年前にレイプされたと訴えた。彼女は「このことは絶対に忘れない」と言ったが、３０年もの間忘れていたのはどういうわけだろうか？そもそもレイプの事実もないと考えられるため、単なる嘘つきでしかない。

田

Brad Lund（１９７０）※画像なし

安田純平（１９７４） フリージャーナリスト兼テロリスト

川田龍平（１９７６） 薬害エイズ事件被害者・立憲民主党

本村洋（１９７６） 光市母子殺害事件遺族

※安田氏は実際には、敵の目を欺くためにフリージャーナリストを演じながら、「テロリストに捕まった」という劇を演じ、テロ組織に接触した。で、囚われの身を演じながら、安倍政権とア

ル＝ヌスラ戦線を繋ぐパイプ役となり、現場でテロリストを指揮していた可能性がある。人質を演じながらリーダーとしてテロ組織を指揮するのは、いかにも第三者の目を意識する本願寺らしいやり方だ。

しかし、シリアに於いてロシア軍とアサド政権が完全に勝利した。ということで、ロシア軍に逮捕される前にシリアを逃亡したということができる。そう。アル＝ヌスラ戦線のリーダーが日本に逃げたということはロシアとアサド政権の勝利を意味している。

「解放された人質」。このウソは、安田純平をロシア軍の逮捕から保護する効能があった。安倍政権はどうしても彼を無事に帰還させる必要があった。なぜなら、安田がロシアに捕まったなら、安倍政権が彼らを支援していたことがバレるからだ。本願寺のメディアが即席に用意した両親と妻。両親は全く似ていないし、妻の涙もリアリティが無い。

それにしても、3年もテロ組織に囚われていたという証言も謎だ。アル＝ヌスラ戦線は3年も彼を養わなければいけないのだ。なんとも、優しいやつらではないか。普通、人質なんて長くて数ヶ月の命じゃないか？

追記：2019年、安田純平氏はテロリスト指揮のために再度外国に渡航しようとしていたが旅券発給拒否を受け、阻止されたw 川田龍平氏と本村洋氏は良く似ている。多くは語るまい。

大谷光暢の一族～市川團十郎、ラビア・カーディル、ブルース・リー親子暗殺、地下鉄サリン事件、天安門事件、オウム地下鉄サリン事件、酒鬼薔薇聖斗、雨傘革命

大正天皇の子

田

秩父宮雍仁親王（1902～1953）

大谷光暢（1903～1993） 第24代東本願寺門主

富吉榮二（1899～1954） 芦田内閣逋信大臣

榊原亨（1899～1992） 心臓外科医、十全会榊原十全病院理事長

市川團十郎（1909～1965） 十一代目市川團十郎

守田勘彌（1907～1975） 十四代目守田勘彌

□

※写真は、原爆投下当時の様子の再現（映画からのひとこま）

日本：原爆投下（1945）

日本：和歌山一家8人殺害事件（1946）人間狩り（赤崎勇、大谷暢頭）、敗戦隠し

日本：東京片桐仁左衛門一家殺害事件（1946）人間狩り（赤崎勇、大谷暢頭）、敗戦隠し

日本：大分中津市朝鮮人一家殺害事件（1946）人間狩り（赤崎勇、大谷暢頭）、敗戦隠し

日本：帝銀事件（1948）第一次農地改革隠し

日本：太宰治殺害（1948）

日本：法隆寺金堂火災（1949）極東国際軍事裁判終了隠し

日本：下山事件（1949）極東国際軍事裁判終了隠し

日本：三鷹事件（1949）極東国際軍事裁判終了隠し

日本：小田原一家5人殺害事件（1949）人間狩り（赤崎勇、大谷暢頭）、極東国際軍事裁判終了隠し

朝鮮：朝鮮戦争（1950）

日本：レッドページ（1950）

日本：金閣寺焼失（1950）警察予備隊発足隠し

日本：築地八宝亭一家殺人事件（1951）人間狩り（赤崎勇、大谷暢頭）、警察予備隊発足隠し

日本：荒川放水路バラバラ殺人事件（1952）人間狩り（赤崎勇、大谷暢頭）、警察予備隊が保安組に改組隠し

日本：立正佼成会弾圧、蔵敷事件（1952）

日本：栃木雑貨商一家殺害事件（1953）人間狩り（大谷暢頭、麻生太郎、大谷光真）

日本：森永ヒ素ミルク中毒事件（1955）ビキニ諸島被爆隠し

日本：少年誘拐ホルマリン漬け事件（1957）東海村原子炉点火隠し

日本：荒川連続自転車通り魔殺傷事件（1959）人間狩り（麻生太郎、大谷光真、坂口力）

日本：岩槻一家7人殺害事件（1959）人間狩り（麻生太郎、大谷光真、坂口力）
日本：連続少年斬りつけ魔事件（1959）人間狩り（麻生太郎、大谷光真、坂口力）
日本：吉展ちゃん誘拐殺害事件（1963）朴政権誕生隠し
日本：狭山事件（1963）朴政権誕生隠し
日本：小津安二郎殺害（1963）
日本：黒澤明自殺未遂（1966）
日本：三億円事件（1968）学生運動リーダー狩り
日本：三島由紀夫殺害（1970）
日本：大久保清連続殺人事件（1971）人間狩り（麻生太郎、徳川康久、安倍晋三、菅義偉、加計孝太郎、金田勝年、中村修二）、黒い霧事件隠し
日本：川端康成殺害（1972）
日本：上野消火器商一家殺人事件（1974）人間狩り（徳川康久、安倍晋三、加計孝太郎、菅義偉、金田勝年、中村修二、山本一太）
日本：ロッキード事件（1976）
日本：福岡内妻一家4人殺害事件（1976）人間狩り
日本：花粉症顕在化（1978）
日本：大平正芳殺害（1980）
日本：佐賀女性7人連続殺人事件（1980～1989発覚）人間狩り、リクルート事件隠し
日本：深川通り魔殺人事件（1981）人間狩り（安倍晋三、加計孝太郎、山本一太、石原伸晃）
日本：練馬一家5人殺害事件（1983）人間狩り（安倍晋三、加計孝太郎、山本一太、石原伸晃）
韓国：大韓航空機撃墜（1983）
日本：日光ジャンボ機撃墜（1985）
日本：杉並一家放火殺人事件（1986）人間狩り（山本一太、石原伸晃、上祐史裕、越智啓太、野間易通）
日本：女子高生コンクリート詰め殺人事件（1988）人間狩り、リクルート事件隠し
日本：手塚治虫殺害（1989）
日本：宮崎勤連続幼児誘拐殺人事件（1989）人間狩り、リクルート事件隠し
日本：坂本弁護士一家拉致殺害遺棄事件（1989）人間狩り、リクルート事件隠し
日本：足利連続幼児誘拐殺人事件（1990）人間狩り、リクルート事件隠し
日本：市川一家4人殺害事件（1992）人間狩り（上祐史裕、村井秀夫、野間易通、安田純平、将来の政治家）
日本：尾崎豊殺害（1992）
日本：金丸信起訴（1993）

※東本願寺第二十四代門首。大谷光暢は、本願寺の伝統の通り、要人に化けて日本政府に入り込

んでいた。富吉榮二に化けた光榮は芦田内閣の時代に逋信大臣に就任した。内閣や政府内の敵をかぎ分けるためだ。タナトスの王がじきじきに敵地に乗り込んでスパイ活動を行うのだ。

□□

松本白鸚 (1910~1982) 初代松本白鸚
榊原仟 (1910~1979) 心臓外科医
尾上松緑 (1913~1989) 二代目尾上松緑

□□

三笠宮崇仁親王 (1915~2016)
菅谷政雄 (1914~1981) 菅谷組組長※画像なし
張春橋 (1917~2005) 四人組
塩川正十郎 (1921~2015) 小泉政権閣僚
ブトロス・ブトロス=ガーリ (1922~2016) 国連事務総長

※ウソをつくための権威。塩川氏は「しおじい」と呼ばれていたが、このネーミングが塩味のじいじいを連想させ、気持ち悪くて嫌いだった。嫌いなやつはやっぱり本願寺の血筋だ。

□

中村雀右衛門 (1920) 四代目中村雀右衛門
三好達 (1927) 最高裁判官、日本会議
中西進 (1929) 文学者

※中西進が非常に不吉な新元号「令和」を考案した。では「令和」の意味を考えよう。令は漢字の偏と考えたい。「令」がつく漢字には良く知られているもので鈴、領、圜、怜、冷、零などがある。いずれも「和(日本)」と組み合わせることで不吉な意味を持つ元号となっている。

- ・「圜」は、囚人を捕らえて閉じこめておく所。牢屋(ろうや)。獄舎を意味する。令和は東西本願寺と安倍政権の「日本を牢獄と化す」意志が隠されている。
- ・「鈴」には呼び鈴があるが、呼び鈴は合図や注意のために音を発する器具を意味する。令和は東西本願寺と安倍政権が「日本に対する警鐘」を鳴らしていることを意味している。
- ・「怜」は、憐れむという意味がある。つまり令和は東西本願寺、安倍政権が「日本人を憐れんでいる」ことを意味している。
- ・「領」には治める、統治するという意味がある。つまり令和には、東西本願寺門主と安倍首相が「オレこそが日本を統治する者だ」という主張が隠されている。
- ・「零」には零細など、落ちぶれるという意味がある。令和は東西本願寺と安倍政権が「日本は落ちぶれるだろう」と予言している(予定している)。
- ・「冷」にはさびしい、活気がないという意味がある。令和は東西本願寺と安倍政権が「日本はさびしくなり、活気がなくなる」ということを予言している(予定している)。

初代松本白鸚の子

- 松本白鸚（1942） 二代目松本白鸚
- 後藤忠政（1942） 後藤組組長※画像なし
- 木村宣彰（1943） 大谷大学第25代学長※画像無し

- Ⓜ 中村吉右衛門（1944） 二代目中村吉右衛門
- 原田義昭（1944） 安倍政権閣僚
- 馬淵睦夫（1946） 歴史家、ユーチューバー
- 漆間巖（1945） 第20代警察庁長官

※馬淵睦夫は、大谷光暢先生にクリソツである。それだけでも信用できない。彼は、国民を誤誘導しようとして企んでいるようだ。彼が期待の新星の如くネットに出現したのは、逆集団ストーカーのおかげである。集団ストーカーの機能のひとつに信者たちを脅してホンモノを無視すること、ホンモノを大勢で批判し続けることでホンモノの印象を貶めることがある。すると何も知らない第三者たちはその様子を見て「この人みんなに嫌われてる。近づかない方がいいな」と勘違いをする。ホンモノの無力化である。浄土真宗は優れた人物をみそっかすに変えることができる。こういう人物が殺されることはない。彼らは、優れた人物を催眠術で奴隷化し、自分たちのために働かせるのだ。

だが、逆集団ストーカーはその逆で、脅された信者たちが無条件でゴミ（この場合は馬淵先生）を褒め称える。すると、何も知らない第三者たちはその様子を見て「この人すごいな。話が聞きたいな」と勘違いをする。そうしてゴミが力を得る。これが逆集団ストーカーである。浄土真宗はただのゴミを人気者・実力者に変えることができる。

本願寺の一族はみなこの装置を利用している。そうでもしなければゴミが人の上に立つことはできない。もちろん、安倍もこの機能を利用している。そうでなければ支持率はゼロのはずだ。本願寺はそうして、人気者・実力者を作るのだ。

漆間巖は、その任期中に市民パトロールとオレオレ詐欺を定着させた。市民パトロールは表に出てきた集団ストーカーである。バカが作ったため、矛盾が多いが誰も気にしていない。市民パトロールの要員はほぼ引退した老人であるが、資格もなくて勤まるのか？研修は行っているのか？もともと安全な場所をパトロールするのは無意味ではないか？犯罪者に遭遇した場合、老人は犠牲者にしかならないのではないか？などである。

オレオレ詐欺も漆間氏が浄土真宗のために考えたお布施法である。お布施に反対する家族がいる場合、オレオレ詐欺が起動する。お布施に大反対の家族も、お布施は反対だが、オレオレ詐欺でとられたならしやうがない。そういうことだ。経緯はどうあれ、金が浄土真宗に渡りさせずればいいのだ。陰謀の特徴は結果がじつは目的だったということだが、オレオレ詐欺はまさにそれに

当てはまる。おかしいのが、娘、孫娘、伯母、姑などを騙るアタシアタシ詐欺、舅、伯父などを騙るワシワシ詐欺がないことだ。バカのやることはどこか抜けている。

三笠宮崇仁親王の子

田
寛仁親王（1946～2012）※画像なし
市川團十郎（1946～2012） 十二代市川團十郎
尾上辰之助（1946～1987） 初代尾上辰之助※画像なし
ラビア・カーディル（1947） 世界ウイグル会議
ベティ・ティン（1947） 香港女優
菅直人（1946） 内閣総理大臣
田北俊（1947） 香港自由党
ショブチョード・テムチルド（生年不詳） 世界南モンゴル会議議長

ラビアの活動は国際社会の注目を集め、投獄中の2004年にラフト人権基金の人権賞を受賞したほか、2006年にはノーベル平和賞の受賞候補の1人にも選ばれている。一方で中国政府は、ラビアを「東トルキスタン・テロリスト勢力（東突恐怖勢力）」「分離独立主義者」の一員であるとして批判を続けており、国際社会におけるこうした動きを牽制している。ラビア自身はダライ・ラマと会談した際に暴力的手段を用いず、高度な自治権を求めるとした。ラビア・カーディルwikiより

※ラビア・カーディルは、現代の西戎として中国を攻撃している。ノーベル平和賞の候補になったということは、悪であることの証明である。一方、性別を越えてよく似ている異母兄弟の田北俊は、現代の南蛮として中国を攻撃している。上記の雨傘革命は田北俊が指揮していた。無知な邪教信者が悪に脅され、踊らされ、無軌道に暴れる一向一揆の亜流に過ぎない。

ブルース・リーはベティ・ティンの家で倒れたとされているが、どう考えてもベティが一服盛ったのだろう。ウソつきで誰にも好かれないタナトス（本願寺）にとってブルース・リーのような強いカリスマは非常に危険な人物だった。しかも、ブルースは自作の映画では常に「悪い日本人」を敵にしていた。

菅氏は、鳩山氏、川勝氏など共にできるだけ「味方だよ」と臭わせることで筆者を黙らせることに成功していたが、このたび、その魔法は宇宙人の口利きによって解かれた。由紀夫氏の場合、愛新覚羅の一族に属する鳩山一郎の血を引いているという事実、そして川勝氏の川勝という名（英雄秦河勝の子孫かと勘違いした）が盲点となった。菅氏は顔の形からうっかり愛新覚羅家の一族かと思ったが、鼻が大谷光榮尊師にクリソツである。あの鼻で俺の目をごまかすことはできない。良く見れば、菅は田北俊にも良く似ている。

四代目中村雀右衛門の子

□
大谷友右衛門（１９４７） 八代目大谷友右衛門※画像なし
嘉山孝正（１９５０） 国立癌研究センター理事長
野田佳彦（１９５７） 内閣総理大臣

※ウソをつくための権威。医者はウソをつくために白衣を着ている。ウソを信じなければこんなことにはならない。野田氏は、「敵が味方であるならあらゆる局面で負けることがない」というタナトスの秘儀を用いて、敵を演じながら味方である安倍晋三に負けてみせた。丸で、ショッカーの戦闘員同士の戦いを見ているようだった。どっちにしてもダチョウ倶楽部に似ているというだけでひっばるのは無理があったようだ。そういえば歌舞伎顔だ。

田
中村雀右衛門（１９５５） 五代中村雀右衛門
劉曉波（１９５５～２０１７） 天安門事件、ノーベル平和賞
村井秀夫（１９５８～１９９５） オウム真理教幹部
唐沢俊一（１９５８） と学会
坂口正芳（１９５７） 警察庁長官
吉田安志（１９５？） 特捜地検特捜部長

※立場が危うくなると、劉曉波は頭を剃った妻の姿をフェイクメディアを通じて披露した。「正義のために戦っている俺たちはこんなに悲惨だ」という猿芝居をうったものの、世界の誰からも同情を得ることはなかった。

影武者の村井は、上祐と共にオウム真理教に潜り込んでいたが、「村井が攻められるとヤバイ」「あいつはしゃべるぞ」と踏んだ東西本願寺の一族側は、村井を公開処刑に処した。「ユダにやられた」というのは仲間、つまり大谷に裏切られたということを意味している。

もうひとりの影武者唐沢はウソをつくための権威である。カウンターカルチャーのご意見番の座に座ることで、ほかの正しい意見を排除するのだ。彼は、今は亡き村崎百郎氏と「社会派くんがいく」という連載をやっていた。当時、筆者は押井守の「ビューティフルドリーマー」を見ながら寝ていた。良く寝れるのだ。唐沢はこれを本願寺から聞き、「社会派くんがいく」の連載上で「押井の『ビューティフルドリーマー』ばかり見てるやつは過去を思い出すしか楽しみがない、孤独なやつだ」という旨のことを述べ、筆者をバカにしていた。

唐沢氏は、とんでもない内容の本を探し、論評する使命を持つ「と学会」なる会に参加しているようだが、本願寺が一番とんでもないということをここで述べておきたい。

榊原仟の子

榊原敬（1962） 社会医療法人社団十全会理事長・院長

大谷義夫（1963） 池袋大谷クリニック院長

河添恵子（1963） ノンフィクション作家、新しい歴史教科書をつくる会理事

※酒鬼薔薇聖斗は2人いた。酒鬼薔薇聖斗の名がそれを伝えている。つまり、榊原医師と生徒（当時14歳）のことである。彼はバレるはずがないと思って安心して本名を持ち出し、当て字している。それももったもた。警察も裁判官も家族なのだから。それより何よりも日本中にタナトス一族が統治する邪教信者がいる。彼がやることを非難する人間がどこにいるというのか？殴られた被害者は聖斗（当時14歳）の犯行であり、首を斬るなどの行為は榊原医師の犯行だ。以下は榊原医師と14歳の生徒が協力して書いた声名文：

この前ボクが出ている時にたまたま、テレビがついており、それを見ていたところ、報道人がボクの名を読み違えて「鬼薔薇」（オニバラ）と言っているのを聞いた。

人の名を読み違えるなどこの上なく愚弄な行為である。表の紙に書いた文字は、暗号でも、謎かけでも当て字でもない。嘘偽りないボクの本名である（確かにその通りだろう：筆者談）。ボクが存在した瞬間からその名がついており、やりたいこともちゃんと決まっていた。しかし悲しいことにぼくには国籍がない。今までに自分の名で人から呼ばれたこともない。もしボクが生まれた時からボクのままであれば、わざわざ切断した頭部を中学校の正門に放置するなどという行動はとらないであろう。やろうと思えば誰にも気づかれずにひっそりと殺人を楽しむ事もできたのである（自分は医者だということを暗にアピールしている：筆者談）。

ボクがわざわざ世間の注目を集めたのは、今までも、そしてこれからも透明な存在であり続けるボクを、せめてあなた達の空想の中でだけでも実在の人間として認めて頂きたいのである。それと同時に、透明な存在であるボクを造り出した義務教育と、義務教育を生み出した社会への復讐も忘れてはいない。だが単に復讐するだけなら、今まで背負っていた重荷を下ろすだけで、何も得ることができない。

そこでぼくは、世界でただ一人ぼくと同じ透明な存在である友人（もうひとりの14歳の共犯者のことだろう：筆者談）に相談してみたのである。すると彼は、「みじめでなく価値ある復讐をしたいのであれば、君の趣味でもあり存在理由でもありまた目的でもある殺人（医療行為：筆者談）を交えて復讐をゲームとして楽しみ、君の趣味を殺人から復讐へと変えていけばいいのですよ、そうすれば得るものも失うものもなく、それ以上でもなければそれ以下でもない君だけの新しい世界を作っていけると思いますよ。」

その言葉につき動かされるようにしてボクは今回の殺人ゲームを開始した。しかし今となっても何故ボクが殺しが好きなのかは分からない。持って生まれた自然の性（さが）としか言いようが

ないのである（自分がタナトスの一族であることをアピールしている：筆者談）。殺しをしている時だけは日頃の憎悪から解放され、安らぎを得る事ができる。人の痛みのみが、ボクの痛みを和らげる事ができるのである（タナトスの本音が聞ける：筆者談）。

最後に一言この紙に書いた文でおおよそ理解して頂けたとは思いますが、ボクは自分自身の存在に対して人並み以上の執着心を持っている。よって自分の名が読み違えられたり、自分の存在が汚される事には我慢ならないのである。今現在の警察の動きをうかがうと、どう見ても内心では面倒臭がっているのに、わざとらしくそれを誤魔化しているようにしか思えないのである。

ボクの存在をもみ消そうとしているのではないのかね ボクはこのゲームに命をかけている。捕まればおそらく吊るされるであろう。だから警察も命をかけるまでは言わないが、もっと怒りと執念を持ってぼくを追跡したまえ。今後一度でもボクの名を読み違えたり、またしらせさせるような事があれば一週間に三つの野菜を壊します。ボクが子供しか殺せない幼稚な犯罪者と思ったら大間違いである。ボクには一人の人間を二度殺す能力が備わっている（確かにタナトスには人を二度殺す能力がある。まず心を殺してから、身体を殺すのだ：筆者談）。

： 医者、特に外科医（癌関係）は人殺しである。常に人を殺しているのに、それを誰も知らない。ということで「医者＝透明人間」という発想につながる。

ラビア・カーディルの子

□
ラビア・カーディルの子（1966※画像無し

Bai Ling（1966） アメリカ女優

※ラビア・カーディルの11人いる子のうちのひとりと考えられる（その内娘は6人）。ブランドン・リーの遺作「クロウ」で共演していた。ラビア・カーディルの影武者である女優ベティ・ティンがブルース・リーを暗殺したと考えられるが、次に、本体ラビアの娘と考えられる女優Bai Lingがブルースの子ブランドン・リーを暗殺したと考えられる。もちろん、「強くてカリスマ性のある人間は危険な異分子だ」と考える東本願寺の命令だ。

二代目松本白鸚の子

□
松本幸四郎（1973） 十代目松本幸四郎

ピエール瀧（1967） 電気グルーヴ

※ピエールは、麻薬事件の犯人を演じることでへばい安倍政権の不祥事隠蔽に協力した。

十一代目市川團十郎の子

□□

市川海老蔵（1977） 十一代目市川海老蔵

小泉孝太郎（1978） 俳優

小泉進次郎（1981） 安倍政権環境相

※信じる？信じない？進次郎！パクられそうだなw 海老蔵という男は非常に犯罪臭が強い男だ。だが多くは語るまい。
海老蔵は大谷光暢先生の若き日にクリソツである。

大谷暢頭の一族～TV局アナウンサー、宮崎勤事件、足利事件、オウム真理教、神戸連続児童殺傷事件、学級崩壊、大阪池田小児童殺害事件、てるくはのる事件、SEALDs

□ 大谷博子（1913～？） 大谷榮亮の子（大谷光榮の孫）※画像無し
水の江瀧子（1915～2009） 女優

※大谷博子の影武者として生まれた瀧子は、47歳になるまで、大谷暢頭先生の子を10人も生んだようだ。櫻井よしこ（1945生）から山中伸弥（1962生）までを儲けたと考えられる。



□ 大谷暢頭（1930） 第25代東本願寺門主
谷川和穂（1930） 宇野内閣法務大臣

□ ※写真は救助のフリをしながら被害者を殺している浄土真宗信者の救急隊員。ある程度の被害者が出ないとオウムに汚名を着せることが出来ないのだ。

日本：井の頭公園バラバラ殺人事件（1994）人間狩り（野間易通、安田純平、大谷光淳、将来の政治家）

日本：松本サリン事件（1994）松本市は麻原の本名に困っている

日本：大阪・愛知・岐阜連続リンチ殺人事件（1994）

日本：東京地下鉄サリン事件（1995）

日本：オウム真理教強制捜査（1995）

日本：警察庁長官狙撃事件（1995）

日本：八王子スーパー強盗殺人事件（1995）人間狩り（野間易通、安田純平、大谷光淳、将来の政治家）

日本：藤本弘（藤子f不二雄）殺害（1996）

日本：O157患者6000人超す（1996）

日本：神戸連続児童殺傷事件（1997）人間狩り（野間易通、安田純平、大谷光淳、将来の政治家）、日米防衛協力のための指針合意隠し

日本：学級崩壊問題（1997）

日本：堺市通り魔事件（１９９８）人間狩り（安田純平、大谷光淳、将来の政治家）
日本：群馬一家３人殺害事件（１９９８）人間狩り（安田純平、大谷光淳、将来の政治家）
日本：石森章太郎殺害（１９９８）
日本：hide殺害（１９９８）
日本：ねこぢる殺害（１９９８）
日本：光市母子殺害事件（１９９９）
日本：池袋通り魔殺人事件（１９９９）防衛指針法隠し
日本：下関通り魔殺人事件（１９９９）防衛指針法隠し
日本：てるくはのる事件（１９９９）人間狩り（安田純平、大谷光淳、将来の政治家）、防衛指針法隠し
日本：ひきこもり問題（１９９９）
日本：新潟少女監禁事件（２０００）米原潜衝突事故隠し
日本：西鉄バスジャック事件（２０００）米原潜衝突事故隠し
日本：雪印乳業全工場操業停止（２０００）
日本：仙台女児連続暴行事件（２０００）人間狩り（安田純平、大谷光淳、将来の政治家）
日本：大分一家６人殺傷事件（２０００）人間狩り（安田純平、大谷光淳、将来の政治家）
日本：世田谷一家殺害事件（２０００）人間狩り（安田純平、大谷光淳、将来の政治家）
日本：ルーシー・ブラックマンさん事件（２００１）恐牛病隠し
日本：レッサーパンダ帽男殺人事件（２００１）恐牛病隠し
日本：大阪池田小児童殺害事件（２００１）恐牛病隠し
日本：福岡一家４人殺害事件（２００３）人間狩り（大谷光淳、将来の政治家）
日本：東京山梨連続リンチ殺人事件（２００３）人間狩り（大谷光淳、将来の政治家）
日本：裁判員制度法成立（２００４）
日本：野沢尚殺害（２００４）
日本：堅川公園バラバラ殺人事件（２００４）人間狩り（大谷光淳、白石隆浩、将来の政治家？）、陸上自衛隊イラク派遣隠し
日本：佐世保小６女児同級生殺害事件（２００４）陸上自衛隊イラク派遣隠し
日本：加古川７人殺害事件（２００４）人間狩り（大谷光淳、白石隆浩、将来の政治家？）、陸上自衛隊イラク派遣隠し
日本：中津川一家６人殺傷事件（２００５）人間狩り（大谷光淳、白石隆浩、将来の政治家？）
日本：新宿渋谷エリートバラバラ殺人事件（２００７）人間狩り（大谷光淳、白石隆浩、将来の政治家？）
日本：リンゼイ・アン・ホーカーさん殺害事件（２００７）公的年金保険料納付記録５０００万件不明発覚隠し
日本：長崎市長射殺事件（２００７）
日本：秋葉原無差別通り魔事件（２００８）歩行者天国での政治的アジテーション絶滅作戦
日本：宮崎家族３人殺害事件（２０１０）人間狩り（白石隆浩、将来の政治家？）

日本：豊川市一家5人殺傷事件（2010）人間狩り（白石隆浩、将来の政治家？）

日本：東日本大震災（2011）道光帝の一族に対する宣戦布告

日本：安倍政権誕生（2012）

日本：特定秘密保護法安可決（2013）

※東本願寺第二十五代門首。真宗大谷派の首領。日本人の仏教信者約1億人を自由自在に操ることができる。日本のラジコンマスター。大谷暢顕は、谷川和穂に化けて宇野内閣の時代に法務大臣に就任していた。よく似ているので谷川和穂は影武者ではなく、本願寺門主大谷暢顕その人だろう。彼は、内部から崩壊を仕掛け、正しい人たちが正しい判断を行わないよう、短命政権をプロデュースした。

□ 大谷須美子（1936）※画像なし

櫻井よしこ（1945）アナウンサー、ジャーナリスト

※ウソをつくための権威。

□ 大谷暢道（1945）※画像なし

三浦和義（1947～2008）大谷暢顕と水の江瀧子の子

菅家利和（1946）

※東本願寺門主の遺伝子が欲しくて水の江瀧子が優性遺伝子ブリーダーによって儲けたと考えられる。東西本願寺の一族の子ということは、彼はまだどこかで生きているのだろう。裏の世界に生きる決意をした者が死んだことにして潜伏することは日常茶飯事だ。

一方、和義は幼児性愛のケも持っていた可能性がある。タナトスは冤罪要員を選定する際、年齢を重視する。つまり、冤罪が確定した菅谷氏が1946年生まれであるなら、真犯人も比較的年齢が近いはずだ。和義は、その条件にピッタリ合う。

□ 大谷光純（195？）

江川紹子（1958）オウム専門ジャーナリスト

香山リカ（1960）精神科医

※浄土真宗の危機を救うため、仲間の上祐（西本願寺門主大谷光真の一族）と共にオウム口撃の急先鋒として活動した。上祐は内から、江川は有田と共に外から攻撃した。暗殺未遂事件などは猿芝居でしかない。

香山リカはよく犯罪者の精神分析を行うが、なぜか政治家などの精神分析は行わない。そういうわけで、香山リカの分析は聞くに足りない。江川紹子と香山リカはふたりとも顔の曲がり方が似ている。呪いだろうか？

大谷暢慶の子（大谷光演の孫）

甲

大谷暢裕（１９５１）
谷口雅宣（１９５１） 生長の家教祖、日本会議
塩崎恭久（１９５０） 安倍政権
宮川俊二（１９４７） アナウンサー
大沼啓延（１９５０～２０１８） アナウンサー
古館伊知郎（１９５４） アナウンサー

※谷口、塩崎、宮川、大沼、古館は、デビッド・ロックフェラーの一族に属する大谷暢裕先生の影武者として生まれた。影武者でありながら、谷口は生長の家の教祖として９０万もの日本人信者を自由自在に操ることができる。日本のラジコンマスター。

島津貴子の子（昭和天皇の孫）

甲

島津禎久（１９６２）
山口壽一（１９５７） 読売グループ社長
杉原保史（１９６１） 京都大学臨床心理学者
長妻昭（１９６０） 立憲民主党議員
宮崎勤（１９６２～２００８）

※長妻は非常にいい人に見える。道に迷っていた時、こんな顔をした人が通りかかれば誰でも道を聞くことだろう。しかし、彼は不正解しか教えてくれない。大谷暢顕先生の子だから。

９０年代以降、杉原氏は和義の仕事（足利事件）を引き継いだようだ。杉原氏は宮崎勤事件、足利事件など関東での一連の少女誘拐事件の真犯人と考えられる。９０年代以降だと、２００３年のよしかわゆりさん事件、２０１４年のもりやまさくらさん事件、２０１９年のおぐらみさきさん事件などがある。

筆者は１９９１年に東京郊外のラブホテルでバイトをしていたが、杉原氏に良く似た男が幼女を連れてきていたのを目撃した。なぜかは不明だが、彼はわざわざ筆者にその子を見せようとしていたようだ。さらに、筆者は彼らが泊まった部屋を掃除しなくてはならなかったが、妙な手紙が置いてあった。「お誕生日おめでとう」と書かれてあったのだが、あの子は８月生まれなのだろうか？足利事件の被害者に８月生まれの子はいるだろうか？記者ではないので不明だが、もしか

したら、あの少女は足利事件で死んだことにされた子かもしれない。被害少女は、しばらくは生きていたと考えられるが、彼は飽きたら殺し、新しいおもちゃを探すのだろう。

タナトスは幼児をそばに置きたい場合、警察（浄土真宗信者）に命令して子供を死んだことにする。なぜなら、死んだ子供を捜す親はいないからだ。子供が死んだと信じていれば、例え、死んだはずの子供を目の前に連れて行っても、親はそれをわが子だとは思わない。杉原は心理学者であることから催眠術の心得もあると思うが、催眠術を悪用し、寝ている間に忍び込んで児童に性的なイヤガラセや和姦レイプを行っている可能性もある。

宮崎勤の家族は悲惨な末路を辿ったが、哀れなことに、勤はただの冤罪である。冤罪要員を選定する際、重視されるのは年齢である。勤は杉原と1年違いであるため、冤罪要員に選ばれたに過ぎない。

大谷光紹（久宮祐子内親王）の子

田

大谷光見（1965）※画像なし

山中伸弥（1962） ノーベル生理学・医学賞

松尾剛（1967） NHKアナウンサー

宅間守（1963） 附属池田小事件

徐裕行（1965） 村井秀夫刺殺

青山吉伸（1960） オウム弁護士

遠藤誠一（1960～2018） オウム真理教幹部

野田成人（1966） オウム真理教幹部

※昭和天皇の子久宮祐子内親王は早世したことにして大谷光紹として成長したと考えられる。光紹の子は、みな大谷暢頭が儲けた子供である。優性遺伝子ブリーダーの常として、上記の7人は里子として里家に出された。宅間などは、こういうときに使うため（冤罪要員）に生まれた。山中は青山と似ており、宅間は徐に良く似ている。

田

大谷慈子（1969）※画像なし

丸川珠代（1971） アナウンサー、安倍政権閣僚

田村智子（1965） 共産党議員

田

大谷紹爾（1973）※画像なし

登坂淳一（1971） アナウンサー

※北朝鮮がミサイルを発射した際の報道時、不気味に笑っていたことが伝説化している。

大谷暢順の子（大谷光暢の孫）

□
大谷光輪（1974）
近田雄一（1976） アナウンサー
岡村浩昌（1978～1999） てるくはのる事件※画像なし

※岡村容疑者は、真犯人と生年が合うだけで冤罪用に使われたに過ぎない。「てるくはのる」の由来は朝鮮語だと考えられる。ハノルは朝鮮語の神「ハヌル」だろう。「てるく」の部分は不明だ。チュルク＝トルコだろうか？とするとキュベレー、アッティス、或いはディオニュソスのことかもしれない。

谷口雅宣の子

□
谷口雅宣の子（生年不詳）
瀬田宙大（1983） アナウンサー
酒鬼薔薇聖斗（1983） 神戸連続児童殺傷事件※画像なし

※少年Aは真犯人と生年が合うだけで冤罪用に使われたに過ぎない。榊原敬医師が実際に指揮者として活動していた可能性がある。

□
谷口雅宣の子（生年不詳）
守本奈実（1981） NHKキャスター
小保方晴子（1983） STAP細胞

※小保方女史はオウム弁護士にくりそつだが、兄妹か？或いは、考えたくないが、もしかして青山弁護士が性転換したのか？これは怖い。

丸川珠代の子（優性遺伝子ブリーダーによる）

□
奥田愛基（1992） SEALDs代表

※SEALDsなる集団はいわば劇団である。「民主主義は存在しない」という事実を隠すため、民主主義を演じるために設けられた。丸川珠代は1993年にテレビ朝日に就職するが、この奥田愛基はその前年、大学時代に生んだ子である。名前がトレンドィぽい。

大谷暢裕の一族～「集団ストーカー問題を克服する」、2014香港反中デモ、2014香港反政府デモ、新幹線殺傷事件、2019逃亡犯条例改正案撤回デモ

デヴィッド・ロックフェラーの子

甲

リチャード・ギルダール・ロックフェラー（1949） 国境なき医師団アドバイザー※画像なし

大谷暢裕（1951） 東本願寺第二十六代門首

草野顕之（1952） 大谷大学第27代学長※画像無し

根本匠（1951） 安倍内閣厚生労働大臣

大谷直人（1952） 安倍政権最高裁判所長官

日本：淡路島5人殺害事件（2015）人間狩り（白石隆浩、将来の政治家？）

日本：相模原障害者施設殺傷事件（2016）マイナス金利導入隠し

日本：座間9遺体事件（2017）人間狩り（白石隆浩、将来の政治家？）、加計問題・森友問題隠し

日本：宮崎一家殺人事件（2018）人間狩り（将来の政治家？）

※日本人の仏教信者役億人を自由自在に操ることができる。日本のラジコンマスター。安倍政権支持派は彼が指揮している。東西の本願寺をそのままにしておく、今現在、世界のどこかで育ちつつある暢裕の悪の遺伝子を継いだ子供たちが、世界を蹂躪する日も来るだろう。

根本匠の正体は、東本願寺門主ではないかと考えられる。大谷暢裕先生の方が影武者だろう。根本匠（大谷暢裕先生）がなぜマップ21に貢献しているのかは不明だが、本願寺門主がじきじきに内閣に入り込み、敵の全貌を確実に把握するために石破氏、林氏などをスパイしている。彼は、2019年に発生した勤労統計不正という茶番で道化を演じているが、安倍と同様に何人も人を殺している恐ろしい男だということを忘れてはならない。

※2017年、モリカケ問題で困っていた安倍政権は、2018年に家族の一員である大谷直人を最高裁判所長官に任命した。安倍政権は、これでモリカケ問題で困ることはないと考えている。

。

甲

大谷光見（1965）

平田信（1965） オウム真理教幹部

横山真人（1963～2018） オウム真理教幹部

※その顔から、平田信と横山直人は大谷暢裕先生の子と考えられる（優性遺伝子ブリーダーか自力か）。大谷光見の本体は大谷暢裕の一族に属しているが、平田信と横山は大谷暢裕の一族から影武者として参加していた。横山は2018年に処刑されたとされているが、たぶん、死んだこ

とにして潜伏し、生きているだろう。安倍総統のためのフェイクニュースなどを作っているのではないか？

大谷暢裕の子

□
大谷裕（1985）※画像なし

川崎正典（198？） 「集団ストーカー問題を克服する」ブログ主

和田竜人（1985？） 松岡伸矢くん失踪事件

※川崎氏は大谷裕の影武者として生まれたようだ。彼は、集団ストーカーの加害者側でありながら、被害者をミスリードするために被害者を装っている。枯れのブログの特徴は被害談が少ないことである。最近Qアーミージャパンと共謀して集団ストーカー被害者やスピリチュアル趣味な人々を一網打尽にしようと考えているようだ。

松岡伸矢くん失踪事件の伸矢くん自身ではないかと記憶喪失の青年がTVに登場して話題を撒いた。彼の顔を見ると大谷暢裕先生にしか見えない。つまり、伸矢くんは38歳だった大谷暢裕先生に拉致され、陵辱された上で殺されたと考えられる。その事件の尻拭いのために息子が一役買って出たようだ。和田竜人だ、北澤尚だといろいろ名前を付けられているが実際には彼は大谷裕であり、通常は作業員として働いているのだろう。

リチャード・ギルダール・ロックフェラーの子

□
Clayton Rockefeller（生年不詳）※画像なし

林朗彦（1994） 香港反政府デモ指導者

□
Rebecca Rockefeller（生年不詳）※画像なし

黄之鋒（1996） 香港反政府デモ指導者

小島一郎（1995） 新幹線殺傷事件被告

※黄氏と小島一郎の顔は大谷暢裕先生にくりそつである。よくもこう似るものだ。一方は香港で、一方は日本で犯罪行為に手を染めている。大谷暢裕先生はデヴィッド・ロックフェラーの一族（西本願寺門主広如の一族）であるため、東本願寺は西本願寺に吸収されたと考えて良い。3代前の東本願寺門主大谷光暢が、久邇宮邦彦王の三女で香淳皇后の妹にあたる智子女王と婚姻し、タナトスの血が薄くなったため「お東騒動」のような問題が起きた。そのため、西本願寺はタ

ナトスの血筋を守るため、大谷暢頭以降の東本願寺のため、改善を図ったのだろう。

新幹線殺傷事件の小島一郎被告（23）が初公判で発した言葉は「見事に殺しきりました」だった。2018年6月神奈川県内を走行していた東海道新幹線「のぞみ」の車内で、女性客らが刃物で襲われ、止めに入った会社員の梅田耕太郎さん（当時38歳）が死亡した事件である。

2019年11月28日、法廷で犯行に使われたナタやナイフを見せられた小島被告は、新幹線の車内で窓際の隣の席の女性と、通路をはさんで反対側に座っていた女性をナタで切りつけ殺害しようとした殺人未遂と止めようとした梅田耕太郎さんの首などを突き刺し、殺害した罪などに問われている。「私は窓際にいる人を殺そうとしましたが、残念にも殺しそこないました」「私は止めに入った人を見事に殺しきりました」「ナイフはもういらないか？」と聞かれ「（ナイフは）曲がっておりますし、有期刑になってまた出所したら人を殺すハメになり、新しいものを買うのでそれは要りません」と述べた。コケ脅しである。

□
※雨傘革命の画像。大規模なこけおどしではない。

あとがき

歴史は生き物のようで、これで完成と思ったらあとからあとから情報が入ってきて処理に追われてしまう。きっと悪の追求は終わることはないのだろう。しかし、キリがないので、今回の書はここらへんで止めておこうと思う。

いろいろ調べる中、タナトスの一族は、悪の王に定められた者（本願寺で言えば門主）が子どもをたくさん作ることがわかった。これは悪の王の特権だということができる。優れた悪の才能を引き継いでいかなければならない。すべてはタナトスの繁栄のためである。

本体として生まれた以外の子どもの多くは影武者などに徴用される運命にある。だが、才能がある者は影武者から脱して本体を超える力を発揮することがある。テンプル騎士団の変は、フィリップ4世の影武者だったジャック・ド・モレーが影武者から一歩踏み出そうとしたことが発端となっている。しかし、フィリップ4世ら本体はそれを許さなかったというわけだ。

そして、タナトスの一族は複数の顔と名前を持つ。そうすることで、危機に瀕した時には別の名前や顔を用いることで、危険をやり過ごすことが出来る。一番多い人物で、14の名前を持っていた。親鸞の末裔シモン・ボリバルである。

ボリバルは中南米の大統領の肩書きをすべてコレクションしていた。つまり、当時のボリバルは中南米の帝王であった。ウソつきのタナトスであるが、生没年に関してはウソをついていない。なので、彼らの足跡や正体もおのずと明らかになる。ボリバルの場合、中南米のすべての初代大統領の生没年がほぼ一緒なのだ。これは誰が見ても同一人物としか考えられないだろう。

今回、タナトスの一族は57種類に分類したが、特徴としてそれぞれの一族にはそれぞれの傾向があることがわかった。大谷暢頭一族はアナウンサーを輩出する傾向がある。准如一族はロシアに固執している。寂如一族はナチス、CIA、FBI、モサドを生んだ。湛如一族は多くの新興宗教を作り、傾向としては日蓮宗の篡奪がある。文如と法如一族は人喰いの一族である。達如一族は神道にこだわる。大谷光演一族はメディアの一族である。常如一族は沖縄と朝鮮半島に固執し、いわゆる在日を指揮している。教如一族は江戸時代の天皇家を掌握し、ハワイ王室を作った。覚如一族は華僑を作り上げた。親鸞一族はコンキスタドールを生み、中南米の支配に固執している。などである。

一番ショックだったことは、古来からほとんどの国家はタナトスが作り上げてきたという事実だ。彼らは「俺たちは常に王でなければならない」と考えている。一流の悪は悪に見えない装いを心がける。そのためには宗教と共に国家が必要だ。国家の長は悪に見えない。ということで、世

界中の王の系譜を調べることでタナトスの足跡は浮き彫りになった。彼らの足跡を発見することは非常な喜びであった。純粋に学術的な喜びである。

更に、タナトスは善（宇宙人）が存在することを知っている。古代からタナトスは常に宇宙人（科学の種族トバルカイン）に成敗されてきた。彼らと戦うには（戦っても勝てないが）強力な軍隊、進んだ科学力が必要だ。そのためには義務教育、徴兵制度が必要となる。つまり、国家が必要だ。

タナトスの一族の向こうを張るダヴィデの一族は力が強く、非常に優れているが、国家を作ることに興味がない。彼らには人々を支配しようという本能がないのだ。国なんか作らなくても人々は耳を傾け、自然と集まってくる。結局、タナトスが国家を欲するのは自分たちの言うことに耳を傾けない人々を強制的に耳を傾けさせることにあるし、自分たちの周りに集まらない人々を強制的に集める必要があるのだ。そのためには自分を有利な立場に置き、敵を不利な立場に置きたい。

国家は法を必要とし、納税制度を設けなければならない。国民に税金を納めさせることで寝ていても金は入る。自分たちに有利な法律、敵に不利な法律を制定することができる。軍隊を作り、敵が攻めてきたときには撃退することも出来る。できそこないには国家が必要なのだ。ダヴィデの一族のような優れた人々は元来、国は必要ない。だが、その弱さゆえに苦しんでいる弱者を助けようとする本能が働くため、ダヴィデの一族はタナトス一族を倒すために国家を必要としているに過ぎない。

そして、何よりも、人喰いはタナトスだけに限られた本能である。普通の人類はどんなに飢えても同じ人間を食べることは出来ない。古来から飢饉になると人々はお互いを食べ、時には自分の子供を殺して食べたとされる。これは、人類の究極の姿ではない。これは飢饉によってタナトスが本性を現したというに過ぎない。

スターリンの大粛清によってウクライナが大規模な飢饉に陥ると、自分の子供や家族を殺して肉を売る者が続出した。しかし、彼らの正体はタナトスだ。飢饉によって本性を現さざるを得なかったのだ。どんなに飢えても、普通の人間が自分の子供を殺して肉を売るなんてことは不可能だ。

タナトスの出現は人類の飽和状態と関係がある。タナトスが出現した30万年前には既に人類は地球上で数を増やしすぎ、飽和状態に達していたのだ。そのため、自然界のバランスを保つために地球がタナトスを生んだ。人類の天敵は人類でしかありえないのだ。タナトスが極度に罪悪感を欠いた状態で生まれ、平気でウソをつき、笑いながら人を殺し、人肉を食べることが出来るのは地球の思し召しだ。人類の飽和状態を改善すべく、地球が人類の天敵を生んだのだ。

ただ、今現在、タナトスは化学薬品を用いて人類だけでなく、他の種や自然界を汚染し、滅亡に導いている。そこで、30万年前にタナトスが生まれたときと同じように再度、地球がバランスを考え、極度に優れた人類を生んだ。タナトスを退治するためである。地球は、今度はタナトス

の天敵を生んだのである。人類の歴史はこの繰り返しなのだろう。

悪い顔 前編

<http://p.booklog.jp/book/128851>

著者：大本正 (C)masahiro taguchi 2019

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/danejin/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/128851>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：デザインエッグ株式会社